

変わろう・変えよう・産業と暮らし
第4期高知県産業振興計画 ver.4

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《 地域アクションプラン 》



令和5年3月

高 知 県



■ 地域アクションプランとは

地域アクションプラン（地域 AP）は、地域の文化や特色といった地域性や、生活圏域、行政サービス面でのまとまりを考慮して、7つの地域を設定し、それぞれの地域で進める具体的な取り組みを明らかにしています。

その取り組みは、「地域からの発案で提案されるもの」と「産業成長戦略の取り組みのうち地域の独自性を有するもの」に分けられます。地域 AP は、地域の雇用の創出や所得の向上を目指そうとする取り組みを、市町村との連携のもとに支援する県の計画であると同時に、事業実施主体の行動計画としての性格も有しています。

地域 AP の実行にあたっては、PDCA サイクルによる取り組みの状況の検証や見直し、新たな取り組みの追加等を行いながら、広く地域の暮らしを支えていける産業へ成長していくことを期待して、官民協働で取り組みを進めています。

第4期産業振興計画（計画期間：令和2年度～5年度）の策定にあたって、新たな展開が見込まれない取り組みや一定軌道に乗った取り組みなどの地域 AP からの削除、既存の地域 AP の統合・分割、地域からの新しい発案などによる地域 AP の追加などを行った結果、令和5年度は217の取り組みを推進していきます。

【目次】

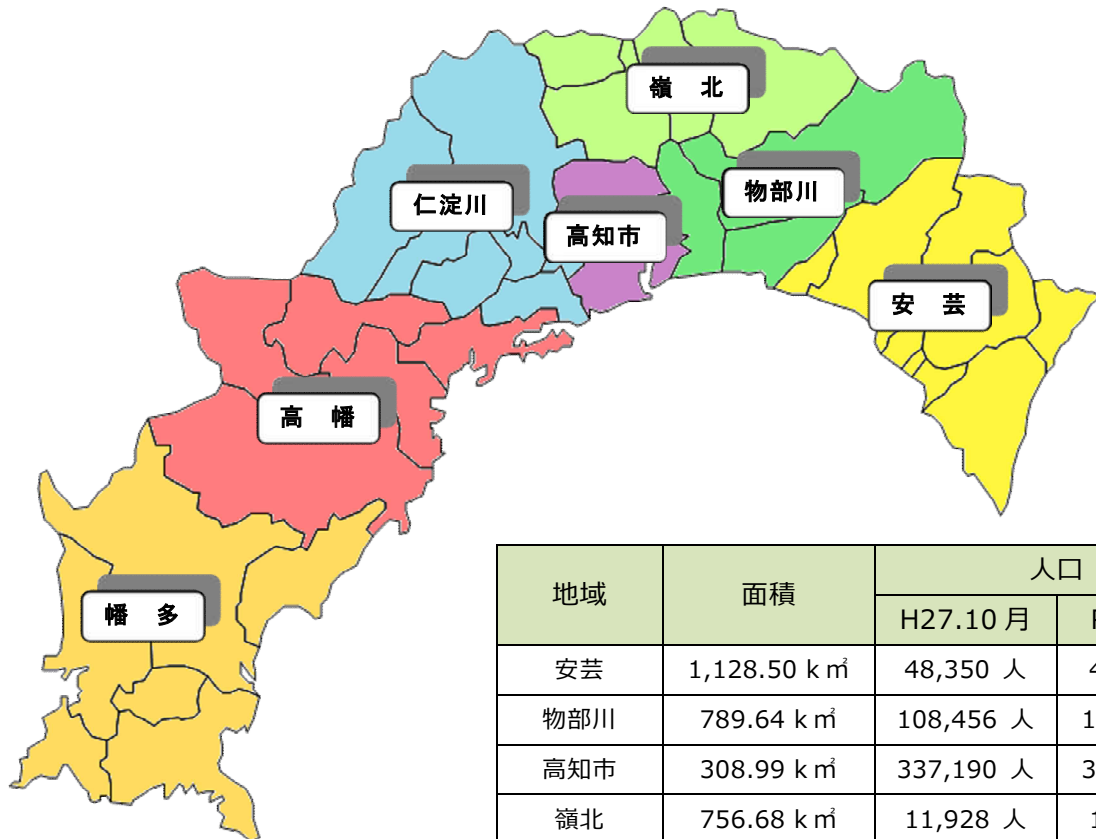
I 地域区分	1
II 地域産業クラスターの展開	2
III 各地域の具体的な取り組み	4
1 安芸地域	5
2 物部川地域	6 9
3 高知市地域	1 2 3
4 嶺北地域	1 6 9
5 仁淀川地域	2 2 1
6 高幡地域	2 9 5
7 幡多地域	3 7 7
IV 地域アクションプランからの自立プラン	4 7 1
<付属資料>	
地域アクションプランフォローアップ会議委員名簿	4 8 0

I 地域区分

地域アクションプランは、県内を7つの地域（ブロック）に区分して、それぞれの地域ごとに策定しています。

この7つの地域区分は、地域の文化や特色といった地域性、広域行政圏としての市町村の結びつきやまとまり、また、生活圏や商圈、通学圏などといったこれまで社会的に形成されてきたつながりを重視して区分したものです。

地域名	担当する範囲
安芸地域	9市町村（室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村）
物部川地域	3市（南国市、香南市、香美市）
高知市地域	1市（高知市）
嶺北地域	4町村（本山町、大豊町、土佐町、大川村）
仁淀川地域	6市町村（土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村）
高幡地域	5市町（須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町）
幡多地域	6市町村（宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町）



地域	面積	人口	
		H27.10月	R2.10月
安芸	1,128.50 k㎡	48,350 人	43,666 人
物部川	789.64 k㎡	108,456 人	105,384 人
高知市	308.99 k㎡	337,190 人	326,545 人
嶺北	756.68 k㎡	11,928 人	10,632 人
仁淀川	1,153.06 k㎡	79,295 人	74,255 人
高幡	1,405.32 k㎡	56,173 人	50,797 人
幡多	1,561.71 k㎡	86,884 人	80,248 人
合計	7,103.90 k㎡	728,276 人	691,527 人

※人口は、国勢調査による

II 地域産業クラスターの展開

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。

クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、17のプロジェクト（令和5年3月31日現在）を位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域別	クラスタープロジェクトの名称	取り組み概要	関連する地域AP
安芸	1 日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト	県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を目指して、新技術の定着や担い手対策を進める。また、ナスの機能性表示を生かした青果販売や新たな加工品の開発・販売及び地元飲食店等での利用促進に取り組み、クラスターの形成を図る。	No.2
物部川	2 南国市農業クラスタープロジェクト	主要農産物であるニラ、シシトウ、ピーマン類と「還元野菜」の生産拡大を核に、市内の消費拡大（地産地消）や加工品の開発及び観光などとの連携（地産外商）を強化し、「南国野菜」の産業クラスター化を通じて、南国市の特色を生かした「稼げる農業」の実践により、地域活性化に繋げる。	No.2,3,19
	3 日本一のニラ産地拡大クラスタープロジェクト	日本一の生産量を誇るJA高知県香美地区のニラの生産拡大を目指し、3つの生産拡大プロジェクト（「既存農家の経営安定」、「規模拡大志向農家の支援」、「新規就農者、品目転換農家の支援」）に取り組むとともに、そぐりセンターの活用や、新たな加工品の開発・販売及び地元飲食店でのメニュー開発等によりクラスターの形成を図る。	No.1,21,23
高知市	4 竹資源活用クラスタープロジェクト	県産竹材を活用した素材生産や製品加工を拡大するとともに、竹材の集荷や一次加工、竹加工品の販売など竹資源を活用した新たな事業を展開し、竹産業の振興と中山間地域における雇用の創出を図る。	No.12
嶺北	5 嶺北畜産クラスタープロジェクト	嶺北地域の特産物である土佐あかうし、大川黒牛、土佐はちきん地鶏のさらなる生産拡大とともに6次産業化による付加価値を高め、増産しながら販路拡大を進める。併せて、雇用の場の創出と観光資源の磨き上げを図る。	No.7,8,18,21
	6 嶺北林業クラスタープロジェクト	県内外の若者が山に関する仕事に就くことができる環境を整備するため、嶺北地域の豊かな森林資源を活用し、安定的な木材生産・供給システムを構築する。	No.9,10,13,15,22,23
	7 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト	次世代園芸ハウスの整備等による農産物の生産拡大や担い手の確保を行うとともに、交流人口の拡大に向けた取り組み等との連携により、クラスターの形成を図る。	No.1,3,5,18,19
仁淀川	8 日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト	日高トマト生産団地の拡大の取り組みを核として、中山間複合経営拠点の整備とも併せ、関連するJA出荷場、農産品加工施設、直販所、地元レストラン等が連携し、クラスターの形成を図る。	No.3,22
	9 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト	いの町での生姜生産を核として、生姜の集出荷場整備を契機に、生姜生産農家、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、生産から販売、人材育成までの好循環を生み出す。	No.4, 15
	10 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト	カット野菜事業を展開する(株)フードプランを仁淀川町での基幹産業として位置付け、事業の継続的な実施と販売拡大によって雇用の確保や農業者の所得向上につなげる。	No.18

地域別	クラスタープロジェクトの名称	取り組み概要	関連する地域AP
高 幡	11 四万十次世代ハウス団地におけるトマト等栽培の経営強化クラスタープロジェクト	次世代施設園芸団地で栽培されているトマト及びパプリカの病虫害防除対策の確立により生産を安定させるとともに、輸出の検討等、新たな販路の開拓を行い、次世代団地の経営強化を図る。	No.9
	12 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制を再構築し、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す。	No.8,24
	13 四万十のうまい栗・芋クラスタープロジェクト	大正・十和地域の栗と芋の加工に携わる事業者が主体となって、JAや地域内の生産者、さらには四万十流域の生産者とも連携し、農業者所得の向上と6次産業化の仕組みを作り、中山間地域の活性化を目指す。	No.6
	14 くるしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト	JA土佐くろしお管内（須崎市・中土佐町・津野町）で栽培するミョウガの生産拡大を核として、生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地活用スキーム、優良種莖の安定供給体制を構築する。また、日本一の「ミョウガ」産地として、一次・二次・三次が連携し、認知度向上に向けた取り組みを推進することにより、ミョウガの消費拡大を目指す。	No.1
幡 多	15 宿毛市イチゴ・柑橘成長クラスタープロジェクト	宿毛市の主要農産物である文旦等の柑橘類とイチゴの生産拡大を核に、食品加工、観光などと連携して産業クラスター化を図り、地域の活性化を目指す。	No.6
	16 宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト	県内屈指の生産量を誇る宿毛湾の養殖業を核に、生産者はもとより養殖業に直接関わる餌や種苗の販売事業者に加え、流通・加工・販売関連の事業者、さらに飲食や観光など地域の賑わいを支えている事業者などが有機的に連携し、新たな雇用の創出や交流人口の拡大につなげ、地域全体の拡大再生産を目指す。	No.7,8,9,10,16,28,36,38,42
	17 土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト	地域の基幹産業であるメジカ加工業を核に、漁業者から飲食・観光を含めた産業クラスターの川上から川下に至る各業種が有機的に連携し、新たな雇用の創出や交流人口の拡大につなげ、地域全体の拡大再生産を目指す。	No.14,15,16,17,18,36,39,40

Ⅲ 各地域の具体的な取り組み

■ 「各地域の具体的な取り組み」の構成について

(1) 地域の産業を取り巻く状況

地域性や生活圏域、行政サービスの面でのまとまりを考慮して設定した7つの地域について、これまで(平成21～令和4年度)の地域アクションプランの取り組みの成果や、地域の抱える課題を踏まえた産業の状況としてまとめています。

(2) 地域アクションプランの概要

第4期計画 ver. 4 (令和5年3月)に位置付けられた地域アクションプランの個々の取り組みについて、地域全体での産業分野を意識した概要としてまとめています。

(3) 具体的な取り組み

地域アクションプランの取り組みについて、取り組みごとの関係する市町村を表した項目の一覧と地図、あわせて、個別項目の事業主体や事業概要、取り組みの年次計画などを表記しています。

1 安芸地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

安芸地域は、高知県の東部に位置し、海・山・川の恵まれた自然と温暖な気候を生かし、古くから第一次産業を中心に営んできましたが、年々人口が減少し、昭和30年代半ばには10万人余であったものが、令和2年の国勢調査における当地域の人口は43,666人となり、前回調査（平成27年）と比較して9.7%減少するという状況になっています。

こうした状況に歯止めをかけるため、各市町村においては、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、産業振興や地産外商、移住の促進等に取り組んでいます。

産業分野別の現状として、農業では、地域の特性に応じた多様な農業が展開されており、特に平野部は冬春ナスを中心とするハウス園芸地帯として、中山間地域は古くからのユズの産地として、それぞれ日本一の生産量を誇っています。

施設野菜については、全国に先駆けて天敵昆虫を利用した総合的病害虫管理を取り入れた栽培に取り組み、消費地からも安全・安心の野菜産地として高い評価を受けるとともに、収量・品質の向上を目指した環境制御技術の迅速な導入に取り組んでいます。

一方、ユズについては、平成24年度に始まった日本初のヨーロッパへの青果輸出が、毎年継続して行われており、ヨーロッパでの知名度が徐々に高まっています。また、北川村の大規模な園地整備や馬路村の村外労働力を確保する取り組み等、将来に向けてユズ産地を維持するための仕組みづくりに取り組んでいます。

林業では、森の工場の拡大や路網整備等による効率的な原木生産や森林経営管理制度を活用した意欲と能力のある経営体による林地の集約化などを進めています。また、高知県が生産量全国一位の白炭の約9割は、室戸市、東洋町を中心に上土佐備長炭として生産されており、シキミと並んで地域を代表する特産林産物となっています。

木材加工については、ウッドショックによる原木価格の高騰により利益率が低下するなど新型コロナの影響による売上げ減が続く中、加工機械や木材乾燥機の整備、経営改善に向けた事業戦略づくりなどを進めています。

水産業では、資源の減少、魚価の低迷、漁業就業者の高齢化など、取り巻く環境は年々厳しさを増しています。そのため、漁獲物の販売促進や高鮮度処理による魚価の向上、移住促進策と連携した就業希望者の掘り起こしや研修制度の充実等による担い手の育成・確保の取り組みを進めています。

商工業では、地域資源である海洋深層水やユズ等を活用した商品の製造に加え、農商工連携や6次産業化などにより新商品の開発を進めています。商店街では、地域の活性化や商業機能の維持・発展などを旨とする商店街等振興計画策定に基づく取り組みや、にぎわいづくりのために、地域の若者や学生が中心となって、イベントの企画・実施を行うなど、活性化に向けた動きが生まれています。

観光では、平成27年度に開催された東部地域博覧会を契機として、新たな地域資源の掘り起こしや観光プログラムの造成等が行われ、安芸地域の魅力度が向上したことから、さらなる観光資源の磨き上げや情報発信を行うため、平成28年2月に「(一社)高知県東部観光協議会」を設立し、9市町村が連携して広域観光の推進に取り組んでおり、令和2年3

月には日本版DMO（現・登録DMO）に登録されています。

歴史や食を生かした観光振興の取り組みに加え、県の観光キャンペーン等を契機とした自然・体験型観光資源の磨き上げや、高知県東部観光協議会を中心とした教育旅行の誘致・受入拡大、マーケティングの強化等の取り組みが進んでいるほか、ストーリー性を活かした旅行商品開発等に取り組んでいます。

また、徳島県と連携した観光振興の動きも生まれています。

（２） 地域アクションプランの概要

当地域では、各市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みと歩調を合わせて、第一次産業の振興に向けた生産・加工体制等の充実・強化や、販路の拡大の取り組みを継続するとともに、地域の一次産品等を活用した加工品づくりや、道の駅・直販所における機能の強化にも引き続き取り組みます。

農業分野では、ユズの青果出荷の拡大と品質の向上のための新植、改植を進めていくとともに、ユズ果汁等の安定供給と販路拡大に取り組むほか、ナスの生産拡大と産地力向上を目指し、新技術の定着による高収量生産に取り組むとともに、新たな加工品開発及び地元飲食店等での利用促進を図ります。

林業分野では、伝統産業である備長炭の生産について、研修生の受入などにより出荷量の拡大に引き続き取り組むとともに、木材や木製品についても、経営コンサルタントの活用などにより販売強化を進めていきます。

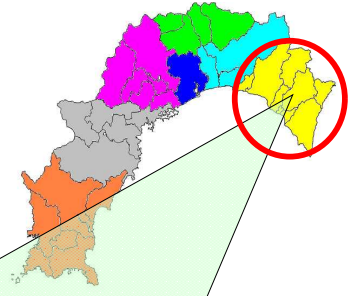
水産業分野では、漁業者による低利用魚や近海マグロを活用した加工品製造・販売に取り組む、高付加価値化、漁業所得の向上を図ります。また、加工事業者による地元定置網漁獲物の加工品製造・販売についても引き続き取り組むとともに、加工施設の衛生管理体制の高度化を進めていきます。

商工業分野では、地域資源のユズや天日塩、キンメダイ、イチジクなどを活用した加工品の開発及び販路拡大、生産管理の高度化を行い、道の駅や農産物直販所などにおいても、情報発信機能を高めるなど、観光分野とも密接に連携した取り組みを進めていくほか、地域の中心市街地に賑わいと活力を呼び戻すための商店街等振興計画に基づく取組を支援していきます。

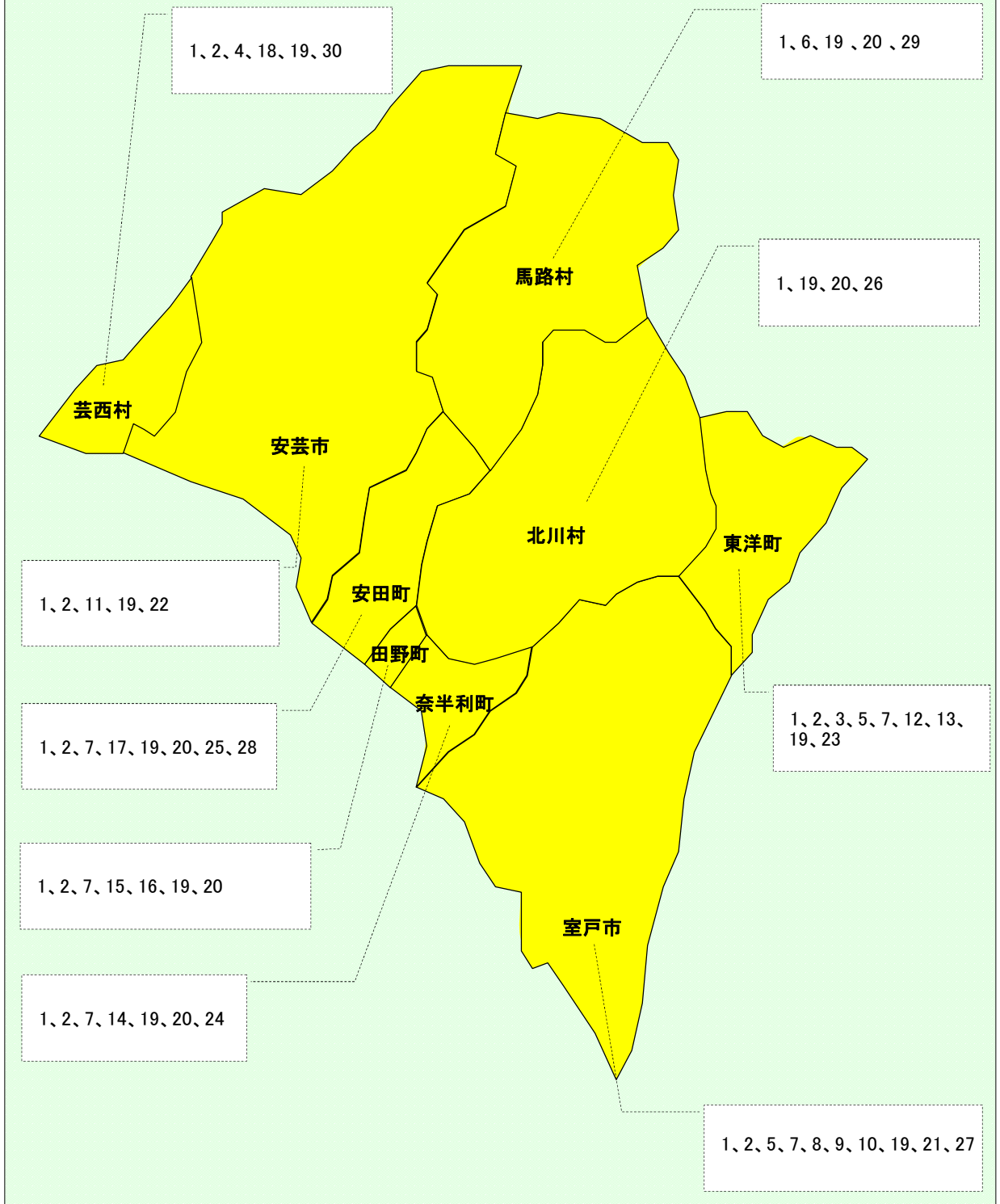
観光分野では、（一社）高知県東部観光協議会を中心として、市町村や関係団体、事業者等と連携しながら、体験プログラム等の造成、宿泊・交通等と連携した周遊促進商品やご当地グルメの開発などにより地域資源の観光資源化を図るとともに、市町村を中心に県や国の事業を活用した拠点施設等の磨き上げを行い、安芸地域の魅力づくりを推進します。そういった資源・魅力をフックに、観光キャンペーンなどの県の施策とも連動しながら、発地及び着地でのプロモーションを強化・推進し、交流人口の創出・拡大に繋げていきます。併せて、マーケティング調査・分析、国・県事業等との連携による観光の担い手確保や育成支援など受入体制の整備、観光関係者で連携する仕組みの構築等に取り組む、持続可能な観光地域づくりの基盤整備を進めていきます。

(3) 具体的な取り組み

No.	項目	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
1	安芸地域のユズを中心とした中山間振興	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト	●	●	●	●	●	●			●
3	東洋町のポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興			●						
4	芸西村の白玉糖による地域活性化									●
5	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化	●		●						
6	馬路の林業加工品の販売促進								●	
7	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大	●		●	●	●	●			
8	室戸海洋深層水による地域産業の推進	●								
9	キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大	●								
10	室戸市中心市街地の活性化	●								
11	安芸本町商店街を中心とする地域の活性化		●							
12	海の駅東洋町を拠点とした地域振興			●						
13	有害鳥獣等を活用したペットフードの開発と販路開拓			●						
14	地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大				●					
15	田野町の完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用					●				
16	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み					●				
17	やすだ資源を生かした6次産業化事業の推進						●			
18	地場産品直販所「かっぱ市」等による地域活性化									●
19	安芸地域の観光振興の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●
20	日本遺産を活用した中芸地域の活性化				●	●	●	●	●	
21	室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興	●								
22	岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進		●							
23	東洋町における体験型・滞在型観光の推進	●		●						
24	奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大				●					
25	安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化						●			
26	北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大							●		
27	椎名集落活動センターたのしいなを拠点とした室戸市椎名地区の活性化	●								
28	集落活動センターなかやまを拠点とした安田町中山地区の活性化						●			
29	集落活動センターやなせを拠点とした馬路村魚梁瀬地区の活性化								●	
30	集落活動センターげいせいを拠点とした“小さくてももっと元気で輝くむら”づくり									●



【安芸地域】



AP 名 (実施地域)	No. 1 安芸地域のユズを中心とした中山間振興 (安芸地域全域)
実施主体	◎JA 高知県 (安芸地区)、◎JA 馬路村
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	日本一のユズ産地として、生産性及び品質の向上とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 総出荷量※ (JA 高知県)	5,079t (H27-R 元平均) ※	5,139t (H29-R2 平均) 【5,529t】	5,169t (H30-R3 平均) 【4,608t】	4,942t (R 元～R4 平均) 【4,369t】	5,500t (R2-R5 平均)
(2) 通販売上高 (JA 馬路村) (1～12月)	8.1 億円 (R 元)	同左	8.1 億円	7.8 億円	10 億円

※総出荷量は青果出荷受入量と加工仕向量の合計。4年間平均 (H27～R 元) を出発点とする。但し、H28 は他の年より抜きんでて数字が高いため集計から除く。実績の【 】内は単年度の出荷量を記載。

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆新植・改植の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地の集約化に向けた取り組み (R 元～R4) ・優良系統苗の確保 (H27～R4) ・勉強会等による栽培技術の向上 (R4 21回) <p>◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 (JA 高知県 (安芸地区))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EU 向け青果輸出の取り組み (H24～R4) ・県内外での消費拡大イベントの開催 (R3～4:4回) <p>(JA 馬路村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングホリデー事業を活用した村外労働力の確保 (H29～R4) ・消費者との交流イベント (ゆずはじまる祭) の実施 (H18～R 元) ・海外催事への参加による加工品の PR (H29～R4) ・販売拡大に向けた新商品の開発 (H24～R4) ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用したリスティング広告の試行 (H30) ・チューブ充填機、異物検査機等の導入 (H30) ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用したゆずゼリー充填機械の整備、EC サイトの改修等 (R2～3) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆園地調査の実施 (R4: 安芸市畑山地区) ◆苗木供給数 H27:5,570 本 → R4 (見込み):9,647 本 ◆新植・改植の推進 (上記苗木供給数より推定) H27-R4 累計 (見込み): 約 67ha ◆EU 向け青果輸出货量 H28: 4t → R3: 2.3t → R4: 2.7t ◆ワーキングホリデー事業参加者 H29～R4 累計: 64 名 (R4: 13 名) ◆新商品開発 R3: 5 種 (チューブタイプゆずゼリー、ベルガモットエッセンシャルオイル、イタリアンソース、アールグレイ、ほん酢しょうゆ組合長) R4: ゆのすチャージ (飲むゼリー)、ごっくん馬路村ラベルレス、ゆずのリキュール (リニューアル)、ゆずのリキュール (辛口)、ゆずチョコピール <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新植・改植の推進 (優良母樹確保の仕組みづくり) ・需要に応じた生産量の確保 ・輸出 (青果・加工品) 及び加工用果実の品質向上 ・インターネット等を活用した販路拡大

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆新植・改植の推進</p>	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">生産拡大と品質向上の取り組み</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（安芸地区）： <ul style="list-style-type: none"> 計画的な新植・改植の推進 高齢化や労働力減少に対する樹形改造等による作業性の向上 検討会や勉強会の開催など栽培基本技術の徹底による生産量確保 母樹園地の管理指導と新規優良系統の探索 担い手の確保及び育成、担い手への園地の集約化に向けた取り組み ●JA 馬路村：新植・改植の推進による生産量の維持・拡大 <ul style="list-style-type: none"> 担い手の確保及びユズ産地を維持するための仕組みづくり ●県（農業振興センター等）： <ul style="list-style-type: none"> 検討会や勉強会の開催による基本技術の徹底 サンテ被覆や摘果など高品質、隔年結果防止技術指導 ユズ園を守るための鳥獣害対策の検討 労働力確保に関する検討、スマート農業の推進 優良系統の探索と情報提供 園地の集約化に向けた取り組み支援 				
<p>◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</p>	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">安定供給と販路開拓の取り組み</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（安芸地区）： <ul style="list-style-type: none"> 大手食料品メーカー等との契約継続による販売の安定化 ユズ協事業との連携、海外事務所、輸出コーディネーター等の活用による輸出版売の拡大（シンガポール、北米、EU等） 食品産業をはじめとする異業種との連携 消費宣伝等による新たな需要の掘り起こし ●JA 馬路村： <ul style="list-style-type: none"> ユズを使った各種加工品の生産及び開発 スマホやインターネット等による通販の促進、商品の充実 首都圏等でのイベントへの参加やアンテナショップの活用による販路拡大 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 貿易、商談会等の紹介と情報提供、関係機関への橋渡し 各種支援施策の提案 				

AP名 (実施地域)	No.2 日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト (室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、芸西村)
実施主体	◎JA 高知県 (安芸地区)、ゆめファーム全農こうち、(株)アグリド土佐あき、安芸市担い手支援協議会、安芸市施設園芸品消費拡大委員会、(一社)高知県東部観光協議会、(一社)安芸市観光協会、安芸商工会議所、地元加工業者、加工グループ、地元飲食店、地域直販所、(一社)こうち絆ファーム
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を目指して、新技術の定着や担い手対策を進める。また、ナスの機能性表示を生かした青果販売や新たな加工品の開発・販売及び地元飲食店等での利用促進に取り組み、クラスターの形成を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 出荷量(9～8月)	18,674t*	18,996t	19,119t	20,465t	20,000t
(2) 新規加工品開発数	2件 (H29～R元累計)	2件	0件	0件	3件 (R2～R5累計)

※H28.9月～R元.8月までの3ヶ年平均 (H30.9月～R元8月の出荷量が突出して多かつたため、前3ヶ年の平均値とする。)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産拡大と品質向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆめファーム全農こうちとの栽培検討会の開催 (H29～R4) ・環境制御技術の導入推進 (H26～R4) ・安芸市担い手支援協議会幹事会の定期開催によるサポートハウスの現況確認、就農希望者の面談 (H28～R4) ・安芸市農福連携研究会の定期開催による各関係機関の取り組み状況確認等 (H30～R4) <p>◆ナスを使った新規加工品の開発・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化セミナーの受講支援 (H30:7回、R元:1回、R4:5回) ・新規加工品の開発支援 (H30～R4) <p>◆ナスの消費拡大と認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナス料理店マップの作成・配布 (8,000部) (H29) ・「安芸市施設園芸品消費拡大委員会」のホームページ等への掲載によるPR (ナス料理店マップ (R元～R4)、ナスレシピ動画 (R2～R4)) ・機能性を活かした販売方法の検討 (R2～R4) <p><主な成果></p> <p>◆ゆめファーム全農こうちにおける10a当たり収量 H30:(土耕)18t→R2:(土耕区)10.7t、(養液区)22.8t→R3:(土耕区)30t、(養液区)35t</p>	<p>◆環境制御技術導入面積率 H27:12.7%→R元:44.1%→R2:45.9%→R3:47.3%→R4:51.3%</p> <p>◆新規就農者数 (安芸市担い手協議会が関与した数) H28:1人→R元:6人→R2:4人→R3:4人→R4:4人</p> <p>◆農福連携による雇用マッチング実績 (無料職業紹介所「アグリサポート」を介した数) H28:0人→R元:16人→R2:41人→R3:18人 (農家9人・集出荷場9人)</p> <p>◆新規加工品の開発 H30:1品 (ナス餃子)、R2:2品 (焼きなすソフトクリーム、豆乳アイス)、R4:冷凍揚げナス開発中</p> <p>◆ナス料理のレシピ動画公開数 R2:8品、R3:2品、R4:1品</p> <p>◆ナスの機能性表示承認 (R2)</p> <p>◆ナス青果機能性表示パッケージの活用 (JA) (R2～R4)</p> <p>◆ナスの機能性PR動画の制作 (R2) 及び公開 (R3～R4)</p> <p>◆ナススタンプラリー (R2,4)、「軽トラマルシェ」(R4)の開催</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境制御技術の導入、データを活用した栽培指導等によるさらなる生産拡大と品質向上 ・農繁期の労働力確保 ・新規加工品「冷凍揚げナス」の開発と販路開拓 ・ナス料理レシピ動画の作成継続及びバージョンアップ ・機能性表示を生かした販売促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産拡大と品質向上の取り組み	<p>新技術の導入と担い手確保の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ゆめファーム全農こうち： 新技術を導入した高収量生産技術（30t/10a）の確立 ●JA高知県（安芸地区）、(株)アグリード土佐あき： 環境制御技術の導入面積（目標 R5 90%）の拡大推進、アグリサポートによる労働力確保（農福連携等） ●安芸市担い手支援協議会、(株)アグリード土佐あき： 新規就農者の確保及び経営安定による早期営農定着支援 ●県（農業振興センター） 技術支援等の情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆ナスを使った新規加工品の開発・販売	<p>新規加工品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元加工業者、加工グループ： ナスを使った新規加工品の開発、試作品のイベント等での販売・磨き上げ ●県（地域本部等）：試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 <p>加工品のPRと販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元加工業者、加工グループ： 新たに開発した加工品のPR活動、販路開拓に向けた商談会等への出展 ●県（地域本部等）：高知県地産外商公社への橋渡し、産振アドバイザーの活用提案 				
◆ナスの消費拡大と認知度向上	<p>ナスの消費拡大や産地としての認知度向上の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安芸市施設園芸品消費拡大委員会： SNSやHPを利用したナスの機能性やナス料理レシピ等の消費拡大に向けたPR、消費地での販促活動（なす祭り等）や県内小中学校での出前授業 ●地元飲食店、地域直販所、(一社)高知県東部観光協議会、(一社)安芸市観光協会、安芸商工会議所： ナス料理提供による産地PR、イベント開催（ナスの日等）、観光客等への提供店やイベントの周知 ●JA高知県（安芸地区）： ナスの機能性表示を利用した販促活動 ●県（地域本部等）： 情報提供、関係機関への橋渡し、イベント開催の支援 				

AP 名 (実施地域)	No.3 東洋町のポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興 (東洋町)
実施主体	◎フクチャン FARM、◎東洋町、ポンカン生産者、甲浦の果樹仲間
AP への 位置づけ	H24.4 月
事業概要	東洋町の特産品であるポンカンを活用した加工品の開発を進めるとともに、移住・定住の促進による後継者の確保に取り組むことにより、地域振興を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R 2	R 3	R 4	R 5
(1)商品開発数	15 商品 (H28～R 元累計)	0 商品	1 商品		4 商品※ (R2～R5 累計)
(2)商品の販売数(1～12 月)	6,574 個 (H30)	7,940 個	8,396 個		8,400 個

※H28～R 元の商品開発数については、新規参入したフクチャン FARM が H29 に 9 商品を一度に開発したため急増、今期計画においては、年 1 商品の開発を目指す。

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆ポンカン加工品の新商品開発と販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンカンを活用した商品の開発 (H22～) ・ポンカンドリンクのチラシ作成 (H24) ・関西方面での営業活動 (H24～) ・こうち産業振興基金 (建設業経営革新事業費補助金) を活用したポンカン栽培、ポンカンを使った新商品開発 ・イベント出展 ・商談会参加 ・県内量販店でのポンカン取り扱い開始 (R2～) ・ポンカン振興対策協議会の設立 (R2) ・ポンカン振興対策協議会のホームページの立ち上げ (R2) ・まるごと高知商談会 (in 東洋町) への参加 (R4) <p>◆後継者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「フクチャン FARM」が建設業から参入 (H28) ・高知求人ネットへの求人登録 (H29～) ・「東洋町ポンカン産地振興に関するアンケート」の実施 (H30) ・「ポンカン産地を考える会」の開催 (H30:1 回、R 元:1 回) ・ワーキングホリデーの活用 (R3～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊の募集開始 (R3～) ・移住情報サイトへの情報掲載 (R4) ・移住フェア等への参加 (R4) ・JTБ アグリワーケーションの実施 (R4) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンカン振興対策協議会の設立により、生産者・行政・JA など各関係機関で、ポンカンの産地維持や後継者確保、鳥獣対策などについて考える体制ができた。 ・移住担当と農業担当が連携し、後継者確保について協議を開始することができた。 ・移住フェアだけでなく、ワーキングホリデーやアグリワーケーション等の活用により、移住と後継者確保について取り組むきっかけとなった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外商活動の強化による販路開拓 ・担い手確保によるポンカン生産の維持 ・東洋町のポンカンの認知度の低さ ・生産者・行政・JA 等の関係機関による課題の共有と課題解決に向けての連携 ・地域おこし協力隊や新規就農者の確保と、受け入れ体制の整備
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ポンカン加工品の新商品開発と販路拡大	<p>新商品の検討・開発・販売、既存商品の磨き上げ、販売促進活動</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●フクチャン FARM : 新商品の検討・開発・販売、既存商品の磨き上げ、商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ●甲浦の果樹仲間 : 営業活動による販路の開拓 ●東洋町 : 「海の駅 東洋町」での販売支援、イベント等での PR 活動 ●県（地域本部等） : 新商品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、その他各種支援制度に関する情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し 				
◆後継者の確保	<p>移住・定住の促進による後継者の確保</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●ポンカン生産者 : 「ポンカン振興対策協議会」への参画による支援策等の情報共有、こうち求人ネット等を活用した人材確保、インターネット等の活用、情報発信の強化、地域おこし協力隊の受け入れ ●東洋町 : ポンカン生産に向けた地域おこし協力隊の活用、移住支援策の充実などによる受入体制の強化、移住フェア等への参加 ●県（地域本部等） : 移住等に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	<p>新規就農者の支援</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ●ポンカン生産者 : 「ポンカン振興対策協議会」への参画による支援策等の情報共有 ●東洋町 : 指導者の育成及び増員、就農希望者に対する遊休農地の活用提案 ●県（地域本部等） : 栽培技術や他地域等に関する情報提供、関係機関への橋渡し 					

AP名 (実施地域)	No.4 芸西村の白玉糖による地域活性化 (芸西村)
実施主体	◎芸西村製糖組合、◎大和リゾート(株)、芸西村、集落活動センターげいせい、生産者グループ
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	伝統ある芸西村の白玉糖の生産を拡大し、白玉糖を活用した新商品を開発・販売することにより、ブランド化を図るとともに、白玉糖を活用した体験型観光を推進し、認知度の向上と地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
村内サトウキビ収穫量	19t (H30)	31t	34.8t	40.4t	38t
体験プログラム参加人数	21人 (R元)	10人	35人		200人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆技術を継承する人材の育成

- ・製糖作業への参画を通じた人材確保・育成
- ・白玉糖や製糖組合を周知するチラシ作成 (R4)

◆白玉糖の生産拡大・品質向上

- ・ロイヤルホテル土佐の敷地内でサトウキビを栽培 (R2)
- ・ロイヤルホテル土佐のショップにて白玉糖及び白玉糖商品の商品 (食パン等) の販売開始 (R3~)
- ・集落活動センターが県版 HACCP 旧 2 ステージの取得 (R3)
- ・HACCP 専門家派遣を芸西村伝承館等で受入 (R3)
- ・集落活動センターがグルメ&ダイニングスタイルショーに出展 (R4)
- ・製糖組合が北海道及び黒潮カントリークラブでの白玉糖をPR (R4)

◆体験メニューの造成・磨き上げ

- ・白玉糖炊き上げ体験メニューの実施 (H27)
- ・土佐の観光創生塾を受講し、体験プログラム (さとうきび収穫体験) を造成 (R2)
- ・県・芸西村・製糖組合・ロイヤルホテル土佐の4者による HACCP に対応した新施設の検討 (R3~)

<主な成果>

◆組合員数の増加

R2 : 6名 → R4 : 7名

◆集落活動センターげいせいのサトウキビ栽培面積

R2 : 7畝 → R3 : 9畝

◆ロイヤルホテル土佐のサトウキビ栽培面積

R2 : 400㎡ → R3 : 1,100㎡

◆集落活動センターげいせいの白玉糖加工品の売り上げ

H30 : 390千円 → R3 : 2,337千円

<課題>

- ・製糖組合員の高齢化、伝統技術継承者の育成
- ・村内のサトウキビの栽培方法の確立
- ・白玉糖の品質向上と販路拡大
- ・体験メニューの魅力向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆技術を継承する人材の育成	製糖を行う人材の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：集落活動センター・がいせいと連携した人材確保、フェイスブックやインターネットの求人サイト等を活用した人材募集、情報発信の強化 				
◆技術を継承する人材の育成	製糖技術の継承				
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：製造技術の習得、関連する研修等の受講、製糖作業のマニュアル化 				
◆白玉糖の生産拡大・品質向上	白玉糖の生産拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：脱葉機による収穫支援、耕作放棄されたサトウキビ畑の管理、SNS等を通じた製糖組合の取り組みについての情報発信の強化 ●集落活動センター・がいせい：センターの会員増と白玉糖を活用した加工品の取引先の拡大 ●大和リゾート(株)：白玉糖を活用した商品開発と加工品の取引先の拡大 ●芸西村：就農希望者に対する遊休農地の活用提案 				
	マニュアルの作成	マニュアルに沿った栽培			
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：栽培方法のマニュアル化 ●県（地域本部等）：他地域の状況等に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：マニュアルの磨き上げ ●県（地域本部等）：研修や他地域の状況等に関する情報提供 		
◆白玉糖の生産拡大・品質向上	衛生面の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：製糖時の服装等を規定、研修・セミナー等の受講 ●芸西村：HACCP対応のための新施設の設置の検討 ●県（地域本部等）：HACCP研修等についての情報提供、HACCP専門家派遣の提案及びフォローアップ 				
◆体験メニューの造成・磨き上げ	既存の体験メニューの磨き上げと新たな体験メニューの開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合、大和リゾート(株)：伝承館とロイヤルホテル土佐における既存体験メニューの磨き上げと新たな体験メニューの開発、情報発信の強化、事業者間の連携強化 ●芸西村：体験メニュー実施主体との協議によるメニューの検討・磨き上げ ●県（地域本部等）：アドバイザーの活用提案、補助金メニューの紹介、各種支援制度に関する情報提供、広報支援 				

AP 名 (実施地域)	No.5 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 (室戸市、東洋町)
実施主体	◎室戸市木炭振興会、◎土佐備長炭室戸生産組合、◎土佐備長炭生産組合、◎上土佐備長炭東洋組合、◎備長炭生産者、室戸市、東洋町
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	新規就業者の確保等により備長炭の生産量を拡大し、国内トップの備長炭産地として安定供給体制を築くことにより、地域における就業の場の創出と伝統産業の継承を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
生産量(年次)	1,284t (H30)	1,232t	1,211t		1,534t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産者の組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市木炭振興会の設立 (H19.9月) ・土佐備長炭室戸生産組合の設立 (H28.8月) ・土佐備長炭生産組合の設立 (H21.4月) ・上土佐備長炭東洋組合の設立 (H30.9月) <p>◆従事者の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特用林産業新規就業者支援事業を活用した研修生の受入 (H21~R4) 受入先：室戸市の生産者：20人 受入先：東洋町の実産者：24人 <p>◆生産施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した製炭窯等の整備 [室戸市木炭振興会] (現：土佐備長炭室戸生産組合) 研修窯 2基 (H21) 研修窯 1基 (H22) [土佐備長炭生産組合] 共同利用窯 2基 (H21) 共同利用窯 1基、保管庫 1棟 (H22) 共同利用窯 4基、フォークリフト 1台 (H25) 	<p><主な成果></p> <p>◆組織化による原木の一括購入により、原木の安定調達が可能となった [土佐備長炭生産組合、上土佐備長炭東洋組合]</p> <p>◆研修窯の設置等による新規就業者の増加 研修生受入人数 (H21~R4) : 44人 → 研修後に就業した者 (R3時点) : 39人 → 研修中 (R4.6月時点) : 3人</p> <p>◆従事者や製炭窯の増加による生産量の増大 (H21~) H20 : 555t → R3 : 1,211t 着実に成長を続け、H26以降、高知県の白炭生産量は全国一位。室戸市と東洋町で県内生産量の約90%程度を生産</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量のさらなる増加 ・生産量の増加に伴う製炭用原木の安定的な調達

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆従事者の拡大	<p>新研修生の受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ●備長炭生産者： 研修生の受入 ●室戸市、東洋町： 研修生の募集、特用林産業新規就業者支援事業を活用した補助制度の実施 ●県（林業事務所等）： 研修後の独立に向けた各種支援制度に関する情報提供 				
◆生産施設の整備	<p>製炭窯の設置等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●備長炭生産者： 研修修了者等の新規就業者が製炭窯や原木運搬車等の施設・機械を整備 ●県（林業事務所）： 生産施設の設置に係る融資制度や補助事業の導入への支援 				
◆原木林の造成	<p>ウバメガシ人工植栽に関する情報収集等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●室戸市、東洋町： ウバメガシを植栽する候補地の選定等 ●県（林業事務所）： ウバメガシの植栽・保育に関する技術情報の整理 <p>スギ・ヒノキ人工林からウバメガシ人工林への林種転換</p> <ul style="list-style-type: none"> ●室戸市、東洋町： 公有林へのウバメガシの植栽、保育施業の実施 ●県（林業事務所）： ウバメガシの植栽・保育施業への支援 				
<p>【用語】・備長炭：ウバメガシ又はカシ類を原木に用いて製造された白炭（窯外で消火する炭化法で製造された木炭）</p>					

AP名 (実施地域)	No.6 馬路の林業加工品の販売促進 (馬路村)
実施主体	◎(株)エコアス馬路村、◎馬路林材加工協同組合、馬路村森林組合
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	販路の拡大や新商品の開発、生産性の高い加工機械の導入等により木材や木製品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営の安定化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 木製品出荷額	1.78 億円 (H30)	2.09 億円	2.52 億円		2.13 億円
(2) 雇用者数(加工部門)	22 人 (H30)	22 人	22 人		22 人 (現状維持)

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆営業力の強化</p> <p>[株]エコアス馬路村</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用による新商品の開発等の実施 (H21) 木製バッグ monacca シリーズへの新作の追加 (H21、H29) 新商品開発 (靴べら(Kutu-bera)) (H21~25) 展示会出展 (H21~30) monacca の塗装改良 (H24) ホームページのリニューアルによる直販の強化 (H25~) 国内外の展示会への出展等を実施 (H22) 産業振興推進総合支援事業費補助金 (ステップアップ事業) を活用した新商品の販売促進 (H29) <p>[馬路林材加工協同組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーを活用した販路開拓 (H30) <p>[馬路村森林組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品(骨壺、子供用ベッド)の開発 (H22) 工芸品の販売業務を(株)エコアス馬路村に移管 (H24) <p>◆収益性の改善</p> <p>[株]エコアス馬路村</p> <ul style="list-style-type: none"> レーザー加工機 1 台の導入 (H29) 	<p>[馬路林材加工協同組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 送材車 1 台、帯鋸盤 1 台の導入 (H24) 乾燥機 1 基の導入 (H26) 経営コンサルタントを活用した事業戦略の策定及び支援 (H30、R 元~) ツイン丸鋸盤 1 台・自動スタッカー 1 台の導入(R 元) モルダー 1 台の導入予定 (R3) <p>[馬路村森林組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営コンサルを活用した中期経営計画の策定(H24) 丸棒削機 1 台、乾燥機 1 基の導入 (H25) <p><主な成果></p> <p>[株]エコアス馬路村</p> <ul style="list-style-type: none"> 塗装の改良や新商品開発による販売アイテムの充実 ウェブサイトやカタログなど営業推進ツールの充実 <p>[馬路林材加工協同組合、馬路村森林組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化した加工機械の入れ替えにより生産性が向上 乾燥機の導入により製材品の乾燥品質が向上 各職員が経営者的な感覚で、目標を掲げて業務を遂行する姿勢を持つようになってきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 木材や木製品の販路の拡大 馬路村産の木材等の総合的なブランディングによる差別化 新たな営業・販売の手法やルートの確立
---	--

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆営業力の強化	販路の開拓				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合： <ul style="list-style-type: none"> 首都圏で開催される木製品販売に関連した展示会への出展 産振アドバイザーを活用した都市部の工務店への企業訪問 製品の品質やラインナップをユーザーに伝えるための商品カタログ等の製作やウェブサイトの改修 村と一緒に都市部の自治体が森林環境譲与税を活用して木材利用に取り組む案件に対する働きかけ ●県（地域本部等）：産業振興推進総合支援事業費補助金や産業振興アドバイザーなどの活用可能性の検討、その他各種支援制度に関する情報提供 				
	新商品の開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)エコアス馬路村：新商品のアイデアの公募や企画会議の実施、試作品の製作や利用モニタリングの実施、新商品の製造 ●県（地域本部等）：産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、その他各種支援制度に関する情報提供 				
◆収益性の改善	加工機械の導入				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合、馬路村森林組合： <ul style="list-style-type: none"> 加工精度の低下や故障の頻発が生じている老朽化した加工機械の入れ替え等による品質や生産性の向上 ●県（地域本部等）：産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、その他各種支援制度に関する情報提供 				
	経営体質の強化				
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合： <ul style="list-style-type: none"> 経営コンサルタントを活用した事業戦略の策定、実行支援による仕入れや生産等の管理の強化 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 					
<p>【用語】・丸棒：原木を円柱状に削って加工したもの。木製遊具等に利用される。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.7 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大 (室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町)
実施主体	【漁業者】◎(株)美阿丸、土佐室戸鮪軍団、室戸市定置漁業振興協議会、中芸定置網漁業振興協議会 【水産加工業者】◎(有)タカシン水産（佐喜浜工場）、◎(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓
AP への位置づけ	H21.4月
事業概要	芸東地域の定置網漁獲物や近海マグロを中心に、漁業者や水産加工業者による加工品の開発・製造・販売を進め、付加価値向上・漁業所得の向上につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1)漁業者による加工品販売額	45万円 (H30)	63万円	70万円		300万円
(2)水産加工業者の販売額	2.5億円 (H30)	2.3億円	2.1億円		3.0億円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆漁業者による加工品の製造販売

(定置網漁獲物)

- ・低利用魚の簡易加工品試作 (H26)

(近海マグロ)

- ・若手船主を中心に結成された「土佐室戸鮪軍団」による出前授業やイベントでのPR (H29～)
- ・未利用部位の加工品開発 (H29～R2)、道の駅や飲食店等での販売、ふるさと納税返礼品への採用 (H30～)
- ・室戸市補助金を活用した加工場建設 (R3～)
- ・県補助金を活用した加工機器の導入 (R3～)
- ・高知銀行の支援事業を活用した商品開発と販路開拓 (R4～)

◆水産加工業者による加工品の製造販売

(有)タカシン水産)

- ・産振補助金を活用した加工場整備 (H21)
- ・地域漁獲物を用いた加工事業の実施 (H21～)
- ・ふるさと納税返礼品への採用 (H27～)
- ・県補助金の活用による HACCP 取得に向けた施設整備と内製化に向けた機器整備 (R2)
- ・EC サイト運営 (R3～)

(有)山本かまぼこ店)

- ・産振補助金 (ステップアップ事業) を活用した商品開発及び新工場の基本設計事業 (R2)
- ・県補助金活用による設備導入 (R3)
- ・産振補助金を活用した加工場の整備検討 (R3～R4) ※資材高騰等により補助事業中止

<主な成果>

◆マグロ内臓の加工品販売額

H29 : 0万円 → H30 : 45万円
→ R元 : 50万円 → R2 : 63万円
→ R3 : 70万円

◆水産加工品販売額

H22 : 0.4億円 → H30 : 1.0億円
→ R元 : 0.9億円 → R2 : 2.3億円
→ R3 : 2.1億円 (H30・R元は、1社のみの実績)

<課題>

◆漁業者による加工品の製造販売

- ・新商品の開発やネット販売による販路拡大
- ・加工場における製造・販売体制の確立

◆水産加工業者による加工品の製造販売

- ・生産性の向上、衛生管理体制の強化
- ・建設資材等高騰による施設整備費の上昇
- ・さらなる販路開拓、販売促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆漁業者による加工品の製造販売	商品開発、販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)美阿丸、土佐室戸鮪軍団、室戸市定置漁業振興協議会： 試作品づくり、製造方法等の検討、商品化の実現、商談会等への参加による販路開拓 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、その他各種支援制度に関する情報提供、各種商談会等の紹介、関係者への橋渡し 				
	施設整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)美阿丸： HACCPに対応した施設整備 ●県（地域本部等）： 新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用 				
◆水産加工業者による加工品の製造販売	近海マグロのPR				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐室戸鮪軍団： 各種イベントでの「マグロ解体ショー」の実施やマグロ加工品の販売等による広報実施 				
◆水産加工業者による加工品の製造販売	生産性向上と販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)タカシン水産、(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓： 販路開拓、商品開発、衛生管理体制の構築 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、各種商談会等の紹介、関係者への橋渡し、衛生管理に関する講習会等の紹介 				
	施設整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)山本かまぼこ店： HACCPに対応した施設整備 ●県（地域本部等）： 産振総合補助金の活用 				

AP名 (実施地域)	No.8 室戸海洋深層水による地域産業の推進 (室戸市)
実施主体	◎深層水関連事業者、室戸市
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	スジアオリ養殖事業のさらなる発展や、深層水商品のブランド化による販売力の強化、海洋深層水を活用した新たな地域振興の取り組みにより、地域産業の推進を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
スジアオリの生産量(高岡漁港)	3.3t (H30)	3.6t	2.7t		3.6t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組み内容></p> <p>◆スジアオリ養殖事業のさらなる発展</p> <ul style="list-style-type: none"> スジアオリの小袋商品を「まるごと高知」や各種イベントなどで販売（H22～23） 三島食品(株)が指定管理による委託を受け、スジアオリの養殖を開始（H27年度～R6年度末予定） <p>◆深層水商品のブランド化による販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 高知県、室戸市、高知大学、深層水利用企業が連携して海洋深層水の機能性評価事業（飲用試験等）を実施（H26～28） 高知海洋深層水企業クラブの各種販促イベント（原宿スーパーよさこい、土佐の豊穰祭等）参加（R4 ※R2～3はコロナ禍で多くのイベントが中止） <p>◆海洋深層水を活用した新たな地域振興の取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 海洋深層水による地域産業の推進に向けた勉強会の開催（R元～2） 室戸市海洋深層水推進構想検討委員会を開催し、室戸市海洋深層水推進構想を策定（R2） 構想にかかる関係者間の協議（R3.4月、6月、7月、9月） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> スジアオリの生産量 H26：2.4t → H30：3.3t → R元：3.7t →R2：3.6t → R3：2.7t 臨床試験により、海洋深層水の腸内環境の改善効果が証明された（H29） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> スジアオリの増産に必要な土地や人員の確保 機能性を生かした商品開発・販路拡大 海洋深層水推進構想に基づく事業の検証、発展

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆スジアオリ養殖事業のさらなる発展	<p>スジアオリ養殖事業の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●深層水関連事業者： スジアオリの高品質化と生産拡大 ●室戸市： スジアオリの増産に向けて必要な土地や人員の確保を検討 				
◆深層水商品のブランド化による販売力の強化	<p>深層水商品のブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●深層水関連事業者： 県内外へのPR（HP、SNS等各種媒体の活用） ●室戸市： 県内外へのPR（HP、SNS等各種媒体の活用）、室戸市民や観光客へのPR ●県（地域本部等）： 海外へのPR（視察者や学会発表）、県外でのイベント出展、プロモーション 				
◆海洋深層水を活用した新たな地域振興の取り組みの推進	<p>海洋深層水を活用した地域振興に向けた構想づくり、事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ●深層水関連事業者、室戸市： 海洋深層水を活用した地域振興に向けた構想づくり、構想に基づく事業の展開、組織体制の検討 ●県（地域本部等）： 構想づくりや事業展開に向けて産振アドバイザーの活用や産振総合補助金（ステップアップによる事業を含む）の活用を提案、県内外へのPR（HP、SNS等各種媒体の活用）、情報発信支援 				

AP名 (実施地域)	No.9 キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大 (室戸市)
実施主体	◎協同キラメッセ室戸(有)、◎室戸市
APへの 位置づけ	H25.4月
事業概要	道の駅キラメッセ室戸「楽市」を拠点とし、地域製品の充実や販売を促進するとともに、周辺施設等と連携することで、地産地消・外商及び交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1)売上高	4.1億円 (H30)	3.2億円	3.43億円		4.2億円
(2)レジ通過者数	251,612人 (H30)	212,342人	223,742人		260,000人

これまでの主な動き

これまでの取り組み内容	主な成果
<p>◆施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 複合経営拠点化に向けた協議会の開催 (H28～H30:11回) 各種アドバイザーの活用による売上分析、売り場づくりや動線見直しの実施 (H29～H30:4回) 直販所のレイアウト改装 (R元) <p>◆農産物の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 庭先集荷開始 (H28～) 新品目生産のための生産者説明会の開催 (H29～) 集荷日数・ルートの拡充 (H30～) 県外道の駅との連携開始 (R4～) <p>◆加工品の開発、販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税返礼品等の拡充 (H26～) 6次化セミナー実践コースの受講 (H28～R元:8回) 秋津野ガルテン(和歌山県)等視察 (H29) 6次化セミナーを通じて開発した商品の販売 (R元～) HACCP研修参加 (R2.10月) 県外道の駅との連携検討 (R3.10月、12月) 県外道の駅との連携開始 (R4～) 	<p>◆商品開発数</p> <p>H28:4品 → H30:7品 → R元:0品 → R2:0品 → R3:0品</p> <p>◆ふるさと納税返礼品の拡充</p> <p>H27:39品 → H30:92品 → R元:72品 → R2:73品</p> <p>◆ふるさと納税額</p> <p>H27:7,555万円 → H30:13,626万円 → R元:8,311万円 → R2:5,934万円 → R3:7,314万円</p> <p>◆庭先集荷した野菜等の出荷額</p> <p>H29:27万円 → H30:153万円 → R元:157万円 → R2:146万円 → R3:383万円</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 農産物出荷者の高齢化に伴う集荷体制の強化 加工品や農産物(特に夏場)等の商品不足

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆農産物の確保	集荷体制の強化・栽培品目の選定				
	<ul style="list-style-type: none"> ●協同キラメッセ室戸(有) : 庭先集荷の利用者数増のための説明会開催、庭先集荷ルート拡大の検討（新たな集荷ルートの開拓、集荷日数の増加、利用者増に向けた働きかけ等）、収益性のある品目の選定及び生産者の決定 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆加工品の開発、販路拡大	実証圃の継続		栽培品目の選定、自家栽培の検討		
	<ul style="list-style-type: none"> ●協同キラメッセ室戸(有) : 実証圃における実証栽培の継続実施 ●県（地域本部等）：農業技術の指導等 		<ul style="list-style-type: none"> ●協同キラメッセ室戸(有) : 収益性のある品目の選定、自家栽培の検討 ●室戸市 : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し、周辺環境整備に向けた説明会実施（農地の選定等） ●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 		
◆加工品の開発、販路拡大	加工品の開発、販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●協同キラメッセ室戸(有) : 加工品の開発、ネット通販の強化、県外の道の駅等との連携によるPR強化（お互いの加工品等を他道の駅で販売等） ●室戸市 : ふるさと納税返礼品への積極的活用、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し ●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.10 室戸市中心市街地の活性化 (室戸市)
実施主体	◎室戸市商工会、◎室戸市
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	新たに策定する室戸市中心市街地振興計画に基づき、空き店舗や地域資源を活用した取り組みなどを進めることで室戸市中心市街地の魅力を高め、住民や観光客の利用促進を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
中心市街地での事業所の新規開業	-	2件 (累計)	4件 (累計)		2件 (R2~R5累計)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市中心市街地振興協議会の設立 (R元) ・室戸市中心市街地振興協議会、同ワーキンググループにおける協議 (R元) ・商店街事業者と室戸市との意見交換会を開催 (R3.6) ・室戸市中心市街地振興協議会における協議 (R3.11,12、R4.7) ・飲み歩きイベント「GOGO 室戸スタンプラリー」を開催 (R4.11) <p>◆既存商店街の魅力向上に向けた取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップ「Go・ムロト」事業開始 (H30) チャレンジャー 6名 (H30~R4) ・イベント実施 まちゼミ開催 (R元.11、R2.4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆室戸市中心市街地振興協議会ワーキンググループでの議論を踏まえた振興計画の策定 (R2) ・商店街内にチャレンジショップ卒業生による空き店舗を活用した事業所の開業 (R3.6)、イベントの開催 ・地域おこし協力隊の雇用開始 (R4.5~) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の人口減少や空き店舗の増加などによる商店街の魅力低下

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施	新たに策定された中心市街地振興計画に基づく取り組みの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 室戸市商工会、室戸市： 具体的な事業内容の検討・実施、商店街等振興計画推進事業費補助金の活用の検討・実施 ● 県（地域本部等）： 室戸市中心市街地振興協議会に参画し振興計画の活性化施策の実施を支援、産業振興アドバイザーや産振総合補助金（ステップアップによる事業を含む）の活用を提案、各種支援制度などの情報提供 				
◆ 既存商店街の魅力向上に向けた取り組みの推進	新規出店者の育成（チャレンジショップ事業）				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 室戸市商工会、室戸市： チャレンジショップのチャレンジャーの募集及びチャレンジャーへの経営指導、SNS等による情報発信、商店街への出店支援 ● 県（地域本部等）： チャレンジショップ事業に対する支援、情報発信 				
	賑わいの創出（イベント実施）				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 室戸市、室戸市商工会： まちゼミなどの誘客イベントの検討及び実施 ● 県（地域本部等）： 協議の場への参画におけるアドバイス、イベント情報発信 				
			地域おこし協力隊の募集・雇用		
			<ul style="list-style-type: none"> ● 室戸市： 中心市街地振興を専従とした地域おこし協力隊募集・雇用の開始 ● 県（地域本部等）： 募集情報の発信等支援 		

AP名 (実施地域)	No.11 安芸本町商店街を中心とする地域の活性化 (安芸市)
実施主体	◎安芸本町商店街振興組合、安芸商工会議所、安芸市
APへの 位置づけ	H29年4月
事業概要	にぎわいと活力のある商店街を目指し、地域内外から人が集まる仕組みづくりや商店街の魅力高める取り組みを進めることで商店街や周辺地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
空き店舗等を活用した新規開業	0件 (H30)	0件	0件		3件 (R2~R5累計)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆商店街を中心とする地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全国商い甲子園大会」開催 (H20~) ・きさらぎ市の開催 (R元) ・空き店舗の活用 (チャレンジショップ) カプリス (H28.5.29~10.29) かまん東川 (カプリス内: H28.6.4~10.29) 漁師の食卓 (H28.12.11~H29.6.25) 居酒屋「集い」 (H29.7.10~H30.3.20) (コミュニティスペース「満子の部屋」) 産業振興アドバイザー活用によるワークショップの開催 (H29) 「満子の部屋」の開設 (H30~) (こうち絆ファーム) 空き店舗に作業所を開設 (R2) ・移動販売事業の委託 (H28~) ・安芸市中心商店街等振興協議会の設置・開催及びワークショップの開催 (R3~R4) ・安芸市中心商店街等振興計画策定 (R4) ・安芸市中心商店街等振興計画に基づく取組 (軽トラマルシェ、浜弁当、たまり場、高校生マルシェ、MAP制作) を実施 (R4) ・商店街内のギフトショップを中核とした市内事業者グループによる地域産品コラボギフトの企画・販売 (R2~) 	<p><主な成果></p> <p>◆商店街を中心とする地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国「商い甲子園」大会 第11回 (H30) : 1,100 人来場 第12回 (R元) : 1,200 人来場 ※令和2年度から令和4年度はコロナ禍のため中止 ・きさらぎ市 (R元) : 1,200 人来場 ・空き店舗の活用 (コミュニティスペース「満子の部屋」) イベント等利用者数 H30 : 917 名 R元 : 625 名 (安芸市中心商店街等振興計画) ・安芸市中心商店街等振興協議会ワークショップに、商店街・事業者・学生等約40人が参加し、計画策定に向けた検討を実施 ・軽トラマルシェ来場者数 (R4.6.26) 507 名 ・高校生マルシェ来場者数 (R4.10.16) 170 名 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心商店街等の振興に向けた中長期的な取組計画における事業者の主体性の醸成と維持 ・商店街組織及び周辺事業者の連携強化 ・個店の活性化に結びつく活動 ・コロナ禍におけるイベントの開催方法

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆商店街を中心とする地域の活性化	活性化に向けた方向性の検討		振興計画に基づく具体的な取り組みの実施		
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸本町商店街振興組合、安芸商工会議所： ワーキンググループによるワークショップの開催 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案・情報提供 		商店街振興計画（仮称）の策定		<ul style="list-style-type: none"> ●安芸本町商店街振興組合、安芸商工会議所： 商店街活性化協議会（仮称）の設置、計画策定 ●県（地域本部等）： 協議会や計画づくりに関する先進事例等の情報提供
	イベント等の企画・実施				
<ul style="list-style-type: none"> ●安芸本町商店街振興組合： 全国商い甲子園大会の拡充及び経済面での波及効果に結びつけるための手法の検討 「満子の部屋」の利用者増加に向けた活動支援 他の団体や学校と連携し、商店街をフィールドとして実施するイベントの企画・実施 HP や SNS などを利用した情報発信 ●県（地域本部等）： イベント等の企画・実施に積極的に関わり、状況に応じた支援や情報提供を実施 					
商店街組織の体制強化					
<ul style="list-style-type: none"> ●安芸本町商店街振興組合： 商店街店舗間で情報共有する仕組みの構築 商店街での新規開業希望者向けの空き店舗情報の収集・提供 来店者への他店舗の情報提供など個店の連携による商店街の周遊促進・消費拡大 中山間移動販売などの商店街に通えない顧客に対するサービスへの取り組み ●県（地域本部等）： 空き店舗の利用者募集や情報発信について関係課への橋渡しやアドバイザーの活用提案等の支援 					

AP名 (実施地域)	No.12 海の駅東洋町を拠点とした地域振興 (東洋町)
実施主体	東洋町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	高知県の東の玄関口である東洋町の観光の窓口及び地元特産品の販売、飲食施設等の機能を持つ「海の駅東洋町」を核とした交流人口の拡大により、地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1)売上高	1.68 億円 (H30)	1.35 億円	1.52 億円		1.76 億円
(2)来場者数	177,809 人 (H30)	140,231 人	155,477 人		187,000 人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆運営体制の強化

- ・「海の駅東洋町」の整備 (H20.1月)
- ・火災による焼失 (H24.7月)
- ・産業振興推進総合事業費補助金を活用した再建 (H25.12月)、運営再開 (H26.1月～)
- ・地域おこし協力隊の雇用 (R3)
- ・駅長の設置 (R3)
- ・スタッフの意識改革に向けた取り組み (駅長とスタッフの面談、日報の変更) (R4)
- ・地域活性化起業人制度の活用 (R4)

◆地域特産品を活用した加工品の開発・販売

- ・近隣の調理場を活用した弁当、惣菜づくり (H30～)
- ・ボンカンピールを使用したお土産品の開発及び販売 (チョコレート、クッキー等) (R2～)
- ・ボンカン食パンの販売 (R3)
- ・レストラン部門で、地元の魚をつかったお刺身定食や、マグロ丼の提供開始。物販コーナーで、魚を使ったお惣菜や、お刺身パックなどの販売開始。(R4)

◆誘客の促進

- ・農林水産物直販所運営管理者及び安心係等発展講集会参加 (H29)
- ・直販市活性化セミナー受講 (H30)

- ・海の駅の駐車場などを活用したイベント誘致 (kawasaki 主催のバイクイベント (H31))
- ・高知6次産業化サポートセンターよりプランナー派遣 (R元～R3)
- ・キャッシュレス対応 (R2～)
- ・地域力創造アドバイザーの導入 (R3)
- ・BBQ事業の開始 (R4)
- ・DMV1周年記念イベントの開催 (R4)

<主な成果>

- ・駅長 (責任者) の設置により、運営体制の強化が図られた。また、駅長とスタッフ面談や目標・結果の見える化により、スタッフのモチベーションが上がり、魅力的な店舗作り・サービスの向上につながっている。
- ・POPの作成や掲示により、より良い売場となり、結果として購買意欲の向上につながっている。
- ・地元の魚を使ったメニューを積極的に提供するなどして、お客さんの満足度を高められている。

<課題>

- ・集客強化
- ・リピーターの確保
- ・町内事業者 (出品者) との協力体制の構築
- ・主力商品である魚の安定供給

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 運営体制の強化	出品者勉強会の開催				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋町：専門家等を活用した勉強会の実施 ● 県（地域本部等）：産振アドバイザー等の活用の提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	従業員研修の実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋町：専門家等を活用した研修の実施 ● 県（地域本部等）：産振アドバイザー等の活用の提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
			運営体制の見直し	指定管理による運営開始	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋町：地域活性化起業人制度の活用 ● 県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆ 地域特産品を活用した加工品の開発・販売	加工品の開発・販売による地産外商				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋町：新商品の検討・開発・販売、町内外のイベント出店、ふるさと納税への出品 ● 県（地域本部等）：産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し 				
◆ 誘客の促進	魅力的な店舗づくり、情報の発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋町：店内レイアウトの変更、ワークショップ・マルシェ等イベントの実施・誘致、SNSを活用した情報発信 ● 県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.13 有害鳥獣等を活用したペットフードの開発と販路開拓 (東洋町)
実施主体	◎(株)熊谷ファーム、(株)マルキョウ
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	有害鳥獣であるイノシシやシカなどを利用して、食肉加工のほか町内で未利用となっている魚や野菜と組み合わせたペットフードを生産・販売するための加工施設を整備し、生産・販売体制を確立することにより、ジビエ振興による地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	101万円 (H30)	86万円	90万円		2,000万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆原材料の安定確保 <ul style="list-style-type: none"> ・原材料となる有害鳥獣の確保に向けた仕組みの構築、事業者での有害鳥獣引き取りの開始 (R2) ◆商品開発と販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・こうち農商工連携基金を活用した長期保存可能なペット用備蓄・防災フードの開発等 (H29) ・高知市ペットフード会社との連携 (H29) ・インターネット店舗で販売開始 (H30) ・ふるさと納税で取扱い開始 (H30～) ・イベントへの出店 (H29:5回、H30:4回) ◆加工施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・既存公共施設(廃校跡)を加工場として活用 (H28～29) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆商品開発と販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・(株)マルキョウの取り組み 魚の干物のペットフード 21種類を開発、販売 ・(株)熊谷ファームの取り組み イノシシ、シカ等の干物のペットフード 8種類を開発、販売 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣等の安定確保 ・人手不足

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆原材料の安定確保	<p>原材料の安定確保に向けた仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)熊谷ファーム： 東洋町と連携して原材料となる有害鳥獣の確保に向けた仕組みを構築、有害鳥獣の取り扱いについて狩猟者への啓発を実施 ●県（地域本部等）： 協議の場への参画によるアドバイス、情報提供 				
◆商品開発と販路拡大	<p>新商品開発・商品のブラッシュアップ、プロモーション活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)熊谷ファーム、(株)マルキョウ： コンセプトづくり、試作品づくり、市場調査（消費者の意見集約）、製造方法等の検討、商品改良、商品化の実現、商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： 商品開発のための産振アドバイザー等の活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、各種支援制度に関する情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し 				
◆加工施設の整備	<p>加工施設の整備の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)熊谷ファーム： 加工施設の整備の検討 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー等の活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.14 地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大 (奈半利町)
実施主体	◎(一社)なはりの郷、◎奈半利町、◎奈半利なんでも市加工グループ、◎NCL48、JA 高知県(安芸地区)
APへの位置づけ	H26.4月
事業概要	集落活動センターが中心となり、地域食材を活用した特産品の企画・開発を促進するとともに、情報発信や販促の強化により奈半利ブランドを確立し、地域経済への波及効果の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) JA 加工施設(奈半利味噌)の売上高	677万円 (H30)	723万円	787万円		912万円
(2) 農水産加工施設の店舗売上高	800万円 (R元見込)	1,256万円	1,436万円		900万円
(3) 集出荷センター取扱高(7~6月)	5.4億円(R元.7月~R2.6月見込)	0.45億円	0.11億円		764万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地産外商の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用による施設の増床及び機械の追加導入(JA加工施設)(H26) 地域づくり支援事業費補助金を活用した加工施設の整備(奈半利のおかげ)(H28) 複合経営拠点支援事業補助金等を活用した集出荷施設の整備(H29) 奈半利味噌やイチジクジャム等のとさのさとへの出品(R元~) 奈半利のおかげ商品の「地のもん市場ハレタ(土佐市)」への出品(R2~) おはようこうち「さんしんGO!」放送(R4) <p>◆運営体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売促進や運営上の課題等に関する定期的な協議 うちんくのビジネス塾への参加(R2) 産業振興アドバイザーの派遣(R3) 選ばれる商品づくりセミナー第3回衛生管理の基本の「き」への参加(R4) 	<p>◆一次産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 農作業のオペレーター受託(H28~) 農作物の生産開始(H28~) 集落活動センター推進事業補助金を活用した備品整備(H29) <p><主な成果></p> <p>◆ふるさと納税額(R2.7月~R4.9月まで停止) H28:20.3億円 → H30:37.6億円 → R元:4.2億円 → R2:0.4億円 → R3:0億円</p> <p>◆農作業受託件数 H29:75件 → H30:89件 → R元:145件 → R2:212件 → R3:176件</p> <p>◆農作物 いちじく作付け面積 H29:0a → R3:2.8a</p> <p>◆加領郷魚舎 加領郷フィッシャリーズが利用開始(R4)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税に依存しない事業運営体制の構築

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地産外商の強化	新商品の開発・既存商品の磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 奈半利なんでも市加工グループ、NCL48 : 新商品の検討・開発・販売、既存商品の磨き上げ ● 県（地域本部等） : 新商品開発・既存商品磨き上げのための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	ふるさと納税を活用した地産・外商の強化				
◆運営体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 奈半利町、(一社)なはりの郷 : ふるさと納税の返礼品となる商品の磨き上げ支援、情報発信の強化 ● 県（地域本部等） : 商品の磨き上げのための産振アドバイザー等の活用提案、各種セミナー等の情報提供 				
	通販サイトの充実・通販サイトを活用した特産品販売の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 奈半利町、(一社)なはりの郷 : R元開設した通販サイトの企画・運営、サイト内容の充実による特産品の販売促進 ● 県（地域本部等） : 通販サイトの運営などに関する産振アドバイザー等の活用提案 				
◆一次産業の振興	後継者の確保及び育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 奈半利なんでも市加工グループ、NCL48 : (一社)高知県移住促進・人材確保センターを活用した人材確保、職場環境の見直しや衛生管理技術向上に向けたセミナー等の受講 ● 県（地域本部等） : セミナー等に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆一次産業の振興	農作業受託・新規就農者受入等の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ● (一社)なはりの郷、奈半利町 : 農作業受託の推進に向けた広報、地域おこし協力隊の募集・活用による人材確保 ● 県（地域本部等） : 農業技術の指導等 				

AP 名 (実施地域)	No.15 田野町の完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用 (田野町)
実施主体	◎田野町、民間事業者
AP への 位置づけ	H24.4 月
事業概要	製塩体験施設での塩づくり体験を通じて交流人口の拡大を図るとともに、新たな就業者の育成と関連産業への波及を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 体験施設受入人数	269 人 (H30)	64 人	212 人		700 人
(2) 塩関連での就業者数	2 人 (H30)	2 人	4 人		10 人※ (R2～R5 累計)

※出発点 (H30) の 2 名を含む。

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増

- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用した塩づくりの過程を見学・体験できる施設の整備 (H24)
- ・製塩体験施設のオープン (H25.4 月)
- ・地域おこし協力隊の導入 (H25～)
- ・塩に関する掲示物の作成及び多言語対応 (H27)
- ・体験プログラムイベント「ゆず FeS」におけるプログラムの実施 (H30)
- ・町内ガイド組織による製塩体験施設のガイド・体験案内の実施 (R 元～)

◆新規就業者の育成・環境整備

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した製塩研修施設の整備 (H29)
- ・天日塩生産用レンタルハウスの建設 (R 元、R3)
- ・新規研修生 2 名の受け入れ (R2～)
- ・選ばれる商品づくりセミナー第 1 回チラシ作成の基本の「き」及び第 2 回写真撮影の基本の「き」への参加 (R4)

◆関連産業への波及

- ・「道の駅田野駅屋」で完全天日塩を使用した塩ラーメンを期間限定で販売 (R2)

<主な成果>

- ・新たに製塩研修施設が整備されたことにより、塩職人の育成体制が整った。
- ・生産用レンタルハウスが整備されるなど、製塩研修終了後の独立に向けた環境整備が進んでいる。
- ・R3.7 月に研修生 2 名が独立。田野屋青蜂、白鯛の屋号での就業と田野駅屋での塩の販売が開始された。
- ・田野屋青蜂の完全天日塩を高知空港ビルの直営店「ICHIBA」で令和 4 年 3 月から販売しており、徐々に認知度が上がっている。また、まるごと高知での販売に向け、調整を行っている。
- ・田野町内の事業者とコラボ商品を 1 商品開発した。また、田野町内の事業者 (3 者) とのコラボ商品の販売を行った (R4)。

<課題>

- ・製塩体験プログラムの磨き上げや PR の強化
- ・新規就業者の定着、独立に向けた環境整備
- ・新規就業者の確保
- ・塩関連商品の開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増	施設の運営体制の整備、塩づくり体験を取り入れた観光メニューの造成とさらなるPRによる誘客増				
	<ul style="list-style-type: none"> ●田野町： 施設運営のための人材の確保、新たな体験メニューの検討、SNS等による町内外へのPR ●県（地域本部等）： 新たな体験メニューのための各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆新規就業者の育成・環境整備	新規就業者の確保		新規就業者の確保		
	<ul style="list-style-type: none"> ●田野町： 移住フェアへの参加等を通じた人材の確保 ●県（地域本部等）： 情報提供、(一社)高知県移住促進・人材確保センターなどの関係機関への橋渡し 				
	新規就業者の独立に向けた環境整備の検討、関係者間の調整				
<ul style="list-style-type: none"> ●田野町、民間事業者： 田野町・民間事業者間での情報共有、地域の食品加工業・飲食店等での利用検討、施設整備の検討 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 					
◆関連産業への波及	加工品開発の支援、販路拡大の支援等				
	<ul style="list-style-type: none"> ●田野町、民間事業者： 民間事業者との情報共有、町内事業者等への情報提供 ●県（地域本部等）： 商品開発・販路拡大のための各種アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供、商談会等の紹介、関係機関への橋渡し 				
	新規就業者の確保				
<ul style="list-style-type: none"> ●田野町： 移住フェアへの参加等を通じた人材の確保 ●県（地域本部等）： 情報提供、(一社)高知県移住促進・人材確保センターなどの関係機関への橋渡し 					

AP 名 (実施地域)	No.16 道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み (田野町)
実施主体	◎道の駅指定管理者（たの未来プロジェクト㈱）、◎田野町、加工施設指定管理者（中芸食材工房）、生産者組織、地域団体
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	田野駅屋の集客力を最大限に活用し、地域の特産品の直販機能や観光情報の発信機能を強化するとともに、地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。 さらに、今後の田野駅屋のあり方について、施設整備等も含めた検討を行い、さらなる地域の活性化をめざす。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 年間店舗売上高 (1～12月)	2.7億円 (H30)	2.5億円	2.4億円		2.8億円
(2) 年間入込数 (1～12月)	278千人 (H30)	228千人	232千人		300千人

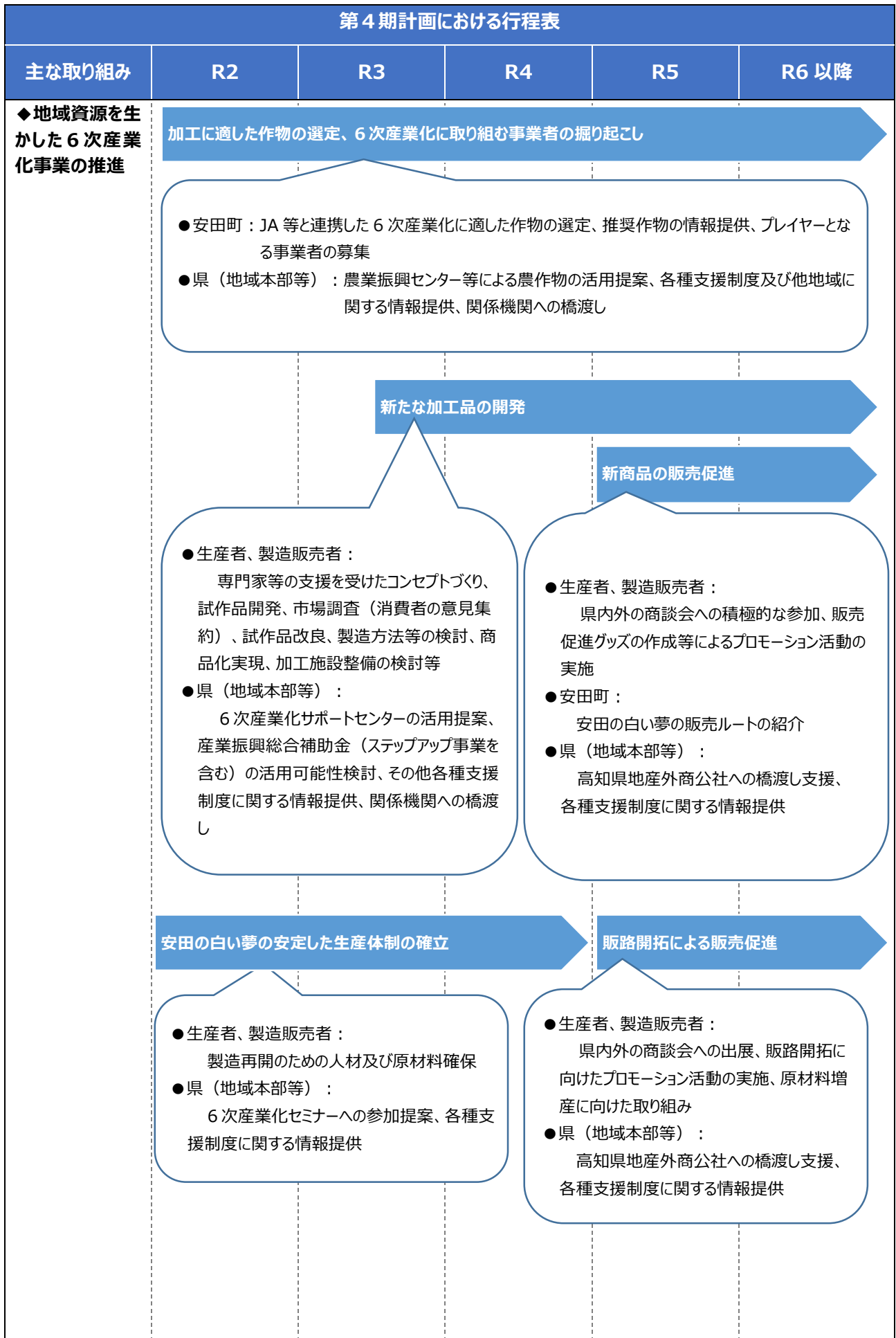
これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆機能強化のための施設等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの洋式化及びWiFi整備 (H28) ・観光拠点等整備事業費補助金を活用したレンタサイクル小屋の整備 (H30) <p>◆直販・飲食機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新メニューの開発 (H30) ・中芸高校生オリジナルレシピ「田野学館弁当」の販売開始 (H30～) ・町100%出資の「たの未来プロジェクト㈱」が道の駅指定管理者として運営開始(R元～) <p>◆情報発信機能の強化・交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの参加や独自イベントの開催 (H21～) ・田野駅屋拡張による情報発信コーナーの整備 (H23) ・GW期間中の臨時観光案内所の開設 (H23～) ・ごめんなはり線ウォーキングイベントの受入れ (H22～) ・田野町、道の駅指定管理者、地域本部で情報共有会議の実施 (H28～30) 	<p>◆加工品の開発・販売の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒粕スイーツの開発（「蔵乃風」、「蔵人の菓」等）・販売開始 (H22～) ・新たなスイーツの開発（塩シャーベット「塩姫」、生姜のお菓子「爪の垢」等）、販売開始 (H24～) ・田野お土産BOXの販売開始 (H30～) ・完全天日塩を使用した塩ラーメンを期間限定で販売 (R2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・20万人超の入込数と2億円超の売上高を安定的に維持し、消費拡大及び地域の活性化に貢献している。 ・地域の特産品販売や中芸以东の観光情報発信の拠点として地域の活性化に貢献している。 ・GW期間中、中芸地区商工会、中芸各町村、高知県東部観光協議会、地域本部が連携した臨時観光案内所を設置した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品の開発及び販売の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆機能強化のための施設等整備	<p>店舗や駐車場の拡張などの施設等整備の検討、計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●田野町、道の駅指定管理者： 田野駅屋の機能強化に向けた施設等整備の検討、基本計画の策定など具体的な準備 ●県（地域本部等）： 施設等整備に向けた各種アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆直販・飲食機能の強化	<p>課題の洗い出しと改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ●道の駅指定管理者、田野町： 売上高の分析、商品等の見直し、各種セミナーの活用、テナントスペースの活用 ●県（地域本部等）： 機能強化のための各種アドバイザーの活用提案、各種セミナー等の紹介、関係者への橋渡し 				
◆情報発信機能の強化・交流人口の拡大	<p>顧客のニーズ把握とインターネット・ガイドマップ等を活用した情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ●道の駅指定管理者、田野町： 情報発信における課題等の検証、専門家を活用した情報発信のスキルアップ ●県（地域本部等）： 情報発信のための各種アドバイザーの活用提案、各種セミナーの紹介 				
◆加工品の開発・販売の強化	<p>素材の掘り起こし、生産者と連携した加工品づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●道の駅指定管理者、田野町、加工施設指定管理者、生産者組織、地域団体： 新商品開発の検討・開発・販売、既存商品の磨き上げ ●県（地域本部等）： 商品づくりのための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.17 やすだ資源を生かした6次産業化事業の推進 (安田町)
実施主体	◎安田町、生産者、製造販売者
AP への 位置づけ	H24.4月
事業概要	安田町内の地域資源を生かした6次産業化事業に取り組み、新商品開発、販路開拓・拡大による地産外商を推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 地域資源を使った 新商品開発	0件 (H30)	0件	0件		3件 (R2~R5累計)
(2) 6次産業化参入事 業者	0件 (H30)	0件	0件		2件 (R2~R5累計)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域資源を行かした6次産業化事業の推進</p> <p><安田(あんだ)の白い夢></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造販売拠点「安田(あんだ)と夢ファクトリー『きらら』」の整備(H23) ・マンゴーを活用した大福「安田(あんだ)の白い夢」製造・販売開始(H24~) ・高知龍馬空港でのキャンペーン展開(H24) ・JAL 麗らか四国キャンペーンとのタイアップ(H25) ・県外百貨店での高知フェアへの出展(H25) ・まるごと高知での安田町フェア開催(H26) ・ニッポン全国物産展への出展(H25、H27) ・まるごとにつぼん(浅草)及び瀬長島ウミカジテラス(沖縄県)での商談(H28) ・スーパーマーケットトレードショー(千葉県幕張メッセ)での商談(H29) ・製造事業者撤退による販売休止(H30~) ・キャンプ場指定管理者紹介のパーティシエに、スイーツ開発に関して監修を依頼(R4) ・高知県事業継承・引継ぎ支援センターへ相談(R4) <p><6次産業化に向けた新たな地域資源の掘り起こし></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工に適した作物選定のためのJAへの声かけ(R元) 	<ul style="list-style-type: none"> ・安田町産ゆずを活用した加工品の試作(R元) ・町所有のマンゴーハウス1棟増築(R元) <p><主な成果></p> <p>◆認知度の向上</p> <p><安田(あんだ)の白い夢></p> <p>ニッポン全国物産展ご当地おやつランキング入賞 H25:5位入賞 H27:準グランプリ受賞</p> <p>◆商談を通じた販路の開拓</p> <p>H28以降新規開拓数:7件</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化に適した作物の選定、原材料確保など事業化に向けた仕組みづくり及び商品開発の実現 ・6次産業化の担い手となる人材の確保 ・「安田の白い夢」の早期の販売再開及び販路開拓



AP名 (実施地域)	No.18 地場産品直販所「かっぱ市」等による地域活性化 (芸西村)
実施主体	◎(有)かっぱ市、大和リゾート(株)、芸西村、生産者グループ
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	地場産品直販所「かっぱ市」やロイヤルホテル土佐において、安定供給の仕組みを作るとともに、新商品開発や販路開拓等の外商活動に取り組むことにより、地場産品の消費拡大を進め、地域経済の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
かっぱ市売上高	1.4億円 (H30)	1.4億円	1.5億円		1.5億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆魅力ある店舗づくりと顧客獲得の取り組み</p> <p><かっぱ市></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、リニューアルオープン (H23) 6次産業化サポートセンターによる戦略会議をスタート (R2~R3) 来店者の回遊を図るため、レイアウトを変更 (R2) 琴が浜でバーベキュー事業を開始 (R3) 直販所間の商品交流を検討 (R4~) <p><ロイヤルホテル土佐></p> <ul style="list-style-type: none"> 売店のリニューアルによる地域特産品の拡充 (R3) 地域イベント「竹灯りの宵」と連携した会場づくりと新メニューの提供 (R3~) 朝食会場の白玉糖生キャラメルを提供。(R4) <p>◆新商品の企画開発及び外商活動</p> <p><かっぱ市></p> <ul style="list-style-type: none"> POPの活用による商品群の販売促進 (R3) 直販所間の商品交流を検討 (R4~) <p><ロイヤルホテル土佐></p> <ul style="list-style-type: none"> 白玉糖を活用した食パンやカヌレ等の開発・販売 (リゾゲット含む) (R3~) 土佐くろしお鉄道とコラボした旅行商品の企画 (R3~) 	<p><主な成果></p> <p>◆新商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ロイヤルホテル土佐で白玉糖を活用した商品の開発 (R3.5:食パン、シフォンケーキ、フィナンシェ等) <p>◆魅力ある店舗づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ロイヤルホテル土佐の売店のリニューアル (R3.5) 地域イベント「竹灯りの宵」と連携による集客アップ (R3~) 地元食材を活用した朝食会場の運営 (R4~) <p>◆かっぱ市の売上</p> <p>R2:1.4億円(141,268千円) →R3:1.5億円(153,704千円) (R3はコロナ下であったが、R2年度と比較して、売上が、108.8%アップ。)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> かっぱ市の認知度の向上と新事業(バーベキュー事業等)のブラッシュアップ 地元と連携した地域産品の販売促進とイベントの企画

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆魅力ある店舗づくりと顧客獲得の取り組み	店舗の魅力向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)かつば市： 新規商品をはじめとする商品のフェアの開催、顧客から要望の多い商品の取り扱いを検討 ●大和リゾート(株)： 白玉糖を活用した商品の開発及び販売、顧客から要望の多い商品の取り扱いを検討 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度やセミナー等の情報提供 				
	集客に向けたプロモーション				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)かつば市： 地域資源を活用したイベントの企画・実施、新規事業の企画とブラッシュアップ 回遊性のある店舗づくりや地域の情報を発信するコーナーの拡充 ●ロイヤルホテル土佐： 地域資源を活用したイベントの企画・実施、地域の情報を発信するコーナーの拡充 県外からの誘客に向けたニーズの把握と旅行商品の企画 ●県（地域本部等）： 食品関係支援制度やセミナー等の情報提供 				
◆新商品の企画・開発及び外商活動	新商品の企画・開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)かつば市： 地域資源の掘り起こしと活用検討、直販所間の商品交流の拡大 ●大和リゾート(株)： ロイヤルホテル土佐における地域の特産品を活用したレシピ開発、加工品づくり ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー活用提案、商品開発に係るセミナーの紹介 				
	外商活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)かつば市：SNS等を活用した情報発信 ●大和リゾート(株)：ECサイトを活用した地域製品の販路拡大、商談による販路開拓、SNS等を活用した情報発信 ●芸西村：ふるさと納税での取扱い 商品のPR ●県（地域本部等）：商談会等の情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し支援 				

AP名 (実施地域)	No.19 安芸地域の観光振興の推進 (安芸地域全域)
実施主体	◎(一社)高知県東部観光協議会、安芸広域市町村圏事務組合、市町村、観光協会等、地域団体、民間事業者
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	広域観光組織の基盤を整備し、情報発信、体験プログラムの磨き上げ、教育旅行の受入等を行うとともに、歴史や食、自然の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進することで、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 観光入込客数 (1~12月) (人)	2,181,964 (R元)	1,763,792	1,783,594	1,882,480	2,225,601
(2) 圏内宿泊者数 (1~12月) (人)	154,542 (R元)	93,572	92,864	142,884	157,632
(3) 圏内観光消費額 (1~12月) (千円)	3,526,972 (R元)	2,611,794	2,583,856	(算定中)	3,667,199

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆ひがしこうち魅力創出の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験型観光実施事業者への助成 (H28~) 日本遺産の活用、土佐の観光創生塾との連携等による着地型商品造成・磨き上げ支援 (H29~) 四国運輸局事業の活用によるインバウンド向けコンテンツの造成・磨き上げ (R2) 観光地域づくり塾を活用したコンテンツ造成 (R3~) ひがしこうち「食」の開発事業の実施 (R3~) 新グルメ「香香柚子」のPR・磨き上げ (R4) ひがしこうち観光タクシープランの造成 (R4) <p>◆効果的な情報発信とセールスの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページやSNS等での圏域の情報発信 (H28~) テレビや雑誌、WEB等メディアを活用した広報 (H28~) 県内外のイベント等出展によるPR活動 (H28~) 旅行会社へのセールス活動の展開 (H28~) 広域観光ガイドブック「ひがしこうち」作成 (H30~) 高知東部食プロジェクトによる周遊企画実施 (R元~) 英語・繁体字版ホームページ作成 (R2) 教育旅行用セールスツール(動画・素材集)の作成 (R3) 土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線、四国の右下観光局(徳島)と連携した周遊企画実施 (R4) 宿泊者向けクーポンによる誘客促進事業「ひがしこうちでGO!GO!!おでかけクーポン券」の実施 (R4) <p>◆下支える基盤整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> (一社)高知県東部観光協議会設立 (H27) 民泊候補世帯への訪問活動、受入研修実施 (H28~) 	<ul style="list-style-type: none"> 組織機能強化研修実施(先進地視察等:H30~) 日本版DMO登録(R元) WEBシステムによるアンケート調査・分析(R元~) ひがしこうちDMO形成に向けた観光戦略ワーキンググループ会議の開催(R2) 高知県観光地域づくり推進員の配置(R2~R4) 観光庁補助事業による二次交通情報データ整備(R3) 観光庁実証事業による宿泊者データ収集分析システム及びCRMシステム構築(R3)運用(R4~) 広域観光振興計画(第2期)策定(R3) 市町村観光担当課長会議の開催(R4~) 観光動態分析ツール(おでかけウォッチャー)を活用したデータ収集・分析(R4~) 四国南東部広域観光推進協議会への参画(R4~) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ホームページアクセス数 H29:71,753→R3:264,854 ◆民泊登録世帯数 H28:119軒→R元:257軒 ◆教育旅行受入校数 H29:5校→R3:14校 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸地域ならではの周遊・滞在型の商品開発と磨き上げ ・情報発信力のさらなる強化 ・観光客の多様なニーズに対する受入環境・体制整備 ・東部観光協議会の組織体制強化と関係団体との連携強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ひがしこうち魅力創出の推進	着地型商品の造成・磨き上げ・販売 教育旅行の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会、観光協会等、地域団体、民間事業者等：土佐の観光創生塾の受講等を通じた着地型商品づくり(特に周遊・滞在型の商品)、教育旅行向け体験プログラムの造成・磨き上げ 		体験型観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会、市町村、観光協会等：助成金、県及び国事業等の活用による体験プログラムの造成・磨き上げ支援及びフォローアップ 		
	サイクリングによる東部観光の実践 <ul style="list-style-type: none"> ●市町村、地域団体、民間事業者：体験プログラムの検討・磨き上げ・受入 ●(一社)高知県東部観光協議会：体験プログラム実施者の支援 		滞在型観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：ターゲット・ニーズ・テーマに沿ったモデルルートの造成、宿泊施設・二次交通・観光施設等を組み合わせた周遊促進商品の造成 		
	地元食材を活かした食観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会、地域団体等：協議会の独自事業及び県事業等の活用によるご当地グルメ開発・磨き上げ支援 		地元食材を活かした食観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会、地域団体等：協議会の独自事業及び県事業等の活用によるご当地グルメ開発・磨き上げ支援 		
◆効果的な情報発信とセールスの強化	戦略的な広報・PR活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：旅行会社、マスコミ等への広報活動の展開、ホームページやパンフレット、SNS等による観光情報の発信強化 		WEB・SNS等を活用した情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：協議会公式ホームページ及びSNSに掲載する情報(量・質)の磨き上げ、SNS広告等を活用した情報発信 		
	着地型商品の造成・磨き上げ・販売 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会 商談会への出展・旅行会社へのセールス 		旅行会社へのセールス強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：教育旅行を中心とした商談会等出展・旅行会社への訪問セールス・提案の実施、セールス戦略の共有等 		
	インバウンド対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：国外におけるセールス、商談会への出展、ホームページ及びガイドブック等の多言語化 		ファムツアーによる情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：旅行会社、メディア等専門家に向けたファムツアーの実施、地域内関係者向けモニターツアーの実施等 		
	県内・着地側での情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：ガイドブック等の活用、県や広域で連携するイベントでの出展、物販PRイベントの実施等 		県内・着地側での情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：ガイドブック等の活用、県や広域で連携するイベントでの出展、物販PRイベントの実施等 		
◆下支えする基盤整備の推進	東部観光協議会の組織体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：マーケティング及びマネジメント機能の強化、観光地域づくりのノウハウの習得、県版地域おこし協力隊制度を活用した人材確保 		マーケティング機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：観光客の行動やニーズなどをリアルタイムにとらえる仕組みの構築、各調査結果の分析等を魅力づくり・情報発信に活用及び戦略・戦術への反映、地域へのフィードバック等 		
	東部観光関係団体間の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会、市町村、観光協会等：各組織間の連携強化及び役割分担の明確化 		リピーター化と域内消費の促進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：CRMアプリ(観光客等に地域の観光情報や買い物・体験ごとにポイントを提供するアプリ)導入・運用推進、アプリ会員の消費データ等顧客情報の蓄積及び同データを活用した取組実施 		
	広域観光振興計画の実施・更新 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：マーケティング調査結果を踏まえた現状分析、対応策の検討及び計画の見直し・更新 		受入環境・体制の整備強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：国・県事業等との連携による観光の担い手確保・育成等ソフト整備支援、地域内の情報を集約する体制整備 ●市町村：国・県事業を活用した観光施設等の改修及びインフラ整備等 		
			広域観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：広域観光振興計画のPDCAの状況を共有するワーキンググループの開催、インバウンドやサステナブル・ツーリズムの推進等に対して官民・各産業及び各地域等との連携強化 ●(一社)高知県東部観光協議会、市町村：徳島県などと連携した新たな周遊拡大に向けた取組 		

AP名 (実施地域)	No.20 日本遺産を活用した中芸地域の活性化 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)
実施主体	◎中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域の交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
中芸地域主要施設訪問者数	537,560人 (H30)	437,812人	478,128人		550,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会の設立 (H28) ・日本遺産認定 (H29) ・日本遺産魅力発信推進事業の実施 (H29～) ・日本遺産認定記念シンポジウムの開催 (H29) ・日本遺産のストーリーにちなんだ体験プログラムイベント「ゆず FeS」の開催 (H29～9回) ・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会事務局発足 (H30) ・BS-TBS2018「日本遺産」シーズン3での全国放送 (H30) ・日本遺産シンポジウム「中芸みんなの日本遺産 2019」開催 (H30) ・ゆずりんてつイルミ 銀河鉄道の夜開催 (R元) ・ゆず林鉄 EXPO 開催 (R2～) ・日本遺産協議会への産振アドバイザーの導入 (R2) ・「第27回全国ハーブサミット in 中芸」開催 (R3) ・日本遺産関連ツアーの造成 (R3～) ・ガイド養成講座の実施 (R3～: 全5回講座) ・再認定に向けた協議会体制の見直し (R3～) ・住民向け無料ガイドの開催 (R4: 全5回) ・アドベンチャーツアーのモニターツアー実施 (R4) ・日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会発足 (R4) 	<p>◆森林鉄道施設の保存及び活用策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定協議会の設置 (H25) ・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定 (H27) ・重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用委員会の開催 (H30～: 5回) ・案内看板の設置 (R元: 5カ所) <p><主な成果></p> <p>◆ゆず FeS 参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 17プログラム 161人 第2回 22プログラム 268人 第3回 22プログラム 156人 第4回 11プログラム 96人 第5回 18プログラム 104人 第6回 9プログラム 63人 第7回 18プログラム 337人 第8回 15プログラム 49人 第9回 18プログラム 187人 <p>◆ゆず林鉄 EXPO 参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> R2: 625人 R3: 1,628人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自走に向けた方向性の決定及び仕組みの構築 ・拠点施設整備及びガイド育成による受入れ体制の充実 ・既存事業の磨き上げによるさらなる認知度向上 ・再認定及び認定後のさらなる事業推進に向けた体制の構築

第4期計画における行程表						
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降	
◆日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大	戦略の策定及び再認定に向けた体制の構築・強化			DMO もしくは地域商社設立に向けた取組の実施		
	<ul style="list-style-type: none"> ●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 戦略会議等による自走に向けた方向性（戦略）の検討・策定、協議会体制の見直し（日本遺産推進室の設置）、DMO もしくは地域商社立ち上げに向けた検討 ●県（地域本部等）： 戦略策定等に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他の日本遺産の取り組みに関する情報提供 			<ul style="list-style-type: none"> ●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： DMO もしくは地域商社設立準備、関係機関との調整 ●県（地域本部等）： 戦略策定等に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他の日本遺産の取り組みに関する情報提供 		
	既存事業の磨き上げ、戦略に基づく事業の実施					
	<ul style="list-style-type: none"> ●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 既存事業の磨き上げ、戦略に基づく事業の実施、SNS 等による情報発信、セミナー等の受講による受入体制の充実、観光創生塾等の受講及び(一社)高知県東部観光協議会と連携した旅行ツアー商品等の開発、旅行会社への売り込み、関係町村との連携によるゆずフェス、ゆず林鉄 EXPO など各種イベントの継続実施 ●奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会： 町村独自のイベントの開催、森林鉄道施設の活用など、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会と連携した事業の実施 ●県（地域本部等）： 事業実施に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他地域に関する情報提供、(一社)高知県東部観光協議会などの関係機関への橋渡し 					
	拠点施設整備の検討、整備計画の策定、整備					
	<ul style="list-style-type: none"> ●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 戦略会議等を通じた拠点施設の整備の検討・決定、整備計画の策定、部会 WG での施設整備内容の検討実施、施設整備、観光客の受け入れ、SNS 等を活用した情報発信、定期的なイベントや企画展の開催 ●県（地域本部等）： 各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、情報発信の方法やイベント開催などに関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、関係機関への橋渡し 					
◆森林鉄道施設の保存策の検討	保存策の検討及び遺構の修復					
	<ul style="list-style-type: none"> ●奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会： 重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用推進委員会における保存策の検討、案内看板の設置による PR、文化庁補助金等を活用した遺構の修復 ●県（地域本部等）： 委員会への参画によるアドバイス、各種支援制度及び他地域に関する情報提供、関係機関への橋渡し 					
<p>【用語】・日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通して日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。ストーリーを語るうえで欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。</p>						

AP名 (実施地域)	No.21 室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興 (室戸市)
実施主体	◎室戸市、◎(一社)室戸市観光協会、室戸ジオパーク推進協議会、(株)日本ドルフィンセンター、(一社)うみ路、NPO 法人日本ウミガメ協議会、土佐備長炭窯元炭玄、民間事業者
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	世界ジオパークに認定された室戸ジオパークやむろと廃校水族館、海の駅とろむなどの観光資源の魅力度を高めるとともに、各施設の連携強化により周遊・滞在型観光への転換を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1)室戸市主要施設訪問者数 (1~12月)	805千人 (H30)	506千人	466千人		850千人
(2)室戸世界ジオパークセンター 来館者数	87,318人 (H30)	41,692人	55,065人		90,000人
(3)室戸ドルフィンセンター 来場者数	27,693人 (H30)	15,652人	13,024人		30,000人
(4)むろと廃校水族館来館者数※	168,333人 (H30)	68,776人	72,414人		121,200人
(5)MUROTObase55 (旧ライダーズ ズイン室戸) 利用者数	-	1,785人	3,413人		6,000人

※出発点に入館者減少率（他の水族館の入館者数推移から算出）を乗じて算定

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆周遊型・滞在型観光の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市クラスター協議会による周遊コース等作成(H28~) ・ぐるっとむろとスタンプラリー実施 (H29~) ・県観光アドバイザーによる観光勉強会開催 (R2.10、R3.8) ・ARを活用したスタンプラリー事業実施 (R4.9~R5.1) <p>◆誘客促進</p> <p><室戸世界ジオパーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ジオパークネットワーク (JGN) 認定 (H20.12) ・世界ジオパークネットワーク (GGN) 認定 (H23.9) ・室戸世界ジオパークセンターオープン (H27.4) ・接遇等各種ガイド研修の実施 (H28~) ・JGN 再認定 (H30.9) ・GGN 再認定 (R2.1) <p><海の駅とろむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の駅とろむ飲食体験施設、再開 (R4.8~) <p>(室戸ドルフィンセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備の充実 (看板、浮桟橋、倉庫等) (H21~23) 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上施設の整備 (H24) 及び補助プールの整備 (H25) ・キッチンテレーラー導入 (R3.12) <p><むろと廃校水族館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・むろと廃校水族館オープン (H30.4) ・観光拠点等整備事業費補助金活用による屋外プールへの日除設置 (R2.6) <p><MUROTObase55 (旧ライダーズズイン室戸) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・MUROTObase55 オープン (R2.2) ・屋外風呂、テントサウナの導入 (R4.3) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆むろと廃校水族館来館者数が累計50万人を突破 (R4.8) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設間の連携による周遊型、滞在型観光への転換 ・体験メニューの開発・磨き上げ ・教育旅行の受入拡大 ・各施設の来館者数等の増 ・ジオパークガイドの人材確保及びツアーの磨き上げ
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆周遊型・滞在型観光の強化	<p>旅行プランの造成、情報発信、営業の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●室戸市、(一社)室戸市観光協会：周遊型・滞在型観光に向けた関係者間での協議の場の設置、周遊・滞在につながる旅行プランの造成のためのモニター実施などによる市場調査、旅行プランの造成、情報発信、旅行業者への売り込み、MUROTObase55を起点とした周遊・滞在を担当する地域おこし協力隊の雇用 ●県（地域本部等）：関係者間協議への参画及び提案、周遊につながる旅行プラン造成のための産業振興アドバイザー等の活用提案、商談会等への出展について(一社)高知県東部観光協議会や高知県観光コンベンション協会との調整、各種情報提供 				
◆誘客促進 室戸世界ジオパーク	<p>企画展・イベントの開催、既存ツアーの磨き上げ、新ツアーの造成、教育旅行受入、ガイド養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●室戸市、室戸ジオパーク推進協議会：企画展・イベントの開催、観光創生塾等のセミナー受講、ツアーガイド養成講座等の開催、各種ツアーなど地域情報の発信 ●県（地域本部等）：情報発信、観光創生塾等のセミナー受講の提案、各種支援策の情報提供、施設間の連携に向けた提案 				
海の駅とろむ	<p>体験プログラムの造成、既存プログラムの磨き上げ、PRの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)日本ドルフィンセンター、土佐備長炭窯元炭玄（指定管理者）：新規プログラムの開発、体験プログラムの磨き上げ、教育旅行の受入、誘客促進に向けた施設間の連携 ●県（地域本部等）：観光創生塾の受講の提案、県外誘客に向けた東部観光協議会や高知県観光コンベンション協会との調整、施設間の連携に向けた提案、各種情報提供、SNSでの発信、マスコミを通じたPR、商談会への参加 				
むろと廃校水族館	<p>体験プログラムの磨き上げ、開発、PR強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●むろと廃校水族館：体験プログラムの磨き上げ・開発、各シーズンのイベントの開催、SNS等での情報発信、誘客促進に向けた施設間の連携 ●県（地域本部等）：情報発信支援、各種支援策の情報提供、施設間の連携に向けた提案 				
MUROTObase55(旧ライダーズイン室戸)	<p>運営・広報・営業力の強化、周辺施設と連携した誘客の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐備長炭窯元炭玄（指定管理者）、室戸市：HP、SNS等の各種媒体を活用した高知県内外へのPR、誘客促進に向けた施設間の連携 ●県（地域本部等）：情報発信支援、施設間の連携に向けた提案 				
<p>【用語】・日本ジオパークネットワーク（JGN）：日本国内のジオパークとジオパークをめざす地域をサポートする、ジオパークのネットワークの軸となる特定非営利活動法人（NPO法人）</p> <p>・世界ジオパークネットワーク（GGN）：地質的遺産や地域の文化、環境の向上をめざし、2004年ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の支援を受けて誕生したネットワーク</p>					

AP 名 (実施地域)	No.22 岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進 (安芸市)
実施主体	◎安芸市、◎(一社)安芸市観光協会、安芸漁協、伊尾木あなごう保存会、内原野陶芸館、JA 高知県 (安芸地区)、安芸市観光ボランティアガイドの会、廓中ふるさと館、メリーガーデン、はたやま夢楽、安芸「釜あげちりめん丼」楽会、道の駅大山、安芸商工会議所、「はばたけ彌太郎」安芸市推進委員会
AP への位置づけ	H21.4 月
事業概要	既存の観光資源の磨き上げや自然・歴史文化等の地域資源を活用した新たな体験プログラムの造成、地域食材を活用したメニューや商品の開発等により地域ブランド力及び観光客の満足度の向上を図り、交流人口の拡大及び観光関連産業の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1)市内年間観光客数	278,442 人 (H30)	129,012 人	128,510 人		300,000 人
(2)市内年間宿泊者数	25,726 人 (H30)	20,481 人	21,349 人		26,500 人
(3)ちりめん丼販売食数	46,872 食 (H30)	26,522 食	22,785 食		50,000 食

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆岩崎弥太郎を生かした安芸市観光の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸市観光ガイドブック「安芸たび」作成 (H29) ・岩崎家ゆかりの地である安芸市と県外 3 市区町との間で広域文化観光協議会を設立 (H30) ・安芸観光情報センターをリニューアルし、VR 映像シアターを整備 (R 元) ・三菱創業 150 周年を記念し、岩崎弥太郎の生涯を紹介したマンガを制作 (R2) ・安芸駅ちばさん市場で「岩崎家ゆかりの地フェア」を開催 (R2～) ・岩崎弥太郎源流の地フォーラムの開催 (R3) <p>◆地域食材等を活用した誘客の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会実行委員会によるイベントへの出店等 PR 活動 (H22～) ・なすスタンプラリー開催 (R2、R4) <p>◆観光資源の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内原野陶芸館に小型電気窯を設置 (H30) ・伊尾木洞観光案内所等の整備 (H30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の頑張る人づくり事業を活用し安芸商工会議所が企業向け森林研修事業の研修会を実施 (R 元) ・伊尾木あなごう保存会による伊尾木洞観光案内所周辺での地場産品等販売の試行 (R3、R4) ・産業振興アドバイザーの活用による安芸駅ちばさん市場の課題洗い出しと対策案の検討 (R3) ・伊尾木洞駐車場拡大整備 (R4) ・道の駅大山改修工事 (R4) ・道の駅大山周辺観光振興計画策定 (R4) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊尾木洞への観光案内所やトイレの整備等により、利便性が向上した。 ・内原野陶芸館への小型電気窯設置により少数からの窯入れ及び完成までの時間短縮が可能となった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内での滞在時間の延長及び観光消費額の拡大、観光客の満足度向上 ・NHK 連続テレビ小説「らんまん」に向けた受入体制強化
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆岩崎弥太郎を生かした安芸市観光の活性化	三菱創業 150 周年 記念事業の実施				
	観光情報センターを拠点とした市内周遊の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会： 三菱創業 150 周年を記念した各種イベント等の実施 観光情報センターリニューアルによる市内外からの誘客 PR ●県（地域本部等）： イベント企画の実施等への支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会： 観光情報センターの安定した利用者確保に向けた PR、滞在時間延長に向けた市内周遊プランの磨き上げ ●県（地域本部等）： アドバイザーの活用提案、協議への参画によるアドバイス、情報提供 		
	岩崎家ゆかりの地としてのブランド価値の向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会、「はばたけ彌太郎」安芸市推進委員会： 岩崎家ゆかりの地広域文化観光協議会等の活動による地域の文化財や観光資源等の PR、岩崎弥太郎生家周辺ほか岩崎家ゆかりの地を巡るガイドメニュー、ツアー化に向けたコース設定等の検討 				
◆地域食材等を活用した誘客の推進	地域食材等を活用した誘客の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会、JA 高知県（安芸地区）、安芸「釜あげちりめん丼」楽会（ほか）： ナス、ユズ、シラス、土佐ジロー、マンゴーなどの地域食材を活用したメニューや商品の開発・磨き上げ、イベントによる誘客や飲食店等でのメニュー提供、道の駅や地場産品直販所等での商品の販売促進・PR 活動 ●県（地域本部等）： アドバイザーの活用提案、6 次産業化セミナーの受講案内 				
◆観光資源の魅力向上	体験プログラムの磨き上げと新たな造成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会、安芸市観光ボランティアガイドの会、伊尾木あなごう保存会（ほか）： 既存の体験プログラムの磨き上げ、新たな体験プログラムの造成、ボランティアガイドを新たに養成 ●県（地域本部等）： 土佐の観光創生塾等の受講の働きかけ、新たな体験メニューや商品づくりのためのアドバイザーの活用提案、他地域の参考事例等の情報提供 				
	集客に繋げるための各種取り組みの検討・実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会（ほか）： 観光客を呼び込むための仕組みづくりや定期的な魅力発信（イベントの企画・開催）、満足度向上に向けた施設整備等、サイクルツーリズムへの対応 ●県（地域本部等）： アドバイザーの活用提案、補助金等の活用の支援 				

AP名 (実施地域)	No.23 東洋町における体験型・滞在型観光の推進 (室戸市、東洋町)
実施主体	◎(一社)東洋町観光振興協会、◎東洋町、地元マリンスポーツ等関係事業者、宿泊事業者、阿佐海岸鉄道(株)、東洋町商工会、NPO 法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト、(一社)高知県東部観光協議会、室戸市
APへの位置づけ	H25.4月
事業概要	サーフィンやダイビングを中心としたマリンスポーツや DMV (デュアル・モード・ビークル)、野根川といった地域資源を生かした体験型観光メニューの充実、周遊プランの造成など、観光客の受け入れ体制の強化に取り組むことにより、滞在時間の延長及び誘客促進を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
体験者数	465人 (H30)	2,969人	2,591人		5,000人
東洋町主要施設訪問者数(1~12月)	231,780人 (H30)	206,830人	238,763人		250,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆(一社)東洋町観光振興協会の体制強化

- ・観光振興協会事務所兼観光案内所開所 (H31)
- ・(一社)東洋町観光振興協会の設立 (R元)
- ・事務局長の設置 (R4)

◆受け入れ体制の強化

- ・14 体験プログラムの開発 (H27~H28)
- ・農家漁家民泊の推進 (H28~)
- ・サーフィン大会の誘致(継続)
- ・ビーチホッピング事業 (R元~)
- ・清流の里野根川オートキャンプ場オープン (R4)

◆DMV を活用した観光振興

- ・阿佐海岸鉄道(株)や高知県及び徳島県の観光・商工団体等からなる「あさチェン推進会議」発足 (R元)
- ・産振アドバイザーを活用し、DMV を活用した観光コンテンツ開発、プロモーションの実施計画を策定 (R元)
- ・PiPPA 整備
- ・運行開始 (R3.12.25)
- ・東洋町海陽町をフィールドとした阿佐海岸鉄道主催ウォーキングイベントについて、関係機関で検討 (R4)

- ・DMV 1周年記念イベントの開催 (R4)

◆野根川を活用した観光振興

- ・地方創生推進交付金を活用した、野根川の自然をテーマとした地域活性化施策を実施 (H28~)
- ・南四国アイランド活性化協議会の設立 (R2)
- ・フランスバスク地方との交流開始 (R2)
- ・清流の里野根川オートキャンプ場オープン (R4)

<主な成果>

◆ビーチホッピング体験者数

R元：2,945人 → R2：2,878人 → R3：2,104人 → R4：4,835人

◆農林漁家民泊の受入世帯数・人数

H28：10軒34人 → H30：37軒、150人 → R元：39軒、152人 ※R2以降は新型コロナの影響により未実施

◆主な4サーフィン大会での参加選手数

H28：456人 → R元：1,533人

<課題>

- ・体験プログラムの造成や売り込みの強化
- ・観光客の誘客・周遊促進
- ・関係団体、近隣自治体との連携

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆(一社)東洋町観光振興協会の体制強化	事務局体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)東洋町観光振興協会： セミナー等でのノウハウの取得、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、人材育成 ●東洋町： 地域おこし協力隊の派遣等人的な支援、関係人口の活用支援 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー等や観光創生塾の活用提案、各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆受け入れ体制の強化	体験プログラムの磨き上げ・造成、周遊の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ●地元マリンスポーツ等関係事業者、NPO 法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト： 体験プログラムの磨き上げ・造成 ●(一社)東洋町観光振興協会、(一社)高知県東部観光協議会： ビーチホッピングの運営強化、体験プログラムの磨き上げや造成の支援・広報、周遊プランの検討・造成・販売支援、観光情報の提供 ●東洋町： 教育旅行の推進、マスコミ・SNSを通じたPR ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー等や観光創生塾の活用提案、各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆DMVを活用した観光振興	周辺地域等との連携、観光コンテンツの充実、プロモーション <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)東洋町観光振興協会、東洋町、東洋町商会、NPO 法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト、(一社)高知県東部観光協議会、阿佐海岸鉄道(株)、室戸市： あさチエン推進会議への参画による一体的な取り組みの推進、観光マップの整備や2次交通の整備検討など観光客の満足度向上に向けた取り組みの推進、SNSやマスコミを通じた情報発信、旅行会社への売り込み ●東洋町： 甲浦駅の魅力向上、SNS等を活用したPR ●県（地域本部等）： イベント等の企画・実施に積極的に関わり、状況に応じた支援や各種支援制度に関する情報提供 				
◆野根川を活用した観光振興	プロモーションの推進、受け入れ環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ●NPO 法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト： 体験プログラムの磨き上げ・造成 ●東洋町： ブランディング動画の公開、フランスバスク地方との交流推進、地域製品の開発促進、野根川オートキャンプ場の整備・広報、徳島県海陽町（野根川上流部）との連携 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー等や観光創生塾の活用提案、各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.24 奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大 (奈半利町)
実施主体	◎(一社)なはりの郷、◎奈半利町、藤村製糸(株)
APへの位置づけ	H26.4月
事業概要	藤村製糸記念館、海浜センター、米ヶ岡生活体験学校などの観光施設の誘客強化により、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 記念館来館者数 (1~12月)	1,000人 (H30)	626人	411人		1,500人
(2) 海浜センター利用客数	562人 (H30)	361人	376人		2,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆藤村製糸記念館の活用拡大

- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用した藤村製糸記念館の整備 (H26)
- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用した観光案内板、観光ガイドブック、町歩きマップ、展示用パネル等の整備 (H28)
- ・なはり古民家・廃校 ART&LIVE 2022を開催 (R4)

◆海浜センターの機能強化、体験型観光の推進

- ・集落活動センター推進事業費補助金を活用した体験に係る備品等 (SUP ボード、水中スクーター他) の整備 (H30)
- ・高知県地域観光振興交付金を活用した奈半利町観光基本構想の策定(R元)
- ・高知県地域観光振興交付金を活用した奈半利町観光基本計画・基本設計の策定(R2)
- ・高知県地域観光振興交付金を活用した海浜センターの改修及びキャンプサイトの整備等 (R3)
- ・キャンプサイトの運営開始 (R4)

◆米ヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進

- ・なはり里山フェス in 米ヶ岡の開催 (H30~)

<主な成果>

- ・なはり古民家・廃校 ART&LIVE 2022を10月29日~11月13日まで開催した。約2週間のイベント期間中、藤村製糸記念館への来館者数は約500名を記録し、ほかのアートイベント会場も盛況だった。
- ・奈半利町海浜センターについて、テレビ局からの取材や、新聞広報により、前年度を大きく上回る実績を上げている。
- ・R4年度から開始したキャンプサイトでは、利用者から高評価のレビューが寄せられるなど、利用者の満足度が高い。
- ・なはり里山フェス in 米ヶ岡では、町内外からの参加者を集めた (H30:143人、H31:128人、R2:20人、R3:55人)

<課題>

- ・藤村製糸記念館の活用拡大
- ・海浜センターの誘客活動の強化、体験型観光の推進
- ・米ヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進
- ・体験プログラムの造成・磨き上げ

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆藤村製絲記念館の活用拡大	町並みガイド等での活用拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●藤村製糸(株)、奈半利町、(一社)なはりの郷： 町内のガイド組織との連携強化、観光情報発信における連携、記念館の活用拡大に向けた方法の検討 ●県（地域本部等）： 情報発信等に向けた産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆海浜センターの機能強化、体験型観光の推進	施設整備及び周辺整備の検討・実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●奈半利町： 奈半利町観光基本構想及び基本計画の策定（R1,2）、基本計画に基づいた施設改修及びキャンプサイトの整備・キャンプ関連備品等の購入（R3） ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、補助申請等手続に関する支援 				
	体験プログラムの造成・磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)なはりの郷、奈半利町： 観光創生塾の受講などによる体験プログラムの造成・磨き上げ、(一社)東部観光協議会と連携した営業の強化 ●県（地域本部等）： 誘客に向けた産振アドバイザー等や観光創生塾の活用提案、各種観光関連のセミナー及び支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆米ヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進	体験・交流イベントの強化、情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ●奈半利町： 施設整備の検討、体験・交流イベントの内容の検討及び見直し、SNS等を活用した積極的な情報発信 ●県（地域本部等）： 誘客に向けた産振アドバイザー等や観光創生塾の活用提案、各種観光関連のセミナー及び支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.25 安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化 (安田町)
実施主体	◎安田町
APへの 位置づけ	H31.4月
事業概要	安田町の自然・体験型観光の拠点施設としてキャンプ場を再整備し、安田川をはじめとする地域資源を活用したアクティビティの強化や季節毎に特色あるイベントの開催、情報発信や施設の管理運営手法の見直しなどを行い、利用客数の大幅な増加を目指すほか、キャンプ場利用者への周辺施設への誘客や地域食材の利活用を推進し、交流人口の拡大と地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
キャンプ場利用者数	2,527人 (H30)	53人	7,111人		8,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆キャンプ場の再整備による磨き上げ

- ・産業振興アドバイザー制度を活用した現状と課題の洗い出し (H30: 1回)
- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用した基本計画の策定 (H30)
- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用した実施設計の作成 (R元)
- ・地域観光振興交付金等を活用した改修工事の実施 (R2)
- ・安田川アユおどる清流キャンプ場設置及び管理に関する条例の制定 (R2)
- ・安田川アユおどる清流キャンプ場リニューアルオープン (R3)

◆利用客数アップに向けた仕組みづくり

- ・土佐の観光創生塾の受講を通じたJAや安田川漁協との連携による体験メニューの検討 (R元)
- ・日本遺産関連イベント「ゆず FeS」の体験プログラムとしてキャンプ場で体験メニューを実施
清流安田川のサカナ観察と川エビ漁体験 (R元)
親子ピザ焼き体験 (R元)
田中ケンのオージービーフBBQ講座 (R3)
- ・専用HPの立ち上げ・パンフレット刷新 (R3)

- ・味工房じねんとの連携に向けた協議 (R3)
- ・スカイアンドシー・ムロトとの商談 (R4)
- ・コールマンパートナーフィールドイベント(R3~)
- ・Xmasイベントの開催 (R3~)

<主な成果>

◆キャンプ場の再整備による磨き上げ

- ・「安田川アユおどる清流キャンプ場等再整備基本計画」の策定 (H30)
- ・「安田川アユおどる清流キャンプ場整備工事設計」の作成 (R元)
- ・安田川アユおどる清流キャンプ場リニューアルオープン (R3)
- ・コールマンパートナーフィールドイベント実施(R3~)
- ・Xmasイベントの開催 (R3~)

◆「ゆず FeS」を通じた体験メニューの利用者数

- 清流安田川のサカナ観察と川エビ漁体験：18名
- 親子ピザ焼き体験：7名
- 田中ケンのオージービーフBBQ講座：10組22名

<課題>

- ・イベント開催や体験メニューの造成等による集客力アップ
- ・周辺観光施設等との連携による相互誘客の仕組みづくり
- ・周辺施設との連携による地域食材の提供

第4期計画における行程表						
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降	
◆キャンプ場の再整備による磨き上げ	<p>キャンプ場再整備</p> <p>●安田町：国及び県の支援制度を活用した施設の再整備</p> <p>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>	<p>キャンプ場リニューアルオープン</p>				
	<p>顧客サービスの向上</p> <p>●安田町：アウトドア専門家や事業者等と連携した顧客ニーズに沿った管理・運営手法の導入、新規サービスの提供、スタッフの人材育成</p> <p>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>					
◆利用客数アップに向けた仕組みづくり	<p>実施内容の検討</p> <p>●安田町： イベント内容の検討、体験メニュー等の内容検討、情報発信方法等の検討</p> <p>●県（地域本部等）： 各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>	<p>集客に向けた取り組みの実践及び満足度向上に向けた改善策の実施</p> <p>●安田町：季節毎に特色あるイベントの企画・実施、キャンプ場を拠点とした体験メニューの充実及び定番化、SNSを活用した情報発信及びHP作成、メルマガ配信によるファンの獲得、イベント及び体験メニューの継続実施に向けた仕組みづくり、参加者からの評価を基にした改善策の検討・実施</p> <p>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>				
	<p>連携手法の検討・準備</p> <p>●安田町： 周辺の施設との連携内容の検討及び調整、地域食材の提供の検討・準備</p> <p>●県（地域本部等）： 各種支援制度及び他地域事例に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>			<p>周辺施設との連携による相乗効果の発揮</p> <p>●安田町： 周辺施設との連携開始による新たなサービスの提供、誘客に向けた共同PRの実施、地域食材の提供開始によるサービス向上、連携の継続・発展に向けた仕組みづくり</p> <p>●県（地域本部等）： 各種支援制度（補助金等含む）及び他地域の事例に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>		

AP 名 (実施地域)	No.26 北川村観光 3 施設の誘客強化による交流人口の拡大 (北川村)
実施主体	◎(株)きたがわジャルダン、◎北川村、北川村観光協会、北川村中部地区集落活動協議会、NPO 法人中岡慎太郎先生顕彰会
AP への 位置づけ	H21.4 月
事業概要	北川村「モネの庭」マルモットン、北川村温泉及び中岡慎太郎関連施設の北川村観光 3 施設に関する情報発信の強化、施設間の連携、北川村温泉周辺の住民組織と連携した体験プログラムの造成などに取り組むことにより、集客力を高め、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R 2	R 3	R 4	R 5
各施設入園（館）者合 計数（4～3 月）	94,350 人 (H30)	70,594 人	83,868 人		108,000 人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆村外に向けた観光情報等の発信強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村観光協会のホームページの作成等（H28） ・きたがわむらマップの更新（R4） <p>◆3 施設及び関係機関との連携強化と各施設の磨き上げ</p> <p>【連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1DAY パスポートきたがわさんぼの販売（H27） ・北川村観光施設周遊スタンプラリーきたがわ ALUKU の実施（H28～R 元） ・きたがわ村 慎太郎 パスポート周遊ラリーの実施（R2～） <p>【磨き上げ】</p> <p>○北川村「モネの庭」マルモットン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧ワイナリーを多目的ホールへ改修（H22） ・小庭園の整備（H22,H23） ・経営コンサルタントのアドバイスを受けたコスト削減への取り組み（H23～） ・庭園「花の庭」の整備（H26） ・接客マニュアルの作成（H27） ・カフェモネの家（レストラン棟）改修（H28） ・ポルティゲラの庭オープン（R2） ・テラス（レストラン棟横）改修（R3） ・商品撮影セミナーへの参加（R4） 	<p>○中岡慎太郎館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示ケース内の環境を一定に保つエアタイトケースの整備や館内外の設備の改修等（H28） ・英語版展示解説整備や英語版パンフレットの作成、ホームページの改修等（H29） ・感染症対策のためのトイレ改修（R2） ・中岡慎太郎先生顕彰会へ指定管理移行（R4） <p>◆集客に向けた取り組みの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村小島周辺整備クラスター協議会発足（R 元） ・観光創生塾受講による観光商品の造成（R2） <p><主な成果></p> <p>◆各施設入園（館）者合計数 H26：80,983 人 → R 元：98,585 人 →R2：70,594 人 → R3：83,868 人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の発信強化 ・3 施設間を結ぶ交通アクセス ・従業員や担い手の確保 ・(株)きたがわジャルダン、北川村観光協会、NPO 法人中岡慎太郎先生顕彰会、北川村中部地区集落活動協議会等関係機関との連携強化 ・集客増に向けた体験プログラムの構築

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆ 村外に向けた観光情報等の発信強化</p>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">SNS やマスコミ等を活用した情報発信</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)きたがわジャルダン、北川村、北川村観光協会、NPO 法人中岡慎太郎先生顕彰会： SNS やマスコミ等を通じた情報発信（モネの庭のイベントや企画展、北川村温泉の日帰り入浴、中岡慎太郎館の企画展、北川村観光協会の村外イベント出店など）、研修会等を通じた情報発信のスキルアップ ● 県（地域本部等）：各種支援制度や研修会等に関する情報提供、研修会の開催、関係機関への橋渡し 				
<p>◆ 3 施設及び関係機関との連携強化と各施設の磨き上げ</p>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">3 施設間や周辺地域への周遊の仕組みづくり</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)きたがわジャルダン、北川村、NPO 法人中岡慎太郎先生顕彰会： イベントや企画展の連携（モネの庭、中岡慎太郎館）、レンタサイクルの貸出し（北川村温泉）、SNS やマスコミを通じた PR 活動 ● 北川村観光協会：周遊マップやパンフレットの作成、慎太郎パスポート周遊ラリーの実施 ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーや観光アドバイザーの活用提案、各種支援制度や研修会等に関する情報提供、研修会の開催、関係機関への橋渡し 				
<p>◆ 集客に向けた取り組みの強化</p>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">体験プログラムの造成及び磨き上げ</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)きたがわジャルダン、北川村中部地区集落活動協議会： 体験プログラムの造成及び磨き上げ（モネの庭における新たな体験プログラムの検討、北川村温泉周辺における田舎生活体験など） ● 北川村観光協会：体験プログラム実施に向けた支援、観光創生塾等への参加 ● 北川村：北川村小島周辺整備クラスター協議会の開催（関係機関間における情報交換等） ● 県（地域本部等）： 体験プログラムの実施支援、産業振興アドバイザーや観光アドバイザーの活用提案、各種支援制度や研修会等に関する情報提供、研修会の開催、関係機関への橋渡し 				

分野	その他
----	-----

AP 名 (実施地域)	No.27 椎名集落活動センターたのしいなを拠点とした室戸市椎名地区の活性化 (室戸市)
実施主体	◎室戸市、◎椎名集落活動センターたのしいな運営委員会、地域住民団体（椎名常会）、椎名大敷組合、民間事業者
AP への位置づけ	H27.4 月
事業概要	地域住民が主体となり、集落活動センターの運営を行い、地域・観光資源を生かして、交流人口の拡大を図るなど、地域振興の推進を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 集落活動センター利用者数	6,715 人 (H30)	1,656 人	1,389 人		7,500 人
(2) 交流イベント開催数	96 回 (H30)	161 回	179 回		200 回

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組み内容></p> <p>◆集落活動センターの取り組みの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター開所式の開催 (H30.4 月) ・各種行事・活動の開催 (H30～) ・ちいさな海のカフェの開催 (H30.4～月 1 回程度) ・百歳体操「やまもも」の開催 (H30.5～月 2 回程度) ・お魚祭り開催 (H30～3 回実施) ・ピザづくり講習会開催 (H30～月 1 回程度) ・たのしいな文化祭の開催 (R 元～) ・集落活動センター推進アドバイザー (H30～R 元 2 回) ・むろと廃校水族館 SNS との連携による誘客 ・室戸市広報等活用 ・集落活動センター通信の発行 ・青空市 (特産品等販売) の開催 (H30.9 月～土日祝日開催) ・コロナ感染症対策アドバイザー活用 (R2.8 月) <p>◆経済的自立に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちいさな海のカフェ開催 ・お魚祭りの開催 ・ビン玉編みワークショップなどの体験プログラムの開催 (R 元.7 月～) ・民間事業者との連携による「飲食提供」(R2.10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・室戸市ふるさと納税返礼品への「ピン玉商品」の出席 (R3.11～) ・新たな体験プログラム (干物づくり体験) 造成検討 (R3.11～) →じゃらん net にて商品化 (R4～) ・ふるさとえいもん集マルシェへの出店 (R3～) ・地域おこし協力隊雇用開始 (R3.12～) <p><主な成果></p> <p>◆イベントの開催 H30: 96 回、R1: 201 回、R2: 161 回 R3: 179 回</p> <p>◆イベント来場者数 H30: こどもマルシェ 600 名 お魚祭り (3 回) 計 1,200 名</p> <p>◆カフェ売上 H30: 75 万 5 千円→R 元:53 万 8 千円 →R2:12 万 2 千円→R3: 18 万 5 千円</p> <p>◆青空市出店事業者数 H30～R 4.7 月: 延べ 416 店舗</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利活用及び運営体制の検討 ・むろと廃校水族館や椎名大敷組合と連携した誘客 ・活動拡充・維持のための住民の組織づくり ・経済活動の担い手の確保

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆集落活動センターの取り組みの充実</p>	<p>既存活動（カフェ等）の継続・拡充、担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●椎名集落活動センターたのしいな運営委員会： 活動者の確保、カフェ機能の強化 ●室戸市： 移住情報の発信、移住環境の整備強化による担い手確保、チャレンジャーなど民間事業者のキッチン活用の検討、キッチン活用方法の整理、青空市の開催回数増加の検討（現在の土日祝日→土日祝日に加えて夏休みや冬休みなどの長期休暇期間を追加する等） ●県（地域本部等）： 各種支援策の情報提供、情報交換会案内、関係機関との連携支援、地域情報の発信支援 				
<p>◆経済的自立に向けた取り組み</p>	<p>体験プログラムの造成・メニュー化・むろと廃校水族館との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●椎名集落活動センターたのしいな運営委員会、地域住民団体： 活動者の確保、体験プログラムの検討とメニュー化 ●椎名大敷組合、民間事業者： 集落活動センターと連携した体験プログラムの運営、メニュー化 ●県（地域本部等）： 中山間地域振興アドバイザー活用提案、集落支援員や住民グループへの観光創生塾受講の提案、各種支援策の情報提供、県広報媒体を用いた体験プログラムの情報発信 				

AP名 (実施地域)	No.28 集落活動センターなかやまを拠点とした安田町中山地区の活性化 (安田町)
実施主体	◎中山を元気にする会、安田町、中山合同女性部、味工房じねん、自然薯生産組合、安田川漁協
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	地区住民が主体となり、安田ふるさと応援隊と協力して集落活動センターの運営を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組むとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取り組みを推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 交流人口	5,163人 (H30)	53人	7,111人		8,000人
(2) 集落活動センター利用者数	3,308人 (H30)	1,490人	1,972人		5,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆旧中山小中学校を活用した多機能総合拠点施設の整備及び運営

- ・旧中山小中学校活用検討委員会設置 (H28)
- ・旧中山小中学校を活用した複合施設整備
高知大学サテライト教室、映像村、看護小規模多機能居宅介護施設、簡易宿泊の4案に決定 (R元)
- ・旧安田町立中山小中学校活用計画の策定 (R元)
- ・旧中山小中学校改修工事開始 (R3)

◆経済的自立に向けた取り組み

- ・うちんくのビジネス塾への参加による映像村や自然薯を活用した事業構想等の作成 (R元)
- ・うちんくのビジネス塾を活用した自然薯の商品開発 (自然薯とろろふりかけ) (R2)
- ・うちんくのビジネス塾を活用した映像村事業の事業計画書作成 (R3)

◆集落活動センターの取り組みの継続及び発展

- ・高齢者の買い物支援の実施 (H25～月1～2回)
- ・耕作放棄地を活用した山芋の栽培 (H26～)
- ・自然薯を使用した加工品 (クッキー、シフォンケーキ) の試作販売 (H30～)
- ・カフェよってん屋の開催 (H26～月2回程度)
- ・山芋まつりの開催 (H26～毎年12月初旬)

- ・高知大学との連携による山芋の植付け、収穫 (H25～ R2、3、4はコロナで中止)
- ・自然薯の栽培勉強会や先進地視察 (R元:3回)
- ・ドライフラワーリース作り教室の開催 (R3)
- ・中山間地域振興アドバイザー導入による新型コロナウイルス感染症対策指導の実施 (R2)
- ・集落活動センター新型コロナウイルス感染症対策事業費補助金活用によるアクリル板の導入 (R2)
- ・集落活動センター推進事業費補助金活用によるパソコン (リモート環境整備) の導入 (R3)
- ・アユ釣り体験の実施 (ゆずフェス・R4)

<主な成果>

◆山芋まつり来客数

H27:1,500人 → R元:2,500人

◆自然薯直販会売上額

R2:374,125円 (2日間合計)

R3:144,030円 (1日のみ開催)

<課題>

- ・自然薯の安定的栽培及び栽培技術の確立
- ・種芋栽培に関する方向性の決定
- ・自然薯を活用した商品の開発・販路開拓
- ・担い手の確保
- ・高齢者の買物支援等の施策の検討

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆旧中山小中学校を活用した多機能総合拠点施設の整備及び運営</p>	<p>映像村を核とした複合施設の整備</p>		<p>映像村を核とした複合施設の運営</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ●安田町： 旧中山小中学校活用検討委員会の開催による施設の改修、運営方針等の検討、施設改修詳細設計、施設改修、スタッフ等の体制づくり、情報発信方法等の検討 ●中山を元気にする会： 複合施設の指定管理受託に向けた体制整備 ●県（地域本部等）： 各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●安田町： 施設の管理・運営、HP 開設や SNS の活用による PR 及び集客増に向けた取り組みの実施、周辺施設を含めた食事や宿泊への誘導、施設を活用した地域のにぎわいづくり ●県（地域本部等）： 施設の運営等に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー制度等の活用提案、産振総合補助金（ステップアップ事業を含む）・集活推進補助金の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 		
<p>◆経済的自立に向けた取り組み</p>	<p>自然薯の栽培拡大及び自然薯を活用した経済活動の充実</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安田町： JA や農業振興センターとの協力による栽培方法の確立、種芋栽培に関する方向性の決定及び地域への普及 ●中山を元気にする会： 耕作放棄地を活用した栽培面積の拡大、規格外品を活用した加工品の開発・販売及び販路の開拓 ●県（地域本部等）： 自然薯栽培方法の確立に向けた支援、試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザー等の支援事業の活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、その他各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
<p>◆集落活動センターの取り組みの継続及び発展</p>	<p>地域福祉活動・支え合いの推進</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●中山を元気にする会： 集いの場・健康づくり活動等の発展と継続、高齢者の買い物支援・見守り活動の継続、大学連携事業による地域の活性化 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.29 集落活動センターやなせを拠点とした馬路村魚梁瀬地区の活性化 (馬路村)
実施主体	◎集落活動センターやなせ運営協議会、馬路村
APへの 位置づけ	H26.4月
事業概要	集落活動センターやなせを拠点に魚梁瀬地区が一体となって、地区の特色ある取り組みを継続・発展させ、地区の活力・やりがいと雇用の場を創出することを目標とした事業を展開する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
観光客入込数	4,853人 (H30)	2,990人	5,487人		6,300人

※対象施設：魚梁瀬森林公園オートキャンプ場、魚梁瀬丸山公園（魚梁瀬森林鉄道、杉の家レストラン、森林保養センターやなせの湯（村外利用者のみ））

これまでの主な動き

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域資源を活用した新事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワサビ」、「シキミ・サカキ」、「木のお酒」、「木質バイオマス」等の新産業候補の研究及び検討（H28～） ・高知ふるさと応援隊による「ダム湖 SUP」、「ダム見学ツアー」等の地域資源を活用した観光メニューの開発、実施（H29～） ・観光拠点等整備事業費補助金を活用し、魚梁瀬森林公園オートキャンプ場等の整備（H30） ・うちんくのビジネス塾を活用し、新事業の検討及び事業計画作成のノウハウの習得（R2） ・集落活動センター整備事業費補助金を活用し、車両（ステップワゴン）を購入（R3） <p>◆交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知ふるさと応援隊の導入（H26～） ・集落活動センター推進アドバイザーを導入し、住民組織の立ち上げを検討（H30） ・「集落活動センターやなせ」を設立（H31.1月） <p>◆情報発信の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山村留学ホームページのリニューアル、インターネット広告の利用（H29.4月～） ・集落活動センターやなせ SNS アカウント作成（R元.10月） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆魚梁瀬森林公園オートキャンプ場利用者数 H27：890人 → R元：1,521人 →R2：1,165人 → R3：1,476人 ◆山村留学による転入 H26：4組 → H28～R3 累計：8組 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した新事業の検討・実施 ・交流を生む仕組みづくり ・情報発信の取り組み

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地域資源を活用した新事業の展開	新事業の検討・試行		新事業の本格実施		
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターやなせ運営協議会： 4つの部会による新事業の検討 観光部会・・・地域の観光資源を活用した観光客誘致 事業部会・・・豊富な森林資源を活用した特色ある事業を展開 住民福祉部会・・・健康づくりや移動サービスの実施を検討 若者部会・・・若者視点による事業企画の提案、実施 ●県（地域本部等）： 関係機関と連携した新事業検討の支援、各種支援に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターやなせ運営協議会： 各事業を展開、雇用の創出 ●県（地域本部等）： 関係機関と連携した支援、各種支援に関する情報提供 		
	集落活動センターによる観光施設の運営・ブラッシュアップ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターやなせ運営協議会： 集落活動センターによる一体的な運営（オートキャンプ場・飲食店・入浴施設・森林鉄道） ●馬路村： 木質バイオマス利用施設の導入の検討、設備の再整備 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座の紹介、各種支援に関する情報提供 				
◆交流人口の拡大	特色ある交流イベントの開催・ブラッシュアップ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターやなせ運営協議会： イベントの開催（魚梁瀬桜まつり、春の観光ツアー、フェスティバル魚梁瀬、秋の観光ツアー等）、集落活動センターを拠点とした地区住民同士や来訪者との交流を生む仕組みづくり ●県（地域本部等）： 各種支援に関する情報提供 				
◆情報発信の取り組み	広報・PRの検討、実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターやなせ運営協議会： 定例会や地区広報を通じた地区住民間の情報共有、飲食店やキャンプ場等の観光施設の広報促進、インターネットやSNSによる情報発信、マスコミを通じたPR 				

分野	その他
----	-----

AP 名 (実施地域)	No.30 集落活動センターがいせいを拠点とした”小さくてももっと元気で輝くむら”づくり (芸西村)
実施主体	◎集落活動センターがいせい、芸西村
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	芸西村の住民が集落活動センターを中心に集まり、耕作放棄地を活用した農産物の栽培・販売や竹害への対策事業等の取り組みを通して地域の課題を解決していくとともに、村産品の加工品づくりや磨き上げを行って地域活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
加工品等販売額	108万円 (H30)	180万円	308万円		500万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆特産品づくりと外商活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家の指導のもと、白玉糖を活用した加工品を開発 (R元～) ・「うちんくのビジネス塾」を活用し、商品のパッケージやPOP作成について専門家の支援を受ける (R元) ・集落活動センターがいせいを一部改修し、生産拠点として整備 (R元) ・加工品の統一ロゴ完成 (R2) ・食品衛生協会による HACCP 専門家派遣 (R2) ・芸西村のふるさと納税返礼品として出品 (R2) ・県版 HACCP 旧ステージ2 取得 (R3) ・中山間地域アドバイザー (お菓子作り専門家) 派遣：3回 (R3～) ・白玉糖加工品の販売店舗の拡大 (ロイヤルホテル土佐、高知空港、ANA キャンペーン他) (R3～) ・グルメ&ダイニングスタイルショー@東京に参加 (R4) ・高知県産品商談会@ちばさんセンターに参加 (R4) ・ふるさといいもの集マルシェへの参加 (予定) (R4) <p>◆経済的自立に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サトウキビ栽培・白玉糖販売を開始 (H28～) ・耕作放棄地におけるシキミの栽培及びかっぱ市での販売を開始 (H29～) ・竹林伐採の受託事業を開始 (H30～) ・「竹灯りの宵」の設営・準備を受託 (R3～) 	<p><主な成果></p> <p>◆白玉糖加工品等販売額 H30：108万円 → R2：180万円 → R3：308万円</p> <p>◆白玉糖加工品等取扱い事業者 R2：1事業所 → R3：6事業所</p> <p>◆竹林伐採の受託等 H29：50千円 → R2：1,124千円 → R3：1,668千円</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品のさらなる開発、ブラッシュアップ、販路拡大 ・事業運営の継続のため会員を増やすことが必要 ・新事業の検討

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆特産品づくりと 外商活動	新商品の企画・開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターげいせい：原料となるサトウキビの栽培、白玉糖を活用した商品の検討、試作品づくり、テストマーケティング、レシピ開発 ●県（地域本部等）：研修・セミナー等の情報提供、中山間地域振興アドバイザー等の活用による専門家派遣の提案 				
	商品の磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターげいせい：消費者からの意見を踏まえた商品の改善、商品の製造過程や賞味期限等の見直しによる磨き上げ、パッケージの見直し ●県（地域本部等）：研修・セミナー等の情報提供、中山間地域振興アドバイザー等の活用による専門家派遣の提案、工業技術センターによる成分等の分析 				
◆経済的自立に 向けた取り組み	外商の基盤づくり	外商の展開			
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターげいせい：HACCP 認証取得、統一ロゴを用いたブランド化、情報発信の強化、商談会等への出展 ●県（地域本部等）：研修・セミナー等の情報提供、販路拡大に係る中山間地域振興アドバイザーの活用の提案 	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターげいせい：商談会や展示会への出展、営業等による販路開拓 ●芸西村：ふるさと納税返礼品での取扱い ●県（地域本部等）：商談会等の情報提供、地産外商公社等への橋渡し 			
	シキミの栽培・販売				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターげいせい：シキミの栽培及び販売、栽培面積の拡大 ●県（地域本部等）：各種支援策の活用提案、安芸林業事務所・森林技術センターによる助言 				
竹林伐採の受託等		新規事業の検討・実施			
<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターげいせい：竹害を及ぼしている竹林の伐採受託、イベント「竹灯りの宵」に使用する竹の切り出し・加工 ●芸西村：竹林伐採に対する補助 		<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターげいせい：ふるさと納税の受注による事業の拡大や「竹灯りの宵」の事業受託等の収入につながる事業の開始を検討・実施 			
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハザップ」と呼ばれている。製法における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

2 物部川地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

物部川の流域に位置する当地域は、上流域では豊かな森林資源を生かした林業やユズ栽培、肥沃な下流域は県内最大の穀倉地帯であるとともに施設園芸が盛んです。また、高知龍馬空港や高知自動車道、JR土讃線、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線といった交通インフラが整備され、高知東部自動車道も順次整備が進められており、今後さらなる利便性の向上が期待されます。

農業分野では、平野部では稲作をはじめ、日本一の生産量を誇るニラやシシトウをはじめとした施設園芸が盛んで、山間部でも、ユズや温州ミカンの一大産地が形成されており、全国的なシェアを持つ多種多様な野菜、果樹等が生産されています。また、消費者ニーズに対応した環境保全型農業など特色ある取り組みも行われています。

林業分野では、地域の豊富な森林資源を生かすため、香美森林組合や物部森林組合、管内林業事業体が主体となり、原木の増産に向けて高性能林業機械やICT等を活用した労働生産性の向上、皆伐と再生林の促進による森林の循環利用の促進、森の工場の拡大・間伐の推進による施業集約化に取り組んでいるとともに、林業大学校と連携した担い手の確保に取り組んでいます。

水産業分野でも、高知県漁協手結支所が、地域の主要魚種であるシイラを活用した加工品づくりや、衛生管理の向上、生産体制の強化を進めており、県内外の取引先との定期的な情報交換等を通じて、取引量の安定確保や販路拡大に取り組むことによって、漁業者の所得向上と地域雇用の創出につなげていくこととしています。

工業分野では、充実した交通インフラのもと、早くから工業団地が整備され、各種多数の事業所や工場が集積しており、製造品出荷額は県内の3割近いシェアを占めるなど、特に製造業は県内でもトップクラスの集積地となっています。

商業分野では、小規模事業者が主体である地域の商店街での消費が低迷し、空き店舗が増加していることから、チャレンジショップを展開するとともに、民間事業者と連携しながら、地域が主体となって中心市街地の活性化計画の策定に取り組むなど、地域経済の活性化に向けた取り組みが進められています。

観光分野では、アンパンマンミュージアムやのいち動物公園、西島園芸団地などのファミリー向けスポットから、龍河洞や県立歴史民俗資料館、絵金蔵などの歴史スポットまで、幅広い層の集客が見込める施設が数多くあります。こうした資源を生かした体験型観光メニューの造成や観光情報の発信、地域連携による周遊促進を行うとともに、新たな観光拠点の整備に向けた検討など、地域の観光資源の磨き上げの取り組みを進めています。また、物部川地域の観光活性化のために発足した物部川DMO協議会が中心となり、恵まれた自然環境や豊富な歴史資源、おいしい食などの魅力あふれる観光資源を生かした、圏域ならではの広域観光の推進に取り組んでいます。

(2) 地域アクションプランの概要

当地域では、園芸基幹品目の振興や林業の素材生産の拡大、また水産加工や商工業の振興などに引き続き取り組むほか、食品加工などの6次産業化の推進、交流人口の拡大に向けた観光振興などに重点的に取り組み、地域の活性化、産業の振興を図ります。

農業分野では、園芸基幹品目をはじめとした農作物の品質の向上や次世代型ハウスなどを活用した生産量の増大や省力化技術の推進、さらには消費地との連携を進め、ブランド力の強化や消費拡大に取り組めます。加えて、地域産業クラスタープランに位置付けられている日本一の産地である香南市、香美市のニラや南国市の野菜を活用した6次産業化を推進するとともに、地産地消の推進に関し、学校給食及び業務筋への食材供給の拡大や直販所の体制整備、サービスの充実等による農産物の販売拡大に取り組めます。

林業分野では、森林所有者の所得向上のために森林の団地化を推進し、施業を集約するとともに、高性能林業機械やICT等の導入や効率的な作業道の開設により労働生産性の向上を図ることで、原木生産量の増産を目指します。

水産業分野では、主要魚種のシイラやその他魚種について、販路の維持・拡大による漁業所得の向上及び加工品生産に係る衛生管理の向上に取り組めます。

商工業分野のうち、伝統産業である土佐打刃物については、技術や文化の継承を図るため、鍛冶職人の養成施設である「鍛冶屋創生塾」の運営を通じて、後継者の育成に取り組めます。

また、市や商工会と連携して、中心市街地・商店街の活性化に向けた計画の策定から実行までの支援を行っています。今年度計画を策定された香南市については、計画の実践に向けた取り組みを支援するとともに、既に計画がある南国市・香美市については、それぞれの拠点施設である「ものづくりサポートセンター」・「ふらっと中町」を核とした活性化の取り組みを進めます。

工業分野では、地域の資源にこだわったクラフトビールについて、地域限定商品や期間限定商品の開発による販売拡大に加え、新たに整備した新工場での増産に取り組めます。

高知県産ワインについては、醸造施設等の整備により県内での醸造・生産体制が確立しています。今後は、さらなる生産の拡大に向けてほ場の確保に取り組めます。

観光分野では、既存の観光施設とともに、地域にある自然や歴史などの観光資源を有効に活用した体験型観光プログラムの開発や磨き上げ、情報発信、周遊促進の取り組みに加え、龍河洞をはじめとする観光拠点の活性化に向けて取り組むなど、より魅力ある観光地づくりを進めていきます。

龍河洞においては、民間事業者や地域住民、行政機関が連携して策定した活性化計画に基づく観光拠点の整備に加え、集客イベントや教育旅行・校外学習の誘致の実施等により龍河洞エリアの活性化に向けた取り組みを行っています。

また、ヤ・シィパークにおいては、ユニバーサルデザインの考え方を導入し、多様な意見を踏まえた誰もが楽しめるパークづくりを目指す取り組みが進められています。

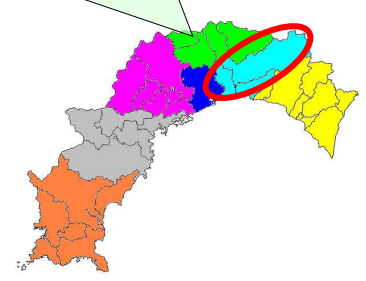
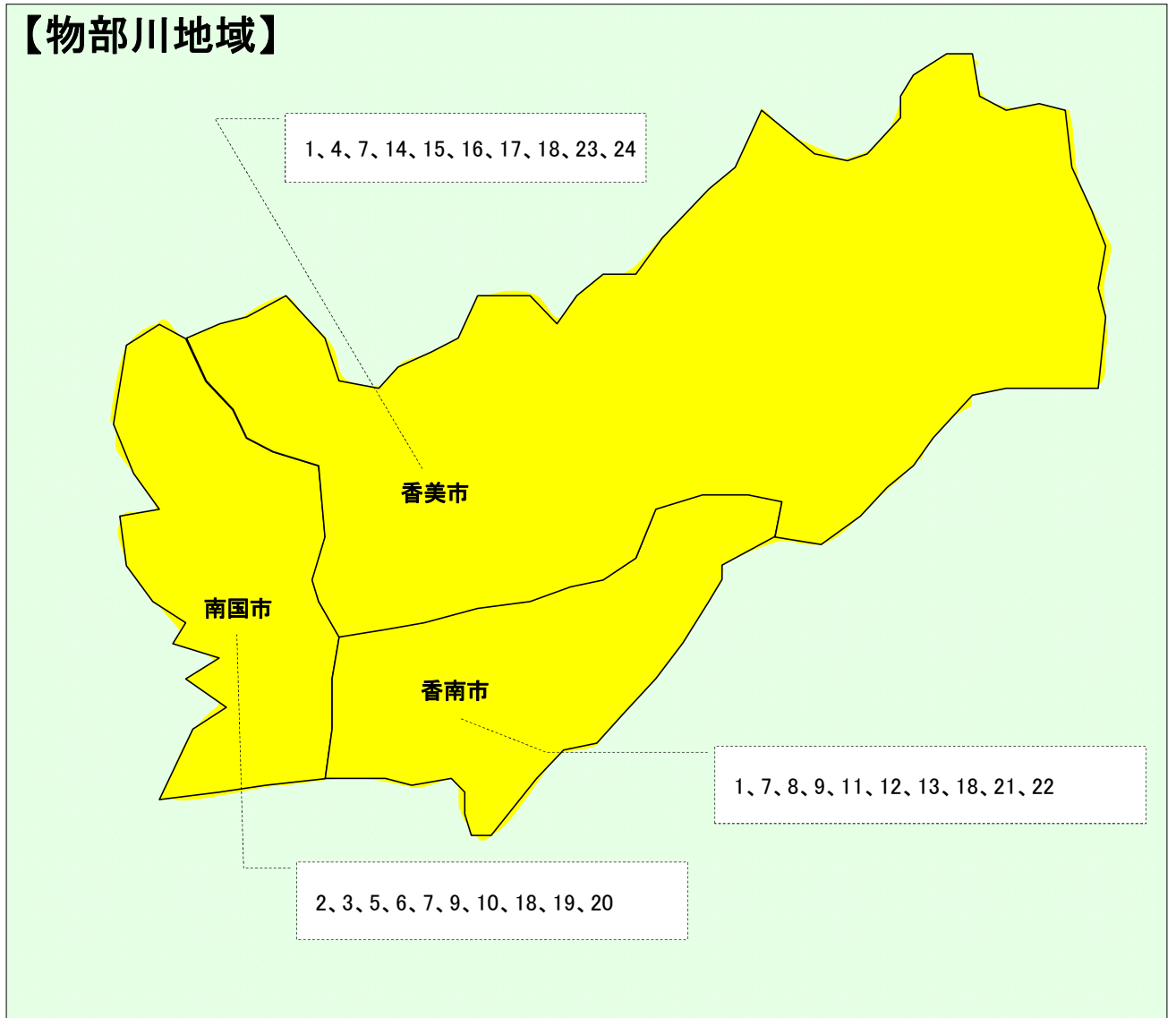
さらに、南国市観光の中核である観光農園「西島園芸団地」をあらためて磨き上げ、時代の変化、顧客ニーズに対応したリブランディングを図るなど、魅力的な観光地として再生を目指します。

また、広域観光の推進においては、物部川 DMO 協議会を中心に、観光商品の開発や磨き上げに取り組むとともに、物部川地域の魅力を集めた企画イベントの開催や NHK の連続テレビ小説「らんまん」を生かした取り組みに加えて、SNS での効果的な発信により観光客の滞在日数を増加させ、観光消費額の拡大につながるよう、より大きな面で受け入れる観光の実現と物部川地域全体の交流人口の拡大に取り組めます。

(3) 具体的な取り組み

No.	項目	南国市	香南市	香美市
1	日本一のニラ産地拡大クラスタープロジェクト		●	●
2	南国市農業生産拡大プロジェクト	●		
3	南国市野菜の地産地消・地産外商の拡大による地域農業の活性化	●		
4	香美市における「物部ゆず」の総合的な産地強化対策			●
5	「なの市」等の売上拡大による農家所得の向上	●		
6	「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取り組み	●		
7	物部川地域の民有林における原木の増産	●	●	●
8	シイラ等の水産物加工による外商の拡大		●	
9	高知県産ワインの生産拡大及びブランド化の推進	●	●	
10	ものづくりサポートセンターを核とする中心市街地の活性化	●		
11	ヤ・シィパークを核とする地域の活性化の推進		●	
12	香南市における特産品づくりと販売の促進		●	
13	香南市中心市街地の振興		●	
14	香美市における特産品づくりと販売の促進			●
15	香美市の伝統産業(土佐打刃物、フラフ)の振興			●
16	土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化			●
17	香美市における地域食材を活用したクラフトビールの製造・販売			●
18	物部川地域における広域観光の推進	●	●	●
19	南国市の地域資源を活用した観光の推進	●		
20	南国市の観光農園を活用した体験型・滞在型観光の推進	●		
21	香南市におけるスポーツ・体験観光等の取り組みの推進		●	
22	三宝山エリアにおける観光拠点化の推進		●	
23	香美市における滞在型・体験型観光の推進			●
24	龍河洞エリアにおける地域の活性化の推進			●

【物部川地域】



AP名 (実施地域)	No.1 日本一のニラ産地拡大クラスタープロジェクト (香南市、香美市) ※地域産業クラスタープロジェクト関連
実施主体	◎JA高知県(香美地区)、◎JA高知県(香美地区ニラ部会)、◎(一社)香南市観光協会、◎(一社)香美市観光協会、香南市、香美市、シミズ・アグリプラス(株)
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	日本一の生産量を誇るJA高知県香美地区のニラ生産拡大に向けた産地ビジョンの実現に向け、「既存農家の経営安定」、「規模拡大志向農家の支援」、「新規就農者、品目転換農家の支援」の3つのプロジェクトを推進し、生産拡大を実現する。また、集出荷体制の高度化や加工業務需要への対応強化、民間企業との協働、地元飲食店での新メニュー開発、機能性の検証等を行い、ニラの消費拡大につなげ産地強化への取り組みを進める。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) ニラ販売額	23.3億円 (R元)	23.6億円	21.9億円	25.6億円	29.7億円
(2) ニラメニューの売上高	81.8万円 (H30)	0円 ※イベント開催なし	0円 ※イベント開催なし		170万円

※園芸年度：8～7月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産上の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸用ハウス整備 (H28～) ・グリーンカレッジ(新規就農者勉強会)の開催(H28～) ・新規就農者育成支援 (H28～) ・そぐりセンター整備計画策定、そぐり機の新規導入(R元) <p>◆流通、販売上の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エコシステム栽培」登録、こうち環境・安全・安心点検シート実施、生産履歴記帳 (H28～) ・出荷場 GAP 点検実施 (H28～) ・地元小学校での出前授業・栽培体験 (野市小学校、佐古小学校、夜須小学校) (H29～R4) ・集出荷場再編整備計画の検討 (R2～3) ・土佐山田第2集出荷場の整備 (R4) <p>◆消費拡大、認知度向上の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントでのニラ料理の出店(香南市、R元：14回) ・「香南カーニバル」でのニラメニューの提供 (H29、H30) ・物部川地域情報紙「こじゃん」とへのニラメニュー及び提供店舗の紹介記事の掲載 (R元：3回) ・ニラレシピカードを作成し、道の駅等で配布 (R2) ・クラスタープランの策定 (R3) 	<p><主な成果></p> <p>◆生産上の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地提案書の策定・提示：2提案(香南市・香美市) ・ニラ農家の新規就農者：17名 (H28～R4) ・指導農業士の推薦：4名 (H28～R2) ・そぐりセンターの稼働に伴う新規雇用：33人 (R2～3) <p>◆流通、販売上の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な農産物生産への生産者の意識向上 ⇒「エコシステム栽培」登録、こうち環境・安全・安心点検シート実施、生産履歴記帳：全戸、出荷場 GAP 点検実施 <p>◆消費拡大、認知度向上の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市イベント(香南カーニバル等)へのニラ料理出店による市内認知度の向上 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収量・品質の向上及び省力化技術等の導入拡大 ・生産規模の拡大、担い手の確保育成 ・そぐりセンター利用拡大による省力化・同センターの安定稼働 ・集出荷場等の利用効率向上に向けた再編整備 ・農業体験・収穫体験メニュー、観光商品の造成およびそのPR(観光協会との連携) ・多様な事業者との連携による加工・業務など新たな需要拡大 ・地元飲食店等の連携による新メニュー開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産上の対策	生産拡大対策 <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区ニラ部会）： <ul style="list-style-type: none"> 環境制御技術の導入拡大や基本的栽培管理技術の徹底等による収量・品質の向上 園芸ハウス整備事業等を活用した規模拡大 そぐり機の活用等による省力化 担い手の確保と育成のための新規就農者受入れ体制の整備・強化と就農支援 ●県（中央東農業振興センター等）： <ul style="list-style-type: none"> 省力化技術の普及啓発、増収・品質向上技術の検討と導入支援 農地の流動化やハウス整備への支援 新規就農者の確保・研修・経営開始への支援と体制強化 部会活動活性化への助言等 				
	そぐりセンターの効率的・安定的な稼働、新規増設計画検討 <ul style="list-style-type: none"> ●シミズ・アグリプラス(株)：そぐりセンターの運営 ●JA 高知県（香美地区）：そぐりセンターの運営への協力・支援、そぐりセンター増設の検討 ●県（中央東農業振興センター等）：そぐりセンターへの支援（稼働計画策定、増設検討） 				
◆流通、販売上の対策	集出荷作業効率化に向けた集出荷場の高度化再編整備 <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区）： <ul style="list-style-type: none"> 集出荷場の高度化計画の策定と整備 ●県（中央東農業振興センター等）： <ul style="list-style-type: none"> 整備計画の策定と補助事業への支援 		高度な集出荷体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区）： <ul style="list-style-type: none"> 集出荷場の効率的稼働・運営 ●県（中央東農業振興センター等）： <ul style="list-style-type: none"> 事業計画実施への支援 		
	香南市、香美市が連携した、地域産業クラスタープランの検討・策定・具体的な取り組みの実施 <ul style="list-style-type: none"> ●香南市、香美市（観光協会）： <ul style="list-style-type: none"> 地元飲食店等との連携によるメニューの拡大や新たな加工品の開発及び既存加工品の販売拡大、地元飲食店等との連携によるニラを活用した地域イベントの充実 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 新たな需要拡大のための支援策の情報提供 				
<p>【用語】・そぐりセンター：ニラの収穫後、出荷のために実施する、そぐり（不要な外葉の除去）や計量、結末の調製作業を生産者から受託する施設</p>					

AP名 (実施地域)	No.2 南国市農業生産拡大プロジェクト (南国市) ※地域産業クラスター関連 (南国市農業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎JA 高知県 (土長地区)、◎JA 高知県出資農業生産法人(株)南国スタイル、Aitosa(株)、(株)イチネン農園、(株)トリムエレクトリックマシナリー
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	南国市の主要農作物 (シトウ、ニラ、ピーマン類) 及び還元水素水を活用した野菜「還元野菜」の産地の維持・拡大のため、新規設立農業法人をはじめとする関係機関との協力により、コスト削減や品質改善、出荷課題の解決などに取り組み、生産・流通・販売上の課題を解決し、南国市の農業生産の拡大及び「南国野菜」「還元野菜」のブランド化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) シトウ生産量※	606t (R元)	543t	515t	528t	615t
(2) ニラ生産量※	927t (R元)	822t	846t	884t	839t
(3) ピーマン類生産量 (ピーマン・パプリカ) ※	857t (R元)	895t	900t	952t	1,101t
(4) 「還元野菜」の栽培協力 農家数	6戸 (H27~R元累計)	6戸	6戸		7戸 (H27~R5累計)

※園芸年度：9~8月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆シトウの生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地ビジョンの構築及び推進 (H29~) 労働力確保・省力化対策 (H29~) 新規就農者確保・育成対策、経営体強化対策 (H29~) 四電の農業参入協定締結及び新会社 Aitosa(株)設立 (R2) <p>◆ニラの生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷調製施設の実証・整備及び生産事業に関する協議 <p>◆ピーマン類の生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培・病害虫管理及び栽培計画策定支援 機能性の検証 (H25~) 企業との農業参入協議 (R元~3) (株)イチネン農園の農業参入協定締結 (R4) <p>◆「還元野菜」の生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 西島園芸団地での生産拡大 (R元~4) <p><主な成果></p> <p>◆シトウの生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 市販天敵を主体とした天敵導入農家率：88%(R4園芸年度) 土着天敵タバコカミメの導入農家率：86%(R4園芸年度) 	<ul style="list-style-type: none"> JA 高知県土長地区旧 3JA 合同生産者大会の開催等による、生産技術や販売促進に関する生産者間の交流の促進 <p>◆ニラの生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> JA における出荷調製施設の整備 <p>◆ピーマン類の生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ピーマン類の生産量 R元→R4園芸年度 857t→952t ピーマン：753t→815t (対R元年比：108%) パプリカ：104t→137t(対R元年比：132%) <p>◆「還元野菜」の生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力農家数 H27：3戸 → R4：6戸 (累計) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 新規就農者の確保 シトウ産地の維持拡大、省力化技術の確立、経営体制の強化、GAPの取り組みの推進 ピーマン類 (「還元野菜」含む) の生産体制の強化 「還元野菜」栽培協力農家の確保

4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆シシトウの生産拡大	園芸団地の整備による生産拡大・新規就農者の育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●生産者等：規模拡大、品目転換、新規就農者育成等による生産拡大 ●JA高知県（土長地区）、県（中央東農業振興センター等）：増収・品質向上対策、担い手の育成 ●JA高知県（土長地区）：出荷調製作業省力化のための施設整備 ●南国市：研修用ハウス（サポートハウス）確保 				
◆ニラの生産拡大	ハウス整備へ向けた計画作成・事業申請		運営開始		
	<ul style="list-style-type: none"> ●Aitosa(株)：計画作成・事業申請 ●県（中央東農業振興センター等）：事業申請等の計画作成支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●Aitosa(株)：栽培技術の習得・技術向上による生産安定 規模拡大志向農家や新規就農者との生産委託や研修体制の充実 ●JA高知県（土長地区）、県（中央東農業振興センター等）：増収・品質向上対策の支援 		
◆ピーマン類の生産拡大	調製作業省力化設備設置へ向けた計画作成・事業申請		運営開始		調製作業に係る課題の整理と対応策の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ●生産者、JA高知県（土長地区）：計画作成・事業申請 ●県（中央東農業振興センター等）：事業申請等の計画作成支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●生産者：規模拡大、新規就農者育成等による生産拡大 ●JA高知県（土長地区）、県（中央東農業振興センター等）：増収・品質向上対策、担い手の育成 ●JA高知県（土長地区）、JA園芸部ニラ部会：出荷調製作業施設の利用及び運営協力 		<ul style="list-style-type: none"> ●生産者、JA高知県（土長地区）、県（中央東農業振興センター等）：現状把握、課題整理、対応策の検討
◆「還元野菜」の生産拡大	園芸団地の整備による生産拡大・新規就農者の育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●生産者等：規模拡大、品目転換、新規就農者育成等による生産拡大 ●JA高知県（土長地区）、県（中央東農業振興センター等）：増収・品質向上対策、担い手の育成 				
◆「還元野菜」の生産拡大	ハウス整備へ向けた計画作成・事業申請			栽培開始	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)イチネン農園：計画作成・事業申請 ●県（中央東農業振興センター等）：事業申請等の計画作成支援 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)イチネン農園：栽培技術の習得・技術向上による生産安定 ●JA高知県（土長地区）、県（中央東農業振興センター等）：増収・品質向上対策の支援 	
◆「還元野菜」の生産拡大	市内既存農家や組織の生産維持・規模拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA高知県（土長地区）、(株)トリムエレクトリックマシナリー、県（中央東農業振興センター等）：(株)南国スタイル（パプリカ等）、(株)西島園芸団地（メロン等）を中心に「還元野菜」栽培協力農家の拡大 				

AP名 (実施地域)	No.3 南国市野菜の地産地消・地産外商の拡大による地域農業の活性化 (南国市) ※地域産業クラスター関連 (南国市農業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎JA 高知県土長地区出資農業生産法人(株)南国スタイル、◎南国市、JA 高知県 (土長地区)、(株)トリムエレクトリックマシナリー、(一社)南国市観光協会、南国市内食品加工事業者
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	南国市産の野菜(「還元野菜」、「南国野菜」)等、農産物の地元での消費拡大(地産地消)及び加工品の開発・販売(地産外商)を進めることにより、南国市の農業をはじめとした地域産業の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 「還元野菜」の売上高	617万円 (H30)	610万円	961万円		1,000万円
(2) 学校給食における地元野菜の供給割合(金額ベース)	26.3% (H30)	22.1%	26.5%		27.0%
(3) 地域資源を活用した新商品数	13品目 (H28~R元累計)	9品目 (R2)	13品目 (R2~3累計)		12品目 (R2~5累計)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆「還元野菜」の販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「還元野菜」の県外への販路拡大 (H30~) ・トリム顧客向け「還元野菜」セットの販売 (H30~) ・トリム製品販促素材としての「還元野菜」活用 (H30~) ・還元野菜のインターネット販売 (R2~) <p>◆「南国野菜」の地元消費拡大(地産地消)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校へ給食用食材の配送 (H21~) ・市内業務筋への食材の定期配送 (H21~) ・農家レストラン「まほろば畑」のオープン (H22~) ・農家レストラン「あぐり食堂ほっと」のオープン (H31~) <p>◆「南国野菜」を使った加工品の開発・販売(地産外商)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品づくりのための市単独補助金の創設 (H24~) ・かざぐるま市における食品加工施設の整備 (H30) ・道の駅風良里で新商品開発ワークショップの実施 (H30~R2) ・商品開発・販売開始 (R2) <p>◆観光との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「還元野菜」を活用した農業体験モニターツアーの実施 (R元) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「還元野菜」の売上内訳 (R4.11月末) トリム製品販促用「還元野菜」: 443万円 還元野菜・フルーツ通信販売: 31万円 ・市内学校給食における地元野菜の供給金額: 336万円 (R4.11月末) ・市内業務筋への定期配送: 20事業所 ・農家レストラン「まほろば畑」の累計来店者数: 69,023人 (H22~R4.11月末) ・パブリカソースの売上本数: 9,467本 (R2~R4.11月末) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「還元野菜」のブランド化の確立 ・特産品づくりに取り組むプレーヤー、外商に取り組む事業者の育成 ・既存商品の磨き上げ、新たな加工品の開発 ・地産地消を進めるための戦略的な取り組み

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆「還元野菜」の販路拡大	<p>トリムユーザー向け「還元野菜」の活用・販売等（トリムユーザーへのPR、販売を強化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)トリムエレクトリックマシナリー： トリムユーザー向けに「還元野菜」のPR、販売 ●協力農家（(株)南国スタイル、西島園芸団地含む）： 「還元野菜」の生産及び販売への協力 ●県（地域本部等）： 必要に応じ、関係機関や農家への橋渡し 				
◆「南国野菜」の地元消費拡大(地産地消)	<p>学校給食・業務筋への食材供給体制の整備及び供給拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)南国スタイル： 供給体制の整備 ●南国市： 学校給食での活用拡大、市内事業者等との橋渡し、事業者間の連携強化 ●県（農業振興部、地域本部等）： 関係機関への橋渡し、セミナー等の紹介、事業者間の連携強化 				
◆「南国野菜」を使った加工品の開発・販売（地産外商）	<p>加工品の開発、販売と外商の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市内加工事業者： 「南国野菜」をはじめとした南国市産の農産物を使った加工品の開発・販売 ●南国市： 補助金の交付により、新商品開発に取り組む事業者や、外商活動を支援、事業者間の連携強化 市内事業者が行う新商品の開発や販促活動等への財政的支援 ●県（農業振興部、地域本部等）： 外商活動、商品の磨き上げや、外商に取り組む事業者のレベルアップのため、関係機関への橋渡し、商談会・相談会・セミナー等の紹介、事業者間の連携強化 				
◆観光との連携	<p>観光との連携（「還元野菜」の里めぐりツアー等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)南国スタイル、(株)トリムエレクトリックマシナリー： 農業体験ツアーの実施に向けた観光事業者との連携・協力 ●県（観光振興部、地域本部）： 必要に応じ、関係機関への橋渡し 				
<p>【用語】・「還元野菜」：整水器を使って生成される「電解水素水」を使って栽培した野菜</p>					

AP名 (実施地域)	No.4 香美市における「物部ゆず」の総合的な産地強化対策 (香美市)
実施主体	◎JA 高知県 (香美地区物部柚子生産部会)、JA 高知県 (香美地区)、香美市、農地中間管理機構 (高知県農業公社)、NPO 法人いなかみ
AP への位置づけ	H21.4月
事業概要	日本一の青果ユズ生産量を誇る「物部ゆず」産地の維持に向け、「新規就農者、認定農業者等担い手の確保・育成」、「集出荷場の整備・作業効率の向上」、「園地の整備、流動化及び機械化・新技術導入による生産向上」を推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) ユズ販売金額 (JA 入金額) ※	4.9 億円 (H28~R 元平均)	4.8 億円 (H29~R2 平均)	4.5 億円 (H30~R3 平均)	4.5 億円 (R 元~R4 平均)	5.0 億円 (R2~R5 平均)
(2) 青果ユズ出荷量 ※	760t (H28~R 元平均)	750t (H29~R2 平均)	709t (H30~R3 平均)	724t (R 元~R4 平均)	770t (R2~R5 平均)

※園芸年度：9~8月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生受入体制の整備 (H28~) ・新規就農者の育成支援 (H28~) ・認定農業者の確保・育成 (H28~) ・I ターンによる就農希望者への住宅情報の提供 (H30~) <p>◆流通、販売上の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズに応じた青果の安定的な供給体制の確立 (H28~) ・多様な販売ルートの確保に向けた取り組み(H28~) ・「物部ゆず」のブランド力の強化 (H30~) <p>◆生産向上対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振興系統及び品種への支援 (H28~) ・機械化による生産性向上 (H28~) ・園地の確保及び流動化の推進 (H30~) <p><主な成果></p> <p>◆担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地提案書 (改訂版) の発信・提示 ・指導農業士 5 名の認定 ・ユズの新規就農者：9 名 (H28~) ・認定農業者の確保：新規及び再認定 25 名 (R4.12月) 	<p>◆流通、販売上の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青果出荷量の安定供給：691t (R4 園芸年度) ・卸売市場を通じたシンガポールへの輸出継続：90kg (R3 園芸年度) ・「物部ゆず」で地理的表示(GI)に登録 (R2.6月) <p>◆生産向上対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地中間管理事業による園地の確保・流動化：7 件 (H30~) ※見込みを含む ・スピードスプレー(薬剤噴霧機)の導入：1 件 (H30) ・優良系統及び品種の栽培面積の普及：面積 136ha、普及率 95.7% (R4 園芸年度) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生受入体制の強化 (情報発信等) ・住環境の提供による移住での新規就農者の確保 ・新規就農者の就農計画の策定及び技術習得 ・担い手の営農計画の策定 ・冬至玉の出荷予測精度の向上 ・集出荷場の作業効率の向上 ・剪定・防除等の基本技術の徹底、計画的な新改植等による青果ユズの確保 ・収穫期の労働力確保 ・園地の流動化などによる生産規模の維持・確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆担い手対策	<p>担い手の確保・育成、受入体制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区物部柚子生産部会）： 研修生受入体制の整備・強化と就農支援、産地提案書の見直し、指導農業士の確保 担い手の各事業計画（就農計画・経営改善計画・資金借受計画等）の策定 ●香美市：新規就農者の確保・育成のための各事業・施策による支援、認定農業者の確保・育成への支援 ●NPO 法人いなかみ：産地の情報発信、空き家等の住宅情報の提供 ●県（中央東農業振興センター等）：研修生の受入体制への助言、担い手の各事業計画の策定支援等 				
◆流通、販売上の対策	<p>冬至玉の出荷予測精度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区物部柚子生産部会）： 予想出荷量と市場要請量との調整、予測精度の向上 ●県（果樹試験場・中央東農業振興センター等）： AI等を活用した出荷予測精度向上への支援 		<p>予測システムの運用・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区物部柚子生産部会）： 予測システムの運用と市場要請量との調整 ●県（果樹試験場・中央東農業振興センター等）： 予測システムの活用に向けた普及と改良 		
	<p>集出荷場の整備・作業効率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区）： 集出荷場の整備計画の策定 作業行程等の見直し ●県（中央東農業振興センター等）： 作業行程等の見直しへの支援 		<p>集出荷場作業行程改善の運用・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区）： 作業行程改善後の運用と更なる見直し ●県（中央東農業振興センター等）： 作業行程等の見直しへの支援 		
	<p>「物部ゆず」のブランド力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区物部柚子生産部会）： GIを活用した販売促進活動、市場経路による輸出継続 				
	◆生産向上対策	<p>青果生産量の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区物部柚子生産部会、無料職業紹介所）： 部会活動（講習会、現地検討会）の活性化、産地間交流の推進、労働力確保に向けた体制整備 ●県（中央東農業振興センター、果樹試験場等）： 部会活動への支援、産地間交流支援、優良系統・品種及び新技術に関する情報提供、労働力確保への支援 			
<p>園地の整備・流動化・機械化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（香美地区物部柚子生産部会）：意向調査に基づく園地情報の提供 ●香美市（農業委員会）：園地整備・機械化に関連する事業支援、担い手への園地集積のための農地情報提供 ●農地中間管理機構：担い手への園地集積のための農地情報提供 ●県（中央東農業振興センター等）：園地マッチングへの支援、園地整備・機械化に係る事業支援 					
<p>【用語】・青果ユズ：果実への傷、生理障害、病斑が少ない良質のユズ。「酢玉」以外の出荷品。物部柚子生産部会の規格では「青玉」、「カラーリング玉」、「黄玉平箱」、「冬至玉」、「貯蔵玉」、「小袋包装」が該当する。R3園芸年度の実績で青果率は55.8%</p>					

AP 名 (実施地域)	No.5 「なの市」等の売上拡大による農家所得の向上 (南国市)
実施主体	◎(株)なの工房、◎畑の食堂 Copan、JA 高知県 (土長地区長岡支所)
AP への 位置づけ	H24.4 月
事業概要	旧直販所「あけぼの市」を国道 195 号通称「あけぼの街道」沿いに移転拡充した「なの市」、平成 30 年にオープンした「畑の食堂 Copan」で、地域農産物の販売や地域資源を活用した加工品の開発・販売及び飲食物の提供を行い、地域農業者の所得向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
直販所等の売上高	1 億 2,533 万円 (H30)	1 億 1,192 万円	1 億 532 万円		1 億 3,740 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆直販所・飲食店の移転・拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道 195 号沿いへの直販所・飲食店の移転・拡充・オープン(H25～26) ⇒H25 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 (事業費 1 億 359 万円) <p>◆組織体制や運営方法の改善による経費削減と売上増に向けた取り組み</p> <p>【(株)なの工房】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)なの工房としてカフェを廃止 (「なのカフェ」の閉店) ⇒雇用数の整理及び直販所事業に専念 (H29.1 月) ・経営改善に向けた産業振興アドバイザーの導入 (H29～30) ・経営力向上会議の定例開催 (月 1 回) による、経営状況の把握及び経営改善計画の進捗管理 (H30) ・リーダー会の定例開催 (月 1 回) による、経営状況の把握及び経営改善に向けた取り組みの確認・徹底 (R 元～) ・POP、店舗陳列に関するアドバイザー導入 2 回 (R2～3) <p>【畑の食堂 Copan】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「畑の食堂 Copan」オープン (H30) ・六次産業化セミナー参加による商品開発 (R2) ・オンラインショップの開設 (R2) ・POP の掲示による PR 強化 (R2～) 	<p>◆来客増に向けた取り組み</p> <p>【(株)なの工房】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元果物を使った新商品の販売開始 (H28) <p>【畑の食堂 Copan】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントへの出店 (H30～) ・テイクアウトコーナーの新設 (R 元) ・新商品 (ディップソース、ミールセット) の販売開始 (R2) ・「つぼんの宝物 Japan 大会 2020-2021 調理・乳製品部門 グランプリ受賞 畑のディップソース (R2) ・スチームコンベクション、充填機導入 (R3 事業再構築補助金) ・キッチンレーラー導入 (R3 事業再構築補助金) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑のディップソース取扱店舗：18 店舗(R3.11 末) <p><課題></p> <p>【(株)なの工房】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷品目の充実 ・経営の安定化 <p>【畑の食堂 Copan】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来客数の増 (13 時以降のランチ客増) ・新メニュー、テイクアウト商品の開発 ・加工品の販路開拓

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆組織体制や運営方法の改善による経費削減と売上増に向けた取り組み	日別の目標売上額の設定と予実管理による経営の安定化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なの工房： 財務分析による経費削減（会計士と相談しながら日別の目標売上額を設定したうえでの継続的な管理） ●県（地域本部等）： 経営の改善に向け、必要な助言を得るため、関係機関への橋渡し、セミナー等の紹介 				
◆来客増に向けた取り組み	新規出荷者の確保・出荷品目の充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なの工房： 生産者会議での呼びかけ、店舗へのチラシの掲示、生産者への売上データの送付、呼びかけ ●JA 高知県（長岡支所）：生産者への呼びかけ ●県（地域本部等）： 関係機関への橋渡し、セミナー等の紹介 				
	新商品・新メニューの開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の食堂 Copan： 季節の農産物を使った新メニュー、テイクアウト商品の開発（新規及びリピート客の確保） ●県（地域本部等）： 新メニュー、新商品開発を促進するため、関係機関への橋渡し、セミナー等の紹介 				
集客に向けたプロモーションの実施					
<ul style="list-style-type: none"> ●畑の食堂 Copan： SNS への日替わりメニューやビュッフェメニューの写真の掲載等による情報発信 市内外のイベントへの積極的な出店 					
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.6 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取り組み (南国市)
実施主体	◎企業組合ごめんシャモ研究会、南国市商工会、南国市
AP への 位置づけ	H23.4月
事業概要	<p>坂本龍馬の逸話を生かした「シャモ鍋」等の新たなメニューを創出し、イベントでの販売や加工品販売により、県内外に向けてご当地グルメとして情報発信を行う。</p> <p>また、ごめんケンカシャモの飼育・安定供給体制を整備し、トレーサビリティの確立等による高付加価値化を図ることで、ブランド鶏肉としての外商戦略を展開していく。</p> <p>これらの生産から販売までの過程を通して、ごめんケンカシャモを知ってもらい、南国市を訪れてもらう『地産「来」消』の仕組みの確立を図る。</p>

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 売上高	5,178 万円 (H30)	2,140 万円	1,974 万円		6,000 万円
(2) 飼育羽数	2,341 羽 (H30)	1,638 羽	1,062 羽		3,000 羽

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆ごめんケンカシャモの安定供給体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直営鶏舎の整備、飼育開始 (H24～) ・貯卵・孵卵設備を高知農業高校に整備(H26.1月) →H25 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 (事業費 418 万円) ・ものづくり補助金を活用した食鳥加工センターの整備 (H29) ・県版 HACCP 第 2 ステージの認証取得 (H31.4月) ・食鳥処理の外注開始 (R2～) ・鳥獣被害対策等の実施 (R3～) <p>◆加工品開発及びご当地グルメとしての確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんシャモ鍋社中 (市内提供店舗) の取り組み (H22～) ・加工品 (シャモ鍋セット) の開発 (H23) →H23 産業振興推進総合支援事業費補助金 (ステップアップ事業) の活用 (事業費 202.4 万円) ・直営のシャモ料理専門店「軍鶏伝」の運営(H27～) 	<p>◆組織の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会の開催 (毎月) <p><主な成果></p> <p>◆ごめんケンカシャモ提供店舗数 (市内) H26:19 店舗→H30:20 店舗→R2:18 店舗</p> <p>◆貯卵から販売までの課程を一括管理出来る体制の構築</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャモ肉の安定供給のための生産体制の強化 ・組織の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ごめんケンカ シャモの安定供給体制の確立	生産体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企業組合ごめんシャモ研究会： 飼育データの収集・蓄積による年間生産計画の確立と飼育体制の強化 地元高校等、教育機関と連携した飼育の実施 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 				
◆加工品開発 及びご当地グルメとしての確立	加工品開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企業組合ごめんシャモ研究会： 前年度の取り組みの検証、新たな加工品の開発 生産量・品質の維持管理及び県版 HACCP 第3ステージ認証取得による衛生管理の向上、高付加価値化 ●県（地域本部等）：セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し 				
	ご当地グルメとしての確立				
<ul style="list-style-type: none"> ●企業組合ごめんシャモ研究会： イベントを通じたPR活動、軍鶏伝、マスメディア等を活用した情報発信 「シャモ鍋社中」加盟飲食店によるシャモ料理提供、同志（加盟店）の増加に向けた活動 商談会参加等による都市圏外食産業への販売セールス、ネット販売等の外商チャンネルの活用 ギフトやふるさと納税を活用した販路開拓、販売促進 ●南国市：ふるさと納税返礼品による商品のPR、イベント等の紹介 ●県（地域本部等）：イベントの紹介、関係者への橋渡し 					
◆組織の強化	経営力の向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企業組合ごめんシャモ研究会： 組織の方向性の明確化（専属職員の配置を検討） 部門別（営業、経理、加工等）の人材育成 資金管理による経営強化 ●南国市商工会： 経営強化へのアドバイス 				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では、「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと</p>					

AP 名 (実施地域)	No.7 物部川地域の民有林における原木の増産 (物部川地域全域)
実施主体	◎香美森林組合、◎物部森林組合、◎林業事業者等
AP への位置づけ	H21.4月
事業概要	物部川地域の民有林において事業地の拡大と生産性の向上を図り、原木の増産に取り組むことにより、森林所有者の所得向上と山林地域の振興に資する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
原木生産量(民有林のみ)	50,678m ³ (H30)	43,670m ³	45,342m ³		56,880m ³

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地元説明会の開催及び補助事業等の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内市及び事業者に対する事業説明会及び勉強会開催 (H21～) 市広報への間伐 PR 記事掲載 森林組合による境界明確化事業実施 航空レーザー測量成果を活用した森林情報データの活用方法の検討 (香美市) <p>◆生産性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 原木増産推進事業の活用による基盤整備(H28～) 高性能林業機械の導入：10台 (H28～R4) 作業道整備：112,004 m (H28～R4) <p>◆担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 森の工場での OJT (緑の雇用) の実施 (H28～) 林業大学校卒業生の採用 (H29～) <p><主な成果></p> <p>◆原木生産量 H26：35,887 m³ → R3：45,342 m³</p> <p>◆香美森林組合における労働生産性の向上 皆伐 H29：5.9 m³/人日 → R3：7.7 m³ 間伐 H29：3.7 m³/人日 → R3：5.5 m³</p>	<p>◆管内森林組合及び林業事業者への林業大学校卒業生の採用 17名 (H29～R4)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 素材生産量の確保に向けた、物部川地域内における事業地の確保 素材生産の効率化に向けた、高性能機械導入等による産性向上のさらなる推進 林業大学校との連携などによる、次世代を担う林業従事者の確保

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆事業地の拡大	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">森の工場の維持、拡大</div> <ul style="list-style-type: none"> ●森林組合、事業体： 森の工場の継続、新規森の工場の拡大 				
	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">森林経営管理制度を通じた事業地の拡大</div> <ul style="list-style-type: none"> ●森林組合、事業体： 森林管理制度による事業地の拡大 				
◆生産性の向上	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">生産性の高い作業システムの活用促進</div> <ul style="list-style-type: none"> ●森林組合、事業体： 架線系から車両系へ、より生産性の高い作業システムへの転換を促進 路網整備の促進及び新たな作業システムの検討 ●県（中央東林業事務所等）： 高性能林業機械の導入、作業路網の整備等に対する支援（補助金等） 				
◆担い手の確保	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">担い手の確保</div> <ul style="list-style-type: none"> ●森林組合、事業体： 事業管理を担当する職員の確保、プランニング等のスキル向上 即戦力として林業大学校卒業生の積極的な雇用 ●県（中央東林業事務所等）： 森林施業プランナーの研修に対する支援 				

【用語】・森の工場：成熟しつつある人工林資源を利活用するために、森林を集約化したもの。集約化によって、事業体は収益性が向上、森林所有者への収益の還元、林業就業者の安定的な雇用につなげることができる。

・森林施業プランナー：持続的な森林経営のため、森林所有者から施業を受託し、森林施業の集約化や森林経営計画の作成の中核を担う者。全国統一の認定制度のもとに認定されると「認定森林施業プランナー」となる。

AP名 (実施地域)	No.8 シイラ等の水産物加工による外商の拡大 (香南市)
実施主体	◎高知県漁業協同組合手結支所、香南市、(一社)香南市観光協会
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	高知県漁協手結支所がシイラや養殖魚等の水産物の加工を推進し、県内外への販路を拡大することによって、浜値の向上と付加価値の増を通じて、漁業者の所得向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
水産品の販売額	4,939万円 (H28~30平均)	4,055万円	3,615万円		5,400万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販売事業の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターへの販売 ・とさのさとでの販売 ・漁協の入札参加 (H21~) →漁協自身が手結市場のセリに参入したことにより、買受業者間の競争が活気づくとともに、大漁時の価格の底支えにつながり、浜値の平均単価向上につながった。 <p>◆販売形態の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設の整備 →(国)強い水産業づくり交付金を活用して、漁具倉庫を共同作業場に改修 (H21) →(県)漁業生産基盤維持向上事業を活用して、施設の衛生管理向上対策を実施 (H23) ・高知県食品高度衛生管理手法認定を取得 (H26) ・ヘッドカッターの導入 (H28) →シイラの加工において作業員不足や高齢化による作業効率の低下が改善されたことで、取扱可能量が増大し生産体制が強化された。 ・真空包装機の導入 (R3) →効率的にロイン等を生産することが可能となり、出荷形態の拡充が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鮮魚、冷凍、加工品の販売で販路拡大 →鮮魚や冷凍品は、県外の飲食チェーンや県内の商社等の大口取引先へ販路が拡大し、加工品は県内の流通業者や学校給食等へ販路が拡大した →県内量販店との新規取引が開始され (R3:1社、R4:3社)、手結産の鮮魚として一定定着している。 <p><主な成果></p> <p>◆漁協加工事業の販売額拡大</p> <p>H21 : 351.2万円 → R3 : 3,615.3万円</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的な相場に左右されにくい産地相場力の強化 ・販売額の向上と安定化に向けた取引先との関係強化 ・地元における認知度向上 ・産地仲買人の減少による市場の不活化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆販売事業の拡大	<p>販路の維持・拡大に向けた営業活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県漁協手結支所： <ul style="list-style-type: none"> 地元や近隣の学校給食への販売を維持 県内外の取引先との取引の継続 新たな販路開拓のための営業活動 ●県（中央漁業指導所等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供等 				
◆販売形態の拡充	<p>一次加工による商品ラインナップ拡充対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県漁協手結支所： <ul style="list-style-type: none"> 営業先からの要望に細やかに対応できる体制づくり 自動真空包装機の導入による商品拡充（ロイン等） ●県（中央漁業指導所等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供等 				
◆認知度の向上	<p>地元におけるPR体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県漁協手結支所、(一社)香南市観光協会、香南市等： <ul style="list-style-type: none"> シイラを用いた新商品を地元においてPRする体制づくり、水産関係者とは分野の事業者とのマッチング ●県（中央漁業指導所等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供等 <p>知名度向上に向けた情報発信（プロモーション活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県漁協手結支所、(一社)香南市観光協会、香南市等： <ul style="list-style-type: none"> PR情報の発信（飲食店紹介パンフレット、動画公開等） 地元イベント等でのPR機会の創出 ●県（中央漁業指導所等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供等 				
<p>【用語】・ロイン：魚の切り身の一つの形態。3枚に下ろした半身を半分に縦に切った状態のもので「四つ割り」とも呼ばれる。</p>					

AP名 (実施地域)	No.9 高知県産ワインの生産拡大及びブランド化の推進 (南国市、香南市)
実施主体	◎井上ワイナリー(株)、井上石灰工業(株)、南国市、香南市
APへの位置づけ	H30.9月
事業概要	ブドウ栽培からワインの醸造・販売までの一貫した体制の構築に向け、ブドウの栽培面積の拡大や醸造施設の建設、人材の育成等に取り組むとともに、県内各地の遊休農地でのブドウ栽培の実現と、高知県の食材とのコラボレーションやPR活動を行い、県内産ワインとしてのブランドを確立し、県内にワイン文化を醸成し、土佐ワインバレー構想の実現を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
商品売上高	1,057万円 (H30)	824万円	1,466万円		5,912万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆栽培面積の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・井上石灰工業(株)の新事業としてワイン用ブドウの栽培を開始 (H25) ・ワイン造りの専門家をコンサルタントに迎え、県内での栽培技術を習得 (H25～) ・物部川3市以外の市町村での圃場の確保：市町村との協定締結 (R元～) ◆醸造・生産体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・ワインの製造、販売を目的に井上ワイナリー(株)を設立 (H28) ・ワイン醸造施設の建設(R2) →産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費2.2億円) ・自社醸造を開始し、ヌーボーを販売 (R3) ・のいち醸造所グランドオープン (R4) ◆ブランドの確立 <ul style="list-style-type: none"> ・個人会員制を採用し、県産ワインファンへの直接販売 会員数：515名 (R元) →600名 (R3) ・新作ワインとオードブルのセット販売 (R2～) ・ECサイト、小売店等での販売 (R3～) ◆他の事業者との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・龍河洞での熟成保管の実施 (R元～) ・グロサリー商品の開発 (R元～)、販売 (R3～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆圃場の拡大 182アール (13箇所) (H25～R4) ◆ブドウ生産量 H27:870kg→R4:17,049kg ◆商品売上 <ul style="list-style-type: none"> ・ワイン販売 H28:302.3万円→R3:1,466.5万円 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる圃場の確保によるブドウの栽培収量の増大 ・高度な醸造技術を習得した人材の育成 ・他の事業者と連携したグロサリー商品の開発 ・知名度の向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆栽培面積の拡大	<p>圃場の確保、収量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●井上石灰工業(株)：遊休地の活用、県内各地の集落活動センターとの連携、自社圃場の拡大 ●香南市：遊休地情報の提供、インターン制度への支援 ●県（地域本部等）：集落活動センターとの橋渡し支援、その他各種支援制度に関する情報提供 				
◆醸造・生産体制の確立	<p>自社醸造の開始と醸造施設の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ●井上ワイナリー(株)： 醸造施設の安定的な運用 高度な醸造技術を習得した人材の育成 <p>高度な醸造技術を習得した人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●井上ワイナリー(株)： 社員の醸造研修への派遣、ブドウ栽培～出荷まで、すべての工程を担える社員の育成 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 				
◆ブランドの確立	<p>高知県産ワインとしての認知度向上と個人顧客の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ●井上ワイナリー(株)：空港での広告（通年）、PRイベントの実施、新酒発表会の開催 ●南国市、香南市：市内でのPRイベント開催補助、ふるさと納税商品への採用 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 				
◆他の事業者との連携	<p>グロサリー商品の開発と販路の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●井上ワイナリー(株)：地元食材を取り扱う事業者と連携した、様々なグロサリー商品の開発及び販売 ●香南市：各種支援制度に関する情報提供 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 				
<p>【用語】・グロサリー：中食主体の食料品・生活雑貨などを総称する言葉。生鮮食品は含まれない。</p>					

AP名 (実施地域)	No.10 ものづくりサポートセンターを核とする中心市街地の活性化 (南国市)
実施主体	◎南国市、◎南国市商工会、◎(株)海洋堂高知、南国市中心市街地振興協議会
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	「ものづくり、ひとづくり、まちづくり」の拠点施設となる、ものづくりサポートセンターの整備を契機として、中心商店街がものづくりを志す人材が集うまちとなるよう、交流人口の拡大や商店街の活性化に資する取り組みを行う。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) エリア内の売上高	11億 5,569万円 (R2)	11億 5,569万円	13億 998万円		12億 5,624万円
(2) 新規出店数	0件 (R2)	0件	0件		12件 (R2～5 累計)
(3) 拠点施設の入場者数	8,428人 (R2)	8,428人	72,765人		33,000人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆中心市街地の賑わい創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごめんまち将来像プラン」の策定 (H27) ・中心市街地振興計画の策定 (R2) <p>◆各種イベントの開催や空き店舗の活用等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)海洋堂と南国市による連携協定の締結 (H28) ・(株)海洋堂と連携したジオラマ教室や「みんなのモノづくり展」、「ナンコクフェスティバル」等のイベントの開催 (H28～) ・ものづくりイベント「ごめん tete マルシェ」の開催 (R元～) ・「ソフビ・アートフェスティバル in NANKOKU」の開催 (R3) <p>◆拠点施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化協議会による南国市地域経済活性化計画の策定 (H30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済活性化拠点施設整備等事業費補助金 (R元) の活用 (総事業費：12億7,426万円) ・空き店舗調査 (R2～) <p><主な成果></p> <p>◆中心市街地の賑わい創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップオープン (R4.6～) チャレンジャー 累計3名 <p>◆拠点施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R元.8月着工 ⇒ R2.12月竣工 ⇒ R3.3.21 グランドオープン <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な賑わいを創出するために、地域住民と一体となった取り組みの実行 ・ものづくりサポートセンターへの集客と、周辺地域と連携した地域活性化の推進
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 中心市街地の賑わい創出	中心市街地振興計画の策定・実行				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 南国市、南国市商工会： 中心市街地の賑わいを創出する企画の策定 ● 南国市： 中心市街地振興協議会における計画の進捗管理 ● 県（地域本部等）： 計画の策定支援及び進捗等の情報共有、関係者への橋渡し 				
◆ 各種イベントの開催や空き店舗の活用等	各種イベントの開催				
	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)海洋堂高知： 施設のPRを兼ねた、ものづくりイベントの企画・実施 ● 南国市、南国市商工会： (株)海洋堂高知と連携した、ものづくりイベントの実施 ポケットパークにおける定期的なイベント開催 軽トラ市、ごめん tete マルシェ等イベントと連携したものづくりサポートセンターから中心市街地への周遊を促す仕組みづくり ● 南国市：地域おこし協力隊の採用 ● 県（地域本部等）：関係者への橋渡し 				
	中心商店街における空き店舗の活用等				
<ul style="list-style-type: none"> ● 南国市、南国市商工会：空き店舗及び地域資源を生かしたイベントの実施、新規出店者数増へつなげるため、チャレンジジョブ事業の検討及び推進 空き店舗活用の支援策の充実 空き店舗に関する情報収集 ● 南国市商工会：チャレンジジョブの運営、チャレンジャー支援 ● 県（商工労働部、地域本部等）：商店街等振興計画推進事業費補助金による支援 各種支援制度に関する情報提供、関係者への橋渡し 					
◆ 拠点施設の整備・運営等	施設の整備		施設の運営		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 南国市： 施設の設置・管理に係る手続き 施設運営の準備 ● 県（地域本部等） 各種支援制度に関する情報提供、関係者への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ● (株)海洋堂高知：フィギュアの生産開始 ● 南国市： 定期的なイベントの開催 施設への入込客数増に向けた取り組み 来場者に中心市街地を周遊してもらう仕組みづくり 南国市地域経済活性化計画の進捗管理 ● 県（地域本部等）： 施設運営状況等の情報共有、セミナー等の紹介、関係者への橋渡し 		

AP名 (実施地域)	No.11 ヤ・シパークを核とする地域の活性化の推進 (香南市)
実施主体	◎(株)ヤ・シ、香南市
APへの 位置づけ	H27.9月
事業概要	地域の自然や食材を生かした賑わいの拠点づくりを進めるため、ヤ・シパークを核にした仕組みづくりや体制づくりに官民一体となって取り組み、地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 加工所兼店舗の売上高	2,687万円 (H30)	1,817万円	2,237万円		5,587万円
(2) 「道の駅やす」入込数 ※	28.6万人 (R元)	26.8万人	25.7万人	25.8万人	29.8万人

※1～12月

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆売上アップに向けた取り組みの強化

- ・新設の加工所兼店舗「マナマナ」の整備 (H27)
⇒H27 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用
(事業費 6,026.2 万円)
- ・(株)ヤ・シが高知県観光活性化ファンド投資先の(株)ものべみらいと経営指導・助言に関する業務委託契約を締結 (H29)
⇒人材派遣を受けて再建に着手 (H30 より黒字転換)
- ・高知県産品商談会への出展 (H29～R3)
- ・「食の大商談会」(東京) への出展 (H29、R元)
- ・「まるごと高知」との商談 (R2)
- ・食品産業総合支援事業費補助金を活用した PR 強化
- ・IT 導入補助金を活用した HP の作成 (H30)
- ・県版 HACCP 第 2 ステージの認証取得 (R2)

◆ヤ・シパークを核とした地域の活性化の取り組み

- ・ヤ・シパーク将来構想検討会(H29.11月～H30.3月)
⇒産業振興アドバイザーを活用し、『ヤ・シパーク将来構想』を策定 (H30.3月)
- ・ヤ・シパーク活性化推進協議会 (H30～)
- ・(株)ものべみらいによる、ヤ・シパーク指定管理者(株)ヤ・シへの投融資と人材の派遣等による支援 (H30)
- ・観光拠点等整備事業費補助金の活用 (H30)
 - ①【市】ヤ・シパークグランドデザインの策定 (H31.3月)
 - ②【市】マリンスポーツの備品整備
 - ③【(株)ヤ・シ】グランピングの備品整備、イベント開催

- ・ヤ・シパーク整備計画推進調査委託 (R元)
- ・四国初のユニバーサルビーチ実現に向けた取り組み開始 (R2～)
- ・今後の公園整備等の方向性を整理 (R2～R4)
- ・インクルーシブ化に係る設計委託 (R4)

＜主な成果＞

- ・加工所兼店舗の売上高
H27:0円→R3:2,237.2万円
- ・「道の駅やす」入込数
H27:29.7万人→R4:25.8万人
- ・マリンスポーツ体験受入: 507人 (R元.7月～R4.12月)

＜課題＞

- ・加工所兼店舗の売上アップ
- ・外商活動強化、経営改善
- ・店舗の運営体制強化
- ・サイクリングやマリンアクティビティなどの連携による観光拠点化の推進
- ・多様な意見をふまえたインクルーシブ化の検討

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆売上アップに向けた取り組みの強化</p>	<p>加工所兼店舗の売上増への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ヤ・シイ： <ul style="list-style-type: none"> ①【内部の体制強化】 店舗の運営体制の強化、新商品の開発、アイスバーの生産体制の強化、ミーティングの実施等 ②【店舗の周知】 イベントへの出店・出品、自主イベントの開催、情報発信 ③【外販の強化】 商談会への出展、外商活動の強化 ●香南市： 販売機会の増加のための「れんげいこうち」事業等の情報提供、店舗の運営の状況把握 ●県（地域本部）： 新商品開発や店舗の経営改善のための産業振興アドバイザー制度の活用提案 商談会やコンテスト等の情報提供・研修会の案内 販路開拓等の事業者の課題解決のための関係部署からの情報収集と伝達 				
<p>◆ヤ・シイパークを核とした地域の活性化の取り組み</p>	<p>ヤ・シイパークの整備に向けた協議及び合意形成、整備の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ヤ・シイ： 活性化協議会を通じた整備方針の検討及び意見反映 適切な維持管理の実施 観光拠点化に向けた運営体制の確立 ●香南市： 商業施設部分の振興やアクティビティについて、活性化協議会を通じた整備方針の検討 ●県（地域本部、地域観光課、港湾・海岸課）： 活性化協議会を通じた整備方針の策定及び整備の検討 ヤ・シイパークの観光拠点化に向けた関係者間の合意形成 				

AP名 (実施地域)	No.12 香南市における特産品づくりと販売の促進 (香南市)
実施主体	◎(一社)香南市観光協会、香南市内の事業者、香南市
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	香南市の地場産品を事業者が開発し、香南市のカタログ販売やネット販売、ふるさと納税の返礼品などの販路を活用し、香南市全体で販売活動を行い売り出すことで、香南市の知名度の向上や地域の農業者、商業者等の所得の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
特産品の売上高	1億1,975万円(H30)	1億6,966万円	1億1,016万円		1億2,500万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地場産品の開発、販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新事業者の開拓や複数事業者の商品を集めたコラボセット化、季節商品の開発によるカタログ、ネット販売及びふるさと納税返礼品の取扱品の増加 <p>◆地場産品のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)香南市観光協会 地場産品販売促進部によるPR、販売促進 ⇒香南市ギフトカタログによる販売(H22～) ネット(香南まるごと旨市)による販売(H23～) ・ふるさと納税の広報の強化 ⇒「ふるさとチョイス」への掲載(H26～) 楽天市場でのネット掲載(H29～) 香南市ふるさと納税特設サイト「香南日和」の開設(R元) 「香南日和」掲載のPR動画作成(R2) ・ECサイトのリニューアル(R3～4) 	<p><主な成果></p> <p>◆特産品の売上高</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタログ、ネットによる販売額(香南市観光協会) H26:192万円 → R3:990万円 ・ふるさと納税返礼品買取額(香南市) H26:646万円 → R3:1億26万円 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタログ、ネット、ふるさと納税返礼品用商品のさらなる増加 ⇒地域の一次産品を活用した商品開発の促進 ・広報活動の強化(販売機会の増加) ・商品販売体制の強化 ⇒事業者が注文を受ける体制づくり
--	---

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆ 地場製品の開発、販売促進</p>	<p>新商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 香南市内の事業者： <ul style="list-style-type: none"> 特に香南市産の原材料を使った新商品の開発 香南市内での加工・生産・販売 ● (一社)香南市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 会員の増加 ● 香南市： <ul style="list-style-type: none"> コラボ商品や季節商品の企画によるふるさと納税返礼品の増加 商品企画・開発を支援するための市産振補助金の市内事業者への提案 ● 県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 新商品の試作品づくりに対する産業振興アドバイザーの活用提案 				
<p>◆ 地場製品のPR</p>	<p>商品販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 香南市内の事業者： <ul style="list-style-type: none"> 食品表示の適正表示 問い合わせ対応の強化 ネット販売・システム化の推進 ● (一社)香南市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 県内外のイベントでの特産品販売・カタログ等の配布 香南市内外でのフェア・大会等のギフト・景品としての詰合せギフトの活用促進 ● 香南市： <ul style="list-style-type: none"> 各種ふるさと納税サイトやPR冊子等を用いた情報発信 商品の販路拡大を支援するための市産振補助金の活用提案 ● 県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 外商を促進するための商談会の情報提供、表示や衛生管理に関する研修の案内 販路開拓等に関する相談の受付・支援機関への情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.13 香南市中心市街地の振興 (香南市)
実施主体	◎香南市、◎香南市商工会
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	香南市の中心市街地において、補助金を活用した利用可能な空き店舗の改修等により、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、周辺の観光施設等と連携し、中心市街地を核とした地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
空き店舗等を活用した 新規開業数	0件 (H30)	0件	0件	1件	8件 (累計)

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆空き店舗対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市空き店舗等対策事業費補助金の創設 (H28) ⇒空き店舗改修等に対する補助 ⇒要綱改正 (R元) 補助対象を商店街の活性化から商業活性化へと拡大 活用実績：1件 (H28～R元累計) ⇒要綱改正 (R3) 対象業種を拡大し (高知県信用保証協会の定める保証対象業種を対象とする) ⇒要綱改正 (R4) 補助率及び補助上限額の引き上げ (補助率4分の1、上限額500千円とする) ・商工会等HPへの空き店舗物件情報の掲載 (H30) ・チャレンジショップ実現可能性の検討 (R元) ・空き店舗実態調査 (野市町) の完了 (R3) <p>◆運営体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市産業振興計画における取り組みの位置付け (R元) ・香南市中心市街地活性化協議会の開催 (R4) ・香南市中心市街地活性化WGの開催 (R4) ⇒香南市中心市街地活性化計画の策定 (R4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗等を活用した新規開業数 1件 (R4) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗補助金の活用による創業の促進 ・空き店舗情報の把握と関係者間での共有 ・空き店舗情報の発信 (市内外へのPR) ・新規創業希望者へのサポート体制の確立 ・香南市中心市街地活性化計画アクションプランの実施主体の決定
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆空き店舗対策	空き店舗実態調査等の実施		空き店舗解消に向けた取り組みの推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●香南市： 空き店舗実態調査の実施 空き店舗のリスト化 ●香南市商工会： 県・市との連携及び情報共有 ●県（商工労働部、地域本部等）： 支援制度についての情報提供等 		<ul style="list-style-type: none"> ●香南市： 情報発信による周知 （空き店舗情報、事業承継支援等） 補助金による改修の促進 空き店舗を活用した事務系企業誘致の促進 ●香南市商工会： 県・市との連携及び情報共有 空き店舗を活用した創業、事業承継に対する支援 空き店舗情報等の積極的な情報発信 ●県（商工労働部、地域本部等）： 支援制度についての情報提供、伴走支援等 		
◆運営体制の 確立	中心市街地活性化計画の策定		中心市街地活性化計画の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●香南市： 中心市街地の中長期的な戦略の策定 ●香南市商工会： 計画策定への参画、意見反映等 ●県（商工労働部、地域本部等）： 計画策定に対する支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●香南市、香南市商工会： 地域事業者と連携したアクションプランの推進 ●香南市、県（商工労働部、地域本部等）： 商店街等振興計画推進事業費補助金による支援 ●県（商工労働部、地域本部等）： 関係機関との橋渡し、情報提供、伴走支援等 		

AP名 (実施地域)	No.14 香美市における特産品づくりと販売の促進 (香美市)
実施主体	◎(一社)香美市観光協会、香美市内の事業者、香美市
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	地域資源を生かした加工品や地域産品、伝統工芸品などの香美市ブランド商品の開発及び磨き上げにより、香美市観光協会において行っているインターネット販売や香美市ふるさと納税返礼品としての取り扱いを増加させることにより、香美市のPRと共に事業者の所得向上、地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 特産品の売上高	6,380万円 (※)	6,164万円	5,049万円		7,600万円
(2) 取扱商品数	194品目	214品目	246品目		200品目

※取り扱い開始からH30年度までの平均値

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p>◆特産品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 産振補助金(ステップアップ)、農業創造セミナー等を活用した新商品開発(H24～R2、R4食品加工グループ) <p>◆販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地場産品販路拡大推進事業(れんけいこうち) 県外見本市への出展募集(H30～) 首都圏アンテナショップ出店に伴う商品募集(H30～) コロナウイルス経済対策「TSUNAGU～高知家の底チカラ～」のイベント出店(R3) 圏域事業者販売等支援事業(れんけいこうち) JA複合商業施設「とさのさと AGRI COLLETTO」への出品商品募集(H30～) 日曜市出店(R2～) 金高堂書店前出店(R2～) 集マルシェ出店(R2～) <p>◆経営安定化・後継者育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 増産体制の確立 経営安定化による所得向上 HACCP研修への参加 R2:8事業者 	<p>◆特産品の売上額</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税返礼品買取額: 6,320万円(H26～30平均)→R元: 7,569万円→R2: 6,091万円→R3: 4,967万円 「香美市のばざー」販売額: 60.1万円(H24～30平均)→R元: 32.5万円→R2: 73.5万円→R3: 82.0万円 <p>◆取扱特産品数</p> <ul style="list-style-type: none"> 香美市ふるさと納税 H26: 6件 → H30: 178件 →R元: 222件→R2: 214件→R3: 246件 香美市のばざー H24: 22件 → H30: 16件 →R元: 20件→R2: 25件→R3: 21件 <p>◆特産品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部イベントへの参加による認知度向上 まるごと高知出品開始(R3～) ネットヨタ高知でのイベント景品として採用(R2) 地元産品で製造したお酒の開発(R2) ANA搭乗キャンペーン商品として採用(R3～) <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットショッピングの利用者拡大、PR 小規模事業者の経営改善(生産能力向上、後継者育成、事業継承、各種制度への対応、営業力強化)

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆特産品の開発	地域資源を生かした特産品の開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●香美市内の事業者： 地域産材を活用した新たな魅力ある特産品の開発、改良 ●県（地域本部等）： 新商品開発のための6次産業化セミナーの受講や産業振興アドバイザー及び食品ビジネスまるごと応援事業等各種補助事業の活用提案 香美市ものづくり会議（事務局：香美市）に委員として出席し、物部川ブランドとして売り出せる特産品の発掘、商品化を推進 				
◆販売促進	販路の拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●（一社）香美市観光協会： 各種イベントでの積極的な特産品販売、インターネット販売の紹介及び継続的な販売による売上の向上 ●香美市内の事業者： 商談会や見本市への出展による販路拡大、イベント出展による商品PR及び売り上げ向上、新商品開発 ●県（地域本部等）： 新商品開発や商品磨き上げについて研修紹介や補助金活用支援、商談会やイベント出店支援 ●香美市： ふるさと納税返礼品としての取り扱いにより商品PR及び販売拡大支援 				
◆経営安定化・ 後継者育成	経営改善、製造販売体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●香美市内の事業者： 高知県版 HACCP の認証取得、食品表示の適正表示、事業計画書の作成、規模拡大の検討 ●県（地域本部等）： 各種講習等の紹介及び支援、事例紹介、商工会との連携支援、集落活動センターとの連携支援 衛生管理や食品表示等に関する各種セミナー受講提案 				
	人材育成、事業継承				
<ul style="list-style-type: none"> ●香美市内の事業者： 人材確保、後継者育成、事業継続方針の検討 ●県（地域本部等）： 移住促進・人材確保支援センターや求人ネットなどの活用など各署と連携し支援 					

AP名 (実施地域)	No.15 香美市の伝統産業（土佐打刃物、フラフ）の振興 (香美市)
実施主体	◎高知県土佐刃物連合協同組合、◎フラフ製造業者、香美市商工会、(一社)香美市観光協会、香美市
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	国指定伝統的工芸品である土佐打刃物及び高知県伝統的特産品であるフラフの後継者育成及び販路拡大を図るため、鍛冶屋創生塾による人材育成とともに、観光事業との連携やイベント開催、ネット販売などを強化する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 創生塾入塾者数	3名 (R元)	3名	6名 (R2~3累計)	6名 (R2~4累計)	9名 (R2~5累計)
(2) 新規就業者数	0名 (R元)	0名	2名 (R2~3累計)	2名 (R2~4累計)	4名 (R2~5累計)

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p>◆人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市ものづくり会議における土佐打刃物、フラフ振興に関する協議（R4：2回） ・伝統的工芸品産業支援補助金（国）及び伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業補助金を活用し研修を実施（R元～） ・鍛冶屋創生塾運営委員会の開催（R4：3回） ・鍛冶屋創生塾2期生入塾（R3）、3期生募集（R4） <p>◆伝統的工芸品等の普及及び販売促進、認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税での取り扱い及び香美市観光協会ネットショップでの販売（H24～） ・市役所庁舎をはじめ市内各所へのフラフの掲揚（H29～） ・「フラフのある風景コンテスト」の開催（R3～） ・観光客向け工場見学、フラフ染め体験の受入（R元～） ・産業振興センターにてフラフ常設展示開始（R2～） ・フラフエコバックを制作(R2)、市内量販店で販売（R3～） 	<p>◆地場産業（土佐打刃物、フラフ）後継者数</p> <p>鍛冶屋創生塾第2期生入塾者：3名（R3） 第1期生卒業：3名（R3） （新規就業2名、講師補助1名）</p> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍛冶屋創生塾卒業後の職人育成体制の構築 ・継続した入塾者の確保 ・伝統的工芸品等の認知度向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆人材育成	<p>鍛冶屋創生塾における人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鍛冶屋創生塾： <p>SNSによる鍛冶屋創生塾の情報発信等による継続的な入塾者確保、人材育成及び業界への人材供給</p> ●県（地域本部等）： <p>鍛冶屋創生塾の運営補助金活用支援、求人ネットの活用等による入塾者募集支援、関係機関との連携支援</p> <p>鍛冶屋創生塾卒業生の就業及び研鑽の場の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鍛冶屋創生塾、高知県土佐刃物連合協同組合、香美市、県（地域本部等）： <p>鍛冶屋創生塾での職人としての育成状況を踏まえ、鍛冶屋創生塾運営委員会において、研鑽の場の確保や就業及びさらなる育成体制を検討・構築</p> 				
	◆伝統的工芸品等の普及及び販売促進、認知度向上	<p>土佐打刃物・フラフの普及促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県土佐刃物連合協同組合、フラフ製造業者、(一社)香美市観光協会、香美市商工会： <p>視察受け入れや教育機関・観光事業者と連携した体験及び見学による伝統産業の普及</p> ●香美市： <p>香美市ものづくり会議を主催し、伝統的工芸品等の振興及び普及促進について協議・実行（市内各所でのフラフの掲揚等）</p> ●県（地域本部等）： <p>香美市ものづくり会議へ参画し、土佐打刃物・フラフの普及等の諸課題について検討</p> <p>土佐打刃物・フラフの新たな販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県土佐刃物連合協同組合、フラフ製造業者、(一社)香美市観光協会、香美市商工会： <p>販路開拓のため新商品の開発やイベント等への出店、インターネットでの販売、PR・広報の強化</p> ●県（地域本部等）： <p>県内施設及びアンテナショップ等への販売取り次ぎ、商談会の紹介、関係機関への橋渡し</p> 			
<p>【用語】・鍛冶屋創生塾：伝統的工芸品である土佐打刃物職人育成を担う2ヶ年研修施設（令和元年11月開塾：産業振興推進総合支援事業費補助金活用）</p> <p>・フラフ：「旗」を意味するオランダ語・英語が語源と言われ、大漁旗をイメージしてできたもの。男児の健やかな成長を願って、端午の節句に鯉のぼりと並んで立てられる。男児誕生の祝いとして親戚から家紋や名前を入れたフラフを贈るのが慣わしである。</p>					

AP名 (実施地域)	No.16 土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化 (香美市)
実施主体	◎えびす街協同組合、香美市商工会、香美市
APへの位置づけ	H26.9月
事業概要	香美市の中心商店街である土佐山田えびす商店街の情報交流拠点施設「ふらっと中町」の情報発信力を強化し、商店街内の空き店舗の活用等により、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、商店街を含む地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
空き店舗を活用した新規開業数	3件 (H30)	4件	6件 (R2～3累計)		16件 (R2～5累計)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆商店街を含む地域の活性化策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふらっと中町及び商店街等との連携強化 チャレンジショップ運営委員会の開催 (H28～) ・ふらっと中町の集客に向けた各種イベントの開催 ・空き店舗及びチャレンジショップを活用した開業支援 ・チャレンジショップの機能充実 ・地域づくり支援員による商店街内の空き店舗の実態調査の実施 (H27～) ・香美市中心商店街活性化協議会の開催 (R4: 1回) <p><主な成果></p> <p>◆商店街を含む地域の活性化策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふらっと中町における年間集客者数 R元:3,649人→R2:3,737人→R3:4,650人 ・ふらっと中町の運営における雇用の創出 (H27～: 1名) ・チャレンジショップに関する問い合わせの増加 ・ふらっと中町におけるマルシェの開催 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の空き店舗の活用の促進 ・空き店舗活用のための改修(耐震化、水回り等)費用負担 ・ふらっと中町、チャレンジショップの集客数の増

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆商店街を含む 地域の活性化 策の推進	空き店舗調査の実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●香美市： <ul style="list-style-type: none"> 地域づくり支援員による空き店舗調査の実施 開業希望やチャレンジショップ活用に関する問い合わせへの対応 ●香美市商工会： <ul style="list-style-type: none"> 空き店舗の情報収集 				
	「ふらっと中町チャレンジショップ」の運営				
<ul style="list-style-type: none"> ●えびす街協同組合： <ul style="list-style-type: none"> チャレンジショップを活用したチャレンジャーの開業支援 集客力のあるイベント開催によるPR SNSによる情報発信 ●香美市商工会： <ul style="list-style-type: none"> チャレンジショップへの運営補助による支援 運営に関するアドバイス ●香美市、県（商工労働部、地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> チャレンジショップ運営委員会への出席 商店街等振興計画推進事業費補助金による支援 					
空き店舗を活用した新規開業支援					
<ul style="list-style-type: none"> ●香美市： <ul style="list-style-type: none"> 地域づくり支援員による空き店舗活用策の提案 耐震化及び水回り等の改修費用に係る負担軽減策の検討 ●香美市商工会： <ul style="list-style-type: none"> 開業時のアドバイスの実施 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 新しい生活様式に対応するため、キャッシュレス化やデジタル化への支援 各店舗の情報発信の向上支援（Wi-Fi環境整備への支援） 集客力のあるイベント実施 </div>					

AP 名 (実施地域)	No.17 香美市における地域食材を活用したクラフトビールの製造・販売 (香美市)
実施主体	◎(同)高知カンパニーブルワリー、香美市商工会、香美市
AP への 位置づけ	H30.9月
事業概要	高知県産の食材を活用したクラフトビールを開発し、生産規模の拡大及び安定的な稼働体制を確立するとともに、商工会や観光協会等と連携し、地元商店街のにぎわい創出を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
クラフトビールの売上高	1,805 万円 (H30)	3,210 万円	4,032 万円		4,100 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発に係る情報発信、製造機器の設置等 ⇒H30 産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業）の活用（事業費 44.8 万円） ・小規模事業者持続化補助金を活用した生産量拡大及び品質管理に係る設備導入（R 元） ・事業再構築補助金によるブランド体験型施設と本格ビール工場の新設（R3～4） ・クラウドファンディングを活用した施設整備（R4） <p>◆積極的な地産外商の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンテナショップ「まるごと高知」での販売、レストラン「土佐のおきゃく」での提供（H30～） ・香美市ふるさと納税・返礼品に登録（H30～） ・「モンベル アウトドアヴィレッジ本山ビジターセンター」「スノーピークかわの駅おち」等での販売開始（R 元） ・ロコノ星（全国 10 地域テレビ局連携事業）にてインターネット販売開始（R2） ・伴走型小規模事業者支援推進事業を活用し、PR 動画作成（R2） ・フェアやイベントへの出店（5 回） <p>◆地元商店街のにぎわい創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市内飲食店等での提供：4 店舗 ・香美市内量販店での販売：4 店舗 ・地元イベントへの参加（1 回） 	<p><主な成果></p> <p>◆生産体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的、安定的な増産体制の確立に向けた計画の策定 ⇒ 雇用の創出 2 名（R4） <p>◆積極的な地産外商の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産素材を使った季節限定品の開発・販売 ⇒ ミルクマンゴーハイジール、黒糖スタウト（R3）、土佐ベルガモットビール（R4） ・地域の農産物を使った地域限定品や OEM 商品の販売 ⇒ 日高トマト、四万十ぶしゅかん、なかとさ莓ビール（R2）、四万十地栗エール（R3） ・TOSA REIHOKU BEER としてこめホワイトエールと赤しそサワーエールの 2 つをブランド化。嶺北地方全域の飲食店小売店等で販売・提供開始（R2） ・にっぽんの宝物グランプリ（高知大会） スイーツ・ドリンク部門 準グランプリ受賞：榎の森を味わう（クラフトビールとペアリングフード）（R2） ・ジャパングレートビアアワーズ ハーブ及びスパイス ビール部門 金賞受賞：榎の森ハイジール（R2） ・四国アライアンスビジネスプランコンテスト 最優秀受賞（R3） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備投資計画の策定 ・製品管理システムの導入及び県版 HACCP 認証取得 ・商品力の向上及びブランドの確立

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の構築	<p>設備投資、増産体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(同)高知カンパニーブルワリー：移転場所、設備投資の検討・着手 ●香美市商工会：移転場所、設備投資に係る助言 ●県（地域本部等）：活用可能な支援策に係る情報提供 				
	<p>雇用の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(同)高知カンパニーブルワリー：専門機関（高知県移住促進・人材確保センター、ハローワーク等）と連携した労働力の確保 ●県（高知県移住促進・人材確保センター、地域本部等）：活用可能な支援策の情報提供 				
◆積極的な地産外商の推進	<p>戦略的なPR、フェアやイベントへの積極的な出店、ブランドの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(同)高知カンパニーブルワリー：商品コンセプトに合致したイベント等への積極的な出店 販路開拓に向けた営業及び戦略的な情報発信 ●香美市商工会：販路開拓に向けた仕組みづくり等の支援 ●香美市：ふるさと納税返礼品への認定等、地産外商の取り組みを支援 				
	<p>新たな商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(同)高知カンパニーブルワリー：季節感や地域特性の食材を活用した商品の開発、話題創出 ●県（地域本部）：アンテナショップ「まるごと高知」を活用したテストマーケティング等の支援 				
	<p>県版 HACCP の認証取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(同)高知カンパニーブルワリー：第2ステージ、第3ステージの認証取得 				
◆地元商店街のにぎわい創出	<p>地元イベントへの出店、商店街との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(同)高知カンパニーブルワリー：地元イベント（「香美バル」「刃物まつり」等）への出店 ●香美市商工会：イベント等の情報提供 				
	<p>地元食材を活用したご当地グルメの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(同)高知カンパニーブルワリー：地元食材生産者、飲食店とのコラボを検討 				

AP 名 (実施地域)	No.18 物部川地域における広域観光の推進 (物部川地域全域)
実施主体	◎(一社)物部川 DMO 協議会、南国市、香南市、香美市、(一社)南国市観光協会、(一社)香南市観光協会、(一社)香美市観光協会、(株)ものべみらい、観光事業者
AP への位置づけ	H24.4 月
事業概要	物部川地域の自然、観光施設、体験メニュー等の多様な観光資源を広域的に組み合わせ、魅力的な観光商品とするとともに、民間事業者の視点も踏まえて地域の観光資源を一層磨き上げ、情報発信を行うことにより、観光客の広域的な誘致を推進し、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
主要観光施設入込数 (9 施設) ※	70.7 万人 (H30)	46.1 万人	58.6 万人		89.8 万人

※ 4～3 月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆広域観光組織の体制強化と関係団体との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高知県における観光による地域活性化に関する連携協定」締結(県、(株)四国銀行、(株)地域経済活性化支援機構) ⇒「高知県観光活性化ファンド」設立 (H27) ・物部川地域を DMO 構築のパイロット地域に選定 ・「物部川地域観光基本計画」の策定 (H28.3 月) (県、(株)四国銀行、REVIC、南国市、香南市、香美市) ・「物部川 DMO 協議会」が発足 (H28) ・協定に基づきファンド資金と REVIC 人材により DMO 構築の司令塔役として(株)ものべみらい設立 (H28) ・物部川 DMO 協議会が事務局職員を採用・配置し、各事業の運営開始 (H29) ・物部川 DMO 協議会の一般社団法人化 (H31.3 月) ⇒第 3 種旅行業登録 (R 元) ・日本版 DMO 候補法人登録 (R 元) ・登録 DMO 登録 (R4.3 月) ・滞在型観光プラン整備計画の策定 (R2) ・観光地域づくり推進員の採用 (R3) <p>◆観光商品の充実・観光客の広域誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリア内観光素材の調査、体験プログラム素材の掘り起こし ・協議会公式 HP 及び SNS の構築 (H28) ・ミキハウスウェルカムファミリー観光地エリアの認定 (H29) ・ビッグデータ活用による観光動態調査の実施 (H29～30) ・お客様ニーズに沿った商品企画造成・販売実施(H30～) ・ファミリー層向け広域観光パンフレット「とりせつ」作成(H29～) ・商談会等で旅行会社へセールス(H29:4 回、H30:17 回) 	<p>R 元 : 10 回、R2 : 21 回、R3 : 9 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘客多角化事業 (観光庁) の採択によるバリアフリー観光の推進 (R2) ・地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業 (観光庁) の採択によるバリアフリー観光の推進 (R4) <p>◆地域連携による周遊促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携企画イベントの開催 (H28:「おさかなクリスマス in 高知ものべがわ」、H29～ (年 1 回)「ものべがわフェスタ」) ・ものべ SSS 認証制度の制定 (R2～) <p>R2 : 14 団体、R3 : 13 団体 計 : 27 団体</p> <p>◆物部川地域の観光に携わる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリア内事業者向け研修・モニターツアーの実施 (H30～) ・高知大地域協働学部との協働により旅行商品の造成及び販売の実施 (R2.1 月) <p><主な成果></p> <p>◆DMO 協議会の一般社団法人化等によるガバナンスの強化 ⇒広域観光組織の位置づけ(地域のセールス役)の明確化 3 市の官民による「観光地域づくり」の連携体制の構築</p> <p>◆ものべがわフェスタ来場者数 H28 : 3,000 人→R 元 : 6,000 人 (R2、3 : 開催なし) R4 : 1,039 人 (雨天開催)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物部川地域 3 市の行政機関、関係機関が役割分担し協働することによる持続的広域観光推進のための地域体制強化 ・周遊促進のための旅行商品の造成・販売 (旅行業の活用) ・物部川エリアのブランド化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆広域観光組織の体制強化と関係団体との連携強化	(一社)物部川 DMO 協議会の組織体制の強化				
	物部川広域観光振興中期計画の更新及び誘客戦略の立案・実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)物部川 DMO 協議会、(株)ものべみらい：観光地域づくり法人 (DMO) 登録に向けた取り組みの推進、登録 DMO への登録、マーケティング機能強化 		<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)物部川 DMO 協議会、(株)ものべみらい：マーケティング調査の分析に基づく広域観光振興中期計画の更新及び誘客戦略の立案・実施 		
地域内での連携体制の整備・運用					
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)物部川 DMO 協議会、南国市、香南市、香美市、3市観光協会：圏域内で協力して観光地域づくりを行うため、市もしくは観光協会を窓口とした連携体制の整備及び運用 					
◆観光商品の充実・観光客の広域誘致	各市における観光商品の充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)物部川 DMO 協議会：物部川地域を対象とした新たな観光資源 (体験メニュー等) の発掘・磨き上げ 3市観光協会が行う観光商品づくり等への支援 ●3市観光協会：関係団体や事業者等との連携による新たな観光資源 (体験メニュー等) の発掘・磨き上げ 土佐の観光創生塾等を通じた商品づくり 				
	圏域における旅行商品の企画造成・ユニバーサルツーリズムの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)物部川 DMO 協議会：圏域内での周遊ツアー・地域イベントを組み込んだツアー商品・教育旅行プラン等旅行業を活用した旅行商品の企画造成 誘客多角化事業、エリア内調査、人材の育成、エリア内施設のバリアフリー化等によるユニバーサルツーリズムの推進 				
	戦略的なセールス・PR・インバウンド対策の実施				
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)物部川 DMO 協議会：ターゲット層及びエリアに即した国内外の旅行エージェント等に対するセールスの実施、商談会への出席、マーケティング調査の分析、戦略の策定・共有、広域観光パンフレット・HP・SNS 等を活用したターゲット層への訴求力のあるエリア情報発信、各種広報媒体の多言語化、国外の旅行者・メディア等を対象とした視察旅行の実施 ●県 (地域観光課、地域本部等)：外国人対応研修等に関する情報提供 					
◆地域連携による周遊促進	連携企画等の実施				
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)物部川 DMO 協議会：圏域一体での観光地域づくりの意識醸成と圏域内への周遊促進を図るため、地域内の関係者連携による3市連携イベント (ものべがわフェスタ) 等を企画・実施 					
◆物部川地域の観光に携わる人材の育成	物部川地域の観光関係者の人材育成				
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)物部川 DMO 協議会：広域観光推進のための知見の拡大・共有を目的とし、先進地視察や圏域内の観光情報の共有のためのエリア内研修の実施 ●県 (地域観光課、地域本部等)：県等が実施する研修の情報提供 					

【用語】・観光地域づくり法人 (DMO)：地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。観光庁が登録を所管。令和2年4月から登録基準の厳格化に伴い、名称を「日本版 DMO」から「登録 DMO」に、「候補法人」から「候補 DMO」に変更。

AP名 (実施地域)	No.19 南国市の地域資源を活用した観光の推進 (南国市) ※地域産業クラスタープロジェクト関連 (南国市農業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一社)南国市観光協会、南国市、南国市観光クラスター連絡協議会、市内各観光に関わる企業・団体・グループ
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	地域が誇る史跡資源(長宗我部等)を活用したイベント・ツアーへの参加をきっかけとして、周辺の観光名所・施設への来訪など市内観光を推進するとともに、ものづくりサポートセンターを核とした県外からの誘客促進に繋げる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
主要観光施設入込数 ※	46.9万人 (H30)	29.2万人	38.8万人		55.0万人 (4施設)

※1～12月 R元以前：3施設計 R2以降：4施設計

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長宗我部元親ラリーの実施 (H22～) ・長宗我部フェスの開催 (H22～) ・岡豊山さくらまつり・土佐の食1グランプリの開催 (H22～) ・周辺の観光施設・史跡・店舗等の紹介と経路、交通手段、所要時間等をわかりやすく表示したパネル、ポスター及びパンフレットの作成・配布や、市内中心部を案内できるボランティアガイドの養成 (H28) →H28 歴史観光資源等強化事業費補助金の活用 (事業費 110.2万円) ・移動販売車(キッチンカー)の導入による南国市観光のPR (H29、南国市観光クラスター連携協議会) ・女性をメインターゲットにした周遊マップの作成(H29) →H29 歴史観光資源等強化事業費補助金の活用 (事業費 454.4万円) ・観光施設連絡会の設立 (R2) ・地域の頑張る人づくり補助金を活用したガイド養成 (R3) ・なんこく旅たびクーポンによる誘客促進 (R3) ・土佐の観光創成塾の受講→オンラインによる体験プランの販売開始 (R3～) 	<p>◆観光協会の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市観光協会に専任スタッフを配置 (H24～) <p><主な成果></p> <p>◆主要観光施設入込数のうち、歴史文化施設(県立歴史民俗資料館)入館者数</p> <p>H30：2.5万人→R元：2.9万人 →R2：1.2万人 →R3：1.2万人 ※R2.9.7～R3.4.28まで耐震工事のため休館 →R4：2.7万人(11月末時点)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源及び長宗我部元親ラリー、長宗我部フェスなどの既存の取り組み(イベント)の魅力向上 ・観光協会の体制強化 <p>※主要観光施設</p> <p>R元まで：西島園芸団地、県立歴史民俗資料館、道の駅南国風良里</p> <p>R2以降：西島園芸団地、県立歴史民俗資料館、道の駅南国風良里、南国市ものづくりサポートセンター (R3.3.21オープン)</p>

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆観光の推進	観光メニューづくり、既存メニューのブラッシュアップ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)南国市観光協会、南国市、市内各観光に関わる企業・団体・グループ： 既存の観光メニュー、イベントのブラッシュアップや、新たなメニューづくり、周遊ルートを提案・実施 ●県（地域本部等）： 物部川地域全体としての観光を促進するため、必要に応じて関係機関等への橋渡し 				
◆観光協会の体制強化	SNS やメディア等のツールを有効活用した情報発信、プロモーション活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)南国市観光協会： 観光パンフレットの発刊、SNS 等での情報提供、旅行雑誌等への売り込みの実施 ●事業者： 移動販売車（キッチンカー）を用いた、観光・特産品の PR ●県（地域本部等）： 広報の協力（広報広聴課 Twitter などへの投稿）等 				
◆観光協会の体制強化	会員増に向けた取り組み、会員への支援				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)南国市観光協会： 会員増に向けた新規会員の掘り起こし SNS・パンフレット等による会員の店舗やイベント等の PR の実施 				
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.20 南国市の観光農園を活用した体験型・滞在型観光の推進 (南国市)
実施主体	◎(株)西島園芸団地、南国市、(一社)南国市観光協会、(一社)物部川 DMO 協議会、 南国市観光施設連絡会
APへの 位置づけ	R3.4月
事業概要	南国市観光の中核である観光農園を時代の変化、顧客ニーズに対応したリブランディングにより磨き上げ、魅力的な観光施設として広域的な観光客の誘致を推進するとともに、生産された青果の外商の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 観光客入込数 (1~12月)	106,191人 (R元)	64,789人	95,852人	120,023人	100,000人
(2)年間売上額※	3億2,672万円 (R元)	3億994万円	3億883万円	3億4,372万円	3億6,000万円

※会計年度：8~7月

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農事組合法人「西島園芸団地」設立 (S46) ・観光農園事業開始 (S54) ・株式会社化 (H25) <p>◆全体コンセプトの構築とリブランディング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザー (課題一貫支援型) の活用による短期・中期の事業計画の策定 (R2~R4) ・SWOT分析の実施 (R2) ・ブランディング戦略の検討 (R2~) ・事業構想の策定 (R4) <p>◆新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザー (課題一貫支援型) の活用による新商品開発 (R2~R3) ・6次産業化セミナー実践コースの受講による新たなカフェメニューの開発 (R3) ・新たなカフェメニューの開発 (R4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの改修、イチゴの高設栽培面積の増反、体温計・自動手洗い設備の導入 (R2) ・スイカパンの発売 (R3.7月) ・通販サイトリニューアル (R3.6月) ・イチゴ狩りのWEB予約システムの導入 (R3.12月) ・新たなカフェメニューの提供 (R4.1月~) ・フルーツ券の拡充 (R4.5月~) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年をピークに年々観光客は減少傾向 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による大型バス、個人客の来場減 ・施設の老朽化 ・時代の変化・顧客ニーズにあわせた施設運営 ・自社の農産物を使った加工品の開発 ・人材の確保・育成 ・生産資材価格の高騰

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆体制強化	事業計画策定			計画の実施、見直し	
	<ul style="list-style-type: none"> ●西島園芸団地：SWOT 分析を踏まえた事業計画の策定 ●南国市・県（地域本部等）：計画策定に対する支援 			<ul style="list-style-type: none"> ●西島園芸団地：事業計画の進捗管理、状況に応じた見直し ●南国市・県（地域本部等）：各種支援策の情報提供等 	
	人材の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●西島園芸団地：OJT による人材の確保・育成、各種セミナー等への参加 ●南国市・県（地域本部等）：関係機関への橋渡し、各種支援策、セミナー等の情報提供 				
◆全体コンセプトの構成とリブランディング	コンセプト構築・施設改修内容検討			施設改修	
	<ul style="list-style-type: none"> ●西島園芸団地：SWOT 分析、アドバイザーのアドバイスを踏まえたコンセプト構築 ●南国市・県（地域本部等）：助言・情報提供 			<ul style="list-style-type: none"> ●西島園芸団地：コンセプトを踏まえた施設改修 ●南国市・県（地域本部等）：補助事業による支援 	
◆新商品の開発	新商品の開発・販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●西島園芸団地：消費者ニーズを踏まえた新商品の開発、パッケージ改良等既存商品の磨き上げ、各種商談会への参加、自社加工場の県版 HACCP 対応 ●南国市・県（地域本部等）：アドバイザーの活用提案、県等が主催する商談会や各支援策等の情報共有 				
<p>【用語】・リブランディング：時代や顧客にあわせ、既存のブランドの再構築を含めた新たなブランドを構築すること。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.21 香南市におけるスポーツ・体験観光等の取り組みの推進 (香南市) ※地域産業クラスタープロジェクト関連(日本一の二産地拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一社)香南市観光協会、香南市、地域の体験メニュー等提供団体
AP への位置づけ	H21.4月
事業概要	香南市の海と山と文化や歴史などの地域観光資源を活用したスポーツ・体験観光を推進するとともに、様々な観光スポット等と連携した周遊プランの造成・情報発信を行うことにより、地域外からの交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 主要観光施設入込数 (10施設)※	106.0万人 (H30)	90.7万人	96.2万人	102.3万人	117.0万人
(2) 参加人数 (スポーツ・体験観光)	181人 (H30)	298人	181人		960人

※ 1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆旅行商品の造成と販売 <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)香南市観光協会による旅行商品化に必要な香南市内の観光情報の一元把握を開始(H21～) ・香南市観光協会の一般社団法人化及び旅行業第3種の登録(H22)：旅行商品の企画から販売までの体制の整備 ⇒土佐塩の道ウォーキング、トレイルランニングレース大会、サンセットシーカヤックツアーなどの企画販売の実施 ◆地域の観光情報の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・地元団体によるウォーキング、トレイルランニング、マリンスポーツやサイクリングイベントの開催に際しての情報発信(随時) ・香南二塩焼そばなど、地域の特産品を活用したメニューや飲食店等の情報発信(随時) ◆スポーツ・体験観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・レンタサイクル事業の強化、サイクルイベント等の実施(H30～) ⇒自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会 四国ブロック会議の実施(R元) ・ヤ・シイパーク西側自転車道の開通(R2) ・物部川右岸河川敷自歩道の整備(R2) ・香南市自転車活用推進推進計画の策定(R2～3) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆主要10施設の観光客入込 <ul style="list-style-type: none"> H30：106万人 → R元：104.5万人 →R2：90.7万人→R3：96.2万人→ R4：102.3万人 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 対象：10施設 県立のいち動物公園、月見山こどもの森、ヤ・シイパーク 絵金蔵、天然色市場、やすらぎ市、あぐりのさと、黒潮温泉 創造広場「アクトランド」、土佐カントリークラブ </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆スポーツ・体験観光の参加人数 <ul style="list-style-type: none"> H30：181人 → R元：188人 →R2：298人 →R3：181人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品の継続的な企画・販売 ・体験メニュー等、地域の観光素材を活用した観光商品の開発 ・エージェントに対する効率的かつ効果的なプロモーション ・地元団体の高齢化等による人材不足 ・with コロナ下での適切な観光商品の開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆旅行商品の 造成と販売	旅行商品の造成と販売の実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)香南市観光協会：コースプラン作成と販売、旅行代理店への売り込み、旅行商品化に必要な観光情報の一元把握 ●香南市：観光に関係する香南市内の状況等についての情報共有 ●県（地域本部等）：支援策の提供 				
◆地域の観光 情報の発信	インターネット、SNS等を活用したPRの展開				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)香南市観光協会：ホームページ、SNS、OTA等を活用した情報発信 香南二郎塩焼きそば等の地域の特産品やグルメ情報の発信 ●地域の体験メニュー等提供団体：二郎等の地域の特産品を活用したメニュー開発及び提供 ●香南市：市ポータルサイト等での情報発信への協力、関係機関等への橋渡し、調整 ●県（地域本部等）：県Twitter等への投稿 				
◆スポーツ・体験 観光の推進	サイクリストの誘致、サイクルツーリズムの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)香南市観光協会：サイクルイベントのPR、宿泊施設等と連携した旅行商品化 ●香南市：レンタサイクルの実施、各種サイクルイベントの主催及び支援 ●県（地域本部等）：誘致に関する支援策等の提供 				
	サイクリングロードの整備、サイクリストのための環境整備				
<ul style="list-style-type: none"> ●香南市：国と連動した基盤整備、ブルーラインの設置等 サイクルオアシス導入の推進、サイクリングターミナルの活用・再整備の検討 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 					
<p>【用語】・OTA：インターネット上で取引を行う旅行会社のこと。Online Travel Agentの略。店舗営業を行う旅行会社のオンライン販売はOTAとは呼ばない。国内外の宿泊や航空券などの手配旅行、宿泊と航空券をセットにしたダイナミックパッケージ、施設とお客様が直接契約する宿泊仲介、旅行保険などを取り扱うことが多い。</p>					

AP名 (実施地域)	No.22 三宝山エリアにおける観光拠点化の推進 (香南市)
実施主体	◎民間事業者、香南市
APへの 位置づけ	H28.4月
事業概要	香南市のシンボルである三宝山を核として、近隣の観光施設等と連携しながら、様々な楽しみ方ができる体験観光エリアを作り出すことにより観光客を呼び込み、交流人口の拡大を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R元	R2	R4	R5
-(※)	-	-	-	-	-

※検討状況を踏まえて設定

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者による新たな事業構想の策定（H30） ・事業者、香南市及び県による開発に伴う土地やインフラ整備等についての協議の実施（R元～） ・山頂エリアの林地開発着手（R2.2～） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業に参画する主要な事業者の確定（H30） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発に伴う事業計画の策定

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施設整備	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">山頂部分を生かした施設の整備</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●民間事業者： <ul style="list-style-type: none"> 山頂エリアの開発計画の策定と計画に沿った工事等の実施 周辺地元への周知 行政（市・県）との協議 ●香南市： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 関係機関との橋渡し、支援制度についての情報提供 				
◆周辺施設との連携	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">三宝山を核とした、体験型観光エリアの形成</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●民間事業者： <ul style="list-style-type: none"> 周辺施設と連携した取り組みの実施 ●香南市： <ul style="list-style-type: none"> 既存施設間での協力体制の構築についての支援 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 関係機関との橋渡し、支援制度についての情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.23 香美市における滞在型・体験型観光の推進 (香美市) ※地域産業クラスタープロジェクト関連(日本一のこら産地拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一社)香美市観光協会、香美市、(株)香北ふるさとみらい、地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体
AP への位置づけ	H28.4月
事業概要	香美市の地域資源を生かした体験型観光メニューを充実させるとともに、主要な観光施設を核とした周遊プランの造成・情報発信を行うことにより、地域外からの交流人口増を図り、滞在型・体験型観光を推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
主要観光施設入込数 (4施設) ※	24.5万人 (H30)	16.6万人	17.0万人	23.2万人	30.0万人

※：1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆体験型観光メニューづくりと推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンパンマンミュージアム 香美市立やなせたかし記念館アンパンマンミュージアム開館25周年記念行事 (R3) ・龍河洞 「西本洞/水の洞窟」オープン、龍河洞冒険王、龍河洞ナイト、90周年イベント (R3) ・べふ峡温泉 大栃中学校キャンプ体験 (R2)、シカニクフェア (R3～) ・宿泊3施設(龍河温泉、湖畔遊、ヌックスキッチン)の新設・改修 (R3観光施設等緊急整備事業費補助金(おもてなし旅館ホテル等環境整備緊急支援事業)の活用) ・香美市観光資源PV制作 (R3香美市観光リハビリ事業の活用) ・巨木・銘木に出会う、香美(神)巡り (R4) ・香美市おしゃれcafe巡りキャンペーン (R4) <p>◆観光協会の組織体制の充実と取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会のHPやfacebook、広報誌を活用した情報発信 ・「香美市に泊まろうキャンペーン」(R3～)「香美市観光プレミアムチケット事業」の実施 (R3) <p>◆香北エリアを中心とした観光活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・kami trip 学芸員とめぐるアンパンマンミュージアムとやなせたかしの聖地巡り (R3) ・天文講演会及び星空展望会、在所隕石里帰り展 (R3) 	<p><主な成果></p> <p>◆体験型観光メニューづくりと推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要3観光施設(アンパンマンミュージアム、龍河洞、べふ峡温泉)の入込客数 R4：226,203人 ・「土佐塩の道トレイルランニングレース」参加者 R2：182人→R3：中止→R4：233人 ・「土佐塩の道30kmうおーく」参加者 R2：延期→R3：97人→R4：113人 ・観光資源の磨き上げ及び発掘事業 「歴史・史跡に関する委員会」「宿泊・交通に関する委員会」の立ち上げ(H30)及び委員会の開催 「歴史・史跡に関する委員会」及び「宿泊・交通に関する委員会」を「香美市は、まことえいくじやき委員会」に統合 (R4) 及び委員会の開催 <p>◆香北エリアを中心とした観光活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザ・シックスダイアリーかほくホテルアンドリゾートは大手旅行会社の宿泊予約サイトで高評価を得る等し、宿泊客が増加(ホテル利用者数) R2：5,649人→R3：4,236人→R4：6,097人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験観光メニューの受入体制や窓口機能の強化 ・香美市観光協会とDMO協議会が連携した新規イベントやツアーの定期的な開催、戦略的なPRの実施 ・べふ峡温泉のバンガローエリア跡地の活用策の検討 <p>※主要4観光施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンパンマンミュージアム、龍河洞、べふ峡温泉、ザ・シックスダイアリーかほくホテルアンドリゾート

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆体験型観光メニューづくりと推進	観光資源の磨き上げ及び発掘、体験型観光メニューの造成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)香美市観光協会：「歴史・史跡に関する委員会」「宿泊・交通に関する委員会」で造成した体験型観光メニューの磨き上げ（「ノルディック・ウォーキング体験会」、「巨木銘木、パワースポットめぐり」等） ●地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体：観光協会との連携強化 				
	受入体制や窓口機能の強化				
◆観光協会の組織体制の充実と取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)香美市観光協会：ガイドの育成、パンフレットの多言語化 地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体との連携 ●香美市：観光案内所「香美市いんふおめーしょん」の機能強化 ●県（地域本部、観光振興部）：ガイド育成等支援策の情報提供 				
	バンガロー跡地利活用策の検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)香美市観光協会：誘客に繋がる活用計画の策定 				
◆香北エリアを中心とした観光活性化	観光イベントの企画・実施、セールス活動、情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)香美市観光協会：観光イベントの開催 周辺観光施設と連携したセールス活動の実施 HPや広報誌を活用した情報発信 二上等の地域の特産品やグルメ情報の発信 ●地域の体験メニュー等提供団体：二上等の地域の特産品を活用したメニュー開発及び提供 ●県（地域本部、観光振興部）：高知県観光キャンペーン等と連動した情報発信 				
◆香北エリアを中心とした観光活性化	周辺施設や地域との連携体制の構築				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)香北ふるさとみらい：香北周辺の観光施設との連携強化 地域資源を活用した体験プログラムの造成、メニュー化 				

AP名 (実施地域)	No.24 龍河洞エリアにおける地域の活性化の推進 (香美市)
実施主体	◎(公財)龍河洞保存会、◎(株)龍河洞みらい、龍河洞エリア活性化協議会、香美市
APへの位置づけ	H29.9月
事業概要	H29.11月に龍河洞エリア活性化協議会が策定した「龍河洞エリア活性化基本計画」に基づき、関係機関が連携し、エリア全体の誘客促進に向けた取り組みを推進していく。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
観光客入込客数※	12.6万人 (R元)	7.6万人	7.7万人	11.3万人	15.0万人

※1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆「龍河洞エリア活性化協議会」の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> 龍河洞エリア活性化協議会の開催 R2:4回 <p>◆基本計画の推進及び施設等の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光拠点等整備事業費補助金の活用による施設整備(H30～R2) 龍河洞洞内コンテンツ(洞内演出照明、音響、プロジェクションマッピング)の整備 龍河洞エリア動線・景観等整備計画の策定(H30) 龍河洞駐車場等整備の設計(R元) 駐車場等整備工事、更衣室改修工事等の実施(R2) 「新・龍河洞」グランドオープン(R元.7月) 「西本洞/水の洞窟」オープン(R3.4月) 観光施設等緊急整備事業補助金の活用による施設整備(R2～4) デジタルルーム等の設計、老朽化施設解体工事・雨よけ施設工事等の実施(R3) 龍河洞情報館の整備(R4) <p>◆広報、PR</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行会社、ホテルへのセールス活動の実施 教育旅行説明会への参加、教育旅行用パンフレットの作成及び配布 新聞、テレビ、雑誌、地元情報誌を活用した情報発信 	<p>◆集客イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> シーズンイベントの開催(R4:4回) 既存イベント(龍河洞ナイト、ハロウィンイベント等)の磨き上げ <p><主な成果></p> <p>◆観光客入込数</p> <p>R4:11.3万人</p> <ul style="list-style-type: none"> うち冒険コース体験者数 R2:1,629人→R3:1,781人→R4:2,419人 うち西本洞コース体験者数 (開洞期間:4/29～10/31) R3:144人→R4:152人 <p>◆集客イベントの開催を通じた入込数の確保 夜間営業の入洞者数(内数) R2:2,650人→R3:1,316人→R4:1,040人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 龍河洞エリア活性化基本計画、龍河洞エリア動線・景観等整備計画に基づく施設整備の実施 さらなる入洞者数の増に向けた集客イベント、セールス、広報・PRの実施・強化 文化財(史跡・天然記念物)としての龍河洞の保全・活用

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆基本計画の推進及び施設等の改修	龍河洞エリア活性化基本計画、龍河洞エリア動線・景観等整備計画の精査及び具体化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●龍河洞エリア活性化協議会：各施設の機能や整備の優先順位、費用対効果について協議 ●(公財)龍河洞保存会、(株)龍河洞みらい：実施主体、運営体制について精査及び実現可能性の検討 ●香美市、県（観光振興部、地域本部等）：予算化に向けた課題整理、計画の進捗管理 				
	駐車場動線整理 通路安全対策	エリア内の他の施設の改修			
	<ul style="list-style-type: none"> ●(公財)龍河洞保存会：改修の実施 ●香美市、県（地域本部等）：補助金申請等への支援及び進捗管理 	<ul style="list-style-type: none"> ●(公財)龍河洞保存会：予算化をもとにした改修の実施 ●龍河洞エリア活性化協議会：各施設の機能や改修の必要性、優先順位について協議 ●香美市、県（地域本部等）：補助金の予算化及び各種活用可能な支援制度に係る情報提供 			
	老朽化した施設の除却 除却後の活用計画の策定	除却後のスペースの有効活用			
<ul style="list-style-type: none"> ●(公財)龍河洞保存会、(株)龍河洞みらい：除却後の活用計画及び事業主体の検討 香美市予算化後の除却の実施 ●香美市：除却費等を予算化 ●県（地域本部等）：除却に向けた支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●(公財)龍河洞保存会、(株)龍河洞みらい：予算化をもとにした施設整備及び運営 ●香美市、県(地域本部等)：補助金の予算化の検討 各種活用可能な支援制度に係る情報提供 				
更衣室の改修	西本洞コースの開設・運営				
<ul style="list-style-type: none"> ●(公財)龍河洞保存会：改修の実施 ●香美市、県（地域本部等）：補助金申請等への支援及び進捗管理 	<ul style="list-style-type: none"> ●(公財)龍河洞保存会：西本洞コースの運営（ガイドの人材育成等） ●(株)龍河洞みらい：西本洞コースを素材とした広報・セールスの実施 				
◆広報、PR	インバウンドを見据えたセールス、ターゲティングとポジショニング分析を踏まえたPRの実施				
<ul style="list-style-type: none"> ●(公財)龍河洞保存会、(株)龍河洞みらい：台湾を中心とする東アジアへのセールスの強化 ●(株)龍河洞みらい：新聞やテレビ、雑誌、地元情報誌等への情報発信、県内や中四国、近畿圏を中心としたPRの実施 					
◆集客イベントの開催	シーズンイベント（夏休み、ハロウィン、クリスマス等）、夜間営業の実施				
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)龍河洞みらい：イベントの企画・運営、集客に向けた広報・セールスの強化 					

3 高知市地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

高知市地域は「平成の大合併」により、都市部を中心とした県域の中核機能に加え、田園地域と中山間地域を併せ持つ都市となりました。

総人口は、令和2年の国勢調査では326,545人で、県全体の4割余りを占めています。65歳以上の高齢者の比率は、県平均を下回っているものの、他地域と同様に高齢化が進行しています。

総生産額は県全体の5割近くを占めていますが、部門別の構成比は、第3次産業が約9割という突出した形になっています。

令和2年度に未曾有の事態を引き起こした新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止をさらに徹底しつつ、急速な産業構造の変化に対応し、社会経済活動の回復との両立を図りながら、産業の活性化に向けて取り組みを進めています。

農業分野については、平野部では、水稻や野菜、花き等の施設園芸を主体とする営農形態となっています。北部の中山間地域では、地理的な特性を生かして、ユズや四方竹の生産・加工、有機・無農薬栽培による野菜づくりなどが行われ、大消費地に近い地の利を生かして、直販所や街路市等を通じた地産地消の取り組みが進められています。

畜産業分野については、南部の里山地域と北部の中山間地域において、養鶏と酪農経営が行われ、生産される畜産物の大半は県内で加工・販売・消費されています。また、一部の経営体では牧場直営によるスイーツの製造販売など6次産業化に向けた取り組みも行われています。

林業分野については、総面積の約60%を占める森林の約半分が杉やヒノキといった人工林であり、林道、作業道等の基盤整備や森林組合を中心とした間伐などが進められていますが、木材価格の低迷をはじめ、担い手の高齢化などによる後継者不足等の課題があります。

また、近年整備された大型製材工場や木質バイオマス発電施設等への安定供給を行いながら、さらなる木材の増産を図るため、林業事業体の生産体制の強化や、高性能林業機械の導入、路網整備等による生産性の向上が求められています。

特用林産物であるイタドリについても県内各地へ生産地域の拡大や新商品の開発に向けた取り組みも行われています。

水産業分野においては、魚価の低迷や漁場環境の悪化、燃油・資材の高騰、担い手の高齢化などにより、漁業者の経営環境が厳しさを増しています。

商業分野については、特に中心商店街や近隣商店街では、郊外型大型商業施設の増加や商店街の核店舗の減少、消費者の購買方法の多様化などにより、空き店舗の増加や歩行者通行量の減少など厳しい状況が続いていますが、複合施設や高知城歴史博物館、新図書館等複合施設「オーテピア」、大型宿泊施設等に加えマンション建設が相次ぎ、状況が好転しております。製造業は、機械、食料品、鉄鋼や製紙業等を中心に操業が行われ、高い技術力によって全国展開している企業もあり、新商品の開発や販路を活力のある近隣地域、県外・国外に求める地産外商に取り組んでいます。

観光面では、「高知城」や「はりまや橋」、「桂浜」などの名所、「よさこい祭り」をはじめとする様々なイベントのほか、「坂本龍馬」「長宗我部元親」などの「歴史」や「食」など、本県を代表するような観光資源を多く有しています。また、効果的な情報発信や周辺地域との広域での連携に加え、龍馬ゆかりの地を巡るまち歩きや市場見学、写経などの体験型・着地型観光の取り組みも進んでいます。

一方、年々増加していた大型外国客船の寄港については、新型コロナウイルス禍で中止が余儀なくされる中、再開後の対応策として関係者等による受け入れの準備、ガイドライン・マニュアル等の整備が進んでいます。

(2) 地域アクションプランの概要

高知市地域では、県都・中核市としての都市機能や役割を十分に果たしつつ、主要農産物の振興に加え、それらを生かした6次産業化の促進や中心市街地の活性化、歴史・文化・自然・食を体感できる観光振興などの取り組みを進めていきます。

分野別にみると、農業分野では、県内一の生産を誇るキュウリや日本一の産地であるグロリオサをはじめ、新ショウガなどを独立した項目として位置づけ、それぞれの各事業主体が、より強力に進めていきます。中山間地域では、基幹品目であるユズ・四方竹の振興に加え、(一財)夢産地とさやま開発公社を中心に展開する「まるごと有機プロジェクト」の推進などにより、山の恵みを所得につなげる地産外商の取り組みを一層促進します。また、引き続き地域の生産と消費の交流の拠点としての直販所の活性化を図っていきます。

林業分野では、原木素材生産量の増大を目指すとともに、イタドリの高知市地域内外における生産拡大や生産者と食品メーカー等との連携による新商品の開発・販売などにより、高知県産イタドリのブランド化を進めます。

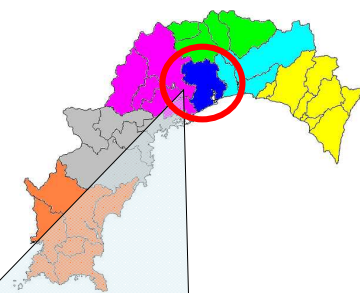
商工業分野では、春野地区の農産物加工品の開発・販売拡大の取り組みや民間活力を生かした6次産業化の支援体制づくり、また、防災食の製造などの食品加工の取り組みを一層推進し、県内中山間地域の産業創出につなげるよう関係機関等と連携して取り組みます。

また、高知市中心市街地活性化基本計画に位置づけられたハード・ソフト両面の取り組みを高知市をはじめとする官民の各事業主体が具体的に推進することにより、県都中心部の活性化を図っていきます。

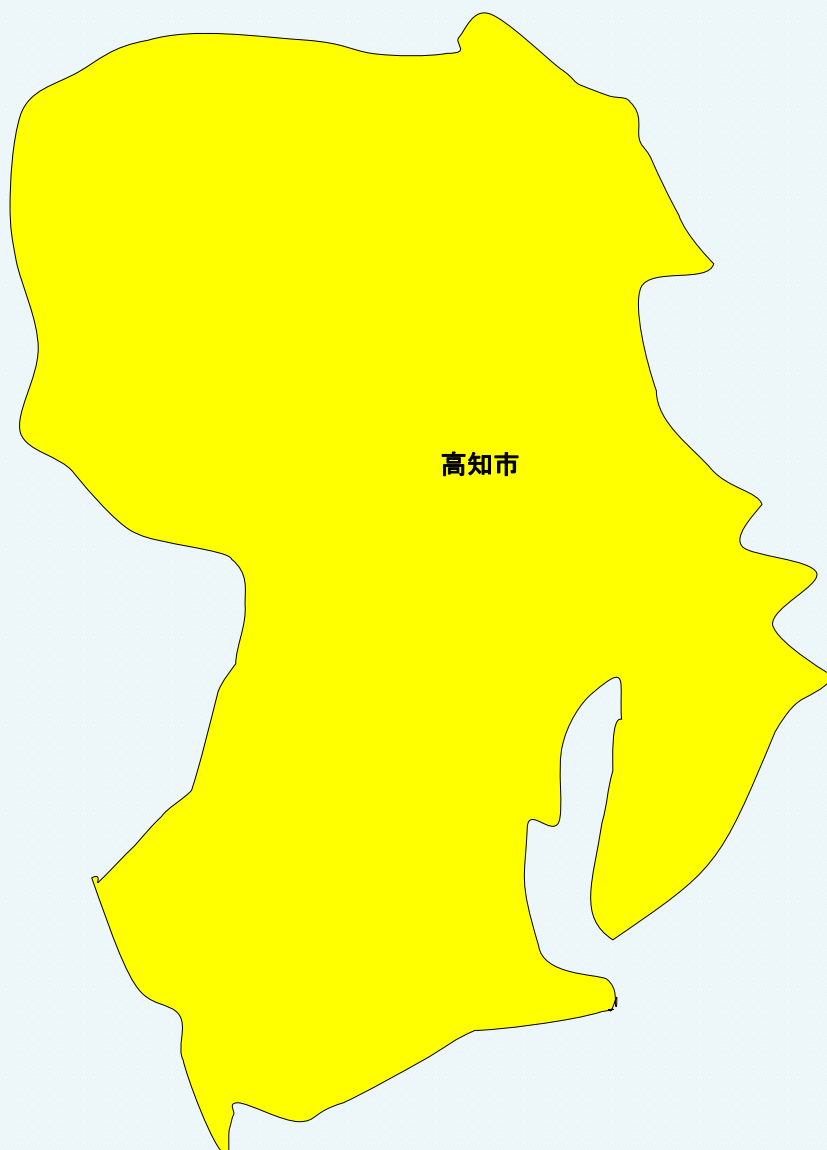
観光分野では、高知市を代表する観光地・桂浜とその周辺地域が一体となった新たな魅力の創出や県内市町村との連携による新たな観光資源や周遊ルートを開発をはじめとする広域観光の推進などを進めていきます。また、「よさこい祭り」や、坂本龍馬をはじめとする「土佐の偉人」、観光客に評価の高い「食」などをテーマとしたまち歩きや効果的なイベントの展開、情報発信の仕組みづくりなどにより、土佐の観光の拠点としての役割を果たしていきます。

(3) 具体的な取り組み

No.	項目
1	キュウリの生産販売対策の強化による産地振興
2	グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興
3	新ショウガの生産振興
4	ユズを核とした中山間農業の活性化
5	四方竹のブランド化による中山間地域の振興
6	「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興
7	直販店を核とした鏡地域の活性化
8	加工品充実による直販所の活性化と食の伝承
9	高知市の原木増産の推進
10	イタドリの外商推進による中山間地域の振興
11	春野地区の農産物の付加価値向上
12	竹資源活用クラスタープロジェクト
13	防災食の開発・製造・販売
14	中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上
15	日曜市をはじめとする土佐の街路市の活性化
16	近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進
17	本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展
18	桂浜公園を核とした桂浜エリアの活性化による観光振興
19	浦戸湾を活用した観光の振興
20	土佐の偉人を生かした観光の振興
21	食による観光の推進



【高知市地域】



1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21

AP名 (実施地域)	No.1 キュウリの生産販売対策の強化による産地振興 (高知市)
実施主体	◎JA 高知県 (春野地区営農経済センター)、◎JA 高知県 (春野地区胡瓜部会)
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	県内一のキュウリ産地の課題解決に取り組み、産地基盤の強化と農家所得の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
出荷量※	10,345t (R元)	10,172 t	10,364t	10,293 t	12,700t

※園芸年度：前年9月～8月

これまでの主な動き

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産の収量・品質向上対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有利品種の探索と導入 (H21～25) ・品質向上対策 (H21～) ・黄化エン病対策 (H21～) ・優良苗の確保 (H22～23) ・環境制御技術の導入推進 (H28～) ・集出荷場 GAP 点検 (H29～) <p>◆担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の確保育成 (H25～) ・労働力確保対策 (H28～) 	<p><主な成果></p> <p>◆生産の収量・品質向上対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境測定農家 H28:23戸 → R3:71戸 ・炭酸ガス施用農家 H28:22戸 → R3:62戸 <p>◆担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者 15名 (R3) ・JA 高知春野無料職業紹介所開設 (H30) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高収量・高品質化に向けた取り組みのさらなる拡大 ・産地全体の経営管理意識の向上

第4期計画における工程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆生産の収量・品質向上対策	IPM 技術の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ● J A 高知県（春野地区営農経済センター）、JA 高知県（春野地区胡瓜部会）： 現地検討会・勉強会の実施、天敵導入農家の支援 ● 県（高知農業改良普及所等）： 天敵導入農家の課題整理、病害 IPM 技術の実証・普及、天敵と病害防除を組み合わせた IPM 技術の普及 				
	収量向上・生産の効率化				
<ul style="list-style-type: none"> ● J A 高知県（春野地区営農経済センター）、JA 高知県（春野地区胡瓜部会）： スマート農業導入の検討、環境制御技術の導入推進、省力化技術の導入、現地検討会の実施 ● 県（高知農業改良普及所等）： スマート農業に関する情報収集・導入の支援、環境制御技術の導入推進、省力化技術の実証・普及 					
GAP の推進					
<ul style="list-style-type: none"> ● J A 高知県（春野地区営農経済センター）、JA 高知県（春野地区胡瓜部会）： 集出荷場 GAP、生産者 GAP 点検の継続 ● 県（高知農業改良普及所等）： 集出荷場 GAP 点検の支援、生産者 GAP 点検シート様式の見直し、生産者 GAP 点検シートの分析、改善策の検討と普及 					
◆担い手の確保・育成	新規就農者の受入強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● J A 高知県（春野地区営農経済センター）、JA 高知県（春野地区胡瓜部会）： 就農支援チーム会活動、新たな受入体制の検討及び実施、研修生への支援 ● 県（高知農業改良普及所等、農業担い手育成センター）、市（農林水産課、春野地域振興課）： 事業活用への支援、就農支援チーム会活動、新たな受入体制の検討及び実施、研修生への支援 				
経営管理意識の向上					
<ul style="list-style-type: none"> ● J A 高知県（春野地区営農経済センター）、JA 高知県（春野地区胡瓜部会）： 新規就農者への就農支援、基礎データの提供、研修会等の開催、担い手への個別経営支援、既存農家への経営管理意識の啓発 ● 県（高知農業改良普及所等）： 新規就農者への経営安定支援、経営分析・診断、研修会等、担い手への個別経営支援、既存農家への経営管理意識の啓発 					
<p>【用語】 ・IPM：「Integrated Pest Management」の略。病害虫の防除に関し、利用可能なすべての防除技術を利用し、経済性を考慮しつつ、適切な手段を総合的に講じる防除手法のこと</p> <p>・GAP：「Good Agriculture Practice」の略。生産・農産物の安全を確保するため、決められた農業規範に基づいて行動すること</p>					

AP名 (実施地域)	No.2 グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興 (高知市)
実施主体	◎JA 高知市、◎JA 高知市三里園芸部花卉部会
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	需要の高いサザンウインドの生産拡大を進め、輸出を含めた実需者ニーズを満たす販売対策を強化し、日本一のグロリオサ産地の活性化と農家所得の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1)販売額※	6.03 億円 (R元)	5.0 億円	4.7 億円	5.0 億円	6.5 億円
(2)秀品率※	52.7% (R元)	45.8%	47.5%		55%

※園芸年度：前年9月～8月、秀品率はサザンウインドのみ

これまでの主な動き

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆基本技術の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新品種サザンウインドの栽培技術の確立 (H21～) ・勉強会(病害虫)開催(H28～30) ・高温対策資材による実証ほ調査(H28～30) ・農薬散布の実態調査及び適切な散布方法等の指導(R3) <p>◆流通・販売対策(輸出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外への販売会議(2回/年) ・県内外の展示商談会への参加(H30～R元) ・切り花品質の向上へ向けた鮮度保持試験(輸送、水質調査)(H30～R2) ・GFP グローバル産地づくり推進事業の活用 球根養成ほ場の設置及び調査 (R2～) 輸出専用給水剤充填機の導入 (R2) 輸出事業計画の策定 (R3) ・次世代国産花き産業確立推進事業※を活用した海外輸出 輸送シミュレーション試験 (R2) <p>※R3年度よりジャパンフラワー強化プロジェクト推進に名称変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャパンフラワー強化プロジェクト推進の活用 簡易蒸し込み処理によるミカンキイロアザミウマ対策実証試験 (R3) ・フロリアード 2022 への出展(R4) 	<p><主な成果></p> <p>◆基本技術の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サザンウインド生産割合 H27 園芸年度：76% → R3 園芸年度：88% <p>◆流通・販売対策(輸出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出本数 H27 園芸年度：5.3 万本 → R4 園芸年度：20 万本 ・‘カプリソロゼ’出荷本数： － (R元園芸年度) → 2.9 万本 (R4 園芸年度) ・輸出事業計画の認定 (R3) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学農薬のみに頼らない総合的な病害虫管理 ・輸出に対応した品質の保持

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆基本技術の徹底	病害虫対策				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知市、JA 高知市三里園芸部花卉部会： 勉強会、現地検討会、目慣らし会の実施 ●県(高知農業改良普及所等)： 先進地への視察、勉強会、現地検討会の実施、県や国の有望事業等の紹介 				
◆流通・販売対策(輸出)	県外・海外展開に向けた取り組み(販路拡大)				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知市、JA 高知市三里園芸部花卉部会： 流通(輸出)に関するセミナーや講習会への参加、展示商談会への出展、輸出注文分欠品率調査、輸出用グロリオサ定植検討会、フロリアード2022への出展 ●県(高知農業改良普及所等)： 鮮度保持試験の実施(県内外、国内外)、展示商談会への出展、市場調査 				
<p>【用語】・GFP：農林水産省が推進する、農林水産物・食品輸出プロジェクト (Global Farmers/Fishermen/Foresters/Food Manufacturers Project の略語) ・フロリアード：10年に1度オランダで開催される国際園芸博覧会のこと</p>					

AP名 (実施地域)	No.3 新ショウガの生産振興 (高知市)
実施主体	◎JA 高知県 (春野地区営農経済センター)、◎JA 高知県 (春野地区生姜部会)
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	県内一の新ショウガ産地における品質向上および新しい栽培技術の検討により、産地の安定化と農家所得の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高※	8.64 億円 (R元)	8.21 億円	8.72 億円	7.73 億円	8.70 億円

※園芸年度：前年9月～8月

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆品質向上対策

- ・ショウガ洗浄水の循環再利用装置を導入(H25.3月)
→H24年度こうち農業確立総合支援事業の活用
(事業費 396.6万円)
- ・腐敗事故対策の実施 (H25～)
- ・出荷場 GAP点検の実施 (H29～)

◆新たな栽培技術の検討

- ・ファインバブル施用試験 (H25～30)
- ・炭酸ガス施用試験 (H26～R元)
- ・栽培技術の高位平準化
栽培マニュアル作成 (R2～3)

<主な成果>

- ◆洗浄水の循環再利用装置導入により、水不足による出荷調整作業のロスを解消
- ◆腐敗事故の減少
H26園芸年度：20件 → R4園芸年度：0件

<課題>

- ・生産者が減少する中での出荷量・品質の維持
- ・新たな栽培技術の確立

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆品質向上対策</p>	<p>腐敗事故対策とGAPの連動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県春野営農経済センター、JA 高知県春野生姜部会：腐敗事故への対応（原因究明と再発防止策の実施）、GAPの実践 ●県（高知農業改良普及所等）：県版GAPと腐敗事故対策の連動、GAPの実施状況チェック、普及方法の検討、情報提供 				
<p>◆新たな栽培技術の検討</p>	<p>炭酸ガス施用の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県春野営農経済センター、JA 高知県春野生姜部会：実証試験 ●県（高知農業改良普及所等）：実証試験、技術普及に向けた検討情報提供 	<p>その他技術の検討と普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県春野営農経済センター、JA 高知県春野生姜部会：実態調査、新技術の検討、実証試験、栽培環境の検討 ●県（高知農業改良普及所等）：実態調査、新技術の検討、実証試験、栽培環境の検討、情報提供 			

【用語】・県版GAP：農林水産省のガイドラインに準拠した高知県版のGAP（Good Agricultural Practice：良い農業の実践）

AP名 (実施地域)	No.4 ユズを核とした中山間農業の活性化 (高知市)
実施主体	◎高知市土佐山柚子生産組合、◎JA高知市、◎土佐山ファクトリー(協)、 ◎旭フレッシュ(株)、◎高知市
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	中山間地域の基幹品目であるユズの生産拡大と高品質化、スマート農業技術の導入、後継者の育成等により経営の安定を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) ユズ販売額※	1.6億円 (H30)	1.7億円	1.4億円		1.9億円
(2) ユズ精油等販売額	3,877万円 (H30)	3,724万円	3,032.7万円		4,900万円

※暦年

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆安定生産

- ・搾汁施設の整備(H21)
- ・現地検討会など年6回の集合研修(H21～)
- ・優良複製母樹の確保と技術指導(H21～30)
- ・短棘優良系統の試験と導入(H25～)
- ・未活用果皮の利用を図るための搾汁残渣加工施設(ユズ精油の抽出)を整備(H28)
→H28 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費 1.03億円)
- ・土佐山柚子加工調整施設の県版 HACCP 第3ステージ認証取得(R元)
- ・新しい青果用選果機の導入(R元)
- ・ドローン航空防除試験(R元～)
- ・自動コンテナ洗浄機の導入(R2)
- ・プレ選果機の導入(R3)
- ・土佐山柚子加工調整施設へ冷凍庫追加整備(R3)

◆生産基盤の維持

- ・ユズ園の状況把握のためのユズ生産者台帳やユズマップの作成作業(H25～27)
- ・産地計画の作成(H28、R4)
- ・「ユズバトン隊」の育成(H29～R元)
- ・指導農業士の育成(H29～)

- ・産地提案書の作成と新規農業者の勧誘(H30～)
- ・新規就農者の研修会「ユズの学校」活動(R2～)
- ・果樹経営支援対策事業による新植・改植、園内道の整備(H30～)

◆産地のブランド化

- ・ゆず祭りの開催(H30～)

＜主な成果＞

◆雇用の創出

- H21：12人(パート12人)
→R3：14人(正規3人、パート11人)

◆指導農業士3名認定

◆新規就農者3名確保

◆ドローン防除8.4ha(R4)

◆ユズ未活用果皮

- H24～26平均：111t → R2：0t

＜課題＞

- ・スマート農業技術の導入による省力化
- ・青果出荷の拡大や優良系統ユズの導入拡大等による生産の安定
- ・核となる担い手の育成や産地ビジョンの見直し、実践による生産基盤強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆安定生産	技術力向上、先端技術導入による安定生産				
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市土佐山柚子生産組合、JA 高知市： スマート農業技術の導入検討、青果出荷の拡大、栽培技術講習会の実施、短棘系等優良系統ユズの導入 ●県（高知農業改良普及所等）： スマート農業技術の導入検討、青果出荷者への技術支援、栽培技術講習会での指導、短棘系等優良系統の情報提供 				
◆安定生産	搾汁残渣加工施設によるユズ製油等の安定生産				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐山ファクトリー(協)： 搾汁残渣加工施設の安定的な運用 ●県(地域本部等)： 県工業技術センター等による技術的な支援の調整等 				
◆生産基盤の維持	生産面積の拡大と担い手の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市土佐山柚子生産組合、JA 高知市： 果樹経営支援対策事業の活用、担い手対策の検討と実行 ●県（高知農業改良普及所等）： 果樹経営支援対策事業の情報提供、担い手対策の検討と実行 				
	産地ビジョンの見直し・作成		産地ビジョンの実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市土佐山柚子生産組合： 産地ビジョンの作成 ●県（高知農業改良普及所等）： 産地ビジョン作成の指導 		<ul style="list-style-type: none"> ●高知市土佐山柚子生産組合： 産地ビジョンの実践 ●県（高知農業改良普及所等）： 産地ビジョン実践の指導 		
◆産地のブランド化	協議会の取り組みの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市土佐山柚子生産組合、旭フレッシュ(株)、JA 高知市、高知市： ゆずまつり等 土佐山のPR活動 ●県（地域本部等）： PRイベント等の情報発信 				

AP名 (実施地域)	No.5 四方竹のブランド化による中山間地域の振興 (高知市)
実施主体	◎JA 高知市特産部会（七ツ瀧筍加工組合、土佐山四方竹生産組合、鏡特産部会）、 ◎(一財)夢産地とさやま開発公社
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	全国的に希少性の高い四方竹を高知県のブランド品として育て、中山間地域の産業として振興するため、担い手を確保し、加工施設の衛生管理等により、安全と安心の促進を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
販売額	4,000万円 (5ヵ年平均)	4,337万円	4,697万円		4,000万円

これまでの主な動き

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市四方竹振興計画の策定（H25） ・放棄園及び園地マップの個票整理（H25） ・自動選別機の導入及び導入後の改善(H25～30) <p>◆加工施設の衛生管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐山四方竹生産組合の加工場新設（H25） 冷水機の導入（H24・5台） ・七ツ瀧筍加工組合の加工場拡張・改善（H22～30） 製氷機の導入（H22） 冷水機の導入(H24・4台) HACCP・GAPの研修会(R2、R3) HACCPの試行(R2) HACCPの実施(R3～4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・選別作業の自動化：自動選別機の開発と導入（7台） ・消費期限の改善：1日延長（七ツ瀧、土佐山とも7日間） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手確保対策および経営基盤の整備 ・HACCP・GAPの改善

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆担い手の確保					
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知市特産部会： 四方竹マップの修正、放棄される園のリストアップ、中山間担い手確保育成チームへの参画 ●県（高知農業改良普及所等）： 四方竹マップの修正、放棄される園のリストアップ、中山間担い手確保育成チーム会の実施、産地提案書の作成支援、人・農地プラン及び中山間地域等直接支払いの集落戦略などの作成支援 				
◆加工施設の衛生管理					
<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知市特産部会・（一財）夢産地とさやま開発公社： HACCP・GAP の知識の習得、試行、実践 ●県（高知農業改良普及所等）： HACCP・GAP の情報提供、取り組み指導、チェック活動 					
<p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人・農地プラン：地域における担い手と農地の課題の解決を図るため、話し合いにより地域の将来のあり方についてプラン化するもの ・中山間地域等直接支払制度：農業生産条件の不利な中山間地域等において、集落等を単位に、農用地を維持・管理し、それにしたがって農業生産活動を行う場合、国から面積に応じて一定額を交付する仕組みのこと。令和2年度から開始する次期対策においては、集落の将来像を明確化した「集落戦略」を作成することで、交付単価 10 割が交付される ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を確保しようとする食品の衛生管理手法のこと ・GAP：「Good Agriculture Practice」の略。生産・農産物の安全を確保するため、決められた農業規範に基づいて行動すること 					

AP名 (実施地域)	No.6 「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興 (高知市)
実施主体	◎(一財)夢産地とさやま開発公社、連携農家
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	(一財)夢産地とさやま開発公社を中心として、有機・無農薬野菜などの生産と販売および加工品の開発・販売の取り組みを通じて農家所得の向上と地域の活性化を図り、土佐山百年構想を推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
販売額	1.73 億円 (H30)	1.78 億円	1.82 億円		2.1 億円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆有機農産物の栽培技術の確立・普及と生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の確立・普及(H21～) ・加工品の開発・販売(H21～) ・ショウガの有機 JAS 認証取得(H21) ・肥料を製造する土づくりセンターの増強整備(H24) <p>◆農家及び公社の所得向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家からの庭先集荷による野菜の集荷販売(H21～) ・有機、無農薬農産物(ユズ・ショウガ・ジャガイモ等)の生産販売(H21～) ・中山間農業複合経営拠点事業戦略の策定(H29) ・アグリ事業戦略サポートセンターによる事業戦略の実行フォロー(R元) ・産業振興アドバイザーの活用による公社全体の収支改善計画の策定(R元) ・産業振興アドバイザーの活用によるコロナの影響を踏まえた収支改善計画の見直しと対応策の検討(R2～) ・産業振興アドバイザーの活用による収支改善に向けた取り組み(R3～4) <p>◆加工施設の活用による加工品の開発・製造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐山ジンジャーエールの開発・製造(H23～) ・四方竹加工場稼働開始(H26) ・スイーツ加工施設整備・稼働開始(H28) 	<ul style="list-style-type: none"> ・清涼飲料水製造業で県版 HACCP 第3ステージ認証取得(H30) ・自動液体充填機及び自動ラベル貼り機の導入(R2) <p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>H20:11人(正規3人、パート8人) →R3:39人(正規12人、パート23人、短期4人)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農産物の強みを生かしたセールスの強化 ・コロナ禍による飲食事業の落ち込みを補うため、スイーツ事業の各店舗及びEC販売を強化 ・既存商品のブラッシュアップ及び新商品の開発によるラインナップの充実 ・人員体制の強化(商品製造・開発等) ・加工場の増産体制の構築及び衛生管理の高度化
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆有機農産物の栽培技術の確立・普及と生産拡大	会社による栽培技術の調査研究、生産農家への栽培技術の普及				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一財)夢産地とさやま開発公社： 有機農業の普及、新規作物の試験栽培、生産農家への栽培技術指導 ●県（地域本部等）： 農業部門による栽培技術指導 				
◆農家及び公社の所得向上	生産農家及び会社による有機農産物の生産拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一財)夢産地とさやま開発公社、生産者： 会社圃場及び遊休地、耕作放棄地の活用 ●県（地域本部等）： 産地提案書による新規就農者の確保・育成 				
◆農家及び公社の所得向上	有機・無農薬農産物の販売				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一財)夢産地とさやま開発公社： 庭先集荷による農家野菜等の販売、農産物の加工販売 ●県（地域本部等）： スマート農業技術等の導入支援 				
	新たな事業計画の策定	経営安定化に向けた事業計画の実行			
◆加工施設の活用による加工品の開発・製造	加工品の安定生産、新規加工品の開発・製造				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一財)夢産地とさやま開発公社： 高性能製造設備の有効活用、新規加工品の開発・製造 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー導入による支援(新商品開発等) 				
	加工品の販路の開拓・拡大				
<ul style="list-style-type: none"> ●(一財)夢産地とさやま開発公社： 県内外商談会等への出展、インターネット販売の促進、SNSによる情報発信 ●県（地域本部等）： 高知県地産外商公社への橋渡し、県外商談会等の紹介・情報提供 					

AP名 (実施地域)	No.7 直販店を核とした鏡地域の活性化 (高知市)
実施主体	◎鏡村直販店組合「鏡むらの店」
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	鏡村直販店組合「鏡むらの店」(万々店、リオ店)は組合員により鏡地域の野菜や果物が出荷されている。同組合と関係機関が連携して栽培推進品目を選定し、積極的な栽培支援による生産力向上や、販売強化の支援を進め、販売額及び組合員の所得向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
販売額	1.45億円 (R元)	1.46億円	1.34億円		1.7億円

※暦年

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆推進品目の栽培推進

- ・高知市近代化施設整備事業で新 POS システムを導入(H29)
- ・POS 分析結果を情報共有するチーム会の開催(H30～)
- ・直販所活性化セミナーに参加し、直販店の課題・対応策を検討 (R元)
- ・品薄時期対策として、旧鏡村以外から冬季のトマト(H28)や春先のキュウリ(H28)、梨・柿・リンゴの果物(R元～)を確保
- ・推進品目のうち、ホウレンソウ実証試験(R2)、ブロッコリー実証試験(R3)、ネギ実証試験(R4)
- ・栽培経験の少ない組合員等への個別指導(R2～)
- ・新規栽培者を掘り起こすための普及所だよりの発行(R2～)

◆販売・経営対策

- ・顧客ニーズ把握のためのアンケートや需給改善の分析等の実施 (H24～25)
- ・料理教室や販促イベントの実施 (H25～29)
- ・産業振興アドバイザーを導入し SNS 研修会を実施(H26～28)
- ・食品衛生法の改正に関する情報提供(R2～R3)
- ・直販所活性化セミナーフォローアップセミナー開催(R2)
- ・広報用Instagram導入支援 (R3～)

＜主な成果＞

- ・新規組合員 6 名加入(H26～累計)
- ・野菜部門の R2 年対前年比 101.4%
R3 年対前年比 89.7%

＜課題＞

- ・生産農家の高齢化による出荷量および販売額の減少
- ・消費者ニーズに対応した販売・経営対策
- ・高齢化および時給高騰による店員不足

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆推進品目の栽培推進</p>	<p>推進品目の選定と栽培の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●直販店 鏡むらの店： 推進品目の周知 ●県（高知農業改良普及所等）： 栽培講習会 新規栽培者の掘り起こし POS分析・ニーズ調査・加工向け品目の検討 				
<p>◆販売・経営対策</p>	<p>販売商品の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●直販店 鏡むらの店： 旧鏡村地域以外から品薄時期の商品確保の検討・実践 ●県（地域本部等）： 情報提供及び関係者への橋渡し、POS分析による助言 <p>経営体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●直販店 鏡むらの店： 直販所活性化セミナー、各種研修等への参加及び実践による経営体制の強化 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、セミナー等の紹介、POS分析による助言 				

AP名 (実施地域)	No.8 加工品充実による直販所の活性化と食の伝承 (高知市)
実施主体	◎ J A 高知市女性部直販部会 (直販所「真心ふぁーむらぶ」)、◎加工組織なるクラブ
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	J A 高知市の直販所「真心ふぁーむらぶ」では、地域の農産物に加え、加工組織「なるクラブ」が地域農産物を加工した惣菜を販売している。 加工品製造や商品開発などによる地産地消を推進する。地域住民の農業への関心を高め、地域農産物の消費拡大と田舎寿司などの伝統食の伝承を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
直販所売上高	9,200万円 (R元)	8,820.9万円	8,958.7万円		1億円

※暦年

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 直販所「真心ふぁーむらぶ」の販売拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザーの活用による店舗改善 (H24～25) ・チーム会 (H27～29) ・農家レストラン開催(H24～) ・直販所事業戦略策定セミナーアドバイザーによる運営体制の見直しとレイアウト改善の提案(R2～R3) ・HACCP の考え方を取り入れた衛生管理への取り組み (R2～) ◆ 加工組織「なるクラブ」を中心とした加工品製造の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設「新婦人の家」の改修 (H25～26) ・産業振興アドバイザー活用による新メニュー開発 (H29) ・チーム会による POS 分析に基づく製造計画策定 (H26～) ・土佐の料理传承人に選定 (H30) ・6次産業化サポートセンター事業活用による経営分析、運営体制の見直し、新メニューの試作 (R2～) ・HACCP の考え方を取り入れた衛生管理への取り組み (R2～) ・とさのさとへの出荷開始 (R2～)、新メニュー追加 (R4～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 真心ふぁーむらぶ <ul style="list-style-type: none"> ・真心ふぁーむらぶ販売額 H27 : 7,460.9万円 → R3: 8,958.7万円 ◆ なるクラブ <ul style="list-style-type: none"> ・H29 地産地消等優良活動表彰において、なるクラブの取り組みが中四国農政局長賞を受賞 ・なるクラブ販売額 H27 : 2,513.6万円 → R3 : 3,172.1万円 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 真心ふぁーむらぶ <ul style="list-style-type: none"> ・運営体制の見直しとレイアウトの改善 ・他の直販所との連携による商品の充実 ◆ なるクラブ <ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズに合ったサービスの充実 ・既存商品の見直しと重点化による収益性の向上 ・おやつ等新商品の開発と商品の付加価値化 ・HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の実施 ・生産者の高齢化

第4期計画における工程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降	
<p>◆ 直販所「真心ふぁーむらぶ」の販売拡大</p>	<p>顧客サービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●直販所真心ふぁーむらぶ： 運営体制の見直しとレイアウトの改善 ●県（地域本部・高知農業改良普及所等）： 各種支援制度に関する情報提供、アドバイザーの紹介 			<p>他の直販所との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●直販所真心ふぁーむらぶ： 他直販所との連携による商品の確保及び充実 ●県（地域本部・高知農業改良普及所等）： 各種支援制度に関する情報提供 		
<p>◆ 加工組織「なるクラブ」を中心とした加工品製造の充実</p>	<p>既存商品の見直し・重点化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●加工組織なるクラブ： 売上げ実績に基づく月ごとの商品別製造計画、既存商品の重点化・効率化 ●県（高知農業改良普及所・地域本部等）： POS分析支援、セミナー等の紹介、チーム会での助言 			<p>衛生管理と HACCP 対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ●加工組織なるクラブ： HACCP に沿った衛生管理の実施 ●県（地域本部・高知農業改良普及所等）： 支援制度の情報提供、チーム会での助言 <p>新商品の開発及び販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ●加工組織なるクラブ： 消費者ニーズを踏まえた高付加価値商品の開発 ●県（高知農業改良普及所・地域本部等）： セミナー等の情報提供、チーム会での助言 		

AP 名 (実施地域)	No.9 高知市の原木増産の推進 (高知市)
実施主体	◎高知市森林組合
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	搬出間伐を中心とした原木増産及び現場作業員の技術向上に取り組む。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
素材生産量	3,056 m ³ (H30)	2,373 m ³	2,392 m ³		4,200 m ³

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆事業地の拡大

- 管内市及び事業体に対する事業説明会及び勉強会開催(H21～)

◆生産性の向上

- 新規作業員の採用と、緑の雇用制度の活用(H21～)

◆作業員の技術力の向上

- 人工支柱の改造による作業システム改善 (H29)
- 皆伐から植栽の一貫作業実施 (H30)

<主な成果>

◆担い手の確保

- 林業学校卒業生採用：1名 (R2)
- 林業学校卒業生採用：1名 (R4)

<課題>

- 事業地の確保
- 生産性向上の推進
- 担い手の確保

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆事業地の拡大</p>	<p>森の工場の維持、拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知市森林組合： 森の工場の継続、新規森の工場の拡大のための事業地掘り起こし <p>森林経営管理制度を通じた事業地の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知市森林組合： 森林経営管理制度による事業地の拡大（市町村森林経営管理事業、再委託事業） 				
<p>◆生産性の向上</p>	<p>生産性の高い作業システムの活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知市森林組合： 新たな作業システムの導入の検討及び導入 ●高知市森林組合： 事業地の集約化を進め、スケールメリットによる生産性の向上を図る ●県（林業事務所）： 高性能林業機械導入支援 				
<p>◆作業員の技術力の向上</p>	<p>作業員の技術力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知市森林組合： OJT、林業大学校等による技術研修を推進、若手作業員の技術研修の実施 ●県（林業事務所）： 森林施業プランナー研修の支援 				

AP名 (実施地域)	No.10 イタダリの外商推進による中山間地域の振興 (高知市)
実施主体	◎高知県イタダリ生産普及販売促進協議会、連携農家
APへの 位置づけ	H29.4月
事業概要	出荷量において全国一であり、一般的に県内で食されているイタダリを県外に販売拡大していくため、栽培イタダリの県内産地を拡大するとともに、新商品の開発等を行うことにより高知県産イタダリのブランドを確立し、中山間地域における新たな雇用の創出を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
加工品の販売額	89.4万円 (H30)	113.9万円	192.6万円		1,000万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆産地強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業団体及び集落活動センター等を対象に栽培・加工イタダリ講習会の実施 (H29～) ・県内各地域へへの出前授業の実施 (H30～) ・「こうち農業確立総合支援事業」を活用して JA 高知市鏡支所に冷凍施設の整備 (R元) ・イタダリ摘葉試験の実施 (R元) ・森林技術センターによる品種選抜研究 (R3～) <p>◆ブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏等における各種展示会等への出展(H29～) ・食品メーカー等による新商品の開発等 ・高知県食品工業団地事業組合、高知市においてイタダリ葉に関する特許出願中 (H31.3月～) ・JA 高知市女性部鏡支部による「イタダリ塩漬け(冷凍)」の県版 HACCP 第2ステージ認証申請 (R3) <p>◆組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県イタダリ生産普及販売促進協議会の設立 (H30) (構成員：高知県食品工業団地事業協同組合、食品メーカー、JA 高知市、JA 高知県、高知市、県) ・高知県イタダリ生産普及販売促進協議会役員会・総会の開催 (H30～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会において外商に向けた一次加工品の商品規格の統一 (H30) ・協議会会員の新規加入 (R2) (集落活動センター柳野、集落活動センターおおのみきた) ・持続可能な生産供給体制の検討および生産者間での協議 (R4～) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆県内における新たな栽培地域数 H29：0地域 → R3：73地域 (累計) ◆高知県産栽培イタダリの認知度の向上 ◆イタダリを活用した新商品開発：6アイテム(H29～) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内栽培地域のさらなる拡大 ・市場ニーズにあった原料の確保 ・新たな商品の開発 ・外商に向けた組織体制の強化
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆産地強化	<p>高知市鏡地域等での産地強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●連携農家（JA高知市等）： 耕作放棄地等を活用した栽培面積の拡大、高知市鏡地域をモデルとするイタダリの産地化の県内展開、加工体制・施設の高度化 ●県（地域本部等）： 栽培・技術講習会の開催、産業振興アドバイザーの活用提案、イタドリ栽培マニュアルの普及 				
◆ブランド化の推進	<p>外商活動によるブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県イタドリ生産普及販売促進協議会： 試作品づくり、商品改良、製造方法等の検討、商品改良、商品化の実現、商談会・展示会等への出展 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆組織体制の強化	<p>高知県イタドリ生産普及販売促進協議会の取り組み強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県イタドリ生産普及販売促進協議会： 協議会メンバーの拡大、マスコミ等を通じたPR ●県（地域本部等）： 協議会参画によるアドバイス・情報提供、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.11 春野地区の農産物の付加価値向上 (高知市)
実施主体	◎(有)スタジオ・オカムラ、連携農家
APへの 位置づけ	H22.4月
事業概要	地域内農産物を活用した新たな加工品を開発するとともに、当該加工品の新たな販路を確保し、農家所得の向上及び雇用の創出による地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
販売額	6,000万円 (H30)	5,754.7万円	6,655万円		9,400万円

これまでの主な動き

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆加工品の販路拡大と新たな商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物加工場の整備 (H23) →H23 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 (事業費 7,110万円) ・PB商品、OEM生産の展開 (H25～) ・県内外での各種商談会に参加 (H24～) ・お中元、お歳暮へのギフトカタログ掲載 (H25～) ・低温乾燥設備の導入 (H26) ・ベルガモット加工品の商品開発：12商品(H27～) <p>◆加工に適した野菜等の生産体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工用野菜の栽培技術確立支援 (H22～) ・衛生管理の強化に向け、県版 HACCP 第2ステージの認証取得 (H29) ・県版 HACCP 第3ステージの認証取得 (R2) 	<p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27: 2人 (正規2人) →R3: 5人 (正規3人、パート2人) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携農家の掘り起こし ・既存取引先を中心とした営業の強化による販売拡大 ・EC販売の強化 ・商品ラインナップの充実と主力商品の普及 ・加工品の増産体制の整備

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆加工品の販路拡大と新たな商品開発	販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)スタジオ・オカムラ： 各種商談会への参加、香料メーカーへの販路開拓 ●県（地域本部等）： 商談会等の紹介、関係者へ橋渡し 				
◆加工に適した野菜等の生産体制の整備	商品開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)スタジオ・オカムラ： OEM商品の受注拡大 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案 各種支援制度に関する情報提供 				
◆加工に適した野菜等の生産体制の整備	加工野菜等の生産体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)スタジオ・オカムラ： ベルガモット栽培技術の周知、香料原料の生産拡大 ●県（地域本部等）： 連携可能な生産者情報の提供 各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.12 竹資源活用クラスタープロジェクト (高知市)
実施主体	◎(株)コスモ工房、◎(同)高知竹材センター
APへの 位置づけ	H25.4月
事業概要	県産竹材を活用した素材生産や製品加工を拡大するとともに、竹材の集荷や一次加工、竹加工品の販売など竹資源を活用した新たな事業を展開し、竹産業の振興と中山間地域における雇用の創出を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	7,671万円 (H30)	9,058万円	7,144.2万円		1.1億円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆原竹の集材体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(同)高知竹材センター設立 (H28) ・土佐山地域にて、原竹の買い取り方法に関する地元説明会の実施 (H28～29) ・弘田竹材店(土佐市)にて、原竹の確保に向けた原竹買い取りに関する説明会の実施 (R元) <p>◆加工品製造の生産性の向上</p> <p>(株)コスモ工房</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二工場を土佐山に整備 (H27) ・自動車用竹ハンドル製造メーカーへの竹ラミナ供給 (H24～R3) ・県外竹ブラシ製造メーカーへの竹の柄供給 (H27～) <p>◆販路開拓及び新商品開発</p> <p>(株)コスモ工房</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社製品(弁当箱・盆・寿司台・机の天板など)の開発 (H21～) ・県外見本市・商談会等(ジャパンホームショー、ふるさと建材家具見本市等)への出展 (H21～) ・総合支援アドバイザーや県内事業者、県産学官民連携センター、工業技術センター、産業振興センターとの新商品開発に向けた協議 (H30～) ・竹ラミナを使用した高級ヘッドフォンの販売開始 (H30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内建具製造業者と新ブランドの立ち上げ (R2) (同)高知竹材センター ・シイラ漬け漁に用いる原竹の販売 (H30) ・竹製の住宅用フェンスの試作品開発 (R元) ・飛沫対策の竹製アクリル板立ての試作 (R2) <p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>H24:5人(正規5人) → R3:17人(正規15人、パート2人)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原竹の仕入れ先維持・確保 ・県外見本市等出展後の販路獲得 (株)コスモ工房 ・自動車用竹ハンドルに替わる新たな自社製品の開発 (株)コスモ工房 ・新型コロナウイルス感染症の影響による営業活動の停滞
--	---



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆原竹の集材体制の確立	<p>県全域から原竹を集材する仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(同)高知竹材センター： 原竹の安定的な集材 ●県(地域本部等)： 県内各地域への集材の呼びかけ(各集落活動センター、自伐林家等) 				
◆加工品製造の生産性の向上	<p>生産体制の確立・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)コスモ工房： 安定生産に向けた従事者の維持・確保 ●県(地域本部等)： 高知市や(一社)高知県移住促進・人材確保センター等と連携した従事者確保の支援 		<p>施設整備等の可能性の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)コスモ工房： 加工設備の導入及び加工設備の拡大の可能性の検討 ●県(地域本部等)： 各種支援制度の情報提供 		
◆販路開拓及び新商品開発	<p>新たな竹材の需要に向けた販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)コスモ工房： 各種展示会・商談会等への参加 ●(同)高知竹材センター： 竹製フェンスの製品化及び販売先確保 ●県(地域本部等)： 各種商談会等の紹介・情報提供 		<p>新商品の開発・製造</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)コスモ工房： 県産業振興センターや木材等関連事業者との連携・協議 ●県(地域本部等)： 産業振興アドバイザーの活用提案 		

AP名 (実施地域)	No.13 防災食の開発・製造・販売 (高知市)
実施主体	◎高知県食品工業団地協同組合の企業など
APへの 位置づけ	H25.4月
事業概要	南海トラフ地震に備え、地域産品を原材料とする防災食の製造販売を行うことで、防災産業の振興を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
防災食アイテム数	6 銘柄 (累計) (H30)	6 銘柄 (累計)	6 銘柄 (累計)		10 銘柄 (累計)

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域産品を原材料とする防災食の製造・販売 <ul style="list-style-type: none"> ・防災関連商談会をはじめ、各種商談会への出展 (H25～) ◆産学官連携による研究・開発 <ul style="list-style-type: none"> ・県工業技術センターや県立大学との連携による防災食開発 (H25～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆防災関連商品の販売額 <ul style="list-style-type: none"> ・保存用ミレービスケット 200g 缶 H28 : 2,966 万円 → R3 : 3,327 万円 ◆県防災関連商品認定 2 銘柄 (R2 累計) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県工業技術センター等と連携した商品開発の継続 ・防災関連の商談会への出展による販路拡大 ・車載用ミレー缶の車用品店やディーラー等への販路開拓
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地域産品を原材料とする防災食の製造・販売					
	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県食品工業団地協同組合の企業： 防災食に適した原材料の掘り起こし及び商品開発 県工業技術センター等が導入した機器の積極的な活用及び大学等の研究機関と連携した新商品開発 ●県（地域本部等）： 防災食に適した原材料の情報提供、各種支援制度に関する情報提供 </div>				
					
	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県食品工業団地協同組合： 防災関連商談会をはじめ、各種商談会への出展、車載用ミレー缶の車用品店やディーラーを対象を絞った営業活動 ●県（地域本部等）： 県地産外商公社等と連携した商談会情報等の紹介 </div>				

AP名 (実施地域)	No.14 中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上 (高知市)
実施主体	◎高知市、高知市商店街振興組合連合会ほか関係団体
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	高知市中心市街地活性化基本計画に基づき、多様な主体の参画のもとに、中核市として賑わいと活力ある中心市街地の形成を目指し、都市機能の増進と経済活力の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 中心市街地の居住人口	5,215人 (H30)	5,490人	5,529人		5,290人
(2) 歩行者通行量(17地点・冬季・平日休日2日の合計)	121,330人 (H30)	75,866人	104,188人		123,278人

これまでの主な動き															
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆高知市中心市街地活性化基本計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市中心市街地活性化基本計画（第一期計画）の推進（H24.12月～H30.3月、計画登載57事業中55事業を実施） ⇒主な事業：新図書館の整備、新資料館整備事業、永国寺キャンパスの整備、帯屋町二丁目地区複合施設整備事業など ・高知市中心市街地活性化基本計画（第二期計画）の推進（H30.4月～R5.3月、計画登載60事業を実施中） ⇒主な事業：丸ノ内緑地整備事業、レンタサイクル事業観光案内所整備、帯屋町一丁目地区複合施設整備事業 <p>◆高知市中心市街地活性化基本計画のフォローアップ、計画の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市中心市街地活性化協議会の開催（H23～R4で計15回開催） ・内閣府への定期フォローアップ報告(H27～、毎月5月) ・高知市中心市街地活性化基本計画（第二期計画）の策定（H30） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会の開催（R3.11/18、R4.3/30、6/6、9/9、11/8） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆高知市中心市街地活性化基本計画（第一期計画） ・計画登載57事業中55事業が「事業完了」または「事業実施中」（進捗率96%） ◆参考指標である「中心部の空き店舗率」及び「施設の入館者数」の目標達成 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>指標</th> <th>基準値</th> <th>目標値</th> <th>最新値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">参考指標</td> <td>中心部の空き店舗率</td> <td>14.4% (H23)</td> <td>13.4% (H29)</td> <td>12.2% (H29)</td> </tr> <tr> <td>施設の入館者数</td> <td>673,295人 (H21)</td> <td>707,000人 (H29)</td> <td>961,759人 (H29)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ◆高知市中心市街地活性化基本計画（第二期計画） ・計画登載60事業中58事業が「事業完了」または「事業実施中」（進捗率97%） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市中心市街地活性化基本計画（第二期計画）登載60事業のブラッシュアップ 		指標	基準値	目標値	最新値	参考指標	中心部の空き店舗率	14.4% (H23)	13.4% (H29)	12.2% (H29)	施設の入館者数	673,295人 (H21)	707,000人 (H29)	961,759人 (H29)
	指標	基準値	目標値	最新値											
参考指標	中心部の空き店舗率	14.4% (H23)	13.4% (H29)	12.2% (H29)											
	施設の入館者数	673,295人 (H21)	707,000人 (H29)	961,759人 (H29)											

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆高知市中心市街地活性化基本計画の推進</p>	<p>計画登載 60 事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●商店街・民間事業者等： <ul style="list-style-type: none"> ・帯屋町一丁目地区複合施設整備事業 商業店舗と住宅の複合施設整備（R元～3） ・高知大丸リニューアル事業 集客力向上のための改装及びポイントカードのリニューアル（H30～R4） ・商店街イベント事業（H30～R4）など ●高知市： <ul style="list-style-type: none"> ・丸ノ内緑地整備事業 憩いの場やイベント広場等への再整備（H30～R4） ・レンタサイクル事業（R2～4）など ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用提案 				
<p>◆高知市中心市街地活性化基本計画のフォローアップ、計画の見直し</p>	<p>高知市中心市街地活性化協議会の開催、定期フォローアップ、第三期計画策定に向けた検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知市： <ul style="list-style-type: none"> 内閣府への定期フォローアップ報告（毎年5月） 事業の進捗等による計画変更 第三期計画案の検討 ●高知市中心市街地活性化協議会： <ul style="list-style-type: none"> 定期フォローアップ報告及び計画変更に係る意見提出など ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 活性化協議会への参加、活性化基本計画のフォローアップ 				

AP名 (実施地域)	No.15 日曜市をはじめとする土佐の街路市の活性化 (高知市)
実施主体	◎高知市、◎出店者3組合ほか関係団体等
APへの位置づけ	H28.4月
事業概要	「高知市街路市活性化構想」に掲げた事業を実施することにより、地元利用者や観光客、出店者等、関係者にとって魅力ある街路市を創出し、来客数、出店者数の増加を図り、地域経済の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 新規出店者数	12件 (れんけい市町村除く) (H30)	17件	11件		20件
(2) れんけい小間来客数	14,836人 (H30)	4,838人	3,582人		24,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆街路市活性化構想の推進</p> <p>登載事業の着手(38事業/41事業着手済み：R3年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出店者用トイレのレンタル(1か所・H27～) ・日曜市動画のインターネット発信(H28・H29) ・街路市情報のインターネット(Facebook)発信(H29～) ・街路市紹介外国語パンフレットの作成 (H28:英語、R元:中国語) ・高校や大学による日曜市での活動協力: 高知大サンデー・マーケットサポーターズ(H21～30)、 高知商業高校(H23～)、県立大(H27～) <p>段階的な出店基準の規制緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1弾(H28)：手作り食品製造者及び手作り工芸品等製造者による出店 ・第2弾(H30)：グループによる出店及び固有店舗を1店舗保有する個人事業主の出店 ・第3弾(R元)：件数を限定した火気使用を伴う調理食 ・第4弾(R4)：仕入れ商品販売者の出店(店舗数限定) 	<p>◆街路市活性化構想のフォローアップ、計画の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街路市活性化構想推進委員会の開催 H27から毎年度1回開催し、事業の進捗管理及び翌年度実施事業についての検討を実施するとともに、必要に応じた計画の見直しを実施 <p>◆れんけいこうち日曜市出店事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・れんけいこうち日曜市出店事業 (H30～れんけい市町村8小間) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆出店基準の緩和による新規出店者数の増加 (基準緩和による増:33件(H28～R3)) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足や高齢化等による廃業者数(毎年20件前後)を埋めるための新規出店者の確保 ・街路市活性化構想41事業のフォローアップ及び計画見直し ・更なる規制緩和の検討 ・次期活性化構想の策定 ・れんけいこうち日曜市出店事業を活用したPR促進 ・新型コロナウイルス感染症の影響による来場者の減少

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
街路市活性化構想の推進	街路市活性化構想の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市(産業政策課) : 活性化構想(H26～10年計画)記載の41事業の実施・継続、出店基準の規制緩和等 ●出店者3組合ほか関係団体等 : 街路市出店による活性化構想の事業実施 ●県(地域本部等) : 各種支援制度に関する情報提供、アドバイザーの活用提案 				
街路市活性化構想のフォローアップ、計画の見直し	街路市活性化構想のフォローアップ、計画の見直し				
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市(産業政策課) : 高知市街路市活性化構想推進委員会の開催(年1回) 活性化構想の進捗管理及び翌年度実施事業の検討 ●出店者3組合ほか関係団体等 : 事業の見直し、計画変更等の協力 ●県(高知市地域本部) : 街路市活性化推進委員会への参画 			次期活性化構想の策定	
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市(産業政策課) : 次期活性化構想(R7年度～)の策定 ●出店者3組合ほか関係団体等 : 次期活性化構想策定への参画 ●県(高知市地域本部) : 次期活性化構想策定に向けた推進委員会等への参画 				
れんけいこうち日曜市出店事業の推進	れんけいこうち日曜市出店事業の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市(産業政策課) : 日曜市全体の来客数増加に向けた「れんけいこうち日曜市出店事業」の持続発展 ●れんけい市町村(33市町村) : 単独出店や輪番出店の継続による市町村の観光PRと地場産品のPR ●県(各地域本部) : れんけい市町村小間の輪番出店調整 				

AP名 (実施地域)	No.16 近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進 (高知市)
実施主体	◎高知市、城西館等
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	周辺市町村等とのネットワークを強化し、情報発信機能の強化やPR活動の充実、着地型観光の周遊ルートづくりを行うことによって、宿泊客の増加を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
高知市内の宿泊施設の 延べ宿泊者数	116万人 (H30)	80万人	77万人		121万人

※暦年

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆広域観光の推進

- ・れんけいこうち外国語観光案内システム「tosatrip」の運用（H30.3～）
- ・れんけいこうち観光案内所「こうち観光ナビ・ツーリストセンター」の運営（H30.3～）
- ・R2年度までに造成した旅行商品（12コース）の販売及びセールスプロモーション（R3～）
- ・広域観光ルートのプロモーション動画制作（R4）
2本（ダイジェスト版・本編版）×12コース
- ・各地域の集落活動センターや周辺地域との連携によりとさ恋ツアーの新商品を開発（H25～30）
- ・産振補助金（ステップアップ事業）を活用し、城西館の「とさ恋ツアー」の新パンフレット及び多言語HPを作成（H26）
- ・「とさ恋ツアー」の新商品開発にかかる関係者協議（H28～30）

＜主な成果＞

◆広域観光の推進

- ・れんけいこうち外国語観光案内システム利用者数
6,345人（R4.1～11）
- ・こうち観光ナビ・ツーリストセンター利用者数
7,375人（R4.1～11）
- ・旅行会社発行の紙・Web媒体への旅行商品掲載数
27商品（R4.4～9）

＜課題＞

- ・「tosatrip」は、利用実績が低調であるとともに、リピート率が10%を下回っている。
- ・観光案内所が中心商店街における広域観光案内窓口としてより広く認知される取組が必要。
- ・動画については、プロモーション費用が計上されていないため、今後発信方法の検討が必要。

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆ 広域観光の推進</p>	<p>観光案内システムやツーリストセンターを活用した県内全域への周遊促進</p>				
	<p>●高知市： 観光案内システムの運用（情報追加、不具合改善、利用促進のためのPR等）、ツーリストセンターの運営（県内全域の観光・交通情報提供、各種サービスの提供、市町村PRイベントの実施等）※観光案内システムの運用については、R5年度から休止</p> <p>●県(地域本部等)： 各種支援制度の情報提供及び提案</p>				
<p>広域観光ルートの造成と効果的なプロモーションの継続</p>					
<p>●高知市： れんけいこうち広域都市圏観光客動態調査により得られたビッグデータを活用し、新たな周遊ルートやターゲット等に応じた効果的な旅行商品の造成及びプロモーションの実施</p> <p>●県(地域本部等)： 各地域の観光情報提供及び橋渡し</p>					

AP名 (実施地域)	No.17 本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展 (高知市)
実施主体	◎高知市、◎(公社)高知市観光協会、そのほか関係団体等
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	年間を通じてよさこいの魅力を向上させることにより観光客の誘致を図るとともに、「よさこい」発祥の地としての地位の確立・ブランド化に取り組む。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) よさこい祭り来場者数	115万人 (R元)	－ よさこい祭り中止のため	－ よさこい祭り中止のため	－ ※特別演舞として開催	120万人
(2) 高知よさこい情報交流館入館者数※	56,638人 (R元)	23,752人	18,835人		60,000人

※暦年

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆よさこい祭りの運営体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染防止対策会議の実施 (R4) ・「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」開催 (R4.8月) ・よさこい運営強化への取り組み (H29～) 振興会・県・市での検討会、競演場との意見交換 ・運営マニュアルの作成 (H30) <p>◆高知よさこい情報交流館の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知よさこい情報交流館オープン (H25) ・はりまや橋商店街と連携してよさこい鳴子踊りの披露 (H25～) ・企画展開催 (H25～) ・体験プログラムの実施 (H25～) ・高知よさこい情報交流館展示スペース拡張 (H27) <p>◆県外のよさこいで観光PRの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外よさこい祭りにてよさこいのPR活動 (H27～) 「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい2022」 「YOSAKOI させぼ祭り」 ・福井市や京都市でのよさこい披露によるPR (R4) ・台湾・高雄市でのよさこい披露によるPR (H29～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」の開催 参加チーム 96チーム 踊り子 約6,600人 来場者 約31万人 ※第69回よさこい祭りは中止としたが、規模を縮小し開催した特別演舞には、多くの方に参加いただいた。 ・菜園場競演場に土佐学生よさこい実行委員会がボランティア参加 (R1.8月) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の徹底や高額な対策費など、引き続きコロナ禍での開催方法に課題があるほか、各会場の運営について資金や人手の不足がより顕著となっている。 ・学生ボランティアによる会場支援がコロナの影響により中断している。 ・コロナの影響もあり、よさこい踊り体験及び鳴子づくり体験者数が、コロナ前と比較して減少している。 ・コロナ禍でのよさこい祭り開催に向けて、感染症対策への取り組み

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆よさこい祭りの運営体制の充実	関係団体との連携の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市： よさこい祭振興会・県・市での検討会の開催、各競演場との意見交換会の開催、競演場運営への学生ボランティアの参画推進 				
◆高知よさこい情報交流館の充実	館内展示物の見直し				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(公社)高知市観光協会： 館内展示物の定期的な入れ替えや資料更新、よさこいに関する寄贈物の保管 ●高知市： 見直しや更新についてのアドバイス、WEBによる展示情報や寄贈物受入に関するPR支援 				
	体験プログラムの拡充と「交流の場」としての機能拡張				
<ul style="list-style-type: none"> ●(公社)高知市観光協会： 既存の体験プログラム（正調よさこい鳴子踊り体験、オリジナル鳴子づくり）の改良、新規体験プログラムの企画・検討・導入、よさこい愛好者にとつての「交流の場」としての空間展開やイベント等の企画・検討・導入 ●高知市： 企画・検討段階におけるアドバイス、WEBによるPR支援 見直しや更新についてのアドバイス、展示情報や寄贈物受入に関するPR協力 					
◆県外のよさこいで観光PRの強化	県外よさこい団体との連携の強化と拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市： よさこいを通じた県外団体との協力関係の強化、新たな団体との協力関係の構築、県外よさこいイベントにおける観光PRブースの出展 				
<p>【用語】・2020よさこいで応援プロジェクト実行委員会：高知県国際観光課が主体となり、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開閉会式等でのよさこい演舞の実現や、全国各地のよさこいにより同大会を盛り上げていくことを目的に設立された団体で、2019年7月現在37都道府県92のよさこい団体が加盟</p>					

AP名 (実施地域)	No.18 桂浜公園を核とした桂浜エリアの活性化による観光振興 (高知市)
実施主体	◎高知市、◎(株)はりま家、民間事業者
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	県内最大の観光施設である桂浜公園を、自然景観と歴史資源を生かした学びや憩い、楽しみが溢れる公園として整備し、国内外からの観光入込客数の増加を図る。 また、桂浜公園の魅力アップによる集客効果にあわせて観光案内機能を強化することにより、県内各地への周遊を促進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
桂浜公園来園者数※	649,096人 (R元)	384,589人	344,547人		800,000人

※暦年

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆桂浜公園整備

- ・桂浜公園整備基本構想策定 (H27)
- ・桂浜公園整備基本計画策定 (H28)
- ・桂浜公園整備手法等調査実施 (H29)
- ・大規模施設整備には初期投資がかかる反面、津波等のリスクがあるため、既存売店のリノベーションの実現可能性についての検討 (H30)
- ・既存売店のリノベーション実施に向けた耐震診断及び不動産鑑定評価を実施 (R元)
- ・観光施設等緊急整備事業費補助金の交付決定 (R2)
- ・公的施設(休憩所等)整備の実施 (R3)
- ・耐震補強工事実施(A~D棟) (R3)
- ・桂浜公園指定管理者の指定 (R3)
- ・桂浜公園指定管理者による商業エリアのリノベーション(R4.10月プレオープン、R5.3月グランドオープン予定)

◆船着き場整備

- ・実施設計の作成 (R元)
- ・設置工事 (R2)
- ・桂浜防波堤内に整備予定の栈橋について関係者協議 (R4~)

<主な成果>

桂浜公園来園者数

530,264人 (R4.1~11)

※R4.11.13(龍馬まつり)は駐車場無料開放としたため、来園者数カウントに含まない。

<課題>

- ・滞在時間の短さ
- ・大型連休時の道路渋滞
- ・桂浜栈橋の活用

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降	
◆桂浜公園整備	既存売店の耐震補強設計・工事		リノベーション	活性化を図る取り組み		
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市： 耐震補強設計・工事 ●県(地域本部等)： 高知県観光拠点等整備事業費補助金の活用支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●指定管理者： 建物（商業エリア）のリノベーション ・R4.10月 プレオープン ・R5.3月 グランドオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市・指定管理者： 活性化を図るイベント等の実施 県内市町村のPRイベント等の実施 観光案内機能の充実 ●県(地域本部等)： 高知県観光拠点等整備事業費補助金の活用提案 			
	指定管理者募集要項作成・選定					
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市： 募集要項作成 民間事業者サウンディングの実施 指定管理者公募・選定 					
	公益施設整備		公益施設整備（展望台整備、樹木剪定等）			
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知市： 県補助金を活用した公的施設整備の前倒し（観光案内所・バス待合所の整備、休憩所整備、トイレリニューアル、園路の整備、サイン整備、Wi-Fi整備） ●県： 高知県観光施設等緊急整備事業補助金の創設 		<ul style="list-style-type: none"> ●高知市： 展望台整備、樹木選定等 ●県(地域本部等)： 高知県観光拠点等整備事業費補助金の活用提案 			
◆船着き場整備	設置工事	観光遊覧船の桂浜寄港地発着運航				
	<ul style="list-style-type: none"> ●県(地域本部等)： 船着き場の設置工事 	<ul style="list-style-type: none"> No.19 浦戸湾を活用した観光の振興の取り組みによる 				
<p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サウンディング：事業発案段階や事業化段階において、事業内容や事業スキーム等に関して、直接の対話により民間事業者の意見や新たな提案の把握等を行うことで、対象事業の検討を進展させるための情報収集を目的とした手法 						

AP 名 (実施地域)	No.19 浦戸湾を活用した観光の振興 (高知市)
実施主体	◎(株)土佐レジン
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	浦戸湾を活用した観光遊覧船の取り組み等により県内外からの観光客の誘客を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
観光遊覧船の乗船客数	1,064人 (H30)	551人	824人		5,000人

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p>◆周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな発着場での運行開始 (H29) ・幕末維新博に合わせた船内アナウンスの充実・改善 (H29) ・大手旅行会社とクルーズツアーの契約 (H29) ・乗船客へのアンケート実施 (R元) ・桂浜新棧橋設置 (R2) ・コンベンション協会によるツアーの造成 (R2~) ・遊覧船コースのPRと運航における安全性の確立と効率化のためのシステム構築 (R3) →R3 産振補助金(ステップアップ事業)の活用 (事業費 144万円) ・桂浜発着コースの安全運航に向けたトライアウトの実施 (R4 : 6月2回、10月1回) <p>◆観光客に向けたPR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS、HPによる情報発信 (H27~) ・「さんしん GO !」による広報活動 (H29.3月) (R2.10月) ・「土佐の夏フェス」、「御置瀬祭」にて浦戸湾ワンコインクルーズの実施 (H29~) ・第70回関東高知県人大懇親会でのパンフレット配布 (H30) ・各テレビ局での生中継 (R3) : 2回 ・TVCMを活用した情報発信 (R4.9月) 	<p>◆運行回数</p> <p>H29 : 241回 H30 : 175回 R元 : 207回 R2 : 110回 R3 : 142回</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・桂浜発着コースの安全性向上と安定運航 ・誘客のための情報発信 ・桂浜護岸整備工事による小型旅客船発着場整備後の運航に向けた調整

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充	桂浜寄港地での新コース運航				
	遊覧コースの拡充				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)土佐レジン： 運航実施手順の作成、桂浜寄港地での運航 ●県（地域本部等）： 浦戸湾全体を使った周遊コース作成のための産業振興アドバイザー活用について提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)土佐レジン： スタッフ増員による運営体制の強化等 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の情報提供及び提案 		
	桂浜公園との連携による商品開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)土佐レジン、高知市、県（地域本部等）： 桂浜公園内事業者や公共交通機関等と連携した遊覧コースの開発 ●高知市、県(地域本部等)： 遊覧コース開発の支援 				
◆ 観光客に向けたPR活動	新商品のプロモーション活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)土佐レジン： 観光情報誌への掲載、旅行会社との連携 ●県（地域本部等）： さんしんGO！でのテレビ放送、龍馬パスポートと連携したPR 				
	HP・SNSを活用した観光客の獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)土佐レジン： 新コースに合わせたホームページ・パンフレットの作成、SNSでの情報発信 ●県（地域本部等）： Twitter等の県の情報発信ツールを用いたPR活動 				
	イベントへの参加				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)土佐レジン： イベント参加による遊覧船の知名度の向上 ●県（地域本部等）： イベント参加のサポート 				

AP名 (実施地域)	No.20 土佐の偉人を生かした観光の振興 (高知市)
実施主体	◎指定管理者（龍馬の生まれたまち記念館：シダックス大新東ヒューマンサービス(株)、自由民権記念館：伊予鉄総合企画(株)）、◎高知市、◎(公社)高知市観光協会、(特非)土佐観光ガイドボランティア協会、長宗我部連絡協議会等関係団体
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	坂本龍馬をはじめとする土佐の偉人ゆかりの地の魅力を高め、県外に情報発信するとともに、歴史、文化、町並みや食などを活用した「まち歩き」を充実させることにより県内外からの観光客の誘客につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 土佐っ歩への参加人数※	1,195人 (H31.1～12月)	785人	774人		1,350人
(2) 自由民権記念館常設展観覧者数※	9,739人 (H28～30平均)	4,282人	5,686人		10,000人
(3) 龍馬の生まれたまち記念館入込客数※	45,978人 (H30.1～12月)	20,132人	15,214人		50,000人

※暦年

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p>◆「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースリニューアル（H21～） <p>◆土佐の偉人関連イベントの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍馬生誕祭の開催（毎年） ・龍馬に大接近の実施（毎年） ・龍馬まつり in 桂浜の実施（毎年） <p>◆土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍馬の生まれたまち記念館のパンフレット作成及び展示物の外国語ガイド開始（H22） ・長宗我部関連マップの作成、配布（H22～） ・瑞山記念館リニューアル（H22） ・瑞山記念館来館者用トイレ整備（H25） ・龍馬の生まれたまち記念館一部リニューアル（VR施設を拡充等）（H28～29） ・県立坂本龍馬記念館リニューアル（H30） 	<p>◆「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」の新コース開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに開発したコース数：24コース(H21～R3累計) <p>◆土佐の偉人関連イベントの来場者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍馬生誕祭来場者数 H29：455人 → R3：2,967人 ・龍馬に大接近来場者数 H29：66,048人 → R4：40,646人 (4/2～5/29：20,464人、9/17～11/13：20,182人) ・龍馬まつり in 桂浜来場者数 H29：9,000人 → R4：4,000人 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「土佐っ歩」全コースを案内できるガイドの減少 ・「土佐っ歩」の原則事前予約とする参加方法の見直し・検討 ・龍馬の生まれたまち記念館の企画展等の充実

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆「龍馬の生まれ れたまち歩き～ 土佐っ歩～」の 魅力向上	<p>観光客のニーズに対応したコースの見直し・新設</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(特非)土佐観光ガイドボランティア協会： ガイド実施時における利用者のニーズの把握、既存コースの改良、新コースのコンセプトづくりとコース検討、土佐っ歩ガイドの実施 ●高知市： 既存コースの改良や新コース検討における協議、土佐っ歩パンフレット制作、WEBによるPR 				
◆土佐の偉人関 連イベントの充実	<p>坂本龍馬、長宗我部元親などの土佐の偉人関連イベントの実施、情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(公社)高知市観光協会、長宗我部連絡協議会等 龍馬に大接近(春・秋)、長宗我部まつり、龍馬生誕祭、龍馬まつり in 桂浜等イベントの企画提案・実施、関連団体との連携、WEB・SNSによるイベントのPR ●高知市： 企画・提案に対するアドバイス、関連団体への橋渡し、WEB・SNSによるイベントのPR支援 				
◆土佐の偉人ゆ かりの地の魅力 向上	<p>【龍馬の生まれまち記念館】【自由民権記念館】企画展の充実、PR活動の推進</p> <p>龍馬の生まれまち記念館</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指定管理者： 企画展を多数開催するとともにワークショップ等も充実させ、SNS等で発信 ●高知市： WEB・SNSによるイベントのPR支援 ●県(地域本部等)： 「リョーマの休日キャンペーン」地域イベント等支援事業費補助金等の活用支援 <p>自由民権記念館</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指定管理者(伊予鉄総合企画(株))： ワークショップ・講座の開催、SNSによる広報 ●高知市： 「リョーマの休日キャンペーン」地域イベント等支援事業費補助金を活用した企画展(2回)の開催(R2) ●県(地域本部等)： 「リョーマの休日キャンペーン」地域イベント等支援事業費補助金等の活用支援 <p>関連史跡等 の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知市： 板垣退助の墓駐車場を整備(R2) ●県(地域本部等)： 高知県観光拠点等整備事業費補助金の活用提案 				

AP名 (実施地域)	No.21 食による観光の推進 (高知市)
実施主体	◎土佐のおきゃく推進会議、◎土佐の豊穰祭実行委員会、(公社)高知市観光協会ほか
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	高知市内で開催される「おきゃく」や「豊穰祭」などの食イベントを定着・充実させること等により高知の強みである「食」を生かした観光を推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 土佐の豊穰祭 入込客数 (高知会場)	34,316人 (R元)	15,128人	10,852人	16,545人	50,000人
(2) 土佐のおきゃく 入込客数	73,892人 (R元.3月)	- 中止	- 一部オンライン開催 (R3.3月)	54,145人 (R4.3月~7月)	80,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

- ◆食のイベントの定着・充実
 - ・「土佐のおきゃく」の開催
 - ・「土佐の豊穰祭」の開催
- ◆食に関する情報発信
 - ・食のイベントのポスター及びパンフレットの市内観光地・
県外観光客への配布
 - ・HPやSNSを用いた高知の「食」紹介
- ◆コロナ禍における開催への支援
 - ・新型コロナウイルス感染症対策強化への補助支援

<主な成果>

- ・土佐のおきゃく 2019 経済波及効果：8.5 億円
- ・土佐のおきゃく 2022：新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、通常開催は難しかったが、分散開催やオンラインなど開催方法を工夫して実施できた
(R4.3月~7月)
- ・土佐の豊穰祭 2022：16,545人
 - 11/5(土)：7,101人
 - 11/6(日)：9,444人

<課題>

- ・日帰り客が多く、宿泊客数が少ないため、宿泊者数の増加に繋がる手法を検討する必要がある
- ・若い女性の参加が少ないため、若い女性の参加を促す内容や広報の検討が必要

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆春の「おきゃく」や秋の「豊穰祭」など食のイベントの定着・充実</p>	<p>「おきゃく」や「豊穰祭」などイベントの継続的開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐のおきゃく事務局・土佐の豊穰祭推進会議事務局： 利用者のニーズ把握、出店団体の意見・要望の把握、他イベントとの連携や新規事業の検討 ●高知市： 推進会議への参加 				
<p>◆食に関する情報発信</p>	<p>県内外へのPR活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐のおきゃく事務局・土佐の豊穰祭推進会議事務局： チラシ、ポスター等の配布やSNSでの情報発信、新聞やテレビCMでの宣伝 ●高知市： HPやインスタ等SNSによる情報の発信、高知市食育推進委員会が発行する食育だよりでの「おきゃく」、「豊穰祭」の紹介、県外イベントでのポスター掲示やチラシ配布 				

4 嶺北地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

嶺北地域の人口（国勢調査ベース）は令和2年時点で10,632人と、ピークであった昭和30年（44,709人）と比較して7割以上も減少しています。特に少子化や高齢化が著しく進んだために経済活動の基盤となる生産年齢人口比率が50%を下回るなど厳しい状況にあります。

さらに、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）に準拠した国のまち・ひと・しごと創生本部事務局の推計によると、2060年には4,555人にまで減少することが予想されています。

人口の減少は、地域内の消費活動の低下につながり経済活動を縮小させているほか、いずれの産業においても、就労者の高齢化の進行と後継者の不足を招いており、将来に不安をかかえています。

しかしながら一方で、当地域は、特有の気候を生かした多様な農作物や豊富な森林資源とともに美しい山、川などの自然や伝統的な文化と風習を有しています。また、高知市や他府県からの交通の利便性も良いことから、本県にとって重要な役割を果たすとともに、潜在的に発展しうる可能性を秘めた地域でもあります。

そのため、基幹産業である農林業を中心としながら県外からの観光客誘致などに積極的に取り組んでいくことが重要となっており、併せて必要な人材確保に向けた移住促進にもさらに力を入れていく必要があります。

産業別について、まず農業分野では、生産者の高齢化や耕作放棄地の増加など、厳しい状況は続いています。気温の寒暖差を生かした作物栽培、肉用牛や食鳥のブランド化など地域性を生かした取り組みも進んできました。

林業分野については、県内でも有数の森林資源を持つ地域であり、大型製材工場の本格稼働に伴い、4町村が連携して原木の安定供給体制の構築に取り組んでいます。

商工業分野では、受発注システムによる農産物の地産外商や地元産酒米で醸造した日本酒の海外進出が進みつつあるほか、集落活動センターと連携して開発した清涼飲料水などのヒット商品も出てきました。

観光分野では、これまで豊かな自然や様々な文化の魅力を十分に伝えられず経済効果が得られるまでには至っていませんでしたが、アウトドア拠点施設の完成や豊かな環境が残る山岳や川、雄大で美しいさめうら湖を活用した自然体験型の観光・交流メニューの造成などにより、観光客誘致の体制が整いつつあり気運も高まっています。

構成4町村は、それぞれ令和元年度に第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口の維持と交流人口の拡大、地域の特性を生かした地域づくりによる地方創生に引き続き取り組んでいます。産業振興の取り組みはこの地方創生の重要な要素であり、各町村と県は、目指すべき方向、目標などを共有し、役割分担をしながら取り組みを進めています。

(2) 地域アクションプランの概要

当地域では、これまで取り組んできた事業の成果や課題を踏まえて継続する取り組みに、地域の特産作物の生産者と企業が連携を強化する取り組みや、地域産業クラスター化を目指す取り組みを加えながら、中山間地域の産業振興に取り組めます。

農業分野では「れいほく八菜・八花」の取り組みなど環境保全型農業の推進や中山間地域の農業を支える中山間農業複合経営拠点の取り組みを進めます。また、ブランド米や地域で代々受け継がれてきた銀不老などの生産の拡大を図りながら、これらを活用した加工品の製造・販売に取り組めます。さらに、環境制御技術などの先進技術を取り入れた「次世代型こうち新施設園芸システム」を中心としたクラスタープロジェクトを推進します。

畜産分野では、地域ブランドである土佐あかうしや大川黒牛の生産拡大のほか、土佐はちきん地鶏の生産から加工・販売までの一貫した取り組みの円滑な運営を進めます。

林業分野では、大型製材工場の生産拡充にあわせた原木供給を進めることで、豊富な森林資源の利用の促進と安定供給体制の構築を進めるとともに、木質バイオマス発電施設の整備など、嶺北地域全体での林業クラスター化を目指します。また、地球環境への関心の高まりなどから、木の良さが見直されるなど森林資源の活用の気運が広がっており、嶺北材を消費地に売り込むとともに、間伐の拡大や苗木の栽培などにより循環資源である森林の維持に努めます。さらに、地域の豊かな山林とそこで培われた技術・人材を最大限に生かした担い手育成の取り組みも実施します。

商工業分野では、嶺北産の農産物を始めとした特産品を集約して、東京や大阪などの小規模飲食店等を対象に販売する仕組みづくりとともに、県外でも評価が高い「碁石茶」やシソ飲料及び地域内で捕獲された有害鳥獣のジビエ肉を活用した商品の販路拡大に取り組めます。また、地域の特徴である木材資源を生かし付加価値を高めた木工製品の製造や、インターネットを中心とした販売体制の強化などに取り組めます。さらに、蔵元が地元産酒米にこだわり醸造した日本酒の国内外への販路拡大などに取り組めます。

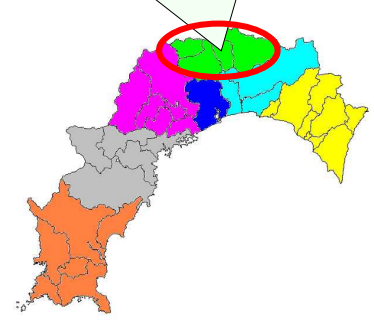
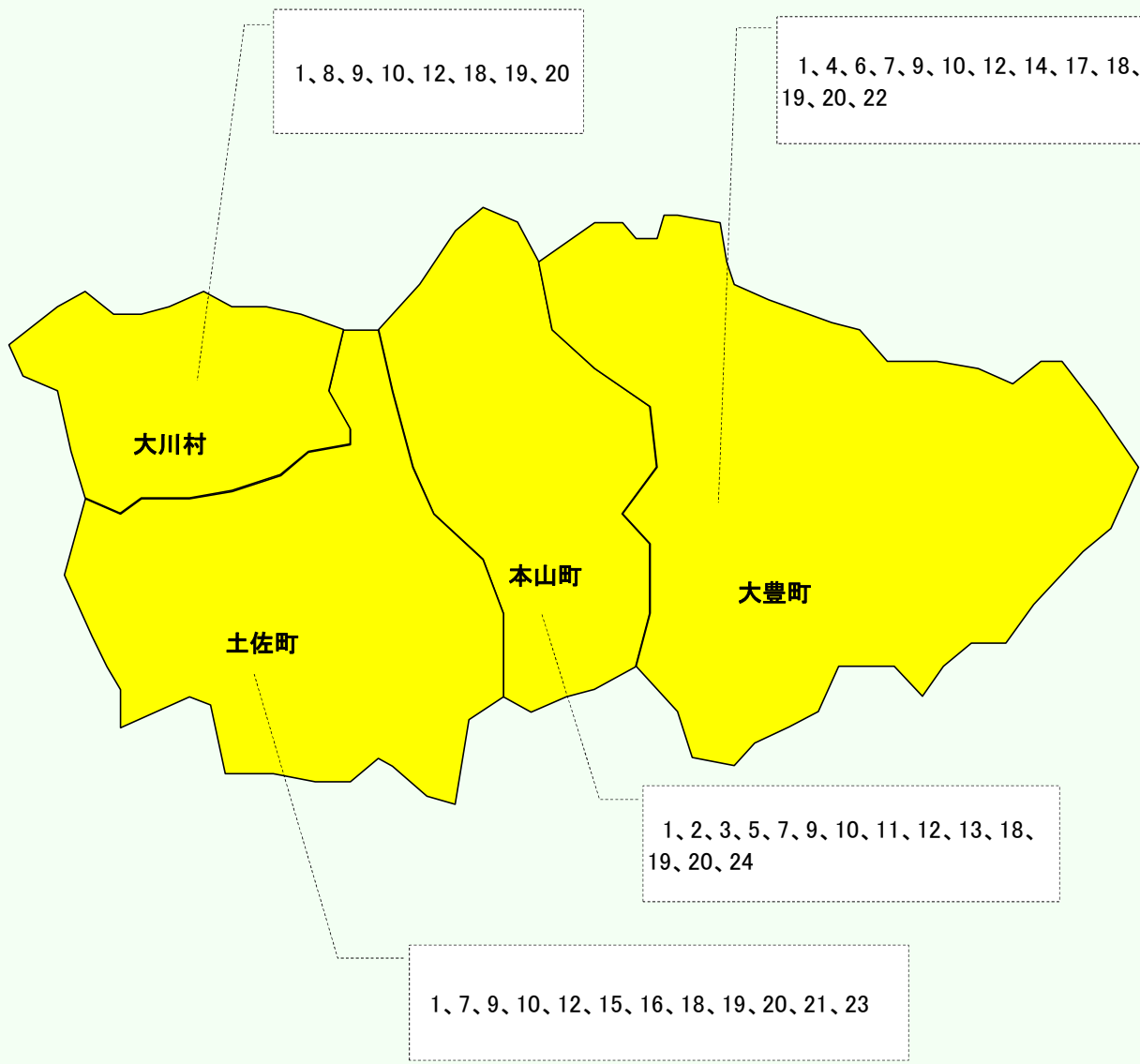
観光分野では、嶺北の広域観光組織「土佐れいほく観光協議会」を軸に、嶺北4町村及び地域内の観光関係者が連携を図り、さめうらレイクタウンやアウトドアビレッジ等の拠点施設を中心に豊かな環境が残る山岳や川、棚田などの景観を生かした体験型の観光資源の開発に取り組む、さらなる交流人口の拡大を推進します。

また、集落活動センター等におけるビジネス創出の取り組みにより、地域イメージの向上と雇用の場の確保を図ることで、地域の担い手となる若者定着につなげます。

(3) 具体的な取り組み

No.	項目	本山町	大豊町	土佐町	大川村
1	れいほくブランドの園芸産地の維持	●	●	●	●
2	ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進	●			
3	直販所「さくら市」を核とした地域活性化	●			
4	銀不老による地域活性化の取り組み		●		
5	本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト	●			
6	(株)大豊ゆとりファームを核とした地域産業を持続化させる取り組み		●		
7	土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興	●	●	●	
8	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化				●
9	嶺北地域における林業クラスター化の取り組み	●	●	●	●
10	れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)をはじめとする嶺北材の促進	●	●	●	●
11	嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興	●			
12	嶺北地域の特産品販売拡大への支援	●	●	●	●
13	ばうむ合同会社による地域資源(木材・米)活用の取り組み	●			
14	碁石茶を中心とした加工品ビジネスの展開		●		
15	嶺北材を生かしたオリジナル木工品の製造・販売による地域活性化			●	
16	嶺北地域で140年続く酒蔵の地産外商を核とした地域の活性化			●	
17	大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大		●		
18	嶺北地域の連携による交流人口の拡大	●	●	●	●
19	嶺北広域観光アウトドアの里づくり	●	●	●	●
20	嶺北地域における山岳観光の推進	●	●	●	●
21	さめうら湖の活用をはじめとしたスポーツ・ツーリズムの振興			●	
22	集落活動センター西峯におけるビジネス創出による地域活性化の取り組み		●		
23	集落活動センターいしはらの里による地域活性化の取り組み			●	
24	集落活動センター汗見川による地域活性化の取り組み	●			

【嶺北地域】



AP名 (実施地域)	No.1 れいほくブランドの園芸産地の維持 (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連 (本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎JA 高知県(土長地区・園芸部会、花き部会、コンフィデンスフラワー)、◎大豊とまと生産者、JA 高知県 (土長地区)、中山間農業複合経営拠点
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	農業で生活できる所得が得られるよう、「れいほく八菜」「れいほく八花」等の収量・品質を向上させ、販売額の増加を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) JA 園芸部販売額	1.7 億円 (R元)	1.74 億円	1.46 億円	1.61 億円	1.8 億円
(2) JA 花き部会・コンフィデンスフラワー販売額	1.3 億円 (R元)	1.38 億円	1.89 億円	1.87 億円	1.85 億円
(3) 大豊とまと販売額	2,000 万円 (R元)	2,356 万円	2,264 万円	2,743 万円	3,000 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み</p> <p>「れいほく八菜」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン(増収、担い手の育成)達成に向け、産地提案書の作成と指導農業士の認定 ・連作に伴う塩類集積・土壌病害対策の実施 ・増収対策として pF メーターを目安としたかん水管理の導入 ・新規有望品目の導入 <p>「大豊とまと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標収量(5t/10a)達成に向けた肥培管理と土壌病害対策 ・組織活動(現地検討会、研修会、先進地視察調査、有利販売に向けた情報収集)の実施 <p>「れいほく八花」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品種登録によるラインナップ増から、新たな販売展開が可能(ノーブル) ・商談会での産地紹介、販売店への PR による消費者の認知の向上(ノーブル) ・標高差を活用したリレー出荷による出荷期間の拡大及び耐暑性品種の検討(オリエンタル系ユリ) ・土壌分析による生理障害の回避(オリエンタル系ユリ) ・立枯病対策として土壌還元消毒等の実施(トルコギキョウ) 	<p>◆生産の維持と担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業受託の推進や就農に向けた支援 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規就農者の確保 (H28～R4.12 までの累計) 米ナス 2 名、甘長トウガラシ 3 名、ミニトマト 5 名、花き 7 名 ◆新規有望品目の導入 甘長トウガラシ 20 名、116.3a(R4) ◆ノーブル由来の新品種登録：4 品種 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業で生活できる所得と担い手の確保 ・高齢農家の作業受託・事業承継体制の整備 ・土壌病害の回避と土づくりの推進 ・収穫作業等での雇用の確保 ・環境制御技術等(日射比例制御かん水装置、ハウス内温湿度管理)の導入による省力化・高度化の推進 ・省力的な病害対策技術(イオウ粉剤・くん煙剤)の推進 ・ノーブルの球根養成 ・オリエンタル系ユリ等の有望品目・品種選定

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み</p>	<p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">栽培管理の見直し、環境制御・省力化技術の導入</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県(土長地区・園芸部会、花き部会、コンフィデンスフラワー)、大豊とまと生産者： <ul style="list-style-type: none"> 高品質生産・省力化技術(自動天窓、日射比例かん水制御装置、作期の早進化等)の検討・確立 環境や状況に対応した塩類集積、土壌病害、高温障害対策等の実践 新規対応策の検討 オリジナル品種の育成・生産拡大、有望品目・品種の選定・導入(れいほく八花) 多様な雇用労力の確保、作業の効率化(カイゼン) PR 販売促進活動の実施(れいほく八花) ●県(農業改良普及所等)： <ul style="list-style-type: none"> 環境制御・省力化技術、新技術の情報提供、実証ほの運営支援、事業の導入支援 JA 営農指導員と連携した栽培管理指導、新規対応策の実証調査 オリジナル品種の生産拡大に向けた体制作り(れいほく八花) </div>				
<p>◆生産の維持と担い手の育成</p>	<p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">生産を維持する労力補完システムの確立</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県(土長地区)、中山間農業複合経営拠点：作業受託体制の確立 ●県(農業改良普及所等)： <ul style="list-style-type: none"> 作業受託体制の確立に向けた支援 </div> <p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; margin-top: 10px;">担い手の確保と栽培技術の早期習得及び経営目標の達成</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県(土長地区)、中山間農業複合経営拠点： <ul style="list-style-type: none"> 空ハウス情報等の集約・共有 担い手への情報提供、産地提案書の活用 栽培技術相談 ●県(農業改良普及所等)： <ul style="list-style-type: none"> JA 営農指導員と連携した栽培・経営技術指導 担い手の栽培・経営状況の把握 指導農業士の育成・支援 </div>				

AP名 (実施地域)	No.2 ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進 (本山町)
実施主体	◎本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社、本山町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	農家の高齢化によって、(一財)本山町農業公社が管理する農地面積は増加している。公社では農地を守るため、米の販売価格の向上を目指し、ブランド米「土佐天空の郷」の生産安定と販路拡大、ブランド力の向上や省力化を目的としたスマート農業に取り組む。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
「土佐天空の郷」、「天空の棚田米」合計販売額	0.6億円 (R元)	0.5億円	0.5億円		1億円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆ブランド米の生産維持、販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業公社が全量買い取りする仕組みの構築(H21) ・ブランド化に向けた栽培技術の向上 ・ブランド米の生産増、販売拡大 ・販売促進に向けた取り組み(H22～) ・コンクールへの出品(H21～) ・消費者との交流(田んぼアート等)による産地のファンづくり ・耕作放棄地の解消を目指した農地借り入れ、農作業受託の拡大、受託料金等の見直し ・定期的な研修会開催、生産誘導による人材育成 ・色彩選別機、食味計等の導入(H21～23) <p>◆スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田センサー等を活用した水稻栽培管理の省力化と品質向上の検討(H29、水田センサー100台導入) ・水田センサー、ほ場管理アプリケーションの導入(H29) ・ドローンによる葉色測定・生育診断検討 ・ドローンによる防除作業実施(R3) <p>◆おにぎり製造販売事業等による収益拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町みらい創造協議会策定委員会によるおにぎり事業展開に向けた検討(R元～) ・本山さくら市内に、土佐天空の郷100%使用したおむすび屋「おむすび処こめのみみ」を開店(R2～) ・産業振興アドバイザー導入による余剰ご飯を活用した新商品開発(R3) 	<p><主な成果></p> <p>◆ブランド米の地位を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お米日本一コンテスト in しずおか」で受賞(H22:最優秀賞、H27:金賞、H28:実行委員会会長賞(特別最高金賞)) ・(一財)日本穀物検定協会の食味ランキングで高知県北地区「にこまる」が特A評価(H29、30、R元、R2、R3) ・米専門店を中心に取引先が全国100店舗以上に拡大 <p>◆生産者価格(玄米一等米)の向上</p> <p>10,000円/30kg(～H28) → 10,250円/30kg(H29～)</p> <p>◆スマート農業の推進</p> <p>水位センサーによる、水の見回り負担の軽減 「ヒノヒカリ」、「にこまる」の収穫適期指標の作成</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の確保や需要に対する生産量不足への対応栽培基準の見直し ・スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化 ・農業公社の収益拡大
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ブランド米の生産維持、販売促進	「土佐天空の郷」栽培基準の見直し			見直された「土佐天空の郷」栽培基準の実施	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 栽培基準の見直しに関する会議の開催 ● 県（農業改良普及所等）： 栽培基準見直しに向けた実証支援 			<ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 安定生産支援、販売促進活動 ● 県（農業改良普及所等）： 個別巡回、現地検討会、個人面談による栽培管理指導 	
	生産者の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 本山町特産品ブランド化推進協議会役員による新規栽培者への栽培技術指導 農作業受託による作業労力の軽減 ● 県（農業改良普及所等）： 本山町特産品ブランド化推進協議会役員、公社と連携した生産者募集、栽培技術習得支援、集落営農組織等との連携支援 				
◆スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化	品質管理向上及び作業労力軽減技術の検討、普及				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社、本山町： 水田センサーを活用した品質管理向上及び水管理軽減技術、通信費コスト削減等の検討 省力機器の検討及び普及（育苗、田植え、防除等） 機器普及のための各種事業等の活用 ● 県（農業改良普及所等）： 企業、関係機関との連携による新技術、各種情報の提供、省力機器等の実証及び導入支援 				
◆おにぎり製造販売事業等による収益拡大	おにぎり屋開業の検討				
	おにぎり屋の営業				
	<ul style="list-style-type: none"> ● (一財)本山町農業公社： 事業計画の策定、おにぎり具材の試作品づくり、試験販売の実施、おにぎり屋の整備 ● 県（地域本部等）： 事業計画策定に対する助言、商品開発に関する産振アドバイザー等による支援 		<ul style="list-style-type: none"> ● (一財)本山町農業公社： PR活動の実施、商品改良 ● 県（地域本部等）： PRやブランディング戦略に関する産振アドバイザー等による支援、各種支援制度に関する情報提供 		

AP名 (実施地域)	No.3 直販所「さくら市」を核とした地域活性化 (本山町) ※地域産業クラスター関連 (本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎本山さくら市生産組合、本山町
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	食材供給拠点施設として地域の農産物の計画生産と販売拡大に取り組むとともに、特産品の開発・販売等による魅力ある観光スポットとして交流人口を拡大し地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	1.2億円 (R元)	1.21億円	1.2億円		1.8億円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆商品の充実</p> <p>[野菜等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有望品目・品種の栽培講習会の開催(H25、28) ・商品の充実に向けた研究会の設立、勉強会の開催(H29) ・野菜栽培暦・年間出荷暦の作成(R元) ・県内外への野菜等出荷(R元) <p>[加工品]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理加工施設「さくら茶屋」の整備(H25～26) ・「さくら茶屋」での農産物の試食、軽食販売(H27～28) ・オリジナル加工品の開発(H29:1品、H30:1品) ・公社野菜苗供給に向けた課題整理(R3) <p>◆販売の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振総合支援事業費補助金(ステップアップ事業)による商品の情報発信、集客のためのチラシ・リーフレットの作成・配布(H24) ・会員対象にPOP作成講習会の開催(H24) ・出荷品の情報発信方法の習得、魅力ある店づくりの実施(H24) ・消費者交流イベントの開催(H26～) ・地域づくり支援事業→調理加工施設「さくら茶屋」の整備(H25～26) 	<p>◆組織体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販活性化セミナーでの従業員の接客、商品の展示方法の改善(H30～) ・生産者向け衛生管理講習会の開催(H25、28、R元、R3(HACCP)) ・土佐れいほく博と連携したイベントの開催(R元) ・新体制移行に向けた検討(R3) ・本山町農業公社に店舗運営等委託開始(R4～) <p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>H28:5人(パート5人) → R元～R2:7人(パート7人) → R3:6人(パート6人)</p> <p>◆「さくら茶屋」登録グループ数</p> <p>H29:10 → R元～R3:13</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高の向上 ・野菜出荷量の拡大、加工品の開発等、商品の充実 ・販売チャネルの拡大 ・組織体制の強化
--	--

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆商品の充実	<p>野菜等の生産及び出荷量の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本山さくら市生産組合： <p>野菜栽培暦を活用した生産拡大、集荷等出荷体制の整備、計画生産の確立 組合員（生産者）の維持・拡大、消費者ニーズを配慮した野菜の苗の供給 嶺北地域の商品の収集、加工品の開発等、お土産等商品開発グループへの素材提供 商品管理技術の向上（食品表示、衛生管理、生産履歴の徹底）</p> ●県（農業改良普及所等）： <p>野菜栽培暦の作成・改善支援、直販用野菜栽培技術向上支援、公社からの野菜・花 の苗の供給に向けた品目等の検討・技術支援、食品表示・衛生管理知識の習得支援</p> 				
◆販売の拡大	<p>集客力の向上と販売チャネルの拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本山さくら市生産組合、本山町： <p>地域の飲食店等への食材提供、野菜の産地発送、ふるさと納税の拡充、生産者・消費者へ の情報提供、消費者との交流イベントの開催、店内スペース/設備（厨房等）の有効活用、 さくら茶屋の活用促進</p> ●県（農業改良普及所等）： <p>関係機関と連携した役員への販売促進に関する情報提供</p> <p>地域内外の事業者との連携の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本山さくら市生産組合、本山町： <p>県内外直販所との連携の検討、本山町農業公社とのさらなる 連携の検討</p> ●県（農業改良普及所等）： <p>関係機関との連携に向けた調 整・情報提供</p> <p>地域内外の事業者との連携の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本山さくら市生産組合、本山町： <p>県内外直販所との連携、おにぎり屋の営業等 によるさくら茶屋・イートインスペースの活用、農業 クラスター事業との連携</p> ●県（農業改良普及所等）： <p>関係機関との連携に関する調整・情報提供</p> 				
◆組織体制の整備	<p>人材育成等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本山さくら市生産組合： <p>運営体制の検討、店舗スタッフの質向上、労働環境の改善、広域観光情報の発信</p> ●県（農業改良普及所等）： <p>関係機関と連携した人材育成に関する情報提供</p> 				

AP名 (実施地域)	No.4 銀不老による地域活性化の取り組み (大豊町)
実施主体	◎大豊町銀不老生産組合、(株)城西館、日本航空(株)、大豊町
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	大豊町で代々受け継がれ、生産されてきた希少価値の高い豆である「銀不老」の生産拡大及び品質確保に取り組む。また、「銀不老」を活用した加工品開発の検討も進め、地域活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
出荷量	0.59t (R元)	0.13t	0.25t		1.2t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生産者及び生産量強化に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・大豊町による銀不老種子の配付 (R元) ・大豊町広報紙及び町内回覧による生産者募集 (R元～) ・大豊町銀不老生産組合の設立 (R2) ◆出荷体制の仕組み作り <ul style="list-style-type: none"> ・生産者及び関係機関で構成する「銀不老の今後を考える会」の開催 (H30～) ◆ブランド化に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・(株)城西館による加工品開発及び販売 (H19～) ・「銀不老」商標の登録 (H22) ・銀不老栽培勉強会の開催 (R元) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規加入組合員数 R4:4名 ◆大豊町による銀不老種子の配付件数 R元:29名+1法人→R4:11名 ◆加工品開発件数 (株)城西館 13件 (H19～) ◆銀不老交流イベントの開催 (播種・収穫 各2回) ◆日本航空(株)高知支店と大豊町が「地方創生の推進に向けた連携と協力に関する協定」を締結 (R3) 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要に対する生産量の確保 ・高齢化に伴う生産者及び生産量の減少 ・生産者の作業負担の軽減 ・出荷体制の強化 ・さらなるブランド化と品質の確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産者及び生産量強化に向けた取り組み	銀不老の生産強化に向けた活動の充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 広報等による農家への生産・出荷の呼びかけ、種子の配付、耕作放棄地活用の推進、鳥獣被害対策に資する資材導入、省力化につながる機材導入 ●県（地域本部、農業改良普及所等）： 各種補助事業等による支援、関係機関との橋渡し、生産量強化への技術支援 				
◆出荷体制の仕組み作り	実施主体の体制確立及び生産体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 事業主体の体制作り、事業計画作成、生産農家の確保、定期的な情報共有会の実施 ●県（地域本部等）： 関係者間及び事業者との橋渡し、体制全般へのアドバイスを求めるための産業振興アドバイザーによる支援 				
◆ブランド化に向けた取り組み	品質の確保及び統一化及び付加価値向上に資する取り組み				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 熟練生産者による栽培技術指導、栽培技術マニュアルの作成、勉強会や情報共有会の開催、種子の保存や機能性に係る調査・研究 ●県（地域本部等）：関係機関との橋渡し 				
	銀不老の普及活動及び加工品等の開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： リーフレット作成、他事業者と連携したPR、加工事業実施に向けた検討 ●県（地域本部等）： 情報提供、PR活動等実施支援、加工品開発に当たったの産業振興アドバイザーの活用 				
<p>【用語】・銀不老：これまで大豊町の旧西豊永地区を中心に栽培されてきた、独特の黒い外観を持つ豆。名前の由来である「不老」は、この豆に含まれている多くの機能性成分により、人間の生体に活力を与え、若さを保つことにちなむと考えられており、「不老長寿の豆」として地域に親しまれてきた。</p>					

AP名 (実施地域)	No.5 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト (本山町) ※地域産業クラスター関連 (本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎エフビットファームこうち(株)、◎施設野菜農家、本山町、(一財)本山町農業公社、JA 高知県(土長地区)
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	本山町内の施設野菜農家への環境制御技術等の導入や新規参入企業が実施する次世代型園芸用ハウス整備による農産物の生産拡大を核として、中山間農業複合経営拠点や農産物加工・販売事業者、地域の観光施設等が連携することで、農業クラスターを形成し、本山町における地域経済の拡大再生産の好循環を図る取り組みを進める。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 施設野菜出荷量	107 t (H30)	105 t	112.5 t	169 t	360 t
(2) 新規就農者数 (施設野菜：雇用就農含)	1人 (H28～R元)	3人	5人		6人 (R2～5)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減収要因の解明と対応策の指導（塩類集積及び土壌病害、夏期の高温対策、防除の省力化、整枝技術等） ・環境制御装置等（環境測定装置、日射比例制御かん水装置、自動天窓等）の導入啓発 ・企業への農業参入の提案及びハウス整備候補地のリストアップ ・企業の農業参入に関する地元への取り組み説明と合意形成 ・先進地視察の実施 ・関係機関と連携した参入企業支援(R3～) <p>◆産地力強化のための担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導農業士の育成・支援 ・産地提案書を活用した担い手の確保 <p>◆二次・三次産業との連携の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県、本山町による連携のあり方の検討（R元～） ・嶺北高校、本山町農業公社による「パプリカみそ」の共同開発（R2） 	<p><主な成果></p> <p>◆参入企業の決定（R元）</p> <p>県、本山町、エフビットコミュニケーションズ(株)の参入に関する協定締結</p> <p>参入企業による雇用の開始（R2～）</p> <p>参入企業のパプリカ生産・出荷開始（R3～）</p> <p>参入企業パプリカ直販施設での販売開始（R4～）</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設野菜生産者の生産安定・拡大 ・企業参入による次世代型ハウス（パプリカ）の安定生産 ・地域の担い手の確保 ・クラスター形成による関係二次・三次産業への経済効果の拡大

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み	施設野菜生産者の生産安定・拡大支援				
	<ul style="list-style-type: none"> ●施設野菜農家、エビットファームこうち(株)： 環境制御技術・省力化機器（自動天窓、自動かん水）の導入等 環境や状況に対応した塩類集積、土壌病害、高温障害対策等の実践 ●JA 高知県（土長地区）： 栽培・経営技術指導、れいほく八菜ブランドの販売強化 ●県（農業改良普及所）： JA 営農指導員と連携した栽培・経営技術指導、新技術情報等の提供及び導入支援 				
	次世代型園芸用ハウス 整備・栽培準備		次世代型園芸用ハウスでの安定生産		
	<ul style="list-style-type: none"> ●エビットファームこうち(株)： 次世代型園芸用ハウス整備、雇用の確保 ●JA 高知県（土長地区）： 販売情報等の提供 ●県（農業改良普及所等）： 事業導入支援、高度化技術の情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●エビットファームこうち(株)： 雇用の確保、パプリカの安定生産 ●JA 高知県（土長地区）： れいほく八菜と連携した販売及び販売情報の提供 ●県（農業改良普及所等）： 高度化技術の情報提供、アドバイザー活用支援等 		
◆産地力強化のための担い手の確保・育成	産地力強化のための担い手の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●施設野菜農家、エビットファームこうち(株)等： 研修生・インターンシップ等の受入れ体制の整備 ●JA 高知県（土長地区）： 空きハウス情報等の集約・共有、栽培・経営技術指導 ●県（農業改良普及所）： 産地提案型等の情報発信による担い手の確保、出前授業、農業体験交流の支援、指導農業士の育成・支援等 				
◆二次・三次産業との連携の具体化	具体化の検討		事業者間連携の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●本山町： 実施主体、クラスター構成員等による具体的連携に向けた協議実施 ●県（農業改良普及所等）： 情報提供、協議支援の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ●本山町： 実施主体、クラスター構成員等の連携・情報共有のための会議の定期開催 ●県（農業改良普及所等）： 会議開催支援、各種制度等の情報提供 		

AP名 (実施地域)	No.6 (株)大豊ゆとりファームを核とした地域産業を持続化させる取り組み (大豊町)
実施主体	◎(株)大豊ゆとりファーム、大豊町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	中山間地域で安心して住み続けることができる地域を実現するため、大豊町内の農地保全及び担い手の確保・育成に取り組むとともに、環境に配慮した農産物の生産及び販売により、持続可能な産業振興を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
クールベジタブルの販売額	913万円 (H28～30平均)	1,050万円	718万円		1,400万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆農地保全に向けたビジネスの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地を活用した農作業等の受託ビジネスの展開 (H21～) ・野菜等の地産地消・地産外商ビジネスの展開 (H21～) ・農地借り入れや作業受託による農地保全の推進 (H21～) ・農作業に係る各種機器類の導入 (H21～22) →H21、H22 産振補助金の活用 ・産業振興アドバイザーを導入した(株)大豊ゆとりファームの中期事業計画の作成 (H23) ・クールベジタブルの県内大手取引先開拓に伴う生産強化 (H24～) ・中山間地域等直接支払制度 (第4期) を活用した取り組み (H27～) ・中山間農業複合経営拠点としての取り組み (H28:位置付け、H29:事業戦略策定 H30～:事業戦略に基づいた取り組み) <p>◆新規就農者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新農業人フェアへの参加等による新規就農研修生の募集活動 (H21～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生受入体制の充実 (山村農業実践センターの整備) (H27) ・農業インターンシップ生の受入 (H28～29) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆研修生 (地域おこし協力隊) の受入 H28～R4:6名 ◆作業効率向上に向けたクールベジタブルの品目数集約化 H27:33品目 → R4:3品目 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化に伴う農作業受託面積 (条件不利地) の増加 ・クールベジタブルの生産と販路の拡大 ・自立に向けた経営の効率化 ・新規就農者の育成及び確保
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆農地保全に向けたビジネスの展開	農作業受託、農産物販売事業の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム： 水稲育苗事業の推進、農地借り入れや農作業受託の拡大、直販所向け農産物の庭先集出荷活動、地域特産物（ぜんまい、碁石茶等）の製造受託 ●県（地域本部等）： 関係機関による技術指導 				
	クールベジタブルの生産の拡大				
◆新規就農者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム：栽培技術ノウハウの習得、作業省力化に係る設備の導入、新たな販売先の掘り起こし ●県（地域本部等）：関係機関による栽培技術指導、作業員確保に向けた支援、補助事業による設備投資の支援 				
	自立に向けた体制見直し及び収益力の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム： 収支計画や組織体制の見直し等による組織マネジメント力の強化 ●県（地域本部等）： 中山間農業複合経営拠点事業戦略の実行フォロー等、各種支援制度に関する情報提供 				
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム、大豊町：地域おこし協力隊や研修生の募集、大豊町山村農業実践センターにおける研修、研修後の就農・営農支援の充実 ●県（地域本部等）：高知県移住促進・人材確保センターと連携した支援、移住者フェアの案内、就農に向けた助成事業の活用支援 					
<p>【用語】・中山間農業複合経営拠点：地域農業の核となる市町村農業公社等の経営体が、高収益の施設園芸や中山間地域に適した農産物の生産、6次産業などの稼ぐ取り組みと新規就農者の研修事業や庭先集荷、農作業受託などの支える取り組みを複合経営し、中山間地域の農業の競争力を高め、支える仕組み</p>					

AP 名 (実施地域)	No.7 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興 (土佐町、本山町、大豊町) ※地域産業クラスター関連 (嶺北畜産クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(株)れいほく未来、◎肉用牛生産組合、JA 高知県(土長地区)、本山町、土佐町、大豊町
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	土佐あかうしの産地を守り、地域の畜産振興を図るため、意欲ある生産者の規模拡大を推進するとともに、土佐あかうし生産基地について、繁殖・肥育一貫経営を軌道に乗せ、安定的な出荷体制を構築する。また、生産と食肉加工から販売に至る畜産の6次産業化に向けた取り組みを進める。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
土佐あかうしの販売額	3.2 億円 (H30)	3.5 億円	3.3 億円		3.5 億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産力の向上と6次産業化に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期巡回(繁殖検診、飼養管理指導等) ・土佐あかうし増頭対策事業 ET技術を活用した素牛生産 CSを活用したET産子の育成 ・増殖基金の設立(土佐町、本山町)(R元) ・レンタル畜舎整備事業の実施 ・県の補助制度を活用した繁殖雌牛の自家保留及び導入(H28~) ・食肉センター整備に向けた検討(H28~) ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した送風機等の整備(R3) ・産業振興アドバイザー導入による(株)れいほく未来の体制強化(R3) <p>◆堆肥の利用促進及び県内産粗飼料の積極的な利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕種農家との耕畜連携による粗飼料の生産 ・JA堆肥舎の整備(H29) →H28産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費:5,066万円) 	<p><主な成果></p> <p>◆飼養頭数</p> <p>809頭 うち 繁殖牛 465頭 (H28.2月) → 1,163頭 うち 繁殖牛 549頭 (H31.2月) → 1,170頭 うち 繁殖牛 535頭 (R2.2月) → 1,223頭 うち 繁殖牛 523頭 (R3.2月) → 1,313頭 うち 繁殖牛 516頭 (R4.2月)</p> <p>うち、(株)れいほく未来の飼育頭数 125頭 (H28.2月) → 321頭 (H31.2月) → 346頭 (R2.2月) → 347頭 (R3.2月) → 387頭 (R4.2月)</p> <p>◆臨時市場でのET産子の販売 H29: 36頭、H30: 73頭、R元: 76頭 R2: 39頭、R3: 15頭、R4: 16頭 (12月末)</p> <p>◆レンタル畜舎整備事業 のべ2戸 (H28~R元)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家戸数及び繁殖雌牛が減少する中での繁殖牛の確保・増頭 ・増頭を促進するために繁殖預託管理施設の増設が必要 ・あかうし生産基地での肥育成績の改善 ・堆肥の利用促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産力の向上と6次産業化に向けた取り組み	農家の経営規模拡充				
	<ul style="list-style-type: none"> ●肉用牛生産組合、(株)れいほく未来： レンタル畜舎施設等整備事業の活用、繁殖雌牛保留・導入に係る支援の活用、増殖基金の活用 ●土佐町、本山町、大豊町： 各種事業（導入事業、増殖基金等）による経営支援 ●県（家畜保健衛生所等）： 各種事業（レンタル畜舎施設等整備事業、導入事業、増殖基金等）による経営支援 				
	飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立				
◆堆肥の利用促進及び県内産粗飼料の積極的な利用	<ul style="list-style-type: none"> ●肉用牛生産組合、(株)れいほく未来： 増頭及び飼養技術向上による安定的な出荷体制の構築 ●県（家畜保健衛生所等）： 巡回指導等による技術支援、ETによる肥育素牛の生産 				
	6次産業化の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●県（畜産振興課等）： 食肉センターの整備、担い手の確保・育成、食肉の販路開拓 				
県内産粗飼料の利用推進					
<ul style="list-style-type: none"> ●肉用牛生産組合、(株)れいほく未来： 堆肥の積極的な利用、自給飼料の増産ならびに県内産粗飼料の確保 ●県（家畜保健衛生所等）： 稲 WCS 等の活用に関する情報提供、技術支援 					
<p>【用語】・ET（Embryo Transfer）：受精卵移植あるいは胚移植の意。体内、体外で授精させた卵子を別個体に移植し産子を得る技術。乳用牛を活用し肉用牛の生産が可能となる。</p> <p>・CS（Cattle Station）：繁殖経営で生産された子牛のほ育・育成を集約的に行う組織、施設</p> <p>・WCS（Whole Crop Silage）：トウモロコシや稲のように、従来は子実を採ることを目的に作られた作物について、繊維の多い茎葉部分と栄養価の高い子実部分を一緒に収穫し、サイラージ（家畜用飼料の一種）に調整したもの。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.8 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化 (大川村) ※地域産業クラスター関連 (嶺北畜産クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(株)むらびと本舗、◎(一社)大川村ふるさとむら公社、大川村
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 黒牛の販売額	7,100 万円 (H30)	6,753 万円	6,676 万円		7,500 万円
(2) 出荷羽数	7.4 万羽 (H30)	6.2 万羽	5.7 万羽		12.5 万羽

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆【大川黒牛】生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥育牛舎 (150 頭規模) の整備 (H27) ・定期巡回の実施 ・黒牛増殖基金の設立 (600 万) (R元) <p>◆【はちきん地鶏】生産体制の強化と食鳥処理技術の向上並びに販路拡大</p> <p>(生産体制の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶏舎の整備 (4 万羽規模、4 万羽) (H28) ・食鳥処理施設の整備 (地方創生推進交付金、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用：事業費 4 億 1,008 万円) (H29) <p>(食鳥処理技術の向上並びに販路拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大川村 PT 産業振興部会の開催 ・県内外での商談会への参加 ・産業振興アドバイザーの導入 (H29、30、R元、R2、R3、R4) ・外部専門人材の導入 (産業振興推進総合支援事業費補助金の活用：事業費 767 万円) (R元) ・ふるさと納税の返礼品 (H29～) ・営業職員の雇用 (H30～) ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した自動給餌機等整備(R2) 	<p><主な成果></p> <p>◆黒牛飼養頭数</p> <p>H28 繁殖牛：56 頭 肥育牛：91 頭 → H30 繁殖牛：57 頭 肥育牛：90 頭 → R1 繁殖牛：52 頭 肥育牛：123 頭 → R2 繁殖牛：53 頭 肥育牛：129 頭 → R3 繁殖牛：52 頭 肥育牛：132 頭</p> <p>◆黒牛年間出荷頭数</p> <p>H28：47 頭 → H30：59 頭 → R1：47 頭 → R2：60 頭 → R3：55 頭 → R4：57 頭 (2月末)</p> <p><課題></p> <p>【黒牛】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖雌牛の高齢化 ・繁殖雌牛の増頭及び育成経費の確保 ・肥育牛の増産 <p>【はちきん地鶏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業経営の改善 ・食鳥処理施設の安定運営と処理力の向上 ・生産技術の向上と経費削減 ・販売増に向けた営業強化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆【大川黒牛】 生産体制の強化</p>	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">生産・出荷体制強化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)むらびと本舗： 繁殖牛・肥育牛の増頭、増殖基金の活用 ●大川村： 各種事業（増殖基金等）による経営支援 ●県（家畜保健衛生所等）： 巡回指導等による技術支援 				
<p>◆【土佐はちきん地鶏】生産体制の強化と飼養管理・食鳥処理技術の向上並びに販路拡大</p>	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">生産・加工の技術向上並びに販路拡大</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)むらびと本舗、(一社)大川村ふるさとむら公社： 飼養管理・食鳥・技術の向上、はちきん地鶏の付加価値販売、加工品の開発、販路開拓 ●大川村： 関係機関と連携した協議（大川村 PT 等）、経営改善等支援 ●県（地域本部等）： 関係機関と連携した協議（大川村 PT 等）、経営改善等支援、巡回指導等による技術支援 				
<p>【用語】・土佐はちきん地鶏：いずれも高知県原産の土佐九斤と大軍鶏を交配させたクキンシャモの雄と白色プリマスロックの雌から生まれた高品質肉用鶏。ほど良い歯ごたえと脂質の少ない地鶏本来の旨さが特徴。平成18年に商標登録された。</p>					

AP名 (実施地域)	No.9 嶺北地域における林業クラスター化の取り組み (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連 (嶺北林業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎自伐林家、◎森林組合、◎素材生産事業体、森林所有者、高知おとよ製材(株)、嶺北広域原木安定供給協議会、大豊町、本山町、土佐町、大川村
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	嶺北地域の豊かな森林資源を生かし、間伐から素材生産、製材・加工を集約したクラスター化を図ることにより、林業での地域活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
素材生産量	105,557 m ³ (H30)	114,304 m ³	120,361 m ³		144,000 m ³

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆安定的な木材生産・供給システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材増産推進に向けた協議 ・森の工場の推進 (H21～) ・林業の担い手の育成確保 ・嶺北広域原木安定供給協議会 (H28～R2) ・ストックヤードの稼働 (R2) <p>◆再造林の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地区増産・再造林推進協議会 (R元～) <p>◆木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未利用材利活用の推進 <p>◆製材品等の生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型製材工場のフル稼働への支援 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆森の工場の数 H30 : 43 団地 → R4 : 48 団地 (12月末) ◆原木消費量 (大豊町、本山町) H30 : 136,845 m³ → R4 : 89,089 m³ (12月末) ◆低質材搬出に係る支援 H30 : 3,238 t → R4 : 1,537 t (12月末) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材生産量のさらなる確保 ・皆伐事業の増加に対する森林資源の維持 ・担い手確保と林業技術の継承

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 安定的な木材生産・供給システムの構築	原木生産体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林組合、素材生産事業者ほか：事業地の確保、森の工場の設定、担い手の育成確保、市場への安定供給、嶺北広域原木安定供給協議会の開催 ● 県（林業振興事務所等）：各種支援制度に関する情報提供、現場指導及び情報収集 				
◆ 再造林の推進	再造林の補助制度を活用した伐採跡地の更新				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林所有者、自伐林家、森林組合ほか：伐採跡地の植林の実施 ● 県（林業振興事務所等）：各種支援制度に関する情報提供、嶺北地区増産・再造林推進協議会の開催 				
◆ 木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進	木質バイオマス発電施設等の導入に向けた検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 大豊町、大川村：施設導入に向けた調査・検討・誘致 ● 県（林業振興事務所等）：情報提供、高知県木質バイオマスエネルギー利用促進協議会の開催 				
	発電施設の整備		発電施設稼働		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者：発電施設の整備 ● 本山町：地元調整支援等 		<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者：安定的な稼働の確保 ● 県（林業振興事務所等）、本山町：バイオマス燃料確保に係る情報提供・支援 		
◆ 製材品等の生産	大型製材工場の体制整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高知おおよ製材㈱、大豊町：大型製材工場の健全運営、CLT パネル工場の整備検討 ● 県（林業振興事務所等）：情報提供、CLT 建築推進協議会との連携 				
<p>【用語】・CLT：集成板（CLT）は、ひき板を幅方向に並べたものを繊維方向が直交するように積層接着した製品。日本農林規格（JAS規格）平成25年12月20日制定、平成26年1月19日施行。CLTは、「Cross Laminated Timber」の略</p>					

AP 名 (実施地域)	No.10 れいほくスケルトン（嶺北材の邸別販売）をはじめとする嶺北材の促進 (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連（嶺北林業クラスタープロジェクト）
実施主体	◎レイホク木材工業(協)、本山町、土佐町
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	れいほくスケルトン（嶺北材の邸別販売）の促進に取り組むとともに新たなマーケットの開拓として非住宅分野の木造化・木質化に向けた生産供給体制の整備により、嶺北材の販路拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
木材の出荷量	1,040 m ³ (H30)	222 m ³	443 m ³		2,000 m ³

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国内（香川県中心）における販売活動 ・製材の日本農林規格（JAS）認証取得 <p>◆エンドユーザーへの PR 活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学ツアーやホームページによる PR 活動（レイホク木材工業(協)） 	<p><主な成果></p> <p>◆四国内への邸別販売建築棟数 24 棟（R4.11 月末）</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北材の販路拡大 ・エンドユーザーへの木の良さの PR 強化 ・建築士等との連携

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆販売促進	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">れいほくスケルトンに関する営業活動の展開</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●レイホク木材工業(協) : 主に四国内における販売活動、建築士等との連携 ●県（林業振興事務所等） : 情報提供、A材の活用推進 				
◆エンドユーザーへのPR活動	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">れいほくスケルトンに関するPR活動</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●レイホク木材工業(協)、本山町、土佐町 : 工務店を通じたPR活動、パンフレット・ホームページによるPR活動、住宅建築支援によるPR活動 ●県（林業振興事務所等） : 各種支援制度に関する情報提供 				
	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">非住宅分野に関するPR活動</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●レイホク木材工業(協)、本山町、土佐町 : 非住宅分野の木造化・木質化を通じた建築物への木材活用促進のためのPR ●県（林業振興事務所等） : 各種支援制度に関する情報提供、嶺北地区県産材利用地域推進会議の開催 				
<div style="border: 1px solid #4a86e8; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【用語】・A材：木材を品質（主に曲がりなどの形状）や用途によって分類する際の通称。基本的に、A材は製材に用いられる。</p> </div>					

AP 名 (実施地域)	No.11 嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興 (本山町)
実施主体	◎(有)さめうらフーズ、集落活動センター汗見川、生産者
AP への 位置づけ	R2.4 月
事業概要	町内でのシソ・ユズの生産量増加に向けた取り組みを行うとともに、加工の強化や、ジュース工場を整備することで、町内でのシソ、ユズの生産から加工までの一貫体制を確立し、地域経済への波及効果の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
シソ・ユズ商品の販売額	0.65 億円 (H30)	0.60 億円	0.61 億円		1 億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地域産のユズを使った清涼飲料水「ゆずごち」の販売開始 (H18) ・シソを栽培する集落活動センター汗見川と連携し、シソを使った商品開発を開始 (H25) ・汗見川産のシソを使ったアイスキャンディー、アイスカップの販売開始 (H26) ・汗見川産のシソを使った清涼飲料水「しそごち」の販売開始 (H28) ・「本山おいそサワーの素」を発売開始 (R2) ・ジュース新工場の整備 (R3) <p>◆新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本山おいそサワーの素」を発売開始 (R2) <p>◆県外での販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しそごち」を販売開始し、「高知家のうまいもの大賞 2018 amazon 賞」を受賞 (H30) ・スーパーマーケットトレードショーなど県外の商談会への出展 ・人気が高まり、現在では主に県外大手食品卸を通じ、首都圏、関西中心に全国のスーパーで展開 ・高知県産品商談会(11月)への出展 (R2) ・SNSを活用した「本山おいそうれしそたのしそキャンペーン」による販売促進活動 (R3～) 	<p>◆原料生産の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ製品の生産販売に向けた育成、生産、加工の一貫体制の構築を開始 (H12) ・汗見川産のシソの(有)さめうらフーズへの納入を開始 (H26) ・さめうらフーズと集落活動センター汗見川のシソ事業の連携が、第35回地場産業大賞地場産業賞を受賞 (R2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地元産シソ・ユズを活用したジュース、氷菓の開発 ◆シソ原液の集荷量 (集落活動センター汗見川) H27 : 1,800 L → R4 : 10,278L <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要に対する原料のシソの不足 ・実生ユズの原料確保の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産	<p>新工場の検討 → 新工場の整備 → 新工場での生産</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：新工場の整備の検討、補助金の活用検討 ●県（地域本部等）：補助金、その他、各種支援制度に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：新工場の整備、HACCPの取得に向けた関係機関との協議等 ●県（地域本部等）：事業再構築補助金活用への支援、その他、各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：生産性向上に向けた生産管理手法の検討等 ●県（地域本部等）：食品工場の生産管理に関する産振アドバイザー等による支援、その他、各種支援制度に関する情報提供 	
◆新商品の開発	<p>新商品の開発</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：地域資源を活用した新商品の開発、商談会等への参加、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）：商品開発に関する産振アドバイザー等による支援、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				
◆県外での販路拡大	<p>県外向け商談会への出展・営業の強化</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：商談会等への参加、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）：プロモーション戦略に関する産業振興アドバイザー等による支援、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				
◆原料生産の強化	<p>生産地拡大の検討 → シソ生産の拡大</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：シソ生産・加工を行う集落活動センター汗見川との連携、生産地拡大に向けた各地区への周知の実施 ●集落活動センター汗見川 (有)さめうらフーズとの連携、シソの生産拡大 ●県（地域本部等）：シソ生産の拡大に興味のある町内の団体等の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：シソ生産・加工を行う集落活動センター汗見川との連携 ●集落活動センター汗見川 (有)さめうらフーズとの連携、シソの生産量確保 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 		
	<p>ユズ生産の拡大</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：ユズの自社農場での苗木の育成や生産面積の拡大、ゆず生産者との連携の強化 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.12 嶺北地域の特産品販売拡大への支援 (嶺北地域全域)
実施主体	© sanchikara、NPO 法人土佐さめうら観光協会、土佐町、本山町、大豊町、大川村
APへの位置づけ	H28.4月
事業概要	農業インターンシップを経て移住した移住者が、嶺北地域の小規模農家等が生産する農産物を集約し、都市圏の中小規模飲食店等に直接販売する仕組みを構築する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
県外飲食店等との 直接取引による販売額	1,955万円 (H30)	2,230万円	2,850万円		3,000万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆農産物の直接販売の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受発注システムを活用した農産物の直接販売 (H28～) ・集出荷拠点確保に向けた検討 (H30～) <p>◆農産物の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地域内の生産者への呼びかけ ・新規就農者との連携 (H29～) ・sanchikaraの立ち上げ (H29) ・栽培イタダリが生産地視察 (H29) ・さくら市との連携 (R元～) <p>◆販路の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スーパーマーケットトレードショー」など、県外商談会への出展 (H28～) ・産地視察型商談会の受入 (H28～) ・ふるさと納税の受託 (H28～) ・道の駅土佐さめうらでの直販 (H30～) ・まるごと高知での販売 (R元) ・土佐れいほく博関連イベントへの出展 (R元) ・阪急梅田関係とのスポット販売の検討 (R2) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆直接取引飲食店等の件数 H27: 0件 → R4: 10件 ◆直接取引関係生産者等 H27: 0人 → R4: 25人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集出荷拠点の確保 ・さらなる農産物の確保に向けた仕組みづくり

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆農産物の直接販売の仕組みづくり	<p>集出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●sanchikara : 新たな集出荷拠点の確保に向けた検討 ●県（地域本部等）： 関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 		<p>拠点施設を活用した集出荷</p> <ul style="list-style-type: none"> ●sanchikara : 新たな集出荷拠点と連携した集出荷 ●県（地域本部等）： 関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 		
◆農産物の確保	<p>農産物の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●sanchikara : 生産者への呼びかけ、管内直販所等との連携 ●県（地域本部等）： 関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 		<p>農産物のさらなる確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●sanchikara : 生産者への呼びかけ、管内直販所等との連携システム出荷との連携、新たな農産物の掘り起こし ●県（地域本部等）： 関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 		
◆販路の拡大	<p>都市圏の中小規模飲食店等への販売強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●sanchikara : 県外商談会への参加、産地視察の受入れ、ふるさと納税への販売 ●県（地域本部等）： 販路拡大のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.13 ばうむ合同会社による地域資源（木材・米）活用の取り組み (本山町) ※地域産業クラスター関連（嶺北林業クラスタープロジェクト）
実施主体	◎ばうむ合同会社、本山町
AP への位置づけ	H21.4月
事業概要	嶺北産材やブランド米などの地域資源を活用した加工品の製造を行うとともに、新たな商品開発や販路拡大に取り組み、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 木工品製品全般の売上金額	2,290 万円 (H30)	2,007 万円	1,569 万円		8,900 万円
(2) 焼酎の販売額	442 万円 (H30)	314 万円	331 万円		1,959 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆木工製品の製造・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉柂目フリーパネルや学習机等の製造販売 (H21～) ・インターネットや県外への営業による販路拡大・PR 活動 (H21～) ・レーザー加工機の導入による「もくレース」等オリジナル木製雑貨の開発と製造販売 (H22～) ・木工教室や親子学習机づくり体験ツアー等の実施 (H22～) ・「もくレース」(木製雑貨) 製造施設拡張事業(レーザー加工機の増設) (H28) →H28 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費 3,414 万円) ・「親子学習机づくりワークショップ」がふるさと納税返礼品に採用 (R 元～) <p>◆米焼酎の製造・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「土佐天空の郷」焼酎製造販売事業(製造施設の整備) (H24) →H24 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費 1,317 万円) ・県外への営業による販路拡大・PR 活動 (H26～) ・焼酎(玄米仕込)の製造販売 (H26～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼酎(白米仕込)の製造販売 (H27～) ・沖縄以外では初となる泡盛の製造販売 (H28～) ・シンガポールでの営業・商談会に参加 (H29～) ・嶺北地域で栽培された万次郎かぼちゃを使った焼酎の製造販売 (H31.4月～) ・「土佐天空の郷を食べて！飲んで！応援するキャンペーン」の対象商品に米焼酎が採用 (R2) <p><主な成果></p> <p>◆酒造全体の販売本数(720ml換算) H27: 3,881 本 → R4 (11月末): 2,261 本</p> <p>◆雇用者数 H27: 9 人(長期 3 名、短期 6 名) → R4: 5 人(長期 5 名)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上の伸び悩み ・売上アップに向けた新たな商品の開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆木工製品の製造・販売	県内外の企業・消費者に向けた販売促進・PR活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●ばうむ合同会社： 販路拡大やノベルティグッズ等の特注品の受注に向けた県外向け商談会等への参加、県内イベントや地域の観光施設での販売・PR、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： 商品PRのための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				
◆米焼酎の製造・販売	県内外の企業・消費者に向けた販売促進・PR活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●ばうむ合同会社： デザインの検討、試作品づくり、テストマーケティングの実施、県外向け商談会等への参加、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： 商品開発のための産振アドバイザーの活用、商品PRのための産振アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				
◆米焼酎の製造・販売	県内外の企業・消費者に向けた販売促進・PR活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●ばうむ合同会社： 焼酎の原料となる地域資源の選定、試作品づくり、テストマーケティングの実施、県外向け商談会等への参加、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： 商品開発のための産振アドバイザーの活用、提案、支援制度に関する情報提供、商品PRのための産振アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.14 碁石茶を中心とした加工品ビジネスの展開 (大豊町)
実施主体	◎大豊町碁石茶協同組合、大豊町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	大豊町で生産される日本で唯一の伝統製法による微生物発酵茶「碁石茶」の需要拡大に取り組み、400余年継承される製造技術の継承と農家所得の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
碁石茶関連商品の総販売額	2,440万円 (H30)	2,536万円	2,686万円		6,000万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆加工品ビジネスの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工品づくりビジネスの展開 (H21～) 営業活動、各種商談会・見本市への出展、新商品開発等 加工品開発及び販促活動に係る投資 (H21～22) →H21、H22 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 産業振興アドバイザーを導入して、碁石茶協同組合の中期事業計画を作成 (H23) 碁石茶に関するTV放映 (H27) 機能性表示申請に向けた取り組み (H28:臨床実験実施、H29:論文作成、H30～:申請手続き) 碁石茶製造施設の整備 (H28) 碁石茶製造に係る機材 (木桶、裁断機) 導入 (H30) 新商品「碁石茶スパークリング」開発 (R元) 番茶フェスティバル出展 (東京) による販促活動(R4) <p>◆新規生産者 (組合員) の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 碁石茶の生産体験プログラム (碁石茶親衛隊) の導入 (H28～29) 新農業人フェアへの参加等による新規生産者の募集活動 (H29～) 地域おこし協力隊の導入 (H29～30) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者からの碁石茶買取量 H27:450kg → R4:287 kg ※茶葉に不良品ができてしまい、買取量が減少した <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 販路の維持、拡大に向けた営業体制の強化及び営業担当の後継者確保 さらなるブランド化 衛生管理水準の確保 新規生産者の確保、育成

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆加工品ビジネスの展開	加工品の製造・販売				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： 新商品開発、販促活動、営業体制の強化、品質の確保 ●県（地域本部等）： 商談会等の案内、高知県移住促進・人材確保センターと連携した営業人材確保支援、営業体制の強化や経営面のアドバイスを得るための産業振興アドバイザー導入 				
	機能性表示申請			新パッケージによる販売	
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： 委託先との密な情報交換及び進捗管理 		<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： 新デザインの検討 ●県（地域本部等）： パッケージ変更に係る各種支援 		
	衛生管理のさらなる徹底				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： 各生産者への定期的な状況確認、衛生管理に関する講習受講等 ●県（地域本部等）： 農業改良普及所、保健所等による助言・指導 				
◆新規生産者（組合員）の確保・育成	生産者募集活動及び製法技術の継承				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合、大豊町： 新農業人フェア等における研修生募集活動、生産者によるOJT研修、OJT研修後の自立サポート、碁石茶新需要創造協議会等による製法技術の継承、専門機関による品質調査 ●県（地域本部等）： 高知県移住促進・人材確保センターと連携した支援、移住者フェアの案内、助成事業による支援 				
<p>【用語】・碁石茶：大豊町において独特の製法で作られる発酵茶であり、煎茶とは異なり、蒸す・寝かす（カビ発酵）・漬ける（乳酸発酵）・切る・乾燥の工程で製造されている。国内には、ほかにも発酵茶があるが、碁石茶のように2回の発酵を経て製造されるものは非常に珍しい。名前の由来は、約3センチ四方に切った茶をムシロの上に広げて乾燥させる様子が、碁盤に黒い碁石を並べたように見えることから名づけられたとされている。</p> <p>・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.15 嶺北材を生かしたオリジナル木工品の製造・販売による地域活性化 (土佐町) ※地域産業クラスター関連 (嶺北林業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(株)Kハウス、◎さめうらこむ、土佐地区商工会
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	嶺北産の自然木の魅力を生かしたオーダーメイドの木工製品の製造及びインターネット販売を通じた、地域活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 注文数 (株)Kハウス	418件 (H30)	386件	334件		750件
(2) 従業者数 (さむらこむ)	5人 (H30)	2人	0人		6人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>【(株)Kハウス】</p> <p>◆販路開拓・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産天然杉を活用したオーダーメイドの犬小屋等の自社HPでのネット販売 (H18～) ・Amazon、ヤフーショッピング等でのネット販売 (H28～) ・防音ケージの開発・改良 <p>【さめうらこむ】</p> <p>◆販路開拓・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社HPでのネット販売 ・ものづくり総合技術展への出展 (H30) ・新商品の開発及び道の駅での試験販売 (R元) <p><主な成果></p> <p>—</p>	<p><課題></p> <p>【(株)Kハウス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズの変化に対応した商品開発及び販路拡大 ・人材の確保 <p>【さめうらこむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路の拡大

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆販路開拓・販売促進 【(株)Kハウス】</p>	<p>新たな販路の確保</p> <p>自社HP、大手通販サイトを活用したオリジナル商品の販売促進・PR活動</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)Kハウス： 大手通販サイトへの出店、防音ケージカバーの改良、技術者の確保 ●県（地域本部等）： 販路拡大のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)Kハウス： 自社HPでのPR・販売、技術者の育成 ●県（地域本部等）： 販路拡大のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 </div> </div>				
<p>◆販路開拓・販売促進 【さめうらこむ】</p>	<p>オリジナル木工製品の製造・販売</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●さめうらこむ： 自社HPでのネット販売、新たな商品開発、レストラン・ウェディング向けの販路拡大、地域内事業者との連携に向けた検討 ●県（地域本部等）： 販路拡大のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 </div>				

AP名 (実施地域)	No.16 嶺北地域で140年続く酒蔵の地産外商を核とした地域活性化 (土佐町)
実施主体	◎土佐酒造(株)
APへの位置づけ	H30.4月
事業概要	嶺北地域の酒米にこだわった特徴ある日本酒の品質の向上に取り組むとともに国内外へ販路を拡大し、地産外商による農業及び地域の活性化を実現する。併せて旅行会社のツアーや一般観光客の受け入れ等を実施し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 売上高	1億5,067万円 (H30)	2億1,470万円	3億351万円		3億6,000万円
(2) 地元産原料米調達量	88t (H30)	100t	140t		170t
(3) 従業者数	15人 (H30)	17人	23人		25人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産性の向上及び販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新工場及び酒造設備の整備 (H31.3月、R3.11月、R5.2月) →H30 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 (事業費1億839万円) →R2 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 (事業費3千288万円) →R4 高知県食品加工施設等整備促進事業費補助金の活用 (事業費1億1320万円) ・国内外への販促イベント・商談会への参加(H30～) ・作業の効率化及び衛生面の向上のための充填機の導入 (R元) ・ものづくり補助金を活用して、商品の品質向上に向けた火入れ機の導入 (R元) <p>◆地元産原料米の調達拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原料(地元酒米)の確保に向けた取り組み(H30～) <p>◆雇用の創出及び地域経済活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社のツアー及び一般観光客の受入(H30～) 	<p><主な成果></p> <p>◆海外の日本酒のコンクールにて受賞 (主な受賞歴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・International Wine Challenge (イギリス) スパークリング酒「匠(JOHN)」最高賞受賞(H28) 桂月 CEL24 純米大吟醸酒 50 金賞受賞(R元) ・Kura Master (フランス) 桂月吟之夢純米吟醸酒 55 プラチナ賞受賞(H30) スパークリング酒「好(Hao)」審査員賞受賞(R元) 桂月 CEL24 純米大吟醸酒 50 プラチナ賞受賞 (R元) 桂月 Sake Nature 2019 プラチナ賞受賞 (R2) 桂月 CEL24 純米大吟醸 50 プラチナ賞受賞(R3) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外での需要の増加に対応した生産体制の確立 ・売り上げ規模拡大に伴う社内の体制強化、人材の確保 ・さらなる売上げの増加に向けた新商品の開発 ・原材料のさらなる確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産性の向上 及び販路拡大	商品の充実及び品質の向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐酒造(株)：新商品の開発、新工場を活用した商品の製造における衛生面の向上や温度管理の徹底 ●県（地域本部等）：県関係機関との橋渡し、情報提供 				
	営業活動及び情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐酒造(株)：国内外でのイベントや各種商談会への参加、飲食店等への個別の営業活動、まると高知での試飲会の定期的な開催、海外の顧客も意識したプロモーションツールの充実 ●県（地域本部等）：商談会等の紹介、各種支援制度に関する情報提供 				
◆地元産原料米 の調達拡大	地元農家と連携した原料米の調達拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐酒造(株)： 地元の契約農家の確保、各契約農家と調整を進め、地元産原料米の生産の増加、生産者への原料米の品質向上に向けたアドバイスの実施 ●県（地域本部等）： 県関係機関との橋渡し 				
◆雇用の創出及 び地域経済活性化	雇用の創出				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐酒造(株)： 生産量拡大に伴う雇用の創出、地域外からの移住者の雇用 ●県（地域本部等）： 関係機関の橋渡し等、各種支援制度に関する情報提供 				
	地域経済活性化に向けた取り組み				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐酒造(株)： 嶺北地域の他の観光素材と組み合わせた旅行会社のツアーや一般観光客向けの酒蔵見学や試飲の実施、さめうら荘をはじめとした地域内の飲食店での取り扱い商品の増加 ●県（地域本部等）： 関係機関への橋渡し、情報提供、県自然体験キャンペーンサイト等を活用した情報発信 				

AP名 (実施地域)	No.17 大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大 (大豊町)
実施主体	◎燈 ^ひ ので家 ^や 、大豊町商工会
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	主に大豊町で捕獲されたジビエ肉（シカやイノシシ）を活用した加工品等の商品開発と地産外販を推進することにより、町の産業振興を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
出荷量 (燈ので家)	0 t (H30)	0.2 t	0.12 t		2.1 t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ペットフードの生産拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・鹿肉を活用したペットフードの販売開始（R元） ・土佐FBC受講（R2） ◆販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザー（課題解決型）を活用した新商品開発や事業構想の検討（R2） ◆スーパーマーケットトレードショー出展による販路開拓（幕張メッセ）（R4） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆道の駅大杉等による試験販売の実施（R元～） ◆事業構想の策定（R2） ◆ペット関連イベント等への出店（R3） ◆金融機関等と連携した事業戦略の策定（R4） ◆県内量販店での催事出店（R4） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業拡大に向けた生産体制の強化 ・原材料の確保 ・加工品の開発及び販促活動の推進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ペットフードの 生産拡大	生産拡大の検討				
	生産拡大に向けた基盤づくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●燈ので家： 事業計画の作成、加工場整備に向けた調査 ●県（地域本部等）： 事業計画作成に係る産業振興アドバイザー導入 			<ul style="list-style-type: none"> ●燈ので家： 加工場整備 ●県（地域本部等）： 各種補助制度等による支援 	
◆販路拡大	販促活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●燈ので家等： 営業活動、商談会等への参加、県内ペットショップとの連携 ●県（地域本部等）： 商談会等の情報提供、関係機関への橋渡し支援 				

AP名 (実施地域)	No.18 嶺北地域の連携による交流人口の拡大 (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連 (嶺北畜産クラスタープロジェクト、 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一社)土佐れいほく観光協議会、本山町、大豊町、土佐町、大川村
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	観光を軸として、吉野川の水源地域における豊富な地域資源や特色のある取り組みなどを横断的につなぐ広域観光の推進により、「れいほく」の魅力をグレードアップさせるとともに、一元的な情報発信や一般旅行、教育旅行、農都交流、国際観光の誘致を通じて、交流人口の拡大と経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 主要観光施設の入込数	284,813人 (H27~29平均)	279,191人	351,245人		459,267人
(2) 主要宿泊施設宿泊者数	14,577人 (H27~29平均)	17,399人	25,957人		24,250人
(3) 民泊受入世帯数	89世帯 (H30)	83世帯	81世帯		120世帯

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆広域観光推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地域観光・交流推進協議会の設立 (H22) ・大学等と連携した旅行商品の磨き上げの取り組み (H22~29) ・広域観光パンフレットの作成 (H22~) ・広域で連携したイベント (土佐の豊穰祭 in 嶺北) の開催 (H23~) ・ガイド研修、モニターツアー等の実施 (H22~) ・広域観光組織の機能強化に向けた視察研修の実施 (H28) ・土佐れいほく博推進協議会を設立 (H30.3月) ・土佐れいほく博観光コーディネーターによる旅行会社へのセールス、観光商品の磨き上げ (H30、R元) ・公式ホームページやSNS、テレビ等メディアを活用した嶺北地域の情報発信 (H30~) ・(一社)土佐れいほく観光協議会を設立 (R2.12月) ・(一社)土佐れいほく観光協議会の事業戦略策定 (R2) ・マーケティング機能の構築 (来訪者への満足度等のアンケートの実施等) (R2) ・れいほくクーポン券キャンペーンによる観光需要喚起 (R3.11~R4.1、R4.10~R5.1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光庁候補DMOへの登録 (R4.10) <p>◆教育旅行の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社等への教育旅行のセールスの実施 (H27~) ・教育旅行の受け皿となる民泊の研修会の実施 (H25~) ・広域での教育旅行セールスツールの作成 (R2) <p><主な成果></p> <p>◆大原富枝文学館入込数 (志国高知幕末維新博地域会場) H24~27平均: 1,268人 → H30: 5,041人</p> <p>◆教育旅行受入件数 H28: 5校 164人 → R3: 92校 7,265人</p> <p>◆土佐れいほく博の開催 (R元.7~12月)</p> <p>主要観光施設入込客数 (R元.7~12月): 159,218人 (対前年同期比: 109.1%)</p> <p>主要宿泊施設宿泊者数 (R元.7~12月): 11,515人 (対前年同期比: 134.8%)</p> <p>ツアー催行本数 (参加人数) (R元.4~12月): 60本 (1,406人)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域観光を担うコーディネート組織の機能強化 ・教育旅行の受入拡大
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆エリアマーケティング機能強化	<p>エリアのニーズ・動向・実態・満足度の調査・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ●（一社）土佐れいほく観光協議会： エリアのニーズ・動向・実態・満足度の調査設計を行い、各種調査・分析を実施 4町村・観光協会等と連携し、魅力ある商品開発と効果的なセールス・PRにつなげる ●県（地域本部等）：補助事業による支援、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援、情報提供 				
◆れいほくならではの魅力ある商品開発の推進	<p>体験プログラム、土産・食、宿泊・周遊促進商品の開発・磨き上げと広域イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ●（一社）土佐れいほく観光協議会： れいほくならではの商品開発方針の策定、広域イベント開催設計を行い、助成金・研修・事業者間のマッチング等、各種支援を実施 ●4町村・観光協会・商工会等： 開発・磨き上げや広域イベントに参画する事業者等を選定・働きかけ、商品開発等を推進 ●県（地域本部等）：補助事業による支援、各種アドバイザーや土佐の観光創生塾等セミナーの紹介 				
◆セールスの強化・推進	<p>地域が一体となったセールス活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●嶺北4町村： 一体となったセールス活動 ●県： 県等が主催する商談会や情報提供 	<p>旅行会社や企業・大学等へのセールス・PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ●（一社）土佐れいほく観光協議会： 4町村等から吸い上げた情報をもとに、旅行会社や企業・大学等へセールス・PRを推進 ●4町村・観光協会等：事業者の情報を吸い上げ、広域観光組織へ共有 ●県（地域本部等）：県等が主催する商談会やその他事業の紹介、情報提供 			
◆れいほくならではの情報発信・PRの強化・推進	<p>地域が一体となったプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ●嶺北4町村： 一体となった広報PR、情報発信 ●県： 補助事業による支援、アドバイザー等の派遣 	<p>開発した商品を誘客につなげるためのプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ●（一社）土佐れいほく観光協議会： 情報発信の基盤を整備し、会員へのPRやデジタルメディア、アナログメディア、OTA、プレスリリースを活用したPR、県や高知市と連携したPRの実施 ●4町村・観光協会等：事業者の情報を吸い上げ、広域観光組織へ共有 ●県（地域本部等）：補助事業による支援、アドバイザー等の派遣による支援、情報提供 			
◆受入体制づくりの推進、基盤の整備・強化	<p>人材育成と担い手の創出・支援、受入環境の整備、組織の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●（一社）土佐れいほく観光協議会： 組織内の体制強化と関係者との連携・協力体制強化の推進 4町村・観光協会等へ情報提供、各種支援、マーケティングに基づく受入環境整備等の提案 ●4町村・観光協会等：人材育成と担い手の創出・支援、住民の参画推進・意識醸成 受入環境の整備（ソフト整備・ハード整備） ●県（地域本部等）：補助事業による支援、アドバイザー等の派遣による支援、情報提供 				

※上記については、4つの市場（一般旅行市場、教育旅行市場、農都交流市場、国際観光市場）について取り組む。

【用語】OTA：「Online Travel Agent」の略。インターネット上だけで取引を行う旅行会社のこと。

AP 名 (実施地域)	No.19 嶺北広域観光アウトドアの里づくり (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連(本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎本山町、大豊町、土佐町、大川村、本山町白髪山・工石山保全活用推進協議会
AP への位置づけ	H28.4月
事業概要	モンベルの監修によるアウトドア拠点施設(モンベル アウトドアヴィレッジ本山)を核として、嶺北地域の豊かな自然や魅力ある体験プログラムを全国に発信することで、嶺北地域への誘客を促進し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) モンベル アウトドアヴィレッジ本山の利用者数	43,013 人 (R 元.7~12月)	58,674 人	62,879 人		50,000 人
(2) 白髪山・工石山への観光客数	54 人 (H28~30 累計)	35 人	73 人		200 人 (累計)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆アウトドア拠点施設(モンベル アウトドアヴィレッジ本山)の運営、誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知・本山アウトドアの里づくり推進協議会の開催 (H28~) ・アウトドア拠点施設の整備 (H28~R 元) ・アウトドア拠点施設の指定管理者決定(H30) ・アウトドア拠点施設のオープン(R 元.7月) ・アウトドアインストラクターの養成 (H28~) ・アウトドアの里づくりモニターツアーの実施 H29 : 8回(190人)、H30 : 13回(390人) ・県内旅行会社、学校等への施設利用に向けた営業活動の実施(R2) ・防災プログラムや地域学習など多様なニーズに対応した修学旅行の受入れの実施(R3) ・モンベルフレンドフェア in 本山の開催 (R4) <p>◆白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白髪山八反奈路への新たな登山道の整備 (H30) ・白髪山モニターツアーの実施 H28 : 2回(13人)、H30 : 1回(12人) ・工石山モニターツアーの実施 H29 : 1回(8人) ・モンベル主催の登山ツアーの開始(R 元) 	<p><主な成果></p> <p>◆アウトドアインストラクター講座の受講者 H28 : 16回、延べ 91人 H29 : 29回、延べ 156人 H30 : 17回、延べ 171人 R 元 : 18回、延べ 144人 R 2 : 0回、延べ 0人 R 3 : 18回、延べ 96人 R 4 (11月末) : 11回、延べ 48人 ※R2 は新型コロナの影響で講座を開催できていない</p> <p>◆白髪山「八反奈路根下がりヒノキ群生地」の県天然記念物指定(H28)</p> <p>◆白髪山の林業遺産認定(H29)</p> <p>◆奥工石山「紅簾石珪質片岩大露頭部」の県天然記念物指定(H29)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア拠点施設へのさらなる誘客 ・嶺北地域のアウトドア情報の発信 ・新たな広域観光組織の取り組みとの連携 ・体験インストラクターや登山ガイドのさらなる養成 ・白髪山・工石山の登山道の整備及び天然記念物としての保全

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆アウトドア拠点施設（モンベル アウトドアヴィレッジ本山）の運営・誘客	拠点施設の円滑な運営及び誘客				
	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： アウトドアビレッジ運営会議の開催、新たな体験プログラムの開発・磨き上げ支援、新たな顧客ニーズに対応した施設運営、団体利用の促進、旅行会社等へのセールス・プロモーション活動、パンフレット・ガイドブックへの掲載、教育旅行の広域化の取り組みとの連携 ●県（地域本部等）： 各種支援事業の紹介、関係機関との橋渡し、情報提供 				
	アウトドア情報の一元化	広域のアウトドア情報の発信			
	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 嶺北地域のアウトドア情報の洗い出し・共有、HPでの発信 ●県（地域本部等）： 県等が主催する商談会やその他事業の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 		<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 新たな広域観光組織と連携した情報発信 ●県（地域本部等）： 県等が主催する商談会やその他事業の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 		
◆白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進	インストラクターの養成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 体験インストラクター養成講座の実施、インストラクター希望者へのPR ●県（地域本部等）： 県等が主催する商談会やその他事業の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 				
	受入体制の整備・強化				
◆白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 登山道の整備、天然記念物の保全、ガイド養成研修の実施、ガイド希望者へのPR ●県（地域本部等）： 各種支援制度の紹介 				
	誘客の促進				
◆白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 白髪山・工石山観光のPR、モンベルのネットワークを通じたPR、地域情報も含めた情報発信、パンフレット・ガイドブックへの掲載 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 				

AP 名 (実施地域)	No.20 嶺北地域における山岳観光の推進 (嶺北地域全域)
実施主体	◎大川村、◎(一社)大川村ふるさとむら公社、本山町、大豊町、土佐町
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	自然王国白滝の里を拠点として、四国山地、吉野川、さめうら湖といった自然の資源を活かし、自然や人とのふれあい・交流を深める新たな観光コンテンツをつくり、交流人口の拡大を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
白滝の里施設利用者数	9,071 人 (H30)	7,172 人	6,969 人		15,000 人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域資源を活用した体験プログラムの開発と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石鎚山系連携事業協議会への参加(H29～) ・パンフレット作成、YAMAP アプリ掲載 ・モニターツアー等による体験プログラムの開発及び磨き上げの実施 (H28～) ・マウンテンバイクコース候補地整備及び貸し出し用マウンテンバイクの導入(H30) ・(株)ソラヤマいしづちの設立(H30) ・観光人材育成事業(いしづち編集学校)への参加、イベントへの出展、メディアの活用等による情報発信 (R 元) ・ダム湖面を活用した体験プログラム用備品整備 (ポンツーンボート等)(H30) ・白滝鉱山坑道安全性調査(H30) ・白滝鉱山坑道利活用調査(R 元) ・マウンテンバイク等を活用した体験プログラムの造成 (R 元) ・SUP・沢登り・川遊びとBBQ等の体験プログラム造成 ・冬の里山体験プログラム造成 (R 3) <p>◆白滝の里再整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白滝の里観光交流基本構想の策定(H28) ・白滝の里改修基本計画の策定(H30) ・白滝の里改修基本設計・実施設計の策定 (R 元) ・財政上の理由等から無期限延期 (R 2) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆日本ロングトレイル協会へのコース登録(H30.3月) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな体験プログラムの円滑な運営及び既存プログラムのさらなる磨き上げと定常化 ・体験プログラムの運営主体の体制強化と人材の確保及び育成 ・各種イベント等の効果的な情報発信 ・新たな広域観光組織等の取り組みとの連携

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆地域資源を活用した体験プログラムの開発と磨き上げ</p>	<p>体験プログラムの開発・定常化、受入れ体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町村（大川村等）： 観光人材の確保、村の自然資源等を活用した体験プログラムの開発・磨き上げサポート ●（一社）大川村ふるさとむら公社： 民間企業との連携やアドバイザーの活用による体験プログラムの開発・磨き上げ ●県（地域本部等）： 商品造成や人材育成に関する各種アドバイザーや土佐の観光創生塾等セミナーの紹介 <p>効果的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町村（大川村等）： 地域情報を含めた観光コンテンツ等の情報共有・発信、新たな広域観光組織と連携した情報発信 ●（一社）大川村ふるさとむら公社： 新たな広域観光組織のHP、SNS等と連携したPR ●県（地域本部等）： 関係機関との橋渡し、県自然&体験キャンペーン特設サイト等を通じた情報発信 				
<p>◆白滝の里再整備</p>	<p>白滝の里再整備の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大川村： 白滝の里再整備の検討 ●県（地域本部等）： 補助事業による支援、各種支援事業の紹介 				

AP名 (実施地域)	No.21 さめうら湖の活用をはじめとしたスポーツ・ツーリズムの振興 (土佐町) ※地域産業クラスター関連 (嶺北畜産クラスタープロジェクト)
実施主体	◎土佐町、◎民間事業者等、大川村、本山町、大豊町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	さめうら湖畔に整備した拠点施設を中心に、カヌーをはじめとしたアウトドアスポーツの競技力の向上や合宿誘致に取り組み地域振興を図る。また、さめうら荘のさらなる魅力化とともにレジャーカヌーやサイクリング等の観光客向けのアウトドアアクティビティ体験を提供することで、嶺北地域で連携して地域外から観光客の誘客を図り、交流人口の拡大を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) さめうら荘利用者数	15,961人 (H30)	16,587人	17,135人		28,000人
(2) カヌー拠点施設利用者数	0人 (H30)	6,329人	12,448人		1,520人

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆さめうら荘への誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新さめうら荘ランドオープン (H31.4月) ・産業振興アドバイザーを活用した顧客満足度向上に向けた取り組みの導入やスタッフのスキルアップ (R元:5回) <p>◆さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンガリー人のカヌー指導者の招聘 (H29) ・カヌーのまち嶺北推進協議会設立 (H29) ・カヌーアカデミーの実施 (H29～) ・さめうら湖活用に向けた環境整備 (H29～) ・ワカサギフィッシング大会の開催 (H30～) ・産業振興アドバイザーを活用した拠点施設の収支計画及びさめうら湖周辺整備基本計画の策定 (H30:5回) <p>◆カヌー拠点施設への誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー拠点施設の建設 (R元) ・拠点施設完成、オープン (R2.9月) ・受入体制の整備 (R元～) ・広報戦略の検討 (R元～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆旅行会社と連携したツアーの造成・受け入れ (さめうら荘) H27:0件、0人 → R3:76件、1,796人 ◆さめうら湖周辺の活用に向けた環境整備 (H29～) →さめうらテントパークの整備 (R3～) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さめうら荘の受入体制の充実 ・カヌー拠点施設を中心としたスポーツツーリズムの推進体制の強化 ・アウトドアアクティビティ商品の磨き上げ ・交流人口の拡大に向けた効果的なプロモーション ・湖面利用の拡大に向けた関係者との調整

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆さめうら荘への誘客	受け入れ体制の強化				
	受け入れ体制のさらなる充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐町等： スタッフの接客スキルアップ、レストランメニューの充実 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種研修案内 		<ul style="list-style-type: none"> ●土佐町等： 各種サービス内容のさらなる充実 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 		
◆さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興	営業活動・情報発信の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐町等：嶺北地域で連携した魅力あるツアーの造成及び営業活動、多言語対応のHPの開設、オンラインでの宿泊予約システムの導入、SNS等を活用した効果的なプロモーション、広域観光組織と連携した情報発信 ●県（地域本部等）：関係機関へ橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 				
	スポーツによる地域振興		スポーツイベントや競技大会等の誘致		
◆カヌー拠点施設への誘客	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐町等： カヌーアカデミーによる競技力向上、カヌーのメッカとしての雰囲気醸成 ●県（地域本部等）： 県関係機関への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●土佐町等： 湖面を利用したスポーツイベントや競技大会等の誘致 ●県（地域本部等）： 県関係機関への橋渡し、県内の市町村との連携支援 		
	嶺北地域で連携した観光客等の誘客		さらなる商品の磨き上げ		
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐町等： 嶺北地域の観光素材を組み合わせたツアーの造成、スポーツ合宿の誘致、情報発信、早明浦森林公園の整備・活用 ●県（地域本部等）： 各種アドバイザーの活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●土佐町等： カヌーやサイクリングを中心とした観光客向けアクティビティ磨き上げ ●県（地域本部等）： 各種アドバイザーの活用提案、観光に関する情報提供 		
	運営体制の強化、情報発信、人材育成				
<ul style="list-style-type: none"> ●土佐町等： 拠点施設の運営に係るスタッフの確保、町内の関係団体と連携した運営体制及び取り組みの充実、ツアーガイドのスキルアップ研修の実施、さめうら湖のブランディング及びプロモーション動画を活用した情報発信 ●県（地域本部等）： 観光に関する情報提供、県自然体験キャンペーンサイト等を通じた情報発信 					

分野	その他
----	-----

AP 名 (実施地域)	No.22 集落活動センター西峯におけるビジネス創出による地域活性化の取り組み (大豊町) ※地域産業クラスター関連 (嶺北林業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎西峯地区活性化推進委員会、大豊町
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	集落活動センター西峯が、遊休施設(廃校のグラウンド)を活用し、林業用苗木(コンテナ苗)の生産・販売に取り組み、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
出荷本数	20,900 本 (R 元)	7,518 本	2,820 本		40,000 本

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆林業用苗木(コンテナ苗)の生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗ハウスの整備(H28) ・試験生産：19,880本(H28) ・育苗ハウス(2棟目)の整備(H30) ・倉庫、かん水設備、屋外棚架台(R2) ・大豊町・嶺北林業振興事務所・地域支援企画員・集活代表者による体制強化検討会議(R3) <p>◆林業用苗木(コンテナ苗)の生産・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理に関する勉強会の実施(H28～) ・高知県種苗緑化協同組合を通じた販売(H29～) ・うちんくのビジネス塾の実施(R元) 	<p><主な成果></p> <p>◆林業用苗木(コンテナ苗)の生産</p> <p>H27：1,920本 → R元：40,880本</p> <p style="padding-left: 150px;">R2：32,120本(杉) 10,760本(ヒノキ)</p> <p style="padding-left: 150px;">R3：10,520本(杉) 10,400本(ヒノキ)</p> <p style="padding-left: 150px;">R4(2月末)：20,000本(杉) 5,000本(ヒノキ)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した栽培の確立 ・コンテナへの移植及び出荷の作業における人員確保 ・苗の管理体制の強化 ・出荷時期に合わせた生産調整 ・販売先の確保

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆林業用苗木 (コンテナ苗) の生産体制の強化</p>	<p>施設拡充の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西峯地区活性化推進委員会： 80,000本生産体制に向けた施設整備の検討 ●県（地域本部等）： 集落活動センター推進事業補助金等の活用可能性検討 	<p>生産体制強化に向けた施設拡充及び安定した栽培</p>			
<p>◆林業用苗木 (コンテナ苗) の生産・販売</p>	<p>人材の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西峯地区活性化推進委員会： 作業員及び専任職員の確保に向けた情報発信 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、職員確保に向けたイベント等参加支援 		<p>作業員及び専任職員確保による生産体制の強化</p>		
		<p>規格、注文に合った苗の生産・販売</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> ●西峯地区活性化推進委員会： 需要に応じた生産サイクルの確立、規格に適合した苗の生産、販売先の確保に向けた情報発信 ●県（地域本部等）： 森林技術センター及び林業振興事務所等による生産等のアドバイス、その他各種支援制度に関する情報提供 			
<p>【用語】・コンテナ苗：樹脂製の多孔容器であるマルチキャビティコンテナで育成される苗木で、培土と根で成型された「根鉢付き苗」</p>					

分野	その他
----	-----

AP 名 (実施地域)	No.23 集落活動センターいしはらの里による地域活性化の取り組み (土佐町) ※地域産業クラスター関連 (嶺北林業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎合同会社いしはらの里、いしはらの里協議会、土佐町
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	石原コミュニティセンターを活用し、宿泊事業を行うとともに、体験メニューによる団体ツアーや個人客受入れ及び林業研修「森の教習所」実施による研修生受入れなどにより交流人口を拡大することで、宿泊客の増加を図り、集落活動センターの収益向上につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
宿泊者数 (延べ)	93 人 (H30)	352 人	349 人		1,000 人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容の検討 (H28) ・受入体制の整備 (H28～) ・大手旅行会社のツアー受入 (H29～) <p>◆宿泊施設の整備・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター推進事業費補助金 (経済拡充支援事業) を活用した、簡易宿泊所 (木の家) の整備 (H28) ・集落活動センター推進事業費補助金 (基幹ビジネス支援事業) を活用した、休校を利用した宿泊施設の整備 (R 元) 	<p><主な成果></p> <p>◆体験ツアー受入</p> <p>H28 : 0 団体 → R 2 : 4 団体 R 3 : 38 団体 R 4 : 33 団体 (12 月末)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊事業の人材確保 ・宿泊客の確保 ・体験メニューの拡充

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆交流人口の 拡大	受入体制の充実 → 受入体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 合同会社いしはらの里： メンバーの拡大・スキルアップ ● 県（地域本部等）： 協議会等への参画によるアドバイス、 情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ● 合同会社いしはらの里、いしはらの里協議会： 地域を巻き込んだ体制強化、新たな広域観光 組織との連携 ● 県（地域本部等）： 協議会等への参画によるアドバイス、情報提供 		
◆宿泊施設の 整備・運営	宿泊事業の充実 → 受け入れ体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 合同会社いしはらの里： 食事等メニューの充実等、コンセプトづくり ● 県（地域本部等）： 協議会等への参画によるアドバイス、情報 提供 		<ul style="list-style-type: none"> ● 合同会社いしはらの里： 受け入れスタッフの確保・スキルアップ ● 県（地域本部等）： 協議会等への参画によるアドバイス、情報提供 		
◆交流人口の 拡大	体験メニューの造成及び情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 合同会社いしはらの里： 体験メニューの見直し、林業体験等の新たな体験メニューの造成、SNS等を活用したタイムリーな情報 発信 ● 県（地域本部等）： 協議会等への参画によるアドバイス、集落活動センターポータルサイト等を活用した情報発信 				
◆宿泊施設の 整備・運営	県内外に向けた宿泊事業の情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 合同会社いしはらの里： HP、パンフレット等のプロモーションの充実、学校等各種団体・エージェント等へのプロモーション活動、 新たな広域観光組織と連携した情報発信 ● 県（地域本部等）： 県観光関連広報等への情報提供、関係機関等への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.24 集落活動センター汗見川による地域活性化の取り組み (本山町)
実施主体	◎汗見川活性化推進委員会、本山町
AP への 位置づけ	H25.4月
事業概要	集落活動センター汗見川が、宿泊施設「汗見川ふれあいの郷清流館」を活用した宿泊事業や定期的開催するイベント及び体験メニューにより交流人口の拡大を図るとともに、地域で栽培したシソの加工品作りや地元メーカーへの出荷等による地域活性化に取り組む。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 宿泊者数 (延べ)	838 人 (H30)	436 人	641 人		1,400 人
(2) シソ原液出荷量	7,092L (R元)	8,460L	11,250 L	10,278 L	9,000L

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター開所(H24) ・研修棟、ピザ釜の整備(H25) ・ソバ打ち・ピザ焼き体験インストラクター研修(H25～26) ・新たなイベント「川遊び体験・グッズレンタル」、「ランチ・バイキング」の開始(H26～) ・汗見川ファンクラブ創設(H29) ・大阪市西区イベントへの参加 (H30～) <p>◆シソの生産拡大及び加工品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手女性グループによるシソ等を使った菓子の商品化 (H25) ・地元企業と連携したシソ加工品の商品化 (H26：氷菓 2 種類、H27：ドレッシング 2 種類、H28：飲料 1 種類、R2:飲料 1 種類) ・清流館とシソ飲料を PR する CM の制作・放映(H28) 	<p><主な成果></p> <p>◆イベント参加者数</p> <p>H27：628 人 → H30：641 人</p> <p>R2：コロナにより全て中止</p> <p>R3：198 人</p> <p>R4：471 人 (11 月末)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊や特産品に関する情報発信、営業活動の不足 ・イベント、体験プログラムの充実 ・コーディネートや事務を担う若手人材の不足 ・需要に対応したシソの確保 ・新たな広域観光組織の取り組みとの連携

第4期計画における工程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆交流人口の拡大	<p>大阪市西区との連携</p>		<p>都市部との交流拡大と情報発信</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 大阪市西区との連携強化 ●県（地域本部等）： 県外事務所等関係機関への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 大阪市西区を始めとした都市部との交流拡大、ファンクラブの充実や SNS 等情報発信ツールの強化、新たな広域観光組織と連携した情報発信 ●県（地域本部等）： 県外事務所等関係機関への橋渡し、各種支援制度等に関する情報提供 		
	<p>イベントおよび体験メニューの充実</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 既存イベント・体験メニューのブラッシュアップ、新たなイベント・体験メニューの検討・実施 ●県（地域本部等）： 協議会等への参画によるアドバイス、集活Cポータルサイト等を活用した情報発信 				
◆シソの生産拡大および加工品の販売促進	<p>生産者の確保</p>	<p>生産体制の強化、加工品の開発および販路の拡大</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 町内食品加工事業者と連携したシソの生産拡大に向けた取り組みの検討 ●県（地域本部等）： 関係機関との橋渡し 	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： シソ生産者のさらなる確保、新たなシソ加工品の開発、町内食品加工事業者等と連携した加工品の開発および販路拡大 ●県（地域本部等）： 集落活動センター・産業振興アドバイザーの活用提案、各支援策等の情報提供 			
	<p>シソの加工施設整備の検討</p>			<p>シソの加工施設の整備・運営</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 施設の内容および運営体制の検討 ●県（地域本部等）： 集落活動センター・産業振興アドバイザーの活用提案、集落活動センター推進事業補助金等の活用可能性検討 			<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 施設の安定運営に向けた後継者の確保、加工施設を活用した商品等の充実 ●県（地域本部等）： 集落活動センター・産業振興アドバイザーの活用提案、関係者等への橋渡し 	
<p>【用語】 SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

5 仁淀川地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

仁淀川地域では、仁淀川の豊かな自然や風土に育まれた農林水産業や紙産業、観光産業など、水資源とのつながりがある産業を中心に発展してきました。

一方、当地域の人口は、高知県推計人口によると、72,083人（令和4年12月1日現在）で、10年前の平成24年と比べ▲13.1%、また全人口に占める生産年齢人口の割合も48.4%で▲6.4ポイントで、人口の減少や少子高齢化の進展により地域経済を支える人口が減少しており、地域を取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした状況に歯止めをかけるため、各々の市町村では、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、産業振興による所得の向上や雇用の場の確保、移住の促進など、幅広い政策に総合的に取り組み、地域の活力の維持・向上に取り組んでいます。

併せて、コロナ禍において、人々の意識や行動に大きな変化が生じており、こうした状況の変化に対応しながら、地域の活性化のさらなる推進に向けて取り組むことが重要となります。

産業分野別にみると、農業分野では、仁淀川の下流域を中心とする平地・丘陵地において、温暖な気候を利用したピーマン、キュウリ、ショウガ、ニラ、文旦、メロンなどの基幹品目の生産が行われています。こうした園芸産地においては、環境制御技術が普及拡大するとともに、高糖度トマトでは法人参入による団地拡大や選果ライン活用などによりブランド化が進んでいます。また、中山間地域では、茶や薬用作物、本川手箱きじといった地域の特性を生かした農畜産業に取り組んでいます。一方で、農家人口の減少や農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加など、農業を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況が続いています。

林業分野では、施業地の集約化や作業道の整備、高性能林業機械の導入などを進めることで原木の生産量が年々増加するとともに、大型製材工場などによる生産・加工品の流通拡大に向けた動きも出ています。また、中山間地域の生産活動に寄与している特用林産物では、シキミ・サカキに加え、きのこ類の生産・販売など地域の特性を生かした取り組みを進めています。

水産業分野では、地域が支える企業のモデルとなる「宇佐の一本釣りうるめいわし」事業を推進することで地域資源の活用や雇用の確保につながるとともに、積極的な外商活動の展開により売り上げも順調に伸びてきています。また、地域資源であるアサリの保護・回復による交流人口の拡大などにつなげようとする取り組みのほか、県内産の養殖魚などを活用した新たな水産加工場が稼働を開始しています。

商工業分野では、衰退する地域の商業に活力を呼び戻すため、集客施設となる「ドラゴン広場」や「村の駅ひだか」の活用を図るとともに、中心市街地の活性化にも取り組んでおり、引き続き集客施設の経営改善、商店街の賑わいづくりを進めることが必要です。また、地域資源を活用した加工品の製造・販売では、加工施設の整備や販路拡大の取り組みなどにより売上増や雇用の創出といった地産外商の成果が表れてきています。仁淀川地域の伝統産業である「土佐和紙」の販売促進では、国際版画展や、手すき職人、紙産業に関

わる事業者及び商工会等が連携して開催するイベントなどにおいて、土佐和紙の PR・情報発信に取り組んでいます。また、県では、平成 30 年度に土佐和紙関係者などの意見を踏まえ、庁内プロジェクトチームで協議を重ねて策定した「土佐和紙総合戦略」について今年度は改訂作業を実施中であり、市町村や関係団体などと一体となって土佐和紙の伝統産業としての振興に取り組んでいます。

観光分野では、全国的にも透明度の高さを誇り、神秘的で澄んだ鮮やかなブルーに見えることから、「奇跡の清流仁淀川」や「仁淀ブルー」と称されている仁淀川の魅力を体感してもらうことで、ファンの拡大につなげるとともに、屋形船での遊覧やカヌー・ラフティング、観光ガイドによるまち歩きなどの体験メニューの磨き上げ、またキャンプ場や酒造工場を核とした体験型交流の取り組みなどにより、交流人口の拡大に向けた動きが進展しています。

(2) 地域アクションプランの概要

当地域では、地域アクションプランのこれまでの成果と課題を踏まえつつ、市町村で策定されている第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みとも歩調を合わせながら、一次産業をはじめとする地域産業の振興に取り組めます。

また、地域産業の共通課題である担い手の育成や労働力の確保については、県と市町村との協働のもとに進めている移住政策や、各産業分野の担い手育成・労働力確保の対策などともリンクをさせながら取り組めます。

加えて、地域資源を活用した商品づくりや販売促進を行うことで、地産外商を一層の強化を図るとともに、「奇跡の清流仁淀川」や「仁淀ブルー」と称され、全国的に人気が高まっている仁淀川をテーマとした広域観光をさらに推進し、交流人口の拡大を図ります。

また、各産業分野においては、次のとおり取り組めます。

農業分野では、温暖な気候と立地条件を生かした園芸産地の基幹品目を中心にデータ駆動型農業への転換、生産・出荷体制の強化、販売促進やブランド化などをさらに進めるとともに、地域に根ざした農業クラスターとして高糖度トマトとショウガの取り組みを推進します。また、仁淀川地域の「仁淀川流域茶」（仕上げ茶）、薬用作物、本川手箱きじなど地域特性を生かした農畜産物の生産・加工・販売の取り組みなどにより、農業者の所得の向上や担い手の確保を図ります。

林業分野では、関係機関が連携して ICT 等を活用したスマート林業の促進や森林経営管理制度の円滑な運用などに取り組む、施業地の確保、担い手の育成・確保、計画的な原木増産を進めるとともに、大型製材工場を中心とした木材の加工力の向上を図ります。また、中山間地域の貴重な収入源となる特産林産物についても、安定的な需要が期待できるシキミやサカキの生産拡大、原木マイタケや菌床キクラゲなどきのこ類の生産増や販路拡大を進めることによって、生産者の所得の向上や担い手の確保を図ります。

水産業分野では、地域の特産品である「宇佐の一本釣りうるめいわし」を活用した新たな加工品の開発や鮮魚の販路の開拓などに取り組むとともに、地域限定の名物食として地域の飲食店などを巻き込み、観光と連携した PR 活動を行い、うるめいわしの認知度向上と

ブランド化を目指します。また、アサリの資源の保護・回復に向けたかぶせ網による食害対策や垂下式養殖の事業化などに取り組み、観光分野への活用や養殖産業としての確立を目指します。さらに、マダイやカンパチなど県内養殖魚や地元食材を活用した新たな水産加工場の稼働により、養殖産業の振興、地元産品の利用拡大及び雇用の創出に取り組みます。

商工業分野では、中心市街地の活性化、クラフトビールなどの地域資源を活用した特産品や新商品の開発・販路拡大、販売の拠点となる集客施設の経営改善や新たな道の駅の整備などに取り組みます。また、地域の伝統産業である「土佐和紙」については、「土佐和紙総合戦略」に基づき原料確保、後継者育成、PR・販売促進などの取り組みを県・市町村・関係団体などが一体となって進めます。

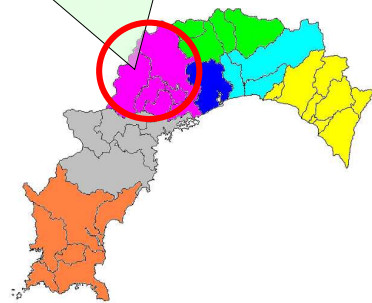
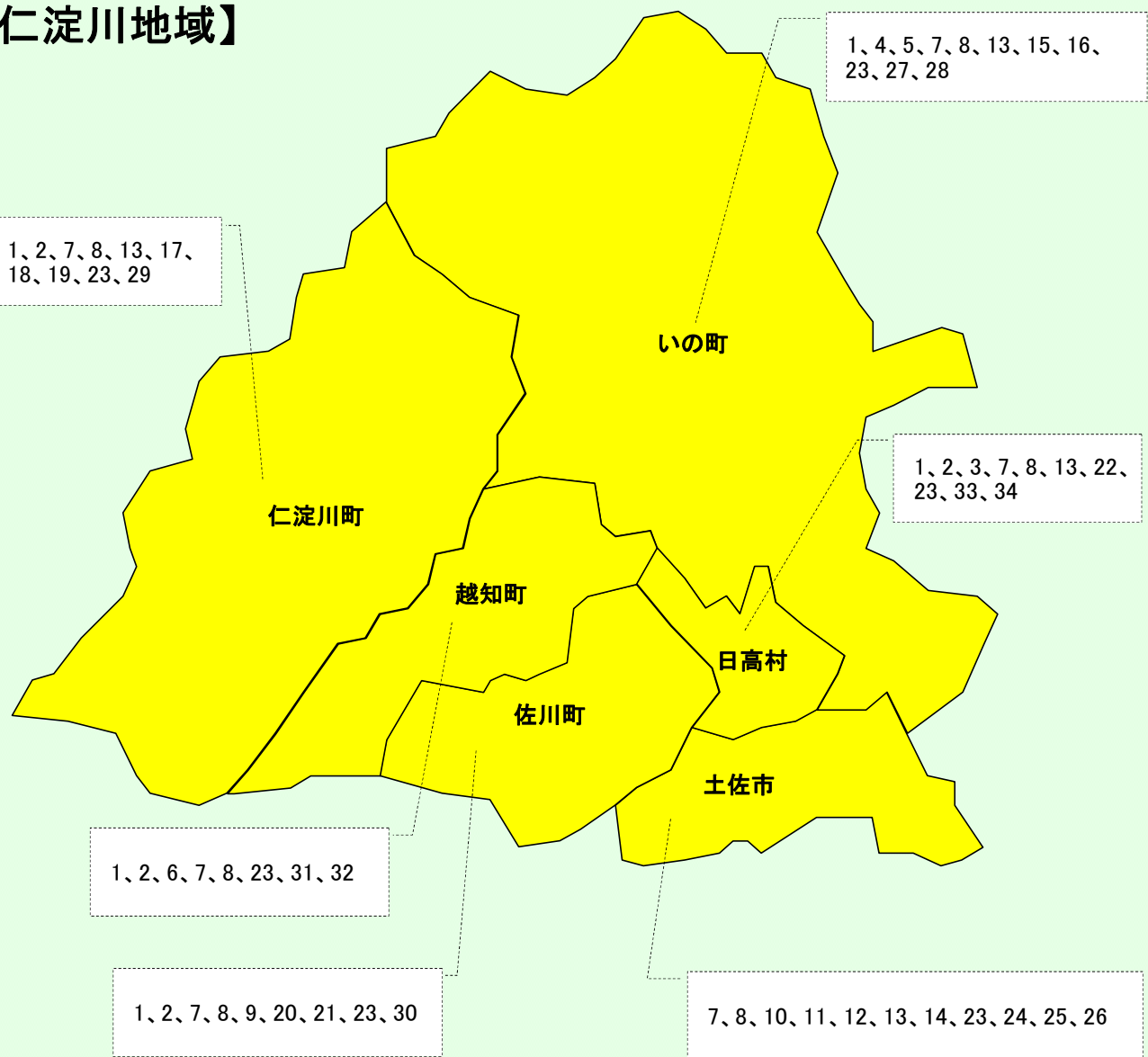
観光分野では、引き続き、一般社団法人仁淀ブルー観光協議会を舵取り役として、市町村・関係団体などとの連携をさらに強化し、マーケットインに基づく旅行会社へのプロモーション活動やSNS等を活用した情報発信、体験メニューの開発・磨き上げ、コロナ禍における訪日外国人旅行者の受入体制整備など、域内への経済波及の拡大に向けて取り組みます。また、NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送を観光振興に最大限生かすため、高知県観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」の開催等を通じて、草花や自然、食や歴史など、高知県の魅力を満喫していただけるよう、市町村や関係機関とも連携しながら取り組みます。

なお、コロナ禍において、社会経済活動と感染拡大防止の両立を維持するための対策が国を挙げて講じられていることから、国内（2022年度下期）の景気は緩やかに持ち直しているように見受けられるものの、昨今の国際情勢による原油価格・物価の高騰など事業者への影響の長期化が見込まれるため、今後の状況を注視しながら、各プランの取り組みの円滑な推進を支援をしていきます。

(3) 具体的な取り組み

No.	項目	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村
1	仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進		●	●	●	●	●
2	漢方薬の原料となる薬用作物の作付け拡大と生産性の向上による仁淀川流域産地の振興			●	●	●	●
3	日高村まるごとブランド化						●
4	いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト		●				
5	本川手箱きじの販路拡大		●				
6	越知町を中心とした食用山椒の生産体制の確立と販売促進					●	
7	仁淀川流域における林業・木材産業の振興	●	●	●	●	●	●
8	仁淀川流域における地域性の高い特産林産物の生産拡大	●	●	●	●	●	●
9	佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト				●		
10	宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化	●					
11	宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化	●					
12	土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興	●					
13	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承	●	●	●			●
14	「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化	●					
15	いの町中心市街地の活性化		●				
16	地域産品を活用した冷菓等の製造販売		●				
17	仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化			●			
18	仁淀川町における惣食品プランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト			●			
19	仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進			●			
20	さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進				●		
21	道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト				●		
22	「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化						●
23	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進	●	●	●	●	●	●
24	土佐市における体験型観光と食観光の推進	●					
25	観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化	●					
26	酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化	●					
27	いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進		●				
28	いの町本川地区での山岳観光の推進		●				
29	仁淀川町滞在交流型観光の推進			●			
30	佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進				●		
31	越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進					●	
32	越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化					●	
33	日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進						●
34	日高村能津地区における交流人口の拡大と地域の活性化						●

【仁淀川地域】



AP名 (実施地域)	No. 1 仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進 (いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)
実施主体	◎ J A 高知県 (仁淀川地区)、◎ (株)霧山茶園、◎ (農)池川茶業組合
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	良質茶の主産地である仁淀川流域で、生産者の高齢化や担い手不足が進む中でも茶産地を維持できる仕組みの構築を図る。また、省力的な栽培管理と効率的な生産体制の整備を検討し、新たな茶商品の開発・販売を通じた仕上げ茶の販売量増加、輸出用防除暦に沿った茶の生産により、茶生産農家の所得の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
仕上茶販売量	28.4 t (H30)	25.4t	25.6t		30.0 t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶樹の台切り等、茶園の若返りに向けた事業を実施 (H24～R元:事業実施者 21名(延べ)、3.5ha) ・台切りの実証ほの設置 (R元～: 2カ所) ・新害虫 (チャトゲコナジラミ) の発生調査を行い、適期防除の体系を確立 (H24～27) ・作業の省力化に向けた、自走式茶園管理機の摘採実証ほの設置及び管理機現地実証の実施 (H27～) ・自走式茶園管理機の実演会開催 (R2、R3) <p>◆販売力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐茶まつりや試飲販売等のイベントに出店 (H23～) ・県内外量販店での販売促進や土佐茶カフェとの連携による消費拡大PRを実施 (H23～) ・産業振興アドバイザーを導入して、販売強化に向けた研修会を実施 (H28～29:7回) ・販路開拓や販売拡大に向けて、JGAP 認証取得への勉強会の実施 (R元:6回) ・JA 高知県佐川支所が新たな茶製造ラインを整備 (R元.5月) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自走式茶園管理機の導入 R元: 1台 (仁淀川地域初) ◆台切りマニュアルを作成 (R4) ◆仕上茶の販売額及び荒茶生産に占める小売の割合 H19: 38,796千円、6.6% → H30: 85,179千円、16.3% R元: 70,330千円、22.6% ◆JA 高知県佐川支所の茶製造ラインによる新商品の開発 R元: 新商品数3 (釜炒り茶、ウーロン茶、紅茶) R2: ウーロン茶加工マニュアル作成 ◆茶試: 日干番茶試作 (R3、R4) ◆(農)池川茶業組合におけるGAP 確認活動の実施 (R3、R4) ◆輸出先国の基準に合わせた薬剤の防除効果確認 (R3、R4) ◆輸出先国の基準に合わせた防除暦の作成(R3、R4) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良茶園の維持 (台切り等による樹勢回復) ・二番茶・秋冬番茶を活用した日干番茶等の商品開発 ・輸出先国の基準に合わせた防除暦の更新

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の強化	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">茶生産における省力化技術の導入と産地の強化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（仁淀川地区）、(株)霧山茶園、(農)池川茶業組合： <ul style="list-style-type: none"> 自走式茶園管理機の導入拡大、茶園の若返り（茶樹の台切り等）による収量の増加、優良茶園の耕作放棄対策に向けた状況把握と情報共有、地域での茶園管理の協議の実施 ●県（農業改良普及所等）： <ul style="list-style-type: none"> 効率的な自走式茶園管理機導入技術の確立、台切り・改植の推進、茶園のマップ化に向けた状況把握と情報共有、地域での茶園管理の協議推進 				
◆販売力の向上	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">新商品の開発と新たな販売ルートの開拓</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（仁淀川地区）、(株)霧山茶園、(農)池川茶業組合： <ul style="list-style-type: none"> 消費者のニーズを踏まえた新商品の開発、産地からの継続的な情報発信、販促活動の活性化、輸出への取り組み拡大 ●県（農業改良普及所等）： <ul style="list-style-type: none"> 釜炒り茶・ウーロン茶・紅茶の各製茶ライン用マニュアル作成、茶業試験場と連携した新商品開発、地域の茶を用いた食育への取り組み強化、茶生産者への GAP 情報の周知、輸出意向の確認と取り組み内容の支援、輸出用防除暦の薬剤効果の検証 				
	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">茶生産法人の JGAP 認証の啓発</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●県（農業改良普及所等）： <ul style="list-style-type: none"> JGAP 認証取得に向けた啓発 				
<div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台切り：老齢化等により低下した樹の生育の回復や若返りために、地上 15cm 程度まで茶樹を切り下げること。 ・GAP：「Good Agricultural Practice」の略。農産物の生産において、農産物の食品安全性や品質確保、環境負荷低減、労働安全の確保等を目的に、農業生産工程を点検し、記録し、見直し改善していく管理手法。 ・JGAP：農業者が適正に GAP を実践していることを第三者機関が審査し、一定期間認証する GAP 認証制度の一つ。欧州に倣い、国内で平成 17 年度に策定された。 </div>					

AP名 (実施地域)	No. 2 漢方薬の原料となる薬用作物の作付け拡大と生産性の向上による仁淀川流域産地の振興 (仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)
実施主体	(農)ヒューマンライフ土佐
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコ・サンショウ・ダイダイなどの薬用作物について、越知町をはじめとする生産農家の所得の向上と就労の場の確保を図るため、漢方薬の需要増に対応した生産拡大と生産性の向上に取り組む。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) ミシマサイコ栽培面積	5.7ha (R元)	3.0ha	2.7ha	2.4ha	7.7ha (R5)
(2) サンショウ製品量	37.2t (H30~R元平均)	14.8t	22.9t (R2~R3平均)	23.6t (R2~R4平均)	40.0t (R2~R5平均)
(3) ダイダイ製品量	13.6t (R元)	16.0t	15.5t	13.9t	26.6t (R5)

※上記(1)～(3)は、いずれも仁淀川流域町村分

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆薬用作物の安定生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシマサイコ 2年生栽培品種の現地適応性の検証(H26~R元) 発芽不良対策、摘心時期適正化実証調査(H26~R4) 紙トレイ育苗による共同化の検討(H28) 生産者への栽培拡大の呼びかけ(R2~3) ・薬用サンショウ 生産者への剪定講習会を開催(H24~R3:6回) 収穫作業員として大学生の活用検討(R2~3:7回) 更新用苗木生産体制の整備(R2) ・ダイダイ 生産者への剪定講習会を開催(H29~R3:5回) ・こち農業確立総合支援補助金を活用した機材整備 ダイダイ用の乾燥機を導入(H28.4月、R3,3月) ミシマサイコの自動茎切り機を導入(H29.10月) ◆(農)ヒューマンライフ土佐の体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザーを導入して、(農)ヒューマンライフ土佐の経営改善を実施(H26:5回) ・県補助により薬用作物専門指導員を配置(H29~R元) ・(農)ヒューマンライフ土佐の総会を通じて、運営方針等を共有 ・雇用者を確保し、ミシマサイコ調製作業受託の人役派遣体制を整備(R2) 	<p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出 H27:22人 → H30:40人 → R元:24人 →R2:19人 → R3:20人</p> <p>◆ミシマサイコの生産技術改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生栽培品種の適応性の検証により、1年生品種と同等の収量性が確認できた。 ・低温処理による種子の発芽改善対策を始めた。 ・調査を通じて、播種後の土壌の初殻被覆や最終摘心時期を早めること、11月上旬までに種子を収穫することの有効性が実証できた。 <p>◆サンショウの生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2,000本の苗木生産を始めた。 <p>◆ダイダイの生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾燥機の導入により、委託していた乾燥作業の自社完結が可能となった。 ・薬用作物専門指導員の講習等を通じ、収穫物の歩留まりが向上した。(ダイダイ廃棄量…H30:1t → R元:20kg) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシマサイコ:病害予防・追肥等栽培管理技術の向上 ・薬用サンショウ:栽培管理技術・苗木生産技術の向上、収穫労力の確保、担い手対策 ・ダイダイ:栽培面積の拡大、剪定・病害虫対策

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆薬用作物の安定生産	ミシマサイコ生産の拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(農)ヒューマンライフ土佐： 休作者への作付け呼びかけ、新規栽培者の勧誘、栽培技術改善実証（マルチ栽培等）、現地検討会、栽培講習会の開催、調製作業省力化に向けた自動茎切り機の活用 ●県（農業改良普及所等）： 生産安定技術の指導、作付け拡大の呼びかけ、篤農家技術の普及 				
	サンショウの生産性向上				
◆(農)ヒューマンライフ土佐の体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ●(農)ヒューマンライフ土佐： 老木の更新、剪定講習会の開催、ハローワーク等を通じた収穫作業者の募集 ●県（農業改良普及所等）： 剪定・土壌管理・病害虫対策（さび病等）の指導、栽培技術資料の配付、農薬登録促進 				
	ダイダイの生産性向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(農)ヒューマンライフ土佐： 新植の推進・苗木配布、剪定講習会の開催、乾燥機の増設・運用（R4.3月こうち農業確立支援事業） ●県（農業改良普及所等）： 剪定・病害虫対策（カミキリムシ等）の指導、施設整備への補助事業の活用検討 				
薬用作物の普及体制の強化、経営基盤の強化					
<ul style="list-style-type: none"> ●(農)ヒューマンライフ土佐： 総会の開催による運営及び薬用作物の普及方針の共有・強化、部門別生産者会の開催による普及方針の徹底、ミシマサイコ新規栽培者の出荷調製作業の受託体制整備 ●県（農業改良普及所等）、越知町： 薬用作物の普及方針への助言、産業振興アドバイザーの活用提案 					
<p>【用語】 ・2年生栽培品種：ミシマサイコに関して、従来高知県では播種した年内に収穫できる1年生栽培品種「KO」が普及しているが、これを2年生品種「BF2」にすることで、より太い根部の収穫が期待できる。</p> <p>・摘心：草丈を抑制したり、枝数を増やす等の目的で新しく伸びている茎を途中で摘み取る作業。葉の数や開花数が増えることにより、茎、根の肥大や種子の増加、充実を図るために行われる。ミシマサイコ栽培では夏期に5回程度茎を刈りそろえることで枝数が増え、種子及び根部の収穫量が増加する。</p>					

AP名 (実施地域)	No.3 日高村まるごとブランド化 (日高村) ※地域産業クラスター関連 (日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎日高村、◎JA高知県(仁淀川地区)、JA高知県日高支所ハウス園芸部会、(株)コスモスアグリサポート、(株)イチネン高知日高村農園、日高村商工会、(特非)日高わのわ会、(株)霧山茶園、(株)村の駅ひだか
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	高糖度トマト生産における販売戦略や地域ネットワーク、産地間競争力を強化し、生産者の所得向上につなげる。日高村アグリネットワークを活用した特産品等の開発・販売活動や「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進により、日高村の知名度やブランド力の向上を図り、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 農産物等の販売額	5.4億円	7.51億円	7.02億円		7.16億円
(2) 「オムライス街道」によるオムライス販売数	55,475食	46,965食	47,861食		60,000食
(3) 商品・加工品開発件数	23件	6件	5件		25件
(4) 村外からの移住者数	12組	9組	10組		20組
(5) 新規就農者数	19名	3名	2名		4名

※出発点 (1)はH30、(2)はR元見込み、(3)(4)(5)はH28～30累計、目標(3)(4)(5)はR2～5累計

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆経営管理能力及び生産力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアルによる栽培技術の平準化 (H21～) ・環境制御技術の取り組み開始 (H25～) ・JA出資法人「(株)コスモスアグリサポート」設立 (H28) ・(株)イチネン高知日高村農園のトマト栽培参入 (H28) ・IoT技術を活用した生産技術向上に向けた取組 (R2～) <p>◆農業経営体の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成及び産地の体制づくりに向けた組織力の強化 (H21～) <p>◆販売力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の安全・安心への取り組み強化、新たな糖度区分による商品開発、販促活動 (H21～) <p>◆日高村アグリネットワークの連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日高村アグリネットワーク会議の開催 (H24～) ・県外への特産品等販促活動 (H25～) ・日高あぐり大会の開催及びPR資材の制作 (H26～28) 	<p>◆「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オムライス街道事業の実施 (H26～) ・「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の実施計画策定 →H30産振補助金(ステップアップ事業)の活用(事業費202万円) ・オムライス街道参加店舗の減少に伴う販売食数の減少 H26:6店舗(38,300食) H29:11店舗(82,905食) R3:9店舗(47,861食) ・交流拠点施設「Eat & Stayとまと」がオープン(R元.11月) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆産地面積の拡大 H27:8.3ha → R3:12.05ha ◆次世代型環境制御技術の導入拡大による生産技術の強化 導入面積率:H27:7.1% → R3:81% <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の営農定着・経営安定に向けた労働力の確保 ・「日高の未来戦略」を生かした新たな取り組みの創出

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆経営管理能力及び生産力の向上	<p>経営改善及び高付加価値化による産地の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県日高支所ハウス園芸部会、(株)コスモスアグリサポート、(株)イチネン高知日高村農園：個別農家の経営改善目標の達成と所得向上、高糖度・高品質生産技術の定着拡大、労働力確保と作業員の効率的な労務管理 ●県（農業改良普及所等）：個別農家の経営目標策定と経営改善の支援、法人での生産にかかる技術支援、環境制御技術等普及への取り組み強化、「カイゼン」（生産現場の作業効率や安全性確保を見直す活動）手法等を活用した作業の効率化支援 				
◆農業経営体の確保・育成	<p>担い手の確保・育成に向けた取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県日高支所ハウス園芸部会：就農希望者からの就農相談への対応、農業研修生受入れ、新規就農者からの相談への対応と地域への定着支援 ●県（農業改良普及所等）：農地・研修体制・産地提案書・栽培指導などの整備による担い手育成支援、新規就農者を中心とした栽培・経営技術支援の実施、JA 高知県が運営する無料職業紹介所の活用促進 				
◆販売力の向上	<p>流通・販売の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（仁淀川地区）、(株)イチネン高知日高村農園：安定した価格での取引拡大による販売単価の向上、産地の知名度向上による有利な条件での販売の拡大 ●県（農業改良普及所等）：栽培や出荷予測等にかかる技術支援、輸出に向けた国外情報の収集 				
◆日高村アグリネットワークの連携強化	<p>日高村及び日高村農産物の知名度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日高村、村内事業者：定期的なアグリネットワーク会議の開催、事業者と連携した販促活動の実施、メディアやインターネットを活用した情報発信 ●県（地域本部等）：アグリネットワーク会議への参画、産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進	<p>実施計画に沿ったプロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日高村：プロジェクト推進に係る会議の開催、オムライス街道事業の実施、トマトやオムライスを活かしたローカルブランディング、移住促進策の推進 ●村内事業者：トマトを活かした商品・加工品開発、オムライス街道事業への参画によるオムライスの販売 ●県（地域本部等）：プロジェクト推進に係る会議への参画、産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.4 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト (いの町)
実施主体	◎いの町、JA高知県(仁淀川地区)、いの町商工会等
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	いの町での生姜生産を核として、生姜の集出荷場整備を契機に生姜生産農家、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、生産から販売、人材育成までの好循環を生み出す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
生姜出荷量	650t (H30)	680t	825t	839t	700t

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産・販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> JA高知県伊野支所生姜集出荷場の整備(H28) →産地パワーアップ事業活用(事業費:4億2,000万円) 栽培管理技術等の向上に向け、栽培研修会等累計52回 JA高知県伊野支所生姜集出荷場出入り口等の整備(R2) →高知県集出荷施設等緊急整備事業(事業費:2,825万円) 出荷場・生産者GAP点検累計32回実施(H29~) 新規就農者等の確保育成 →就農相談会参加累計6回、技術勉強会受講累計35回(H29~) →出前授業:(H28:2校、H29:2校、H30:2校、R元:4校、R2:2校、R3:2校、R4:2校、延べ577人) <p>◆生姜加工品の開発・販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 生姜加工品開発(H28~) 芽生姜の甘酢漬け等試作(H30~) 地域産業クラスター形成支援専門アドバイザー導入、県外有名老舗料亭関係者が来高し、甘酢漬け等試食、料亭からレシピ提供(R元)→(試作22回:甘酢漬け7回、梅酢漬け4回、飴煮5回、干菓子4種6回) 役場職員向け試食会でのアンケート集計、町内居酒屋3店舗で聞き取り(R元) JA高知県伊野支所まるい生姜部会提供の規格外生姜(無償提供)を活用したメニュー開発:8店舗14品見込み(R元~R4) 芽生姜加工品の商品化に向けたパッケージデザイン協議(R2) 地元事業者と共に中央西福祉保健所へ営業許可等相談(R2) 	<ul style="list-style-type: none"> 芽生姜の甘酢漬け 菌検査・栄養成分検査実施、完成(R2)、しそ酢漬け 菌検査・栄養成分検査実施、完成(R4) <p>◆生姜を核としたいの町の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内飲食店による「いの生姜焼き街道スタンプラリー」開催(H27~) JA生姜部会による町内イベントでの生姜の量り売り(H29~) 伊野地区生活改善グループによる「kami祭」「いの町で世界のみんなと大おきゃく」での生姜料理ふるまい(H30~) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規就農者の確保 新規就農者3名(R元~4)、研修生6名(R元~4) ◆GAP点検により集出荷場の入り口の改善が決定 ◆生姜加工品開発:20品見込み(H29~R4) ◆いの生姜焼き街道スタンプラリー参加店 (H28:18店舗、H29:19店舗、H30:18店舗、R元:19店舗、R2:中止、R3:中止、R4:中止) ◆いの生姜焼き街道スタンプラリー参加店に生姜スイーツ提供店舗の加入(H29~) ◆芽生姜の甘酢漬け 販売開始(R3.1月)、しそ酢漬け販売開始(R4~) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷量アップに向けた病害対策等と担い手の確保 ・市場事故防止対策の徹底 ・就農支援体制の強化及び就農後の経営の安定 ・生姜のまち「いの」定着に向けたPR強化
---	---

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産・販売体制の強化	生産拡大の取り組み強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県伊野支所、県(中央西農業振興センター) : 難防除病害対策の検討、GAPの定着・改善、新規就農者の栽培技術の向上、市場事故防止対策の徹底 ●いの町、JA、県(中央西農業振興センター) : 新規就農者の確保、出前授業の実施 				
	小袋包装機等の導入		出荷体制の整備、充実		
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県伊野支所 : 出荷体制の整備 ●いの町、県(中央西農業振興センター等) : 機械導入支援、各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県伊野支所 : 出荷体制の整備 ●いの町、県(中央西農業振興センター等) : 出荷形態の充実 		
◆生姜加工品の開発・販路拡大	新商品の開発及び販路拡大の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●地元事業者 : 「芽生姜の甘酢漬け」等の新たな生姜加工品の開発、イベント等での試験販売 ●いの町、県(地域本部、中央西農業振興センター) : 試作品作成に向けた支援 ●JA 高知県伊野支所まるい生姜部会 : 「規格外生姜の無償提供」の取り組みによる、町内飲食店舗・イベント等での加工品販売、メニュー展開促進 ●県(地域本部等) : 加工品づくりへのノウハウを得るために産業振興アドバイザー等の活用提案、セミナーの紹介、各種支援制度に関する情報提供 				
◆生姜を核としたいの町の振興	生姜のまち「いの」PR 戦略の継続による生姜関連産業の発展				
	<ul style="list-style-type: none"> ●いの町 : 町内イベントで生姜料理ふるまい(伊野地区生活改善グループ)、生姜消費拡大に向けたPR ●JA 高知県伊野支所まるい生姜部会 : イベント等での生姜PR(量り売り販売) ●いの町商業振興会 : 生姜焼き街道の取り組み継続、磨き上げ ●県(地域本部等) : 広報支援等 				

AP 名 (実施地域)	No.5 本川手箱きじの販路拡大 (いの町)
実施主体	◎本川手箱きじ生産企業組合、いの町
AP への 位置づけ	H21.4 月
事業概要	いの町本川地区の特産品である「本川手箱きじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に取り組み、中山間地域の基幹産業として定着させる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
きじ販売額	1,419 万円 (H30)	1,418 万円	1,297 万円		2,951 万円

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆営業力強化による販路拡大

- ・ホームページリニューアル、営業ツールの作成、県外への営業活動、金属探知機の導入
→H30 産振補助金（ステップアップ）の活用（事業費 164 万円）
- ・高知県産品商談会、土佐の宴等県内外の商談会へ参加
- ・県内での様々な PR イベントへの出店
- ・他社とのコラボ商品の開発により須崎市のふるさと納税で商品の取扱開始
- ・白いきじ誕生等話題性のあるものを利用したプレスリリースを実施（R2: 6 本、R3: 3 本）
- ・きじのレバーを使ったレバーパテを販売開始（R 2 ～）
（無添加に商品改良（R4））
- ・土佐のきじ祭りの開催（R 2）
- ・グリーンパークほどの体験メニューできじ卵を使ったバウムクーヘン作りの開始（R 3）
- ・自社オンラインショップの決済手続きを簡素化（R4）

◆安定した生産体制の確保

- ・生産設備（貯卵庫、脱毛器、液体型急速冷凍機）の整備（H26）
- ・本川手箱きじ生産企業組合の設立（H26）

- ・生産、販売、経営状況を検討する定例会の開催
- ・経営計画の策定（H29）
- ・きじ飼育等をミッションとした地域おこし協力隊の採用

◆衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修

- ・県版 HACCP 旧第 3 ステージの認証取得（R3）
- ・きじ加工処理施設の整備（R2）
→R 元産振補助金の活用
（事業費：11,574 万円）

＜主な成果＞

- ◆他社とのコラボ商品の売上の増加（ふるさと納税）
H28：19 万円 → R3：55 万円
- ◆観光協会オンラインショップでの販売開始（R2.7～）
0 万円 → R3：5 万円
- ◆一般消費者への販売羽数の増加
H28：475 羽 → R3：569 羽
- ◆取引開始件数の増加
R2：4 件、R3：10 件

＜課題＞

- ・食材としてのきじの認知度の向上
- ・個人向け販売の強化
- ・既存取引先との取引継続

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆営業力の強化による販路拡大	販路拡大に向けた営業・PR 活動の実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合：営業人材の確保、各種イベントでの PR、商談会への出展、インターネット・SNS を活用した販売、定例会での情報共有、既存取引先への営業強化 ●県（地域本部等）：定例会への参画によるアドバイス、産振アドバイザーの活用提案、地産外商会社等への橋渡し、商談会などの情報提供 				
	顧客のニーズに応じた商品の開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合：既存商品のブラッシュアップ、未活用素材の活用検討、アンケートの実施によるニーズ把握 ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案 				
◆安定した生産体制の確保	飼育担当人材の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合：飼育担当人材の確保、飼育技術の指導・教育 ●いの町：地域おこし協力隊の募集 ●県（地域本部等）：人材確保センター等への橋渡し、研修等に関する情報提供 				
◆衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修	施設改修	新施設の稼働			
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合： 県版 HACCP 旧第3ステージの認証取得 ●いの町： 衛生管理の高度化と作業効率化に向けた施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合： きじの安定生産・加工処理、衛生管理マニュアルに沿った運用 ●県（地域本部等）、いの町： 各種支援制度に関する情報提供 			
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハザップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP 名 (実施地域)	No. 6 越知町を中心とした食用山椒の生産体制の確立と販売促進 (越知町)
実施主体	越知町山椒組合
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	県内一の食用山椒の生産量を誇る越知町において、圃場条件や気象条件を生かした安定的な生産を推進し、農家所得の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	(R2~5 平均)
食用山椒出荷量	19.0 t (H29~30 平均)	9.2t	13.6 t (R2~3 平均)	14.2 t (R2~4 平均)	19.2 t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆山椒の安定的な生産の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改植に向けた接ぎ木技術講習会 (R2 : 1 回) ・産地提案書の作成 (R2) ・新規担い手の勧誘 (R2 : 2 件) ・害虫 (チャノキイロアザミウマ) のトラップ調査及び防除指導を実施 (トラップ調査(H28~R3:48 回)、防除指導(H28~R3:25 回)) ・病害 (赤衣病、さび病等) 防除実証ほの設置及び指導を実施 (H28~R 元)、防除体系の見直し ・生産者への剪定講習会を開催 (H28~R3:6 回) ・生産者のほ場の土壌分析を行い、個別通知・講習会等でのフィードバックを実施 ・労働力確保対策の検討 (R2 : ニラ調整作業、大学生対象) ・収穫能率調査、剪定効果アンケートの実施 (R3) ・園地情報のマップ化 (R2~4) <p>◆加工品の開発と販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山椒利用食品の試食アンケート調査を実施 (H28) ・「山椒を使った焼き肉ダレ」の試作販売 (H29) ・粉山椒の生産を実施 (H28~R 元) <p>⇒粉山椒の生産と山椒の収穫時期が重なり、加工への対応が困難であることから、加工仕向けとしての山椒の販売に注力することとする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規販路の交渉 	<p><主な成果></p> <p>◆販売額の向上</p> <p>H27(表年) : 4,587 万円→ H30(表年) : 5,565 万円→R 元(裏年) : 4,902 万円→R2(裏年) : 3,508 万円→R3(表年) : 7,539 万円→R4(裏年) : 6,437 万円</p> <p>単価が上昇し、裏年でも H27 頃の販売額より向上</p> <p>◆5 戸で改植中</p> <p>◆適正防除の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャノキイロアザミウマ、赤衣病、さび病については発生量や防除対策が周知され、適正防除につながった <p>◆剪定技術の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習会により生産者の理解が進んだ <p>◆土壌環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌分析を通じて pH の上昇が樹勢を弱めることを確認し、生産者にフィードバックできた。 <p>◆サンショウマップを電子ファイル化し新規栽培希望者への園地斡旋について検討した。</p> <p>◆新規販路の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運送契約が有利な新規契約先 (関東) を確保し 990kg 出荷した (R2) 。R5 には県内で 1 社増。 ・粉山椒のユーザーが自社で製粉する体制に移行した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理技術・苗木生産技術の向上 ・収穫労力の確保 ・担い手対策

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆山椒の安定的な生産の確立	産地維持に向けた園地の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町山椒組合： 園地確保の方策の検討、接ぎ木技術の継承・老齢木の改植、新たな担い手への園地の斡旋 ●県（農業改良普及所等）： 連絡会での支援策協議、支援体制の整備、園地情報の整理・マップ化 				
	安定生産技術の定着				
◆山椒の安定的な生産の確立	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町山椒組合： 総会での生産方針の確定、栽培講習会の開催、栽培技術資料の配付、剪定講習会の参加、病虫害発生状況・対策の周知 ●県（農業改良普及所等）： 病虫害防除対策実証ほの設置、防除効果実態調査、防除技術指導、樹勢維持の可能な剪定技術の講習・モデルほ場の設置、適正な土壌 pH への誘導（土壌分析及び結果のフィードバック） 				
	労働力不足対策				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町山椒組合： 労働力不足の実態整理、労働力確保対策の検討、農閑期雇用の試行 ●県（農業改良普及所等）： 剪定による省力的樹形普及に向けた啓発、労働力不足対策に関する情報提供 				
◆加工品利用の拡大	加工仕向け山椒の販売拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町山椒組合： ユーザーのニーズ分析、出荷条件の交渉 ●県（農業改良普及所等）： 需要についての情報提供、支援事業検討 				
<p>【用語】 ・チャノキイロアザミウマ：体長 0.7～0.9m の害虫。果実を食害することによりキズ果の原因となる。</p> <p>・さび病：葉に病斑を作る病気。落葉により山椒にダメージを与える。</p> <p>・赤衣病：枝に発生する病気。枝枯れの原因となる。</p> <p>・隔年結果：収量の多い年と少ない年が交互に現れる現象。樹勢が衰えると多少の格差が顕著になる。</p> <p>・樹勢：樹木の生育状態。枝葉、幹、根の成長度合いや着果状況等から判断する。</p>					

AP名 (実施地域)	No.7 仁淀川流域における林業・木材産業の振興 (仁淀川地域全域)
実施主体	◎林業事業体、森林組合、素材生産業者、製材業者、自伐林家等
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	仁淀川流域における原木生産の増加及び安定供給に取り組むことにより、加工・流通の安定化を促進し林業・木材産業の振興を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 原木生産量	9.8 万 ³ m ³ (H30)	9.5 万 ³ m ³	10.3 万 ³ m ³		12.0 万 ³ m ³
(2) 仁淀川林産協同組合 集材センター集荷量	3.5 万 ³ m ³ (H30)	3.7 万 ³ m ³	3.6 万 ³ m ³		5.8 万 ³ m ³

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆施業地確保や集約化による原木生産推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の樹立や林地の集約化計画を策定 (H21～) ・路網整備の加速化等による木材増産を目的とした「中央西地区路網整備推進会議」を設立 (H29) ・市町村単位のワーキンググループを通じ、路網整備計画を策定 (H29～) ・森林経営管理法に基づく森林経営管理制度の円滑な運用に向けたワーキンググループを実施 (H30～) <p>◆事業体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合経営改善事業により、管内の2森林組合が中期経営計画に基づく進捗管理や経営の実態分析・利益確保に向けた取り組みを実施 (H27～) ・経営基盤の強化及び生産性の向上等を図るため事業戦略づくりを支援 (R2～) <p>◆需給調整体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向けた高密度路網の整備や高性能林業機械の導入 (H28～) ・地域林業の成長と資源の循環利用を目的とした「高吾北地域原木安定供給協議会」の設立 (H29) <p>◆大型製材工場の生産・経営力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池川木材工業(有)が県からの指導も受け、原木調達量や稼働状況等を管理し、市場動向を踏まえた運営実施(H26～) ・池川木材工業(有)が、木材加工流通施設整備事業費補助金を活用し、CLT用ラミナ生産施設を整備 (H28.3月) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆池川木材工業(有)の原木利用量 H30 : 2.2 万³m³、R元 : 1.9 万³m³、R2 : 1.6 万³m³、R3 : 1.6 万³m³ ◆施業地確保や集約化による原木生産推進 <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画の認定 R4.4.1 現在 : 3,096ha ・森の工場の新規設定 H30 : 2 団地、R元 : 4 団地、R2 : 3 団地、R3 : 7 団地 ・森林経営管理制度の市町村支援体制を整備 (H30～) ◆事業体の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・高知中央森林組合:オートチョーカー(無線式自動荷外し器)及び繊維ロープにより生産性が向上 (H30) ・仁淀川森林組合:繊維ロープにより生産性が向上 (H30) ◆需給調整体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・高性能林業機械の導入(H30 : 6 台、R2 : 3 台、R3 : 2 台) ・仁淀川林産協同組合に選別機を導入 (H30) ・林業成長産業化地域創出モデル事業がスタートし、佐川町・越知町・仁淀川町が一体で高吾北地域原木安定供給協議会を設立し、木材生産・流通体制を整備 (H29) ・スマート林業の取り組みの中で、仁淀川林産協同組合に素材情報の蓄積・共有を図る日報管理・原木流通情報システムを導入 (R2～) ・仁淀川町林業振興センターの竣工 (R4) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内関係機関が連携した安定的な担い手・事業地の確保 ・林業事業体の経営や技術力の継続的な向上 ・森林経営管理制度の円滑な運用 ・製材工場への安定的な供給体制の構築 ・新型コロナウイルス感染症による社会構造の変化への対応

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施業地確保や集約化による原木生産推進	<p>市町村と林業事業者等の連携による施業の集約化と原木生産の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●林業事業者、森林組合： 森林所有者との合意形成による事業地の確保 ●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、市町村： 高度な森林資源情報の早期把握と増産に向けた新たな事業地の確保を進め、原木生産の増大及び事業者の安定経営に向けた取り組みを支援、各種支援制度に関する情報提供 新たにスタートした森林経営管理制度が円滑に運用できるように林業事務所ワーキンググループと市町村の個別訪問等により支援を継続 				
◆事業者の育成	<p>林業事業者の経営基盤強化と人材の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●林業事業者、森林組合： 施業の集約化、事業地の確保、路網や集材等に関する作業システムの見直し・改善 ●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、町： 森林組合の施業集約化の促進及び複数年の事業地確保に向けた支援並びに皆伐・再造林の推進 林業事業者の施業地における路網や集材等の作業システムの改善に向けた取り組みを支援 林業大学卒業生や仁淀川町林業研修生への巡回指導及び意見交換会など、人材育成に向けたフォローアップを継続 				
◆需給調整体制の整備	<p>林業振興センターの整備・運営支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●仁淀川町森林管理推進協議会： 木材の生産・販売・流通を一括管理するための、仁淀川町林業振興センターの整備・運営支援 ●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： 仁淀川町林業振興センターの整備・運営に向けた取り組みを支援 <p>川上と川中、川下の情報共有及び需給調整体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●仁淀川町森林管理推進協議会： 仁淀川町林業振興センターの整備後の運営 ●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： 仁淀川町、越知町、佐川町で取り組む「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向け、高精度の森林資源情報をベースとした施業提案作成ソフトの開発及び活用に向けた取り組みを支援 需給調整体制の整備を図るため、高性能林業機械の導入を支援 				
◆大型製材工場の生産・経営力の強化	<p>安定的な供給体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県（本庁、林業事務所等）、町： 仁淀川林産協同組合集材センターの集荷量の増加にともなう流域からの大型製材工場への安定的な供給体制を支援 定期協議を通じた原木調達量や稼働状況の情報共有、市場動向を踏まえた運営等の指導強化 流通に関する情報提供、セミナー等の紹介 				

AP名 (実施地域)	No.8 仁淀川流域における地域性の高い特用林産物の生産拡大 (仁淀川地域全域)
実施主体	特用林産物生産団体
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	地域の特色を持った特用林産物（シキミ・サカキ、きのこ類）の生産量の増加や品質向上により、販売を拡大し生産者の所得の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) シキミ・サカキ生産量	16.5t (H30)	20.4t	13.9t		19.0t
(2) 原木マイタケ生産量	0.5t (R元)	0.9t	0.5t		1.0t
(3) 菌床キクラゲ生産量	9.0t (H30)	8.7t	11.3t		30.0t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆栽培技術・品質の向上</p> <p>○シキミ・サカキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培、流通関係研修会の実施（H28） ・仁淀川町のシキミ・サカキ生産者台帳を整備（H29～） ・サカキ見本木の再整備を実施（H30～） <p>○マッシュルーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術及び生産団体の経営改善や販売拡大にかかる支援を実施（H25～） ・地域林業総合支援事業費補助金を活用して、マッシュルームの乾燥機を整備（H25.8月） ・生産者が健康上の理由で生産活動を休止したことに伴い、後継者対策を町と協議（H30～） ・東京本社の(株)ヒロセオールが事業を継承し栽培を開始（R2.7月～） ・施設老朽化等のため、事業を休止（R4.7～） <p>○原木マイタケ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター「氷室の里」で原木マイタケの生産を開始（H26～） ・森林技術センター等と連携した植菌・栽培等の技術指導を実施（H28～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター推進事業費補助金を活用して、集落活動センター「氷室の里」が殺菌釜等を整備（H28） <p>○菌床キクラゲ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国産菌床キクラゲ生産会社「株式会社ツボイ」の設立（H30） <p><主な成果></p> <p>◆シキミ・サカキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者への個別訪問や病害虫指導等によるA級品の安定出荷 ・栽培放棄地のマッチング（9件、1.96ha） <p>◆マッシュルーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾燥機の導入による消費期限の延長と取引先の拡大 <p>◆原木マイタケ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺菌釜の整備等による原木の殺菌技術の向上 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化（シキミ・サカキ、原木マイタケ） ・栽培放棄地の再利用（シキミ・サカキ） ・生産規模拡大に向けたハウスや作業員の確保（菌床キクラゲ）

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆栽培技術・品質の向上 シキミ・サカキ マッシュルーム 原木マイタケ 菌床キクラゲ	生産者の栽培技術向上と安定的な生産（全品目）				
	<ul style="list-style-type: none"> ●生産者： 栽培技術や病虫害防除指導の実践、作業工程等の見直し・改善 ●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： 安定した生産及び品質向上に向けた栽培技術指導や病虫害防除指導 				
	移住者の参画や副業者の掘り起こしによる生産体制の整備及び生産施設の整備（全品目）				
	<ul style="list-style-type: none"> ●町： 移住希望者の相談会への参画、地域おこし協力隊等の募集 ●県（本庁、林業事務所、地域本部等）： 補助事業等による各種支援制度に関する情報提供 				
	遊休地や放棄地を活用した栽培地の確保・拡大（シキミ・サカキ）				
<ul style="list-style-type: none"> ●県（林業事務所、地域本部等）、JA、生産者： 生産者訪問時などに遊休地や放棄地についての情報収集を実施 生産希望者等への情報提供・マッチング 					
流通体制の整備（全品目）					
<ul style="list-style-type: none"> ●県（本庁、林業事務所、地域本部等）、JA、生産者： 流通に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し、SNSの活用 					
【用語】 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。 代表的な SNS としては、Facebook などがある。					

AP名 (実施地域)	No.9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト (佐川町)
実施主体	◎佐川町、◎自伐型林業やものづくりに取り組む個人・団体
APへの位置づけ	H27.4月
事業概要	自伐型林業を核とした産業クラスターを形成・推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出や人材育成等を通じた地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 林業関連新規就業者数	17人 (H28～R元累計)	5人	9人		20人 (R2～5累計)
(2) 山林の集約化面積	225ha (H28～30累計)	113ha	186ha		400ha (R2～R5累計)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆自伐型林業の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町自伐型林業推進協議会の設立(H26.3月) ・地域おこし協力隊(自伐型林業)の採用(H26～) ・自伐型林業研修の開催(H26～) ・森林の所有者と森林資源の情報を管理・共有する仕組みとして「森林ICTプラットフォーム」を構築(H28.5月) ・山林管理状況アンケートや山林集約化推進員による山林管理の意向調査の実施(H28～) ・佐川町と山林所有者との間で森林長期施業管理契約を締結(H28～) <p>◆低質材の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町産材の積極的な利活用のための「森林資源フル活用センター(仮称)」の整備事業計画を策定(R元) ・「森林資源フル活用センター(仮称)」の整備計画を中止(R4) ・町産材活用のため、簡易製材機を導入(R4) <p>◆さかわ産木材を活用したものづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルファブリケーションを活用したものづくりの拠点「さかわ発明ラボ」の開所(H28.4月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊(ものづくり関連)の採用(H28～) ・学校教育・地域等と連携したワークショップ等の開催(H28～) ・町内で製作した町産材のおもちゃを赤ちゃんにプレゼントする木育の取り組み「ウッドスタート事業」の開始(H30～) ・地域おこし協力隊OBへの委託による佐川町産木材を活用した商品開発(R2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自伐型林業研修参加者数 H28～R3: 410名(延人数) ◆さかわ発明ラボ施設利用者数 H28～R3: 2,018名(延人数) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自伐型林業を担う人材の育成 ・継続的・安定的な施業環境の整備 ・町産材(低質材を含む)を活用したものづくりの推進 ・学校教育・地域等と連携したものづくりを通じた人材育成

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆自伐型林業の 確立	林業従事者の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 地域おこし協力隊の採用、自伐型林業研修の実施 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供等 				
	産業として成立するビジネスモデルの構築				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 林地の集約化の推進、継続的・安定的な施業環境の整備 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供等 				
◆低質材の活用 促進	森林資源フル活用センター（仮称）の 整備検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 低質材等の利活用に向けた検討、 森林資源フル活用センター（仮称） 施設整備の検討 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、 産業振興総合補助金の活用検討、 各種支援制度に関する情報提供 				
	低質材利活用の仕組みづくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 簡易製材機の導入及び活用方法の検討、 木材乾燥場所の確保 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、 各種支援制度に関する情報提供 				
◆さかわ産木材 を活用したもの づくりの推進	さかわ発明ラボ運営体制の確立及びものづくりに関する人材育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、さかわ発明ラボ： 運営体制の検討、低質材を活用した木工品の開発・販売、学校教育・地域等と連携したものづくりを通じた人材育成 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、関係事業者への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.10 宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化 (土佐市)
実施主体	企業組合宇佐もん工房
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	「宇佐の一本釣りうるめいわし」を原料にした新たな加工品の開発や鮮魚の販路開拓により需要の拡大を図るとともに、地域限定の名物食として提供する体制づくりを進め、地域での雇用創出と経済効果の波及を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
販売額	9,084万円 (H30)	1億1,968万円	1億476万円		1億5,000万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販路拡大と販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇佐うるめいわし加工品の生産・販売体制の構築 (H21.3月) →H21産振補助金の活用(事業費約462万円) ・イベント出店の取り組み (H21～) (宇佐大鍋まつり、てんこす周年祭等) ・加工場の新設及び加工機械等の整備 (H22.3月) →H22産振補助金の活用(事業費約3,183万円) ・フェア・商談会への参加 (H22～) ・「一本釣りうるめ祭り」の開催 (H23～) ・「一本釣りうるめいわし推進委員会」の設立 (H27) ・うるめいわしを取り扱う土佐市内の飲食店を紹介する「うるめMAP」の作成 (H27～) ・加工場の増改築及び加工機器の整備 (H28.3月) →H28産振補助金の活用(事業費約6,373万円) ・県版 HACCP アドバイザーの派遣 (R元.12月、R2.1月) ・生産性向上のため商品パッケージ改良 (R2) →食品産業総合支援事業費補助金の活用 ・県版 HACCP 第2ステージの認証取得 (R3) ・直営飲食店「宇佐もんや」の高知県あんしん会食推進の店認証取得 (R3) <p>◆原材料の確保、新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信販売やデパート向けの商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・他魚種を使用した新商品の開発 (漬け丼) (H30:4件、R2:1件、R3:2件、R4:1件) (R3.8月)市場ニーズの高い化学調味料不使用商品を既存の漬け丼シリーズの商品ラインナップに追加 <p><主な成果></p> <p>◆販路拡大と販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大手居酒屋チェーン店、デパート等との取引拡大 ・商談成立件数 H28:8件 H29:8件 H30:4件 R元:12件 R2:5件 R3:3件 R4:6件 (R4.11月末時点) <p>◆原材料の確保、新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卸し・通販部門での売上増 H28:6,825万円→R4:7,167万円 (R4.11月末見込み) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる販路拡大及び商品開発 ・原料となるうるめの安定確保 ・生産量増に対応するための生産性向上 ・自家用商品の強化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆販路拡大と販売促進	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">販路拡大</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企業組合宇佐もん工房： <ul style="list-style-type: none"> 新規の展示会・商談会への出展及び情報収集（通年） 既存の商談会への参加等の積極的な営業活動による取引拡大に向けた取り組み（通年） ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度及び展示会・商談会に関する情報提供（通年） 				
◆原材料の確保、新商品の開発	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">「宇佐の一本釣りうるめいわし」の認知度向上に向けた販売促進</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企業組合宇佐もん工房： <ul style="list-style-type: none"> 一本釣りうるめ祭り（飲食店イベント）の開催、その他販促イベントへの出店（通年） うるめいわしをメインにした祭りの開催の検討（通年） 直営飲食店「宇佐もんや」でのうるめいわし PR の強化（新メニューの開発等）（通年） 宇佐漁協、うるめ漁師と連携した「一本釣りうるめいわし」のブランド化に向けた取り組み（魚の鮮度向上、地域商標登録の検討）（通年） ふるさと納税返礼品の取り組み強化（R4～） ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 販売促進イベントに関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供（通年） 				
◆原材料の確保、新商品の開発	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">原材料を安定的に確保できる仕組みづくり</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企業組合宇佐もん工房： <ul style="list-style-type: none"> うるめ漁師の獲得に向けた取り組み(既存漁業者との良好な関係の構築)（通年） 原料ストックしやすい材料（ほぐし身、すり身）を使用した商品の開発（通年） ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供（通年） 				
◆原材料の確保、新商品の開発	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">新商品の開発</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企業組合宇佐もん工房： <ul style="list-style-type: none"> 企業と連携したタイアップ商品等の開発（通年） 鮮度を保持した加工技術を活用した商品の開発（通年） 他魚種を使用した加工品の開発（通年） ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 商品開発に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案（通年） 				
<div style="border: 1px solid #4a86e8; padding: 10px;"> <p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> </div>					

AP名 (実施地域)	No.11 宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化 (土佐市)
実施主体	◎宇佐地区協議会、宇佐アサリ垂下式養殖プロジェクトチーム、土佐市
APへの位置づけ	H27.9月
事業概要	天皇洲での「かぶせ網」によるアサリ資源の保護を継続するとともに、増殖したアサリを活用し管理型育成型の潮干狩りの実施等、アサリ資源を活用した取り組みを推進し、宇佐地域にかつてのような賑わいを取り戻し、地域の活性化につなげていく。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
		アサリ資源の回復による事業化が見込まれた時点で追加決定			

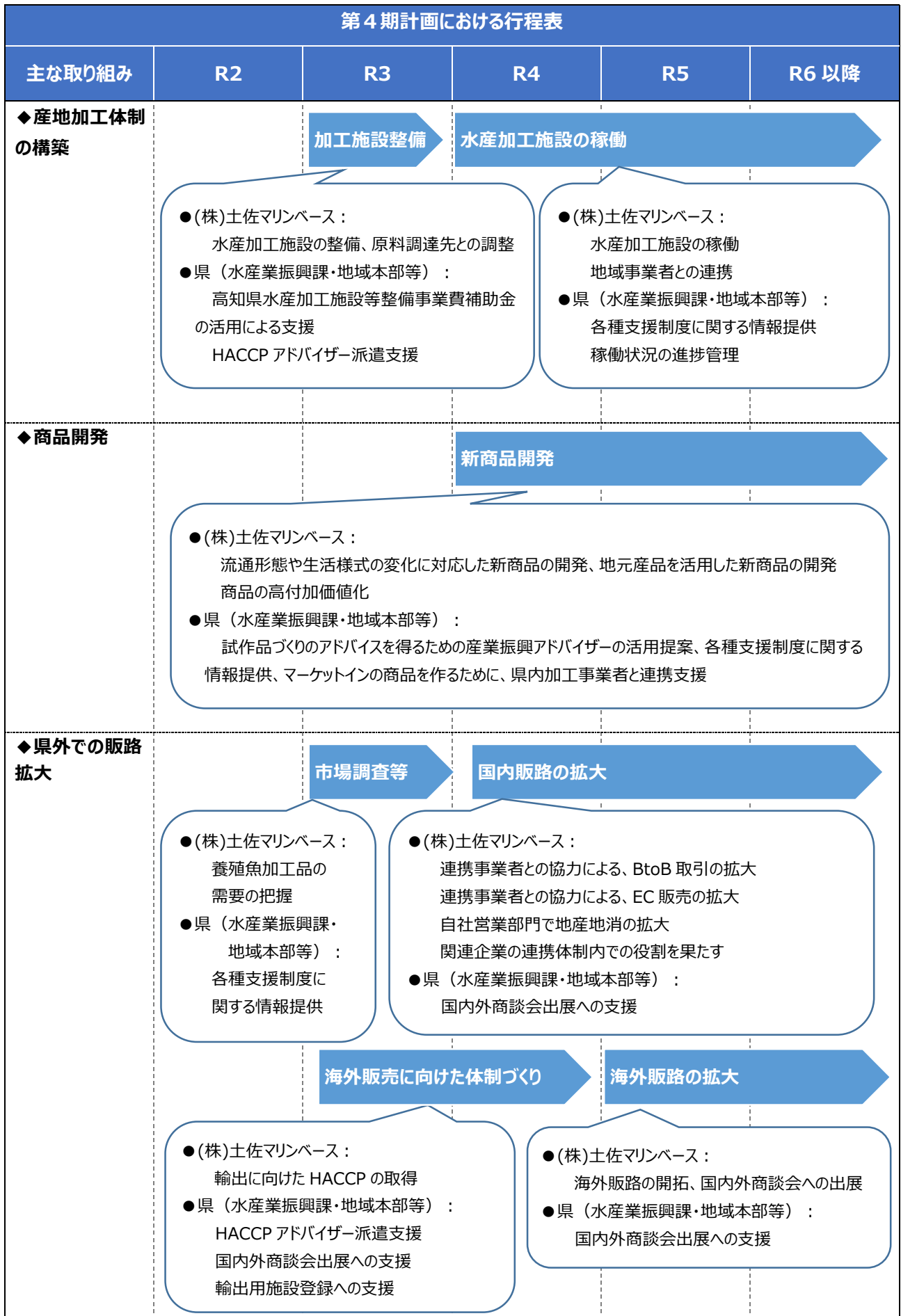
これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆かぶせ網によるアサリ資源の保護・回復</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサリを食害(主にエイやチヌ)から保護するためのかぶせ網を敷設 (H27～) ・かぶせ網をメンテナンスのしやすい立体型に改良し、大規模な範囲に立体型被せ網を敷設 (H29～) <li style="padding-left: 20px;">H29 : 20,150 m² <li style="padding-left: 20px;">H30 : 28,150 m² (8,000 m²設置) ・かぶせ網におけるアサリ資源量のモニタリング調査 (R元～R4:4回) <p>◆アサリ資源を活かした経済活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮干狩り事業化に向けたモニタリングの検討、実施 <p>◆アサリの垂下式養殖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天然栄養剤入りのネットでアサリを幼生から育成する手法で採苗したアサリを用いて、垂下式養殖を実施 (H27) ・産業振興アドバイザーを導入して、効率的なアサリの採苗方法や採苗時期を検討(H28 : 1回) ・天皇洲に設置しているかぶせ網の下で育成したアサリ(300kg)を種苗として用いた垂下式養殖試験を実施 (H30.11月～R元.5月) 	<p><主な成果></p> <p>◆かぶせ網によるアサリ資源の保護・回復</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぶせ網により増加したアサリを活用し、地元小学生による潮干狩りを試験的に実施(H30～) ・かぶせ網の敷設によるアサリの増加 <li style="padding-left: 20px;">3センチ以上 : 43トン (推定) (R元.8月) <li style="padding-left: 20px;">3センチ以上 : 108.5トン (推定) (R2.10月) <li style="padding-left: 20px;">3センチ以上 : 104.3トン (推定) (R3.6月) <li style="padding-left: 20px;">3センチ以上 : 59トン (推定) (R4.7月) <p>◆アサリの垂下式養殖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・垂下式養殖用のアサリの採苗(H30.11月 : 300kg) ・養殖したアサリを量販店に試験出荷 (R元.5月 : 240kg) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保全活動等の労働力不足 (かぶせ網の敷設面積の拡大等によるメンテナンス作業量の増大、かぶせ網へのカキ殻の付着、台風による網の欠損、メンバーの高齢化) ・かぶせ網で育成したアサリの身入りの改善 ・交付金に頼らない保全活動体制の確立 (潮干狩り、宇佐ブランドのアサリ販売) ・国の補助金から自立後の事業計画と組織体制の整備

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆かぶせ網によるアサリ資源の保護・回復	<p>地域活動組織による保全活動の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宇佐地区協議会： かぶせ網の定期的なメンテナンス、モニタリング等の実施 小学生を対象とした潮干狩り体験の実施（毎年夏頃1～2回） ●土佐市： 地域活動組織の円滑な運営の支援、活動に対する指導、助言、財政的支援 ●県(水産政策課、中央漁業指導所、地域本部等)： 地域活動組織の活動に対する指導・助言・財政的支援、各種支援制度に関する情報提供 				
◆アサリ資源を活かした経済活動の推進	<p>潮干狩り事業等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宇佐地区協議会： R3からの潮干狩り事業実施に向けた実証試験と事業化及び実施体制の検討 経済活動の開始に向けた事業計画等の検討 ●土佐市： 円滑な事業運営の支援、広報での情報発信 ●県(水産政策課、中央漁業指導所、地域本部等)： 潮干狩りの事業化のための指導・助言、産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆アサリの垂下式養殖	<p>垂下式養殖の事業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宇佐アサリ垂下式養殖プロジェクトチーム： 垂下式養殖の生産技術等確立（実証実験の実施、実験結果のフィードバック）（通年） 養殖したアサリの販路の確保に向けた取り組み（通年） 実入りの良さを活かした宇佐アサリのブランド化（通年） ●土佐市： 円滑な事業推進に対する助言 ●県(水産政策課、中央漁業指導所、地域本部等)： 垂下式養殖の生産体制確立のための技術的助言・支援、各種支援制度に関する情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.12 土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興 (土佐市)
実施主体	◎(株)土佐マリンベース、和光商事(株)
AP への 位置づけ	R3.4 月
事業概要	(株)土佐マリンベースが養殖魚（ブリ、マダイ、カンパチ）の産地加工体制を構築するとともに、常に変化する食品の流通形態に合わせた商品開発や地元食材の活用による商品の高付加価値化、販売チャネルの整備等に取り組むことで、養殖漁業等の振興、地元雇用の創出及び地元産品の利用拡大につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	-	-	-		3 億 1,800 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆産地加工体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・水産加工施設の整備（R3） <ul style="list-style-type: none"> →高知県水産加工施設等整備事業費補助金 →輸出拡大施設整備等事業費補助金 ・地域事業者との連携した商品開発の開始（R4） ◆商品開発 <ul style="list-style-type: none"> ・流通形態や生活様式の変化に対応した新商品を制作中（R4） ◆県外での販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・輸出に向けた HACCP の取得の取り組みを開始（R4） ・海外及び国内での商談会に出展（R4） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工場の完成（R4.3 月） 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通形態や生活様式の変化に対応した新商品の開発 ・加工原魚（養殖魚）の不足 ・販路の開拓



AP名 (実施地域)	No.13 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承 (土佐市、いの町、仁淀川町、日高村)
実施主体	◎手すき和紙協同組合、◎高知県製紙工業会、いの町紙の博物館
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	地域の伝統産業である「土佐和紙」は、手すき和紙職人、用具職人、楮栽培農家のいずれもが高齢化のため生産が減少し、土佐和紙の売上げも低迷していることから、手すき和紙及び機械すき和紙を含め、原料や担い手の確保を図るとともに、県内外での消費の拡大につなげる取り組みを行う。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 土佐和紙販売額	5.5 億円 (H30)	4.8 億円	4.6 億円		7 億円 機械 : 6 億円 手すき : 1 億円
(2) 手すき和紙協同組合 加入事業体数	17 事業体 (H30)	17 事業体	17 事業体		20 事業体

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組み内容></p> <p>◆「土佐和紙」の販売促進と保存・継承に向けた取り組み</p> <p>○土佐和紙の原料、紙すき用具、後継者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いの町による町内楮農家の現状把握のための調査実施 (H29～) ・紙の博物館に寄贈された簀桁の現状調査 (H29) ・町に寄贈された用具を若手後継者等を対象に、貸し出すため「いの町備品(簀、桁)貸出規約」を策定 (R2) (若手後継者1名の貸出申請) <p>○商品開発、販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラチナプリントの印画紙「土佐白金紙」を開発。国内外に販売開始 (H25～) ・プロモーション関連事業「土佐和紙商談会 in 高知」の開催 ・土佐和紙プロモーション、販路拡大等に関する情報交換会の実施 (H26) ・商品開発や販路拡大を見据えた現状の生産状況や課題等を把握するため、手すき職人、機械すき会社への聞き取り調査の実施 (R2) ・産業振興アドバイザー事業の活用 (R3:4回) →紙の博物館販売コーナーのリニューアル実施(商品の配置見直し、特設コーナー設置等) 	<p>○地域が一体となった紙文化の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会が全国展開支援事業で策定した「いの町中心市街地活性化プラン」で紙部会が紙文化の発信を実施 (H25) ・「土佐和紙職人市」、「紙のまち博覧会」の開催 (H26) ・「高知家統一セールスキャンペーン」との連携 (H26) ・kami祭開催 (H27～) ・「高知国際版画トリエンナーレ展」(R2) ・夜の紙博開催 (H29～) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆手すき和紙職人の後継者育成 (後継者育成事業による研修修了者) <p>H28～R3 累計: 2名(短期)、4名(長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆土佐和紙総合戦略の次期戦略の策定協議(R4.4～) ◆土佐和紙振興対策推進会議 (R3.2～) ◆高知国際版画トリエンナーレ展 入場者数: 6,760人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐和紙生産(原料、用具、紙すき)の担い手確保 ・土佐和紙の知名度向上
--	--

第4期計画における工程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆「土佐和紙」の販売促進と保存・継承に向けた取り組み</p>	<p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px;">土佐和紙の原料確保、紙すき用具の確保、手すき和紙職人の後継者育成</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 県（工業振興課）： <ul style="list-style-type: none"> 楮生産者の維持・確保のための支援策の検討・実践、楮生産の実態調査、楮生産者の確保、耕作放棄地の活用、土佐和紙総合戦略の次期戦略(R5～)の策定協議 ● いの町紙の博物館、県（地域本部、工業振興課）、町（産業経済課）、手すき和紙協同組合： <ul style="list-style-type: none"> 用具職人の育成、移住施策と連携した後継者掘り起こし、後継者育成対策事業による研修支援、紙すき用具の保存管理、町へ寄贈された手すき用具を後継者等へ貸出し 				
	<p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px;">商品開発、販路拡大</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ● 県（工業振興課）： <ul style="list-style-type: none"> 土佐和紙のブランド力の強化、土佐和紙の優位性の検証、認証制度の検討 ● 手すき和紙協同組合、県（紙産業技術センター）： <ul style="list-style-type: none"> 美術用、修復用等の用途に適した土佐和紙の開発、新たな加工技術の活用による商品化 ● 県（地産地消・外商課、市町村振興課、工業振興課等）： <ul style="list-style-type: none"> 高知家プロモーション等でのPR、れんげいこうち事業との連携、国内外の展示会や博物館等での販売 					
<p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px;">地域が一体となった紙文化の発信</p>					
<ul style="list-style-type: none"> ● いの町紙の博物館、いの町教育委員会、高知県教育委員会： <ul style="list-style-type: none"> 教育現場での土佐和紙文化の発信、紙の博物館での手すき和紙づくり体験学習、卒業証書の作成 ● いの町産業経済課、(一社)いの町観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 地域イベントでの発信（かみのひな祭り、kami 祭、紙のこいのぼり等のイベント、土佐和紙職人市） ● (一社)仁淀ブルー観光協議会： <ul style="list-style-type: none"> 地域への観光客への情報発信（仁淀川観光等と連携した紙に親しむ体験観光メニューの売り込み） ● 土佐和紙国際化実行委員会（事務局：いの町紙の博物館）： <ul style="list-style-type: none"> 国内外への情報発信（高知国際版画トリエンナーレ展の開催 R2 及び R5） 					
<p>【用語】・楮（こうぞ）：土佐和紙の原料となるクワ科の植物、高知県は全国有数の楮産地であるが、最近では農家の高齢化により生産量が激減している。</p> <p>・高知国際版画トリエンナーレ展：紙の博物館を会場に3年に1度開かれている世界でも有数の国際的な版画展として国内外の多くの作家や関係者などに知られている。</p>					

AP名 (実施地域)	No.14 「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化 (土佐市)
実施主体	◎土佐市商工会、土佐市
APへの位置づけ	H23.4月
事業概要	観光案内機能や農産物等の直販所などを備えた拠点施設「ドラゴン広場」を核として、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
施設直販市での販売額	5,438万円 (H30)	5,262万円	4,822万円		5,900万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本計画の策定(H24.1月) ・「ドラゴン広場」整備(H24.10月) →H24 産振補助金の活用 (事業費約 1 億 700 万円) ・「ドラゴン広場」オープン (H25.4月) ・産業振興アドバイザーを導入して、「ドラゴン広場」の安定運営を検討 →施設の運営体制・管理方法、PR 戦略等の情報発信 (H24 : 7 回) →施設の管理・運営方法の改善 (H26 : 5 回) →お弁当・加工品開発及びブラッシュアップ (H27 : 2 回) →塚地坂の観光ガイド育成、土佐市の交流人口の拡大 (H29:5 回) ・施設の魅力向上及びテナント間の連携を目的として、テナント会を毎月開催 (H25~) ・ドラゴン広場運営協議会を設立し、運営改善に向けた協議を実施 (H26~ : 12 回) ・チャレンジショップの開設(H28~H29) ・経営の安定化及び集客増を目的として、土佐市商工会が民間事業者とコンサルティング業務契約を締結 (H31.4月) ・定期的なイベントの開催(七夕祭り、ビアホール、ハロウィンイベント) (R元 : 3 回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・土佐市青年団とイベント(ドラゴン夜市)を共催 R2 : 2 回、R3 : 1 回 ・高知県あんしん会食推進の店認証取得 (R3) ・調理室・加工場の「HACCP に沿った衛生管理」の実施を開始 (R3) ・イベントスペースの増設 (R3) ・商店街振興計画策定に向けた関係者協議 (R4.4月~) <p><主な成果></p> <p>◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客施設の新設により、中心市街地の新しい人の流れ・賑わいの創出 ・チャレンジショップ参加事業者のうち 1 テナントが正規テナントとして出店(H30.4月) ・イベント来場者数 ・定期的なイベント (R元 : 3 回) : 1,629 人 ・ドラゴン夜市(R2 : 2 回) : 1,638 人 (R3 : 1 回) : 1,344 人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ドラゴン広場」の安定的な施設運営 ・継続的な集客につなげるための店舗の魅力づくり、品揃えの充実、情報発信 ・高岡商店街及び周辺地域を巻き込んだ地域活性化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり</p>	経営改善による集客施設の安定した運営				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐市： 施設運営に関する支援、広報でのイベント情報の発信 ●土佐市商工会： 月1定例イベント開催（高齢者向け食堂、学習塾等）による地域でのドラゴン広場の認知度向上に向けた取り組み（通年） テナントが一体となった集客策の検討（通年） 定期的なテナント会（月1回）の開催による施設の魅力向上、品揃えの充実に向けた取り組み（通年） 外国人住民を含む地域住民のコミュニケーションの場（体験教室等）の提供（通年） ●県(地域本部等)： 施設運営に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、テナント会への参画による施設運営に関するアドバイス（通年） 				
	地域商店街と一体となったイベントの開催及びツアー客の誘致				
<ul style="list-style-type: none"> ●土佐市： 広報による情報発信（通年） ●土佐市商工会： ドラゴン広場を中心とし、高岡商店街を巻き込んだイベント開催の調整（ひなおきゃく等）（通年） 仁淀ブルー観光協議会、土佐市観光協会と連携した誘客策の実施（通年） ●県(地域本部等)： イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供（通年） 					
商店街振興計画の協議・策定・実施					
<ul style="list-style-type: none"> ●土佐市： 土佐市商工会と連携した商店街振興計画の協議及び策定 ●土佐市商工会： 土佐市と連携した商店街振興計画の協議及び策定 ●県(商工労働部、地域本部等)： 計画の協議及び策定に対する支援 					

AP名 (実施地域)	No.15 いの町中心市街地の活性化 (いの町) ※地域産業クラスター関連 (いの町生姜・販売拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎いの町、◎いの町商工会
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	いの町中心市街地の空き地・空き店舗等を有効活用して、街の活力を高めるとともに、「いのまち」をキーワードとして誰もが訪れたいまちづくりを目指し、商店街の各店舗の魅力を高め、新たな開業を促進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R2~R5 累計
中心市街地での事業所の新規開業	15 事業所 (H28~R 元累計)	3 事業所	5 事業所		8 事業所

これまでの主な動き

＜これまでの取り組み内容＞

◆商店街での新規創業者支援に向けた取り組み

- ・いの町が関係団体と連携して行う、新規創業者に対する支援計画を策定。経済産業省が認定 (H28.1月)

◆中心市街地活性化に向けての取り組み

- ・中心市街地活性化プランの策定 (H25)
- ・町有地を活用した中心市街地再構築検討委員会の開催、中心市街地再構築プランの策定、実現に向けた関係者間での協議 (H28~29)
- ・中心市街地事業者及び周辺事業者、地域住民、商工会等で構成される「いの町中心市街地活性化協議会」の設立及びワーキンググループを立ち上げ、地域資源ごとのグループを構成し、中心市街地活性化計画を策定 (H30.12月)
- ・中心市街地空き店舗等活用事業費補助制度を策定 (R3.9月)
- ・まちづくり組織立ち上げ及び地元高校生との連携 (R3~)
- ・第2期のいの町中心市街地活性化計画を策定(R4.12月)

◆中心市街地活性化計画実行に向けての取り組み

- ・中心市街地活性化協議会開催 (R元.5月)
- ・各地域資源グループでの活動
- 「遊」: 町内公園を活用した商店街事業者主催のマルシェ開催 (R元.4月)
- ・食と絡めたまちあるき (生姜の収穫体験、生姜焼き街道) の実施、里山と商店街を利用したトレイルランニングイベントの開催検討 (R元.11月)
- ・自転車レースを中心にカヌー等を組み合わせたイベントの開催 (BIKELORE in NIYODO BLUE) (R2.11月)

→「職」: 中心市街地で近年、開業・事業継承した事業者の紹介及び中心市街地のマップを作成し、いの町広報へ折り込み (R2.1月~)

→「食」: 芽生姜を活用した商品の試作 (H30~)

- ・芽生姜加工品 (甘酢漬け) の商品化に向けたパッケージデザイン協議、菌検査・栄養成分検査の実施 (R2)
- ・芽生姜の甘酢漬けの完成 (R2)、しそ酢漬けの完成 (R3)

→「紙」: 紙の博物館販売コーナーリニューアル (R3~)

◆イベント等開催によるにぎわいの創出

- ・Kami祭、かみのひなまつり (H27~)
- ・整備した町有地でのイベント開催 (まちなかスタンプラリー、まちなかバスケットボール inINOTOWN) (R4~)
- ・商店街よさこい交流演舞 (R4~)

◆町内への開業の誘致

- ・創業支援ワンストップ窓口、移住相談業務開始(H28~)

＜主な成果＞

◆開業誘致の成果 (新規開業者数)

H24~27 累計 4 事業所 →H28~R 元 累計 15 事業所 →R2~R4 累計 12 事業所

- ◆芽生姜の甘酢漬け 販売開始 (R3.1月)、しそ酢漬け販売開始 (R4~)

＜課題＞

- ・中心市街地活性化計画を持続可能なものにしていくためのキーマン及びプレイヤーの発掘・育成及び各関係機関の連携体制の構築
- ・活用可能な空き店舗の発掘及び情報発信

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆中心市街地活性化計画実行に向けての取り組み	中心市街地活性化プランの実行・検証				
	<ul style="list-style-type: none"> ●いの町商工会、いの町（産業経済課）、県（地域本部等）： 計画を主体的に実行する民間事業者の掘り起こし及びフォローアップ、ワーキングの開催による計画の芽出し・調整、広報支援 ●県（地域本部等）： 計画実行にあたって活用可能な補助金メニューの紹介、産業振興アドバイザーの活用提案等 				
◆イベント等開催によるにぎわいの創出	イベント内容の磨き上げ・集客増に向けた取り組み				
	<ul style="list-style-type: none"> ●いの通信局（地元事業者・いの町商工会・(一社)いの町観光協会・いの町らで構成）： Kami 祭、かみのひなまつり等のイベントによる町の魅力発信、イベント来場をきっかけにいの町のファンとなってもらうための仕掛け作り ●県（地域本部等）： SNS 等を活用したイベントの周知、イベント内容磨き上げのための支援 				
	いの生姜焼き街道等の取り組み				
<ul style="list-style-type: none"> ●いの町商工会： 町特産品の生姜の認知度の向上及び消費を促すための取り組み、町内飲食店の集客増加に向けた取り組み ●県（地域本部等）： SNS 等を活用した取り組みの周知、産業振興アドバイザーの活用提案等 					
◆町内への開業の誘致	中心市街地での開業者支援・新規開業促進に向けた取り組み				
	<ul style="list-style-type: none"> ●いの町商工会、いの町： 空き店舗活用への家賃補助事業実施、店舗改修補助金、創業補助制度等に関する情報発信及びワンストップ窓口対応 ●県（地域本部等）： 活用可能な補助金メニューの紹介、土佐 MBA 等の講座等の紹介、関係者への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.16 地域産品を活用した冷菓等の製造販売 (いの町)
実施主体	(有)高知アイス
AP への 位置づけ	H22.4月
事業概要	地域特産品であるゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上と販売拡大を図るとともに、生産者の所得向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
冷菓等の販売額	4.9 億円 (H30)	3.73 億円	5.24 億円		6.5 億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販路拡大と販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産体制及び品質管理の強化 (H22～) ・商品開発及び販路拡大 (H22～) ・生産設備の拡充及び直営売店の改修 →H29 産振補助金の活用 (事業費：2,037 万 3 千円) ・県版 HACCP 第 3 ステージの認証取得 (H28) ・ハラール認証の取得を活かしたマレーシア等への販路拡大 ・複数の海外商談会など出展 ・原材料の安定確保に向けた検討 ・産業振興アドバイザーを導入して BtoC 向け web 通販販路開拓を実施 (R3: 5 回) ・ドン・キホーテ (台湾・マレーシア) 向け取引開始 ・新たな搾汁工場の整備 (R3) →事業再構築補助金の活用 ・オンラインショップのリニューアル (R3) →事業戦略等推進事業費補助金の活用 ・動画作成、SNS 広告等の実施 (R4) →事業戦略等推進事業費補助金の活用 	<p>◆観光客や工場見学者などへの販売強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍保管庫の増設、売店の飲食スペース・物販コーナーの増築、工場視察用の窓・見学通路の設置 →H26 産振補助金の活用 (事業費：3,895 万 8 千円) ・高知市内での高知アイスの売店 (Kochi ice cafe よさこい咲都) をオープン (H30) <p>◆新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画「竜とそばかすの姫」、アニメ「怪獣 8 号」タイアップ商品の販売 (R3～R4) ・PB 商品 (ポローニャ de アイス、八剣伝、JAL 国際線、徳島ゆず) 製造開始 (R3～R4) <p><主な成果></p> <p>◆原材料仕入れによる受益者数の増加 H29 14 名 → R4.10 15 名</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料の安定確保 ・人員の確保 ・作業の効率化・DX 化 ・ゆずの栽培管理

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆販路拡大と販売促進	販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)高知アイス： ヨーロッパ・アメリカ等新たな海外市場への販路開拓、営業力強化のための人材確保・育成 ●県（地域本部等）： 商談会等の紹介 				
	新たな搾汁工場の整備・稼働				
	安定的な原料確保の仕組みづくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)高知アイス： 新たな搾汁工場の整備 ●県（地域本部等）： ものづくり補助金等申請支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●(有)高知アイス： 社内農業部門の立ち上げによる自社農場での原料生産及び確保 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案 		
◆観光客や工場見学者などへの販売強化	観光客への販売強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)高知アイス： 売店での新商品・メニューの開発販売、TV等のメディアによる宣伝広告の実施、キャッシュレス化の検討、店舗スタッフ人材育成による店舗の魅力アップ ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案 				
◆新商品の開発	新商品の開発・プロモーション				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)高知アイス： 新商品開発・販売、社内で新商品開発部の立ち上げ検討 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案、商品開発に活用できる助成金等の紹介 				

AP名 (実施地域)	No.17 仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化 (仁淀川町)
実施主体	◎MUKAI CRAFT BREWING(株)、仁淀川町
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	MUKAI CRAFT BREWING(株)が清流仁淀川の水と副原料として地元食材を活用したクラフトビールを製造するとともに、県内外への販路拡大を図りながら、仁淀ブルーのイメージを活かした地域ブランドを確立し、観光交流人口の拡大や地域の活性化に繋げる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
クラフトビール販売額※	－ (R元)	370万円	1,343万円		1,300万円

※ 会計年度：3～2月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆製造及び販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元食材を活用した新たなクラフトビールの製造・販売を起爆剤とし、宿泊施設等の周辺施設を含め地域一体で活性化に向けて取り組むため、集落活動センター「山村自然楽校しもなの郷」を開所（H31.3月） ・集落活動センター推進事業費補助金を活用して、加工施設を整備（R2.3月完成） ・うちんくのビジネス塾の活用（R元.5月～12月:5回） ・酒類製造免許（税務署）及び酒類製造業・飲食店営業（保健所）の営業許可を取得（R2.6月） ・クラフトビールの醸造開始（R2.9月） ・ムカイクラフトブルーイング（醸造設備）と併設された飲食スペース「BLUE BREW（ブルーブルー）」のオープン（R2.11.1） ・県工業技術センターへの成分分析及び官能評価の依頼（R3.12月～） ・集落活動センター「山村自然楽校しもなの郷」で職員を1名雇用（R4.1月～R4.11月） <p>◆積極的な販売促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内外の飲食店で卸販売を開始（R3.4月～） ・ふるさと納税の取扱い開始（R3.5月～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センターのイベント販売（R2：2回、R3：1回、R4：1回） <p>◆ブランド化戦略の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラフトビールの製造・販売を行う MUKAI CRAFT BREWING(株)を設立（R元.7月） ・関係者による開業に向けた定例会を実施し、醸造施設の内外観の検討や販売価格、提供メニュー等を協議（R元.11月～） （関係者・・・MUKAI CRAFT BREWING(株)、仁淀川町、仁淀川町商工会、県） ・おち仁淀川キャンプフィールドでの出張販売（R3.7月、10月） ・R3年度地場産業大賞の「産業振興計画賞」を受賞（R3.12月） ・新商品「89」の販売開始（R4.8月～） ・機関原点商品の販売（R4.9月～） <p><主な成果></p> <p>◆クラフトビールの本格醸造・販売の開始による来店者数の増加（交流人口増） R3：3,498人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産に向けた生産体制の構築 ・安全性の確保や事業化の強化に向けた品質管理と衛生管理の確立

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆製造及び販売体制の強化	生産体制の構築・人人体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●MUKAI CRAFT BREWING(株) : 生産工程の確立、受入体制の強化、新たな人材の確保、連携 ●仁淀川町、県（地域本部等） : 人材確保に向けた関係機関の情報提供（役場、移住施策や地域おこし協力隊など） 				
◆積極的な販売促進活動	各種イベントへの出店（地元イベント、中四国のビールフェスティバルなど）、自社でのイベント開催				
	<ul style="list-style-type: none"> ●MUKAI CRAFT BREWING(株) : イベント出店による情報発信、町内事業者と連携したイベント開催 ●県（地域本部等） : 県内イベントなどに関する情報提供 				
	商談会・フェア等への出店、テストマーケティングの実施など外商活動				
<ul style="list-style-type: none"> ●MUKAI CRAFT BREWING(株) : 県版 HACCP の認証取得、商談会等への出展による販路拡大、テストマーケティング等による販促活動 ●県（地域本部等） : 商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援、県版 HACCP の認証取得に向けた支援 					
◆ブランド化戦略の実践	効果的なプロモーション活動		副原料となる新素材の発掘と新商品開発		
	<ul style="list-style-type: none"> ●MUKAI CRAFT BREWING(株) : コンセプトづくり、戦略的な販売活動の展開 ●仁淀川町 : 地元飲食店での提供促進、観光客誘致のための仕組みづくり、メディアを通じた情報発信 ●県（地域本部等） : 仁淀ブルー観光協議会との連携支援（観光客誘致など）、産業振興アドバイザーの活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●MUKAI CRAFT BREWING(株) : 地域資源の掘り起こし、試作品づくり・商品化の実現 ●県（地域本部等） : 新商品の味覚・官能検査による品質評価など県工業技術センターの活用提案 		
<p>【用語】・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.18 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト (仁淀川町) ※地域産業クラスター関連
実施主体	◎(株)フードプラン、仁淀川町、生産者団体、庭先集荷の農家
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	カット野菜事業を展開する(株)フードプランを仁淀川町での基幹産業として位置付け、事業の継続的な実施と販売拡大によって雇用の確保や農業者の所得向上につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(株)フードプランの販売額※	7.4億円 (R元)	8.2億円	8.5億円	8.8億円	10億円

※ 会計年度：10～9月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産能力の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品加工場の加工用水供給施設を整備（専用水道及び冷却水施設整備）（H21） →H21 産振補助金の活用(事業費 5,417 万 6 千円) 産業振興アドバイザーを導入して、端野菜を活用したスープの製造を検討（H22:4回） 産業振興アドバイザーを導入して、経営戦略の構築、組織運営・経営マネジメントに関するノウハウを習得（H25:8回） 経営分析及び経営戦略の策定（H26） →H26 産振補助金（ステップアップ事業）の活用（事業費 352 万 7 千円） 食品産業総合支援事業費補助金を活用して、機械設備（マスコロイダー）を導入（H29.8月） 生産能力の拡大に向けて新工場を整備（H30.3月） →H29 産振補助金活用(事業費 3 億 1,482 万 1 千円) ものづくり補助金を活用して、高速自動ラベリング計量システムを導入（H30.12月） 衛生管理の強化に向け、県版 HACCP 第 3 ステージの認証を取得（H30.12月） <p>◆販路拡大、商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 四国内のシェアを維持、拡大しつつ、中国・近畿圏への営業強化 県内外の展示商談会への出展 	<ul style="list-style-type: none"> 市場対応商品開発等事業費補助金を活用して、端野菜を活用したドレッシングのレシピを開発(H28.11月) 経営革新等支援事業費補助金を活用して、ドレッシングのランディングページを作成（H28.12月） 産業振興センターの支援を受けて、事業戦略を策定（H30.9月） 野菜洗浄機と窒素充填機の試用（R4） <p>◆原料供給体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内を中心とした野菜生産の仕組みとして、加工用ネギの栽培を開始（R元～） 新工場隣地で農福連携による水耕栽培を検討(R3) 水耕栽培ハウス、休憩施設、トイレを建設（R4） →R4 農山漁村振興交付金、こうち農業補助金の活用（事業費 74,674 千円） <p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>H28：65人（正規11人 パート54人） → R3：92人（正規14人 パート78人）</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 生産性の向上に向けた安定した雇用の確保 近畿、関東圏への販路拡大に向けた輸送ルートの確保や消費期限の延長 産地形成による県内産野菜の安定調達に向けた仕組みづくりの構築、高付加価値商品の開発・販売

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産能力の拡大	製造ラインにおける生産性の向上、品質管理の徹底				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)フードプラン：製造部門における現場管理の強化や設備の導入による生産性の向上、需要に対応するための工場稼働時間の検討、人員体制の強化 ●仁淀川町：人材確保に向けた情報提供（移住施策、地域おこし協力隊など） ●県（地域本部等）：ものづくり補助金などの活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆販路拡大、商品開発	四国内販路の維持拡大、近畿圏、関東圏への販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)フードプラン：商談会等への出展や営業活動の展開、物流手段の確保、消費期限延長の検討 ●県（地域本部等）：商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援 				
	端野菜を活用した高付加価値商品の開発・販売				
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)フードプラン：ドレッシングの新商品開発・販売、ご当地メニューを活用した観光振興 ●仁淀川町：ご当地メニューを活用した観光客誘致のための仕組みづくり、メディアを通じた情報発信 ●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、6次産業化セミナー等の支援制度に関する情報提供 					
◆原料供給体制の強化	町内を中心とした原料供給体制の強化				
	農福連携による水耕栽培施設の検討・整備・運営				
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)フードプラン：町内生産者と連携した加工用ネギの栽培、生産者の拡大、町内を中心に栽培できる新たな品目の可能性の検討 ●清流ファーム合同会社：水耕栽培施設の検討や、円滑な整備・運営 ●県（地域本部等）：農業改良普及所による栽培指導、町内を中心に栽培できる新たな品目の可能性の検討、各種支援制度に関する情報提供 					
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.19 仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進 (仁淀川町)
実施主体	◎(株)ビバ沢渡、◎(株)池川茶園、◎トトレ(株)、仁淀川町
APへの位置づけ	H28.9月
事業概要	仁淀川町の基幹品目である茶をはじめとした農業者の経営持続を図るため、農産物の高付加価値化を進め、6次産業化の推進を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) (株)ビバ沢渡の販売額※1	5,200万円 (H30)	5,630万円	6,260万円		1億円
(2) (株)池川茶園及びトトレ(株)の販売額※2	4,700万円 (H30)	4,870万円	5,140万円		5,000万円

※1 会計年度：2～1月 ※2 (株)ビバ沢渡の会計年度に合わせて集計

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆(株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザー制度の活用 <ul style="list-style-type: none"> →事業拡大に向けた拠点施設の検討 (H26:5回) →事業拡大に向けた組織体制を強化 (R元:3回) →経営改善計画の策定 (R4:10回) 農林水産物加工商品開発支援アドバイザー制度の活用 <ul style="list-style-type: none"> →拠点施設で提供する商品開発 (H26:2回) 拠点施設 カフェ「茶農家の店 あすなろ(本店:仁淀川町内)」をオープン (H30.3月) <ul style="list-style-type: none"> →H29産振補助金の活用(事業費4,400万円) 沢渡茶を活用したドリンクを提供する新規店舗オープン <ul style="list-style-type: none"> 「CHA CAFE ASUNARO 沢渡茶 2号店(高知市鳶屋書店内)」(H30.12月～R4.9月) 「CHA CAFE ASUNARO 沢渡茶 3号店(帯屋町)」(R元.11月～R2.10月末) 加工品製造の拠点施設を整備 <ul style="list-style-type: none"> →R3産振特別支援補助金の活用(事業費1,400万円) <p>◆茶等を原料とした6次産業化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 高知商業高校、城西館、(株)ビバ沢渡が連携して、新商品の「グローバルバウムクーヘン」を開発 (H30.10月) 県内外での商談会展出やイベント等への出店 (H28～) ビバ沢渡がお茶を使ったミルクジャム「SAWATARICHAJAM」を開発 (R元.4月) 	<ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザー(課題解決型)を導入して、(株)ビバ沢渡の新商品開発を実施 (R2:3回) <ul style="list-style-type: none"> →「土佐のさわたり生茶漬け」を開発・販売 (R2.9月～) 「沢渡茶ようかん」を開発・販売 (R3.9月～) サンシャイン、菊水酒蔵との共同開発商品の販売 <ul style="list-style-type: none"> 「ほうじ茶ラテ風味リキュール」(R4.5月～) 「紅茶ラテ風味リキュール」(R4.12月～) 「高知の魅力発信プロジェクト」(高知銀行)により、「茶畑ティラミス濃かぶせ茶」の商品改良、販売 (R4.10月～) <p>◆後継者及び担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内の茶生産者が連携して茶の収穫、茶畑の管理に取り組み、地元雇用が拡大 <p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>H28:12人(正規3人 パート9人) → R3:44人(正規10人 パート34人)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ブランド化の確立に向けた情報発信の推進 産業を持続させるための後継者及び担い手の確保 町全体の体験型観光の推進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆茶等を原料とした6次産業化の推進	基幹品目である茶等を原料とした商品の開発・改良				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園、トトレ(株)： 新商品開発、店舗で提供する飲食等新メニューの開発、商品改良、商品化の実現、新たな加工品製造拠点の検討・整備 ●県（地域本部等）： 新商品開発や既存商品のブラッシュアップへのアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	戦略的な販売活動による仁淀川町産ブランドの確立と展開				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園、トトレ(株)： 物販機能の強化、商談会等への出展による販路拡大、イベント出店による情報発信、県版 HACCP の認証取得、地域ならではのストーリー性を持った商品の展開と顧客への訴求、マスコミを通じた PR ●県（地域本部等）： 商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援 				
◆(株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化	さらなる店舗展開に向けた検討（県内外）		持続可能な経営基盤の確立・強化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ビバ沢渡： 候補地の検討、資金準備、店舗展開に向けた人材育成マニュアルの作成 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ビバ沢渡： 経営改善計画の策定・実践 ●仁淀川町、県（地域本部等）： 人材確保に向けた関係機関の情報提供（移住施策や地域おこし協力隊など）、体制強化などに関する産業振興アドバイザーの活用提案 		
◆後継者及び担い手の確保・育成	事業拡大に向けた人員体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園、トトレ(株)： 町内の茶生産事業者及び地域住民との連携による労働力の確保 ●仁淀川町、県（地域本部等）： 人材確保に向けた関係機関の情報提供（役場、移住施策や地域おこし協力隊など） 				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.20 さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進 (佐川町)
実施主体	◎(有)吉本乳業、地元商工業者、地元酪農家、佐川町商工会、佐川町、JA 高知県 (仁淀川地区)
AP への 位置づけ	H21.4 月
事業概要	佐川町の特産である「さかわの地乳(ぢちち)」を使い、地元の事業者が特長のある商品づくりを行うとともに、販売促進のための仕組みを構築することで地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
牛乳類商品販売額※	1.06 億円 (R 元)	1.1 億円	1.18 億円	1.15 億円	1.57 億円

※ 会計年度：8～7月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農商工連携による地乳の販売促進に向けた「さかわの地乳プロジェクト推進会議」を設置 (H22.7 月) ・産振補助金を活用し、地乳 PR 用広報・販促物を整備 (H22、23) ・地乳商品認定要綱を策定し、25 品目の商品を「ぢちちブランド」として PR 開始 (H26～) ・佐川ものづくり支援事業補助金を活用し、地元農産物等を使った加工品の開発 (H27～30:7 件) ・さかわ地乳まつりの開催 (H27～) ・畜産アドバイザーを導入して、地乳を活用した加工品開発や販促活動について協議 (H26、H27:2 回) ・産業振興アドバイザーを導入して、地域資源を活用した効果的なイベント展開を検討 (H28:3 回) ・地元高校生と連携した新商品開発及び PR イベントの実施 (H28～) <p>◆牛乳加工施設の整備及び販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業を活用して製乳設備を増設 (H26) ・HACCP アドバイザーによる現地指導を実施 (H28:1 回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・産振補助金を活用し、さかわの地乳製造施設を整備 (H28) ・地乳製品の販路開拓・販売拡大に向けた商談会への出展 (H29～) ・高知県地域産品地産地消推進事業費補助金を活用した宅配キャンペーンの実施 (R3) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地乳ブランド PR イベント (さかわの地乳祭り) の開催 H27～R 元：4 回 ◆地乳ブランド販促物の作成 H22～30：4 種類 ◆宅配キャンペーンによる新規成約件数 R3：34 件 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地乳を活用した新商品の開発及び商品の PR 強化 ・地乳ブランド確立に向けた推進体制強化 ・持続可能な経営基盤の確立・強化 ・衛生管理体制の強化 ・販路拡大に向けた商談会等での販売促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進	さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の磨き上げ・開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、佐川町商工会、地元商工業者等：加工品の開発及び磨き上げ ●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討 				
	販売促進の体制強化、地乳ブランドのPR強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●地乳プロジェクト推進会議、佐川町、佐川町商工会、地元商工業者等：町内事業者への積極的な参画の呼びかけによる推進体制の強化、宣伝方法の検討、販促物の作成、地乳PRイベント等の開催 ●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆牛乳加工施設の体制整備及び販路拡大	持続可能な経営基盤の確立・強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)吉本乳業：県版 HACCP 新第1ステージの認証取得に向けた社内体制の構築 ●佐川町、佐川町商工会、県(地域本部等)：各種支援制度に関する情報提供 			衛生管理体制の強化	
				<ul style="list-style-type: none"> ●(有)吉本乳業：県版 HACCP に基づく衛生管理手順の遵守、経営改善等の検討 ●佐川町、佐川町商工会、県(地域本部等)：各種支援制度に関する情報提供 	
	県内での消費拡大・県外量販店等への販路拡大				
<ul style="list-style-type: none"> ●(有)吉本乳業、地元商工業者：積極的な商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ●佐川町、佐川町商工会、県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し 					
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト (佐川町)
実施主体	◎佐川町、(一財)しあわせづくり佐川
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	佐川町の地域食材を活用した食と町民によるおもてなしの心を表す「ご馳走」をコンセプトとした道の駅を新たに整備し、特産品等の販売を促進するとともに、地域の木材に触れられる場の提供や周辺の観光施設との連携を通じて、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 年間売上高	—	—	—	—	2.5億円
(2) レジ通過者数	—	—	—	—	25万人



これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆道の駅施設の整備、体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町道の駅検討委員会で建設候補地等を検討 (H28～29) ・道の駅建設候補地の絞り込みと決定 (H30～R元) ・関係者等の参画による、道の駅基本構想策定ワークショップを実施 (R元：6回) ・佐川町道の駅基本計画策定委員会の開催 (R2：3回) ・「まきのさんの道の駅・佐川」基本設計書策定のための住民説明会・ワークショップ (R2～3：4回) ・「まきのさんの道の駅・佐川」実施設計業務の実施 (R3) ・運営組織「一般財団法人しあわせづくり佐川」設立 (R3) ・農山漁村振興交付金を活用した施設整備 (R3～4) ・産業振興アドバイザー制度を活用した事業計画書、収支計画書の策定 (R3) ・産振補助金を活用した施設整備 (R4) ・地方創生交付金、地域観光振興交付金を活用したおもちゃ美術館の整備 (R4) ・おもちゃ美術館学芸員養成講座の実施 (R4～) 	<p>◆佐川町の特産品等の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町商品開発ワークショップを開催 (R2：5回) ・商品開発ブラッシュアップ事業 (R2～) ・産業振興アドバイザー制度を活用した道の駅オリジナル商品の開発 (R4～) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆関係者によるワークショップを基に、道の駅基本構想を策定 (R元) ◆道の駅基本計画策定委員会での協議を通じ、道の駅基本計画を策定 (R2.8月) ◆住民説明会・ワークショップでの意見を基に、道の駅基本設計書を策定 (R3.6月) ◆地域資源を活用した商品・メニュー開発 R2～3：14品 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅本体やおもちゃ美術館などの整備エリア一帯の円滑な整備 ・町全体の賑わいの創出につながる仕組みづくり ・地域資源を活用した魅力ある商品等の磨き上げ・開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆道の駅施設の整備、体制強化	道の駅施設の整備検討・施設整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 基本計画策定、地盤調査、基本設計及び実施設計の策定、施設整備 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー及び産業振興総合補助金の活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆佐川町の特産品等の充実強化	運営体制の検討・確立			運営体制の充実・強化	
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 運営管理者の検討及び運営体制の確立、地元との協議、道の駅登録調整 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 			<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、（一財）しあわせづくり佐川： 取扱商品やメニューの充実等による物販・飲食・観光機能の強化 スタッフのスキルアップ等による人的体制の強化 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 	
◆佐川町の特産品等の充実強化	物販・飲食・体験型観光メニューの磨き上げ及び開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、（一財）しあわせづくり佐川： 町内商工業者等との連携による地域資源を活用した商品・メニューの磨き上げ及び開発、町内関係機関との連携による観光客の町内周遊に向けた仕掛け作り ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討、各種支援制度に関する情報提供 				
				道の駅を核とした販売促進	
				<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、（一財）しあわせづくり佐川： SNS、メディア等を活用した情報発信 ●県（地域本部等）： 県のメディアサイト等での情報発信、産業振興アドバイザーの活用提案 	
<p>【用語】 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.22 「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化 (日高村) ※地域産業クラスター関連 (日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(株)村の駅ひだか、日高村
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	「村の駅ひだか」での地域農産物や地域資源を活用した加工食品、手工芸品など村内特産品の販売等により、地域商業の振興を図り、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 直販市の販売額	2.11 億円 (R 元見込み)	2.14 億円	2.02 億円		2.15 億円
(2) レジ通過人数	19 万 1 千人 (R 元見込み)	18 万 1 千 人	17 万 4 千 人		19 万 4 千人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆直販市の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さんさん市施設整備計画策定 (H24) ・産業振興アドバイザー事業を活用し、運営体制等を検討 (H25:5 回、H26:5 回) ・さんさん市施設の拡充整備 (H25~26) (直販所に加えて、観光情報発信コーナー、喫茶店、厨房・イートインコーナーを新設) →H25 産振補助金の活用 (事業費 1 億 7,016 万円) ・公募により駅長 (支配人) を採用 (H26) ・運営母体となる第三セクターを設立し、「村の駅ひだか」をオープン (H26) ・四季を通じたイベントの開催 (H27~) ・駐車スペース拡大により 47 台分を確保 (H27~28) ・年間売上 2 億円を突破 (H28~R2) ・レンタサイクルの設置 (H29) ・地方創生拠点整備交付金の活用により増床工事を行いリニューアルオープン (H29) ・加工品 (弁当、菓子等) の品揃えを強化 (R2) ・駐車スペースの拡大 (大型車 5 台、普通車 26 台分) (R3~R4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆雇用の創出 H25 : 7 名 (正規 1 名 パート 6 名) →R3 : 10 名 (正規 1 名 パート 9 名) ◆「村の駅ひだか」としてリニューアルオープンし、特産品のトマトをはじめとする、地域ならではの商品を前面に出した売り場づくりや地域住民のための毎日買えるワンストップ店舗づくりに取り組んでおり、オープン以降売上が好調。R4.9 月にはオープンからの来客者 (レジ通過) 数 150 万人を達成した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生法改正への対応 ・安定した直販市の運営 (商品の品揃えの充実や出荷体制の確立)

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆直販市の機能強化					
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)村の駅ひだか： <ul style="list-style-type: none"> 出荷者部会の会合での商品・月別売上分析や取り組み内容の検討、視察研修の実施 				
					
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)村の駅ひだか： <ul style="list-style-type: none"> 定期的な新商品の販売、運営等検討会の開催、四季を通じたイベントの開催による集客 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 運営等検討会への参画、産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.23 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進 (仁淀川地域全域)
実施主体	◎(一社)仁淀ブルー観光協議会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、 (一社)土佐市観光協会、(一社)いの町観光協会、仁淀川町観光協会、(一社)さかわ観光協会、 越知町観光協会、(一社)日高村観光協会
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ファンの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 宿泊者数	6.5万人 (R1)	4.3万人	5.2万人		6.6万人
(2) 入込客数	108.6万人 (R1)	85.4万人	88.2万人		111.8万人
(3) 観光消費額	1,248百万円 (R2)	1,248百万円	1,391百万円		2,102百万円
(4) 来訪者満足度	98% (R2)	98%	98%		98%
(5) リピーター率	46% (R2)	46%	44%		50%
(6) 仁淀ブルー観光協議会 関連のツアー送客数※	6,671人 (H30)	1,985人	1,275人		—

※(6)はR4年度以降、指標から除く。

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆魅力づくりの強化・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀ブルーDMOアドバイザーの支援等による、事業者等の商品造成を支援 ・仁淀ブルー体験博の実施 (R3~R4) <p>◆プロモーション・情報発信の強化・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外メディアの活用や看板掲出、SNS等によるPRを実施 ・県外の展示会やイベント等への出展 ・旅行会社との商談会等のセールス活動を展開 (H23~) ・流域の観光ガイドブック「NIYODO BLUE!」を作成(H28~) ・ホームページの充実化 (H29:スマートフォン対応、H30:OTA(じゃらんネット)との連携) <p>◆受入・おもてなし体制の整備強化・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光関連事業者等を対象とした研修の実施 ・クルーズ船の寄港に合わせて高知新港での観光PRを実施 (H29~) <p>◆6市町村連携による広域観光の強化・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川地域観光協議会を設立 (H22.11月) ・(一社)仁淀ブルー観光協議会を設立 (H27.12月) ・第2種旅行業登録 (H28) ・仁淀川地域観光振興計画の策定 (H29.3月) ・仁淀ブルーDMO観光戦略の策定 (H30.3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仁淀ブルーDMO観光戦略実行ワーキングの実施(H30~) ・マーケティング機能の強化(ウェブサイトデータ解析、ウェブアンケートシステムの構築) (H30) ・マーケティング機能強化に向けた県版地域おこし協力隊の配置 (R2~) ・第2期仁淀川流域広域観光振興計画の策定 (R3.12月) <p>◆インバウンド観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社との商談会等のセールス活動を実施 ・ホームページの充実化 (R2:多言語サイト作成) ・簡易型ガイドブックの多言語化 (H30) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆日本版DMO登録 (R2.3月) ◆仁淀ブルー観光協議会関連のツアー催行数 H28:181本、H29:207本、H30:241本、 R元:272本、R2:78本、R3:81本 ◆仁淀ブルー体験博 (R3):33プログラム、422人参加 (R4):53プログラム、533人参加 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川及び流域市町村の全国的な認知度のさらなる向上 ・観光客のさらなる周遊促進による観光消費の拡大 ・協議会のマーケティング機能及び市町村連携のさらなる強化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆魅力づくりの強化・推進	仁淀川流域らしい商品開発と品揃え強化		滞在型観光化の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会：宿泊施設等との連携による周遊促進、地域資源や地域がモデルとなったアニメやNHK連続テレビ小説「らんまん」等を活用した周遊促進のための導線づくり ●市町村・観光協会：地域資源や地域がモデルとなったアニメ等を活用したコンテンツの磨き上げ・開発・スタートアップ支援 				
◆プロモーション・情報発信の強化・推進	消費を増やすための流通と販売の強化		特産品や食の観光化の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●市町村・観光協会：地域資源を活用した「特産品」や「食」の磨き上げ・開発支援 				
◆受入・おもてなし体制の整備強化・推進	誘客促進のためのセールス・プロモーション		旅行会社へのプロモーション		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会：関西・中国・四国のメディア系旅行会社を中心としたプロモーション 				
◆6市町村連携による広域観光の強化・推進	流域の魅力的な情報提供力の強化		メディアやマスコミを活用した情報発信の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会：SNS等を活用した関西・中国・四国へのPR、観光ガイドブック等を活用したPR、県内外のマスメディアへの情報発信、地域がモデルとなったアニメ等を活用したプロモーション 				
◆インバウンド観光の推進	受入・おもてなし体制の整備		観光の担い手確保・育成の強化、情報ネットワーク化推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会：地域の担い手確保や域内事業者等のスキル向上等のための機会創出、観光客等の情報を一元化する体制の整備と活用できる仕組みの構築 ●県：県が主催する研修会等の人材育成事業の紹介、参加支援 				
◆インバウンド観光の推進	組織体制・連携強化		マーケティングデータ収集の強化、関係機関等との連携強化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会：来訪者の実態調査・分析、関係者とのPDCA推進 ●県：マーケティングデータの提供、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援 				
◆インバウンド観光の推進	※R2, 3は、上記の項目内で実施していた取組を新たに項目立て。		魅力づくりの推進、受入に必要な環境や体制の整備		
			<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会：ニーズに沿ったコンテンツの磨き上げ・開発、HPの多言語対応、Wi-Fi・キャッシュレス対応など、受入体制の整備を推進 		
◆インバウンド観光の推進			プロモーションの推進		
			<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会：デジタルメディアを中心としたプロモーションの推進 		

【用語】 観光地域づくり法人（DMO）：DMOは、「Destination Management/Marketing Organization」の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域の誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。観光庁が登録を所管。

AP名 (実施地域)	No.24 土佐市における体験型観光と食観光の推進 (土佐市)
実施主体	◎(一社)土佐市観光協会、土佐市、宇佐ホエールウォッチング協会、土佐市ドラゴンガイドチーム
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	地域の観光や食の資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。また、R5年度に開催する体験博に向けて体験型観光を担う事業者の掘り起こしを行うことで、土佐市のさらなる魅力発信につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
体験型・食観光における入込客数	2,143人 (H30)	1,555人	1,279人		5,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域資源を活用した旅行商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社向けのモニターツアーを実施 (H23～R1 : 8回) ・鯉節工場見学の旅行商品化(H25～) ・クルージング体験の実施(H26～) ・ホエールウォッチング・クルージングパンフレットの作成 (H29.3月) 外国語版 (R2.1月) ・土佐市観光パンフレット (きもち、いいとさ) 作成 (R元.9月) ・宇佐土曜市を活用した、着地型体験プランとして「宇佐スーパー土曜市」を開催 (H22～26 : 年1回) ・産業振興アドバイザーを導入し、塚地坂を中心とした青龍寺周辺の観光ガイド育成(H29 : 5回) ・観光ガイド団体の設立(R元.12月) ・土佐市の特産品を活用したギフト商品の開発 (H30.3月) ・B級グルメ「土佐のぶしめん」の開発 (R元.5月) ・「うさまちあるき」の商品化 (R元) ・産業振興アドバイザーを導入し、観光ガイドチームのスキルアップ研修を実施(R2 : 5回) ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加 (R3～) ・博覧会事業に連動したガイド養成と観光マップの作成 (R4.11月～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域資源を活用した体験メニューの定着 ・ホエールウォッチング体験者数 H28 : 2,436人 → R4 : 1,460人 (11月末時点) ・クルージング体験者数 H28 : 22人 → R4 : 0人 (11月末時点) ・観光ガイド育成 H29:4人 → R4 : 5人 (11月末時点) ・ガイド件数 H28 : 1件11人 → R4 : 4件42人 (11月末時点) ・R2、R3年度に開催予定だった体験博は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 ・狩猟体験のツアー実施 →R3 : 10人 R4 : 1/14 (悪天候のため中止) ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加 →R3 : 6メニュー42人 R4 : 7メニュー72人受入 ・フォトロゲイニング開催による県内外観光客の誘客 →49チーム 151名受入 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイド事業拡大のためのさらなるガイドの増員と育成 ・ホエールウォッチングの船頭の確保 ・感染症対策に配慮した観光客の安心安全な受入れ ・ユニバーサルツーリズムやE-バイク事業等による新たな層の観光客の獲得

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆地域資源を活用した旅行商品化	地域資源の掘り起こし及び活用による商品化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 既存観光商品のブラッシュアップ、地域ならではの特性を活かした体験型観光ギフト商品の新規開発（R2：1種類、R3：1種類） 海鮮BBQのイベント実施（R2～） ガイド事業拡大に向けた取り組み（新規ガイド育成、ガイドコースの追加） 広報でのイベント情報の発信（通年） 地域食材を活かした体験型観光 ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 地域資源活用及びガイド事業に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供（通年） 				
	関係機関と連携した観光商品開発及びツアー客の受入				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 仁淀ブルー観光協会、近隣市町村、観光関係機関と連携した観光商品の開発（通年） 二次交通機関（バス会社、タクシー会社等）と連携した観光商品の検討（通年） 個人旅行者をメインターゲットとする商品の企画開発（通年） 観光商談会への参加や旅行会社へのセールス HP・SNSの活用による情報発信の強化（通年） ●土佐市： <ul style="list-style-type: none"> 広報によるイベント情報の発信（通年） イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ（通年） ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介 その他、各種支援制度及び観光商談会に関する情報提供（通年） 				
	体験博の開催				
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 事業者との連携による体験博の開催及び情報発信 ●土佐市： <ul style="list-style-type: none"> 広報による体験博の情報発信、体験博開催のバックアップ ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案 					
体験博開催に向けた体験型商品のブラッシュアップ及び新たな商品の開発検討					
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 体験博開催に向けた新規体験メニューの発掘 ●土佐市： <ul style="list-style-type: none"> 広報に関するイベント情報の発信（通年） イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ（通年） ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案（通年） 					

AP 名 (実施地域)	No.25 観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化 (土佐市)
実施主体	◎ 特定非営利活動法人新居を元気にする会等、土佐市
AP への 位置づけ	H24. 4月
事業概要	土佐市の新たな地域振興や情報発信の拠点として整備した観光交流施設「南風」を中心として、地域住民が主体となった、新居地区における交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
施設来客者数	19.2 万人 (H30)	15.4 万人	14.4 万人		24 万人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆ 観光客等の交流人口を増加させるための仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災施設を備えた複合施設について検討会の実施 (H24～25 : 6 回) ・観光交流施設の安定的な運営に向けた協議 (H26～29 : 39 回) ・産業振興アドバイザーを導入し、施設の運営方針を決定 (H27 : 7 回) ・観光交流施設「南風」(1F 直販所、2F カフェ) オープン (H28.4 月) ・産業振興アドバイザーを導入し、直販所の魅力向上に向けて、商品配置・レイアウトの改善を実行(H28 : 1 回) ・運営主体である NPO 組織の誘致により、旧「南風の郷」跡地に、海鮮 BBQ「土佐のかき小屋」オープン (H29.4 月) ・産業振興アドバイザー制度を導入し、3 店舗合同イベントの開催を検討(H29 : 5 回) ・直販所・カフェ・かき小屋 3 店舗が連携したイベント(ごちゃ南風フェス)を開催(H29 : 2 回) ・NPO 組織が主体となった集客イベントの開催 豊穰祭 (H29.10 月) 土佐文旦フェア (3 月) 周年祭 (4 月) スイカメロンフェア (6 月) 等 キッチンカーフェス (R3.10 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・酒類の販売開始 (R 元.10 月～) ・直販所事業戦略策定セミナーへの参加 (R2 : 5 回) <p><主な成果></p> <p>◆ イベント来場者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイカメロンフェア (R2) : 2,268 人 / 3 日間 (R3) : 4,967 人 / 2 週間 (R4) : 1,800 人 / 2 日間 (イベントはせず販売のみ) ・キッチンカーフェス (R3) : 506 人 <p>◆ 施設販売額の増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1F 直販店 H28 2,836 万円 → R4 2,639 万円 (R4.11 月末見込み) ・2F カフェ H28 2,100 万円 → R4 1,320 万円 (R4.11 月末見込み) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な集客イベントを開催するための体制の確立 ・継続的な集客につなげるための店舗の魅力づくり、品揃えの充実、情報発信 ・イベント開催、施設運営のための新たな人材の確保 ・緑地公園来園者の施設への誘致

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光客等の交流人口を増加させるための仕組みづくり	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">定期的な集客イベントの開催</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●特定非営利活動法人新居を元気にする会： <ul style="list-style-type: none"> イベント開催の実施体制の確立 新居緑地公園を含めたイベントの開催 仁淀ブルー観光協議会、土佐市観光協会と連携した誘客策の検討 インバウンド対応策の検討（クルーズ船来港に合わせたイベントの実施等） ●土佐市： <ul style="list-style-type: none"> 広報でのイベント情報の発信 ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> イベント開催その他観光客誘致策に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">継続的な集客につなげる施設づくり</div>				
<ul style="list-style-type: none"> ●特定非営利活動法人新居を元気にする会： <ul style="list-style-type: none"> 地域農家、仕入れ先との良好な関係構築による、魅力ある商品の提供 3店舗が連携した魅力ある施設づくりの検討 SNSを活用した情報発信 ●土佐市： <ul style="list-style-type: none"> 施設運営に関する支援。広報でのイベント情報の発信 ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 施設運営に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 					
<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">施設の安定運営・地域と連携した新たな人材の確保</div>					
<ul style="list-style-type: none"> ●特定非営利活動法人新居を元気にする会： <ul style="list-style-type: none"> 地域住民と連携した人材の発掘及び育成 ●土佐市： <ul style="list-style-type: none"> 広報を活用した人材の呼びかけ ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供 					

AP名 (実施地域)	No.26 酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化 (土佐市)
実施主体	◎酔鯨酒造(株)、土佐市
APへの位置づけ	H29.4月
事業概要	酔鯨新工場を核とした体験型交流事業を推進することにより、交流人口の拡大につなげ、観光の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
施設来客者数	6,000人 (R元見込み)	4,752人	6,026人		7,200人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆見学体験施設等を活用したメニューの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・醸造棟施設の整備開始 (H29.9月) ・「土佐蔵」操業開始 (H30.9月) ・工事進捗状況、新工場の雇用に関する協議 (H29～30:4回) <p>◆受入態勢づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設活用方法に関する協議 (H29～R3:7回) ・工場見学、併設ショップでの物販、有料試飲開始 (H30.11月) ・併設カフェ「SUIGEI SAKE LAB CAFE」オープン (H31.4月) <p>◆誘客の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒蔵見学のネット予約開始 (H30.11月) ・ウッドデッキを活用したファンイベントの開催予定だったがコロナウイルス感染症の影響により中止 (R2.3月) ・ウッドデッキを活用したファンイベントの実施 (R3.4月) ・カフェの新メニューの定期的な展開 (通年) ・インフルエンサーを活用したSNSでの広報の開始 (R3) 	<p><主な成果></p> <p>◆ショップ・カフェ売上額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30:417万円 (H30.11月～31.3月) ・R元:1,549万円 (H31.4月～R2.3月) ・R2:1,295万円 (R2.4月～R3.3月) ・R3:1,757万円 (R3.12月末見込み) ・R4:1,673万円 (R4.11月末見込み) <p>◆蔵見学ツアー受入実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3:8件133人 (R3.12月末時点) ・R4:17件128人 (R4.11月末時点) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな受入メニューの開発・実施 ・二次交通機関と連携した県外観光客の誘客 ・地域と連携したイベントの開催 ・コロナ収束後の観光客の誘客

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆見学体験施設等を活用したメニューの提供	<p>新たな受入メニュー、併設カフェでの新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 酔鯨酒造(株) : 新たな受入メニューの開発 併設カフェの新商品開発 ● 土佐市 : 事業者の円滑な事業推進のための協力、イベント企画の検討 ● 県(地域本部等) : 体験メニュー及び商品の開発に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度及び展示会・商談会に関する情報提供 				
◆受入態勢づくり	<p>関係事業者と連携した受入態勢づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 酔鯨酒造(株) : 新たな体験メニューの開発検討 観光客誘致のための関係事業者との連携 ● 土佐市 : 受入態勢づくりに関する情報提供及び助言 ● 県(地域本部等) : 受入態勢づくりに関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆誘客の推進	<p>酔鯨ブランドを活用した誘客策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 酔鯨酒造(株) : 酔鯨の既存顧客をターゲットにしたイベントの開催(ウッドデッキの活用) (R2~) 地域事業者と連携した地域食材を活用したイベントの開催 インバウンド対応の検討 ● 土佐市 : 事業者と連携したイベントの企画、広報での情報発信 ● 県(地域本部等) : 誘客に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案 各種支援制度に関する情報提供(通年) 				

AP名 (実施地域)	No.27 いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進 (いの町)
実施主体	◎(一社)いの町観光協会、いの町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	仁淀川の美しい自然、土佐和紙の歴史、古い町並みなど、いの町の持つ魅力を活かして体験メニューや土産品づくりを進めるとともに、季節ごとの特色あるイベントを開催することで交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 体験参加人数	27,541人 (H30)	14,489人	18,542人		30,100人
(2) 体験メニュー売上高	5,175万円 (H30)	3,207万円	3,835万円		5,931万円
(3) 主要観光施設入込客数	374,801人 (H30)	296,598人	360,649人		415,800人

これまでの主な動き

<これまでの取り組み内容>

◆体験メニューの販売促進

- ・体験メニューによる観光客の受入体制の強化
→にここ館で「仁淀川手ぶらでBBQ」の開始 (H24)
→ラフト等備品拡充、サイクリング備品整備 (H28)
→クリアカヌー、BigSUP 3艇導入 (H30)
→くらうど体験アクティビティ用施設改修 (R2)
→ライフジャケット、ヘルメット、パドル、カヤック等整備 (R2)
- ・産業振興アドバイザー事業の活用 (H30:2回、R元:3回) →にここ館改修にかかる体験メニューの磨き上げ
- ・食を絡めたまちあるき(生姜収穫体験) (R元.11月～)
- ・グリーンパークほどのでの新たな体験メニュー(石釜で作る!焼きドーナツ作り、手ぶらでBBQ)の受入開始 (R2～)
- ・グリーンパークほどの HPリニューアル (R3～)
- ・映画「竜とそばかすの姫」公開記念・紙の博物館限定和紙フアイル作り体験 (R3.8月～R4.3月)
- ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加 (R3～)
- ・まちあるきガイドくらぶによる「いの町おいしいまちめぐり」マップ作成 (R4)
- ・産業振興アドバイザー事業の活用 (R4:3回) →グリーンパークほどのの更なる観光客増に向けた魅力向上による地域活性化について

◆イベント等の開催

- いの町紙のこいのぼり、“en”～灯りと自然と音楽と～、グリーンパークほどの梅もぎ体験、銀橋マルシェ、仁淀川神楽と鮎と酒に酔う、仁淀川国際水切り大会、Kami祭、かみのひなまつり、
- ・仁淀川流域6市町村を自転車で駆け抜けるイベントの開催(高知仁淀ブルーライド) (H30～)
- ・自転車レースを中心にカヌー等を組み合わせたイベントの開催(BIKELORE in NIYODO BLUE) (R2.11月)

◆地域産品の販売促進

- ・観光協会によるいの町特産品オンラインショップ (R2～)

◆外国人観光客の受入体制整備

- ・いの町観光協会が外国人観光案内所カテゴリー1を取得 (R元.8月)
- ・いの町観光協会のWi-fi環境等の整備 (R2.3月)

<主な成果>

- ・カヌー、ラフティング備品の拡充(クリアカヌー、BigSUP)が利用客増につながった。
⇒R3 利用人数 カヌー・ラフティング 3,933人
レンタサイクル: 380人
- ・グリーン・パークほどの×mowcandleキャンドルプラン販売開始(併せてPR動画も配信開始)

<課題>

- ・各主要観光施設毎の利用者動向分析及び対応策の検討
- ・天候に左右されない体験メニュー開発

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 体験メニューの販売促進	既存の体験メニューの磨き上げと新たな体験メニューの開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、(一社)仁淀ブルー観光協議会、(株)ソラヤマいしづち： まち歩き等体験メニューの磨き上げ、地域の特産品と絡めた新たなコースづくり、事業者間の連携強化促進 ●県(地域本部等)：メニューづくりへのアドバイスを得るための産業振興アドバイザー制度等の活用提案、補助金メニューの紹介 				
	新たな体験メニューのPR				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、(一社)仁淀ブルー観光協議会、(株)ソラヤマいしづち： 都市圏での物産観光展示会・インバウンド商談会等でのPR、海外メディア等へのPR、SNS等を活用した体験メニューの周知 ●県(地域本部等)：広報支援 				
◆ イベント等の開催	にここ館の整備	にここ館の安定的な運営			
	<ul style="list-style-type: none"> ●いの町、(一社)いの町観光協会： 施設整備及び備品の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ●いの町、(一社)いの町観光協会：運営支援 ●県：広報支援、施設運営等に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案 			
◆ イベント等の開催	紙のこいのぼり等地域資源を生かしたイベントの開催				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、いの町、(株)ソラヤマいしづち： イベント内容の磨き上げ、イベント来場者に向けたいの町の魅力発信、SNS等を活用したイベントの周知 ●県(地域本部等)：補助金メニューの紹介、広報支援 				
◆ 地域製品の販売促進	既存商品のイベント出店及び商談会等参加による販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、いの町： れんけいこうち日曜日出店事業への参加、県内外での商談会参加、SNS等を活用した地元製品のPR ●県(地域本部等)：商談会等の紹介、広報支援 				

AP 名 (実施地域)	No.28 いの町本川地区での山岳観光の推進 (いの町)
実施主体	◎いの町、◎(一社)いの町観光協会
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	木の香温泉や山荘しらす、木の根ふれあいの森を拠点とし、他の観光施設や民間企業と連携して、UFO ラインと呼ばれる石鎚山系の景観や山岳資源を生かした体験メニューを観光客や山歩き愛好者に提供することで、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
道の駅木の香温泉・山荘しらす・木の根ふれあいの森の利用者数	52,705 人 (H30)	38,494 人	52,385 人		61,500 人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆観光施設(道の駅木の香温泉、山荘しらす、木の根ふれあいの森)と連携した体験型観光の推進と施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史観光資源等強化学業費補助金を活用して、道の駅木の香へ登山初心者へのレンタル用品を整備 (H29～) ・観光拠点整備事業費補助金を活用して、道の駅木の香へ BBQ 等体験メニューのレンタル用品整備 (H30～) ・山荘しらすリニューアル (R3.4) <p>◆新たな体験資源を活用した体験メニューの検討と商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UFO ライン周辺でのライブカメラの設置 ・UFO ラインなど地域資源を活用した旅行商品の造成・販売 (H30～) ・UFO ラインを中心とした山のガイドをする山の案内人の育成及び組織の設立 →H30 頑張る人づくり事業費補助金 (事業費 46 万円) ・冬期の UFO ラインを活用したウォーキングイベント開催 (R2～) ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加 (山の案内人 : R3) ・UFO 遭遇チャレンジツアーの催行 (R4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ガイド人材の発掘・養成 <ul style="list-style-type: none"> ・新規ガイド 8 名 ・ツアー同行数 R2 : 12 件 ◆UFO ラインウォークツアーの開催 <ul style="list-style-type: none"> R2 : 120 名 (12 月) R3 : 200 名 (4 月)、324 名 (12 月) R4 : 214 名 (4 月)、446 名 (12 月) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設の魅力向上 ・山岳観光地としての知名度の低さ ・新たな体験及び旅行商品不足 ・しらす野営場再整備によるしらす周辺での観光振興のさらなる推進

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆観光施設 (道の駅木の香温泉、山荘しらす、木の根ふれあいの森)と連携した体験型観光の推進と施設の整備</p>	山荘しらすの整備、拠点施設の機能・連携強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●いの町： 山荘しらすの整備、木の香等各拠点施設間の連携検討、ビジターセンター機能の検討、道の駅木の香・木の根ふれあいの森の施設整備の検討、山荘しらす周辺の野営場の再整備十画の検討 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	観光資源の掘り起こしと体験メニューの商品化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●いの町： 森林軌道、冬山、E-bike 等の新たな観光素材の活用検討、市場調査、体験メニュー等モニターツアー開催 ●(一社)いの町観光協会： 旅行会社等への情報発信、(株)ソラヤマいしづち、(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
山の案内人の養成・ガイドの実践					
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会： ガイド研修会の実施など組織の事務局機能の発揮、旅行会社等への情報発信、(株)ソラヤマいしづち及び(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーの活用提案 					
インターネット・SNS を活用した PR・情報発信					
<ul style="list-style-type: none"> ●いの町： いの町・山の案内所の SNS の活用、(株)ソラヤマいしづち、(一社)仁淀ブルー観光協議会、(一社)いの町観光協会の WEB サイトの活用、道路情報の発信 ●県（地域本部等）： 県の SNS を通じた情報発信 					
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.29 仁淀川町滞在交流型観光の推進 (仁淀川町)
実施主体	◎仁淀川町、◎(株)ビバ沢渡、◎仁淀川町観光協会、指定管理者
APへの位置づけ	R5.4月
事業概要	自然の景観を活かした滞在交流型観光の拠点施設としてキャンプ場やアクティビティ施設の整備を行うとともに、他の観光スポットとの周遊ルートを確認し、滞在交流型観光を推進することで地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) キャンプ場利用者数	-	-	-	-	1,800人
(2) 体験施設利用者数	-	-	-	-	1,000人 (R5.9月～)
(3) 主要観光施設等入込数	76,000人 (H30)	56,149人	65,377人		77,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>【指標の主要観光施設等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設：ゆの森、しもなの郷、宝来荘、秋葉の宿 ・観光資源：中津溪谷（入浴者）、安居溪谷（レストラン）、花見客（桜、花桃）、秋葉まつり <p>◆キャンプ場の整備と施設運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内におけるキャンプ場及びトイレ等の整備（ふれあい公園キャンプ場、星ヶ窪キャンプ場、夢の森キャンプ場） ・指定管理者制度の導入*（夢の森キャンプ場） * R5.4月～ふれあい公園キャンプ場 <p>◆岩屋川溪谷を活かした滞在交流型観光施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型観光アクティビティ事業の検討（R4.4月～） ・産業振興アドバイザー制度の活用 ※観光周遊計画の策定(R4.11月～R5.3月) 計5回 	<p>◆関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川町公式ガイドブックの作成及び更新による情報発信（H24～） ・観光協会を窓口として情報の集約化を図り、ポータルサイトで情報発信を強化（H25～） ・広報誌への掲載や SNS を活用した情報発信を実施（H25～） ・町の観光振興に向けて、仁淀川町観光協会を設立（H27.4月） ・観光協会を主体とし、関係機関での観光報告会を毎月実施（H27～） ・町内事業者に対して、観光資源の素材収集のためのアンケート調査を実施（R2.8～11月） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS を活用した情報発信による観光客の利便性向上 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア閑散期の利用促進 ・体験施設への誘客につなげる仕組みづくり ・町内観光施設への周遊促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆滞在交流型観光の推進			観光周遊計画の策定	受入環境の整備（キャンプ場整備を除く） 滞在コンテンツの充実 周遊ルートの形成 情報発信・プロモーション	
	<ul style="list-style-type: none"> ●仁淀川町、仁淀川町観光協会： 観光周遊計画の策定・実践、施設整備、SNS等を活用した誘客促進、町内観光施設の周遊ルートの形成、リピーター獲得の方策検討、OTA活用の検討 ●県（地域本部等）： 誘客促進に関する情報収集、情報発信、関係機関への橋渡し 				
◆キャンプ場の整備と施設運営			キャンプ場施設の整備	指定管理者制度による キャンプ場施設の管理運営	
	<ul style="list-style-type: none"> ●仁淀川町： 候補地の選定、施設整備 ●県（地域本部等）： 補助金等各種支援制度に関する活用提案や情報提供 ●仁淀川町、指定管理者：指定手続、管理運営 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 				
◆岩屋川渓谷を活かした滞在交流型観光施設の整備等				施設の整備 施設の管理運営 誘客促進に向けた取り組み	
	<ul style="list-style-type: none"> ●仁淀川町、(株)バ沢渡： 施設整備、SNS等を活用した誘客促進、観光施設等との連携、リピーター獲得の方策検討、OTA活用の検討 ●県（地域本部等）： 誘客促進に関する情報収集、情報発信、関係機関への橋渡し 				
◆関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信	観光情報の収集及び発信の強化			※R5以降は「◆滞在交流型観光の推進」へ移行	
	<ul style="list-style-type: none"> ●仁淀川町観光協会、仁淀川町、仁淀川町内の地域づくり団体： 関係機関と連携した情報共有、SNS等を活用した情報発信 ●県（地域本部）： 県内イベントや町内事業者に関する情報提供、観光報告会への参画によるアドバイス実施、仁淀ブルー観光協議会との連携支援 				
	観光客への効果的なプロモーション活動			※R5以降は「◆滞在交流型観光の推進」へ移行	
	<ul style="list-style-type: none"> ●仁淀川町観光協会、仁淀川町： 町内観光スポットにおける観光客の動向調査の実施、地域資源を生かしたツアーの検討、実施 ●県（地域本部等）： 観光客誘致のため仁淀ブルー観光協議会ほか関係機関との連携支援 				

AP名 (実施地域)	No.30 佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進 (佐川町)
実施主体	◎佐川町、◎(一社)さかわ観光協会、◎佐川町内の地域づくり団体・個人
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	歴史的な街並みの整備を行うとともに、観光資源の効果的な活用により、「歴史と文教のまち・佐川」の魅力を感じられるまちづくりを行政・観光協会・地域が一体となって進める。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 上町地区への入込客数	31,225人 (H30)	15,954人	18,180人		40,000人
(2) 上町まち歩きガイド利用者数	4,512人 (H30)	695人	1,909人		5,500人
(3) 青山文庫の入館者数*	5,559人 (R元見込み)	3,106人	4,045人	-	-

※ (3)はR4年度以降、指標から除く。

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的風致維持向上計画の認定 (H21、H31) ・街並み環境整備事業を活用し、歴史的建築物の改修や整備を実施 (H21～26) ・町歩きガイド団体「くろがねの会」によるガイド事業の取り組み開始 (H23～)、ガイド育成勉強会やインバウンド対応のための英語ガイド勉強会の開催 (H28～) ・さかわ観光協会の設立 (H25.4月) ・歴史観光資源等強化事業費補助金を活用し、幕末維新博に向けて、青山文庫の改修整備及び案内・誘導看板の整備や周遊先施設の展示充実、情報発信機能の強化による観光クラスターの形成 (H28～29) ・館内ガイド配置支援事業を活用し、青山文庫に館内ガイドを配置 (H28～) ・産業振興アドバイザーを導入して、地域食材を活用した飲食メニューを開発 (H28、H30：各3回) ・佐川町にゆかりのあるJR客車の移設・展示による観光振興に向けた客車収容施設の整備 (R元～2) ・博覧会受入環境等整備支援事業費補助金を活用し、NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送に向けた観光客受け入れ体制強化のため、草花ガイドの養成や、牧野富太郎ふるさと館を始めとする各種施設の整備等を実施 (R4) 	<p>◆青山文庫の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文教のまち佐川」の推進に向け、青山文庫を含む新たな複合施設の基本構想を策定 (R元) ・複合施設としての整備から、現立地での改修、または別場所での整備について検討中 (R3～) <p>◆体験型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した体験プログラムを一定期間に開催する、体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」のプレ開催 (H30) ・「わんさかわっしょい体験博」の開催 (R元～) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆わんさかわっしょい体験博体験プログラム数及び参加者数 H30:10プログラム/175名、R元:20プログラム/282名 R2:16プログラム/189名、R3:17プログラム/143名 ◆ハード・ソフト両面の整備を通じて、おもてなしの体制強化につながった <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史資源等を活用した賑わいが生まれる取組の推進 ・青山文庫の改修方針の未確定 ・体験型博覧会への参加者増に向けた体験メニューの充実

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆観光資源の活用、おもてなしの体制づくり</p>	<p>JR 客車施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(一社)さかわ観光協会： 旧浜口家住宅と連携した効果的な活用方法の検討 ●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、各種支援制度に関する情報提供 	<p>上町地区観光案内・物販・飲食機能の強化</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(一社)さかわ観光協会： 旧浜口家住宅と連携した効果的な活用方法の検討 ●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(一社)さかわ観光協会： 効果的な周遊の仕組みづくり、客車施設を活用したイベント開催検討、機能強化に向けた体制整備 ●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、県のメディアサイト等での情報発信 		
	<p>観光客受入体制の強化</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(一社)さかわ観光協会、佐川町内の地域づくり団体： 歴史的な遺産や街並みの維持・管理、町内施設等を周遊する仕掛け作り、パンフレット・HP等の活用、関係機関との連携による情報共有・情報発信など 牧野公園を核とした「まちまるごと植物園」構想の展開 ●佐川町内の地域づくり団体： 町歩きガイドの育成・確保、外国人観光客の受入体制の強化に向けた勉強会の実施、ガイドメニューの充実化検討 ●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、県のメディアサイト等での情報発信など 				
<p>◆青山文庫の施設整備</p>	<p>複合施設の整備検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、青山文庫： 整備方針の検討 ●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討 	<p>青山文庫の整備方針の検討・施設改修</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、青山文庫： 整備方針の検討、基本・実施設計、施設改修 ●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、各種支援制度に関する情報提供 			
<p>◆体験型観光の推進</p>	<p>体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」の開催</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(一社)さかわ観光協会、体験型観光事業者： 体験型博覧会への参加者増に向けた体験メニューの磨き上げ、常設体験型観光メニューの実施検討 ●県（地域本部等）： 県のメディアサイト等での情報発信 				

AP 名 (実施地域)	No.31 越知町の総合的な観光振興と地場製品の販売促進 (越知町)
実施主体	◎越知町観光協会、◎おち駅物販経営協議会、◎越知町、JA 高知県(仁淀川地区) など
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	情報発信機能と物販機能を持った「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な観光資源を組み合わせた体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した新商品開発に取り組み、交流人口の拡大と販売促進を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) おち駅での販売額	1.0 億円 (H30)	1.33 億円	1.06 億円		1.1 億円
(2) 横倉山自然の森博物館入館者数	6,507 人 (H30)	6,187 人	6,101 人		9,700 人
(3) カヌー・ラフティング利用者数	1,694 人 (H30)	1,429 人	1,096 人		2,400 人

これまでの主な動き	
<p>〈これまでの取り組みの内容〉</p> <p>◆観光物産館おち駅の利用者拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光物産館おち駅の整備 (H22.3月) →H21 産振補助金の活用(事業費 7,301 万 3 千円) 販売促進にかかる備品等の整備 →H22 産振補助金の活用(事業費 875 万 8 千円) 産業振興アドバイザーを導入して、新商品開発や店づくり、情報発信等のスキルアップを実施(H22:4 回、H23:5 回×2、H25:4 回、H26:2 回、H27:5 回、R2:3 回) 新たな調理場の実施設計に関する業務委託 (R3) キャッシュレス決済の導入 (R4) <p>◆横倉山のさらなる魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 横倉山魅力資源活用計画の策定 (H28.3月) →H27 産振補助金(ステップアップ事業)の活用 (事業費 54 万 7 千円) 横倉山ガイドメニューづくり (H27~29) 産業振興アドバイザーを導入して、横倉山ガイド基本コース台本を作成 (H28:5 回) し、継続して他コースも台本を作成 (R 元) 横倉山トレッキングツアーの開始 (H30.4 月) 博物館にて「竜とそばかすの姫」の竜のモニユメントの公開 (R4.9 月~) 	<ul style="list-style-type: none"> 県博覧会受入環境等整備支援事業費補助金を活用し、横倉山や博物館を整備して案内機能等を強化 (R4) <p>◆カヌー、ラフティングの利用者拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光拠点等整備事業費補助金などを活用して、カヌー及びラフティングの備品を整備 (H22、H24、H30、R 元) ガイドの養成・確保 (H22~) 産業振興アドバイザーを導入して、ガイド養成を実施 (H23:5 回) カヌー及びラフティング事業を開始 (H23.7 月) 産業振興アドバイザーを導入して、E ポートを活用した体験観光メニューを検討 (H28:1 回) <p>〈主な成果〉</p> <p>◆おち駅の来客数 H22 : 82,974 人 → R3 : 77,919 人</p> <p>◆横倉山トレッキングツアー参加者数 H30 : 94 人 → R3 : 14 人</p> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> おち駅のふるさと納税関連売上が減少 博物館 HP での効果的な情報発信 カヌー、ラフティング利用者拡大に向けたガイドの確保・育成

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光物産館おち駅の利用者拡大	利用者のニーズに応じた店づくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●おち駅物販経営協議会： 商品の安定確保・充実、町内施設との連携 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	効果的な情報発信による新規利用者の獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ●おち駅物販経営協議会： 情報発信手段の検討・実践 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆横倉山のさらなる魅力向上	新たな調理場の検討及び整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町： 関係機関との調整及び整備 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 		新商品開発等		
	<ul style="list-style-type: none"> ●町内個人・事業者、おち駅物販経営協議会： 新商品の開発、おち駅等での販売 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 				
	横倉山自然の森博物館の活用				
◆カヌー、ラフティングの利用者拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町： SNS等を活用した情報発信、他機関との連携、展示物の充実 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	横倉山トレッキングツアーの充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町観光協会、越知町： 横倉山トレッキングツアーのガイド勉強会の実施、テーマを設けたツアーの実施、PRによる知名度の向上 ●県（地域本部等）： 勉強会の実施協力、産業振興アドバイザーなど各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	県内外へのPR				
◆カヌー、ラフティングの利用者拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町、(株)スノーピーク： 各メディア等を活用した情報発信、企業研修等の活用促進による平日の稼働率向上 ●県（地域本部等）： 県関係メディアを活用した情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	ガイドの育成・確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町、(株)スノーピーク： ガイド確保に向けた情報発信 ●県（地域本部等）： 情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
<p>【用語】 SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.32 越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化 (越知町)
実施主体	◎越知町、(株)スノーピーク
APへの位置づけ	H28.4月
事業概要	仁淀川でのカヌー・ラフティングや横倉山などの地域資源を活用した体験型観光を束ねる拠点として、(株)スノーピーク監修によるキャンプ場を整備・運営し、仁淀ブルーの全国発信と観光客誘致による交流人口の拡大と、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) キャンプ場利用者数	9,526人 (H30)	8,295人	8,530人		10,980人
(2) かわの駅おちレジ通過者数	23,000人 (R元見込)	17,883人	20,469人		34,000人

これまでの主な動き	
<p>〈これまでの取り組みの内容〉</p> <p>◆キャンプ場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光拠点等整備事業費補助金等を活用し、キャンプ場を整備 <ul style="list-style-type: none"> 基本計画の策定 (H28.11月) 基本設計・実施設計 (H29.3月) キャンプ場整備工事 (H28~R元) 日ノ瀬清流公園キャンプ場 (スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド) をオープン (H30.4月) 産業振興アドバイザーを導入して、レイアウトや体制等の店舗運営について検討 (H30:5回) 宮の前公園センターハウス (スノーピークかわの駅おち) をオープン (R元.6月) <p>◆キャンプ場の運営と誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> スノーピーク公式イベントの開催 研修等での活用に向けた企業提案 (R2~) 産業振興アドバイザーを導入して、経営の改善・強化について検討 (R2:3回) イベント等での会場提供 2拠点合同周年祭の開催 (R4.4月) グランピングイベントの開催 (R4.5月) 	<p>◆地域情報の発信と経済効果の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> アウトドアイベントの開催 (H28~) 広報おちや SNS 等を活用した情報発信 町内店舗の周遊を目的としたスタンプラリーの実施 (H31.4月~R2.9月) 2施設を紹介するリーフレットを作成し、愛媛県内の各地へ配布 (R4.7月) スノーピークが運営する Web メディアにて、おちスタッフによるコラム記事掲載 (R4.11月) <p>〈主な成果〉</p> <p>◆アウトドアイベントの参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> H29: 約 400 人 (アウトドア体験イベント、越知おいしいデイ・キャンプイベント) H30: 約 30 人 (親子キャンプ) R元: 約 2,200 人/3日間 (おち・まち・そとあそび) R2: 約 2,000 人/2日間 (おち・まち・そとあそび) <p>◆スタンプラリー景品交換者</p> <ul style="list-style-type: none"> 412 人 (H31.4月~R2.9月) <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 閑散期等の施設稼働率の向上 施設のさらなる認知度向上 町内への経済波及効果の拡大

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ キャンプ場の運営と誘客促進	来訪者の把握と分析				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 越知町、(株)スノーピーク： <ul style="list-style-type: none"> スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド及びスノーピークかわの駅おちの来訪者数の把握、利用者数調査 ● 県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーの活用提案 				
	スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド及びスノーピークかわの駅おちの安定運営とさらなる誘客				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 越知町、(株)スノーピーク： <ul style="list-style-type: none"> 施設の管理、利用者等の状況に応じた店舗スタッフの募集・確保、各メディア等を活用した情報発信による誘客促進、スノーピーク会員への訴求、企業研修等誘致による新規顧客の獲得、リピーター獲得に向けたアンケート調査実施によるさらなるサービス向上 ● 県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 誘客促進に関する情報収集、情報発信、関係機関への橋渡し 				
◆ 地域情報の発信と経済効果の創出	観光情報の発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 越知町、(株)スノーピーク： <ul style="list-style-type: none"> PR 動画等による効果的な情報発信、観光案内に対応できるスタッフの育成 ● 県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し、産業振興アドバイザーの活用提案 				
	地域資源を活用したイベント提供と中心市街地への誘客				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 越知町： <ul style="list-style-type: none"> アウトドアを切り口にしたイベントの実施、中心市街地への誘客等経済効果の拡大に向けた仕組みの検討・実施 ● 県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> イベント等の実施支援、産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

分野	観光
----	----

AP名 (実施地域)	No.33 日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進 (日高村)
実施主体	◎(一社)日高村観光協会、日高村
APへの位置づけ	H21.4
事業概要	仁淀川や猿田洞、日下川調整池等の日高村ならではの自然を生かした体験型観光の推進や、小村神社秋の大祭等の季節ごとの特色あるイベントの実施により、交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 体験参加人数	1,370人 (H30)	2,307人	2,196人		2,500人
(2) 小村神社周辺イベント 来場者数	2,168人 (R元)	1,956人	1,725人		2,500人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の駅ひだか内に観光情報発信コーナーとして「村の案内所ひだか」を設置 (H26) ・産業振興アドバイザー制度を活用し、観光協会組織の立ち上げに向けた関係者での協議を開始 (H30:5回) ・村の駅ひだかの駐車場敷地内の一角に観光案内所を整備し「村の案内所ひだか」を移設 (H31.4月) ・日高村観光協会を設立 (R元.11月) <p>◆体験型観光等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の案内人クラブを事務局として、フットパスやケイビング等のガイド付き体験観光メニューの提供を本格的に開始 (H26～) ・江尻地区かわまちづくり事業による親水公園の整備 (H28～) ・インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト 日下川新規放水路第1回現地協議会の開催 (R2.12月) ・日下駅の再整備に向けた検討 (R3～) ・野鳥観察施設「メダカさん家」の改修 (R3) ・錦山公園の芝生広場等の整備 (R3) ・日下貯水池付近の動植物情報の収集 (R4～) 	<p>◆小村神社及び国宝への観光客の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「村の駅ひだか」内に国宝の大刀(レプリカ)を展示し、小村神社の魅力を発信 (H26～) ・(特非)日高わのわ会が、小村神社を会場とするイベント「日高メシふえすていばる!!!!」を開催 (H26～) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「村の案内所ひだか」が設置されたことで、観光をはじめとする日高村でのイベント情報の一元化、情報発信・案内を行えるようになった。 ◆日高村観光協会 HP 上で、一部体験メニューの受付を開始 (R元.11月～) ◆屋形船への乗船者数 H28 : 5,276人 → R3 : 2,710人 ◆「オムライス街道」によるオムライス販売数 H26 : 38,300食 → R3 : 47,861食 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラツーリズムの推進 ・日下駅を活用した日高村への誘客促進機能の強化 ・小村神社及び国宝の認知度向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">(一社)日高村観光協会を中心とした情報発信</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)日高村観光協会： 観光案内所への来客や問い合わせへの対応、観光情報の一元化によるホームページや SNS 等での情報発信、ガイドブックの作成、各種メディアの活用 				
◆体験型観光等の推進	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">体験観光メニュー等の磨き上げ</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)日高村観光協会： ガイド人材の育成及び発掘、新たな体験メニューの開発、村内イベント開催の支援、村内事業者間の連携による周遊プランの作成 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">体験観光メニュー等の販売促進</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●日高村及び(一社)日高村観光協会： (一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス及び情報発信 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介 				
◆小村神社及び国宝への観光客数の誘致	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">小村神社及び国宝を活用したイベント等の開催</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●日高村及び(一社)日高村観光協会： イベントの実施及び情報発信、国宝を活用した新たなイベントの検討、(一社)仁淀ブルー観光協議会との連携によるプロモーションの強化 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、イベント情報等の広報支援 				
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p>【用語】 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p> </div>					

AP名 (実施地域)	No.34 日高村能津地区における交流人口の拡大と地域の活性化 (日高村)
実施主体	◎(株)屋形船仁淀川、◎(一社)能津未来、◎高知 FORESTVISION(株)、日高村
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	清流仁淀川の観光屋形船や集落活動センターミライエ、精油工場など、能津地区の魅力的な観光拠点づくりを行い、観光客の増加による地域の賑わいづくりや地域の活力の維持・向上を図ることにより地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
屋形船乗船者数	6,076人 (H30)	2,710人	2,960人		8,000人
精油関係事業の販売額	—	—	—		28百万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆観光客の受入態勢の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点等整備事業費補助金を活用して、観光拠点整備計画の策定 (H24) ・屋形船の運航開始 (H24.5月) ・観光拠点等整備事業費補助金を活用して、屋形船乗り場周辺の遊歩道を整備 (H26) ・産業振興アドバイザー事業を活用した屋形船遊覧ガイド養成研修の開催 (H28:5回) ・屋形船遊覧ガイド養成により、有償ガイドアナウンスを開始 (H28~) ・翻訳機の導入 (H30) ・Wi-Fi環境の整備 (R元) ・「LOGet! CARD (ロゲットカード)」(日本全国の観光スポットを統一フォーマットでシリーズ化したコレクションカード) 事業への参画 (R2) ・映画「竜とそばかすの姫」とのタイアップ企画の実施 (R3.7~8月) ・体験プログラムにおける安全管理マニュアル策定事業者として県制度のゴールド認定を取得 (R3.9月) ・(一社)日高村観光協会、(株)屋形船仁淀川、(一社)能津未来が連携した体験観光プランの造成 (R4.10~11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆精油を用いた新たな体験観光拠点の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・精油製造施設(高知 FORESTVISION(株))の整備に向けた検討(R4.9月~) ◆(一社)能津未来による集落活動センターの運営 <ul style="list-style-type: none"> ・能津地区振興計画策定に向けた地域住民による協議 (H30) ・能津地区振興計画の策定 (H31.4月) ・(一社)能津未来の設立 (R2.8月) ・能津集落活動センターミライエオープン (R3.4月) ◆国内外に向けた情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブックによる情報発信を開始 (H29~) ・OTA (インターネット上だけで取引を行う旅行者) による予約受付を開始 (H30~) ・インスタグラムによる情報発信を開始 (R3.2月~) ・屋形船仁淀川ホームページのリニューアル(R4.10月) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆屋形船の運行: H24: 1隻 → R3: 4隻 ◆ガイド報酬のルール化及びガイド組織の設立により、ガイド養成の体制強化につながった ◆(株)屋形船仁淀川と(一社)能津未来が連携したランチメニューの造成 (R4.10月あゆ王国高知振興ビジョンに位置付け) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋形船の知名度の向上 ・外国人観光客を含む乗船客の満足度の向上 ・雨天や冬期(閑散期)の集客に向けた対策 ・精油体験事業の円滑な実施と誘客の仕組みづくり

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光客の受入 態勢の充実	ツアー客の受入強化と観光商品づくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)屋形船仁淀川： 雨天時の代替メニューの造成等の検討、村内事業者と連携した観光商品づくり、ツアー客への昼食提供等の集落活動センターと連携した取り組みの実施 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐の観光創生塾等の講座等の紹介 				
	遊覧ガイドの掘り起こし・スキルアップ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)屋形船仁淀川： ガイド募集チラシの配布 ●(一社)日高村観光協会： ガイド研修会の開催、ガイド組織間での連携強化 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、県主催の研修会等の紹介 				
◆精油を用いた 新たな体験観光 拠点の整備				施設整備	施設稼働
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知 FORESTVISION(株)：高知県産精油の製造及び製造体験事業の実施 ●県（地域本部等）：既存事業者との連携支援、各種支援制度に関する情報提供・制度活用支援 				
◆(一社)能津未 来による集落活 動センターの運営	施設整備、集落活動センターの運営				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)能津未来： カフェ及び直販所の運営、体験観光プログラムの実施、地域情報の発信、空き家情報の集約 ●県（地域本部等）： 協議会の全体会及び役員会等への参画によるアドバイス、各種支援制度に関する情報提供 				
◆国内外に向け た情報発信	観光客誘致のためのインターネットやメディア等を活用した情報発信の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)屋形船仁淀川：OTAを活用した商品販売の継続、(一社)日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信、SNSの活用 ●高知 FORESTVISION(株)：(一社)日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信、旅行代理店とのタイアップ、SNSの活用 ●(一社)能津未来：(一社)日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信、ホームページ、SNSの活用 ●県（地域本部等）：イベント情報等の広報支援、各種支援制度に関する情報提供 				

6 高幡地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

高幡地域は、地域の大部分を占める森林資源を生かした林業分野をはじめ、山・川・海の恵まれた自然環境を生かした第一次産業を中心に栄えてきましたが、年々人口減少、高齢化が進行しており、令和2年の国勢調査では50,797人と前回（平成27年）と比較して9.6%減少し、高齢化率は約44%と4%増加、生産年齢人口も約47%と3%減少するなど、地域を取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした状況に歯止めをかけるため、国の地方創生の動きや、各市町のまち・ひと・しごと創生総合戦略とも連動し、官民協働、市町村との連携協調を図りながら、取り組みを進めています。

産業分野別にみると、農業分野では、これまでの取り組みにより、環境制御技術を導入する農家が増加し、収量の増加などの成果につながりつつあります。今後は、さらなる収量増を目指し環境測定装置で得られたデータの有効活用を推進します。また、中山間地域では、多品目生産による複合経営により農家所得の向上に向けた取り組みが進んでいますが、農地集積に向けたほ場整備や異常気象などの天候に左右されない生産の確保が課題となっています。

畜産分野では、県内産豚肉の7割以上を生産する基幹的な養豚地帯である四万十町地域において、JA、流通業者、行政等関係機関が一体となって、地域ブランドポークとして生産から流通までを支援する体制を構築し、雇用の創出や高付加価値化を目指して取り組んでいます。

林業分野では、県内の大型製材工場の操業開始に伴う木材需要量の増加等を背景に、林地残材等を活用した木質バイオマスの利用拡大が進むとともに、特用林産物の生産・販売や自伐林家等による小規模林業の振興等、中山間地域を活性化する取り組みを進めています。

水産分野では、漁獲量の減少や魚価の低迷により経営の厳しい状況が続いていますが、処理能力と衛生管理を強化した水産加工場の整備により、加工・販売の強化に取り組んでいます。

商工業分野では、6次産業化などにより地域資源を活用した新商品の開発を進めるとともに、販売の拠点となる施設の整備や物流システムの構築により、地産外商に取り組んでいます。

観光分野では、全国的にも貴重な地形の四国カルストや、清流四万十川と新荘川、横浪半島に代表される変化に富んだ海岸線などの恵まれた大自然のほか、龍馬脱藩の道、津野山神楽などの歴史的・文化的遺産といった魅力的な観光資源があります。こうした観光資源のさらなる磨き上げと効果的な情報発信等を行うとともに、観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」を通じて、牧野博士ゆかりの地をはじめ、地域の草花スポットや既存の観光・食資源への誘客など、広域観光を推進していきます。

(2) 地域アクションプランの概要

当地域では、第一次産業の振興に向けた生産体制等の充実・強化や販路の拡大の取り組みを継続するとともに、「原油価格・物価高騰対策」に関しては、現下の原油高や物価の高騰による影響を軽減するため、農業者及び漁業者の燃料や飼料の購入への支援などを行います。また、それら地域の一次産品を活用した加工品づくりが各地域に広がっており、今後はさらなる販売拡大のほか、製造施設の整備や HACCP 対応による衛生管理の向上、新たな特産品づくりにも取り組んでいきます。

さらに、地域の優れた資源を生かした魅力ある観光ルートや体験プログラムの造成等により滞在延長につなげるとともに、交流人口の拡大に引き続き取り組んでいきます。

農業分野では、ミョウガの生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地の活用等を進めるとともに、販売促進に取り組み、消費拡大を目指していきます。次世代施設園芸団地で栽培されているトマトの病害虫防除対策確立による生産の安定、生産者グループによるブランド米の生産や、有機栽培を行う生産者グループと流通販売者との連携による地産外商の取り組みなど、特色ある商品づくりや販路拡大を進めていきます。また、四万十流域の栗や芋などのブランド化を進めるため、生産拡大に向けた担い手の育成や商品開発や販路拡大に取り組んでいきます。

畜産分野では、四万十町産豚肉のブランド化を図るため、畜舎整備による生産力の強化を図るとともに、養豚農家自らが整備した加工直販所が順調に売上を伸ばしています。また、四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大では、アドバイザーを活用した新商品作りに取り組むなど、6次産業化による付加価値の向上に取り組んでいきます。さらに梶原町でも飼育頭数の増加による肉用牛の生産拡大に取り組めます。

林業分野では、四万十地域の森林資源の利用促進を図るため、「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源のブランド化、販売促進に取り組めます。また、津野山地域においては、循環型社会の構築を目指し、引き続き木質バイオマスの有効利用に積極的に取り組めます。水産分野では、マダイ等養殖魚の加工場の整備による出荷体制の強化や、スラリーアイスを活用した高鮮度のカツオやメジカ等の販路拡大に取り組めます。

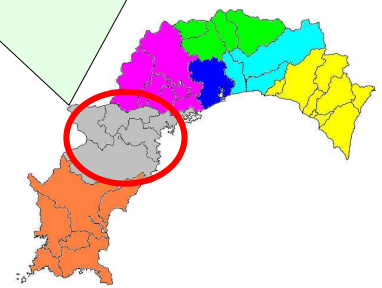
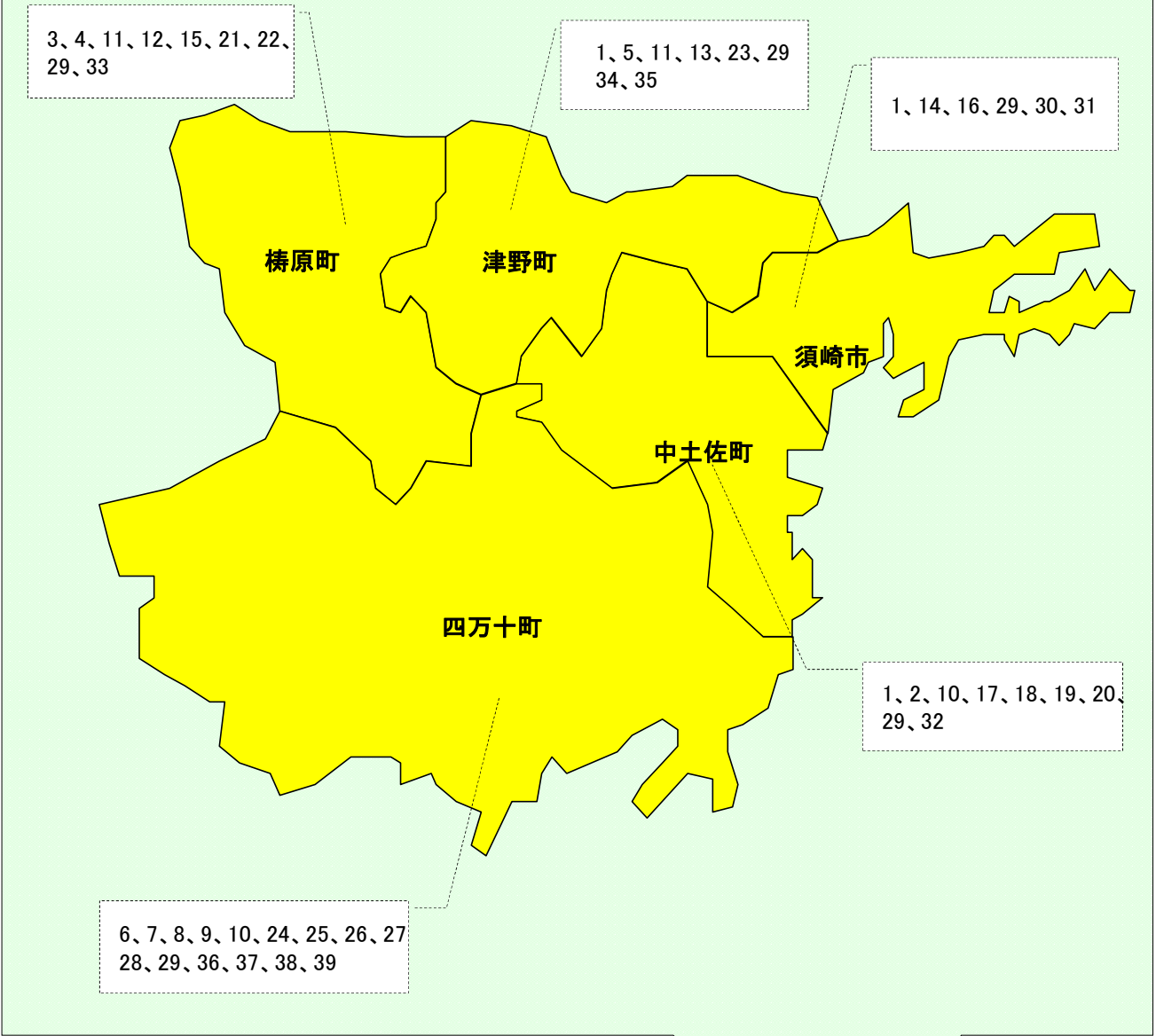
商工業分野では、須崎市や中土佐町、四万十町において、商店街等振興計画を策定し、実行することで、商店街の活性化を図るとともに町全体の賑わいの創出につなげていきます。

観光分野では、5市町連携による観光交流人口の拡大と地域経済への波及効果の拡大を図るとともに、牧野博士ゆかりの地をはじめ、地域の草花スポット、自然や文化、食を生かした体験プログラムの造成、磨き上げに取り組めます。須崎市では、県内有数の良港として栄えていた「海のまち」としての高いポテンシャルを活かして、産官学金が連携して中心市街地の活性化などに取り組む、新たに設置された「須崎大漁堂」などの運営を通じて高幡エリア全体への効果の波及を目指します。津野町では、「星ふるヴィレッジ TENGU」を中心とした四国カルストエリア全体の魅力度の向上に取り組むとともに、「フォレストアドベンチャー高知」や「遊山四万十せいらんの里」等の観光施設を核として、交流人口の拡大に取り組めます。四万十町では、ジップラインやアウトドア施設等の磨き上げ等により体験型観光の拠点づくりに取り組めます。

(3) 具体的な取り組み

No.		須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
1	くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト	●	●		●	
2	大野見米のブランド化		●			
3	梶原産キジ肉の加工・販売の拡大			●		
4	梶原産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化			●		
5	つの茶販売戦略				●	
6	四万十のうまい栗・芋クラスタープロジェクト					●
7	四万十町畑作振興プロジェクト					●
8	四万十のうまい豚クラスタープロジェクト					●
9	四万十次世代ハウス団地におけるトマト等栽培の経営強化クラスタープロジェクト					●
10	「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進		●			●
11	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進			●	●	
12	循環型社会を推進するための梶原町森林資源の有効活用			●		
13	津野町森林・林業再生プロジェクト				●	
14	浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大	●				
15	アメゴ養殖事業の再生拡大			●		
16	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大	●				
17	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進		●			
18	大正町市場商店街活性化事業		●			
19	中土佐町SEAプロジェクト		●			
20	中土佐町地産外商の取り組み		●			
21	梶原町地場産品の地産地消・外商の促進			●		
22	梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販路の拡大			●		
23	津野町地産地消・外商販売戦略				●	
24	四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備					●
25	四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大					●
26	四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発					●
27	四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト					●
28	四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大					●
29	高幡地域における広域観光の推進	●	●	●	●	●
30	須崎市海のまちプロジェクト	●				
31	浦ノ内マリンパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化	●				
32	中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進		●			
33	梶原町の体験型・滞在型観光の推進			●		
34	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～				●	
35	四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト				●	
36	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり					●
37	四万十町観光交流促進事業					●
38	四万十町オアシス風観光交流拠点整備事業					●
39	ジップラインと道の駅を核とした四万十町(十和地区)の観光拠点施設整備事業					●

【高幡地域】



AP名 (実施地域)	No.1 くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト (須崎市・中土佐町・津野町)
実施主体	◎JA 土佐くろしお、須崎市、中土佐町、津野町、(株)E-システム
APへの 位置づけ	R3.4月
事業概要	JA 土佐くろしお管内（須崎市・中土佐町・津野町）で栽培するミョウガの生産拡大を核として、生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地活用スキーム、優良種茎の安定供給体制を構築する。 日本一の「ミョウガ」産地として、一次・二次・三次が連携し、認知度向上に向けた取り組みを推進することにより、ミョウガの消費拡大を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
新規雇用者数（累計）	－ (R元)	0名	1名	6名	4名
ミョウガを使ったメニューの 定番化(累計)	0品 (R元)	0品	6品	－	4品
ミョウガ生産拡大面積 (土佐くろしお)	－ (R元)	45a	91a	62a減	200a (R2～5累計)
ミョウガ出荷量※	3,614t (R元)	3,620t	3,528t	3,660t	3,800t

※園芸年度：9～8月

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆ミョウガの生産拡大

- ・再生ヤシガラ工場（プラント倉庫）完成（R3）
- ・ハウス整備（国補助事業）（R3）
- ・環境制御装置整備(県事業)（R3）

◆ミョウガの販売促進

- ・新ミョウガメニューの考案（R3）
- ・TV、WEBを活用した消費宣伝（R3）
- ・タイ王国輸出対応に向けた出荷場点検（R3）

◆ミョウガの収量・品質の向上

- ・実証試験、調査（環境制御技術・花蕾腐敗対策・病虫害防除など）（R3）
- ・循環型養液システムに係る課題解決及び導入推進（R3）
- ・優良種茎確保に向けた試験圃の設置（R3）
- ・種茎の品質評価（R3）

<主な成果>

- ・過去最高販売額 67.6 億（前年比 100%）
- ・タイ王国輸出対応出荷場認証取得
- ・優良系統選抜試験開始

<課題>

- ・ヤシガラ培地活用スキームの評価
- ・地域内外事業者等と連携したミョウガの消費拡大の推進
- ・優良種茎確保に向けた体制検討

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ミョウガの生産 拡大	プロジェクトチーム等によるプラン進捗状況確認・プラン見直し				
	<ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクトチーム：年1回開催。1次、2次・3次WGの協議結果を受けて、活動実績及び計画を協議。 ●1次、2次・3次WG：作業チームとして3体制を構築し、年2回のチーム会を開催して進捗状況等を協議。 				
	ミョウガの生産拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 土佐くろしお：ハウス整備、次年度整備計画の作成、生産拡大に伴う施設（輸入資材用SGDs倉庫）整備 ●須崎市、中土佐町、津野町、県：補助事業等による支援 				
◆ミョウガの販売 促進	ヤシガラ培地活用スキームの構築				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 土佐くろしお、(株)E-システム：ヤシガラ培地活用事業スキーム構築、事業に関連する施設及び設備の整備 ●JA 土佐くろしお、(株)E-システム、須崎市、中土佐町、津野町、県：協議会体制によるヤシガラ培地適正利用の確認 				
	◆ミョウガの販売促進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 土佐くろしお：販売促進方法の検討、とさつ子広場からの新たな使い方提案の情報発信 など ●須崎市、中土佐町、津野町、県(地域本部等)：JAと協力して地域事業者への新たな使い方提案のサポート ●地域事業者等：ミョウガ消費拡大の取り組みへの参画、連携方法の検討 				
◆ミョウガの収 量・品質の向上	ミョウガ出荷体系の効率化・省力化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 土佐くろしお：機器の導入による出荷体系の効率化・省力化への実践 ●須崎市、中土佐町、津野町、県：補助事業等による支援 				
	◆ミョウガの収量・品質の向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 土佐くろしお、県（農振セ）：収量向上につながる試験、調査（環境制御技術・花蕾腐敗対策 など）部会等への試験結果などの情報提供及び取り組みの推進 				
循環型養液システムの普及（環境に配慮した農業の実践）					
<ul style="list-style-type: none"> ●JA 土佐くろしお、県（農振セ）：循環型養液システム導入の推進、導入する際に解決すべき事項の調査等 ●須崎市、中土佐町、津野町、県：補助事業等による支援 					
優良種茎の安定供給体制の構築					
<ul style="list-style-type: none"> ●JA 土佐くろしお、(株)E-システム、県（農振セ）：事業化に向けたルール検討・試験実施・事業化・装置等の整備 ●須崎市、中土佐町、津野町、県：補助事業等による支援 					

AP名 (実施地域)	No.2 大野見米のブランド化 (中土佐町)
実施主体	おおのみエコロジーファーマーズ
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	四万十川の豊かな自然条件を活用して生産される大野見米のブランド化をキーワードとして、まとまりのある生産・販売体制を構築し、消費者に選ばれる米産地づくりを推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
エコ米販売量	11.3t (R元)	10.7t	10.5t	12.9t	15t

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産組織の体制充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおのみエコロジーファーマーズ（旧大野見産米エコ研究会）… 現会員数：4名（R4） ・おおのみエコロジーファーマーズ総会の開催による年間活動計画の承認（毎年1回） ・執行委員会の開催による進捗状況確認及び活動の実行（H28:3回、H29:4回、H30:6回、R元:9回、R2:4回、R3:1回、R4:4回） ・大野見米のブランド化に向けたイメージづくりやPRのための消費者等との交流活動を積極的に企画、実践（H22～） <p>◆環境保全型栽培技術の確立と栽培面積の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおのみエコロジーファーマーズで決めた栽培管理を実践した上で、品質や食味値の基準をクリアした米を、「四万十の清粒 特裁 大野見米」として販売（H25～） ・農業振興センター職員によるほ場の巡回指導を通じた環境保全型の栽培技術の実践（H28:1回、H29:7回、H30:6回、R元:6回、R2:12回、R3:8回、R4:7回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地検討会の開催による水稻栽培管理の指導（H28:1回、H30:4回、R元:2回、R2:1回、R3:1回、R4:1回） ・環境保全活動に関するコンクール応募を通じた会員内の意識共有・醸成（H30） <p>◆高付加価値米の販路拡大と販路の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面販売等による販売促進活動及び消費者との交流活動を実施（H21～） ・教育現場との交流活動（H28:4回、H29:9回、H30:8回、R元:8回、R2:1回、R3:1回、R4:2回） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウカ類の被害も無く、株間の変更等により収量が増加。 ・エコ米販売量 12.9t <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産組織の体制充実による活動の継続（EF会員 R2:5人 R3:4人 R4:4人） ・生産量の確保 ・安定した販路の確保及び販路拡大
--	--

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産組織の体制充実	生産組織の充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●おのおみエコロジーファーマーズ： <p style="margin-left: 20px;">総会及び執行委員会の定期的な開催、メンバー間での情報や意見の共有、活動内容の地域への波及（生産者の増加を目指す）</p> ●中土佐町農林水産課、県（須崎農業振興センター）： <p style="margin-left: 20px;">総会、執行委員会等の開催支援、情報の収集、町広報誌等による活動のPR、地域内外の他の集落営農組織等との協力や連携促進</p> 				
◆環境保全型栽培技術の確立と栽培面積の拡大	環境保全型栽培技術の確立と栽培面積の拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●おのおみエコロジーファーマーズ： <p style="margin-left: 20px;">栽培技術の確立のための勉強会等への参加、おのおみエコロジーファーマーズの栽培暦の作成と実践、栽培面積の拡大、新規生産者などの募集</p> ●中土佐町農林水産課、県（須崎農業振興センター）： <p style="margin-left: 20px;">栽培暦作成の指導・助言、現地巡回指導、現地検討会の開催、栽培暦に沿った栽培管理の実践支援、地域内外の現地視察による栽培技術の向上支援</p> 				
◆高付加価値米の販路拡大と販路の確保	高付加価値米の販路拡大と販路の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●おのおみエコロジーファーマーズ： <p style="margin-left: 20px;">お米コンクールの上位入賞を目指す取り組み（栽培管理の徹底）を通じたエコ米の高付加価値化（ブランド化）、地域内外との交流活動（小中学校、県立大学）を通じた、おのおみエコロジーファーマーズの認知度向上と販売促進</p> ●中土佐町農林水産課、県（須崎農業振興センター）： <p style="margin-left: 20px;">各種活動の支援・サポート、必要に応じた補助金等の活用支援</p> 				
<p>【用語】</p> <p>エコ米：おのおみエコロジーファーマーズが設定した栽培管理を実践し、品質や食味値の基準をクリアした米で、「四万十の清粒 特裁 大野見米」と「特裁大野見米」がある。</p> <p>四万十の清粒 特裁 大野見米：化学肥料・化学合成農薬の使用回数を削減した栽培を行い、品質（等級：2等級以上、食味値：80以上）の厳選された米</p>					

AP名 (実施地域)	No.3 梶原産キジ肉の加工・販売の拡大 (梶原町)
実施主体	◎(株)四万川、梶原町
APへの位置づけ	H25.9月
事業概要	梶原町内で生産されているキジ肉の加工品について、県内外の飲食店や個人への販売拡大の取り組みを行うとともに町内飲食店での消費の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
販売額	1,458万円 (H30)	1,429万円	1,248万円		1,785万円

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆品質の向上と出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌へのミネラル投入（死亡等が改善）（H25） ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した熟成用恒温高湿庫・冷凍庫の導入（H27） <p>◆販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県主催の畜産商談会への出展（H27～28） ・大阪での商談会「土佐の宴」への出展（H28） ・県主催の県産品商談会への出展（H28～R元） ・まると高知商談会への出展（H30） ・県版 HACCP 第2ステージ認証取得に向けた取り組み（H28～） ・熟成肉等の業務筋等への直接営業 ・産業振興アドバイザー招へい（H30、R元） ・SNS等を活用した情報発信 ・町外で開催する「ゆすはらフェア」への出展 <p>◆キジ肉消費向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内でキジ料理を提供する店舗を紹介するパンフレット「召ませ雲の上のキジグルメ」の作成・配布（H26～） ・梶原町観光開きやグルメまつり等の町内イベントへの出展 ・「土佐のきじ祭り」の開催（R2～） 	<p><主な成果></p> <p>◆熟成肉の売上</p> <p>H27：0円 → H28～30 累計：42.8万円 R元：39万円 → R2：29万円 → R3：30万円</p> <p>◆取引件数</p> <p>H29：65件 → R元：85件 → R2：86件 → R3：76件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金の活用による加工施設の新設（R4） ・集落活動センター推進事業費補助金の活用による鶏舎の新設（R4） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の減少に伴う担い手不足 ・営業力の強化 ・ガラを活用した新たな販路の確保 ・認知度及びブランド力の向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆品質の向上と出荷体制の強化及びキジ供給体制の確保	品質の向上と出荷体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万川：熟成肉の製造、孵化率の向上、県版 HACCP 認証取得を生かした品質づくり（危害要因除去・衛生管理の構築） ●県（地域本部等）：梶原町、西部家畜保健衛生所との連携・情報共有 				
	加工整備・検討		加工整備・運営		
◆販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町：施設整備の検討・実施 ●県：検討会議への参加・助言、事業計画について産業振興アドバイザーの活用 				
	キジ供給体制・生産者の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万川：新規就農者の確保 ●梶原町：複合経営の仕組みづくり、生産事業モデルの作成等による新規就農者の確保 ●県：課題解決に向けた産業振興アドバイザーの活用提案 				
◆ブランド化及びキジ肉の消費向上	県内及び県外に向けた営業力の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万川：販売促進用グッズの磨き上げ、県内・外事業者等のガラ等の業務用商品ニーズの情報収集、商談会への出展（高級ホテル等への熟成肉のPR）、産業振興アドバイザーの指導による営業担当の人材育成 ●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介、関係者への橋渡し 				
	SNSを活用した個人顧客の獲得				
◆ブランド化及びキジ肉の消費向上	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万川：販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、SNSを活用した情報発信 ●県（地域本部等）：SNSを強みとする産業振興アドバイザーの活用提案、土佐MBA等の講座等の紹介 				
	ブランド化及び各種イベントでの販売・梶原産キジ肉の認知度向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万川：先進地視察や専門家の支援によるブランド力の強化 ●梶原町：高知市内で開催している「ゆすはらフェア」等町外のイベント等への出展依頼、マスコミを通じたPR ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案 				

AP名 (実施地域)	No.4 梶原産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化 (梶原町)
実施主体	◎(一社)津野山畜産公社、梶原町
APへの 位置づけ	H28.9月
事業概要	繁殖牛の増頭による一貫生産飼育体制が整い、生産から飼育・販売が強化され、さらに肥育牛の増頭による販売頭数の増加が可能となった。また、地域農家の繁殖牛の夏季カルスト放牧事業を継続し、今後、生産子牛の地域農家への供給を行い、地域全体のブランド化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 販売額	1.3 億円 (H30)	0.85 億円	1.5 億円		1.9 億円
(2) 出荷頭数	92 頭 (H30)	113 頭	146 頭		186 頭

これまでの主な動き

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)津野山畜産公社とJAの畜産部門の合併 (H29) ・中山間複合経営拠点施設となり、他事業(土づくりセンター管理業務)に着手 (R3) <p>◆飼育頭数の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖牛の導入 (H29～) ・国補助金と産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した繁殖肥育畜舎の整備 (H29) ・国補助金を活用した子牛畜舎、分娩畜舎等整備 (H30) ・WCS、町内稲わらの積極的購入 <p>◆梶原町産牛肉の認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆずはらグルメまつり・土佐牛まるかじり大会でのPR (H28～) R2・R3年度は中止、R4実施 ・県主催の県産品商談会のチャレンジコーナーへの出展 (H30) ・学校給食におけるメニュー提供(食育及び地域産業の学習) (R元～) ・インターンシップ事業の実施 (R元～) 	<p><主な成果></p> <p>◆組織体制の強化</p> <p>(一社)津野山畜産公社とJAの畜産部門の合併 → 新規雇用1名増員 (H29)</p> <p>◆繁殖牛の導入頭数</p> <p>H29: 50頭 → H30: 92頭 → R元: 41頭 →R2: 5頭 →R3:7頭</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産農家の高齢化、後継者育成支援 ・生産者の減少に伴う担い手不足 ・飼料高騰に対する対応 ・繁殖用・肥育用子牛の高騰による地域畜産農家の負担増への対応 ・子牛の安定供給による地域ブランド化の強化 ・梶原町産牛肉「カルスト牛」ブランド化の確立に向けた梶原町畜産クラスター協議会等の開催 ・津野山畜産公社の増頭及び経営管理

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆組織体制の強化	<p>関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)津野山畜産公社： インターシップの受入れ（農大や専門短期大学等の受入れをR元年度より実施） ●梶原町： 複合経営モデルの提示による移住者の確保推進 ●県（地域本部等）： 畜産関係各課との情報共有、移住促進のための情報発信 				
◆飼育頭数の増加	<p>計画的な増頭・地域農家への子牛供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)津野山畜産公社： 繁殖牛の預かり事業や種付け作業、優良母体、子牛等の販売、繁殖素牛の購入、出産子牛・肥育牛の飼育・出荷 ●県（西部家畜保健衛生所）： 増頭に伴う飼育牛の健康管理や妊娠中の検査及び安定供給のための飼育方法等の実証試験等の強化 				
◆梶原町産牛肉の認知度向上	<p>町内及び町外でのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ●梶原町： ゆすはらグルメまつり、土佐牛まるかじり大会でのPR、学校給食への提供、産業の教育（食育）、四国カルストでの放牧をPR ●梶原町畜産クラスター協議会： 道の駅等の市場における観光客への販売、ふるさと納税返礼品としての提供、雲の上のレストランでのメニュー提供 ●県（地域本部等）： 県主催の商談会への出展依頼、商品開発のための産振アドバイザーの活用提案 				
<p>【用語】・複合経営：販売収入の80%以上を占める分野がない農家が、2つ以上の分野を組み合わせて経営をすること。梶原町の場合は、畜産、林業、農業が主な組合せである。</p> <p>・繁殖牛：種付けして子牛生産することを目的として飼養される雌牛</p> <p>・繁殖素牛：将来的に種付けして子牛生産することを目的として、自家保留（所有している雌牛から産まれた雌子牛を販売せずに手元に残すこと）または外部導入（家畜市場等を通じて購入すること）された育成雌牛</p>					

AP名 (実施地域)	No.5 つの茶販売戦略 (津野町)
実施主体	◎JA 高知県 (高西地区)、津野町
APへの位置づけ	H21. 4月
事業概要	四万十川源流域でとれた茶にこだわり、原材料から製品まで一貫して生産加工した茶製品の販売拡大により、荒茶販売単価を引き上げ、生産所得を向上し、茶産地の維持を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 茶製品販売額	3,200 万円 (H30)	1,274 万円	1,892 万円		4,000 万円
(2) 荒茶販売額	4,039 万円 (H30)	2,524 万円	2,862 万円	3,166 万円	5,000 万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)はりま家との OEM 連携による商品開発 (H28) ・ゆるキャラグランプリ「しんじょうくん」ペットボトルの販売開始 (H28～R元) ・キンビール高知支店との連携協定事業の開始 (H29～R3) ・海外市場 (台湾・シンガポール) のマーケティング調査 (H28 販路開拓支援事業助成金) ・商談会への出展 (H29～R2、R4～) ・ツノチャ・マルシエの開催 (H28～) ・「土佐茶を使ったお酒が飲めるお店 MAP」を土佐茶プロジェクトと共に作成。「津野山ビール」取扱店舗 21 店掲載 (R元) ・津野山ビール時間キャンペーンの一貫でサニーマート 7 店舗にて店頭販売の実施 (R2) ・産業振興アドバイザー (課題解決型) の活用によるつの茶販売戦略計画見直し (R2～R3) <p>◆品質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶工場の改修とクリーンルーム及び自動充填機等の整備 (H27 国：強い農業づくり交付金、県：産振補助金) ・県版 HACCP 第 2 ステージの認証取得 (H29) 	<p>◆生産の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉山地域への茶アドバイザーの導入 (H30) ・自走式茶園管理機の導入 (H30 土佐茶産地育成事業) ・地域おこし協力隊による放棄茶縁の整備 (H30.12～R3.11 1名) ・津野町茶業振興計画 (仮称) 策定 (R4) <p><主な成果></p> <p>◆取引店舗数 (津野山ビール導入店)</p> <p>H28 : 33 店舗 → R2 : 41 店舗 →R4 : 56 店舗</p> <p>◆品質管理</p> <p>高知県茶品評会にて、最優秀賞から上位 5 位まで津野山茶生産組合が独占受賞 (H29)</p> <p>◆生産の維持</p> <p>放棄茶園の再生・維持 R3 : 約 0.8ha → R4 : 0.72ha</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地及び生産量の維持 ・新たな販路開拓や PR 活動など、販売体制の強化 ・荒茶、茶製品の品質管理
---	---

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆販売体制の強化	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 新たな販路開拓とプロモーション活動 </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（高西地区）、津野町： 「Tsunoyama view tea」など、顧客やニーズに合わせた飲用シーンの提案、商品パッケージの改良、プロモーションなど ●県（地域本部等）：商品改良のためのアドバイザー活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆品質管理	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 茶工場の運用とクリーンルームの活用 </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（高西地区）、津野町： 販促ツールの作成、つる茶 PR のためのイベントの開催、町内外の販促イベントや各種商談会への出展、国内外の市場調査の実施、企業や大学等との連携事業、プロモーション、SNS などを活用した認知度向上 ●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介、貿易に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係機関への橋渡し 				
◆生産の維持	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> つる茶販売戦略会議の取り組みの強化 </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（高西地区）、津野町： 津野山生産組合やつる茶販売戦略会議等を通じた情報共有、茶農家の状況やニーズ把握 茶園のマップ化とトリアージ（優先度）など、計画的な生産管理 摘み取り作業の機械化、生産管理受委託の斡旋、担い手の確保 かぶせ茶や釜炒り茶など、市場価格に左右されない商品づくりへの提案 ●県（地域本部等）： つる茶販売戦略会議への参画支援、情報提供、関係機関への橋渡し 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・かぶせ茶：茶樹に覆いをして成長させた茶芽でつった茶のこと。成長期の茶芽は、直射日光を遮ると渋みが少なく甘みの強いコクのお茶ができるため、かぶせ茶は、玉露と高級煎茶の中間という表現がされ、市場で高く取引がされている。</p>					

AP名 (実施地域)	No.6 四万十のうまい栗・芋クラスタープロジェクト (四万十町)
実施主体	◎四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、(株)無手無冠、清流栗庵 (株)四万十ドラマ、しまんと新一次産業(株)
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	大正・十和地域の栗と芋の加工に携わる事業者が主体となって、JAや地域内の生産者、さらには四万十流域の生産者とも連携し、農業者所得の向上と6次産業化の仕組みを作り、中山間地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
JA 栗集荷量 (西土佐・大正・十和)	26t (R元)	29.0t	29.5t	26.6t	50t
人参芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	24t (R3)	—	24t	44t	40t
栗ペースト出荷量 (しまんと新一次産業(株))	9.3t (R3)	—	9.3t (R3)	—	10t
(株)四万十ドラマ加工品販売額	2.42億円 (R3)	—	2.42億円 (R3)	—	3.0億円

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆生産量の増大

- ・苗木の補助などにより、栗の新改植を推進 (H22～)
- ・担い手として「しまんと新一次産業(株)」設立 (H24)
- ・栗技術チーム会での低樹高化に向けたせん定技術の普及、特選栗認定の推進 (H24～)
- ・人参芋の栽培を推進する「四万十の芋プロジェクト協議会」が設立。(R3)

◆施設機械整備

- ・産地パワーアップ事業により、しまんと新一次産業(株)ペースト工場が完成 (H29)
- ・次世代型ハウス・農業クラスター促進事業によりしまんと新一次産業(株)に高品質ペースト機械導入 (R元)
- ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別事業費補助金を活用した(株)四万十ドラマ新工場(地栗工場)の施設整備 (R3)

◆ブランド化

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用したカフェを併設した加工場「おちゃくりカフェ」の整備(H25)
- ・(株)四万十ドラマ直営店「とわ」オープン (H30)
- ・県版 HACCP 第3ステージ認証取得(地栗工場) (R3)

＜主な成果＞

- ◆(株)四万十ドラマ雇用者数
H27: 8人 → R元: 9人 → R2: 11人
→ R3: 15人
- ◆新商品開発
R3: 8品

＜課題＞

- ・高齢化等による耕作放棄地の増大
- ・2次加工施設整備による安定生産
- ・新商品の開発とブランド化による販路の拡大

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産量の増大	栗の生産拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十の栗再生プロジェクト推進協議会： 新改植の推進、せん定指導体制の整備、せん定技術の普及、樹園地マップ作成 ●県（高南農業改良普及所等）： 剪定講習会、目慣らし会開催支援 				
◆施設機械整備	芋の生産拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十ドラマ（四万十の芋プロジェクト協議会）： 栽培技術の高位平準化、研修会等の開催 ●県（高南農業改良普及所等）： 病害虫対策の周知、有機農業に関する情報提供 				
◆施設機械整備	2次加工施設整備				
	新加工施設による安定稼働と商品開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十ドラマ： 新加工施設の建設 ●県（地域本部等）： 各種補助事業の活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十ドラマ： 新加工場での商品増産、新商品の開発 ●県（地域本部等）： 新商品開発のためのアドバイザー活用提案 		
◆施設機械整備	ペースト加工施設の安定稼働（1.5次：ペースト加工）				
	<ul style="list-style-type: none"> ●しまんと新一次産業(株)： 製造方法の改善、高品質ペースト機器によるペースト加工の品質向上 ●県（地域本部等）： 品質向上のためのアドバイザーの活用提案 				
◆ブランド化	ブランド化による商品カアツプ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十ドラマ： 商標等の検討、商品開発、販路拡大 ●県（地域本部等）： 商品開発等のためのアドバイザーの活用提案 				

AP 名 (実施地域)	No.7 四万十町畑作振興プロジェクト (四万十町)
実施主体	◎四万十野菜(同)、(株)ハマヤ
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	町内で栽培される特別栽培等、こだわり野菜の流通拠点施設を整備し、四万十野菜(同)や(株)ハマヤを通じた外商活動等により野菜の産地化を進めるとともに、規格外品を活用した商品開発や仁井田米の販売促進により地域の農業者の所得向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 四万十野菜(同) 売上高	8,525 万円 (H30)	1 億 1,628 万円	1 億 1,738 万円		1.2 億円
(2) 四万十野菜(同) 雇用者数	9 人 (H28~R 元累計)	7 人	7 人		12 人 (R2~R5 累計)

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆こだわり野菜の生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培面積の拡大 (H28~) ・栽培品目の集約による作業の効率化 (H28~) ・勉強会、研修会、現地検討会の開催 (H28~) ・サトイモ、ショウガの出荷調製機械の導入 (H30) ・JGAP 認証取得 (R2) ・有機 JAS 認証取得 (R3) <p>◆6次産業化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践コースセミナー参加による新商品開発 (R2) ・アップグレードコースセミナー参加による磨き上げ (R3) ・産振アドバイザー(課題解決型)の活用による商品化の検討 (R元・R3) ・6次産業化プランナーの活用による商品化の検討 (R元~) ・県版 HACCP の認証取得に向けた研修参加 (R3) ・新事業チャレンジ支援事業活用による加工施設の整備 (R4) <p>◆外商活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十野菜(同)ホームページ開設 (H29~) ・県環境保全型農業推進事業の活用による「しまんと畑」のブランディング化に向けた検討会の開催 (H29) 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会、商談会への出展 (H28~) ・流通拠点の整備に向けた検討 (R元) ・主要取引先の集約 (H30) ・出荷調製施設拡充 (R2) <p><主な成果></p> <p>◆栽培面積拡大 H28 : 335a → R3 : 400a ※緑肥などの作付による輪作の推進</p> <p>◆新商品 開発済み : コーディアル 4 種類、ガリ 3 種類 開発中 : 香辛料(土佐七味)、コーディアル 2 種類</p> <p>◆主要取引先 H28 : 12 社 → H30 : 23 社 → R2 : 10 社 ※条件の有利な取引先に絞り込んで経営の安定と販売高の向上に繋がた</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の向上による生産安定 ・6次産業化の推進による経営安定 ・流通拠点の整備による外商活動強化
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆こだわり野菜の生産安定	<p>栽培技術向上による生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十野菜(同) : 土づくり、輪作の実施、緑肥の活用、JGAP 認証取得・更新（農業生産情報管理システムの活用）、就農希望者の雇用 ●県（地域本部等） : 栽培に関する勉強会の開催、巡回指導、GAP 指導員による現地指導、環境保全型農業推進事業（有機農業実践支援）、農業生産工程管理推進事業等各種支援制度の活用提案 				
◆6次産業化の推進	<p>規格外品等を活用した野菜ペースト等の商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十野菜(同) : 市場調査、試作品製造、テスト販売 ●県（地域本部等） : 6次産業化セミナーの活用提案 		<p>施設・機械整備による安定生産・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十野菜(同) : 生産体制整備、商談会への出展 ●県（地域本部等） : 補助事業の活用提案 		
	◆外商活動の強化				
<p>こだわり野菜・仁井田米の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十野菜(同)、(株)ハマヤ : 展示会や商談会への出展、ライスセンター整備の検討 ●県（地域本部等） : 商談会等の紹介、環境保全型農業推進事業（有機農業実践支援）等各種補助事業の活用提案 					
<p>町内外の流通体制の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ハマヤ : 一元集荷体制、輸送システムの検討 ●県（地域本部等） : 補助事業の活用提案 		<p>流通拠点施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ハマヤ : 安定集荷体制の整備、効率的な輸送システム構築 ●県（地域本部等） : 補助事業の活用提案 			

AP名 (実施地域)	No.8 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト (四万十町)
実施主体	◎四万十ポークブランド推進協議会、(農)平野協同畜産、(有)渡辺畜産、(株)山中畜産、 (農)四国デュロックファーム
APへの 位置づけ	H27.4月
事業概要	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制を再構築し、関係機関が連携して 一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性 の向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 四国デュロックファーム 加工品売上高	9,202万円 (H30)	1.15億円	1.25億円		1.2億円
(2) 平野協同畜産 母豚数	477頭 (H30)	465頭	471頭		500頭
(3) 平野協同畜産 年間出荷頭数	9,693頭 (H30)	10,724頭	10,759頭		11,000頭

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆ブランド化の推進

- ・四万十ポークブランド推進協議会設立 (H26)
- ・四万十町養豚クラスター計画とブランド化の方針を策定 (H26)
- ・ブランド化に向け関係者でワークショップを開催 (R元)
- ・四万十ポークのロゴマーク決定 (R2)

◆商品開発と販路開拓

- ・産振総合補助金を活用し、デュロックファーム直営の加工所及び直販所を整備 (H27)
- ・バーベキュー場 (四万十町内) (H28～)
- ・高知市テナント店 (55番街、ひろめ) (H28～R4)
- ・高知市テナント店 (鳶屋書店内) (H30～)

◆生産基盤の強化

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、(農)平野協同畜産の豚舎施設を整備(H28～29)

- ・高知県初の農場 HACCP 推進農場に認定 (H28)
- ・四国初の養豚農場 HACCP 認証取得 (R元)
- ・大規模畜産施設整備事業・畜産クラスター事業(国)を活用した豚舎施設整備の実施
→(農)四国デュロックファーム (R3～R4)
→(有)渡辺畜産 (R4～)

<主な成果>

◆雇用の創出

- ・加工直販所 ((農)四国デュロックファーム)
H27: 1人 → R3: 25人
- ・養豚農家 (研修生)
H27: 0人
→ R3: 1人 ((農)平野協同畜産)

<課題>

- ・生産性向上のための畜舎整備及び衛生対策
- ・地区住民の理解醸成
- ・飼料高騰への対応

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ブランド化の推進	商標登録の取得、周知活動 <ul style="list-style-type: none"> ●四万十ポークブランド推進協議会： ロゴマークの作成、商標（意匠）及び地域団体商標の取得、地域を巻き込んだ周知活動の推進 ●県（地域本部等）： ブランド化促進のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
	SNS を活用したプロモーション <ul style="list-style-type: none"> ●四万十ポークブランド推進協議会： 販促ツールの作成、専用ウェブサイトの開設 ●県（地域本部等）： 効果的な広報活動のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆商品開発と販路開拓	販促活動 <ul style="list-style-type: none"> ●（農）四国デュロックファーム、平野協同畜産： 新商品の開発、販路の拡大（催事への出展、商談会等への出展） ●県（地域本部等）： 新商品開発に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆生産基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> （農）平野協同畜産 畜舎整備、環境対策等 （有）渡辺畜産 用地取得、造成 → 施設整備 → 新施設での増頭 → 肥育舎改修 山中畜産 臭気対策、効果検証、地区住民の同意獲得、畜舎整備 （農）四国デュロックファーム コンポスト導入 → 畜舎整備計画作成、地区住民の同意獲得、畜舎整備 <ul style="list-style-type: none"> ●町内養豚農家：畜舎移転及び整備、環境対策、糞尿をたい肥化する施設（コンポスト）導入等 ●県（家畜保健衛生所等）：防疫衛生に関するアドバイス、各種補助事業の紹介 				
<p>【用語】・農場 HACCP：農場の衛生管理を向上させるため、農場に HACCP の考え方を取り入れ、危害要因を防止するための管理ポイントを設定、継続的に監視・記録を行うことで、農場段階で危害要因をコントロールする手法のこと。畜産分野においては、家畜の疾病等の要因分析を行い、排除または管理する方策の構築、家畜の健康維持の確保、家畜、畜産物の安全性の確保と生産性の向上を可能とする。</p>					

AP名 (実施地域)	No.9 四万十次世代ハウス団地におけるトマト等栽培の経営強化クラスタープロジェクト (四万十町)
実施主体	◎四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ、(株)四万十あおぞらファーム、山本商店、民間事業者等
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	次世代施設園芸団地で栽培されているトマト及びパプリカの病虫害防除対策の確立により生産を安定させるとともに、輸出の検討等、新たな販路の開拓を行い、次世代団地の経営強化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高※	5.8億円 (R元)	5.96億円	5.26億円	5.08億円	6.5億円

※前年8月～当年7月

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産開始 (H28) ・病害防除に関する対策検討会 (R元:4回、R2:1回、R3:1回) ・幹部社員に対する病虫害に関する研修会の開催 (H28:6回、H29:2回、H30:2回、R元:4回) ・病害発生状況等調査 (H30:9回、R元:18回、R2:9回、R3:12回) ・養液分析の実施 (H28～1回/月) ・あおぞらファーム育苗施設 (7.8a) の整備 (H30) ・次世代団地雇用対策PT会を結成 (H26) ・雇用対策を検討 (H26:1回、H27:5回、H28:2回) ・パプリカの導入 (R4.8～) <p>◆低コスト省力化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機物処理加工施設の設置 (R元) <p>◆規格外品トマトを活用した加工品の販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品 (トマトカレー、ピューレ) の開発 (H28) ・加工品販売開始 (H28) 	<p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>H28:0人 → R元:77人 → R2:73人 → R3:55人(雇用の定着により、ごく短期の雇用による人の入れ替わりが減ったため)</p> <p>◆トマト青果販売数量 (3社合計 四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ)</p> <p>H29:1,435t → H30:1,610t → R元:1,744t → R2:1,645t → R3:1,371t</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホモプシス茎枯れ病対策の確立 ・病虫害対策の徹底

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産の拡大	ホモブシス茎枯れ病の防除対策の確立 <ul style="list-style-type: none"> ●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：病害発生調査、作業の改善 ●県（高南農業改良普及所）：病害発生調査、防除法の確立 			防除対策の実践 <ul style="list-style-type: none"> ●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：従業員への改善作業の徹底 ●県（高南農業改良普及所）：防除対策講習会の開催 	
	適正な栽培管理による草勢維持 <ul style="list-style-type: none"> ●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：温度、湿度、かん水等栽培環境制御による適正管理 ●県（高南農業改良普及所）：養液分析（1回/月）の実施、栽培管理への助言 				
	良質苗の供給（四万十あおぞらファーム） <ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十あおぞらファーム：病害虫防除の徹底 				
◆低コスト省力化の推進	省力化技術の検討 <ul style="list-style-type: none"> ●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：スマート農機の導入、利用 ●県（高南農業改良普及所）：スマート機器（自動運搬機、自動受粉機、環境制御器他）の省力化能力等調査 			省力化技術の実践 <ul style="list-style-type: none"> ●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：スマート機器の有効利用 	
	省エネルギー化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)晩産業、山本商店、四万十町森林組合：おが粉燃料の安定供給 ●四万十町、県（農業イノベーション推進課、須崎林業事務所、地域本部）：「おが粉製造施設」の有効活用の検討 				
◆販路開拓	加工品の販売先の開拓 <ul style="list-style-type: none"> ●四万十とまと(株)：商談会やイベントへの出展による販路開拓、海外への販路開拓に関する調査の実施等 ●四万十町、県（地産地消外商課、地域本部）：商談会等情報提供、海外販路開拓への支援 			青果の販売先の開拓 <ul style="list-style-type: none"> ●四万十とまと(株)：商談会やイベントへの出展等による国内外の販路開拓 ●四万十町、県（地産地消外商課、農産物マーケティング戦略課、地域本部）：商談会等情報提供、海外販路開拓への支援 	

AP名 (実施地域)	No.10 「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進 (中土佐町、四万十町)
実施主体	◎四万十町森林組合、須崎地区森林組合、四万十町、中土佐町、地元事業者
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	四万十地域の森林資源の販売拡大を進めるため、原木の増産と、広域で取り組む「四万十ヒノキ」のブランド化を図るとともに、「四万十ヒノキ」ブランド商品を販売する地元事業者との連携による販売力の強化を進める。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
集成材工場の売上高	2億円 (H30)	1.9億円	1.6億円		3億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆「四万十ヒノキ」の基準等の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「四万十ヒノキブランド化推進協議会」において四万十ヒノキの定義を設定し、ロゴマークを作成 <p>◆大正集成材工場の売上拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した四万十町森林組合大正集成材工場への展示施設整備 (H28) ・外商活動の積極的な展開 (年間約 350 回、うち県外 100 回程度) ・新規商品開発を実施 (ペット仏壇、キャビネット、テーブル等) ・新ブランド「シメントヒノキファニチャーワークス」を展開 (R3～) ・経営コンサルタントによる事業戦略の策定、実践 (R元～R4) <p>◆FSC等認証森林の拡充とPR強化及び積極的な営業活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証面積が 511ha の増となり、認証材の安定供給の体制が整った <p>◆「四万十ヒノキ」ブランド商品を販売する地元事業者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元事業者との連携が図られた (3社) <p>◆コロナ禍に対応した新たな営業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットショップ「BASE」の開設 (R2～) ・Instagramやメール、ポスター等を活用した情報発信 ・シメントヒノキファニチャーワークスの販売サイトを開設 (R3～) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大口の受注があった H29 年度は目標を超える売上を達成 (3.5 億円) ◆大手ベッドメーカーとの安定的な取り引きを継続 H27 : 140 台 → R3 : 262 台 ◆民間の商業施設等の内装(什器類等)の受注が増加し始めた ◆県外外商活動 (保育博等) で接点を持った企業 (約 40 社) への営業活動を継続中 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大口受注に頼らない集成材工場の安定した売上を確保するための営業スキームの構築 (公共案件以外の商品販売促進、保育園家具、学校用 DIY キット等) ・「四万十ヒノキ」ブランドの普及拡大 ・営業職員不足下での首都圏営業活動の工夫 (インスタアップによる商品の周知徹底、リモート商談の推進)

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆大正集成材工場の売上拡大</p>	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: right; margin-bottom: 10px;">「四万十ヒノキ」に代表される地域木材資源の販売拡大、販売策の検討</div> <div style="border: 1px solid #4a86e8; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町森林組合： <ul style="list-style-type: none"> 新商品の開発による安定的な売上の確保 展示施設を活用したバイヤーとの産地商談を通じた取引先の開拓 首都圏などにおける展示商談会への出展を通じた取引先の開拓 大都市圏の集客施設での商品展示を通じた営業展開 大手メーカーとの取り引きの継続及び拡大、大口受注の獲得に向けた取り組み インターネットを活用した販売ツールの拡充 ●四万十町森林組合、須崎地区森林組合、四万十町、中土佐町： <ul style="list-style-type: none"> 四万十ヒノキブランド化推進協議会の取り組みを通じたブランド化の推進 ●県（須崎林業事務所）： <ul style="list-style-type: none"> 四万十ヒノキブランド化推進協議会へのサポートや、各種補助支援制度などの情報提供 </div> <div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: right; margin-bottom: 10px;">大正集成材工場の事業戦略の策定及び実行</div> <div style="border: 1px solid #4a86e8; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町森林組合： <ul style="list-style-type: none"> 経営コンサルタントによる経営診断に基づいた事業戦略の策定及び実行 ●県（須崎林業事務所）： <ul style="list-style-type: none"> 大正集成材工場が取り組む事業戦略の策定及び実行の支援 </div>				

AP名 (実施地域)	No.11 「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進 (梶原町、津野町)
実施主体	◎JA 高知県 (高西地区)
APへの位置づけ	H21.9月
事業概要	「原木シイタケ」を地域の特産品として磨き上げ、生産者の所得向上につなげることを目的として、生産者のスローガンである「1億円産業の復活」を目指すため、基幹生産者と新規生産者の確保・育成による担い手対策や、販売先の開拓を行い、販売ルートの拡大、生産施設の整備や低コストで原木を確保する対策など生産基盤施設の整備を実施する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
乾燥椎茸の販売量	4.4t (H30)	2.3 t	1.9 t		11t

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産の担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾燥椎茸の乾燥方法の見直し (低温乾燥方式)による品質及び所得向上 (H30～) ・JA 及びきのこセンターによる講習会・直接訪問指導等 (H26: 2回、H27:3回、H29:2回、H30:3回、R元:2回、R2:4回、R3:4回、R4:4回) <p>◆商品力の強化と直販ルートの開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椎茸生産部会に小部会「億産会」を設置 (H25) ・県しいたけ振興大会、乾燥椎茸品評会への出品 (H27～) ・低温乾燥技術の導入 (H30～) <p>◆シイタケ生産基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特用林産振興対策事業補助金を活用した原木と種駒等の購入 (原木 11,662本、種コマ 122,000個、形成菌 358,000個 (H27)) ・梶原町補助金を活用した原木と種コマ (シイタケの元となる菌) の購入 (H28～) ・町有林2箇所 で原木を確保 (R元) 	<p><主な成果></p> <p>◆生産の担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の確保には至っていないが、「低温乾燥方式」への見直しにより、単価が向上し、収入増につながった。 <p>◆商品力の強化と直販ルートの開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者が一丸となって取り組むための組織づくりができ、意欲ある生産者が主体となった意見交換等を実施 → 今後の販路や生産についての意見交換等ができた。 ・低温乾燥技術導入による高品質商品の開発 → 平均単価向上による所得向上 従前：2,800円/kg R元：4,599円/kg R2：4,266円/kg R3：4,258円/kg <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産技術の向上と新規生産者の確保 ・安価な原木確保 ・低温乾燥方法の徹底

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産の担い手対策	産地をけん引するモデル経営体の育成・経営力向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（高西地区）、生産部会： 新規生産者の確保・育成（新規生産者を重点に講習会、直接訪問指導）の実施、低温乾燥方法を中心とした産地の技術、複合経営による産地の基盤づくり ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆商品力の強化と直販ルートの開拓	生産者と連携した営業活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（高西地区）、生産部会： 産地ブランド化、既存商品の磨き上げ、新たな販売先の開拓、低温乾燥シタケのPR、億産会との品質の向上、栽培技術の向上等の連携 ●県（地域本部等）： 高知6次産業化サポートセンターの事業等の提案、農業改良普及所等との連携 				
◆シタケ生産基盤の整備	低コスト生産のための原木対策				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（高西地区）： 町内の民有地や町有地を活用した原木の確保 ●梶原町： 町有林の情報提供 ●県（地域本部等）： 林業事務所等との情報共有等 				
<p>【用語】・複合経営：2つ以上の部門を組み合わせた経営。販売収入の80%以上を占める部門が一つもない農家のこと。梶原町の場合は、〈畜産〉〈林業〉〈農業〉が主な組合せである。</p> <p>・億産会：生産者の生産量増大や品質向上を図るために結成された椎茸生産部会の小部会組織</p>					

AP名 (実施地域)	No.12 循環型社会を推進するための梶原町森林資源の有効活用 (梶原町)
実施主体	◎梶原町森林組合、ゆすはらペレット(株)、梶原町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	持続可能な森林経営のもとで計画的な木材生産を行い、FSC 森林認証基準に基づき生産した木材製品の販売、及び林地残材等を活用した木質ペレットの製造・販売等を通じて、地域林業の中核となる森林組合の経営体質を強化し、森林所有者の所得向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 認証材の販売量	998 m ³ (H30)	986 m ³	1,137 m ³		1,200 m ³
(2) ペレット生産量	1,276t (H30)	1,347t	1,456t		1,700t

これまでの主な動き

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆FSC 認証材製材品の販売強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の工務店、木材問屋への、継続的な営業展開に取り組んだ。(H30～R3) ・香川県の工務店を対象に官民連携による産地商談会を実施 (H29～R3) ・木材の強度、含水率を測定するグレーディングマシンを導入 (R3) <p>◆木質ペレットの販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場を改装して樹種別の粉砕機を導入 (H30) ・燃焼灰製品化装置を導入 (R3) 	<p><主な成果></p> <p>◆FSC 認証材製材品の販売強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香川県での産地商談会や関西圏での営業活動により、新たなパートナー工務店との取引が開始 ・大阪府、山口県の工務店を招いた産地商談会を開催 ・グレーディングマシンの導入により、木材強度の表示が行えるようになり、付加価値の高い製品が出荷できる体制が整った。 <p>◆木質ペレットの販売拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場改装により、ペレットの品質が安定 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証材の販路拡大に向けた販路の開拓推進 ・ペレット需要先の開拓

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ FSC 認証材 製材品の販売 強化	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 新たな取引先の開拓と継続取引の獲得 </div>				
	<div style="border: 1px solid #4a86e8; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 梶原町森林組合： <ul style="list-style-type: none"> 関西圏などにおける住宅展への参加を通じた取引先の開拓、顧客獲得への取り組みとして、セミナーを活用した梶原材のPR、工務店、建築士とのつながりの強化、土佐材販売戦略と強調した販路拡大、工務店や設計者を迎えた産地商談会の開催 ● 梶原町： <ul style="list-style-type: none"> 販路拡大に向けた営業活動への支援 ● 県（須崎林業事務所）： <ul style="list-style-type: none"> 販路拡大に向けた営業活動への支援 </div>				
◆ 木質ペレットの 販路拡大	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> ペレット供給拡大によるゆすはらペレット(株)の経営の安定化 </div>				
	<div style="border: 1px solid #4a86e8; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● ゆすはらペレット(株)： <ul style="list-style-type: none"> ペレット製造の安定化、コスト削減による経営の安定化、買い取り先と連携した新たな需要先の開拓 ● 梶原町： <ul style="list-style-type: none"> 原木確保のための支援の継続 ● 県（須崎林業事務所）： <ul style="list-style-type: none"> 補助支援制度の情報提供 </div>				

AP名 (実施地域)	No.13 津野町森林・林業再生プロジェクト (津野町)
実施主体	◎津野町森林組合、(株)中成、津野町
APへの 位置づけ	H26.4月
事業概要	豊富な森林資源の有効活用及び森林所有者の所得向上を図るため、前計画期間に増設した山元貯木場の活用とあわせ、林地残材等の資源化や地域の活性化を目的とした地域資源活用システムを推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
山元貯木場木材取扱量	25,358 m ³ (H30)	19,049 m ³	30,272 m ³		30,000 m ³

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆原木取扱量の増</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の木材加工流通施設整備事業を活用した、津野町森林組合による原木の増産に向けた山元貯木場の整備及び原木の受入開始（H26、H28） <p>◆チップの安定供給</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の木質資源利用促進事業を活用した、地元事業者による木質バイオマス発電用チップ製造機（チップパー等）の導入にを通じたチップの供給体制整備及び未利用材の活用（H28） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 県外市場へ出荷されていた原木が津野町の山元貯木場に集荷され、取扱量が増加 木質バイオマス発電へ安定的なチップの供給 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> さらなる原木の取扱量の増 出荷者に対する価格情報や有利な採材方法の提供
--	---

WO					
第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆原木取扱量の増	<p>山元貯木場の取扱量の増</p> <ul style="list-style-type: none"> ●津野町森林組合： 県外の原木市場を利用している林産事業者や新規の自伐林業者への働きかけ ●県（須崎林業事務所）： 各種補助支援制度などの情報提供や、集材システム省力化への技術支援などを通じて地域の原木増産を後押し 				
◆チップの安定供給	<p>地域資源活用システムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)中成： 大規模バイオマス発電等へのチップの供給 ●県（須崎林業事務所）： 各種補助支援制度などの情報提供を通じて地域の原木増産を後押し 				

AP名 (実施地域)	No.14 浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大 (須崎市)
実施主体	◎土佐鯛工房、◎(株)小島水産、◎乙女会、◎(株)大東冷蔵、高知県漁協深浦支所
APへの位置づけ	H25.4月
事業概要	養殖魚(マダイ)生産者グループと養殖業に関連した民間企業、漁協とが連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷業者の販売戦略に左右されにくい販売力(魚価形成力、取引量の拡大等)を構築し、養殖業の振興に資する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 海援鯛出荷尾数	6.6万尾 (H30)	3.9万尾	3.4万尾		10万尾
(2) 乙女鯛出荷尾数	20.3万尾 (H30)	17.0万尾	11.9万尾		30万尾

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆品質の維持・向上と生産量の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規漁業就業者の確保を目的とした漁業就業セミナーの開催(H27:1回、R元:1回、R2以降は新型コロナウイルス感染症対策として開催なし) 生産者の確保を目的とした新規漁業就業者の長期研修生受入(H29:1名、H30:1名) <p>◆販路開拓と出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> バイヤーや飲食店事業者を対象とした産地見学会の開催(H28:13回、H29:2回、H30:5回、R4:2回) 県内外商談会への出展(H27:4回、H28:3回、H29:3回、R元:2回、R3:2回、R4:2回) 海外への輸出の開始(H29) → 生産量が確保できず、現在休止中 <p>◆加工体制の強化・新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金等を活用した先進的な加工機器(金属探知機、うろこ落とし機、フレマシ等)の導入(H25~26) HACCP研修等の受講(H29~30) 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理の強化に向け、県版HACCP第3ステージの認証取得(H30.10月) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆後継者の確保 長期研修からの独立1名(土佐鯛工房) ◆加工施設の拡張工事の実施 ・産業振興推進総合支援事業費事業を活用した加工施設の拡張工事が完了(R3.11月) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産魚の数量確保に向けた生産者数の維持 ・配合飼料高騰に対する対応 ・コロナウィルスの影響による出荷数量減少をふまえた販売先の確保 ・さらなる販路の拡大に向けた販売促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆品質の維持・向上と生産量の確保	後継者及び生産者の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐鯛工房： 新規就業者の確保及び指導による技術移転 ●乙女会： 販路拡大等有利販売の強化による生産者の乙女会への新規加入促進を通じた生産量の増加 ●県（中央漁業指導所等）、高知県漁協深浦支所： 新規漁業就業セミナー等の開催支援、漁業就業フェアの開催及び支援制度等に関する情報提供 				
◆販路開拓と出荷体制の強化	既存販路の継続及び新たな販路の拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大東冷蔵： 県内外商談会への出展、産地見学会の開催、ふるさと納税返礼品取り扱い等による販路の拡大 ●(株)小島水産： 県内外商談会への出展、ふるさと納税返礼品取り扱いや個別の商談等による販路の拡大 ●県（中央漁業指導所等）： 県内外商談会等の紹介、商談会の出展等に係る支援制度の情報提供、関係者への橋渡し 				
◆加工体制の強化・新商品の開発	加工施設の拡張		新商品の開発		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)小島水産： 加工施設の規模拡大及び高性能加工機械の導入による加工商品の生産能力の強化 ●県（地域本部等）： 産業振興推進総合支援事業費補助金等の活用に係る支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)小島水産： コンセプトづくり、試作品づくり、市場調査（消費者の意見集約）、製造方法等の検討、商品改良、商品化の実現 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、加工品試作に係る支援制度の情報提供 		

AP名 (実施地域)	No.15 アメゴ養殖事業の再生拡大 (梶原町)
実施主体	◎集落活動センター「おちめん」、梶原町
APへの 位置づけ	R3.4月
事業概要	江戸時代の記録に残るほど古くから親しまれた梶原のアメゴ養殖の担い手の育成確保、養殖環境整備及び供給体制の構築を通じて、再生拡大することにより、地域経済の発展と水産資源保護を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	0万円 (R元)	0万円	0万円		400万円

これまでの主な動き

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の確立・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメゴ養殖部会の設立に向けた検討会の開催 (R2) ・アメゴ養殖事業部会設立 (R3) ・オープンバージョンプラットフォームを活用した課題解決型産業創出の検討開始 (R3) ・中山間デジタル化推進補助金を活用した孵化施設の整備 (R4.6～) ・養殖池の改修 (R3) <p>◆担い手の確保・伝承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター「おちめん」内に「アメゴ養殖事業推進プロジェクト」を立ち上げ (R2.9) ・養殖事業を担う新たな担い手の募集 (R2.9～) <p>◆販路の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内飲食店への販売の検討 (R2) ・町事業者への供給の検討 (R2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の確保：1名 (R2.10) 	<p><課題></p> <p>養殖アメゴの安定生産、安定供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水量水質の確保 ・養殖施設の整備及びデジタル化による生産効率の向上 ・販路の拡大 ・人材の育成

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の確立・強化		組織の検討	運営組織の設立・強化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターおちめん：アメゴ養殖部会の設立 ●県（地域本部等）：会議への参加、関係機関への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町：組織の機能、スキームの検討と設立 アメゴ養殖部会を発展させ、新たな担い手法人を設立 成魚生産量8万尾（R8年度～現状2万尾）を実現する 養殖池造成等養殖環境整備 ●県（内水面漁業センター）：生産増加のためのアドバイス 		
			養殖環境整備・運営		
			<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町：安定供給に向けた養殖施設の整備の検討・実施 ●県（内水面漁業センター）：検討会議への参加・助言 		
◆担い手の確保・伝承		人材確保・人材育成による増産体制の確立			
			<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町（集落活動センターおちめん）：現事業者の下で、新たな担い手へ養殖技術の伝承 ●県（内水面漁業センター、地域本部）：増産に対する提案・助言、産振アドバイザーの導入検討 		
◆販路の拡大		町内飲食事業者への安定供給と町外同業他者へのPR強化			
		<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町（集落活動センターおちめん）： <ul style="list-style-type: none"> ・アメゴ養殖を行う町外同業他者への販促活動及び供給先の開拓拡大 ・町事業及び町内飲食店への安定供給 ・集落活動センター「ゆすはら西」の推進するゆすはらジビエと連携した販促活動の実施 ・アメゴ放流事業の実施及び太郎川公園再生に伴う新たなレストランでのメニュー化・土産品の開発 ●県（地域本部等）：県主催の商談会への出展依頼、商品開発のための産振アドバイザーの活用提案 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 			

AP名 (実施地域)	No.16 葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大 (須崎市)
実施主体	(株)アースエイド
APへの位置づけ	H25.9月
事業概要	須崎市浦ノ内地区にて自社有機栽培の葉にんにく、国産の麦味噌、白味噌を使用したぬたを生産し、東京の料亭やホテルなどに販売している。葉にんにくは有機栽培であり、増産が容易ではないことから、今後、商品の高付加価値化及びインターネット等を活用した直接販売の強化に取り組んでいく。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	5,418 万人 (H30)	1 億 3,539 万円	4,116 万円		8,000 万円

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p>◆生産の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫工程の見直しによる作業の効率化 (H30～) ・産業振興アドバイザーを活用した商品開発 (R元) ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した加工施設の整備 (H25) <p>◆商品の高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザーを活用した販路開拓に向けた商品コンセプトの磨き上げ (H28) ・衛生管理の強化に向けた県版 HACCP 第2ステージの認証取得 (H29) ・高知家のうまいもの大賞 2023 最優秀賞の受賞 <p>◆インターネット等を活用した直接販売の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザーを活用した自社運営のHP作成 (R元) ・個人販売の増加により生じた受発注管理における課題に対し、産業振興アドバイザーを活用した業務の効率化の実施 (R元) ・産業振興アドバイザーを活用したEC販売における受発注管理等事務作業の効率化 (R4) 	<p>◆雇用の創出</p> <p>H25 : 3人 (正規2人 パート1人年) → R3 : 5人 (正規2人 パート3人年)</p> <p>◆契約農家2軒と契約</p> <p>◆新規取扱店舗数</p> <p>H27 : 22軒 → R3 : 84軒</p> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路の開拓 ・天候等に左右されにくい安定的な生産 ・顧客ニーズを正確にとらえた商品開発及び商品改良 ・ターゲットとする顧客層への広報戦略の展開

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産の拡大	作付面積の拡大・栽培方法及び商品製造作業の効率化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)アースエイド： 有機栽培・製造分野（機械化等）についての情報収集、作業の効率化等コストダウンの方策の検討、自社及び契約農家での生産量の拡大 ●県（地域本部等）： 農業関連施策の紹介、県や関係機関の実施する研修・講座等の紹介、作業効率化等経営支援に関する施策やアドバイザー制度の提案 				
◆商品の高付加価値化	新商品開発及び広報戦略の策定・実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)アースエイド： 新商品の検討、専門家による市場調査を通じたターゲット層（主に健康美容分野）のトレンド把握 ●県（地域本部等）： 新商品開発や戦略策定のための産業振興アドバイザーの活用提案、地域内事業者との連携支援 				
	葉にんにくの機能性の調査				
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)アースエイド： ブランド戦略を含めた調査事項の明確化、機会創出のための SNS 等による期待できる効果等の情報の発信、機能性表示の検討 ●県（地域本部等）： 試験研究機関等関連機関との連携調整、関係機関への橋渡し 					
◆インターネット等を活用した直接販売の強化	情報発信手段の確立		SNS等を活用した情報発信及び個人顧客の獲得		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)アースエイド： 販促ツールの作成 ●県（地域本部等）： 個人顧客獲得に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)アースエイド： 職員の情報発信力のスキルアップ、ターゲットとする層におけるトレンド把握 ●県（地域本部等）： コピーライティング等ダイレクトマーケティングのための産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 		

AP 名 (実施地域)	No.17 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進 (中土佐町)
実施主体	企画・ど久礼もん企業組合、中土佐町
AP への 位置づけ	H21.4 月
事業概要	スラリーアイス等を活用した付加価値の高い水産物のブランド化を図り、販路を開拓することで漁業の活性化に貢献する。また、大正町市場を中心とした中土佐町の漁師町らしい物語性のある商品やサービスを開発し、町内の他の地域産品を併せて総合的に販売促進に繋げていく。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 商品売上高	3,269 万円 (H30)	2,460 万円	2,893 万円		4,900 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓（鯉乃國水産）</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した水産加工場の整備(H25～26) 水揚げ時期に左右されない安定供給のための冷凍商品の開発・販売（H29～） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※実施主体の変更</p> <p>H27～29 中土佐町地域振興公社</p> <p>H30～ (株)SEA プロジェクト</p> <p>R 元～ 企画・ど久礼もん企業組合</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> マイナス 50℃で保存可能な冷凍庫の整備（町単）（R4） <p>◆中土佐町の食文化を使った商品開発と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> 鯉を使った加工品の開発（H21～） <p>辛焼味噌カラヤン、なぶらスープカレーなど、10 種類以上開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場食堂を拠点とした、消費拡大と賑わいづくり（H22～） 「市場食堂ど久礼もん」で鯉を使った料理(かつお丼、海鮮丼)をメインに提供 中土佐町ふるさと納税業務を受託（H28～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・タキ体験施設「陣や」を拠点とした体験受入スタート（H30～） ・カツオのタキ生産の産地視察受入による知名度向上（関東や関西からの産地視察受入） ・(株)四万十ドラマと連携した「一人商店しまんと」ポータルサイト開始（R2） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆高鮮度ブランドの確立 ・「ぴんぴ鯉のたたき」の商品化 ・「ぴんぴめじか」の商品化 ◆商品開発数 4 商品(H27～) (かつお生姜煮、まぐろワタラー油、鯉ラー油濃辛、土佐のジャコ魂) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕入れから製造、販売までの体制構築（人材不足） ・鯉を軸とした新展開の推進 ・製造コストに見合う販売価格の検討

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓</p>	<p>スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企画・ど久礼もん企業組合： <p>地域を絞り、こだわりの飲食店に中土佐町ごと売りこんでいく町内外での商談会、イベント等を活用した販売ルートの開拓</p> ●県（地域本部等）： <p>販路拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供</p> 				
<p>◆中土佐町の食文化を使った商品開発と販路開拓</p>	<p>商品開発、販路開拓・拡大、通販やふるさと納税への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企画・ど久礼もん企業組合： <p>販路開拓・拡大（商談会及びアンテナショップ等によるプロモーション活動）、通販やふるさと納税への対応、中土佐の食文化を広めることによる、賑わいづくりの創出</p> ●県（地域本部等）： <p>販路拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供</p> 				
<p>【用語】・官能試験：人間の感覚によって品質の特性を評価する方法。食品や嗜好品などのように、機器を用いた分析では本質的な測定が困難な場合に用いられる。</p> <p>・スラリーアイス：シャーベット状の氷のこと。0℃～-2℃のスラリーアイスで保存した魚介類は、長期間高い鮮度を保持することが分かっている。</p>					

AP名 (実施地域)	No. 18 大正町市場商店街活性化事業 (中土佐町)
実施主体	◎大正町市場組合、中土佐町商工会、中土佐町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	中土佐町の観光拠点であり、地域の中心商店街でもある「大正町市場商店街」の空店舗の活用により、大正町市場の活性化を目指すとともに、町内全体への観光客の集客を図り、町全体への波及効果を促す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) チャレンジショップによる 新規開業店舗数	1店舗 (H29～R元累計)	1店舗	0店舗		2店舗 (R2～5累計)

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆中土佐町中心商店街等振興協議会における協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光拠点整備事業費補助金を活用したイトインスペースを設けた観光拠点施設「ぜよびあ」の整備 (H28) 地域おこし協力隊着任1名(H28～R2) 地域おこし協力隊着任1名(R3～) 中土佐町中心商店街等振興協議会発足(R元) ワーキンググループ開催による活性化計画を策定(R元) 奥四万十協議会主催の「じも旅クーポン」17店舗加盟(R2) GoToキャンペーンの地域共通クーポン3店舗加盟(R2) ぜよびあ、大正町市場にフリーWi-Fi設置(R2) <p>◆チャレンジショップ事業等による空き店舗対策</p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジショップ事業開始(H29～) <ul style="list-style-type: none"> →1人目チャレンジャーが空き店舗で開業(H30) →2人目チャレンジャーが空き店舗で開業(R2) →3人目チャレンジャー(期間R2.6～10月)卒業。近隣の町で開業を目指す(R2) →4、5人目のチャレンジャー(期間R5.1～)入店、共同運営中 立ち飲みスペース及び串焼き店オープン(H30) HP、SNSによる情報発信(H25～) 	<ul style="list-style-type: none"> フリーペーパーやMAP(H30～)、取材対応等による積極的な情報発信 チャレンジショップスペースを活用したイベントの実施(R4) <p><主な成果></p> <p>◆「ぜよびあ」の整備による観光客の滞在時間の延長 各店舗の客席が満席の場合に帰っていた客が、「ぜよびあ」を飲食スペースとしても利用することで、滞在時間の延長、消費拡大につながった。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 店主の高齢化などによる人材不足 事業承継者がいないことによる空き店舗対策 住民が中心となった活性化計画の着実な実行 新型コロナウイルス感染症の状況に応じた対応 「新たな生活様式」に対応した店舗営業
--	--

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆中土佐町中心商店街等振興協議会における協議</p>	<p>中土佐町中心商店街等振興協議会への参画による活性化協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大正町市場組合： <p>協議会への参画による商店街等の活性化に向けた協議及び出されたアイデアの実現可能性の検討、久礼お宮さん通り商店街組合定例会の開催（月一回）を通じた情報共有、集客イベント等の検討・実施</p> ●中土佐町商工会： <p>協議会における情報共有及び意見具申等</p> ●県（地域本部、経営支援課）、中土佐町： <p>協議会への参画による活性化協議、商店街等振興計画推進事業費補助金の活用提案による支援</p> 				
<p>◆チャレンジショップ事業による空き店舗対策</p>	<p>チャレンジャー募集・出店支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大正町市場組合： <p>チャレンジショップ出店者の募集・チャレンジ店への店舗の運営支援、新規出店等のサポート、SNSによる情報発信等</p> ●中土佐町商工会： <p>経営指導員等による新規出店者への支援等</p> ●県（地域本部、経営支援課）、中土佐町： <p>県関係部署への情報共有等、チャレンジショップ事業に対する補助金等の支援</p> 				

AP名 (実施地域)	No.19 中土佐町 SEAプロジェクト (中土佐町)
実施主体	◎(株)SEAプロジェクト、中土佐町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	平成29年度にオープンした「道の駅なかとさ」を拠点に、中土佐町の伝統文化や人といった地域資源を有効に活用して、町全体の賑わいの創出につながる施設として運営することで、所得向上や雇用の創出をはじめ町全体に経済効果を波及させる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 年間売上額 (施設全体)	2.8億円 (H30)	2.3億円	2.6億円		3.9億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆道の駅施設等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地商・外商の拠点として産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した道の駅の整備 (H28) ・道の駅なかとさオープン (H29.7月～) (直販店+テナント4店舗) <p>◆賑わい創出への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種フェア(スプリング・クリスマスほか)の開催(H29～) ・周年イベントや季節感のあるイベント(浴衣まつり等)開催 (H29～) ・SNSやメディア等を活用したPR (H29～) ・産業振興アドバイザー(課題一貫支援型)を活用した人材育成・魅力ある店づくり (R3) ・産業振興アドバイザー(課題解決型)を活用したファストフードコーナーの集客力向上の取組等 (R4) <p>◆周辺施設との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「なかとさ」を拠点とする情報発信強化及び周遊促進社会実験の実施 (R2) ・黒潮本陣との連携企画(黒潮本陣25周年企画と合わせた道の駅クーポン発行など) (R3) <p>◆地産外商の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発(極みだし、苺クリーム大福、塩キャラメル、四万十川エビせんべい、苺ビール、漁師町ソルトなど) (H29～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR四国おもてなし観光列車、久礼駅での物販販売 (R2～) ・インターネット販売等を活用した外商活動 (H30～) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆道の駅の来場者数 H29.7月～R4.3月末: 119.6万人 ◆外販による売上額 R3: 1,233万円 ◆直販店の町内出荷登録者数 R3: 94人 ◆町内出荷者売上額 R3: 8,707万円 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大正町市場、リニューアルした黒潮本陣など、周辺施設との連携強化 ・集客の維持・拡大 ・立地の特徴を生かした施設の魅力向上と効果的なPR

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆賑わい創出への展開	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">施設の魅力醸成及びメディア・SNS等を活用した広報・PR活動による賑わいの創出</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)SEAプロジェクト、中土佐町： <ul style="list-style-type: none"> 商品等の充実・見直し、季節ごとのフェア・イベントの実施、旬の食材やロケーションを生かした広報・PR活動の実施、生産者やテナント店舗との連携、多言語対応や情報発信強化等による外国人観光客の受入態勢強化 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業含む）の活用検討 				
◆周辺施設との連携強化	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">連携事業の検討</div>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">中心商店街等と連携した事業の実施</div>			
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)SEAプロジェクト、中土佐町： <ul style="list-style-type: none"> 中土佐町中心商店街等振興協会を通じた連携事業の検討、道路社会実験事業（国土交通省）を活用した多言語対応や情報発信強化等によるインバウンド対応 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 協会への参画による活性化の取り組み支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)SEAプロジェクト、中土佐町： <ul style="list-style-type: none"> 中土佐町中心商店街等振興協会を通じた連携事業の実施 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 協会への参画による活性化の取り組み支援 			
◆地産外商の取り組み	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">イベントや展示会等を通じた商品の販売及び情報発信</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)SEAプロジェクト、中土佐町： <ul style="list-style-type: none"> 商品開発の実施、イベント・商談会への出展、「なかとさ do 外商」連絡協議会への参画による外商活動 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 商品開発のための産業振興アドバイザーの活用提案、県主催の商談イベント等の情報提供 				
<p>【用語】 ・SEAプロジェクト：Shopping(買う)、Eating(食べる)、Amusement(楽しむ)の頭文字からSEAプロジェクトと名付けられた。町内の観光スポットと連携し、子供から年配の方まで食べて遊んで楽しめることがコンセプト。</p> <p>・なかとさ do 外商：外商を「やっていく」という意味の「do 外商」、「どがいしよう(どんなにやっこいこう)」の「do 外商」の二つの意味を込めた造語</p>					

AP名 (実施地域)	No.20 中土佐町地産外商の取り組み (中土佐町)
実施主体	◎中土佐町、(株)SEA プロジェクト、企画・ど久礼もん企業組合、中土佐町商工会
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	生産者グループや事業者が単独で取り組んでいた外商活動について、連絡会を通じて情報を集約したうえで連携し、お互いの強みを生かしながら中土佐町全体のブランド力強化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 商品開発 品目数	0 (R2)	0	4 商品		10 商品

※「なかとさ do 外商」連絡協議会を立ち上げ、R2 年度に指標・目標を設定

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆地産外商に向けた体制づくり

- ・久礼新港背後地利活用計画の策定 (H22)
- ・高鮮度・高価格のカツオのタキ工場「鰹乃國/水産」を整備 (H25～H27)
- ・外商のブランド商品開発と販路開拓の取り組み (H26～)
- ・「道の駅なかとさ」開業 (H29)
- ・中土佐町商工会主催の「地域ブランド研究会」発足、サポーターとして町が参加 (H29～)
- ・なかとさ do 外商連絡協議会設立 (R2)
- ・地域ブランド研究会との意見交換会(R2)
- ・地域おこし協力隊着任 (R3～)

◆地産外商の推進

- ・ふるさと納税の返礼品の取り扱いによる外商(H26～)
- ・企画・ど久礼もん企業組合へのふるさと納税に係る業務委託を通じた新たな返礼品の開拓 (H28～)
- ・中土佐町商工会によるセミナー (商品開発・販路開拓) の開催及び新商品開発 (H29～)
- ・セミナーを通じた新商品の開発 (3 アイテム)
- ・企画・ど久礼もん企業組合の外商に関する取り組み R 元から、企画・ど久礼もん企業組合による「鰹乃國水産」の運営となり、ふるさと納税の返礼品に高鮮度タキ商品を加え外商の強化を図った。

<主な成果>

- ◆道の駅なかとさ来場者数
119.6 万人(H29.7～R 4.3 累計)
- ◆道の駅なかとさ売上高
13.3 億円(H29.7～R4.3 累計)
- ◆ふるさと納税額
H26 (ふるさと納税開始年度) : 785 万円
H30 : 8,900 万円
R3 : 9,586 万円

<課題>

- ・中土佐町・(株)SEA プロジェクト・企画・ど久礼もん企業組合・中土佐町商工会・生産者が連携しやすい場づくり
- ・地域資源を活用した「売れる商品づくり」への支援
- ・効果的な情報発信と販路開拓への支援

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降	
◆地産外商に向けた体制づくり	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #0070c0; color: white;"> 連絡協議会の立ち上げ・計画策定 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #0070c0; color: white;"> 協議会の開催および連携体制の構築 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #0070c0; color: white;"> 連携体制の維持および支援策の検討・情報共有 </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)SEA プロジェクト、企画・どく礼もん企業組合、中土佐町商工会： 「なかとさ do 外商」連絡協議会（仮称）の組織体制づくり、連絡協議会の開催を通じた活動計画の策定 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、効果的な外商に向けたアドバイザーの活用及び産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業含む）の活用検討 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)SEA プロジェクト、企画・どく礼もん企業組合、中土佐町商工会： 外商に向けた関係者の情報共有、先進地の視察研修、外商講習、活動計画の実行 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、効果的な外商に向けたアドバイザーの活用及び産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業含む）の活用検討 			
◆地産外商の推進	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #0070c0; color: white;"> 商品開発、磨き上げ </div>					
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)SEA プロジェクト、企画・どく礼もん企業組合、中土佐町商工会： アドバイザーの活用やセミナーによる地域産品の掘り起こし、新商品の開発及び既存商品の磨き上げ ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、新商品開発に向けたアドバイザーの活用及び産業振興推進総合事業日補助金（ステップアップ事業含む）の活用検討 					
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #0070c0; color: white;"> 人材育成 </div>					
	<ul style="list-style-type: none"> ●中土佐町商工会： 地域ブランド研究会によるセミナーの開催等を通じた、地域資源を活用した売れる商品づくりや販路開拓・拡大、積極的な情報発信に取り組む人材の育成 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、新商品開発や販路開拓・拡大のためのアドバイザーの活用 					
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #0070c0; color: white;"> 販路開拓・拡大 </div>					
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)SEA プロジェクト、企画・どく礼もん企業組合、中土佐町商工会： 各々の事業主体が連携して商談会やイベントの開催・出展、SNS を活用した地域産品の PR 等 ●県（地域本部等）： 県主催の商談会情報提供等 					
<p>【用語】 ・なかとさ do 外商：外商を「やっっていく」という意味の「do 外商」、「どかいしよう(どんなにやっっていく)」の「do 外商」の二つの意味を込めた造語</p>						

AP名 (実施地域)	No.21 梶原町地場産品の地産地消・外商の促進 (梶原町)
実施主体	◎梶原町商工振興協同組合、JA 高知県（高西地区）、町内事業者、生産団体
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	梶原町にある一次産品や加工品など、さまざまな地域産品の商品力を向上させるとともに、町内外への販売を推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
「まちの駅」販売額	2,368万円 (H30)	2,385万円	3,645万円		4,000万円

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆地場産品の販売促進

- ・町内外イベント（「ゆすはらグルメまつり（町内）」、「ゆすはらフェア（町外）」）等への積極的な出展による地場産品の認知度の向上
- ・町内飲食店でキジ肉を使用したメニューの提供を開始（H26～ 11店舗）
- ・集落活動センター等による地場産品づくりの実施（H26～）
- ・商工会主催による商談会に出店（R2～）
- ・雲の上のお菓子販売（R3～）

◆地場産品の商品力向上

- ・町内事業者と飲食店を営むシェフとのコラボによる商品開発（H30）⇒レシピ完成（R元）
- ・県主催の食品表示研修や、食品表示アドバイザーの活用（H30：2事業者、R元：2事業者）
- ・6次産業化アドバイザーの活用（H30：1事業者）
- ・土佐MBA及び食品生産管理高度化支援事業研修の受講（H30：1事業者）
- ・高知県版 HACCP 第2ステージ認証取得（R元：2事業者）

＜主な成果＞

◆「まちの駅」販売額

H27：1,784万円 → R3：3,645万円

◆地域の飲食店による「ゆすはらジビエ」のメニュー件数

H27：0件 → H30：5件 → R元：8件

→ R4：4件

＜課題＞

- ・売上アップに向けた新たな商品の開発・磨き上げ
- ・地産外商の拡大
- ・生産者を支える仕組みの構築
- ・担い手不足による耕作放棄地の発生
- ・食品衛生法の改正による HACCP 義務化への対応

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 地場製品の販売促進	加工品の紹介・認知度向上の取り組み				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 梶原町商工振興協同組合： 町内生産者の商談会等への出展支援やイベント等への出店支援 ● 町内事業者、生産団体： 高知6次産業化セミナー等の受講、地域産品を活用した新商品の開発、イベントへの出展 ● 県（地域本部等）： 高知県地産外商公社への橋渡し支援、集落活動センターとの連携 				
◆ 地場製品の販売促進	生産や供給体制の確立				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 梶原町商工振興協同組合： 経営アドバイザー等による市場調査を通じた消費者のニーズ把握 ● 町内事業者、生産団体： 町外への販促活動や催事への出展を積極的に行うことによる消費者ニーズの把握、集落営農組織の農作業受託による耕作放棄地の発生抑制 ● JA 高知県（高西地区）等： 営農指導等による生産者の確保、販売先の提案による農業生産者を支える仕組みづくり ● 県（地域本部等）： 土佐 MBA や県版 HACCP 研修の受講促進 				
◆ 地場製品の商品力向上	商品開発、既存商品の磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 梶原町商工振興協同組合： 加工グループや生産団体向け研修会の開催 ● 町内事業者、生産団体： 商工会や県が主催する研修会への参加により、既存商品のブラッシュアップ及び新商品の開発に取り組む ● 県（地域本部等）： 高知6次産業化支援制度の活用促進、土佐 MBA や県版 HACCP 研修の受講促進 商品力向上のための産業振興アドバイザー活用支援 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.22 梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販路の拡大 (梶原町)
実施主体	桜 club
APへの 位置づけ	R5.4月
事業概要	梶原町産の桜等を活用して、商品の開発・加工・販売に取組み、「梶原町産桜商品」の知名度のさらなる向上を目指すと共に、地域での雇用の創出を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高※	250万円 (R4見込)	-	-		400万円

※1月～12月

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆新事業の展開</p> <p>・桜商品の加工販売に専念し、繁忙期には地元アルバイトを10人程度雇用して、「コンフィチュール」「桜シロップ」等を中心に事業を展開する。(R2～)</p> <p>・「発掘支援アドバイザー」の支援を得ながら、事業構想を固める。(R3～R4)</p> <p>◆既存商品の販路拡大</p> <p>(R4年度の販売実績)</p> <p>・「桜商品、業務用桜商品(売上額：127万円)</p> <p>・「ケーキ、焼き菓子」：(売上額：98万円)</p> <p>(販路)</p> <p>・マルシェゆすはら、満天の星、アグリコレット、通販、ふるさと納税、桜いろ、かしこ、(株)G&F、土佐蒲鉾、フランス、シンガポール</p>	<p><主な成果></p> <p>・にっぽんの宝物高知大会で桜ジュレアイスプリン(※)が新体験部門グランプリを受賞(R4.11月)</p> <p>・同 JAPAN 大会で準グランプリを受賞(R5.2月)</p> <p>※桜の花コンフィチュールや桜のシロップなどの原料にならない桜を有効活用して開発したスイーツ</p> <p>・食べるジャパン美味アワード(桜のコンフィチュール 認定)(R4.11月)→R5.1月に地域のかがやき賞受賞</p> <p><課題></p> <p>・大幅な増産や発注先が求める衛生基準への対応</p> <p>・安定的な原料(「桜」や「レモン」)の確保</p> <p>・人材の確保(事業のパートナー、繁忙期のパート雇用)</p>
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆加工品製造施設の整備				<p>加工場の建設検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●桜 club : 加工施設建設の検討・実施 ●梶原町・県(地域本部等) : 各種支援制度に関する情報提供 <p>地域の加工施設の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ●桜 club : 地域と連携した加工施設の活用 ●梶原町・県(地域本部等) : 各種支援制度に関する情報提供 	
◆商品開発・販路開拓				<p>新商品の開発とブラッシュアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●桜 club : 新たな商品の開発 ●梶原町・県(地域本部等) : 各種支援制度に関する情報提供 <p>販路の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●桜 club : 県内外のニーズの情報収集と商談会等への出展 ●梶原町・県(地域本部等) : アドバイザーの導入提案 	
◆事業実施体制の構築と人材の確保				<p>法人化の検討</p> <p>事業のパートナー等の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●桜 club : 実施主体の構築(法人化の検討) ●梶原町・県(地域本部等) : 関係機関(中央会等)への橋渡し 	

AP名 (実施地域)	No.23 津野町地産地消・外商販売戦略 (津野町)
実施主体	◎(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星、(一財)天狗荘、津野町
APへの位置づけ	H21. 4月
事業概要	(有)津野町ふるさとセンターによる生産・流通、(株)満天の星による加工・販売、(一財)天狗荘による観光など、オール津野町で一体的かつ循環的に地産地消・外商戦略を進めるために、アンテナショップ等での拠点ビジネスを安定させるとともに、農家所得の向上と交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 直販所 総販売額	1.36 億円 (H30)	1.42 億円	1.32 億円		1.40 億円
(2) (株)満天の星 売上※1	2.07 億円 (H30)	1.79 億円	1.76 億円	1.87 億円	2.49 億円

※1 会計年度：10～9月

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆出荷量の確保と高付加価値の農産物の出荷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販所役員会、研修会等の開催 (H28～) ・生産者への堆肥の配布 (H28～) ・集荷所の老朽化や段差の解消 (H28～) ・国の山村活性化支援交付金を活用した6次産業化に向けた特産品の開発 (H30～R2) ・津野町直販機能強化事業 (R4 ステップアップ事業) <p>◆津野町産品の外商力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談会、催事、販促イベントへの参加 (H28～) ・輸送トラック(保冷車)の更新 (H29) ・商品ラインナップの充実のための機械導入 (H29) ・産業振興アドバイザーを活用した経営計画の改善 (H29) ・6次産業化サポート事業を活用した道の駅布施ヶ坂の改修 (R3) ・高知農産漁村発イノベーションサポート事業を活用した(有)津野町ふるさとセンターの経営力向上指導 (R4) 	<p>◆津野町まるごと総合商社の設立と安定経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の地方創生推進交付金を活用した商社化スキームや事業計画の検討 (H29～R2) ・津野町ブランド調査の実施 (H30:2回、R元:2回) ・町内事業者ヒアリングの実施 (H30～) <p><主な成果></p> <p>◆直販所会員の確保</p> <p>R元：504人(うちR元 新規会員21人) R2：497人(うちR2 新規会員11人) R3：475人(うちR3 新規会員18人)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販所出荷量の維持・確保 ・高齢の生産者の農作業の負担軽減 ・高齢の生産者が出荷しやすい仕組みづくり ・「満天の星」ブランドの認知度向上
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 出荷量の確保と高付加価値農産物の出荷	出荷量の安定的な確保と高付加価値農産物の出荷				
	<ul style="list-style-type: none"> ●津野町：農業アドバイザーの設置、一次処理加工施設の整備、津野町堆肥センター等の堆肥 使用促進 ●(有)津野町ふるさとセンター：農産物の生産管理、町内外レストラン等が求める生産物の提案、品質認証や買取制度の検討と導入、勉強会・研修会の開催 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	担い手対策				
	<ul style="list-style-type: none"> ●津野町：担い手の確保策の検討、高齢者にやさしい集荷所の整備、集荷体制の見直し ●(有)津野町ふるさとセンター：加工食品や伝統料理の勉強会の開催 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆ 津野町産品の の外商力の強化	外商力の強化による販売促進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●津野町： <ul style="list-style-type: none"> 町内外直販所のあり方の検討 ●(株)満天の星、(有)津野町ふるさとセンター、(一財)天狗荘： <ul style="list-style-type: none"> 「満天の星」ブランド力の磨き上げと県内外への外商・卸売の強化、製造・販売・営業コストの見直しによる収益向上、津野町産品の商品ラインナップの充実、多角化とネット販売・ふるさと納税返礼品取り扱い等の強化、商談会への積極的な出展等による営業力の強化 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 県版 HACCP 第3ステージの認証取得に向けた提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆ 津野町まるごと総合商社の設立と安定経営	商社設立検討 各社の基盤強化と連携				
	<ul style="list-style-type: none"> ●津野町： <ul style="list-style-type: none"> 商社スキームと組織体制の検討 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 商社設立に向けた協議への参画、助言等 		<ul style="list-style-type: none"> ●津野町： <ul style="list-style-type: none"> 各社の基盤強化と連携 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 安定経営のための産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 		
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.24 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備 (四万十町) ※地域産業クラスター関連 (四万十のうまい豚クラスタープロジェクト)
実施主体	◎四万十町、(株)あぐり窪川
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	四万十町の地域資源を広く活用し付加価値を付けた加工品の開発に取り組むとともに、高品質で安定的な供給体制を確保できる拠点的な加工施設を整備することにより、農林水産業所得の向上と雇用の確保につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
豚まん等販売額	9,300万円 (H30)	1.3億円	1.43億円		2.33億円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆加工施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 産振補助金を活用した、町内産材を使用した豚まん・シウマイ等の増産にかかる新加工場（第一工場）の整備（R元） 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した加工機械の整備（R2） 第一工場 県版 HACCP 第3ステージ認証取得（R2） 菓子・スイーツ製造の加工場（第二工場）改修（R2） 第二工場 県版 HACCP 第2ステージ認証取得（R4） <p>◆商品開発と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> 自社ホームページ改修（R2） 豚まんを化学調味料及び着色料不使用に、シウマイを化学調味料不使用にリニューアル（R3） 道の駅直販所他、県内外の主要取引先約20社程度に販売（その他小口取引先多数） 	<p>◆地域資源の発掘と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 生姜について高知大学との連携により成分分析や調査研究、市場調査を実施(H26～29) 枝豆の試験的栽培から販売流通、生産経費や流通価格及びニーズの調査(H26～28) <p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出（加工課の従業者） H29：9人 → R3：14人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 売上アップに向けた新たな商品開発 販路拡大に向けた計画的な販売促進
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 加工施設の整備	旧加工場改修				
	新商品のプロモーション活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 県版 HACCP 第3ステージ認証取得 ● 県（地域本部等）： 関連セミナー等の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 試作品づくり、商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ● 県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを獲得するための産業振興アドバイザーの活用提案、高知県地産外商公社への橋渡し支援 		
◆ 商品開発と販路開拓	営業活動の展開				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 新加工場での着実な増産と主要取引先への販売、外販強化のための戦略づくりと商品の磨き上げ ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
	SNSを活用した個人顧客の獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの開設 ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
◆ 地域資源の発掘と活用	地域資源の発掘				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、各関係機関（JA、普及所等）： 加工用農林水産物の生産及び集出荷体制の構築、新たな地域資源の掘り起こし 等 ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.25 四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大 (四万十町)
実施主体	(株)ぶらうん
APへの位置づけ	H29.9月
事業概要	養鶏農家が自社鶏卵と地元産の食材を使用した加工品の製造・販売を行う6次産業化に取り組み、販路開拓を行うことで売上アップと新たな雇用の創出を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
加工品売上高	5,210万円 (H30)	7,635万円	8,845万円		1.27億円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆施設整備

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業）を活用した新規事業に関する市場調査等を実施（H29）
- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した新加工場の整備（H29）
- ・衛生管理の強化に向け、県版 HACCP 第2ステージ認証取得（R元）
- ・高知市（高須）に2号店出店（R元）
- ・香南市（野市）に2号店を移転（R3）
- ・県版 HACCP 第3ステージ認証取得（R3）
- ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した加工機械の導入（R3）

◆商品開発

- ・主力商品「ごっこぶりん」が高知家のうまいもの大賞2018で3位に入賞（H30）
- ・新商品「ごちそうたまご豆腐」販売開始（H30）
- ・「ごちそうたまご豆腐」が高知家のうまいもの大賞2019で大賞受賞及び第34回高知県地場産業奨励賞受賞（R元）

◆販路開拓

- ・県内外の商談会等、イベント等への積極的な出展
- ・高知市に2号店を出店（R元）
- ・香南市に2号店を移転（R3）

<主な成果>

◆雇用の創出

H28：15人 → R3：23人

<課題>

- ・売上高の増加に向けた惣菜の新商品開発
- ・生産、販売体制の強化
- ・卵や加工品の輸出に向けた検討・情報収集

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆商品開発</p>	<p>新規（惣菜）部門の商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： 催事への出展、商談会等への出展によるバイヤー、消費者の嗜好把握、商品作りのセミナー等の受講、専門家のアドバイスによる新商品開発 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 <p>ペットビジネス事業の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： 催事への出展、商談会等への出展によるバイヤー、消費者の嗜好把握、商品作りのセミナー等の受講、専門家のアドバイスによる新商品開発 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>◆販路開拓</p>	<p>2号店の営業安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： ハローワーク等を通じた1号店及び2号店の人材確保 ●県（地域本部等）： 既存商品のブラッシュアップのための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 <p>営業活動による販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： 催事への出展、商談会等への出展 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 <p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>				

AP名 (実施地域)	No.26 四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発 (四万十町)
実施主体	RELA GREEN VILLAGE(株)
APへの 位置づけ	H31.4月
事業概要	<p>生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を生かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業の実施により高知県産生姜の知名度向上を狙う。</p> <p>また、町内の生姜農家や企業等と連携し、生姜病害の病原菌早期発見方法を確立することにより生姜生産の安定化を目指す。結果として、地域の生姜農家の所得向上や雇用の創出を目指す。</p>

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	907万円 (H30)	217万円	1,250万円		2,000万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備予定地の選定 (H30～) 施設整備予定地の決定 (R3) <p>◆商品開発、販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> がり製造用真空パック機器をリースにて整備 (R元) 個別包装機器をリースにて整備 (R元) スライサー、フードプロセッサー等を導入 (R2) <p>◆病害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ドローン及びIcT・IoTの水質センサー活用による病害早期発見の取り組み (H30～) 病害発生による次期栽培困難ほ場の再活用の検討 (H30～) 	<p><主な成果></p> <p>◆新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> リース機器による加工品の試作品の製造 生姜のお茶の開発 (R2) 生姜プロテインの開発 (R4) <p>◆データの蓄積</p> <ul style="list-style-type: none"> ドローン導入によるほ場映像データの入手 温度計、水分計の設置によるほ場データの入手 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 加工品の売上アップに向けた洗浄・加工施設の整備 生産される生姜のB級品の有効活用に向けた商品開発 安定生産のためのビッグデータの蓄積 (気温、日照、雨量、肥料、消毒材の関連性など)
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施設整備	<p>施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●RELA GREEN VILLAGE(株) : 冷蔵庫、洗浄場、加工場の整備 ●県（地域本部等） : 整備計画のアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆商品開発・販売促進	<p>商品開発、販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●RELA GREEN VILLAGE(株) : 粉末商品を含む新商品の開発、催事等での販促活動、生姜掘りや洗い等体験プログラムの実施・磨き上げ ●県（地域本部等） : 新商品開発のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆病害対策	<p>病害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●RELA GREEN VILLAGE(株) : 農家、企業、大学等と連携したほ場管理方法の検証及び確立、ドローン等を活用した病害の早期発見方法の確立、農薬メーカーと連携した減農薬の取り組み ●県（地域本部、高南農業改良普及所等） : ICT活用などの病害対策のための産業振興アドバイザーの活用提案、必要に応じた営農指導その他、各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.27 四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト (四万十町)
実施主体	◎ (同) OUCHI 企画
APへの 位置づけ	R3.2月
事業概要	四万十町の豊富な森林資源や四万十ヒノキブランドを活かしつつ、大工OBの人材(技術)活用して、タイニーハウス、サウナ、樽といった商品を製造するとともに、県内外への販路拡大を図りながら、観光交流人口の拡大や地域の活性化に繋げる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R6
売上高	300万円 (R2)	300万円	620万円		1,500万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町ビジネスプランコンテストにて大賞を受賞(H29) ・(同)OUCHI 企画を設立(R2) ・関連事業者との連携強化(R3~) <p>◆商品の開発と販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サウナ試作品が完成、販売開始(R2~) ・樽製造技術習得、商品開発(R2~) ・産業振興推進総合支援事業費補助金(ステップアップ事業:トライアル版)を活用したサウナストーブの開発(R2) ・産業振興推進総合支援事業費補助金(ステップアップ事業)を活用したHP、リーフレット、レーザー加工機の整備(R3) ・産業振興アドバイザー(課題解決型)の活用による新商品開発支援(R3) <p>◆生産拠点の検討と整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザー(課題解決型)の活用による事業戦略作成(R4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・樽製造事業者との協力関係の構築 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・売り先の確保、流通ルートの確立 ・従業員の育成、確保 ・樽製造技術の確立
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆組織体制の強化		実施主体の体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ● OUCHI 企画(同)：事業計画の策定、実施主体の確立、新たな人材の確保 ● 県（地域本部等）：体制強化に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 			
		関連事業者等との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ● OUCHI 企画(同)：関連事業者との役割分担の確立、増産体制の確立、観光事業者との連携、イベント等への出店 ● 県（地域本部等）：体制強化に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 			
◆商品の開発と販路拡大		既存商品の磨き上げと新商品の開発 <ul style="list-style-type: none"> ● OUCHI 企画(同)：製造技術の向上、商品（樽・プランタ）の開発、サウナストーブの改良 ● 県（地域本部等）：商品開発に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 			
		販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ● OUCHI 企画(同)：流通体制の確立、首都圏・関西圏に向けた広報、販促物の製作（HP、EC サイト制作、パンフレット、映像など）、ギフトショーへの出展・マーケティングによる販促活動 ● 県（地域本部等）：販路拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、県主催の商談会情報提供 			
◆生産拠点の検討と整備		生産拠点の検討と整備 <ul style="list-style-type: none"> ● OUCHI 企画(同)：生産拠点の検討、樽製造機器の導入 ● 県（地域本部等）：生産設備整備に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 			

AP名 (実施地域)	No.28 四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大 (四万十町)
実施主体	四万十うなぎ(株)
APへの 位置づけ	R3.4月
事業概要	輸出にも対応した高度な衛生管理を満たし、かつ自社での一貫した加工が可能な施設整備をすることにより、雇用を創出するとともに、新商品の開発や既存商品も含めた国内外への販路拡大によって「四万十うなぎ」の知名度のさらなる向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
販売額	9億円 (R2見込)	7.5億円	8.6億円		11.2億円

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現加工場で県版 HACCP 第2ステージ認証取得 (H29.10月) <p>◆商品開発・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の商談会、イベント等への積極的な出展 ・タイ(バンコク)に直営店を出店(R元.3月) ・新商品「うなぎご飯の素」を開発(R2) ・「四万十うなぎ白焼」が高知家のうまいもの大賞2022で優秀賞受賞(R3) ・「四万十うなぎ 特製塩うなぎ」が高知家のうまいもの大賞2023で優秀賞受賞(R4) ・「こうち SDGs 推進企業登録制度」登録(R4) 	<p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>R3: 19人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出のための衛生環境整備 ・加工(一部)委託によるコスト高 ・稚魚及び飼料、光熱水費高騰による製造コストの増加

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施設整備					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十うなぎ(株) : 農地転用、用地取得など加工場整備に向けた取組 ●県(地域本部、地産地消・外商課等) : 加工場整備にかかる各種事業の支援 				
◆商品開発・販売					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十うなぎ(株) : 四万十うなぎを活用した新たな商品開発、加工の段階で出るB級品の商品化検討など ●県(地域本部、地産地消・外商課等) : 産業振興アドバイザーの活用提案、商品のブラッシュアップ関連のセミナー紹介 その他、各種支援制度に関する情報提供 				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十うなぎ(株) : 催事および商談会等への出展 ●県(地域本部、地産地消・外商課等) : 外商会社へのつながり、商談会等の開催周知、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆人材確保・育成					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十うなぎ(株) : ハローワーク等を通じた加工場の人材確保 ●県(地域本部等) : 人材確保センターへのつながり、その他、各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.29 高幡地域における広域観光の推進 (高幡地域全域)
実施主体	◎ (一社) 奥四万十高知、須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町
APへの位置づけ	H26.4月
事業概要	高幡地域内の観光地、自然、食、人などの観光資源を組み合わせる新たな商品を作成するとともに、高幡地域ならではの魅力をPRすることで知名度の向上及び観光客数の増加を図る。そして、奥四万十博で培われたノウハウを生かし、地域の商品を県内外に情報発信するとともに、旅行会社への積極的な営業活動を展開することで誘客を促進し、広域への経済効果を波及させていく。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 主要観光施設 入込客数	2,306,990人 (H30)	1,558,089人	1,699,260人		2,646,000人
(2) 主要宿泊施設 宿泊者数	56,441人 (H30)	38,779人	47,073人		64,000人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組み内容></p> <p>◆観光情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光ガイドブック・広域マップの作成・配布 (H29) →改訂版の作成・配布 (R元) ・インスタグラムの開設 (H30) ・多言語マップの作成・配布「英語版・繁体字版」 (H30) ・PR動画の作成 (R元) ・ホームページの刷新 (R2) <p>◆地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社、メディア・タウン誌等の招へい (H30:2回) ・コンベンション協会等とのセールス活動 (H29:5回、H30:11回、R元:13回、R2:11回) ・地域内視察研修モニターの実施 (H30:2回) ・奥四万十・じも旅キャンペーンの実施 (R2) ・訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業へ 幡多広域観光協議会との共同参画による体験型コンテンツ等の磨き上げ (R3) <p>◆広域観光組織の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2016 奥四万十博」開催 (H28) 	<ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十広域観光推進指針の策定 (H28) ・奥四万十観光協議会の設立 (H29) ・奥四万十広域観光振興中期計画の策定 (H31) ・(一社) 奥四万十高知の設立 (法人化) (R4.6) ・旅行業第3種の登録 (R4.10) <p><主な成果></p> <p>◆歴史文化施設の入込客数 [※ () 内は指標内数]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原千年百物語り (7,000人) R3 : 2,885人 ・吉村虎太郎邸 (4,700人) R3 : 3,506人 ・片岡直樹・直温生家 (3,700人) R3 : 1,471人 <p>◆奥四万十博による経済効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済効果 : 約13億4,600万円 ※直接効果 + 間接1次波及効果 + 間接2次波及効果 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成各市町における体験プログラム等の商品力の向上 ・継続的に広域観光を推進していくための組織体制の強化 ・市町や観光事業者・地域住民等の人的ネットワークの構築
--	---

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆観光情報の発信	県外等への情報発信・プロモーションの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●（一社）奥四万十高知、須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町： 5市町及び観光関係団体からの観光情報の収集・管理・発信、Web、広域観光パンフレット、PR動画、SNS等を活用した広域観光情報の発信・プロモーション 				
◆地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売	地域資源の商品化（発掘・磨き上げ支援）				
	<ul style="list-style-type: none"> ●（一社）奥四万十高知：商品及び周遊プランの造成・磨き上げ、専門アドバイザー等の派遣による体験プログラム開発 サポート 宿泊、教育メニュー等広域連携での教育旅行受入商品の開発 ●県（地域観光課、地域本部等）：土佐の観光創生塾による体験プログラム造成の支援、地域観光コーディネーターによるOJT支援や地域づくり塾による滞在型観光プランの策定及び磨き上げ 				
	県外旅行会社等に対するセールス活動の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●（一社）奥四万十高知： 旅行会社へのセールス用ツールの作成、高知県観光コンベンション協会との営業強化や他の広域組織と連携した招へい、クルーズ船向けオプションツアーの企画提案 				
◆広域観光組織の機能強化	奥四万十広域観光振興中期計画の実施		新たな戦略の立案・実施		
	<ul style="list-style-type: none"> ●奥四万十観光協議会： 奥四万十広域観光振興中期計画の3カ年推進計画に沿った事業の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ●（一社）奥四万十高知： 奥四万十広域観光振興中期計画で強化したマーケティング分析に基づく新たな戦略の立案・実施 		
	地域内での連携体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●（一社）奥四万十高知、須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町： 理事会、推進部会、担当者部会を通じた地域内での情報共有・連携強化 ●県（地域観光課、地域本部等）： （一社）奥四万十高知事務局への参画によるアドバイス、情報提供・共有 				
	観光客受入体制基盤・マーケティング機能の強化				
<ul style="list-style-type: none"> ●（一社）奥四万十高知： セミナーや研修の実施による地域内の観光人材の育成、公式HPの機能強化による情報の整備とユーザーの利便性の向上、来訪者アンケート調査を通じた来訪者の動向やニーズの分析、市町等へのフィードバック 					
<p>【用語】・オプションツアー：旅行の自由時間（フリータイム）に希望者が別料金を支払って参加する体験やアクティビティなどのこと。 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。 代表的なSNSとしては、Facebook・Instagram などがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.30 須崎市海のまちプロジェクト (須崎市)
実施主体	◎須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会
APへの 位置づけ	R3.9月
事業概要	須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市全域から奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
主要施設の来場者数 ※	5,522人 (R2)	同左	12,816人		50,000人
エリア内新規出店数	6件 (R2)	同左	3件		7件 (R3~5累計)

※まちかどギャラリー、須崎大漁堂、海のまちプロジェクト関連イベントの来場者数 等

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆海のまちプロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市及び高知信用金庫内にプロジェクトチームの設置 (R3.4) ・各チームによる実地調査やアニメーション等有識者による現地視察の実施 ・関係機関による須崎市海のまちプロジェクト全体会議の開催 (年2回) <p>◆海のまち創り・リノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリア内リノベーション案の検討 (R3年4月~) ・エントランスエリアリノベーションの実施 (JR海のまち須崎駅 R3年12月) ・縁日商店街エリアリノベーションの実施 (須崎大漁堂 R4年12月) ・縁日商店街エリアリノベーションの検討 (須崎サカナ本舗) <p>◆海のまちの魅力の向上・再発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化協議会による、須崎市商店街等振興計画策定 (R3.4) ・他事業と連携した「海のまちマルシェ」の開催 (R3: 1回、R4: 3回) ・起業等に向けた保証料補助制度の創設 (R3.12) 	<p>◆エリア外との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浦ノ内マリンパークのロゴの作成 ・ふるさと納税寄付金制度の活用 ・高知県アニメクリエイター聖地プロジェクトとの連携 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR動画の制作及び新聞広告によるPRの実施 ・各関係機関による海のまちプロジェクト推進協議会の立ち上げ ・JR四国と連携・協力し、JR須崎駅を「JR海のまち須崎駅」としてリノベーション ・市内外の事業と連携し、機会あるごとにマルシェイベントを同時開催 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光における面での取組の不足 ・拠点となる施設の選定 ・空き家空き店舗の増加 ・継続して人を呼び込む仕掛け作り
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆海のまち創り・リノベーション	<p>海のまちのブランディング</p> <ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：魅力ある海のまちのストーリーづくり、情報発信等の検討・実施 ●県（地域本部等）：必要に応じたアドバイザー等制度活用の紹介提案 				
	<p>コアゾーンにおけるエリアの策定及びリノベーション</p> <p>コアゾーンの拠点となる施設の検討</p> <p>拠点施設等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：各種エリアの策定とイメージ等の検討及びリノベーションの実施 拠点となる施設の検討、市民参加型での整備に向けた検討 ●県（地域本部等）：各種支援制度の情報提供等 				
◆海のまちの魅力の向上・再発見	<p>既存の体験や名物等のブラッシュアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：地域のお祭りの継承・復活及び体験型へのブラッシュアップ 鍋焼きラーメン等既存商品のブラッシュアップの検討 ●県（地域本部等）：支援制度や商談会等の情報提供 				
	<p>緑日商店街企画の検討・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：中心市街地活性化協議会との連携の検討及び調整 イメージ戦略を含めた商品の魅力化・販売支援の検討 ●県（地域本部等）：支援制度や商談会等の情報提供 				
	<p>起業支援制度の検討・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：起業支援制度のブラッシュアップ ●県（地域本部等）：関係機関等の支援制度の情報提供等 				
◆エリア外との連携促進	<p>海のまちの仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：ふるさと納税制度を活用した企画等の検討、旅行企画組成の検討 ●県（地域本部等）：観光創生塾等支援制度等の情報提供 <p>須崎市内への波及や周辺エリア等との連携の検討、実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：浦ノ内マリパーク、屋外体験施設や魚市場等の市内他エリアとの連携の検討、市外奥四万十エリアとの連携の検討 ●県（地域本部等）：関係機関との調整等の支援 				

AP名 (実施地域)	No.31 浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化 (須崎市)
実施主体	◎須崎市、(一社)須崎市観光協会、NPO 法人すさきスポーツクラブ、指定管理者、その他関係事業者等
APへの位置づけ	R4.4月
事業概要	須崎市海洋スポーツパーク構想による海洋スポーツの振興と海洋レジャー等の体験型観光を推進するとともに、野外体験施設との連携による交流人口の拡大を図り地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
交流人口	8,201人 (R2)	同左	9,578人		60,000人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆海洋スポーツの振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すさきオープンウォータースイミングへの国内外有名選手の招へい (H29～) ・合宿誘致事業の実施 (H29～) ・東京五輪へのチェコ等ホストタウン交流やナショナルチームによる合宿およびチェコ代表の事前合宿 (H29～) ・日本選手権 OWS 競技大会の開催 (R3) <p>◆魅力ある体験メニューの磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上アスレチック等の体験メニュー導入に向けた備品整備や人員の配置 (H29～) ・野外体験施設のオープンと連携した個人体験メニューのブラッシュアップ (R4) <p>◆教育旅行の誘致に向けた体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)須崎市観光協会の設立およびコロナ禍における教育旅行のトレンド変化への対応 (R2～) <p>◆地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内業者と連携した割引サービスの実施 (H30) ・地域内にある住民組織との連携 ・スポーツ大会を活用した市内周遊の検討 (R4) 	<p>◆施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生拠点整備交付金及び高知県スポーツ推進交付金を活用した施設整備 シーパーク大島、カヌー1000mコースの整備 (H29) 坂内カヌー場管理棟トレーニング棟の整備 (H30) カヌー500mコースの整備 (R1) 体験学習施設の整備 (R2) ・高知県観光施設等緊急整備事業費補助金を活用した野外体験施設整備や坂内、鳴無神社周辺の受入環境整備 (R3) <p><主な成果></p> <p>◆スポーツ大会・スポーツ合宿の受入人数 H28 : 1,314人 → R元 : 3,144人 → R3:1,779人</p> <p>◆個人向け体験プログラムや教育旅行等団体向け体験プログラムにおける受入人数 H28 : 4,041人 → R元 : 7,532人 → R3 : 3,676人</p> <p>◆教育旅行等団体向け体験プログラムの造成 H21 : 2個 → R元 : 29個 → R4 : 18個</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行等向け体験プログラムの磨き上げや営業・ 프로모ーション活動の強化 ・一般向け体験プログラムの利用者増加に向けた広報活動の強化
---	--

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆海洋スポーツの振興	2020 オリンピック・パラリンピックの受入		合宿等のプロモーション・定着に向けた活動		
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：オリンピック直前合宿の受入やオリンピック開催を契機とした市内のスポーツへの機運の向上へ向けた取り組み及びオリンピック終了後の取り組みの検討 ●県（地域本部等）：関係者間の調整等の支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：企業・大学等へのPR活動、PRパンフレットの作成、合宿補助の検討・実施、ウェブサイトの作成 ●県（地域本部等）：広報等の支援、アドバイザー等制度の活用提案 		
	全国大会等の海洋スポーツ大会誘致				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：競技連盟へのセールス、開催地への視察、視察の受入れ、受入体制の充実 ●県（地域本部等）：関係者等への調整橋渡し支援 				
◆体験型観光の推進	新たな野外体験施設等の整備		各種体験メニューのブラッシュアップ		
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：地権者等との調整施設整備 ●県（地域本部等）：観光施設等緊急整備事業費補助金活用に関する支援、関係者との調整支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市、（一社）須崎市観光協会、NPO法人すさきスポーツクラブ：体験メニューの実施、スタッフの研修、スポーツ大会と連携したツアーの検討・実施 ●県（地域本部等）：アドバイザーや研修メニューの活用提案、関係者等への橋渡し 		
	PRの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市、（一社）須崎市観光協会、NPO法人すさきスポーツクラブ：ウェブサイトの充実、マスコミを通じたPR、旅行会社・宿泊施設へのセールス ●県（地域本部等）：広報支援、関連する研修会・セミナーや活用可能な支援制度の紹介 				
	教育旅行等の受入体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市、（一社）須崎市観光協会：体験プログラムの造成・磨き上げ、民泊事業についての検討・研修会等の実施、研修や商談会への参加 ●県（地域本部、地域観光課等）：各種制度やセミナーの紹介、近隣市町等関係機関との連携支援 				
◆地域活性化に向けた連携強化	市内事業者や海のまちプロジェクト等との連携強化の検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市、（一社）須崎市観光協会：市内での宿泊・飲食・土産品購入に向けた取り組み、市内事業者と連携した周遊につながるメニューの提供、集落活動センターうらのうち（浦ノ地区地域自主組織）・県漁協深浦支所等近隣事業者との連携、海のまちプロジェクトとの情報共有、連携方法の検討、スポーツ大会と連携したツアーの検討・実施 ●県（地域本部等）：関係機関との連携支援、連携方法の検討提案等伴走支援 				

AP名 (実施地域)	No.32 中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進 (中土佐町)
実施主体	中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	観光拠点施設を設置し、中土佐町の観光情報発信及び観光客の誘致を行うとともに、重要文化的景観を生かした久礼のまち歩きや漁業体験などの体験型観光メニューの充実を図り、中土佐町における交流人口の拡大を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 体験受入数	3,523人 (H30)	1,919人	2,240人		4,100人
(2) 宿泊者数	13,415人 (H30)	9,206人	10,257人		14,000人
(3) 黒潮工房入込数	18,652人 (H30)	14,406人	15,342人		20,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントと連携した体験プログラムのPR及び誘客 (海鮮祭り、かつお祭り、大野見しんまいフェスタほか) ・久礼のまち歩きガイドの養成(H26～) ・大正町市場10分ガイドの取り組み(H30～) <p>◆誘客に向けた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントにおける情報発信 ・道の駅なかとさにおける観光情報の発信(H29～) <p>◆観光拠点施設の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点等整備事業費補助金の活用による観光拠点施設「ぜよびあ」整備(H28オープン) <p>◆施設リニューアル・誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮本陣コテージ改修、コテージ遊歩道整備 ・黒潮本陣本館改修 	<p><主な成果></p> <p>◆体験受入数 H27: 3,306人 → H30: 3,523人 → R3: 2,240人</p> <p>◆宿泊者数 H27: 11,084人 → H30: 13,415人 → R3: 10,257人</p> <p>◆黒潮工房売上額 H30: 3,200万円 → R3: 2,787万円</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町を周遊できる仕組みづくり ・かつお祭りの開催方法など、感染対策と賑わいの創出の両立に向けた検討 ・情報発信の方法検討(紙媒体⇒電子媒体) ・情報発信の有効な効果検証

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成	<p>地域資源を活用した体験プログラムの造成、磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中土佐町： <ul style="list-style-type: none"> 漁業体験、釣りイカダ等の体験プログラムの磨き上げ、まち歩きで提供できるサービスの充実・まち歩きガイドの養成、人材育成、新たな体験プログラムの造成検討 ●県(地域本部)： <ul style="list-style-type: none"> 新たな体験プログラム造成に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、観光に関する情報提供等 				
◆誘客に向けた情報発信	<p>SNS、メディア等による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社： <ul style="list-style-type: none"> SNSやメディア等、媒体の特性に応じた情報発信、町内の観光関係機関と連携した効果的な情報発信、関係機関と連携した各種イベントの開催方法の検討と効果的なイベント等の開催 ●県(地域本部)： <ul style="list-style-type: none"> 効果的な情報発信に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、県を通じた情報発信等 				
◆観光拠点施設の運営	<p>観光拠点施設の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中土佐町： <ul style="list-style-type: none"> 多様な利用ニーズを取り込み、人と情報とが行き交う活気あふれる観光拠点施設の運営 ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 観光に関する情報提供等 				
◆観光拠点を中心とした周遊観光の促進	<p>観光拠点を中心とした周遊観光の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社： <ul style="list-style-type: none"> 黒潮本陣リニューアルに伴う休業期間中に誘客促進策を立案、リニューアル後実行 宿泊施設の魅力向上、周遊プランの造成 ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 観光に関する情報提供等 				

AP名 (実施地域)	No.33 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町)
実施主体	◎ (一社) ゆすはら雲の上観光協会、梶原町商工会、梶原町、松原まろうど会、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	「坂本龍馬脱藩の郷」としての取り組みや、まち歩きやセラピーロードをはじめとした体験型観光を継続しながら、隈研吾施設を活用した新たな取り組みを推進する。また、住民主体のおもてなし、受入態勢や基盤の一層の充実を図り、環境・いやしのまち梶原の取り組みと併せて旅行会社、企業、大学などへの誘致活動のほか、海外旅行者の誘致を図り、体験型・滞在型観光を推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 宿泊者数	8,285人 (H30)	7,999人	7,565人		4,000人
(2) 施設利用者数	96,236人 (H30)	62,337人	61,112人		103,000人

※(1)(2)とも R3.10月から雲の上ホテル、レストラン休館のため、R4年度以降、目標から除く。

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実

- ・町立歴史民俗資料館「梶原千百年物語り」のリニューアルオープン (H29)

◆誘客活動

- ・旅行会社への誘客活動 (通年)
- ・「環境の町」「龍馬脱藩の里」「セラピー基地・ロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールスを実施
- ・隈研吾ミュージアムの整備 (R元)
- ・隈研吾建築案内ガイド開始 (R2.6～)

◆森林セラピー受入態勢の強化

- ・梶原町観光クラスター協議会開催 (H30:3回)
 - ・久保谷森林セラピーロードでの新緑まつり・紅葉まつりの開催
 - ・久保谷森林セラピーロードの案内板及びパンフレットを多言語化にリニューアル (H30)
 - ・久保谷セラピーロードガイドウォーク
- R元: 285人 → R2: 247人 → R3: 75人

◆受入基盤の整備

- ・高知県観光拠点等整備事業を活用し、久保谷森林セラピーロードの増水時にも安全に渡ることができる架橋建設実施
- ・雲の上のホテル・雲の上の市場解体 (R3)
- ・雲の上の市場を温泉内に開設 (R3.11～)
- ・(一社) ゆすはら雲の上観光協会設立 (R3.4)
- ・博覧会受入環境等整備事業において太郎川公園内の湿生植物園を整備 (R4)
- ・観光振興補助金を活用して太郎川公園内のきつつき学習館を整備 (R4)

<主な成果>

- ・公園エリア (キャンプ場) の改修 (R4.8完成)
- ・太郎川公園再生におけるホテル・レストラン・道の駅にかかる基本構想の策定 (課題一環支援型 AD活用、R4)

<課題>

- ・観光情報の発信・誘客活動の強化
- ・観光客の受入態勢の整備

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実	梶原町の自然や文化を生かす取り組み				
	<ul style="list-style-type: none"> ●（一社）ゆすはら雲の上観光協会、梶原町商工会、梶原町、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会：津野山神楽等ゆすはら座での地域資源を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ、観光協会設立の検討、インバウンド対応のための取り組みを視野に入れたゆすはら座改修の検討、土佐の観光創生塾や関係する研修等の受講 ●県（地域本部等）：体験プログラムについて産業振興アドバイザー等の活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供、土佐の観光創生塾の受講、関係機関への橋渡し 				
◆誘客活動	誘客のための情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町：「環境のまち」「龍馬脱藩の郷」「セラピーロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールス及び販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの開設 ●県（地域本部等）：SNSを活用するための産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
	隈研吾氏設計による建築物を核とした観光資源の磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町：オリジナル土産の開発、隈研吾氏設計の町内建築物を紹介する映像やパンフレットによるPR ●県（地域本部等）：土産物の開発等に関するアドバイザーの活用、関係機関への橋渡し 				
◆森林セラピー受入態勢の強化	森林セラピーの受入態勢の充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町、松原まろうど会：久保谷森林セラピーロードの登録ガイド育成・スキルアップ 				
◆受入基盤の整備 （1）ホテル・道の駅	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町、商工会、（一社）ゆすはら雲の上観光協会：雲の上のホテル・道の駅のリニューアルオープンに向けた基盤整備 ●県（地域本部等）：整備等に向けた会議への参加、アドバイザーの導入提案、関係機関への橋渡し 			基本計画の策定	
				実施設計	
（2）太郎川公園エリア	運営組織の設立				
	太郎川公園整備順次実施（個別に設計・施工）				
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.34 清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～ (津野町)
実施主体	津野町
APへの位置づけ	H21. 4月
事業概要	四国カルスト天狗高原や四万十川源流点、風の里公園、セラピーロードなどを中心とした観光資源と歴史や伝統文化、地域の食や体験プログラムなど津野町をまるごとPRし、年間を通じて多くの観光客の集客を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 主要宿泊施設 年間宿泊者数	10,950人 (H30)	4,695人	109,762人		14,000人
(2) 主要観光施設 入込者数	261,094人 (H30)	229,966人	318,963人		300,000人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史観光資源等強化石業費補助金を活用した観光施設整備等 (H28～29) ※天体観測望遠鏡、Wi-Fi整備、トイレの洋式化、観光ガイドの養成等 ・観光推進組織設置に向けた検討 (H30～) ・地域おこし協力隊の導入(H26～1名、R元～2名) ・津野町観光振興計画の策定 (H30) ・四国カルストエリア関係5市町による広域連携会議の開催 (R2～) <p>◆観光商品の造成と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光キャンペーンと連動したイベントや体験プログラムの磨き上げ・拡充、モニターツアーの実施(H28～) ・トウトク導入による乗車体験、レンタカーサービスの開始 (H28～) ・牧野植物園と連携したイベント等の開催 (H29～) (企画展、散策イベント、町内への樹木プレートの設置、植物園内での茶講座の開催など) ・おんぱく手法を活用した津野町体験キャンペーンの実施 (R3.3、R3.8～9、R4.8～9) <p>◆観光拠点整備と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史観光拠点の整備 (吉村虎太郎邸、片岡直輝・直温生家リニューアルなど) (H29～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光の二大重点プロジェクトへの着手 (H29～R3) ・フォレストアドベンチャーの整備 (R元～R2) ・星ふるヴィレッジ TENGU、遊山四万十 せいらんの里リニューアルオープン (R3) <p>◆情報発信と誘客活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアへの情報発信 (YouTube、Facebook、Instagram、ラジオ、yahoo!など) (H28～) ・インバウンド対策として英語版ガイドブックの作成 (H29) <p><主な成果></p> <p>◆体験プログラムの造成 H27: 2件 → R3: 累計 18件</p> <p>◆歴史関連拠点施設への入込者数 吉村虎太郎邸 H27: 2,107人 → R2: 2,725人 → R3: 3,506人 片岡直輝・直温生家 H28: 1,412人 → R2: 1,561人 → R3: 1,471人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイドの養成とスキルアップ、観光推進組織の強化 ・魅力ある観光商品づくり ・星ふるヴィレッジ TENGUと町内の観光施設との連携 ・県内外への情報発信と誘客活動の強化
---	--

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 受入態勢の強化	<p>観光推進組織の設置</p> <p>●津野町：機能、スキームの検討</p> <p>●県（地域本部等）：会議への参加、アドバイス等</p> <p>観光推進組織による観光推進、受入強化</p> <p>●津野町、観光推進組織：受入態勢づくり、広域、関係機関との携、PR活動など</p> <p>●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p> <p>観光ガイドの育成、スキルアップ</p> <p>●津野町：観光ガイド、セラピーガイド、星空観察スペシャリスト養成講座等の実施</p> <p>●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>				
◆ 観光商品の造成と磨き上げ	<p>津野町の四季や文化を生かす体験プログラムや食など観光商品の造成と磨き上げ</p> <p>●津野町：町内事業者や地域団体と連携した体験プログラムの充実、周遊コースの設定、町内周遊とセットにした天狗荘宿泊プランの販売、ご当地グルメや物産などの開発、各種イベントの磨き上げなど</p> <p>●県（地域本部等）：観光商品造成アドバイザーの導入、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>				
◆ 観光拠点整備と磨き上げ	<p>拠点施設整備</p> <p>●津野町：天狗荘、せいらんの里のリニューアルオープン、フォレストアドベンチャー等観光施設の整備、磨き上げ</p> <p>●県（地域本部等）：整備・オープンに向けた会議への参加、アドバイザーの導入提案、関係機関への橋渡し</p> <p>誘客のための情報発信、安定経営</p> <p>●津野町：天狗荘、せいらんの里等観光拠点施設への誘客のための各種媒体を活用した情報発信、訪問客のニーズの把握、施設運営への反映</p> <p>●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>				
◆ 情報発信と誘客活動	<p>PR強化</p> <p>●津野町：メディア・SNS・情報誌など多様な媒体を活用したイベント等津野町観光情報の発信、旅行会社等へのセールス活動、インバウンド向けPRの実施など</p> <p>●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>				

AP名 (実施地域)	No.35 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト (津野町)
実施主体	◎津野町、(一財)天狗荘
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	四国カルストエリア一体のブランド化を行い、知名度を高めることで交流人口の拡大と町内への周遊を促し、津野町全体の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 天狗荘の年間宿泊者数	7,646人	2,750人	7,668人		11,000人
(2) 四国カルストの入込者数	75,012人	42,656人	109,463人		110,000人

※天狗荘は R3.7.7～「星ふるヴァレッジ TENGU」に名称変更

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆観光拠点整備

- ・観光の二大重点プロジェクト（天狗荘・せいらんの里のリニューアル）への着手（H29～R3）
- ・天狗荘リニューアル基本構想の策定（H30）
- ・天狗荘基本設計、実施設計の作成（H30～R2）
- ・星空観察・天文台設置のための民間連携協議（H30～）
- ・天狗荘周辺エリアの磨き上げの協議（H30～）
- ・四国カルストブランド化構想の策定（R元～）
- ・天狗荘リニューアル工事着手（R2～R3）
- ・星ふるヴァレッジ TENGU、遊山四万十 せいらんの里リニューアルオープン（R3）
- ・カルスト学習館設計着手（R2）、工事着手（R3）
- ・カルスト学習館（カルストテラス）リニューアルオープン（R4）

◆受入態勢の強化

- ・天体観測望遠鏡等、星空観察グッズの整（H27）
- ・観光施設等の整備／Wi-Fi 整備（H30～）
- ・久万高原町等との連携協議（R元～）
- ・五藤光学研究所との包括連携協定締結（R2.12月）
- ・五藤光学研究所との星の連携会議（R2～）
- ・五藤光学研究所の職員を地域活性化起業人として受入（R3～）

- ・星のソムリエ養成講座の実施（R3～）
- ・Eバイク整備（R3）

◆観光商品の造成と磨き上げ

- ・星空観察会の開催（H26～）
- ・旅行会社向けプロモーション商談会に出展（H27）
- ・トウトク乗車体験（H28～）
- ・散策ガイドブックの作成（H29）
- ・県の観光キャンペーンや牧野植物園等と連携したイベント等の開催（津野山古式神楽（H28）、カルスト学習館での企画展（H30～）、セラピーロードへの樹木プレートの設置、植物観察ツアーなど）
- ・地域団体と連携した地域製品の販売（H29～）

<主な成果>

◆天狗荘外国人宿泊者数

H26：55人 → R元：680人

<課題>

- ・人材の不足
- ・星ふるヴァレッジ TENGU やプラネタリウム、天文台の運営スタッフの育成
- ・星空ガイドやセラピー・動植物ガイドなどの確保・育成
- ・四国カルストエリア全体での魅力ある観光商品づくり
- ・星ふるヴァレッジ TENGU を含めた四国カルスト全体でのPR
- ・アクセスや道路標識の改善

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 観光拠点整備 (1)天狗荘（星ふるヴィレッジ TENGU）	施設整備		誘客のための情報発信、安定経営		
	<ul style="list-style-type: none"> ●津野町：天狗荘のリニューアルオープンに向けたハード・ソフト両面の基盤整備、情報発信 ●(一財)天狗荘：スタッフの接客スキル向上のための研修の実施、施設運営 ●県（地域本部等）：整備に向けた会議への参加、アドバイザーの導入提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●津野町：星ふるヴィレッジ TENGU への誘客のための各種媒体を活用した情報発信、訪問客のニーズの把握、施設運営への反映 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 		
(2)天狗荘（星ふるヴィレッジ TENGU）周辺エリア	基本設計		拠点整備と磨き上げ		
	<ul style="list-style-type: none"> ●津野町、(一財)天狗荘：周辺エリアの魅力向上のために必要な整備条件の洗い出し ●県（地域本部等）：整備に向けた会議への参加、関係機関への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●津野町、(一財)天狗荘：県や民間事業者との事業連携 ●県（地域本部等）：整備に向けた会議への参加、関係機関への橋渡し 		
◆ 受入態勢の強化	人材確保・人材育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●津野町：就職・移住相談会等を活用した人材募集、星空案内やセラピー等ガイド養成講座の実施、アドバイザーの導入 ●県（地域本部等）：関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆ 観光商品の造成と磨き上げ	四国カルストエリア全体での受入強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一財)天狗荘：久万高原町など周辺地域と観光案内やイベントの実施、PR など ●津野町：久万高原町など周辺地域と連携強化、周遊促進 ●県（地域本部等）：集落活動センターとの連携支援、関係機関への橋渡しなど 				
◆ 観光商品の造成と磨き上げ	地域資源を生かした観光商品の造成と磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一財)天狗荘：星や自然環境をテーマにしたご当地グルメや物産、体験プログラムなどの開発と磨き上げ、町内周遊とセットにした宿泊プランの販売、四国カルストの貴重な生態系等自然環境の維持・保全 ●津野町：牧野植物園等、環境系団体との連携強化、町内事業者や地域団体との連携支援、イベントの開催、情報発信など ●県（地域本部等）：商品造成アドバイザーの導入提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆ 情報発信と誘客活動	PR 強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●津野町：メディア・SNS・情報誌など多様な媒体を活用したプロモーション活動、旅行会社等へのセールス活動、インバウンド向け PR の実施など ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.36 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)
実施主体	◎四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	「海洋堂ホビー館四万十」の校舎等を企画展示や体験教室として整備し、四万十町の観光拠点としてブラッシュアップを図るとともに、四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町全体の魅力ある資源を有効に組み合わせ、さらなる観光交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
ホビー館年間入場客数	2.7万人 (H30)	2.1万人	2.2万人		5万人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)海洋堂との連携により、廃校となった小学校を活用した「海洋堂ホビー館四万十」の整備・開館 (H23) ・誘導案内看板や第2駐車場の整備、臨時駐車場の設置 (H24~26) ・第2駐車場内への簡易水洗トイレの設置 (H28) ・ホビー館の休憩施設、販売スペース等の拡充に伴うリニューアル (R4) <p>◆ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種企画展の開催 (H23~) ・全国初のミュージアム列車ホビートレインの運行を開始 (H23~) ・「谷小屋」(ホビー館に隣接した地元住民による食堂) オープン (H23) ・打井川バイパスの開通により大型観光バスの乗り入れが可能となった (H27) ・ホビートレインを「かつぱうよう号」へリニューアル (H28) ・インバウンド商談・オプションツアーのPR (H29) ・産業振興アドバイザー(課題解決型)の活用による経済波及効果算出と今後の目標策定支援 (R3) 	<p>◆関連機関との連携した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海洋堂かつぱ館」のオープン (H24) ・ホビー館とかつぱ館の連携した企画展の開催 (H24~) ・「海洋堂 Space Factory なんこく」と連携した企画展の開催 (R4~) <p><主な成果></p> <p>◆常勤雇用者数 H27:5人 → H30:7人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の満足度アップの為の仕掛けづくり(滞在時間の延長) ・集客力のある企画展・町周遊企画(スタンプラリー)の開催 ・さらなる誘客促進及びリピーターの確保
--	--

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備</p>	<p>ホビー館改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：施設の老朽化に伴う改修工事、滞在時間の延長を促す仕組み作り ●県（地域本部等）：魅力ある館改修のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 		<p>改修に伴うPR活動及び効果検証</p>	<p>PR活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：改修した施設の効果的な活用、及び積極的なPR ●県（地域本部等）：効果的なPRのための産業振興アドバイザーの活用提案 	
<p>◆ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実</p>	<p>ミュージアム機能及び体験交流機能の強化と充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：魅力ある企画展、イベントの開催や町周遊企画の開催、町内の小・中学校での体験教室の開催や予土線を活用した集客とPR、オリジナル土産物商品開発・販売、広報・営業活動 ●県（地域本部等）：新たな企画開発の産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>◆関連機関との連携した取り組み</p>	<p>かっぱ館との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：企画展・イベント開催、町周遊企画との連携 ●県（地域本部等）：魅力ある企画・商品作りのための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 <p>南国市に整備する新たな施設との連携の検討</p> <p>南国市に整備する新たな施設との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外、南国市：連携に向けた検討会の開催 ●県（地域本部等）：物部川地域本部との連携による活動支援 ●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外、南国市：連携した取り組みによる誘客の促進 ●県（地域本部等）：物部川地域本部との連携による活動支援 				

AP名 (実施地域)	No.37 四万十町観光交流促進事業 (四万十町)
実施主体	◎四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会 等
APへの位置づけ	H23.4月
事業概要	高速道路の延伸や海洋堂ホビー館四万十の整備を踏まえ、四万十町の山・川・海の豊かな地域資源が作りあげた景観や歴史、文化等に磨きをかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
施設等利用者数	93万人 (H30)	68.3万人	71.9万人		100万人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆受入態勢の充実・整備

- ・観光ガイドの養成：21人（H23）
- ・四万十あちこちたんね隊の育成強化（H23）
- ・「四万十ポークどんぶり街道」を開始（H24～）
- ・ヤイロチョウネイチャーセンターオープン（H26）
- ・打井川バイパス開通（H27）：ホビー館への大型バス通行可
- ・「2016 奥四万十博」関連 イベント/体験プログラム造成（H28）
- ・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラムの造成（H29～）
- ・新型コロナウイルス感染症対策「奥四万十じも旅キャンペーン」開催（R2）
- ・総務省「地域活性化企業人」制度を活用した観光メニューの造成（R3～）

◆観光資源の造成・磨き上げ

- ・「興津の家」の改修（H24）
- ・四万十南予横断ツーリバービューライド開催（H24～）
- ・道の駅四万十とおわに四万十川ジップラインがオープン（R2）
- ・休憩施設、販売スペース等拡充に伴うホビー館リニューアル（R3）

◆情報発信力の強化

- ・「2016 奥四万十博」HPへの情報掲載（H28）
- ・町内3つの道の駅へ観光情報案内電光掲示板の設置やひろめ市場への特大看板設置（H28）
- ・町内主要施設5箇所への看板設置（H28）
- ・観光協会HPリニューアル、各リーフレット作成（H28）
- ・町独自の自然体験型観光向けHP開設（H30）
- ・窪川まちあるきガイドコースへの看板設置（H30）
- ・四万十町公式SNS（Instagram、LINE@など）の開設（R2～）

<主な成果>

◆施設等利用者数

H22：80万人
→ R3：71.9万人

<課題>

- ・メディア、パンフ、HP等を活用した観光・イベント情報、周遊ルートの提供及び3つの道の駅が連携した情報発信の強化
- ・観光資源の磨き上げ、交流人口拡大につなげるための仕掛けや体制の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 受入体制の充実・整備	<p>観光ガイドの充実、周遊ルートの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会 等： 観光ガイド（四万十あちこちたんね隊）の育成強化とより良いサービスの提供 四万十川流域での文化、景観、食、ものづくりを生かした周遊ルートの作成 旅行会社へのセールス、旅行雑誌等へのプロモーション ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆ 観光資源の造成・磨き上げ	<p>体験プログラムの造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会 等： 自然や文化、食を生かした体験プログラムの造成、磨き上げ、体験プログラム内容の充実 ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆ 情報発信力の強化	<p>効果的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会 等： 観光案内板設置等によるPR、道の駅等拠点との連携による情報発信、四季折々の旬な観光情報の発信 ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.38 四万十町オアシス風観光交流拠点施設整備事業 (四万十町)
実施主体	◎四万十町、(株)あぐり窪川、地域団体
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	高速道路の延伸を見据え、窪川中央インターから窪川地区、大正地区、十和地区への交流人口の拡大など人の流れをつくるため、花などをテーマとした全町的な展開で、事業・拠点施設整備を実施することにより、新たな観光客等を含め町内での滞留・滞在を推進する。また、町内への周遊促進による商工・観光事業者の所得向上と地域の活性化に繋げる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
道の駅※集客数	43.3万人 (H30)	34.7万人	35.6万人		54万人

※道の駅あぐり窪川、道の駅四万十大正、道の駅四万十とおわ

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆受入態勢の充実・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十博関連イベント/体験プログラム造成（継続） ・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラムの造成（H29～） ・インバウンド観光推進事業（H30～） <p>◆観光交流拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点施設等整備事業（継続） ・こいのぼり公園再生整備事業（R元） ・四万十川アドベンチャーパーク整備事業（R元～） （ジップライン） ・基本構想策定に向けた実行可能性調査の実施（R2） <p>◆周遊、滞留・滞在型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光磨き上げ事業の実施（継続） ・幕末維新博連携事業の実施（H29～30） ・自然体験型観光キャンペーン関連事業の実施（R元～） ・町内各事業所と連携した町内周遊企画の実施（R元～） ・観光列車活用事業（R元～） 	<p><主な成果></p> <p>◆主要観光施設等利用者数 H22：80万人 → R3：35.6万人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅3ヶ所を拠点とした町内での周遊、滞留・滞在時間の延長による地域への経済効果を生み出す取り組み ・観光資源の磨き上げ、交流人口拡大につなげるための仕掛けや体制の強化
--	---

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 受入態勢の充実・整備	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">受入態勢の充実・整備</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会 等： 四万十川流域等での交流拠点（道の駅3か所を含む）核とした周遊ルートを作成、旅行会社へのセールス、旅行雑誌等へのプロモーション ● 四万十町、地域団体等： オアシス風観光交流拠点の活用・運営等について、地域団体との調整・協議、町内各地にある既存の取り組みの磨き上げ、連携した取り組み協議 ● 県（地域本部等）： 魅力ある周遊ルートや受入態勢整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆ 観光交流拠点の整備	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">基本計画策定</div> <div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">実施設計等</div> <div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">施設整備</div> </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： オアシス風観光交流拠点施設基本計画策定 ● 県（地域本部等）： 拠点施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案 				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： オアシス風観光交流拠点施設実施設計、土地造成 ● 県（地域本部等）： 拠点施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報 				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： オアシス風観光交流拠点施設整備工事 				
	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">花をテーマにした施設整備</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： 各地域での花をテーマとした施設の整備（R2～） ● 県（地域本部等）： 施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆ 周遊、滞留・滞在型観光の推進	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">情報発信力の強化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会等： 観光案内板設置等によるPR、道の駅等拠点との連携による情報発信、町内周遊観光促進事業の実施 ● 県（地域本部等）： 滞在型観光推進のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.39 ジップラインと道の駅を核とした四万十町（十和地区）の観光拠点整備事業 (四万十町)
実施主体	◎四万十町、道の駅四万十とおわ
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	道の駅四万十とおわと四万十川ジップライン（仮称）を、四万十町十和地域の体験型観光の拠点とし、その他のアクティビティ施設等との連携を図り、交流人口の拡大とともに観光消費拡大を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 道の駅「四万十とおわ」 入込客数	8.5万人 (H30)	8.0万人	9.2万人		12万人
(2) ジップライン利用者数	—	10,920人	8,269人		12,000人
(3) ジップライン売上高	—	2,499万円	1,887万円		2,200万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆道の駅「四万十とおわ」の運営強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H19.7.1 オープン ・指定管理者の経過 (株)四万十ドラマ (H19～29) (株)四万十とおわ (H30～R2) (株)とおわ (R3～) ・道の駅野菜売場等の改修 (R2) ・道の駅駐車場の拡充 (R3) <p>◆四万十川ジップラインの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点等整備事業費補助金を活用したジップラインの実施設計の策定、整備 (R元) ・観光施設等緊急整備事業補助金を活用し、ジップライン対岸に位置するご成婚の森散策路の整備 (R2) ・業務委託：(株)四万十とおわ (R2～4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「四万十とおわ」対岸のご成婚の森から道の駅にむけて県内初となるジップラインを整備 (R2) ・道の駅とおわ内の周遊スタンプラリーの展開 (R3) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「四万十とおわ」の入込客数の減少 ・十和地域内の観光施設間の連携強化 ・ジップライン運営体制の構築
--	---

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆道の駅「四万十とおわ」の運営強化	野菜売場等の改修 <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ： 屋外にある野菜売場の改修を行い、夏場の野菜の品質管理の改善 ●県（地域本部等）： 売上拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 		ホームページや SNS を活用した積極的な情報発信 新商品の開発など <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ： ジップラインを活用した商品（記念写真、動画等）の開発、や SNS を活用した積極的な情報発信 ●県（地域本部等）： 新商品開発に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 		
	ジップラインの運営（町） <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町： スタッフの確保と人材育成（研修の実施）、魅力的な運営方法の確立 ●県（地域本部等）： 効果的な施設運営に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 		ジップラインの運営（指定管理者） <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ： スタッフの確保と人材育成（外国人観光客対応）運営方法の磨き上げ 自然体験型観光に特化した HP による情報発信 多言語対応の推進（英語、韓国語、中国語） ●県（地域本部等）： 効果的な施設運営に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 		
十和地域内の周遊プランやパックスツアーの企画・実施 <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ： ご成婚の森散策、川舟渡し、アメゴ釣り体験、ブルーベリー収穫体験、三島キャンプ場、交流センター及び十和地域内の宿泊施設等の観光資源を組み合わせた各種プランの作成を行い、交流人口と観光消費拡大、滞在時間の拡大を図る。 ●県（地域本部等）： 新たな商品作りに向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 					
<p>【用語】・ジップライン：木々やポール間に張られたワイヤーロープをブリーと呼ばれる滑車を使って滑り降りること。 ・ご成婚の森：1993年の今上天皇徳仁さまご結婚を記念して整備された森林公園</p>					

7 幡多地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

高知県の西南部に位置する当地域では、温暖な気候や黒潮の恵などの自然環境を活かしながら、地域の基幹産業である第一次産業を中心とした産業づくりが展開されてきました。

一方、幡多地域全体の人口は、令和2年の国勢調査では80,248人と、この5年間で6,636人減少(△7.6%)しました。人口減少は、労働力の減少や地域経済の縮小を引き起こし、社会サービスの低下など様々な社会基盤の弱体化を招くなど地域の衰退に拍車をかけています。

こうした負の連鎖(スパイラル)を断ち切り、人口減少に歯止めをかけるためには、若者が安心して生活していくための雇用の場づくりや、安定した所得の確保が不可欠になっています。

また、幡多地域においても、令和2年2月から続くコロナ禍により、ホテル・旅館、観光施設、飲食業をはじめとした幅広い分野において甚大な影響が出ています。

このため、ウィズコロナ、アフターコロナ下での社会経済活動の再開を図るため、第一次産業の生産基盤づくりをはじめ、農林水産物などの地域資源を活かした特産加工品の開発や磨き上げ、自然環境を活かした着地型観光の商品造成など、地域経済の活性化に向けた取り組みを進めています。

産業分野別にみますと、まず、農業分野では、野菜、花き、果樹、水稻などが栽培されていますが、国内外の産地間競争の激化や価格の低迷、生産コストの上昇などにより、産地の維持が課題となっています。

林業分野では、森林の小規模所有者の集約に時間等を要することや、林道・作業道の開設の遅れなどにより、依然として厳しい状況が続いています。

水産業分野では、これまで豊かな漁場に恵まれ、多種多様な漁船漁業や魚類養殖業が営まれてきましたが、魚価の低迷や資材費の高騰などが漁業者の所得に影響を及ぼしています。また、四万十川のアユや川エビといった天然資源の減少も、大きな課題となっています。

商工業分野では、郊外への大規模小売店の進出を中心とした新たな商業集積などの影響を受け、市街地の小売業を取り巻く環境は厳しさを増しています。また、製造業や建設業の総生産額等は、依然として低迷しています。こうしたことから、地域の産業間の連携を一層推進し、観光分野の取り組みなどとも融合することにより、新たなイベント等の企画、情報発信を行いながら、中心市街地の魅力づくりや競争力のある商品づくりに取り組んでいます。

観光分野では、幡多地域の持つ「自然」や「食」、「歴史文化」、「人柄」を活かした滞在型・体験型観光やスポーツツーリズムの取り組みが進んでいます。

県、幡多6市町村、観光関係団体・事業者など官民が一体となり、観光資源を活かした体験メニューの造成・磨き上げを進めるとともに、地域全体で連携を図りながら観光地づくりに取り組むことにより、国内外からの誘客促進に向けた取り組みを進めています。

今後も、感染拡大防止に留意しつつ、社会経済活動との両立に向け、地域産業の活性化を図り、産業振興計画の目標達成に向け官民協働で取り組みを進めていきます。

(2) 地域アクションプランの概要

本計画では、引き続き、各種助成制度やアドバイザー制度、土佐 MBA などの学びの場といった事業者のスキルアップを支援するメニューを提供するとともに、市町村や関係団体等との連携を密にしながら、さらなる取り組みのバージョンアップと加速を図り、新たな雇用創出や地域住民の所得向上に繋げていきます。

まず、様々な産業づくりの基盤であり、地域の基幹産業となっている第一次産業の振興に引き続き取り組んでいきます。また、地域の素材を効果的に活用した加工品づくりを推進し、販路拡大、新たなものづくりなどを後押ししていきます。

農業分野では、ユズ、直七、ぶしゅかんなどの柑橘類や栗といった、地域特性を活かした品目の産地づくりを推進します。さらに、地域外からの就農体験や研修生の受入れに積極的に取り組むことで、農業後継者を育成していきます。畜産関係では、「四万十牛」などの生産・販売の拡大を通して、地域産業の活性化に繋げていきます。

林業分野では、山林資源を活用した土佐備長炭の生産の拡大、生産技術及び品質の向上に取り組むとともに、関係機関が連携し地域で持続可能な取り組みを推進します。

水産業分野では、メジカ（宗田節）、養殖クロマグロ、ブリ・タイ（養殖含む）といった、地域資源を活かした地域産業クラスターを目指す取り組みを継続して進めることで、安定した収入が確保できる仕組みを確立し、後継者の育成・確保に繋げていきます。

商工業分野では、引き続き、地域資源を活用した加工品づくりを進め、生産管理の高度化や新たな商品開発、販売拡大などに取り組みます。また、道の駅や地域の拠点施設において、定期的なイベント開催などによる賑わいづくりや、地元独自の製品の販売を行うなどの取り組みを、より一層強化し、売上アップと交流人口の増大を図り、周辺地域への経済的な波及効果を拡げていきます。

また、当地域は、首都圏など大消費地から遠く、経済基盤が弱い零細事業者が多いことから、商品力の強化はもとより、メディアを通じた情報発信、アンテナショップや各種催事、商談会、県外の飲食店と連携した地域製品の販路拡大など、あらゆるチャネルを活用した外商活動を展開していきます。

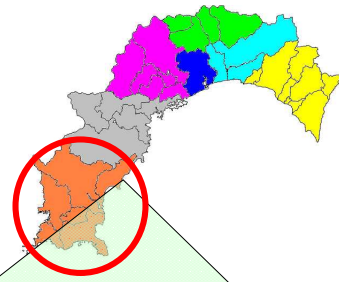
観光分野では、NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送が予定されており、幡多地域においても、その効果を最大限生かすことができるよう、草花や自然、食や歴史など地域の観光資源の磨き上げに取り組んでいきます。

また、これまで造成してきた自然体験観光やスポーツツーリズムなどについても、(一社)幡多広域観光協議会を中心に地域が一体となったプロモーション活動を実施することにより、インバウンドを含め、さらなる誘客促進に取り組めます。

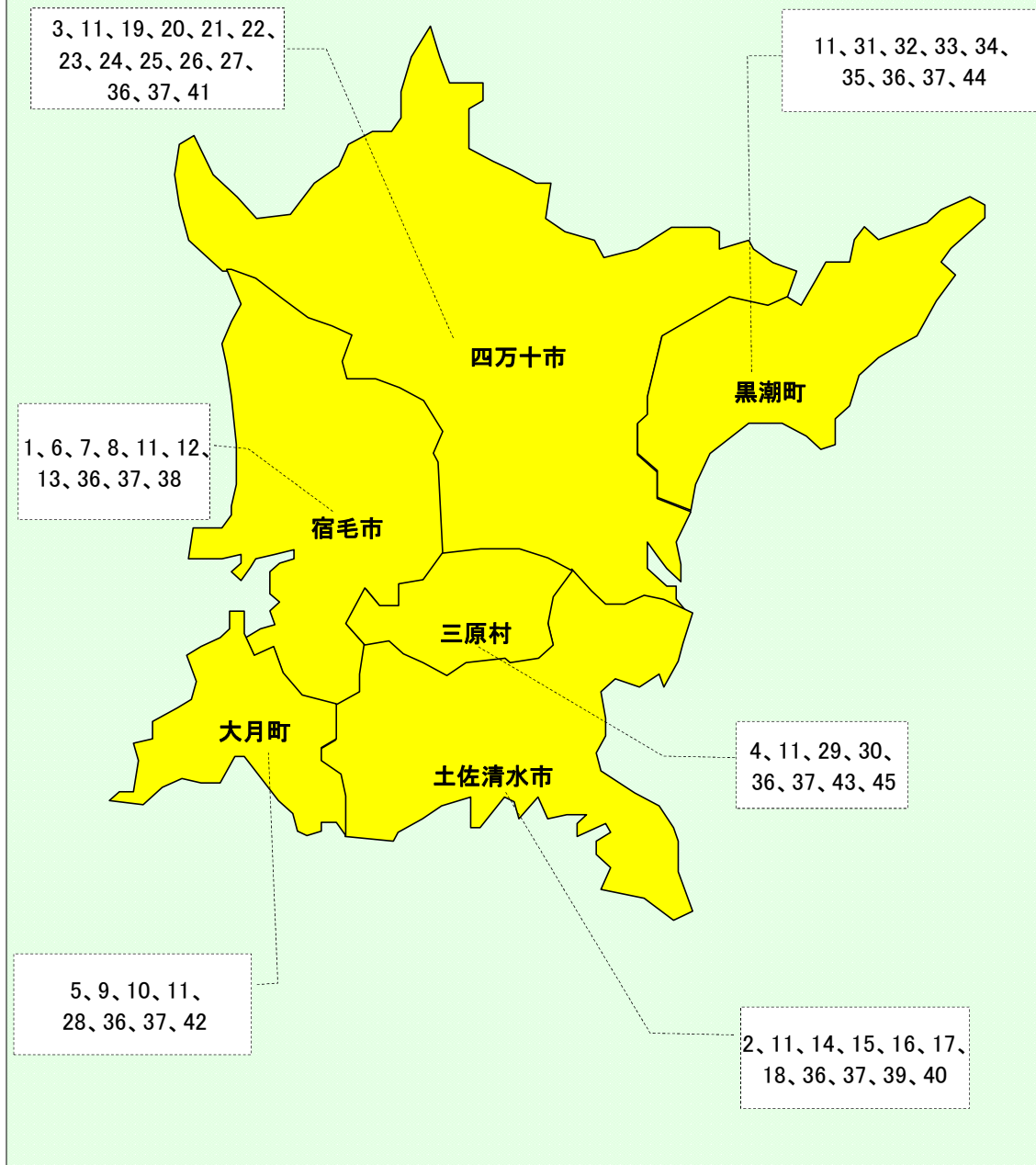
こうした各分野の取り組みに加えて、地域産業の下支えとなり活性化の源になる人材の育成や担い手の確保を図るため、研修事業や移住促進などに取り組んでいきます。

(3) 具体的な取り組み

No.	項 目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町
1	幡多産柑橘等を活用した新たな事業展開による販路拡大等の推進	●					
2	土佐極鶏あしずりキングの生産加工・流通・販売の推進		●				
3	四万十ぶしゅかんの産地形成とブランド化			●			
4	三原村ユズ産地化計画の推進					●	
5	大月町内の持続可能な山林資源を活用した製炭業の推進				●		
6	宿毛市イチゴ・柑橘成長クラスタープロジェクト	●					
7	すくも湾漁協による水産物の加工・販売	●					
8	宿毛湾の養殖魚を中心とした付加価値の高い加工品の販売	●					
9	宿毛湾のキビナゴ加工商品等の販売拡大				●		
10	宿毛湾の干物等水産加工品の販売拡大				●		
11	幡多地域産品販売体制の構築	●	●	●	●	●	●
12	宿毛市特産直七の生産・加工・販売の促進	●					
13	幡多地域で昭和初期からの地域伝統商品の販売拡大等の推進	●					
14	土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進		●				
15	宗田節だし加工商品の販路拡大の促進		●				
16	幡多地域産品を活用した加工商品の開発販売と流通システムの構築		●				
17	宗田節の一般向け削り加工商品の販売促進と体験観光の強化		●				
18	新たな製造方式の導入による宗田節等の生産・販売の強化		●				
19	西土佐産栗の地産外商の推進			●			
20	四万十牛の生産・加工・販売体制の強化			●			
21	売り出せ西土佐プロジェクト推進(拠点ビジネス)			●			
22	四万十地域の素材を活用した加工商品の外商強化			●			
23	幡多地域の農水産物を活用したペット関連商品の開発・販売拡大			●			
24	四万十の地域食材を活用した商品開発・製造・販売の推進			●			
25	幡多地域産品を活用した冷凍加工食品の開発・製造・販売の推進			●			
26	地域商業活性化拠点「はれのば」を核とした中心市街地の活性化			●			
27	地元食材を活用した加工品の開発・製造による地産地消・外商の推進			●			
28	道の駅「ふれあいパーク・大月」を基盤とした産業振興と賑わいの創出				●		
29	三原村のどぶろくによる地域活性化					●	
30	三原産トマトを中心とした加工・販売の推進					●	
31	黒潮町産天日海塩を活用したビジネスの推進						●
32	黒潮町産天日塩の販売拡大及び地域ブランド化の推進						●
33	佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進						●
34	黒潮町の地域産品を中心とした水産加工品等の販売促進						●
35	黒潮町の地域資源を中心とした防災関連商品づくりの推進						●
36	幡多広域における滞在型・体験型観光の推進	●	●	●	●	●	●
37	幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化	●	●	●	●	●	●
38	宿毛市の地域資源を活用した観光振興	●					
39	竜串地域の観光再生構想の推進		●				
40	土佐清水まるごと戦略観光の展開		●				
41	四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進			●			
42	大月町の地域資源を活用した観光振興				●		
43	三原村の魅力をいかした滞在型・体験型観光推進					●	
44	黒潮町の地域資源を活用した観光推進						●
45	集落活動センターやまびこによる三原村の産業振興					●	



【幡多地域】



AP名 (実施地域)	No.1 幡多産柑橘等を活用した新たな事業展開による販路拡大等の推進 (宿毛市)
実施主体	(有)成田果樹園
APへの位置づけ	H28.9月
事業概要	地元産の柑橘等を利用した新たな事業を展開し、新規顧客やリピーターを獲得していくとともに、時代の変化と市場のニーズに対応した柑橘の販売方法を確立し、販路を拡大していくことで、売上アップと新たな雇用の創出に繋げていく。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	5,420万円 (H30)	5,400万円	6,049万円		7,500万円

会計年度：8月～7月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆新事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、フェイスブックを開設 (H28) ・宿毛市ふるさと納税返礼品へ登録 (H28～) ・新商品開発、販促物のリニューアル (H29～30) →H29 産振アドバイザーの活用 →H29、H30 小規模事業者持続化補助金 ・新商品「コールドプレスジュース」及びパンフレット、ランディングページ完成 (H30) ・「旅色」HPに商品掲載 (R2) <p>◆既存商品の販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内販促活動 H28～R3：2件 ・産地視察型商談会への参加 R3：2社来訪 ・まるごと高知商談会への参加 R4：1回 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地視察型商談会で1社成約 (R3) 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工用文旦の新たな搾汁施設の確保 ・リピーターの高齢化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆新事業の展開	新商品開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)成田果樹園： コンセプトづくり、ターゲット選定、試作品づくり、市場調査、製造方法等の検討、商品化の実現 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを獲得するための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆既存商品の 販路拡大	新商品のプロモーション活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)成田果樹園： ホームページの充実、商談会等への出展、個人飲食店等への販促活動 ●県（地域本部等）： 販売戦略、プロモーション戦略づくりへのアドバイスを獲得するための産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆既存商品の 販路拡大	新規顧客獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)成田果樹園： 地域イベントの企画・参加、ニーズに応じた発注対応、有機栽培及び販路拡大、減農薬栽培への継続的な取り組み、加工施設・設備等の整備検討 ●県（地域本部等）： 各イベントに関する情報提供、その他各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.2 土佐極^{きわみどり}鶏あしずりキングの生産加工・流通・販売の推進 (土佐清水市)
実施主体	◎(株)足摺農園、土佐清水市
APへの位置づけ	H29.4月
事業概要	土佐清水産の長期肥育鶏「土佐極鶏 あしずりキング」のブランド化を目指して、鶏の生産・加工体制をさらに強化するとともに、県内外での販売流通をさらに推進することにより、地域連携による、食の魅力を生かした観光振興と地域経済の活性化に繋げていく。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) あしずりキングの生産羽数	1,950羽 (H30)	2,485羽	1,952羽		7,438羽
(2) あしずりキングの加工出荷額	519万円 (H30)	1,361万円	1,083万円		3,375万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆流通・販売の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理方法等営業時の提案内容を整理 (H29) →産振アドバイザーの活用 ・関西及び土佐清水市内への本格出荷開始 (H30) ・県広報番組で取り組みを紹介 (H30) ・土佐極鶏あしずりキング推進協議会の設立 (H30) ・ふるさと納税向け加工商品の開発 (H30) ・商談会への出展 (R元～) ・販売戦略・販路開拓ノウハウ取得 (R元) →産振アドバイザーの活用 ・名称の商標登録完了 (R元) ・土佐清水ワールドでのメニュー化 (R元) ・イベントであしずりキングを使用した料理を提供(R2) ・関西卸会社との取引停止 (R4.2～) <p>◆生産(肥育)体制の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版 HACCP 旧第2ステージ認証取得 (R元) ・品種を地鶏系に変更 (R4) 	<p>◆加工処理体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工処理施設の整備 (H29) →産振補助金の活用 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西へのお荷拡大 (R元) H30 : 100羽/月 → R3 : 200羽/月 ・県内取引先の拡大 H29 : 0件 → R4 : 3件 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな品種での販路拡大 ・在庫の確保 ・衛生管理の向上 ・飼料の高騰 ・ブランド化の推進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆流通・販売の拡大	<p>市内（県内）及び県外での販売の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)足摺農園： <ul style="list-style-type: none"> 市内の飲食・宿泊事業者への営業、県内取引先開拓のための商談会への出展 販売連携先（食肉卸会社）との共同による県外取引先開拓のための商談会への出展 ●土佐清水市： <ul style="list-style-type: none"> 市内の飲食・宿泊事業者と(株)足摺農園とのマッチング、県内商談会への出展同行 販売連携先（食肉卸会社）と(株)足摺農園との連携強化を支援、県外商談会への出展同行 ●土佐清水市商工会議所： <ul style="list-style-type: none"> 経営全般に関する助言 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザー活用による販売拡大に向けた支援、県アンテナショップ（物販、レストラン）の活用に向けた仲介 				
	<p>推進協議会を中心とする、情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市（推進協議会）： <ul style="list-style-type: none"> 推進協議会の運営、協議会構成員のそれぞれのチャンネルを活かした情報発信、情報発信資材（チラシ、のぼり旗等）及びI O Tを活用したブランドの情報発信 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 推進協議会への参加によるアドバイス、情報提供、地産外商公社といった関係機関への橋渡し 				
◆生産（肥育）体制の向上	<p>肥育ノウハウの蓄積</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)足摺農園： <ul style="list-style-type: none"> 肥育に関する記録の蓄積 ●県（西部家畜保健衛生所等）： <ul style="list-style-type: none"> 肥育に関する助言 		<p>肥育マニュアルの作成及び生産者の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)足摺農園： <ul style="list-style-type: none"> 肥育マニュアルの作成、新規参入希望者への肥育の助言 ●土佐清水市： <ul style="list-style-type: none"> 新規参入希望者の掘り起こし及び(株)足摺農園への橋渡し ●県（西部家畜保健衛生所等）： <ul style="list-style-type: none"> 肥育マニュアル作成支援 		
	<p>衛生管理体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)足摺農園： <ul style="list-style-type: none"> HACCP 研修など学びの場への参加、 県版 HACCP 新第2ステージ認証取得 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> HACCP アドバイザー活用による認証に向けた支援 		<p>加工処理の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)足摺農園： <ul style="list-style-type: none"> 処理ノウハウの蓄積、技術の向上、人材育成 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> さらなる効率化に向けた産振アドバイザーの活用 		
◆加工処理体制の強化					

AP 名 (実施地域)	No.3 四万十ぶしゆかんの産地形成とブランド化 (四万十市)
実施主体	◎四万十ぶしゆかん生産者組合、◎四万十ぶしゆかん(株)、四万十市
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	地域特産のぶしゆかんに産地化し生産量の拡大を図るとともに、全国展開できるブランド力を育成することで、農家所得の向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 栽培面積	1,106a (H30)	1,727a	1,848a		2,506a
(2) 生産量 ※	32,592kg (H30)	29,074kg	31,573kg	21,615kg	61,154kg

※ 収穫期：8～10月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十ぶしゆかん生産者組合の設立 (H28) ・青果買取り基準の作成 (H28) ・栽培マニュアルの策定 (H29) ・市苗木補助及び産地化推進人員補助 (R2) →ぶしゆかん産地化推進事業 (地方創生交付金)の活用 <p>◆加工品製造体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搾汁拠点施設整備 (H28) →四万十市産振補助金の活用 ・熱処理殺菌庫の導入 (R3) →事業再構築補助金の活用 <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『食の魅力』発見商談会等への出展 (H28～30) ・ぶしゆかん解禁祭等 PR イベントの開催 (H28～R元) ・テレビ及びラジオ CM の放送 (H28～) ・市内小中学校での出前授業 (H28～) ・四万十ぶしゆかん(株)HP の開設 (H30) ・関連事業者が四万十ぶしゆかんアイス、四万十ぶしゆかんグミを販売開始 (R4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合員数 H27 : 0人 → R4(12月時点) : 47人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版 HACCP 新第 2 ステージ認証取得 ・県内外でのぶしゆかんのさらなる認知度の向上 ・収益の大きい青玉出荷の拡大

第4期計画における行程表						
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降	
◆生産体制の強化	栽培面積の拡大と技術向上					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん生産者組合、四万十市： 苗木の育成、新植及び改植の促進、定着率向上等のための栽培指導、栽培基準の磨き上げ、好適圃場の調査など、ぶしゆかん産地化推進計画の策定と実行 ●県（幡多農業振興センター等）：栽培に関する助言 					
◆加工品製造体制の強化	集出荷体制の効率化					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん生産者組合、四万十ぶしゆかん(株)、四万十市： 効率的な集出荷の検証・見直し・再構築・実施、消費期限の短い青玉の鮮度維持方法の検討 ●県（地域本部等）： 効率的な青玉集荷に関する産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 					
◆販路拡大	衛生管理の強化及び増産体制づくり					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん生産者組合、四万十ぶしゆかん(株)、四万十市： 県版 HACCP 新第2ステージ認証取得、委託等協力企業の拡大、増産体制づくりの検討 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）ほか、各種支援制度に関する情報提供 					
◆販路拡大	県内外への外商	青玉出荷の拡大		海外展開の検討		
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん(株)： 県内居酒屋への展開、県外高級レストラン等への営業活動 ●県（地域本部等）： 情報発信、県アンテナショップの活用支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん(株)： 梱包材や温度など青玉出荷方法の研究 ●県（地域本部等）： 飲食店等への青玉出荷に関する産振アドバイザーの活用提案 	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん(株)： 海外展開の検討 ●県（地域本部等）： 貿易に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し 			
	機能性の追求と見える化			別分野市場への展開		
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん(株)： 機能性の検証、協力企業や大学との連携、見える化 ●県（地域本部等）： 機能性表示等に係る相談、情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん(株)： 美容や健康に関する商談会への出展 ●県（地域本部等）： 商談会等の紹介、関係者への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.4 三原村ユズ産地化計画の推進 (三原村)
実施主体	◎(公財)三原村農業公社、JA 高知県 (幡多地区)、三原村
AP への 位置づけ	H21.4 月
事業概要	三原村の環境を生かした農業振興策として、ユズの産地化に取り組む。また青果率向上による所得の向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
青果出荷量(公社)	34.4t (R 元)	40.5t	50t		61t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組み内容></p> <p>◆ユズ産地の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗用トラクター等機械整備 (H21) →産振補助金の活用 ・共同選果場兼農業用機械倉庫等整備 (H22) →産振補助金の活用 ・ユズ選果搾汁施設整備 (H27) →H26 産振補助金の活用 ・県版 HACCP 旧第 2 ステージ認証の取得 (H29) ・増産のための農地造成及び農道舗装工事 (H30) →中山間地域所得向上支援事業の活用 <p>◆青果率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予冷库・カラーリング施設整備 (H23) →産振補助金の活用 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培面積 H19 : 7.6ha → R2 : 51.4ha (うち公社 34.8ha) ・生産量 H19 : 65t → R2 : 324t (うち公社 143t) ・新規就農 公社で研修し新規就農した人数 : 3 人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の向上 ・収穫等の体制構築 ・青果率の向上

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ユズ産地の 確立	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">青果出荷体制の強化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県： 増産に対応した出荷体制の見直し、予冷库などの施設整備及び出荷時期の分散 ●(公財)三原村農業公社： JA 高知県との連携による効率的な選果場等施設の運用 				
◆青果率の向上	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">担い手の確保</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●三原村： 新農業人フェアや Web(HP 等)での PR 活動等による研修生の確保 ●(公財)三原村農業公社： 研修生への研修を通して地域の担い手としての人材育成 ●県（農業振興センター）： 現地講習会など新規就農者への支援として栽培技術や農業経営の支援 				
◆青果率の向上	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">青果率の向上</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(公財)三原村農業公社： スマート農業等を活用した適時適正な栽培管理の推進 ●県（農業振興センター）： 講習会や現場巡回指導などによる栽培技術の向上 				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・スマート農業：ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.5 大月町内の持続可能な山林資源を活用した製炭業の推進 (大月町)
実施主体	大月町備長炭生産組合
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	町内に生育する最高級のウバメガシ等の山林資源を活用した備長炭の生産を安定的に行い、地域の主要産業としての推進を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
生産量	112t (H30)	91.4t	76t		120t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大月町伝統産業育成協議会設立 (H21.4月) ・大月町備長炭生産組合設立 (H22.2月) ・製炭窯を10基設置 (H23~26) <ul style="list-style-type: none"> →H23、H24 産振補助金の活用 ・生産から販売までの仕組みづくり (H24~26) <ul style="list-style-type: none"> →ふるさと雇用事業を活用 ・高知県特用林産業新規就業者支援事業の活用 (H28~29、R2~3) ・原木供給に必要な作業道の開設 (H28~R4) <ul style="list-style-type: none"> →地域林業総合支援事業の活用 ・和歌山県で開催された「紀州山づくり塾」に参加 (H30、R元) ・ウバメガシ林造成に向けて検討会の実施(R2~3) ・町内ウバメガシ林造成の実施(R4) ・土佐備長炭ブランド化推進研修会を受講 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 択伐施業 R2~4 作業道開設 R2~3 規格向上 R3~4 </div> <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都内問屋視察研修 (H29) <p>◆広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植樹祭を幡多農高生等対象に実施 (H28~R4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H23 : 3人 → R3 : 8人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量の安定と質の向上 ・当面の自主財源不足 ・安定的な原木の確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産力向上	<p>原木の確保、生産者の技術力向上、育成研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大月町備長炭生産組合： <ul style="list-style-type: none"> 町内のウバメガシ資源の情報収集及び立木の買い付け、組合員の和歌山県で開催されている森林塾への参加や択伐施業の実践により、資源の循環利用を目指し技術の習得を図る。 再造林によるウバメガシ林の純林の造成に向けて、町や森林組合との検討会の実施 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供や再造林検討会での助言等 				
◆販路拡大	<p>備長炭（燃料用）の県外での営業活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大月町備長炭生産組合： <ul style="list-style-type: none"> 県外向けの商談会への出展、情報収集 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 商談会等の情報提供紹介、関係者への橋渡し 				
◆広報活動	<p>町内外のイベント出店等による広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大月町備長炭生産組合： <ul style="list-style-type: none"> 備長炭を知ってもらうための観光体験メニュー実施、町内のイベント等への出店や販売会の実施、県内の小中高生等を対象とした製炭学習及びウバメガシの植栽を実施 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供や助言等 				

AP 名 (実施地域)	No.6 宿毛市イチゴ・柑橘成長クラスタープロジェクト (宿毛市)
実施主体	◎宿毛市、◎(一社)スタートアグリカルチャーすくも、JA 高知県 (幡多地区)、(一社)宿毛市観光協会、他関連事業者
AP への位置づけ	R2.4 月
事業概要	H31.4 月からクラスタープランの取り組みを開始。宿毛市の主要農産物である文旦等の「柑橘類」と「イチゴ」の生産拡大を核に、加工・観光などの事業者との連携を強化することで、地域産業クラスター化を図り、地域活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) イチゴ生産量	48t (H30)	50t	52t		63t
(2) イチゴ生産者戸数	9 戸 (H30)	10 戸	13 戸		15 戸
(3) 文旦栽培面積	90ha (H30)	90ha	90ha		96ha

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアグリカルチャーすくも設立 (H31.4 月) ・イチゴ用ハウス完成 (R 元.11 月) <p>◆商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐田農園の「冷凍イチゴ」を宿毛市のふるさと納税返礼品に登録 (R 元) ・スタートアグリカルチャーすくもで生産したイチゴジャムを宿毛市ふるさと納税返礼品に登録 (R2) ・イチゴを使った新商品を開発 <ul style="list-style-type: none"> R3 林邸 cafe、Royalbar WHITEHOUSE R4 創作割烹 大松、N's ファクトリー <p>◆推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスタープラン策定 (H31.4 月) <p><主な成果></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアグリカルチャーすくもに職員 2 名雇用、研修生累計 7 名確保 (R 元～R4) ・研修生が 4 名就農 (R2～R4 累計) 	<p><課題></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生の確保 ・研修生などのハウス不足 ・フィンガーライムの栽培管理技術の確立 <p>◆商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光農園の実施

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の強化	イチゴの栽培研修、新規研修生の確保、生産者等の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)スタートアグリカルチャーすくも、宿毛市、JA 高知県： イチゴ農業研修生の確保及び研修、研修生などの用地（ハウス）の確保支援、健全苗の育成、柑橘農家への雇用等に関する支援 ●県（幡多農業振興センター等）： 各種支援制度に関する情報提供、各協議への参加 				
◆商品開発	文旦の生産拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市：栽培面積の拡大に係る候補地の選定及び調整、補助事業の活用に伴う事業計画の策定 ●県（幡多農業振興センター等）： 支援制度に関する情報提供、事業計画策定及び栽培管理に伴う支援 				
◆推進体制の強化	加工品、メニューの開発・販売、地域イベントの開催、グリーンツーリズムの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市、市内加工業者、宿毛市観光協会、飲食店など： 新商品のコンセプトづくり、ターゲット選定、試作品づくり、市場調査、製造方法等の検討、商品化の実現、地域イベントの開催、観光農園の整備検討 ●県（地域本部等）、宿毛市： 試作品づくりへのアドバイスを得るための支援策提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、SNS やマスメディアを活用した情報発信、各種支援制度に関する情報提供 				
◆推進体制の強化	チーム会の取り組みの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市、市内観光業者、宿毛市観光協会、飲食店など： プロジェクトチーム会・勉強会等の開催による情報共有、連携強化 ●県（地域本部等）： 各会議への参加、各種支援制度に関する情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.7 すくも湾漁協による水産物の加工・販売 (宿毛市) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	すくも湾漁業協同組合
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	宿毛市片島に整備した施設を核として、水産物の加工・販売を展開し、地産地消・外商を進めることで、漁業者の所得向上や雇用創出につなげていく。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	3,399 万円 (H30)	2,849 万円	3,033 万円		5,000 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆宿毛湾産の水産物を活用した商品開発及び販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・水産物加工施設の整備 (H21) →産振補助金の活用 ・宿毛湾で水揚げされる漁獲物のうち、利用価値の低い魚種を中心に1次加工商品を製造し、学校給食や病院、介護施設等へ販売 ・ふるさと納税の返礼品として「宿毛の養殖ブリ、直七マダイの豪華しゃぶしゃぶ鍋セット」を登録 (H29) ・ふるさと納税の返礼品として「宿毛湾のブリとマダイの贅沢セット」を登録 (R4) ・食べたいちゃん (タイの干物)、サバのみりん干し、アジの干物を販売商品として追加 (R4) ◆加工商品の PR <ul style="list-style-type: none"> ・県内で開催されるイベント等で、加工商品の販売及びPRを実施 ◆未利用水産物の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> ・サメ類を用いた加工商品を開発し、宿毛市学校給食センター等へ試験販売 (H30) ・サメ類を用いた冷凍加工品の販売を実施 (R元～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取引先の増加 H21 : 26 件 → R3 : 57 件 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な加工体制の構築 ・施設の老朽化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆宿毛湾産の水産物を活用した商品開発及び販路拡大	<p>製造・販売体制の維持・強化</p> <p>●すくも湾漁業協同組合： 販売商品のラインナップの追加・削除、製造・販売数量の見直し 既存販売先への安定供給、新規取引先の開拓</p> <p>●県（地域本部、漁業指導所等）： 上記取り組みに対する助言</p>				
◆加工商品のPR	<p>県内イベント等における加工商品の販売及びPR</p> <p>●すくも湾漁業協同組合： 県内イベント等への積極的な出店</p> <p>●県（地域本部、漁業指導所等）： イベント等の開催情報の提供及び出店支援</p>				
◆未利用水産物の有効活用	<p>未利用水産物を用いた加工商品の開発及び販売、地産地消・外商の推進</p> <p>●すくも湾漁業協同組合： 管内で水揚げされるサメ類等を用いた1次加工商品の製造及び販売の継続実施 既存取引先に対する営業活動、新規取引先開拓</p> <p>●県（地域本部、漁業指導所等）： 販路開拓に際しての助言 外部機関の専門家の招聘を行う場合の産振アドバイザー制度の活用提案</p>				

AP 名 (実施地域)	No.8 宿毛湾の養殖魚を中心とした付加価値の高い加工品の販売 (宿毛市) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	(株)勇進
AP への 位置づけ	H27.4月
事業概要	養殖場近辺に整備した加工施設を核に、原魚の鮮度を保持した付加価値の高い加工品製造に取り組み、通年・一定価格で販売する。これにより経営の安定化を図り、地域漁家との連携協力体制を構築して、宿毛湾産養殖魚の PR を実施するとともに、漁業者の減少を防ぎ、地域雇用を生み出す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	1.7 億円 (H30)	3.91 億円	4.73 億円		5 億円

会計年度：5～4月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆加工品の商品開発・販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の商談会展等での販促活動実施 (H27～R4：68件) ・新商品の開発 (H29～R元) ・各販促物のリニューアル (H30) ・商人塾短期集中セミナーin 幡多修了 (H30) ・ロゴのリニューアル (H30) ・個人向け EC サイトの開設 (R3) ・お歳暮ギフトチラシの新聞折り込み (R4) <p>◆生産体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産拠点となる水産物加工施設の整備 (H27) → 産振補助金の活用 ・県版 HACCP 旧第2ステージ認証取得 (R元) <p><主な成果></p> <p>◆生産体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養殖場・加工場管理のための従業員雇用 (パート含む) → 新規雇用 9 名 (H30～R4) 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌代・燃料代の高騰による製造原価の上昇 ・稚魚の供給量が不安定 ・衛生管理の向上

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆加工品の商品開発・販路拡大	付加価値の高い新加工商品の開発及び販売、地産地消・外商の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)勇進： 新商品のコンセプトづくり、ターゲット選定、試作品づくり、市場調査、製造方法等の検討、商品化の実現、商談会等への出展、個人飲食店等への販促活動 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆生産体制の確立	販売戦略見直し				販売戦略見直し
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)勇進： 前年度までの売上を考慮した販売戦略の見直し ●県（地域本部等）： 商工会議所等との連携支援、販売戦略づくりのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)勇進： 前年度までの売上を考慮した販売戦略の見直し ●県（地域本部等）： 商工会議所等との連携支援、販売戦略づくりのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案 		
衛生管理体制の強化及び人材確保・育成					
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)勇進： 県版 HACCP 新第2ステージ認証取得に向けた取り組み、雇用拡大、従業員教育の実施 ●県（地域本部等）： 県版 HACCP に関する講習会及び研修会等に係る情報提供、その他各種支援制度に関する情報提供 					
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.9 宿毛湾のキビナゴ加工商品等の販売拡大 (大月町) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	八重丸水産(株)
APへの位置づけ	H23.4月
事業概要	大月町の地域資源の一つであるキビナゴを活用した商品等の加工体制の強化を図るとともに、町内の道の駅との連携、商品力の強化及び県内外の展示商談会への参加等による販路拡大及び売上向上を図る。これにより、キビナゴの消費拡大、雇用拡大等につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高 ※	2,855 万円 (R元)	2,565 万円	2,252 万円	2,830 万円	3,400 万円

※会計年度：9～8月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販路拡大・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工場改修及び攪拌機器等整備 (H23) → 産振補助金の活用 ・県内外展示商談会出展、パッケージ開発、販促資材製作 (H23～) → H24 産振補助金の活用 → H28～30 経営革新等支援事業費補助金の活用 ・県版 HACCP 旧第 2 ステージ認証取得 (H29) ・食品ビジネス事業戦略の策定 (H30) ・「本まぐろホルモカレー」が高知家のうまいもの大賞 2021 入賞(R2) ・加工場改修及び冷蔵設備等整備 (R3) → R2 産振(コロナ) 補助金の活用 <p>◆新商品開発・既存商品の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きびなごケンピの新商品アイテムの開発 (H23～29) ・商品形態(内容量)のバリエーション充実 (H24) ・パッケージのリニューアル (H24) ・きびなごロースト、本まぐろホルモカレーの開発 (R2) ・鯛めしの素、おさかなケンピの開発 (R3) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H22：4人(正規2人、パート2人) → R4：5人(正規1人、パート4人) ・取引件数 H25～R4：新規135件 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・増益に向けた既存商品の改良及び販路拡大 ・キビナゴの漁獲量が減少傾向 ・食品衛生管理の向上

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆販路拡大・販売促進</p>	<p>県内外の展示商談会等への出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ●八重丸水産(株) : 販促ツールの製作、県内外の展示商談会への出展、プロモーション活動の実施、業務用筋参入のための視察、県版 HACCP 新第2ステージ認証取得 ●県(地域本部等) : 販促ツールの製作及び展示商談会出展に関する各種支援制度活用に関する支援、展示商談会等の紹介、衛生管理・食品表示に関する各種支援制度の情報提供及び講習会等の紹介、関係者への橋渡し、事業戦略の進捗管理(フォローアップ) 				
<p>◆新商品開発・既存商品の磨き上げ</p>	<p>付加価値の高い新加工商品、きびなごケンピの新商品アイテムの開発及び販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ●八重丸水産(株) : 収益の柱となる新たな商品の開発、商品ラインナップの充実、商品改良、パッケージ改良、商品の利益率の改善 ●県(地域本部等) : 新商品開発及び商品改良等に関する各種支援制度活用に関する支援、事業戦略の進捗管理(フォローアップ) 				
<p>【用語】・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.10 宿毛湾の干物等水産加工品の販売拡大 (大月町) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	土佐大月海産
AP への 位置づけ	H26.4月
事業概要	干物等水産加工品の業務筋や小売店への販路拡大に向け、衛生管理体制の強化を図るとともに、新商品開発や既存商品の磨き上げ、個人顧客の掘り起こし等による売上の向上を図る。また、原魚は地域資源のみを活用し、商品ラインナップの拡充も進めることで、地元漁業者の所得向上につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高 ※	2,602 万円 (H30)	2,822 万円	2,898 万円		3,300 万円

※会計年度：1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販路拡大・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大月町ふるさと振興公社ギフトカタログへの掲載 (H26～) ・水産加工機器等整備 (H27) →産振補助金の活用 ・商品及び会社紹介のリーフレット等製作 (H29) →H28 補正 小規模事業者持続化補助金の活用 ・県版 HACCP 旧第 2 ステージの認証取得 (H30) ・通販サイトリニューアル、販促資材製作 (R 元) →小規模事業者持続化補助金の活用 ・クラウドファンディングプロジェクト(購入型)の実施に向けた構築技術を習得 (R 元) →産業振興アドバイザー活用 ・県版 HACCP 新第 2 ステージの認証取得に向けた HACCP 専門家派遣 (R4) ・急速冷凍庫の導入 (R4) →小規模事業者持続化補助金の活用 	<p>◆新商品開発・既存商品の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パッケージのリニューアル (H29) ・商品形態のバリエーション充実 (H30) →「きびごま」と「スナックうるめ」のボトルタイプ ・観光客向けお土産セット商品の販売開始(H30～) ・塩麹漬け商品 (鯛・ブリ・きびなご) の販売開始 (H30～) ・商品形態のバリエーション充実 (R4) →「きびごま」と「スナックうるめ」の少量パッケージ <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H25：4 人 (正規 1 人 パート 3 人) → R4：5 人 (正規 4 人 パート 1 人) ※ R 元現在 パート雇用 3 人が正規雇用へ切替 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理体制のさらなる充実強化 ・利益率が高い個人顧客の獲得 (増益への取り組み) ・原魚の安定的な確保

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆販路拡大 ・販売促進</p>	<p>個人顧客の獲得、業務筋等への販路開拓</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐大月海産： <p>ダイレクトメールの発送、ふるさと納税返礼品返礼時のPR、通販サイトによる新規顧客の獲得、販促ツールの製作、県内外の展示商談会への出展、プロモーション活動の実施、市場の動向等を踏まえた戦略づくり、県版 HACCP 新第2ステージ認証取得</p> ●県（地域本部等）： <p>販促ツールの製作及び展示商談会出展に関する各種支援制度の活用支援、展示商談会等の紹介、事業戦略づくりに関する各種支援制度の活用支援及び講座等の紹介、衛生管理・食品表示に関する各種支援制度の情報提供及び講習会等の紹介、関係者への橋渡し</p> </div>				
<p>◆新商品開発・ 既存商品の磨き 上げ</p>	<p>地域資源を活用した付加価値の高い新商品開発及び既存商品の磨き上げ</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐大月海産： <p>新たな商品の開発、商品ラインナップの充実、商品改良、パッケージ改良、市場の動向等を踏まえた戦略づくり</p> ●県（地域本部等）： <p>新商品開発及び商品改良等に関する各種支援制度の活用支援、産業振興アドバイザーの活用支援、事業戦略づくりに関する各種支援制度の活用支援及び講座等の紹介</p> </div>				
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサブ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> </div>					

AP名 (実施地域)	No.11 幡多地域産品販売体制の構築 (幡多地域全域)
実施主体	◎幡多広域地産外商推進協議会、生産者、加工事業者
APへの位置づけ	H28.4月
事業概要	幡多の市町村や民間事業者等が連携を図りながら、地域内にある地域食材、加工品等の資源を結びつけ、量販店でのフェア等の開催を通じた一次産品や特産品、観光資源等の情報発信・PRを一体的に行うことにより、さらなる地域産品の販路開拓及び販売の拡大、並びに交流人口の拡大につなげる連携体制を構築することで地域活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
- (※)					- (※)

(※) R5年度以降に設定予定

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆推進組織体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 幡多6市町村で「幡多広域地産外商推進協議会」を設立 (H28.5) 総会の開催 (H29~R4) <p>◆事業者との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 主催イベント「幡多フェア」への参加呼びかけ (H28~30) 管内事業者の外商に向けた意識等調査 (H29) <p>◆販路開拓及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 県外での幡多フェアの開催 (H28 津山市、H29~30 松山市) 「幡多バル」での粗品配布やイベントへの参加 (H29~30) <ul style="list-style-type: none"> ※「幡多バル」全店舗閉店 (R2) れんげいこうち TUNAGU マーケットへの出展 (R3) 幡多フェアの開催 2回 (R4) 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 活動方針の再整理 事業者との連携強化 大都市圏へのPR

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆推進組織体制の強化	活動方針の再整理		市場の状況を踏まえた事業戦略づくり		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 幡多広域地産外商推進協議会： 現状、課題及び活動の優先順位の再整理、協議会内での役割分担等を協議 ● 県（地域本部等）： 市町村間での協議・調整を支援、観光やスポーツにかかる事業企画の提案 		<ul style="list-style-type: none"> ● 幡多広域地産外商推進協議会： 市場調査、外商推進のための事業戦略の策定 ● 県（地域本部等）： 事業戦略策定へのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案 		
◆事業者との連携強化	事業者に関する情報の共有				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 幡多広域地産外商推進協議会： 事業者調査の実施及び分析、商工会議所・商工会との連携 ● 県（地域本部等）： 事業者調査の実施及び分析の支援 				
	事業者とのコミュニケーション強化				
<ul style="list-style-type: none"> ● 幡多広域地産外商推進協議会： 事業者視察等の研修の実施、外部の商談会や研修等への参加促進 ● 県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、県主催商談会参加者や土佐 MBA 参加者の情報提供 					
◆販路開拓及び販売促進	PR イベントの開催				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 幡多広域地産外商推進協議会： 県外での幡多フェアの開催及び大都市圏での開催検討、バイヤー招聘による商談会の実施 ● 県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、県外事務所等との橋渡し 				
<p>【用語】</p> <p>幡多バル：幡多をテーマにしたバル形式の居酒屋。(株)ワールド・ワンの店舗ブランドの一つで、幡多6市町村と同社との間で「アンテナショップ活用に関する連携協定」を締結し、地域製品の販売拡大、観光誘客、地域活性化に資するアンテナショップとして位置付けられている。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.12 宿毛市^{なほしち}特産直七の生産・加工・販売の促進 (宿毛市)
実施主体	◎直七生産(株)、直七の里(株)
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	地元柑橘の一種である直七をはじめとした地域農産物の加工・販売を推進することで、雇用創出、農家所得向上、地域活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	2,900 万円 (H30)	2,967 万円	3,438 万円		9,400 万円

会計年度：1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七生産組合の設立 (H21) ・搾汁施設等の整備 (H22) →産振補助金の活用 ・直七生産組合の法人化 (直七生産(株)) による組織体制の強化 (H27) ・県版 HACCP 旧第 3 ステージ認証取得 (H28) ・搾汁機械改修 (R2) →ものづくり補助金の活用 <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外商談会出展等の販促活動実施 (H21～R3) ・「直七の里(株)」設立 (H23) ・直七とあめ色玉ねぎのドレッシング販売 (H28～) ・県内外に店舗をもつ飲食店事業者が直七の卸売事業を開始 (R2～) ・大手飲料メーカーから果汁を使用したアルコール飲料を販売 (H30～) ・大手飲料メーカーから果汁を使用した炭酸飲料を販売 (R3) ・大手調味料メーカー及び県内食品メーカーから新しいポン酢を販売 (R3～) ・宝酒造(株)との商品開発 (R4) 	<p><主な成果></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作付面積 約 39.0ha(H30 時点) 約 42.48ha (R4 時点) <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大手事業者との成約 1 件 (R4 年度中に商品化) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大口需要があった際に在庫が不足 ・需要が不安定

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の強化	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">収穫量の拡大と栽培技術の向上</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●直七生産(株) : 生産者に対する栽培技術の共有、搾汁機械の改修の検討 ●県(幡多農業振興センター等) : 栽培技術に関する助言、各種支援制度に関する情報提供 				
◆販路拡大	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">販路拡大</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●直七生産(株)・直七の里(株) : 商談会・催事等への参加、バイヤー等への営業等県内外への外商強化 ●県(地域本部等) : 各イベントに関する情報提供、各種支援制度に関する情報提供 				
	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">新商品の開発</div>				
<ul style="list-style-type: none"> ●直七の里(株) : コンセプトづくり、ターゲット選定、試作品づくり、市場調査、製造方法等の検討、商品化の実現 ●県(地域本部等) : 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 					
<p>【用語】 ・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・直七 : 古くから幡多地域で栽培されている酢みかん「直七」は、「魚料理には欠かせない」日常の食材。もともとは広島県因島地方原産の「田熊スダチ」という柑橘ですが、かつて直七という魚商人が「魚にかけるとおいしい」と触れ回ったことからこの名がつけました。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.13 幡多地域における昭和初期からの地域伝統商品の販売拡大等の推進 (宿毛市)
実施主体	(有)菱田ベーカリー
AP への 位置づけ	H28.4 月
事業概要	昭和 40 年代から製造し、地元で愛されている「羊羹ぱん」など昭和レトロをコンセプトとした商品の販売を拡大し、全国に展開していくことで、独自ブランドを確立するとともに、新たな雇用の創出による地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	4,567 万円 (H30)	3,849 万円	5,076 万円		9,000 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレハブ冷凍庫導入 (H28) →ものづくり競争力強化支援事業費助成金の活用 ・県版 HACCP 各種研修受講 (H28~) ・県版 HACCP 旧第 2 ステージの認証取得 (H29) ・従業員を対象とした HACCP 講習会を開催 (H29) ・低温冷凍機の整備 (H29) →食品産業総合支援事業費補助金の活用 ・オーバーヘッドプルファアの整備 (R 元) →食品産業総合支援事業費補助金の活用 ・天井改修及びプレハブホイロの導入 (R2) →食品産業総合支援事業費補助金の活用 ・屋根の改修 (R3) →食品産業総合支援事業費補助金の活用 <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏駅ナカでテストマーケティングを実施 (H28) →産振総合補助金 (ステップアップ事業) の活用 ・マスメディアを活かした販売戦略の検討 (H28) →産振アドバイザーの活用 ・県内外販促活動 H28~R4 : 92 件 →ビジネスチャレンジ支援補助金の活用(一部) (R4) ・衛生管理の強化の検討 (R2) →産振アドバイザーの活用 	<p>◆新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストマーケティング等の実施 (H30) →経営革新等支援事業費補助金の活用 ・「あんこブッセ」の完成・販売 (H30) ・「ヤキリンゴ」の復刻販売 (R3) →産振アドバイザーの活用 ・「いも栗きんとんパン」の完成・販売 (R4) →ビジネスチャレンジ専門家派遣の活用 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料価格の高騰 ・人材の不足 ・衛生管理向上のための従業員教育

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆生産体制の強化	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">衛生管理体制の強化及び人材育成</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)菱田ベーカリー： 県版 HACCP 新第2ステージ認証取得、従業員教育（衛生管理及びコストに関する知識等）の実施、施設整備の検討 ●県（地域本部等）： 衛生管理及びコストに関する知識等を得るための産振アドバイザーの活用検討、各種研修会等に係る情報提供、各種支援制度に関する情報提供 				
◆販路拡大	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">県内外での販促活動、新規顧客獲得</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)菱田ベーカリー： 県内外での商談会・催事等への出展、ホームページ充実（ネット販売の強化） ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆新商品の開発	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">昭和レトロをコンセプトとした商品の開発</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)菱田ベーカリー： ストーリーづくり、ターゲット選定、試作品づくり、市場調査、製造方法等の検討、商品化の実現、商談会等への出展 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.14 土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎土佐清水食品(株)、宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市
AP への位置づけ	H21.4月
事業概要	土佐清水市の主要な産業の一つであるメジカ関連産業を核として、原材料の確保から加工食品の製造、販売の促進を一体的に取り組む連携体制を構築することで地産地消・外商を強化し、雇用の創出と地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
土佐清水食品(株)の売上高	18.5 億円 (H30)	18.9 億円	19.0 億円		23.6 億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆保管・加工施設の整備及び運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業戦略策定 (H29、土佐清水 HD) ・メジカ産業プロジェクト推進協議会の設立 (H29) ・新冷凍保管施設の稼働開始 (H31.4月) ・残渣処理施設の稼働開始 (R3.1月) ・共同加工施設本体工事完成 (R3.10月) ・県版 HACCP 旧第2ステージ認証取得 (H29) ・県版 HACCP 旧第3ステージ認証取得 (R元) <p>◆スープブロスを核とした、製造・販売体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物流通システムの整備等 (H21、元気プロジェクト) →産振補助金の活用 ・殺菌・真空包装機器の整備 (H22、土佐食) →産振補助金の活用 ・新商品開発 (H23、H25、元気プロジェクト) →H23、H25 産振補助金の活用 ・宗田節ポン酢が「高知家のうまいもの大賞」優秀賞受賞 (H28) ・スープブロス開発 (H30) ・土佐清水食品(株)発足 (R元) (土佐清水ホールディングス(株)が土佐食(株)、(株)土佐清水元気プロジェクトを吸収合併) ・スープブロスのテストマーケティング開始 (R元～) ・スープブロス製造ラインの整備 (R3) →R2 産振補助金の活用 	<p>◆メジカ・宗田節の全国的なPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗田節 PR(テレビ CM 等) (H24、知ってもらいたい委員会) →H24 産振補助金の活用 ・宗田節ロード(スタンプラリー)実施 (H29～R2) ・宗田節まつりの開催 (H30、R元、R3、R4) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗田節まつり来場者数 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>H30 : 2,200 人 R元 : 2,500 人 R3 : 9,500 人 (産業祭と合同開催) R4 : 3,000 人 (あしうわまんぶくフェスタ、ジョン万祭り と合同開催)</p> </div> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚の確保 ・共同加工施設、残渣加工施設、冷凍保管施設の利用促進 ・スープブロスの販路拡大 ・宗田節の知名度の向上、市民向けプロモーション

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆保管・加工施設の整備及び運営	保管・加工施設の整備及び円滑な運営				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市、土佐清水食品(株)： 共同加工施設（R4.4月稼働開始）、残渣処理施設（R3.4月稼働開始）の整備、冷凍保管施設（H31.4稼働開始）をはじめ整備施設の円滑な運営、宗田節加工事業者の施設利用の促進 ●土佐清水食品(株)： 効率的な人員配置・生産管理等による3施設の円滑な運営 ●県（水産振興部等）： 施設整備にあたっての国補助制度活用に関する支援、衛生管理研修会の情報提供、HACCPアドバイザーの活用による社内勉強会実施を支援 				
◆スープブrossを核とした、製造・販売体制の確立	製造ライン整備		スープブrossの製造の拡大に向けた体制づくり		
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水食品(株)： 製造ライン整備にかかる事業計画策定、ライン整備 ●土佐清水市：製造ラインを整備する施設の貸与、市産業振興補助金による支援 ●県（地域本部等）： 製造ライン整備の事業計画策定の支援、産業振興総合補助金による支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水食品(株)： 新会社の効率的な運営体制の再構築、衛生管理に関する研修への継続参加 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー活用等による効率的な経営体制づくりの支援、衛生管理研修会の情報提供 		
	テストマーケティング開始		全国的な販路開拓による販売拡大		
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水食品(株)：県内・県外での本格販売に向けたマーケットリサーチ ●土佐清水市：テストマーケティングの支援 ●県（地域本部等）：県アンテナショップを活用したテストマーケティング実施の支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水食品(株)： ターゲットを見据えた営業、市ゆかりの店（土佐清水ワールド等）へのアプローチ ●土佐清水市：販路開拓の支援 ●県（地域本部等）： 県アンテナショップを活用した販売促進、営業協力に関する地産外商公社への橋渡し 		
◆メジカ・宗田節の全国的なPR	スープブrossの全国展開等による宗田節の効果的な情報発信				
<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水食品(株)： スープブrossの全国的な販路開拓活動と連動した情報発信、HP及びSNSでの情報発信の強化 ●宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市： 知ってもらいたい委員会の運営、宗田節ロード及び宗田節祭りの継続開催、市ゆかりの店（土佐清水ワールド等）と連携したPR ●県（水産振興部、地域本部等）： 水産振興に関する補助事業による支援、知ってもらいたい委員会への参画による助言・情報提供・関係機関との連携、PR活動への人的支援 					

AP 名 (実施地域)	No.15 宗田節だし加工商品の販路拡大の促進 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	(株)ウェルカムジョン万カンパニー
AP への 位置づけ	H26.4月
事業概要	宗田節関連商品の生産体制・衛生管理体制の充実により、県外及び海外への販路拡大を図るとともに、新たな商品開発等や付随する設備機器導入に取り組むことで宗田節生産者の所得向上と雇用の創出を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	8,516万円 (H30)	7,713万円	6,148万円		1億円

会計年度：1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生産体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・生産拠点となる「加工施設」の整備 (H26) →産振補助金の活用 ・県版 HACCP 旧第3ステージ認証取得 (H29) ◆商品開発・改良 <ul style="list-style-type: none"> ・新商品「宗田節おかき」の開発、販売開始 (H26) ・宗田節おかきが「高知家 土産物コンクール 2015」の大賞を受賞 (H27) ・新商品「めんつゆボトル」の開発、販売開始 (H30) ・「宗田節おかきカレー味」の販売開始 (R2) ・家庭向け商品の開発及び・工場内衛生環境の整備 (R2) →新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ◆県外での販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の商談会への出展：22回 (H28～R4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正社員の増加 H26：3名 → R4：6名 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・注文増加に伴う工場の増築(製造力のさらなる向上) ・消費者ニーズや衛生管理に適した商品規格、デザインの向上 ・県外・海外での販売先の新規開拓

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆生産体制の強化	衛生管理体制の維持・向上 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：社員の衛生管理研修会への参加、社内での勉強会の継続的な実施 ●県（地域本部等）：衛生管理研修会の情報提供、HACCP アドバイザーの活用による社内勉強会実施を支援 			海外輸出レベルの衛生管理体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：欧米への輸出に対応する衛生管理体制の強化 ●県（地域本部等）：HACCP アドバイザーの活用提案 	
				新たな製造機器の導入 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：新商品開発（だしパック等）にあわせた製造方法の検討、設備機器の導入 ●県（地域本部等）：活用可能な補助メニューの提案 	
◆商品開発・改良	既存商品の磨き上げ・改良 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：取扱店、HP を通した消費者ニーズの把握、ニーズに合わせた商品規格・デザイン等の見直し ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案、商品改良に活用できる支援策の提案 			新商品開発 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：試作品づくり、市場調査、製造方法の検討、商品化 ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案、商品開発に活用できる支援策の提案 	
◆県外での販路拡大	県外での新たな販路の開拓 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：展示会・商談会への出展 ●県（地域本部等）：展示会・商談会情報の提供 			県外に加え、海外での新たな販路の開拓 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：国内向け展示会・商談会への出展、貿易セミナー等でのノウハウ習得、海外向け商談会への出展 ●県（地域本部等）：展示会・商談会情報の提供、貿易に関する情報提供、関係者への橋渡し 	
				県外での認知向上を狙った、HP・SNS を活用した情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：HP の改良、SNS の効果的な活用 ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案（HP の見せ方、SNS による発信手法） 	

AP名 (実施地域)	No.16 幡多地域産品を活用した加工商品の開発販売と流通システムの構築 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト、宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(株)郷土活性化組合 (土佐清水活性化組合)、土佐清水外商流通組合、土佐清水市
APへの位置づけ	H29.4月
事業概要	地域の生産者や民間事業者等が連携を図りながら、土佐清水市のゆかりの店を始めとする飲食店 (土佐清水ワールド・幡多バル) 等への取引拡大に向け、地域産品を活用した新たな加工商品を開発・販売するとともに、地域食材の調達仕組みや流通システムの構築に取り組むことにより、メジカ産業をはじめとする基幹産業の再生を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
出荷事業者数	33 (R元)	29	28		50

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆流通システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャーター便を利用したコンテナ輸送の試行 (H29) ・清水サバ活魚運搬及び管理についての改善 (H30) →産振アドバイザーの活用 →店舗生けすの環境改善により、活魚の鮮度が向上 ・土佐清水活性化組合を開設 (H30.11月) <p>◆地域産品を活用した加工商品の開発・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産外商できる地域産品の掘り起こし (H29~) ・加工商品生産設備の整備について検討 (H30~) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水市内1次加工及び出荷拠点の整備 H29 (0件) → R元 (1件) ・ワールド・ワンの幡多関連店舗の開設 H29: 土佐清水ワールド3店、幡多バル1店 (神戸市) (計4店) → R元: 土佐清水ワールド9店 (神戸市4店、東京23区3店、大阪市2店) 幡多バル3店 (神戸市1店、東京23区1店、高知市1店) (計12店) → R2: 幡多バル3店 (神戸市1店、東京23区1店、高知市1店) 閉店 土佐清水薫焼きワールド (鮮魚店) オープン → R3: 土佐清水ワールド7店舗 (神戸市4店、東京23区1店、大阪市2店) 営業中、2店舗 (東京23区2店) 休業中 (R4.1月末時点) → R4: 土佐清水ワールド8店舗営業中、1店舗 (東京23区1店) 休業中 (R4.11月末時点) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における営業の継続 ・より効率的かつ安価な流通システムの構築 ・新たに地産外商できる地域産品の掘り起こし ・地域産品を活用した加工商品の開発・販売促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆流通システムの構築	各市町村及び生産者、加工業者との協議・調整			市内の加工流通拠点の拡充	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)郷土活性化組合（土佐清水活性化組合）： 混載を進めるための取引先（生産・加工事業者）との調整、市内加工流通拠点での一次加工処理件数の増加 ●県（地域本部等）： 流通の仕組みのさらなる向上に向けた産振アドバイザーの活用提案、流通システム向上に関連する機器・ソフトの導入の検討（産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性の検討、各種支援制度に関する情報提供） 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)郷土活性化組合（土佐清水活性化組合）： 取引拡充に応じた拠点の拡充計画の検討 ●県（地域本部等）： 拠点拡充検討に際して産振アドバイザー及び産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用 	
◆地域産品を活用した加工商品の開発・販売促進	新たな地域産品及び生産加工事業者の掘り起こし、加工商品の開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)郷土活性化組合（土佐清水活性化組合）、土佐清水外商流通組合、土佐清水市： 生産・加工事業者を対象にした研修会の開催（飲食店等との取引ノウハウ、都市部のニーズに応じた加工商品の開発などをテーマとする） 生産・加工事業者に対し、取引に向けたアプローチや飲食店等取引事業者が求める納入に際しての一次加工の方法や新たな加工商品についての情報提供 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー及び地域の頑張る人づくり事業の活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	新たなファンづくりを通じた産地の活性化			コアなファンを通じた産地の育成	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)郷土活性化組合（土佐清水活性化組合）、土佐清水市： 幡多地域の市町村や幡多広域観光協議会等と連携した産地見学ツアーの設定、ツアー参加者への地域産品に関するニーズ調査の実施 ●県（地域本部等）： 産地見学ツアープラン作成の検討の場への参画によるアドバイス、産業振興アドバイザーの活用によるツアープランづくりの専門家からの助言 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)郷土活性化組合（土佐清水活性化組合）、土佐清水市： 産地見学ツアー参加により形成された「コアファン」の意見を生かした新たな地域産品の掘り起こし、新たな加工商品の開発 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー、各種支援制度の活用提案 	

AP名 (実施地域)	No.17 宗田節の一般向け削り加工商品の販売促進と体験観光の強化 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	(株)たけまさ商店
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	新たな加工販売・体験型観光施設を核として、付加価値の高い一般消費者向け削り節商品の販売拡大や、節づくり体験観光の利用者数増加を図ることにより、地域の基幹産業である宗田節の販売拡大及び知名度の向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 売上高	7,400万円 (R元)	5,889万円	6,156万円	6,539万円	9,600万円
(2) 体験者数	200名 (R元)	96名	198名	465名	700名

会計年度：8～7月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社化 (H30) ・土佐MBA「商人塾・短期集中コース」受講 (R2) ・「宗田節加工販売・体験観光施設」の整備 (R2) →産振補助金の活用 <p>◆販売拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般消費者向け加工商品の販売開始 (H21) ・高知県産品商談会への出展 (R元～) ・幡多商談会への出展 (R元、R3) ・県外の商談会への出展 (R元～) ・販売拡大に向けたセミナーの受講 (オンライン商談、スマホ動画作成) (R2) ・刃物メーカーと連携した商品を開発 (R2) ・だしバーガー、宗田節定食の販売 (R4) 	<p>◆節納屋体験観光の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節納屋体験観光の事業プランが、「高知を盛り上げるビジネスプランコンテスト」優秀賞を受賞 (H28) ・「節納屋」(宗田節の加工事業者) 体験観光の本格展開 (H29～) ・軽食の提供 (R3) ・オンライン体験の試行 (R3) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 正社員2名、パート等8名 (R元年度) 正社員4名、パート等5名 (R4.12月) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚の確保 ・加工商品の開発 ・宗田節の知名度の向上 ・体験型観光客数の増加

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆生産体制の強化	施設整備		増産に伴う生産体制の強化及び衛生管理体制の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： 施設整備及び稼働開始 ●県（地域本部等）： 産振補助金の活用、各種研修会への参加の呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： 新たな人材の雇用及び育成、生産管理面の見直しによる効率アップ、県版 HACCP 新第2ステージ認証取得による衛生管理体制の強化 ●県（地域本部等）： 生産管理に関する産業振興アドバイザーの活用提案、各種セミナー情報提供 			
◆販売拡大	ターゲットを見据えた販路開拓		商品アイテムの充実強化による販売拡大		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： ターゲット別の商談会への出展による営業先開拓、既存取引先への販売拡大 ●県（地域本部等）： 商談会等の情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： 市場調査によるニーズ把握、既存商品のブラッシュアップ及び新たな商品開発 ●県（地域本部等）： 商品改良・開発に関する産業振興アドバイザーの活用、県アンテナショップでのテストマーケティング支援、各種支援メニューの情報提供 		
	販路拡大に向けた基盤づくり		ネット媒体を活用した個人顧客の獲得		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： 販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等講座の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： SNS の活用による宗田節の魅力や観光情報の発信、顧客情報のデータベース化、顧客との双方向コミュニケーションによるファンづくり ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 		
◆節納屋体験観光の強化	体験メニューの充実による新規顧客の獲得				
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： 利用者ニーズを反映した体験メニューの内容改定、販促ツールの作成、ネット媒体による情報発信のスキルアップ、市観光協会及び幡多広域観光協議会と連携した情報発信 ●県（地域本部等）： 販促ツールの充実、ネット媒体の活用に関するスキルアップのための産業振興アドバイザーの活用提案、関係機関との連携 					

AP 名 (実施地域)	No.18 新たな製造方式の導入による宗田節等の生産・販売の強化 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	(有)ヤマア
AP への 位置づけ	R3.4月
事業概要	宗田節等生産の焙乾工程に、新たに焼津式乾燥機等を導入し、生産性の向上や生産拡大、削り節小売商品の磨き上げにつなげることにより、安定的な雇用拡大や地域の基幹産業の振興、知名度向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	1.9 億円 (R元)	1.5 億円	1.6 億円		2.5 億円

会計年度：7～6月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆顧客のニーズに合わせた節製造の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・宗田節（丸節）の生産拡大（R元～） ・宗田節以外の節（サバ、ムロ、うるめ節等）の生産拡大（R元～） ・県版 HACCP 旧第2ステージ認証取得（R元） ・経営戦略策定（R2） <ul style="list-style-type: none"> →産振アドバイザー（発掘支援型）の活用 ◆販売拡大・新商品の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ECサイトを活用した販売開始（R元～） ・新商品「宗田ジャージャー」の開発・販売開始（R元） ・高知県産品商談会（県地産外商公社）への出展（R2） ・オンライン商談会への参加（R2） ・動画を活用した商品PR（R2～） ・ラーメン店への業務用商品の販売（R2～） ・SNSを活用した商品PR（R2～） ・「ラーメンにのせる宗田節オイル」 <ul style="list-style-type: none"> 高知家のうまいもの大賞 優秀賞 受賞（R3） ◆雇用体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・旧来の節納屋の雇用形態の見直し（R2） ・宗田節以外の節の生産強化による年間操業及び雇用の安定 ・外国人技能実習生の受入れ 2名（R4） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正社員の増加 R2：5名 → R4：6名 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚の確保 ・顧客のニーズに合わせた丸節の生産拡大 ・他魚の活用による安定した年間操業 ・水産製品製造許可の取得 ・衛生管理体制の強化（小売商品を含む） <ul style="list-style-type: none"> →県版 HACCP 新第2ステージ認証取得 ・新規取引先の開拓

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆顧客のニーズに合わせた節生産体制の強化	施設整備 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： 施設整備（焼津式乾燥機、煮熟設備）及び稼働開始 ●県（地域本部等）： 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用、各種研修の参加呼びかけ 		生産体制の強化及び衛生管理体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： 増産に伴う生産管理の見直し、サバ、ムロ、うるめ等の節の生産強化、従業員のスキルアップ。県版HACCP新第2ステージ認証取得による衛生管理体制の強化 ●県（地域本部等）： 生産管理に関する産業振興アドバイザーの活用の提案、各種セミナーの情報提供 		
	◆販売拡大・新商品の開発	既存商品の磨き上げ <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： マーケティング分析や既存商品のパッケージの見直し等の改良、ブランディング ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の情報提供 		新商品の開発 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： 市場調査によるニーズの把握及び新商品の開発 ●県（地域本部等）： 商品開発に関する産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援メニューの提案 	
販路開拓 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： 商談会等への出展による販売先の開拓、既存取引先への販売拡大、他事業者と連携した販路開拓 ●県（地域本部等）： 商談会の情報提供、土佐MBA等の講座の提案 		インターネットを活用した販売の促進 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： HPやSNSを活用し、宗田節商品等のPR、販売促進 ●県（地域本部等）： 各種研修、セミナー等の参加呼びかけ 			
生産増に伴う雇用の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： 生産増に伴う雇用の創出、外国人研修生の受入れ ●県（地域本部等）： 各種支援策の提案、研修等の参加呼びかけ 					
◆雇用体制の強化					

AP名 (実施地域)	No.19 西土佐産栗の地産外商の推進 (四万十市)
実施主体	(株)しまんと美野里
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	西土佐地区の栗園再生に向け、「より高く、より多く売るしくみ」と「栽培しやすい環境づくり」に並行して取り組むとともに、イベントでの販売や加工品販売により、県内外に向けて情報発信を行うことで、栗の栽培及び販売額の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 売上高	1,250万円 (H30)	1,071万円	941万円		2,000万円
(2) 生栗の仕入量	7.8t (H30)	6.8t	6.7t		10.0t

集計期間：6～5月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品開発（パウダー・ペーストを使った商品、地域の多素材を使った商品）（H28～H30） 遊休施設を利用したカフェ(しまんと庵)の開業（H29） 焼き栗機の購入（H29） →四万十市産振補助金の活用 栗の選別機を購入（H30） →四万十市産振補助金の活用 県版 HACCP 旧第2ステージ認証取得（H30） <p>◆経営体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工施設の整備、氷感庫の導入（H22） →産振補助金の活用 商人塾短期集中セミナー-in 幡多受講（H30） なりわいセミナー幡多稼ごう塾受講（R元） <p>◆栽培しやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 農家定例会開催（契約農家への栽培技術支援）（H22～） 栗園を活用した学生向け地域学習プログラムの開発検討（R4） →産振アドバイザーの活用 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 他企業とのコラボ商品の開発（キャラメル、ミレーサンド等） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 栗の確保 (仕入れの確保、生産拡大) 経費削減

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆販売力の強化	<p>販売促進（生栗・焼き栗中心）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)しまんと美野里： <ul style="list-style-type: none"> 商談会等への出展を通じた販路開拓、催事への出店、ネット販売を通じた販売拡大及び情報発信、道の駅や自社カフェ（しまんと庵）での販売を通じた地域特産品としてのPR、SNSやHP等での情報発信 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザーの活用支援、各種情報提供 				
◆経営体制の強化	<p>経営戦略の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)しまんと美野里： <ul style="list-style-type: none"> 経営分析、経営課題洗い出し、経営資源の再構築 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザーの活用支援、よろず支援拠点等の情報提供、商工会と連携した各種情報提供 		<p>経営戦略に基づく事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)しまんと美野里： <ul style="list-style-type: none"> 経営戦略に基づく事業経営 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザーの活用支援、よろず支援拠点等の活用支援、商工会と連携した各種情報提供 		
◆栽培しやすい環境づくり	<p>栗生産者の収穫量アップ・栽培面積拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)しまんと美野里： <ul style="list-style-type: none"> 農家定例会の開催、契約農家等への各種情報提供 ●四万十市： <ul style="list-style-type: none"> 栽培拡大に向けた支援（縮間伐講習会、苗木補助、水田転作補助）、栽培負担が軽減される平地での栽培実証（モデル栗園において実施）、担い手の育成 ●県（幡多農業振興センター等）： <ul style="list-style-type: none"> 栽培技術に関する助言 				

AP名 (実施地域)	No.20 四万十牛の生産・加工・販売体制の強化 (四万十市)
実施主体	◎(株)四万十牛本舗、(株)横山畜産、地域事業者
APへの位置づけ	H25.4月
事業概要	西土佐地区の四万十牛の生産者及び加工販売事業者が、生産から加工、販売まで一貫してその強化に取り組むとともに、地域の道の駅、アクティビティ、宿泊等の関連事業者と連携し、四万十牛の地域内外での認知度向上及び販売拡大を推進することにより地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	1億9,000万円 (H30)	1億8,524万円	2億127万円		2億6,800万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新たな加工販売施設の整備・運営 <ul style="list-style-type: none"> ・加工販売に関する事業戦略の検討 (H29) →産業振興アドバイザーの活用 ・新加工販売施設整備 (R2) →産振補助金の活用 ◆商品開発及び販売促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド力を活かした経営戦略を検討 (H26) →産業振興アドバイザーの活用 ・焼肉店(焼肉よこやま)を開業 (H26) ・道の駅よって西土佐と連携した商品展開(食堂メニュー・惣菜・弁当) (H28~) ・「はれのば」テナントとして焼肉店「いぶき」を出店 (R2) ◆地元事業者との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・西土佐地域産業振興推進協議会の設立(H31.2月) ◆生産体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎増築 (H27) →県レンタル畜舎施設等整備事業の活用 ・堆肥舎新築 (R4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H27時点：14人→R4時点(12月時点)：23人 ・第11回神戸市西部市場銘柄和牛共進会優良賞受賞 (R2) ・第13回神戸市西部市場銘柄和牛共進会 優秀賞受賞 (R4) ・「土佐丼グランプリ2022」グランプリ受賞 (R4) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新加工場で県版 HACCP 新第2ステージの認証取得 ・ブランド化に向けた取組の強化 ・西土佐地域産業振興推進協議会をはじめとした地域事業者との連携強化 ・生産・販売体制の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆新たな加工販売施設の整備・運営	施設整備による加工・販売機能の向上及び HACCP 認証取得による衛生管理体制の向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十牛本舗： 加工販売施設の整備、県版 HACCP 新第2ステージ認証取得及び取得後の衛生管理の維持・向上、加工製造の効率アップ、イトインでのパーベキュー展開、小売スペースでの販売強化、店舗 PR 機能の強化 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金による施設整備支援、HACCP 研修及びアドバイザー活用による県版 HACCP 新第2ステージの認証取得支援 				
◆商品開発及び販売促進	新商品の開発・加工品の製造拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十牛本舗：道の駅等で販売する土産物の開発及び製造拡大、地域産品を活用した加工品の開発及び製造拡大 ●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案 				
	販促活動				
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十牛本舗：各種商談会への参加を通じた県内外飲食店等の販路開拓、ふるさと納税返礼品のさらなる充実、メディア媒体を活用した情報発信強化 ●県（地域本部等）：高知県地産外商公社やメディア媒体などの関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 					
◆地元事業者との連携強化	西土佐地域産業振興推進協議会の取り組みの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十牛本舗、地域事業者（協議会）： 四万十牛加工品の販売拡大、地域資源を活かした新たな旅行商品の開発、地域の情報発信力強化の検討（顧客情報の DM 活用等） ●四万十市：協議会の運営支援、協議会メンバーの情報発信強化（HP リニューアル等）等の事業化に対する支援、ふるさと納税返礼品掲載を通じた PR ●県（地域本部等）：協議会の運営支援及び参画によるアドバイス、産業振興アドバイザーの活用提案 				
◆生産体制の強化	生産体制の強化及び畜舎増設に向けた検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)横山畜産： 需要に応じた生産量の拡大、将来的なさらなる畜舎増築に向けた計画の検討、担い手の育成 ●県（西部家畜保健衛生所等）： 肥育現場での助言、畜舎増築計画策定にあたってのレンタル畜舎整備事業等による支援の検討 				

AP 名 (実施地域)	No.21 売り出せ西土佐プロジェクト推進 (拠点ビジネス) (四万十市)
実施主体	◎(株)西土佐ふるさと市、四万十市
AP への 位置づけ	H24.4月
事業概要	道の駅を核として、西土佐地域の多様な人材や事業者等が連携し、地域素材を活用した加工品の開発・販売や交流体験観光の情報発信等を行うことで、幡多地域の北の玄関口として交流人口を拡大し、地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	1億6,400万円 (H30)	1億4,604万円	1億5,391万円		1億7,300万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域ならではの商品づくり及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅よって西土佐」オープン (H28.4月) →H27 木造公共施設等整備事業費補助金及び H28 木の香るまちづくり推進事業費補助金の活用 ・地元民間業者による新商品の開発 (H27~H28) →産業振興アドバイザー等の活用 ・クラウドファンディングを活用して「四万十川天然鮎のコンフィ」を開発、販売開始 (H30) ・新商品「四万十川天然鮎のコンフィ缶詰」の販売開始 (R4.4月) <p>◆周辺施設・商店街等との連携 (地域拠点としての機能強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十うまいもの商店街への参加 (H28~) ・毎月テーマを決めたイベント (月次まつり) の実施 (H28~) ・愛媛県と連携した、四万十・南予横断2リバービューライド実施 (H28~) ・西土佐地域産業振興推進協議会の活動 (H30~) ・川の駅・カヌー館と連携した「ちよいのりカヌー」サービス開始 (H31~) ・しまんとリバーベキュープロジェクトとの連携 (R2~R4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅来場者数：50万人突破 (H31.4月) ・道の駅来場者数：80万人突破 (R3.5月) ・道の駅来場者数：100万人突破 (R4.9月) ・BBQ施設「リバーサイド(道の駅)」「ルーフトップ(ホテル星羅四万十)」が「スマートBBQパーク」の国内第1号、2号として認定 (R4.9月) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客・交流人口の増加 ・地域産品を活用した産業振興

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆地域ならではの商品づくり及び販売促進	<p>既存商品・サービスのブラッシュアップ及び地域産品を活用した新たな商品開発</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)西土佐ふるさと市： マーケットニーズに対応した商品の改良、地域の原材料を活用した自社商品・食堂メニューの開発、地域の生産者・加工事業者への新商品開発提案 ●県（地域本部等）：商品開発及び改良について産業振興アドバイザーの活用提案 				
	<p>地域の魅力の発信を通じた、地域内外での販売拡大</p>				
◆周辺施設等・商店街等との連携(地域拠点としての機能強化)	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)西土佐ふるさと市： 県内外の道の駅関連イベント等への出展による認知度の向上、メディア媒体を活用したPR、県アンテナショップを活用した試験販売及びPR、ネット販売商品の充実 各種商談会等への出展、全国道の駅との連携強化、営業人材の育成 ●県（地域本部等）：県地産外商公社や関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 				
	<p>加工機能強化の検討</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)西土佐ふるさと市： 販売拡大に応じた設備増強の検討 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 				
◆周辺施設等・商店街等との連携(地域拠点としての機能強化)	<p>地域観光拠点としての情報発信力の強化</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)西土佐ふるさと市： 周辺施設等との連携した観光受入メニューの開発及び実施、研修やセミナー等への参加による観光受入ノウハウの取得、SNSやマスメディアを活用した情報発信の強化、愛媛県と連携したサイクリングイベント受入の継続実施 ●県（地域本部等）：研修・セミナー等の情報提供、関係機関への橋渡し 				
	<p>西土佐地域産業振興推進協議会の取り組みの強化</p>				
◆周辺施設等・商店街等との連携(地域拠点としての機能強化)	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)西土佐ふるさと市、地域事業者（協議会）： 事業者間の情報共有、地域資源の有効活用、新たな自然体験メニューの開発、地域の情報発信の強化等 ●四万十市：協議会の運営支援、協議会メンバーの情報発信等の事業化に対する支援 ●県（地域本部等）：協議会の運営支援及び参画によるアドバイス、産業振興アドバイザーの活用提案 				

AP名 (実施地域)	No.22 四万十地域の素材を活用した加工商品の外商強化 (四万十市)
実施主体	◎しまんと ^{どめま} 百笑かんぱに(株)、四万十市地域商品研究会
APへの位置づけ	H26.9月
事業概要	四万十市の漁業者、農家、加工業者、販売者が連携し、四万十地域の食材を主な原材料とする加工商品を開発・製造・販売することで、地域内外での売上を拡大し、地域活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	4,844万円 (H30)	3,296万円	4,877万円		1億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆自社商品の開発強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を活用し、だしパックやドレッシング等の商品を開発 ・既存自社商品の磨き上げ <p>◆高付加価値路線への販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外での商談会、オンライン商談会への出展 (H28~) ・加工保管施設の整備 (H29) →産振補助金の活用 ・県版 HACCP 旧第3ステージ認証取得 (H30) ・地域事業者と連携したポータルサイト開設 (R2) <p>◆地域商社機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成セミナーの開催 (H27~H29) →地域の頑張る人づくり事業の活用 ・台湾での高知県物産展及び商談会を実施 県からの受託事業 (H28~H29) 主催事業 (H30~R元) →食品産業総合補助金の活用 ・地域の事業者との連携による、はちみつ、黒糖関連商品の販売開始 (R元~) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発 (H26~R3) : 8アイテム <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社商品の開発 ・営業人材不足

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 自社商品の開発強化	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">地域素材の掘り起こしと商品開発</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●しまんと百笑かんぱに(株) : 地域素材の発掘、市場調査、商品開発、既存商品の磨き上げ ●県（地域本部等） : 地域素材に係る情報提供、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆ 高付加価値路線への販路拡大	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">営業ターゲットを絞った販路拡大</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●しまんと百笑かんぱに(株) : 業界研究、営業人材の確保・育成、商談会への出展、訪問営業、ファッション・ブライダル業界等への営業強化 ●県（地域本部等） : 戦略策定に係る土佐 MBA 等の講座等の紹介、商談会等の紹介 				
◆ 地域商社機能の強化	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">推進体制の構築</div>	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">地域商社機能の強化</div>			
	<ul style="list-style-type: none"> ●しまんと百笑かんぱに(株)、四万十市地域商品研究会 : 地域内事業者の情報集約、市町村との連携強化 ●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、行政関係者や他の事業者・生産者への橋渡し 	<ul style="list-style-type: none"> ●しまんと百笑かんぱに(株)、四万十市地域商品研究会 : 地域内事業者と共同での商談会出展、他社商品の取り扱い強化、地域内事業者（商品）プロデュース機能の強化、台湾など海外への外商強化 ●県（地域本部等） : 事業推進に係る土佐 MBA 等の講座等の紹介、各種支援制度に関する情報提供 			
<p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハザップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。 ・地域商社 : 農産物や加工品等の地域資源にスポットライトをあて、生産、加工、販売まで一貫してプロデュースし、地域内外に発信及び販売する組織 					

AP 名 (実施地域)	No.23 幡多地域の農水産物を活用したペット関連商品の開発・販売拡大 (四万十市)
実施主体	(株)WAN LIFE
AP への 位置づけ	H28.4 月
事業概要	四万十市の農産物を中心に、県産素材にこだわったペット関連商品を開発し、地産外商を進めることで、地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	2,064 万円 (H30)	3,522 万円	4,644 万円		6,000 万円

会計年度：1～12 月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギフトセットの開発 (H28) →産業振興アドバイザーの活用 ・猫用商品の開発に着手 (R 元) →産業振興アドバイザーの活用 <p>◆販促活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真の撮り方の研究、HP リニューアル、SNS 活用強化 (H29) →産業振興アドバイザーの活用 ・ふるさと納税返礼品への登録 (H29～) ・ペット向け定期便サイト国内大手全 4 社に登録 (H30～) ・通販サイトのリニューアル及びふるさと納税返礼品の品揃えの強化 (R4) <p>◆生産体制の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造スペース改修及び製造機器導入 (H29) ・生産工程及び受発注工程を効率化 (H30) →産業振興アドバイザーの活用 ・新施設 (ドッグラン) をオープン (R4) →新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットおやつ食品 15 商品を開発 (H28～R 4) ・犬用スープ商品(2 種類)の開発 (H29) ・施設内 (カフェ) で 2 商品の提供を開始 (R4) ・ドッグラン複合施設オープン (R4) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発・販路拡大 ・人手不足

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆商品開発	ネコ関連商品及びレトルト商品の強化		さらなる地域素材の発掘		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)WAN LIFE : 市場調査、試作品作り、原料調達方法の検討、商品化 ●県(地域本部等) : 産振アドバイザーの活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)WAN LIFE : 市場調査、試作品作り、調達方法の検討 ●県(地域本部等) : 集活センターや地域の生産者が取り組む一次産品情報の提供 		
◆販促活動	ITを活用した個人顧客の獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)WAN LIFE : 各媒体(HP、SNS、ブログ)での情報発信のスキルアップ、顧客情報を活用した地域情報発信によるコアファンづくり、自社HPの多言語対応 ●県(地域本部等) : 土佐MBA等の講座等の紹介 				
	新商品のPR強化		自社定期便システム構築の検討		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)WAN LIFE : 商談会、イベント等への出展 ●県(地域本部等) : 商談会等の情報提供、新商品に関する県からの情報発信 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)WAN LIFE : 市場調査、コンセプトづくり、システム構築 ●県(地域本部等) : 産振アドバイザーの活用提案 		
施設整備(物販・ドックラン等)					
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)WAN LIFE : 資金調達、施設整備 ●県(地域本部等) : 産業振興総合補助金の活用可能性検討、その他、各種支援制度に関する情報提供 					
◆生産体制の充実・強化	生産工程のさらなる効率化		新規事業展開(施設整備含む)の検討		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)WAN LIFE : 生産工程の継続的な見直し、県版HACCP新第2ステージ認証取得 ●県(地域本部等) : 県版HACCP認証取得の支援、必要に応じた産振アドバイザーの活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)WAN LIFE : 市場調査、事業構想の磨き上げ、事業計画策定 ●県(地域本部等) : 土佐MBA等の講座等の紹介、施設整備 		

AP 名 (実施地域)	No.24 四万十の地域食材を活用した商品開発・製造・販売の推進 (四万十市)
実施主体	(株)LLPしまんと
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	四万十川流域の素材を使用した菓子類の開発・製造・外商を行い、素材生産者の所得向上と雇用の創出を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	2,584 万円 (H30)	2,394 万円	2,740 万円		3,500 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆人材確保及び人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・土佐 MBA「幡多稼ごう塾」の受講 (R 元) ◆商品ラインナップの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・紫芋かりんとう、黒糖かりんとうの販売開始 (H28) ・ぶんたんゼリーの販売開始 (H29) ・県版 HACCP 旧第 2 ステージ認証取得 (H29) ・ほか商品の販売開始 (R2) ・ソイチップスの販売開始 (R4) ◆販路開拓 <ul style="list-style-type: none"> ・「土佐の宴」など商談会への出展 (H28～) ・OEM 受注拡大 (H30～) ◆生産体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・組織の株式会社化 (H28) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用創出 R4(11 月末時点) : 5 人 (正規 2 人、パート 3 人) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・慢性的な製造人員不足の解消 ・県版 HACCP 新第 2 ステージ認証取得 ・製造施設の規模拡大

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆人材確保 及び人材育成	雇用戦略の策定と人材確保策 の強化		人材育成の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 人材確保不足の要因分析、雇用に関する 情報発信方法の研究、雇用条件の検討、高 知求人ネット登録等の情報発信強化 ●県（地域本部等）： 移住促進・人材確保センター等の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 販売戦略、商品開発、食品衛生等に係る 研修等の受講 ●県（地域本部等）： 土佐 MBA 等の研修等の紹介 		
◆商品ラインナ ップの充実	OEM 受注拡大	自社新商品開発			
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 商談会等での提案、情報発信 ●県（地域本部等）： 商談会等の情報提供、情報発信 支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： コンセプトづくり、試作品づくり、商品化の実現 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーほか各種支援制度に関する情報提 供、地域素材に関する情報提供 			
◆販路開拓	外商強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 営業人材の育成、商談会等への出展 ●県（地域本部等）： 研修や商談会等の情報提供、各種支援制度に関する情報提供 				
◆生産体制の 強化	現生産体制の改善・強化			生産力強化の検討	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 現製造施設の作業工程の見直し等による生産効率向 上、県版 HACCP 新第2ステージ認証取得、効率化を 促進する設備の導入検討 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーを活用した生産効率向上支援、各種 支援制度に関する情報提供、産業振興総合補助金（ス テップアップ事業を含む）の活用可能性検討 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 施設整備の検討、候補地の検討 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金ほか支援 制度の活用可能性検討 	
<p>【用語】・OEM：「Original Equipment manufacturer」の略。他社ブランドの製品を製造すること。またはその企業。日本では「相手先ブランド名製造」などと訳される。なお、販売ブランドが流通業の場合はプライベートブランド（PB）と呼ぶことが多い。</p> <p>・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.25 幡多地域産品を活用した冷凍加工食品の開発・製造・販売の推進 (四万十市)
実施主体	(有)和 ^わ
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	地域色豊かな食材を活用した加工食品を開発・製造・販売することで、食材自体の認知度を向上させ、生産者の所得向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	2,288 万円 (H30)	1,444 万円	1,459 万円		3,500 万円

会計年度：6～5月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆商品開発及び改良 <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を利用した冷凍餃子の開発 (H28) ・調味料等の商品開発 (H28～R 元) ・土佐 MBA アドバンスの受講 (H28、H30) ・県内事業者と共同での餃子シリーズや冷凍鰹タキ等商品開発及び OEM 受注 (H29～30) ・土佐 MBA「商人塾短期集中セミナー」、「幡多稼ごう塾」の受講 (H30、R 元) ◆販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・自社 HP 開設 (R3～) ・通販 (まるごと高知 Online Shop) での販売開始 (R3～) ◆生産体制の強化・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな施設整備に向けた検討 (R 元～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H27：5人 (正規4人、パート1人) →R4(11月末時点)：9人 (正規6人、パート3人) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を活用した商品開発 ・営業力の不足を補う、販売力のある事業者と連携した OEM 商品の開発及び販売拡大 ・県版 HACCP 新第2ステージの認証取得

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆商品開発及び改良	OEM商品の開発強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)和： 土佐MBAの受講、県内事業者との連携、県内外の事業者との連携によるOEM商品の共同開発及び受託開発 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆販路拡大	県外消費者へのPR強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)和： 県外商談会への出展、自社HPの強化、実演販売の実施、県内外の事業者との連携によるOEM商品の販売拡大 ●県（地域本部等）： 商談会等の紹介、PR戦略に係る産振アドバイザーの活用提案 				
◆生産体制の強化・充実	事業モデルの再検討		加工販売拡大のための施設整備の検討		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)和： 土佐MBAの継続受講、事業モデル構想作り ●県（地域本部等）： 農商工福祉をはじめとする関係機関への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●(有)和： 新たな施設整備を含む事業計画の検討 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 		
<p>【用語】・OEM：「Original Equipment manufacturer」の略。他社ブランドの製品を製造すること。またはその企業。日本では「相手先ブランド名製造」などと訳される。なお、販売ブランドが流通業の場合はプライベートブランド（PB）と呼ぶことが多い。</p>					

AP名 (実施地域)	No.26 地域商業活性化拠点「はれのぼ」を核とした中心市街地の活性化 (四万十市)
実施主体	◎四万十市中心商店街活性化協議会、◎四万十にぎわい商店(株)、四万十市
APへの位置づけ	H29.4月
事業概要	中心商店街内に整備した地域商業活性化拠点「Shimanto+Terrace はれのぼ」を核に、県内外の観光客といった新たな顧客を官民協働で呼び込むことにより、商店街等に継続的な賑わいをもたらし、中心市街地の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 中心商店街エリア内の売上額 ※	8億3,100万円 (H30)	7億2,500万円	7億0,400万円		9億1,411万円
(2) 中心商店街エリア内の通行量 ※	平日 5,226人 休日 4,036人 (H26~30平均)	平日 5,824人 休日 3,244人	平日 4,743人 休日 2,954人		平日 6,005人 休日 4,647人
(3) 中心商店街エリア内の新規出店者数	2店舗 (H30)	11店舗 (R元~2累計)	12店舗 (R元~3累計)		16店舗 (R元~5累計)
(4) 売上額 (四万十にぎわい商店(株))	- (H30)	1,763万円	1,974万円		1,861万円

※ 集計年度 (1) (2) : 1~12月 (3) : 4~3月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆拠点施設の魅力向上と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営主体の決定：四万十にぎわい商店(株) (H29.6月) 名称の決定：「Shimanto+Terrace はれのぼ」 (R元.12月) 施設整備(R2.3月完成、4月オープン) →地域経済活性化拠点補助金の活用 はれのぼ PR 動画作成 (R2) 主催、持込みイベントの開催 (R2~) <p>◆中心市街地エリアへの経済波及促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 中小機構「中心市街地商業活性化診断・サポート事業」の活用 四万十市中心商店街活性化協議会の設立 (H30.10月) 四万十市中心商店街活性化計画づくり (H30) →産業振興アドバイザーの活用 四万十市中心商店街活性化計画の策定 (R元) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> グッドデザイン賞受賞 (R2) 「日本空間デザイン賞 2020 (日本空間デザイン協会/日本商環境デザイン協会) 銅賞受賞 (R2) 直営店「cafe n2」売上額：1,142万円 (R4.11月末時点) 直営店「cafe n2」入込客数：12,059人 (R4.11月末時点) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 拠点施設の魅力向上及び経営確立 拠点施設と中心商店街の連携によるシャワー効果の最大化 四万十市中心商店街活性化計画の実行

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆拠点施設の 魅力向上と情報 発信	拠点施設のカフェ及び店舗の魅力向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十にぎわい商店(株) : カフェメニュー充実のための地域の食材調査、試作品づくり、市場調査（消費者の意見集約）、メニュー改良、新たなメニュー化の実現、テナント入居店舗のメニュー・サービスの改善提案、新たな加工商品の開発及び拠点施設での販売の検討 ●県（地域本部等） : 試作品づくりへのアドバイスを獲得するための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆中心市街地工 リアへの経済波 及促進	拠点施設に人を呼び込む仕組みづくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十にぎわい商店(株)、四万十市中心商店街活性化協議会 : 集客イベントの実施、拠点を活用した持ち込みイベントの支援、マルシェの開催（日曜市の復活）支援 ●県（地域本部等） : 拠点でのイベント実施希望者に関する情報提供、イベント運営支援、情報発信 				
◆中心市街地工 リアへの経済波 及促進	エリア情報の集約および情報発信基盤の整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十市中心商店街活性化協議会、四万十にぎわい商店(株)、四万十市 : 商店街店舗同士の情報共有、店舗の相互紹介サービスの実施とマップの作成、掲示板やチラシ等の既存の実媒体の強化、広報誌の新規発行、まちのポータルサイトの新規開設 ●県（地域本部等） : 商店街等振興計画推進事業費補助金による支援、産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
	中心商店街に人を呼び込む仕組みづくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十市中心商店街活性化協議会、四万十にぎわい商店(株)、四万十市 : 店舗バックヤード等の紹介ツアー実施、拠点を活用した持ち込みイベントの情報集約及び開催への橋渡し、マルシェの開催（日曜市の復活）、毎月の「玉姫の日」イベント拡大実施、店舗を巡って遊ぶ「まちあそび人生ゲーム」イベントの継続実施 ●県（地域本部等） : 商店街等振興計画推進事業費補助金による支援、産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆中心市街地工 リアへの経済波 及促進	店舗新規参入の促進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十市中心商店街活性化協議会、四万十市 : チャレンジショップ事業の推進、エリア内の空き店舗情報の共有 ●県（地域本部等） : 空き店舗対策事業費補助金による支援、その他事業各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.27 地元食材を活用した加工品の開発・製造による地産地消・外商の推進 (四万十市)
実施主体	(有)四万十食品
APへの位置づけ	R5.4月
事業概要	新たな施設・設備を整備し、地元食材を活用した新商品開発や既存商品の増産による販売拡大を図ることにより、生産者等の所得向上や雇用の創出を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	2億6,492万円 (R4年度)	2億4,942万円	2億6,687万円	2億6,492万円	2億9,267万円

会計年度：9～8月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社設立 (H11) ・佃煮の製造販売強化に向けた工場拡張、機械設備の導入、雇用創出 (H15) <p>◆商品開発、販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元食材 (四万十の海苔、柑橘類、畜産物、魚介類) を使用した商品開発 (H20～) ・高知県産野菜を使用した商品開発 (H28～) ・ふるさと納税への出品 (H29～) ・お土産店へのNB商品の販売強化 (H30～) ・PB、NB商品の販売強化 (R1～) ・四万十天然水を使用したのり佃煮や新たなPB商品の開発 (R3～) ・県内外の商談会への出展 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・PB、NB商品の開発、販売強化等の取組により、コロナ禍においても売上は堅調に推移 ・従業員16名 (うち、R4雇用：4名) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の増産や新商品開発のニーズに合わせた生産拡大 (販売機会の損失解消) → 新工場の建設 ・機械設備の老朽化 → 新たな機械設備等の導入 ・衛生管理体制の強化 → 県版HACCPの認証取得 ・従業員の高齢化や生産拡大に伴う新規雇用者の増 → 人材確保・育成

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の強化			施設整備の検討	新工場の建設、機械設備等の導入	新工場の稼働
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)四万十食品： 新工場の建設、機械設備等の導入 ●県（地域本部等）： 産業振興推進総合支援事業費補助金による施設整備等の支援 		衛生管理体制の強化及び人材確保・育成		
◆商品開発・販路開拓			既存商品の増産、新商品の開発		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)四万十食品： 既存商品の増産体制の確立、新商品開発依頼への対応、新たな原材料の確保 ●県（地域本部等）： 商品開発のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 		販路開拓		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)四万十食品： 県内外の商談会やイベント等への出展 ●県（地域本部等）： 商談会等の情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.28 道の駅「ふれあいパーク・大月」を基盤とした産業振興と賑わいの創出 (大月町) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一財)大月町ふるさと振興公社、◎大月町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	道の駅「ふれあいパーク・大月」を産業振興と町全体の賑わい創出の拠点と位置付け、農林畜水産品の販売や特産品の開発・販売など地産地消・外商を推進するとともに、町内外から人が集う交流の場を提供し、道の駅を大月町の基盤（エンジン）として多機能型地域拠点へのモデルチェンジに取り組み、持続可能なまちづくりと地域の活力向上を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	1億9,400万円 (H30)	2億 443万円	2億 1,926万円		2億 5,000万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地場産品の販売促進、特産品の開発・販売の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設整備、ネット通販、カタログ販売の仕組みづくり及び商談会出展（H21～22） → H21、22 産振補助金の活用 ・商品力の強化（H26） →産振アドバイザーの活用 ・通販サイトのリニューアル（H30） →産振アドバイザーの活用 ・目指せ！弥太郎 商人塾 in 幡多の受講（H30） ・商談会出店（R4：4回） <p>◆賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい市出品者協議会を設立し、協議会との共催による月1回（第3日曜）ふれあいマーケット開催（H27～） ・イベント開催（年5回）※R3はコロナの影響で中止 ・(株)高知県観光開発公社と観光振興に関する協定を締結（R4） 	<p>◆道の駅のモデルチェンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「ふれあいパーク・大月」 多機能拠点化基本構想策定（H29.11月） ・道の駅「ふれあいパーク・大月」 多機能拠点化基本計画策定（H30.6月） ・満足度向上に向け受入体制強化（R2） →産振アドバイザーの活用 ・道の駅「ふれあいパーク・大月」 リニューアル一時凍結（R4.3月） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H20：12人（正規5人、パート7人） → R3：18人（正規4人、パート14人） ・「道の駅」来客数（レジ通過数） H20：17.0万人 → R3：18.3万人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・供給体制（生産体制）の確保 ・産直市のさらなる販売強化 ・商品のPR強化 ・来店者の満足度向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地場製品の販売促進、特産品の開発・販売の強化	<p>地産地消・外商の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一財)大月町ふるさと振興公社・町内事業者等： 供給（生産）体制の確保、展示商談会等への参加、県版 HACCP 認証取得、支援制度の活用 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の情報提供・活用支援、展示商談会等の紹介、衛生管理等に関する講習会等の紹介 				
	<p>新商品開発・既存商品の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一財)大月町ふるさと振興公社・町内事業者等： 新商品開発、商品力強化、パッケージ改良、販促ツール製作・発信、支援制度の活用 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の情報提供・活用支援、産振アドバイザーの活用支援、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
◆賑わいの創出	<p>事業者等との連携によるイベント等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一財)大月町ふるさと振興公社・町内事業者等： ふれあいマーケット開催、既存イベント充実、新たなイベント企画・実施、支援制度の活用 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の情報提供・活用支援、イベントの企画・実施支援及び連携調整 				
	<p>滞在交流の促進・ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一財)大月町ふるさと振興公社・町内事業者等・大月町： 物販及び飲食の機能が相互にリンクした一体感のある場の醸成、町内の娯楽・滞在施設と道の駅を連結する（町内各ゾーンや各施設等をつなぐ）ネットワークの形成 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の情報提供・活用支援 				
◆道の駅のモデルチェンジ	<p>第一期工事（物販棟等）、第二期工事（センター棟等）の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大月町： 第一期工事（物販棟新築工事・駐車場整備等） 第二期工事（センター棟新築工事・公園整備等）の検討 ●県（地域本部等）： 道路管理者・道路事業者との調整、産業振興総合補助金等支援制度の活用可能性検討 				

AP 名 (実施地域)	No.29 三原村のどぶろくによる地域活性化 (三原村)
実施主体	土佐三原どぶろく合同会社
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	地域の特産品である「どぶろく」にかかる村内の組織体制を強化し、地域が一体となって販売促進を図ることで地域活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	1,479 万円 (H30)	1,284 万円	1,367 万円		1,900 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規格瓶の作成による販売開拓に向けて、クラウドファンディングを実施 (H29) ・販売促進のノウハウを習得 (H30) →産業振興アドバイザーの活用 ・ダムと連携したダム貯蔵どぶろくの販売 (R元～) ・販促物の作成及び県外イベントへの参加 (R元) →女性事業者等活躍促進事業の活用 ・「甘酒」の販売を開始 (R2.10月) ・「甘酒」の製造拡大に向け加工場を整備 (R3.1月) ・「甘酒」のパウチタイプの開発 (R3.7月) ・HP 及び EC サイトの開設 (R3.9月) ・Instagram アカウントの開設 (R3.9月) <p>◆組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐三原どぶろく合同会社を設立し、資材の受入や商品の受注等窓口を一本化 (H28.7月) ・販売戦略や情報発信のノウハウの習得 (H29) →産業振興アドバイザーの活用 ・衛生管理や危害分析のノウハウの習得 (H30～R元) →HACCP アドバイザーの活用 ・商品開発やネット販売に関するノウハウの習得 (R2) →よろず支援拠点アドバイザー ・新商品開発に向け、先進地視察を実施 (R2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・完全内製化（製造・販売機能の集約）及び HACCP 対応に向けた共同製造施設の整備 (R4) →事業再構築補助金の活用 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H27：0人 → R3：1人（パート） ・新商品開発 R2：6品、R4：1品 ・衛生管理体制の強化 県版 HACCP 旧第2ステージ認証取得 →6軒中4軒取得 (R3.12月時点) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造拡大及び後継者の確保に向けた施設・体制の整備 ・販路拡大に向け、販売促進活動の強化 ・安心安全な製品供給に向け、衛生管理体制の構築 ・村内への誘客促進に向け、どぶろく関連企画の提案

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降	
◆販売促進	<p>県外展開に向けた基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐三原どぶろく(同) : 新商品の試作・提案、幡多地域内のどぶろく取扱店の掘り起こし、社会情勢等の情報収集、販売促進体制の構築、幡多及び県外向けの商談会への出展 ●県（地域本部等） : 県外販路に関する情報提供、セミナー・商談会等の紹介、関係者への橋渡し 			<p>継続的な取引先の確保・拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐三原どぶろく(同) : 幡多及び県外販路の開拓（県外の高級飲食店への商流構築等） ●県（地域本部等） : 県外販路に関する情報提供、セミナー・商談会等の紹介、関係者への橋渡し 		
	<p>誘客促進に向けたどぶろく関係企画の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐三原どぶろく(同) : イベントに合わせたどぶろく企画の提案・実施、農家民宿・農家食堂と連携した村内への呼び込み強化 ●県（地域本部等） : どぶろく文化を活かした誘客に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、その他各種支援制度に関する情報提供 			<p>企画の情報発信、磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐三原どぶろく(同) : SNS等を活用した情報発信、既存顧客へのDM、実施イベントの見直し ●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供 		
◆組織体制の強化	<p>衛生管理、組織体制の強化策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐三原どぶろく(同) : 県版 HACCP の認証取得・検討、商談能力の向上 ●県（地域本部等） : HACCP 現地確認アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座の紹介 			<p>衛生管理、組織体制の整備及び構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐三原どぶろく(同) : 一般衛生管理マニュアルの作成、事務局体制の見直し ●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、関係者への橋渡し 		
<p>【用語】 ・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS : 「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>						

AP 名 (実施地域)	No.30 三原産トマトを中心とした加工・販売の推進 (三原村)
実施主体	(株)ベストグロー
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	地域産トマトを活用した加工品の生産体制を強化するとともに、地産外商による販路拡大を進めることで、新たな雇用の創出による地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	9,395 万円 (H30)	11,373 万円	12,200 万円		1 億円

会計年度：4～3月（H30）、12～11月（R元～）

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試作商品の商品化に向けたノウハウの習得（H28） →産業振興アドバイザーの活用 ・新商品のテストマーケティングを実施（H29） →産業振興アドバイザーの活用 ・JAL 国内線ファーストクラスの飲料に採用（R2.6月） <p>◆生産・加工体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュース製造機器の導入（H28） →ものづくり・商業・サービス革新補助金の活用 ・自社の経営分析及び事業戦略の見直しに向け、ナリワイセミナー幡多稼ごう塾を受講（R元） ・衛生管理や危害分析のノウハウを習得（H30～R元） ・県版 HACCP 旧第2ステージ認証取得（R元.8月） →HACCP アドバイザーの活用 ・HACCP 講習会へ参加（R2） ・食品衛生及び食品表示に関するセミナーの受講（R3.4～10月） ・ジュース製造体制の見直しに着手（R4） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H27：2人 → R3：4人（正社員） ・新商品開発 R元：1品 ・取引件数 H28：120件 → R3：150件 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売リスク分散に向け、カゴメ(株)以外の取引先の確保 ・販路拡大に向け、海外展開を視野に入れた販売促進活動の強化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆販売促進	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">県外・海外展開に向けた基盤づくり</div>			<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">海外進出・貿易開始</div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロー： <ul style="list-style-type: none"> GAP 取得に向けた情報収集、貿易セミナー等でのノウハウの習得、海外事情等の情報収集、海外向けの商談会への出展 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 貿易に関する情報提供、セミナー及び商談会等の紹介、関係者への橋渡し 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロー： <ul style="list-style-type: none"> 海外販路の開拓（海外の高級量販店への商流構築等） 	
	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">顧客ニーズを意識した規格・デザイン等の見直し</div>			<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">製品のプロモーション活動</div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロー： <ul style="list-style-type: none"> セミナー等で得た情報に基づいた商品規格等の見直し ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 顧客ニーズを反映した商品づくりに関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、その他各種支援制度の紹介 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロー： <ul style="list-style-type: none"> 商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 高知県地産外商公社への橋渡し支援 	
◆生産・加工体制の強化	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">ジュース製造ラインの見直し</div>			<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">海外進出を見据えた人員体制整備</div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロー： <ul style="list-style-type: none"> ジュース製造工程で発生している課題の整理、県版 HACCP 新第2ステージの認証取得 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 情報提供、関係機関への橋渡し、その他各種支援制度の紹介 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロー： <ul style="list-style-type: none"> HACCP に対応した加工製造工程における安定した稼働の維持及び人員体制の強化 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 情報提供、関係機関への橋渡し、その他各種支援制度に関する情報提供 	
<p>【用語】 ・GAP：「Good Agricultural Practice」の略。農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みのこと。</p> <p>・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.31 黒潮町産天日海塩を活用したビジネスの推進 (黒潮町)
実施主体	(有)ソルティープ
AP への 位置づけ	H28. 4月
事業概要	黒潮町の特産品づくりの取り組みの中心的な役割を担う天日海塩の増産体制を整備し、新たな商品の開発を行うとともに、塩に関連した観光体験事業を強化、充実させることで、黒潮町の新たな地域ビジネスを確立し、他事業者と連携を図りながら、地域の所得向上につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	2,195 万円 (H30)	2,985 万円	2,913 万円		3,467 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生産施設の拡大及び体験受入の体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ・看板設置 (H28) <ul style="list-style-type: none"> →観光拠点整備事業の活用 ・灘製塩所の新規結晶ハウス整備 (R元) <ul style="list-style-type: none"> →産振補助金の活用 ・HACCP アドバイザーの活用 (R元～R2) ・採かん施設の改築及び結晶ハウスの増築 (R4) <ul style="list-style-type: none"> →産振補助金の活用 ◆販路開拓・販売促進 <ul style="list-style-type: none"> ・販促ツール作成 (H28) <ul style="list-style-type: none"> →小規模事業者持続化補助金の活用 ・ホームページ作成 (H29) <ul style="list-style-type: none"> →黒潮町産業振興推進事業費補助金の活用 ◆人材確保 <ul style="list-style-type: none"> ・OJTによる製塩技術者の育成 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製塩量 <ul style="list-style-type: none"> H30 : 7,000kg→R元 : 7,500 kg →R2 : 8,300 kg→R3 : 8,000 kg ・塩づくり体験受入 <ul style="list-style-type: none"> H30 : 520 人→R元 : 505 人→R2 : 138 人 →R3 : 420 人 ・県内事業者との商品開発 <ul style="list-style-type: none"> 14 品 (H28～R3) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ教育 ・県版 HACCP 新第 2 ステージの認証取得及び販売促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産施設の拡大及び体験受入の体制強化	HACCP 取得				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ソルティープ： 県版 HACCP 新第2ステージ 認証取得 ●県（地域本部等）： HACCP 研修及びアドバイザー活用による認証取得支援 		採かん施設改築及び結晶ハウス増築工事・稼働 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ソルティープ： 事業計画の作成、基本設計、実施設計、工事、 生産規模拡大、塩づくり体験受入体制の強化 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金による施設整備支援 		
◆販路開拓・販売促進	各種商談会への出展				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ソルティープ：各種商談会への出展を通じた販路開拓、商品のさらなる充実、メディア媒体を活用した情報発信強化 ●県（地域本部等）：高知県地産外商公社やメディア媒体などの関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 				
	販促活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ソルティープ： 原料供給による連携事業者との関係性強化及び新商品開発、商品規格の種類増加、塩づくり体験者への商品 PR ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 				
◆人材確保	製塩作業を実践しながら人材（担い手）の育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ソルティープ： 人脈等を活用した後継者の確保、OJT による育成 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハザップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・OJT：「On The Job Training」の略。実際の職務現場において、業務を通して上司や先輩職員が部下の指導を行う教育訓練のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.32 黒潮町産天日塩の販売拡大及び地域ブランド化の推進 (黒潮町)
実施主体	◎土佐のあまみ屋、黒潮町商工会
AP への 位置づけ	R3.4月
事業概要	新たな採かん施設を核として、天日塩の生産量不足による売上げの機会損失を解消し、新たな加工品の開発・販売を行うとともに、黒潮町商工会による「地域ブランド化」の推進により、黒潮町産の天日塩全体の販売拡大と知名度の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	2,442 万円 (R 元)	2,593 万円	2,859 万円		3,338 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザー(発掘支援型)の活用 (R2) ・土佐 MBA ナリワイセミナーの受講 (R2) ・採かん施設の増築及び既存結晶ハウス内の結晶箱の増設 (R4) <p>→産振補助金の活用</p> <p>◆販売拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット通販の開始 (R3.2～) ・黒潮町ふるさと納税返礼品に登録 (R3.9～) <p>◆地域ブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体商標制度についての勉強会開催 (R2) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 R2 : 6 人 (正規 5 人、パート 1 人) R3 : 7 人 (正規 5 人、パート 2 人) ※代表を除く人数 ・「本場の本物※」認定 (H21) ※(一社)食品産業センターが認定する地域食品ブランドの表示基準 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量不足の解消 ・県版 HACCP 新第 2 ステージの認証取得 ・地域ブランド化の推進

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆生産体制の強化</p>	<p>新規採かん施設の整備等検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐のあまみ屋：農地転用等の手続き、採かん施設整備、既存結晶ハウス内の結晶箱の増設 ●県（地域本部等）：産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 		<p>採かん施設の増築及び結晶箱の増設・稼働</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐のあまみ屋：採かん施設の増築及び既存結晶ハウス内の結晶箱の増設 ●県（地域本部等）：産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 <p>衛生管理体制の強化及び人材確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐のあまみ屋：県版 HACCP 新第2ステージ認証取得に向けた取り組み、雇用拡大、従業員教育の実施 ●県（地域本部等）：県版 HACCP に関する講習会及び研修会等に係る情報提供、その他各種支援制度に関する情報提供 		
<p>◆販売拡大</p>	<p>食品加工業者との連携・加工品開発、販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐のあまみ屋：ネット通販の開始、新たな加工品の開発 ●県（地域本部等）：商品開発のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>◆地域ブランド化の推進</p>	<p>地域ブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●黒潮町商工会：地域団体商標制度への出願検討、町内事業者の合意形成、地域認証制度の創設 ●県（地域本部等）：地域の頑張る人づくり事業の提案、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体商標制度：地域の産品等について、事業者の信用の維持を図り、「地域ブランド」の保護による地域経済の活性化を目的として平成18年4月1日に導入された制度。「地域の名称」と「商品(サービス)名」等の組み合わせで登録可能。 ・地域認証制度：「製法基準」「産地基準」「安全基準」を設定し、基準をクリアした商品に対して認証を付与する制度。 					

AP名 (実施地域)	No.33 佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進 (黒潮町)
実施主体	◎(株)なぶら土佐佐賀、黒潮町
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	地元の魚介類や農産物を使ったレストラン、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光関連情報発信機能を有する道の駅「なぶら土佐佐賀」を中心として、地域食材の活用や地域の魅力の発掘・発信に取り組むことにより、地域の所得向上と交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	2億1,628万円 (H30)	1億6,874万円	1億7,751万円		2億2,600万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆施設整備及び組織体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・(株)なぶら土佐佐賀を設立 (H25) ・道の駅「なぶら土佐佐賀」オープン (H26) <ul style="list-style-type: none"> →H25 産振補助金の活用 ・接遇研修実施 (H28) <ul style="list-style-type: none"> →産業振興アドバイザーの活用 ・空調改修及び観光表示板の改修 (R3) <ul style="list-style-type: none"> →新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・キャッシュレス対応券売機等の導入(R4) <ul style="list-style-type: none"> →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 ◆町内の事業者と連携した商品開発・販売促進 <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅ビオスおおがたとの情報交換会 (H29～) ・町内事業者と連携したPR番組の作成 (R元) <ul style="list-style-type: none"> →黒潮町産業振興推進事業費補助金の活用 ◆観光案内等機能充実・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内板及び外国語版パンフレット作成 (H25) <ul style="list-style-type: none"> →観光案内板等整備事業費補助金の活用 ・幡多広域観光協議会によるデジタルサイネージ設置 (H28) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H30 : 15人 (正規9人、パート6人) →R元 : 15人 (正規10人、パート5人) →R2 : 14人 (正規10人、パート4人) →R3 : 16人 (正規7人、パート9人) ・直販所の売上 (指標の内数) H30 : 9,260万円→R元 : 9,168万円 →R2 : 7,371万円→R3 : 8,402万円 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイパス延伸と連動した店舗規模拡大の検討 ・誘客促進のための町内関連施設やイベントとの連携強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施設整備及び組織体制の充実	店舗拡大に向けた協議		バイパス延伸に伴う店舗規模拡大		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なぶら土佐佐賀： コンセプトづくり、市場調査（消費者の意見集約）、基本計画作成 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金（ステップアップ事業）及び産業振興アドバイザーの活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なぶら土佐佐賀： 基本設計、実施設計、工事、開業準備 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 		
◆町内の事業者と連携した商品開発・販売促進	人材育成・人的体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なぶら土佐佐賀： 店舗経営改善、研修会・セミナー等の受講 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、研修会・セミナー等の情報提供 				
◆観光案内等機能充実・強化	地域食材を活用した特産品と飲食施設提供メニューの開発・販促 PR				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なぶら土佐佐賀： フードコートメニュー・テイクアウト商品の開発、鮮魚コーナー設置検討 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 				
◆観光案内等機能充実・強化	町や幡多広域、町内関連施設等との連携、強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なぶら土佐佐賀： 道の駅「ピオスおおがた」との連携・情報共有の強化、観光案内所として幡多広域イベント等情報発信機能の強化 ●県（地域本部等）： 関係機関への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.34 黒潮町の地域産品を中心とした水産加工品等の販売促進 (黒潮町)
実施主体	(有)土佐佐賀産直出荷組合
AP への 位置づけ	H24.4 月
事業概要	衛生・品質管理が行き届いた水産物加工施設を中心に、「家族に安心して食べさせられるもの」をコンセプトとした商品の地産外商を充実・強化することで、地域内の漁業者の所得向上、地域での雇用を拡大する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	8,600 万円 (H30)	1 億 1,417 万円	1 億 3,475 万円		1 億 3,031 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆加工体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産物加工施設整備 (H26) →産振補助金の活用 生産効率向上のための生産機器の導入 (H28) →ものづくり補助金の活用 冷凍保管施設の整備 (H30) →農林水産業みらいプロジェクト助成事業の活用 生産性・衛生環境向上のための設備導入等 (R2) →新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 生産効率を上げるため薫焼き製造ライン増設 (R4) →小規模事業者持続化補助金の活用 <p>◆商品開発・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> きびなごペーストを使った新商品開発 (H24) →地域産業資源活用事業計画に認定 新商品開発についてアドバイザーによる現地指導 (H27) →地域人づくり事業の活用 自社ネットショップ等による情報発信力の強化 (R2) →産業振興アドバイザーの活用 	<p>◆スタッフ教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生管理に配慮した技術・体制づくりのための人材育成 (H27) →産業振興アドバイザーの活用 HACCP アドバイザー派遣制度の活用 (H28) <p>◆生産の担い手対策及び産地化に向けた体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 求人掲載 外国人研修生の受入 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 雇用の創出 H23 : 10 人 (正規 2 人、パート 8 人) →R3 : 14 人 (正規 13 人、パート 1 人) 取引件数 H23 : 40 社 → H27 : 78 社 以降、80 社程度を維持 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客ニーズに対応した新商品開発 衛生管理、品質管理等に係る人材育成及び人材確保

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆商品開発・販売促進</p>	<p>新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(有)土佐佐賀産直出荷組合： ギフトセットなど高価格帯商品の開発、未利用魚を活用した商品開発 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 <p>販路開拓、直売通販活動強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(有)土佐佐賀産直出荷組合： 各種商談会への出展、直売通販の取り組み強化、情報発信力の強化 ●県（地域本部等）： 高知県地産外商公社やメディア媒体などの関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>◆スタッフ教育</p>	<p>HACCP 研修・衛生講習会・その他セミナー等への継続的な参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(有)土佐佐賀産直出荷組合： HACCP 研修受講、PRP 研修受講、新商品の HACCP 認証取得、需給調整の人材育成、衛生管理担当職員の育成、外部専門家活用によるノウハウの移転 ●県（地域本部等）： 県版 HACCP 上位ステージの認証取得支援、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>◆生産の担い手対策及び産地化に向けた体制づくり</p>	<p>地域の未利用魚等資源の買い支え</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(有)土佐佐賀産直出荷組合： 地域の未利用魚を活用したレシピの考案、集落活動センターとの連携、生産・加工技術の向上 ●県（地域本部等）： 集落活動センターへの橋渡し、その他情報提供 				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.35 黒潮町の地域資源を中心とした防災関連商品づくりの推進 (黒潮町)
実施主体	◎(株)黒潮町缶詰製作所、黒潮町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	農水産物等、地域産品を活用した防災関連食品の製造・販売体制を構築し、「地産」・「地消」・「外商」を図ることで、雇用機会の創出及び地域生産者の所得向上につなげていく。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	7,600万円 (H28～30平均)	1億1,970万円	1億1,169万円		1億円

これまでの主な動き	
<p>◆施設・体制の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工場を整備、稼働（H26） ・(株)黒潮町缶詰製作所（第三セクター）を設立し、黒潮町特産品開発推進協議会の事業を継承（H26） ・HACCPアドバイザー制度の活用（H29） ・県版 HACCP 旧第3ステージ認証取得（H31） <p>◆商品開発・販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県防災関連製品認定（H27） ・OEMの販路拡大強化（H28～） ・ホームページリニューアル（H29） →黒潮町産業振興推進事業費補助金の活用 ・中期事業戦略を策定（R元～） →産業振興センター事業戦略策定支援制度の活用 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発 H26～R3累計37品目 ・高知家うまいもの大賞 2019 審査員特別賞受賞（H30） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利益率の向上 ・品質管理、衛生管理体制の強化 ・顧客ニーズに対応した新商品開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施設・体制の 充実強化	工場移転に向けた計画策定				工場建設工事 新工場稼働
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)黒潮町缶詰製作所： 基本構想作成、用地買収 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)黒潮町缶詰製作所： 施設整備 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金の活用提案 		
◆商品開発 ・販路開拓	組織体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)黒潮町缶詰製作所： 自立的な運営体制の構築、HACCPに基づく衛生管理の維持、包装食品技術管理者の取得、作業の効率化、パート職員の正職員雇用の検討 ●県（地域本部等）： 高知県産業振興センターによる支援（事業戦略策定支援） 				
◆商品開発 ・販路開拓	新商品の開発・既存商品の改良				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)黒潮町缶詰製作所： 試作品づくり、製造方法等の検討、商品改良、商品化の実現 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆商品開発 ・販路開拓	商談会・展示会への参加				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)黒潮町缶詰製作所： 商談会等への出展 ●県（地域本部等）： 商談会等の紹介、関係者への橋渡し支援 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・OEM：「Original Equipment Manufacturer」の略。他社ブランドの製品を製造すること、またはその企業。日本では「相手先ブランド名製造」などと訳される。なお、販売ブランドが流通業の場合はプライベートブランド（PB）と呼ぶことが多い。</p>					

AP名 (実施地域)	No.36 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進 (幡多地域全域) ※地域産業クラスター関連(土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト、宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	(一社)幡多広域観光協議会
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	「幡多広域観光振興計画(第Ⅱ期計画)」に基づき、マーケティング機能を強化し、データに基づくエリアプロモーションを実施することで幡多地域全体への宿泊者数の増加を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 延べ宿泊者数	398,797人 (H30)	319,790人	330,712人		443,000人
(2) 外国人延べ宿泊者数	12,101人 (H30)	2,121人	430人		15,400人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織の法人化(H22) ・「幡多広域観光振興計画」(H27～) ・日本版DMO登録(H31.3月) ・「幡多広域観光振興計画(第Ⅱ期計画)」(R2～) <p>◆商品造成・誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2種旅行業取得(H22) ・「はた旅」の開催(H26～) ・土佐の観光創生塾の受講(H28～) ・「はた旅クーポン」実施(R2) ・土佐清水・柏島外のオンラインツアー開催(シンガポール、マレーシア対象) ・「ENJOY! はた旅クーポンⅡ」実施(R3) <p>◆広報PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用した情報発信 ・パンフレット・ガイドブック等の充実・強化 ・旅行会社等へのセールスプロモーション ・デジタルプロモーション実施 ・観光庁「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」認証ラベル・ロゴマーク使用許可を取得(R3) 	<p><主な成果></p> <p>◆商品造成・誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客ニーズに対応し誘客力の高い体験商品造成 はた旅体験商品数品→R3: 105商品 はた旅体験利用者数→R3: 38,993人 ・教育旅行受入及び体験プログラムの造成 新規商品の開発支援→R3: 14件 教育旅行商品→R3: 3商品 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染防止対策 ・訪日観光客の受入 ・教育旅行(民泊)への対応 ・SDGs関連ツアーの造成

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆商品造成・誘客促進	商品化及び商品化支援による地域の魅力創出の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： 既存商品の磨き上げ、新商品の開発、宿泊につなげるための地域の魅力創出 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	旅行会社等へのセールスの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： 宿泊を伴う教育旅行、団体旅行を増やすためのセールスの強化 関係者が様々な販路や制度を活用して、利用者を増やすための支援 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆広報PR	ブランド形成による地域認知度向上の推進、マーケティングに基づくプロモーションの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： 「幡多地域」のリブランディング、広報・PRによるブランドの浸透、宿泊者マーケティングに基づくプロモーションの仕組みの構築及び実施 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆組織体制の強化	来訪者満足度を向上するための地域受入体制整備を推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： 広域に関わる観光周遊企画の立案・情報提供・発信の推進、広域観光に関わる地域の受入体制基盤強化、人材育成 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>【用語】・DMO：「Destination Management Organization」の略。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.37 幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化 (幡多地域全域)
実施主体	◎(一社)幡多広域観光協議会、幡多6市町村及び観光協会等
APへの位置づけ	H27.9月
事業概要	土佐西南大規模公園に整備されたスポーツ施設を地域資源の核として活用し、幡多広域におけるスポーツと体験型観光を融合させたスポーツツーリズムを推進することによって、交流人口の拡大と地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
延べ宿泊者数	11,964人 (H30)	4,840人	7,708人		15,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆受入体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工芝グラウンド完成(H29) ワンストップ窓口機能の整備・運用(H28～) 旅館組合、集落活動センター等と連携した宿泊受入体制の整備(H28～) スポーツ+体験観光をセットにした観光商品の造成・受入体制の整備(H28～) 新型コロナウイルス感染症対策の実施(R2～) (受入運営ガイドラインの作成、更新) <p>◆誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設を紹介するポータルサイトを開設(H28～) 市町村、関係団体が連携して関西を中心とした西日本・関東エリアへの誘致活動の展開(H28～) ゴルフ合宿等の誘致の取り組みを開始(H28～) →H30・R元 産振アドバイザーの活用 アドバイザーを活用したセールスプロモーション(H29～) 砂浜トレーニングのプログラム作成(R2～) →R2 産振アドバイザーの活用 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 大方高校女子サッカー部設立(R2.5月) スポーツ大会・合宿のセールス及び受入 →大会・合宿数(宿泊を伴う)：64件(R3) →競技種目(宿泊を伴う)：5競技(R3) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 観光コンベンション協会や各種競技団体等の関係機関との連携強化 地域の受入体制づくり(研修会等の検討) 新型コロナウイルスの感染防止対策

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆受入体制の整備</p>	<p>受入体制の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： 市町村・観光協会等との連携、ホームページを活用した管内スポーツ施設の情報及び大会・合宿情報の提供 ●NPO 砂浜美術館： スポーツツーリズム推進会議の開催、関係事業者・集落活動センター等と連携した宿泊等受入体制の充実・強化、リピーターの確保 ●幡多6市町村及び観光協会等： スポーツ合宿・大会等の誘致及び受入 ●県（地域本部等）： 協議会・推進会議への参画によるアドバイス、産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>◆誘客促進の取り組み</p>	<p>PR・セールスプロモーション活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： アドバイザーを活用した合宿やサッカー大会のセールスプロモーション及び企画運営 ●NPO 砂浜美術館： 大会の運営、市町村及び関係団体との連携、関西を中心とした西日本・関東エリアへのセールス活動の展開 ●県（地域本部等）： 観光コンベンション協会、市町村等と連携したセールス活動支援、各種支援制度やスポーツツーリズムに関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.38 宿毛市の地域資源を活用した観光振興 (宿毛市) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一社)宿毛市観光協会、宿毛市
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	地域の観光推進体制の強化と、宿毛市の資源を活用した体験型観光商品の造成に取り組むとともに、幡多地域全体で連携して誘客を促進することにより、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
市内の延べ宿泊客数	9.1万人 (H30)	7.1万人	8.0万人		9.85万人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ、推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の観光創生塾の受講 (H28～R4) ・観光周遊コースマップ、ロードバイク、観光案内板を整備、林邸を改修 (H28～29) →歴史観光資源等強化事業の活用 ・電動アシスト自転車やゴム製カヤック、サイクルスタンド整備 (H30) →観光拠点等整備事業の活用 ・横瀬川ダム壁面にクライミングコース、大島桜公園サイクリングロードを整備 (R元) →観光拠点等整備事業の活用 ・宿毛市総合運動公園にマウンテンバイク専用コースを整備 (R2～R4) ・道の駅「すくもサニーサイドパーク」のリニューアル (R4) →地域観光振興交付金の活用 <p>◆誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宿毛の魚しゃぶしゃぶ」のメニューを開発 (H29) (宿毛の魚おもてなしプロジェクト) →観光拠点等整備事業の活用 ・宿毛まちなえき「林邸」オープン (H30) ・JCL (ジャパンサイクルリーグ) ロードレース開催 (R4) 	<p><主な成果></p> <p>◆地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ、推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロードバイク貸出数：222台 (H29～R4.12月) ・サイクルスタンドの設置：19台 (R4.12月時点) ・eバイク貸出数：193台 (H30～R4.12月) ・ゴム製カヤック貸出数：10台 (R元～R4.12月) <p>◆誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宿毛の魚しゃぶしゃぶ」のメニュー提供店舗：7店 (R4) ・宿毛まちなえき「林邸」の入込客数：8,133人 (R4) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体や地域住民と連携した体験メニューづくり ・広域的な周遊観光に向けた取り組み ・リピーターの確保及び魅力あるイベントの実施などによる誘客促進

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ、推進体制の強化</p>	<p>体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市観光協会、宿毛市： 「食」や「歴史」、「自然」を活用した周遊・体験型プログラムの造成・磨き上げ、プロモーション活動の強化 ●県（地域本部等）： 体験プログラムの造成・磨き上げに伴う施設整備及び備品購入のための支援策の検討、プロモーション活動に伴う支援 <p>観光関係人材の育成及び推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市観光協会、宿毛市： 県や市町村の人材育成制度等を活用した観光関係人材のスキルアップ ●県（地域本部等）： 参加者への周知及びフォローアップ 				
<p>◆誘客促進の取り組み</p>	<p>広域連携による誘客の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市観光協会、宿毛市： 「幡多広域観光振興計画」に基づく広域観光組織と連携した誘客促進の強化 宿毛まちなえき林邸及び改修後の道の駅を拠点とした観光・交流事業を企画、実施 市の特産物を活用したイベントの企画、実施 フィッシングやサイクリング、マリンアクティビティを中心とした誘客促進の強化 ●県（地域本部等）： 各イベントに関する情報提供、プロモーション活動に伴う支援、その他各種支援制度に関する情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.39 竜串地域の観光再生構想の推進 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎土佐清水市、竜串海洋観光クラスター推進協議会、(一社)土佐清水市観光協会、NPO 竜串観光振興会、観光事業者、ガイド団体
AP への位置づけ	H21.4月
事業概要	県立足摺海洋館のリニューアルオープンや足摺宇和海国立公園竜串ビジターセンター及びスノーピーク土佐清水キャンプフィールドのオープン等を地域観光再生の好機と捉え、地域資源を活用した観光商品づくりを行う地域団体と連携して、竜串地域が一体となって観光振興に取り組むことにより、地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
入込客数 (1～12月)	8.7万人 (H30)	19.2万人	18.5万人		17万人
道の駅入込客数	6.2万人 (R2)	6.2万人	7.2万人		14.5万人
道の駅売上高	4,716万円 (R2)	4,716万円	5,071万円		1億 5,659万円

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆事業者間連携強化及び誘客の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竜串海洋観光クラスター推進協議会発足(H30.4月) ・推進協議会において4モデルプロジェクトを設定(H30) ・地元素材を活かしたメニュー開発 (H30) →産振アドバイザーの活用 ・スノーピーク土佐清水キャンプフィールドオープン (H31.4月) → H30 観光拠点補助金の活用 ・足摺宇和海国立公園「竜串ビジターセンター」オープン (R2.3月) ・県立足摺海洋館「SATOUMI」オープン (R2.7月) ・「SATOUMI」のプロモーション活動の活性化に向けた外部人材の活用 (R2) →産振補助金(外部人材活用支援事業)の活用 ・ランチマップの作成・更新 (R2～) ・竜串の観光を考える会発足 (R3) <p>◆竜串地域利用計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竜串東側地域の整備計画策定 (R元) →産振アドバイザーの活用 ・海ギャラテラスオープン (R4) 	<p>◆道の駅「めじかの里土佐清水」改修による誘客の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新土佐清水市地場産品販売施設連携協議会発足 (R3) ・食堂メニューを改良 (R3) →産振アドバイザーの活用 ・道の駅改修事業計画の策定 (R3) ・道の駅改修工事 (R4) →産振補助金の活用 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・セット券(足摺海洋館 SATOUMI、海底館、グラスボート)販売数 R3: 22,888 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣に昼食を取る場が少なく、規模も小さいため、入込客に対応できていない。 ・地域の事業者やガイド等が主体となった誘客のさらなる取組 ・3つの新施設(キャンプフィールド、ビジターセンター、新足摺海洋館)を核とした、体験プログラム等を楽しみ、地域を周遊し、宿泊につなげ、滞在時間を延ばす仕組みづくり ・道の駅の円滑な整備及びリニューアルオープンに向けたPR
---	--

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆事業者間連携強化及び誘客の仕組みづくり</p>	<p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">事業者連携による誘客の仕組みづくり及び実践</p>			<p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">誘客の仕組みの拡大実践</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐清水市観光協会、竜串地域観光事業者：施設を核とした体験プログラムの実施、施設周辺の観光施設・体験プログラムが連携したセットプログラムの実施、イベント実施、着地型旅行商品の造成及び磨き上げ ●土佐清水市：土佐清水キャンプフィールド、ビジターセンターの運営施設運営事業者と地域の観光事業者等への橋渡し ●県（地域本部等）：観光拠点整備補助金等によるソフト及びハード面の取り組みの支援、自然&体験キャンペーン等と連動した全国への情報発信 			<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐清水市観光協会、竜串地域観光事業者：体験プログラム及びセットプログラムの磨き上げ、イベントの拡大実施、着地型旅行商品の磨き上げ ●土佐清水市：土佐清水キャンプフィールド、ビジターセンターを核とした体験プログラムの磨き上げ ●県（地域本部等）：新足摺海洋館 SATOUMI の運営観光拠点整備補助金等によるソフト及びハード面の取り組みの支援 各種支援制度に関する情報提供 	
<p>◆竜串地域利用計画の推進</p>	<p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">竜串利用計画の推進</p>		<p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">竜串利用計画に基づいた、新たなハード及びソフト事業の検討・実施</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市：竜串エリア利用計画策定、竜串東側整備（駐車場、売店施設整備等） ●県（地域本部等）：観光拠点整備補助金の活用支援、計画策定協議の場への参画を通じた助言 		<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市：利用計画に基づく、新たなハード及びソフト事業の検討・実施 ●県（地域本部等）：事業検討にあたって産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 		
<p>◆道の駅「めじかの里土佐清水」改修による誘客の促進</p>	<p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">事業計画の策定</p>		<p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">施設整備</p>	<p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">新たな道の駅による誘客の促進</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市：事業計画の策定、出品者等との連携強化 ●県（地域本部等）：産振補助金活用及び事業計画策定に関する助言 			<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市：観光事業者と連携した情報発信、特産品の販売促進支援 ●県（地域本部等）：事業実施にあたり産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 	

AP名 (実施地域)	No.40 土佐清水まると戦略観光の展開 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎土佐清水市、(一社)土佐清水市観光協会、土佐清水ジオパーク推進協議会
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	観光産業を地域の戦略的産業と位置づけ、体験型観光や国際観光等の誘客促進の強化と受入態勢の整備・充実に取り組むとともに、「日本ジオパーク」の加盟認定により、ジオツーリズムをさらに推進し、滞在日数の増加や消費の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
入込客数	65.7万人 (H30)	63.0万人	56.2万人		75万人

集計期間：1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆誘客の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光事業者による新商品の開発及びイベントへの集客力向上 (H28) →産振アドバイザーの活用 ・観光スタンプラリーの実施 (H28～) (H30 から自然体験型プログラムを追加) ・漁船タクシーの運航開始 (H28～) ・レンタルサービス開始 (H28～) (自転車、キャンプ用品、シーカヤック、マリンスポーツ) ・ジョン万次郎資料館リニューアルオープン (H30.4月) →H29 観光拠点整備補助金の活用 ・ジョン万デニムプロジェクト特別企画展の開催 (H30) ・唐人駄場でスターウォッチングイベント開催 (H30) ・PR 動画作成 (R元) ・足摺宇和海国立公園 50周年記念事業 (R4.11月) <p>◆推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の観光創生塾等の人材育成のための勉強会や研修会の受講 ・土佐清水市観光マスタープラン策定 (H28) ・足摺宇和海国立公園足摺岬エリア利用計画を進める会の開催 (R2) 	<p>◆日本ジオパークネットワーク加盟によるさらなる誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオパーク推進協議会の設立 (H27.2月) ・ジオガイドの養成 (H28～R2) ・ジオツアーの磨き上げ及びジオストーリー構築 (H29) →産振アドバイザーの活用 ・日本ジオパークネットワーク加盟 (R3.9月) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョン万資料館入場者数 H27：9,805人 → R3：10,618人 ・ジオガイド登録者数 H26：0人 → R3：20人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘客、宿泊の促進 ・地域資源のさらなる磨き上げ ・中心市街地・竜串・足摺の全域に周遊を促す体制づくり

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆誘客の促進	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">地域の自然、歴史、食といった資源の磨き上げと誘客促進</div> <div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市： 「足摺藪椿再生プロジェクト」の継続実施、スターウォッチングの磨き上げ、「足摺きりり」（キャンドルライトアップ）の秋冬観光資源としての磨き上げ、ジョン万次郎資料館及び四国 88 か所を核とする歴史資源による誘客促進 インバウンド観光誘客のための受入環境のさらなる充実（案内板、パンフレット、通訳ガイド等） ●(一社)土佐清水市観光協会： 周遊を促進させる体験メニューの充実、HP、SNS を活用した情報発信の強化、ジョン万次郎資料館での集客力のあるイベント開催及びイベントを呼び水としたツアー誘客 ●観光事業者： スターウォッチング、唐人駄場を活用した宿泊客の夜間観光メニューの実施、官民共同による旅行会社等への営業展開 ●県（地域本部等）： 観光拠点整備補助金の活用支援、産振アドバイザーの活用支援、情報提供、関係機関への橋渡し </div>				
◆推進体制の強化	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">観光マスタープランに沿った、足摺・竜串・中心市街地が連動した誘客促進及び観光人材育成</div> <div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市： 中心市街地・竜串・足摺の全域に周遊を促す仕組みの検討 唐人駄場の利活用の検討 ●(一社)土佐清水市観光協会： 県等が実施する、観光人材育成研修への地域の事業者の参加 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーの活用、情報提供、関係機関への橋渡し </div>				
◆日本ジオパークネットワーク加盟によるさらなる誘客促進	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ジオパーク認定</div> <div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市(推進協議会)： ジオネットワーク加盟申請、現地審査対策、加盟会員相互の情報共有、マスコミを通じた PR ●県（地域本部等）： 推進協議会への参画を通じた助言、産振アドバイザーの活用、情報提供 </div>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ジオツーリズムの推進及びガイド等人材の育成</div> <div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市（推進協議会）： ジオ加盟後のジオ会員間のネットワーク強化、知名度アップのための情報発信強化、竜串ビジターセンターを拠点とするジオツーリズムの推進、ジオガイドの育成及びスキルアップ、ジオツアーの造成、ジオサイト解説板の新規整備等による受入態勢の充実、市民へのジオパークのさらなる普及啓発 ●県（地域本部等）： 推進協議会への参画を通じた助言、観光拠点整備補助金等の活用による受入体制整備の支援、産振アドバイザーの活用、情報提供 </div>			

AP名 (実施地域)	No.41 四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進 (四万十市)
実施主体	◎(一社)四万十市観光協会、四万十市
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通過型観光からの脱却」と閑散期（秋・冬）にも誘客できる通年型観光に取り組むことにより、宿泊者数の増加を図るとともに、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組み、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
公共観光施設利用者数	143,785人 (H30)	111,259人	127,404人		170,000人

集計年度1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域の特性、資源をいかした体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十川花紀行整備事業（トンボ自然公園ほか） (H28～) ・土佐の観光創生塾の受講（H28～R元） ・しまんとリバーベキュープロジェクト（R2～4） <p>◆誘客の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予土線でのサイクルトレイン四万十号の運行 (H28～) ・四万十川バス、トロリーバス運行、四万十・足摺エリア周遊観光バスしまんと・あしずり号の運行（H28～） <p>◆推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市観光振興連絡会議の開催 「四万十川花紀行行事」イベント、クリスマスの河川敷ライトアップ運営等 ・西土佐観光推進協議会の開催 観光ツアーの企画・実施、西土佐地域観光周遊パンフレットの作成、しまんとリバーベキュープロジェクトの推進等 ・予土県境地域連携協議会の開催 広域連携サイクリングイベントの開催、予土線を活用したサイクリングのPR等 ・インターネット・SNSを用いた情報発信（R2） →産業振興アドバイザーの活用 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市への入込客数 H27：117万3,511人→R3：99万5,699人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ニーズ多様化への対応 ・自然体験型観光の推進 ・閑散期対策 ・観光人材の育成、確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地域の特性、資源をいかした体験型プログラムの造成・磨き上げ	自然体験型観光の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)四万十市観光協会、四万十市： 四万十ひろばオートキャンプ場の整備、しまんとリバーベキュープロジェクトの推進、既存拠点施設の改修や拡充 ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆誘客の促進	周遊・滞在しやすい環境の整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)四万十市観光協会、四万十市： 二次交通の充実、多言語化など観光案内機能の充実、一元的な情報発信の促進、Wi-Fi環境の整備 ●県（地域本部等）：観光人材育成や観光情報プラットフォーム等に関する情報提供 				
	観光特使等人脈の活用				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)四万十市観光協会、四万十市： 著名人の協力による観光PR事業の実施、四万十市にゆかりのある団体のスポーツ合宿誘致の強化 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 				
◆推進体制の強化	連絡会議等のさらなる活性化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)四万十市観光協会、四万十市： 四万十市観光振興連絡会議、西土佐観光振興連絡会議の開催、予土県境地域連携事業や四万十リバーアクティビティ連絡協議会等の支援 ●県（地域本部等）： 各種会議への参画、各種支援制度に関する情報提供 				
	観光人材育成によるおもてなしサービスの充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)四万十市観光協会、四万十市： 観光人材の発掘と育成、アドバイザー派遣による課題解決のための支援、研修等の実施や参加促進 ●県（地域本部等）： 研修等に関する情報提供 				
<p>【用語】 しまんとリバーベキュープロジェクト：日本バーベキュー協会、イベント企画会社等のサポートのもと、四万十市からバーベキュー文化を発信し、日本のバーベキューの聖地化を進めることにより観光誘客を促進し、産業振興を図るもの。バーベキューインストラクターの育成、本格的なバーベキューができる場所づくり（カヌー館など）、地元の一次産品を活用したバーベキュー商品の開発などを展開する。</p>					

AP名 (実施地域)	No.42 大月町の地域資源を活用した観光振興 (大月町) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	◎大月町観光協会、◎大月町、町内事業者・関連団体
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	柏島や町内各所キャンプ場など大月町の強みである自然・体験滞在型等観光を推進し、食や花、歴史文化や景観も観光資源として磨き上げることにより、年間通して誘客できる魅力ある観光地域づくりに取り組む。また、事業者等との連携により町内周遊観光の促進を図るとともに、周辺観光資源も絡めた広域的な周遊の構成に取り組み、滞在交流人口の増大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
入込客数	5.3万人 (H30)	7.9万人	6.2万人		7万人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆自然・体験滞在型等観光の推進と地域資源の観光活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竜ヶ浜キャンプ場の整備 (H23) →産振補助金の活用 ・観光ガイド会の設立 (H29) →産振アドバイザーの活用 ・体験型プログラム(備品等)の整備 (H30) →観光拠点補助金の活用 ・大月エコロジーキャンプ場の施設改修 (R2.3月) →観光拠点補助金の活用 ・秋の自然体験イベントの開催 (R2.9~11月) →国立・国定公園への誘客の推進事業の活用 <p>◆誘客促進と周遊観光の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS等を活用した観光情報の発信 (H28~) ・観光客の属性や消費額等のデータ収集・分析 (R元) →産振アドバイザーの活用 ・大月エコロジーキャンプ場がキャプテンスタッグ(株)と提携 (R2~) 	<p>◆推進体制の強化・受入環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の観光創生塾の受講 (H28~) ・柏島観光情報発信センターの整備 (H31.3月) →地方創生交付金等の活用 ・観光協会中期計画を策定 (R4) →産業振興アドバイザーの活用 (R2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイド登録者数 H28:0人 → R4:6人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客の柏島への一極集中 効果的な観光施策の展開 周遊観光の促進 観光消費額の町内全体への波及 町内各所キャンプ場の稼働率の向上 ・ゴミの不法投棄

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆自然・体験滞在型等観光の推進と地域資源の観光活用	観光資源の磨き上げ、体験プログラムの造成及び観光ガイドの育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大月町観光協会、町内事業者等： 自然・体験型観光資源の磨き上げ、ガイド育成・ガイドプログラム拡充 ●大月町：自然・体験型観光資源の磨き上げ、キャンプ場等の施設整備 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報・活用支援、産業振興アドバイザーの活用支援、研修会等の紹介 				
	大月町の資源を活用した地域観光の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大月町観光協会、大月町、町内事業者等： 食や花、歴史文化や景観など、様々な町内の地域資源を活用し、年間を通して観光客が訪れる仕組みの構築 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報・活用支援、産業振興アドバイザーの活用支援、講演会等の紹介 				
◆誘客促進と周遊観光の取り組み	プロモーション活動・SNS等を活用した情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大月町観光協会、大月町：効果的なプロモーション施策の実施 ●大月町観光協会：観光案内所及びSNS等情報発信ツールの充実強化 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報・活用支援、産業振興アドバイザーの活用支援 				
	効果的な周遊観光の取り組み				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大月町観光協会、大月町、町内事業者等： 町内事業者及び関連団体との連携を強化し、広域的な観光資源を活用した周遊観光に向けた仕組みの構築 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報・活用支援、産業振興アドバイザーの活用支援、関係機関への橋渡し 				
◆推進体制の強化・受入環境の充実	推進体制の強化・受入環境の充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大月町観光協会、大月町： 町内外関係機関（者）間の情報共有、観光動態等調査・分析（観光統計） ●大月町観光協会、町内事業者等：観光人材のスキルアップ・育成 ●大月町：来訪者の満足度向上のための受入環境の充実 ●県（地域本部等）： 会合への参画によるアドバイス、講座等の紹介、各種支援制度の情報・活用支援、関係機関への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.43 三原村の魅力をかいた滞在型・体験型観光推進 (三原村)
実施主体	◎三原村、◎(一社)三原村集落活動センターやまびこ、三原村商工会
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	豊かな自然環境のもと村内の農家民宿・農家レストランや濁酒特区の取り組み等を活用した滞在型・体験型観光を推進するとともに、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組み、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
入込客数	1.62 万人 (H29)	0.83 万人	0.87 万人		2 万人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域の特性、資源を活用した滞在型・体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した観光プログラムの造成、磨き上げ (H30～H元) →観光アドバイザー (山村活性化対策事業) の活用 ・観光プログラムの運用開始に向け、体験モニターを実施 (R2) ・ヒメノボタンの里交流棟・遊歩道の整備 (R2) ・地域資源を活用した観光プログラムの造成 (R3) →観光アドバイザー (山村活性化対策事業) ・体験メニュー (ポタリング) の造成 (R4～) →アドバイザー (農村 RMO 形成推進事業) を活用 ・星ヶ丘公園 (ヒメノボタンの里) の老朽化した橋、遊歩道等の整備 (R4) →博覧会受入環境等整備事業費補助金の活用 <p>◆誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域食材を活用したメニュー開発に向け、シェフを招へい (H28) ・村内外でのイベントで誘客促進を図るため、三原村の PR 動画を作成 (R元) ・三原村フォトコンテストの開催 (R元～) ・コロナ禍におけるカフェ運営のノウハウを習得 (R2) →コロナ対策アドバイザーの活用 	<p>◆推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星ヶ丘公園の基本構想策定 (H30) →観光拠点等整備事業の活用 ・土佐の観光創生塾を受講し、観光振興のノウハウを習得 (H30～R元) ・SNS の活用促進に向け、アドバイザーを招聘 (H30) →農村集落活性化支援事業の活用 ・Facebook「三原村星ヶ丘公園/ヒメノボタンの里」の開設 (R2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域観光ガイド数 H26 : 0 人 → R3 : 4 人 ・村内新体験プログラム開発 H31 : 2 件 → R3 : 3 件 ・やまびこカフェ来客者数 H28 : 10,192 人 → R3 : 6,479 人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要催事のマンネリ化の解消 ・体験プログラムの造成及び磨き上げ ・さらなる交流人口拡大に向けた誘客促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地域の特性、資源を活用した滞在型・体験型プログラムの造成・磨き上げ	地域資源を活用した体験プログラムの造成及び地域観光ガイドの育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●三原村：体験プログラム及び地域観光ガイドの掘り起こし、アドバイザーの招へい、観光事情等の情報収集、地域観光ガイドへの勉強会等の情報提供 ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ：三原村の観光案内、観光客と体験プログラム実施主体との橋渡し、体験プログラムの運営、SNS等を通じた情報発信、観光事情等の情報収集 ●県(地域本部等)：産振アドバイザー等の活用提案、土佐の観光創生塾等の講座の紹介 				
◆誘客促進の取り組み	農泊交流施設及び庭園の管理運営				
	<ul style="list-style-type: none"> ●三原村：指定管理者の決定、HPの開設、施設及び庭園を活用した体験プログラム等の検討 ●県(地域本部等)：産振アドバイザー等の活用提案、土佐の観光創生塾等の講座の紹介 				
	ヒメノボタンの里の観光案内所等の設計・整備・管理体制の構築				
	<ul style="list-style-type: none"> ●三原村：ヒメノボタンの里公園整備検討委員会を通じた意見交換、観光案内所整備、駐車場整備、遊歩道等整備 ●三原村商工会：委員会を通じた意見交換、四万十かいどう推進協議会三原支部への支援、ヒメノボタンの里めぐりの運営 ●県(地域本部等)：委員会への参画によるアドバイス、産業振興アドバイザー等の活用提案、情報提供 				
◆推進体制の強化	観光案内及び情報共有体制の確立				
	<ul style="list-style-type: none"> ●三原村：三原村商工会及び(一社)三原村集落活動センターやまびこの情報共有体制の確立、アドバイザー等を活用した情報発信のスキルアップ、マスコミを通じたPR ●県(地域本部等)：産振アドバイザーの活用提案、観光創生塾等の講座の紹介、情報共有会議への参画によるアドバイス 				
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.44 黒潮町の地域資源を活用した観光推進 (黒潮町)
実施主体	◎(特非)NPO 砂浜美術館、◎(一社)黒潮町観光ネットワーク、黒潮町
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	黒潮町の豊かな自然環境のほか、道の駅や体験観光施設などの観光資源を活用した体験型観光の推進や、防災学習プログラムを中心とした教育旅行の誘致に加えて、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組むことにより、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 入込客数	99.3 万人 (H30)	79.4 万人	89.2 万人		100 万人
(2) 町内の延べ宿泊者数	22,538 人 (H30)	12,409 人	16,355 人		25,369 人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホエールウォッチングにおける乗船者の安全確保のための施設・備品整備 (H29) →遊漁船等振興事業費補助事業の活用 ・外国人旅行者をターゲットにした鰹のタキづくり体験メニュー造成 (H29) →産業振興アドバイザーの活用 ・ハーバリウム作り体験プログラム造成 (H30) ・MICE 誘致に向けたモニターツアーの実施 (R 元) ・砂浜トレーニングプログラムの作成 (R2～) →R2 産業振興アドバイザーの活用 <p>◆誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町観光プロモーション動画作成 (R 元) <p>◆推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町観光ネットワーク設立 (H26) ・(特非)NPO 砂浜美術館が日本版地域 DMO を取得 (H30) ・防災ツーリズム・一般観光の取り組み強化 →R2 外部人材活用支援事業の活用 ・黒潮町観光ネットワーク一般社団法人化(R2) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験入込客数 H30 : 8,456 人→R 元 : 8,510 人 →R2 : 4,799 人→R3 : 7,576 人 ・イベント入込客数 H30 : 70,575 人→R 元 : 77,552 人 →R2 : 12,716 人→R3 : 14,178 人 ・防災ツーリズム入込客数 R 元 : 173 人(121 人)→R2 : 133 人(1,153 人) →R3 : 523 人(1,836 人) ※()内 : 新型コロナウイルスの影響によるキャンセル数 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在時間延長や複数の観光資源をリンクさせた観光商品造成 ・防災学習プログラムを主軸とした MICE の受入推進 ・黒潮町の認知度をあげるための情報発信 ・データ収集・分析に基づく観光戦略の実施 ・ワーケーションの受入体制整備

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ	地域資源の商品化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO 砂浜美術館：新たなイベントや体験プログラムの実施を検討 ● 黒潮町観光ネットワーク：防災研修プログラムのメニュー造成・MICE 誘致、連携プランの造成推進、AT ツアー造成検討 ● 県（地域本部等）：土佐の観光創生塾の案内、観光関連施策の情報提供 				
◆誘客促進の取り組み	周遊の促進				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 黒潮町観光ネットワーク：周遊キャンペーンの実施、周遊を促進し消費効果を高める仕組みの構築、宿泊につなげる夜型体験商品の検討 ● 県（地域本部等）：高知県観光コンベンション協会や幡多広域観光協議会との連携 				
◆推進体制の強化	プロモーションの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO 砂浜美術館：イベントを通じての情報発信、各種広報活動 ● 黒潮町観光ネットワーク：PR（動画活用等）の強化、情報発信の基盤整備、旅行会社へのセールス強化、モニターツアーの実施、セールスツールの作成 ● 県（地域本部等）：高知県観光コンベンション協会や幡多広域観光協議会との連携、産振補助金（ステップアップ事業）の活用提案 				
	観光地域づくりの推進（マーケティング、基盤整備、人材育成等）				
◆推進体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO 砂浜美術館：マーケティング調査・分析及び戦略策定、観光事業者の育成 ● 黒潮町観光ネットワーク：キャッシュレス決済環境導入の推進、WiFi 環境の拡大、OTA 掲載の推進 ● 県（地域本部等）：関連施策の情報提供 				
	体制強化・自立運営体制の構築				
	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO 砂浜美術館：DMO 体制基盤強化、情報収集、計画に基づいた取り組みの実践及び見直し ● 黒潮町観光ネットワーク：法人化の検討、関連事業者の意見集約、計画に基づいた取り組みの実践及び見直し ● 県（地域本部等）：産振補助金（外部人材活用事業）の活用提案、関連施策の情報提供 				
<p>【用語】・NPO：「NonProfit OrganiZation」の略。政府・自治体や私企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う。</p> <p>・MICE：Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentivetour（報奨・招待旅行）、Convention または Conference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語でビジネストラベルの一つの形態。</p> <p>・DMO：「Destination Management Organization」の略。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。</p> <p>・OTA：「Online Travel Agent」の略。インターネット上で取引を行う旅行会社のこと。</p> <p>・AT：「Adventure Tourism」の略。アクティビティ、自然、文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行のこと。</p>					

分野	その他
----	-----

AP 名 (実施地域)	No.45 集落活動センターやまびこによる三原村の産業振興 (三原村)
実施主体	◎(一社)三原村集落活動センターやまびこ、(農)三原やまびこ
AP への 位置づけ	H30.4月
事業概要	特産品の開発及び販売、並びに一次産業の振興等を地域一体となって総合的に進めることで地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高	1,207 万円 (H30)	1,634 万円	1,687 万円		1,700 万円

※指標について、第3期までは「コインランドリー、やまびこカフェ及びししとうの売上高」としていたが、第4期からは「地域産品及びししとうの売上高」に変更

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆新商品開発及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付加価値向上に向け、特産品の成分分析及び保存検査を実施 (H30～R2) ・どぶろくの販売促進に向け、酒類販売業免許の取得及びどぶろくの取扱い開始 (R 元) ・土佐 MBA 会計コースを受講し、会計の基礎知識を習得 (R 元) ・うちんくのビジネス塾を活用し、ふるさと納税及びブランディング戦略のノウハウを習得 (R 元) ・オンラインショップ「ししとう家族商店」開設 (R2.9月) ・ふるさと納税プロジェクトチーム会の発足 (R3.6月) ・EC サイトの運用に関するノウハウを習得 (R3) →よろず支援拠点アドバイザーの活用 ・酒類通信販売業免許の取得 (R3.10月) <p>◆一次産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米のブランド化に向け、食味計を導入 (H30) ・三原米ブランド化研究会の発足 (H30) ・ブランド米の販売促進に向け新潟県の先進地視察を実施 (R 元) ・県産米ブランド化推進事業を活用し、販売促進に向けたパッケージデザインを作成 (R 元) ・情報発信及び付加価値向上に向け、米・食味分析鑑定コンクール及びお米日本一コンテストに出品 (R 元～R4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お米の販路拡大に向け五ツ星お米マイスターを招へい (R3.9月) →山村活性化対策事業の活用 ・ブランド米の販路拡大に向け山形県の先進地視察を実施 (R4.7月) →農村 RMO 形成推進事業の活用 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発 H29 : 0 品 → R4 : 2 品 ・取引件数 H29 : 0 件 → R4 : 9 件 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる販路拡大に向けた新商品開発及び販売促進 ・三原村の情報の県内外への発信と事務局の体制強化 ・ブランド米の品質向上に向けた土壌改良 ・一次産業の後継者確保 ・生産及び加工体制の強化に向けた設備整備

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 新商品開発 及び販売促進	販路拡大に向けた基盤づくり			販路拡大	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： 販売促進用グッズ作成、研修会等での商談ノウハウの習得、情報収集、商談会への出展 ●県（地域本部等）： セミナー・商談会等の紹介、関係者への橋渡し 			<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： 県内外への販路の開拓（地域産品を取り扱う飲食店等の確保） 	
◆ 一次産業の 振興	新商品開発		商品のプロモーション活動		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： コンセプトづくり、試作品づくり、市場調査（消費者の意見集約）、製造方法等の検討、商品改良、商品化の実現 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： 商談会等への出展、一次産品と一体のプロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： 高知県地産外商公社への橋渡し支援 		
◆ 一次産業の 振興	ブランド米の実証実験		ライスセンターの整備		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： 生産協力農家の拡大、土づくり資材の検討、土壌調査の実施 ●県（地域本部等）： 情報提供、関係機関への橋渡し、その他各種支援制度の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： 三原米ブランド化研究会と関係機関とでライスセンターの整備に向けた情報共有、事務局体制の整備強化 ●県（地域本部等）： 活用可能性のある支援制度の検討、その他、各種支援制度に関する情報提供 		
ししとうの栽培・出荷					
<ul style="list-style-type: none"> ●(農)三原やまびこ：地域住民の生きがいづくりの一環として、JA 高知県へのししとうの安定出荷 ●県（地域本部等）：ししとう栽培に関する技術指導、情報提供 					
<small>【用語】 ・ライスセンター：「籾共同乾燥調製施設」のこと。収穫した生の籾や乾燥不十分の籾を火力乾燥、籾摺り、袋詰めするための施設。</small>					

IV 地域アクションプランからの自立プラン

地域アクションプランとして目指した姿が実現し、今後においてさらなる取り組みの拡充がないものや、自ら課題解決できる力が備わった取り組みなど、地域アクションプランとしてのサポートを必要としなくなったプランについて、「地域アクションプランからの自立プラン」として整理します。

なお、自立プランに位置付けたプランについては、産業振興推進地域本部において、定期的（年に一回程度）な状況把握を行い、新たな事業展開があり、サポートが必要な場合は、再度地域アクションプランに位置付けを行います。

地域	項目	事業の概要	事業主体	これまでの取り組みと成果
安芸	安芸市のシラス漁業者所得の向上 《安芸市》	平成25年に設立したシラス加工所によるシラス加工処理能力の向上に対応した漁業体制の強化と、シラスの水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を図る。	・安芸漁協 ・(株)安芸水産	取り組み期間：H21～R元 ・企業、漁協、漁業者による加工処理能力向上に向けた協議(H23) ・シラス加工施設完成(H24) ・継続的な安芸市場でのシラスの購入(株)安芸水産(H25～) ・冷凍シラスの商品化に向けた冷凍機器の購入(株)安芸水産(H29) ◆水揚げ金額 189,231千円(H23) →398,123千円(H30.1月～12月) ◆シラス漁獲量 393t(H26.1月～12月) →559.3t(H30.1月～12月) ◆雇用の創出 6名(9名(H25)→15名(H30))

地域	項目	事業の概要	事業主体	これまでの取り組みと成果
物部川	大学生による地域応援団(サポーター)づくり 《物部川流域全域》	地域と大学等の学生の交流機会を増やし、相互の理解を深めることにより、物部川地域をサポートする『地域応援団(サポーター)』を作っていく。	・人と地域の研究所 ・学生グループ	取り組み期間:H21~27 ・高知工科大学、NPO、地元、市など関係機関との連携協議(H21) ・NPO法人(人と地域の研究所)がふるさとインターンシップ事業(県から委託)を実施(H21~23) ・(一社)いなかパイプが重点分野雇用創造地域暮らし体験実施事業(田舎ビジネスマネージャー育成プログラム「マネチャレ!」(県から委託))を実施(H24) ・学生グループと地域団体等のマッチングを行い、交流活動を実施(H24~27) ◆交流した学生数 19名(H23)→278名(H27.12月末時点)
	加工品販売による夜須地域の活性化 《香南市》	地場産品を活かした加工品開発・販売を行い、生産農家の所得向上につなげる。	・協同組合やすらぎ市	取り組み期間:H24~R元 ・地元加工業者と連携した商品開発(H24~27) ・加工組織(製造部)の結成及び産振補助金を活用した加工場の整備(H25) ・民間情報誌での取り組み紹介やミニパンフレット、SNSなどによる商品情報等の発信(H26~) ・新商品の開発・販売及び既存商品の改善や新たなアイテムの追加(H27~) ◆主力商品の定着・充実による経営の安定化 7,000万円(H22)→9,700万円(H30) ◆雇用の創出 5名(1名(H25)→6名(H30))
	南国市の農園レストランによる地域食材の消費拡大 《南国市》	地域の農家所得の向上を図るため、地元食材をフル活用したオリジナル料理を堪能できるレストランとベーカリーを運営し、地元食材の消費を拡大するとともに新たな魅力を発信する。	・(株)ナイフアンドフォークカンパニー(農園レストラン トリトン)	取り組み期間:H26~R3 ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、レストランとベーカリーの整備、オープン(H27) ・南国市内の生産者(株)南国スタイル等からの食材仕入(H27~) ・地元食材を使ったメニュー開発・提供(H27~) ◆売上高 0万円(H26)→1億3,086万円(R2) ◆食材の地産地消率(県内) 0%(H26)→85%(R2)

地域	項目	事業の概要	事業主体	これまでの取り組みと成果
高知市	中心商店街でのアンテナショップの運営	中心商店街で開設した常設のアンテナショップ「てんこす」の運営により、地域産品の販売を促進し、地域の生産者等の収入の確保につなげるとともに、各種の情報提供により、来街者の利便性の向上や商店街の売上げの増加を図る。	・(株)まこと	<p>取り組み期間：H21～27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンテナショップ「てんこす」の整備(H21) ・地域産品の掘り起こしと販売(H21～27) ・県外や大型客船入港時の出張販売(H23～27) ・NPOと連携したタウンモビリティの実施(H25～27) <p>◆加工品販売額 89,181千円(H22)→146,589千円(H26)</p> <p>◆取扱いアイテム数(累計) 2,136品目(H22)→4,972品目(H26)</p>
	異業種間のコラボレーションによる新たな商品・サービスの創出	農林水産事業者と食品加工事業者など分野の異なる事業者の連携による新たな加工商品等開発の取り組みを促進するとともに、商品のブランド化と販路開拓の支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・コラボネットワーク高知事務局 ・高知市 	<p>取り組み期間：H28～R元</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にっぽんの宝物 JAPANグランプリ」参加(H28～) ・農商工連携セミナー開催(H28～) ・「にっぽんの宝物 世界大会」参加(H28～) ・にっぽんの宝物コラボグランプリ高知大会開催(H28～) <p>◆農商工連携セミナー受講者数 0事業者(H27)→延べ238事業者(H30)</p> <p>◆コラボグランプリエントリー商品数 10アイテム(H27)→31アイテム(H30)</p>
	生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出	地場産品を活用した安全・安心な生乳加工品を消費地に提供するとともに、観光地や教育の場として牧場を活用するなど、新しい酪農経営のモデル牧場を創出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・岡崎牧場 ・高知市酪農農業協同組合 	<p>取り組み期間：H21～R3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した菓子製造機械の整備(H21)、菓子販売店のリニューアルオープン(H22) ・酪農教育ファーム、オープンファームの実施(H21～) ・体験観光ツアーの商品化及び龍馬パスポートへの参加(H26～) ・産業振興アドバイザーの導入による店舗レイアウトの見直しや情報発信についてのノウハウの取得(H30) <p>◆雇用の創出 0名(H22)→3名(R3)</p> <p>◆加工品の販売額 817万円(H22)→1,125万円(R3)</p>

地域	項目	事業の概要	事業主体	これまでの取り組みと成果
嶺北	濁酒等を活用した地域資源との連携による地域の活性化 《大豊町、本山町》	地域の特産品となる濁酒等の製造・販売と地域の観光資源との連携によって、交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。	・生産者 ・大豊町濁酒協議会 ・本山町濁酒協議会	取り組み期間：H21～27 ・濁酒製造免許を取得し、濁酒製造を開始（H22～24） H22.5月 大豊町 H23.4月 本山町（1件目） H24.12月 本山町（2件目） ・ステップアップ事業の導入による販促資材等の導入 H22 大豊町濁酒協議会 H24 本山町濁酒協議会 ・販促活動（延べ24日（H26）） ◆生産者数 1名（H22）→3名（H27）
	滞在型市民農園の推進による地域の活性化 《本山町》	滞在型市民農園を整備し、都市部の住民の農業や田舎暮らしへの関心を高めて地域への移住につなげ、産業の活性化、雇用の創出、交流人口の拡大、農業の担い手づくり等による地域の活性化を図る。	・本山町	取り組み期間：H23～27 ・整備、運営を担う「本山町市民農園整備促進協議会」の設立（H23.12月） ・施設整備（H24～H25.4月）、運営開始（H25.6月） ・パンフレットの作成・配布、ウェブ、移住相談会等における滞在型市民農園のPR（H24～） ・農機具の使い方講習会、道づくり等の集落活動、イベント等による利用者と住民の交流（H25～） ・農業体験、フットパス等のイベント開催による地域外との交流（H25～） ◆本山町への移住者数（H24～H27.11月累計） 48人（H27目標30人の160%） ◆滞在型市民農園の稼働率向上 40%（H27.3月末現在） →80%（H27.11月末現在）

地域	項目	事業の概要	事業主体	これまでの取り組みと成果
仁淀川	地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業) 《日高村》	高知県産のさつまいもを活用した新製品の開発などによる生産販売の拡大を推進する。	・渋谷食品(株)	取り組み期間:H21~27 <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し菓子製造工場を整備(H21) ・商品開発(H21~) ・「芋屋金次郎松山店」を出店(H23) ・「芋屋金次郎日本橋店」を出店(H25) ・「芋屋金次郎道後店」を出店(H27) <ul style="list-style-type: none"> ◆芋屋金次郎部門の売上高 2.0億円(H21)→7.3億円(H26) ◆大月町芋づくり等産地化育成協議会からのさつまいも仕入量 100t(H22)→400t(H26)
	柑橘類等地域の農産物を活用した加工品の生産と販売拡大 《越知町》	越知町をはじめとした地域の柑橘類等の農産物を活用した新たな加工品の開発や生産と販売の拡大をさらに進めるとともに、農地や生産者情報を行政と共有することで原材料の確保を図ることにより、雇用の拡大と地域農業の維持発展を目指す。	・(株)岡林農園	取り組み期間:H27~R元 <ul style="list-style-type: none"> ・産振補助金(ステップアップ事業)を活用した経営分析の実施(H27) ・ディスカバー農山漁村の宝に選定(H28) ・地域おこし協力隊との特産品開発(H28) ・業務用及び海外部門の販売拡大に向けた展開(H28~) <ul style="list-style-type: none"> ◆岡林農園の販売額 1.4億円(H26)→1.86億円(H30)
	ネコ砂(木質系排泄物処理剤)の生産・販売促進 《日高村》	木質系のネコ砂製造事業に取り組む県内企業を日高村に誘致し、村内での新たな雇用を創出する。また、原材料の木材チップや茶葉を仁淀川流域で調達することで、地元生産者への経済効果の波及を目指す。	・(株)エスエス	取り組み期間:H22~R元 <ul style="list-style-type: none"> ・産振補助金を活用した製造施設の整備(H22) ・OEM先であるアース・バイオケミカル(株)から要望のあった原料・製品をストックする倉庫(村所有)の供用開始(H26) <ul style="list-style-type: none"> ◆ネコ砂(木質系排泄物処理剤)の販売額 4,500千円(H23)→70,229千円(H30) ◆雇用の創出 14名(1名(H22)→15名(H30))

地域	項目	事業の概要	事業主体	これまでの取り組みと成果
高幡	四万十町のこだわり野菜を使った加工品の生産販売による地域活性化 《四万十町》	四万十町の農薬や化学肥料を使わずこだわりを持って栽培した野菜を利用して、価値を最大限に活用した加工品の開発と販売拡大を行い、農家所得の向上と地域雇用の確保、農業の担い手づくりなど地域の活性化を図る。	・桐島畑	取り組み期間：H22～27 ・加工施設の整備(H22) ・新商品開発と販売(H22～27) ・農業研究生の受け入れ(H22～27) ◆加工品販売額 6,558千円(H21)→30,000千円(H27見込) ◆雇用の創出 9名(4名(H22)→13名(H27)) ◆農業研修修了生の地域への定住 5名
	JA土佐くろしおが担う地域農業の活性化 《須崎市、中土佐町、津野町》	JA出資農業生産法人を設立し、農作業受託等による地域の農業者の作業軽減及び農地の維持等を図る。また、「くろしお市」「みのり市」の2つの直販所を移転統合、拡充して、地域農産物や地元食材を活かした惣菜、加工品の販売を行い、農業者の所得向上を目指す。	・(株)土佐くろしお お村村営みのり ・JA土佐くろしお	取り組み期間：H26～R元 ・JA出資農業生産法人の設立及び施設・機械等の整備(H26～) ・農産物直販所の整備(H26～28) ・(株)土佐くろしおお村村営みのりの設立(H27) ・産振補助金を活用した産直市「とさっ子広場」の施設整備(H27) ・「とさっ子広場」オープン(H28) ・複合経営拠点推進交付金を活用した田植機や防除機等の導入(H30) ◆全作業受託面積 5ha(H27)→18ha(R元) ◆一部作業受託面積 28ha(H27)→32ha(H30) ◆販売額 77,185千円(H26)→331,770千円(H30)

地域	項目	事業の概要	事業主体	これまでの取り組みと成果
高幡	みどり市を核とした「地消地産」の推進 《四万十町》	みどり市の「産直コーナー」での野菜等の農産物の品揃えの強化や加工品の開発、さらに「手づくりキッチン」での弁当や惣菜の充実で販売額の増加を図り、地消地産による地域の農業者の所得向上を目指す。	・JA 高知県 (高西地区)	<p>取り組み期間:H21～R元</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の安定供給(H21～) ・「産直コーナー」での農産物の品揃えや加工品の開発(H21～) ・産振補助金を活用して「産直コーナー」に「手づくりキッチン」を併設(H25) ・「手づくりキッチン」での商品の充実(H25～) <p>◆「産直コーナー」の販売額 159百万円(H22)→238百万円(H30) ※肉類の販売額含む</p> <p>◆「手づくりキッチン」の販売額 30,047千円(H26)→42,310千円(H30)</p> <p>◆みどり市の販売部会員数(生産者) 389名(H26)→403名(H30)</p>
	滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり 《四万十町》	滞在型市民農園の機能強化やお試し滞在施設の整備などを行い、窪川、大正、十和の3地域ごとに地域との交流を含めた受入体制を整えるとともに、移住希望者等のニーズに沿った支援策を実施し、四万十町全体で移住に繋がりがしやすい風土づくりを目指す。	・四万十町 ・営農支援センター四万十(株)	<p>取り組み期間:H21～R元</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在型市民農園「クラインガルテン四万十」の整備及び運営(H21～) ・役場への移住相談窓口の設置(H23) ・滞在型施設7棟増設とコミュニティ施設の整備(H24) ・お試し滞在施設の整備(H24・28:3施設) ・中間管理住宅の整備(H26～29:22件) ・移住フェア・相談会等への参加(H27～) ・移住支援住宅の整備(H28・29:5室) ・東京オフィスの開設(H30) <p>◆施設稼働率 滞在型市民農園 100%(H23)→86.8%(H30)</p> <p>◆移住者数 17組 27人(H26)→132組 177人(H30末) ※四万十町窓口を通して移住された方</p>

地域	項目	事業の概要	事業主体	これまでの取り組みと成果
幡多	レストランチェーンと連携した地域水産物の流通・加工体制の推進事業 《宿毛市》	民間事業者による地域水産物の利用促進と消費拡大を目指す。	・(株)ピーア サーティ	取り組み期間：H22～29 ・加工施設を整備(H22) ・自社レストランでイベント等を開催(H22～) ・系列店「宿毛にく工房」開設(H28) ・活魚の取り扱い開始(H29) ◆売上高 1.5億円(H23)→3.7億円(H28) ◆雇用の創出 2名(18名(H22)→20名(H28)) (このほか、宿毛にく工房で9名をパート雇用)
	苺を核とした6次産業化確立事業 《大月町》	大月町の新しい加工品として注目されている苺氷りの販売拡大および新商品開発により、苺を大月町の新しい特産品として育成し、生産から加工、販売までの一貫体制の構築を目指す。	農業生産法人 苺氷り本舗(株)	取り組み期間：H22～29 ・新商品に係るチラシ・パンフレット等の作成、試食会の開催、ホームページリニューアル(H22) ・新商品の開発(H22～) ・販路開拓及び販売促進(H22～) ・OEM商品の製造(H22～) ◆売上高 44,090千円(H22)→64,737千円(H28) ◆雇用の創出 3名(5名(H22)→8名(H28)) ◆取引先数 60件(H22)→160件(H29)
	「四万十の家」と地域産ヒノキの販売推進事業 《四万十市》	平成22年度に建築したモデルハウス「四万十の家」をPRし、四万十ヒノキを利用した住宅建築を促進するとともに、四万十ヒノキのブランド化を図ることにより、地域内外での販売を促進し、地域経済の活性化を図る。	・四万十市	取り組み期間：H21～R元 ・モデルハウス建設(H22) ・モデルハウス「四万十の家」利用開始(H23) ・市産材補助事業(H23～) ・地域産ヒノキのブランド化に向けた4市町村(四万十市、三原村、四万十町、中土佐)推進協議会の設立(H23) ・ロゴマーク入りステッカーやジャンパーの作成(H28～) ◆「四万十の家」着工戸数 23戸(H27)→30戸(H30) ◆ロゴマーク登録事業者数：14事業者(H28～)

地域	項目	事業の概要	事業主体	これまでの取り組みと成果
幡多	すくも湾漁協と民間事業者の連携による水産物の加工・販売事業 《宿毛市・大月町》	漁協・民間会社の連携により漁協市場付近に整備した加工施設を核として、地元水産物の付加価値向上、地産地消・外商を進めることで、雇用創出につなげていく。	・すくも湾漁業 協同組合	<p>取り組み期間：H22～R元</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設整備(H22) ・加工品の製造、出荷開始(H23) ・真空包装機、ヘッドカッターの導入(H26) ・フィレマシンの導入(H27) ・通年出荷に向けた試験出荷(H28～) ・関係者と協同での身割れ防止試験及び落下試験の実施(H29) ・県版HACCP第3ステージ認証取得(H30) ・関係者と協同での電気タモ(電撃による魚類沈静化装置)デモ機導入試験の実施(H30) <p>◆売上高 1.04億円(H26)→1.24億円(H30)</p> <p>◆加工量(原魚ベース) 191.4t(H26)→551t(H30)</p> <p>◆雇用の創出 4名(7名(H27)→11名(H30))</p>
	宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業 《宿毛市》	ブリやカツオ等、宿毛近海で獲れる魚を活用した加工品の生産体制充実や販売促進に取り組むことで、宿毛産の魚のブランド化を推進し、漁業者所得の向上を図る。	・(株)沖の島水産	<p>取り組み期間：H24～R元</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振補助金(ステップアップ事業)を活用した冷凍施設整備、パッケージデザイン制作、販売促進の実施(H23) ・産振補助金を活用した加工施設整備(H25) ・系列飲食店の新規開店(H28) ・加工場増設(H29) ・ホームページのリニューアル(H30) <p>◆売上高 800万円(H22)→5.7億円(H30)</p>

<付属資料>

地域アクションプランフォローアップ会議 委員名簿

(敬称略)

【安芸地域】

	氏名	所属等	備考
市町村長	植田 壯一郎	室戸市長	
	横山 幾夫	安芸市長	座長
	松延 宏幸	東洋町長	
	竹崎 和伸	奈半利町長	
	常石 博高	田野町長	
	黒岩 之浩	安田町長	
	上村 誠	北川村長	
	山崎 出	馬路村長	
	溝渕 孝	芸西村長	
関係団体の代表	川竹 壽栄	高知県農業協同組合安芸地区 常務	
	北岡 雄一	馬路村農業協同組合 代表理事組合長	
	畠山 敬介	高知東部森林組合 代表理事組合長	
	久保 由起成	高知県漁業協同組合 理事(芸東ブロック)	
	富岡 一成	室戸市商工会 会長	
	井上 一仁	安芸商工会議所 専務理事	
	山下 龍造	東洋町商工会 会長	
	村田 秀作	中芸地区商工会 会長	
	吉田 佳織	芸西商工会 会長	
	八木 正人	一般社団法人 室戸市観光協会 会長	
	西邨 出	一般社団法人 安芸市観光協会 会長	
嶋田 数昌	一般社団法人 東洋町観光振興協会 代表理事		
地域住民	小松 美喜	(安田町在住)	
	小松 圭子	(安芸市在住)	
	井上 有加	(安芸市在住)	

※第2回フォローアップ会議開催時点 (R5. 2)

24名

(敬称略)

【物部川地域】

	氏名	所属等	備考
市町村長	平山 耕三	南国市長	座長
	濱田 豪太	香南市長	
	依光 晃一郎	香美市長	
関係団体の代表	垣内 育男	高知県農業協同組合土長地区 地区統括常務	
	森田 祐輔	高知県農業協同組合香美地区 地区統括常務	
	石川 彰宏	香美森林組合 代表理事組合長	
	小松 律男	物部森林組合 代表理事組合長	
	中田 和伸	高知県漁業協同組合手結支所 支所長	
	杉村 寛	南国市商工会 会長	
	榮枝 俊一	香南市商工会 会長	
	寺村 勉	香美市商工会 会長	
	白山 早苗	一般社団法人 南国市観光協会 会長	
	丸岡 克典	一般社団法人 香南市観光協会 会長 一般社団法人 物部川DMO協議会 代表理事	
	山中 盛世	一般社団法人 香美市観光協会 代表理事	
地域住民	野並 啓	(南国市在住)	
	門脇 由紀子	(南国市在住)	
	古川 和佳	(香南市在住)	
	近藤 純次	(香美市在住)	
	陶山 智美	(香美市在住)	

※第2回フォローアップ会議開催時点 (R5.2)
19名

(敬称略)

【高知市地域】

	氏 名	所 属 等	備 考
市町村長	岡崎 誠也	高知市長	座長
関係団体の代表	宮脇 眞道	高知市農業協同組合 代表理事組合長	
	今村 篤志	高知県農業協同組合高知地区（春野地域） 常務	
	池田 康友	高知市森林組合 代表理事組合長	
	久保 修一郎	高知県漁業協同組合御豊瀬支所 地区委員長	
	谷脇 明	高知商工会議所 専務理事	
	西込 浩一	春野商工会 会長	
	吉野 和守	高知県食品工業団地事業協同組合 代表理事	
	岡林 良憲	一般社団法人 高知県工業会 常務理事・事務局長	
	中澤 慎二	公益社団法人 高知市観光協会 会長	
地域住民代表	泉 真弓	有限会社 ほにや 代表取締役	
	町田 美紀	株式会社 and. 取締役	

※第2回フォローアップ会議開催時点（R5.1）
12名

(敬称略)

【嶺北地域】

	氏名	所属等	備考
市町村長	澤田 和廣	本山町長	
	大石 雅夫	大豊町長	座長
	和田 守也	土佐町長	
	和田 知士	大川村長	
関係団体の代表	垣内 育男	高知県農業協同組合土長地区 常務理事	
	吉松 英喜	大豊町森林組合 代表理事組合長	
	森 圭	本山町商工会 会長	
	香川 豊彦	大豊町商工会 会長	
	和田 光雄	土佐地区商工会 会長	
	松島 弘	一般社団法人 土佐れいほく観光協議会 事務局長	
地域住民代表	小笠原 徳孝	小笠原林業 代表	
	藤川 豊文	ばうむ合同会社 代表社員	
	川村 幸司	NPO法人 れいほく田舎暮らしネットワーク 会長	
	窪内 秀幸	林業・製材業従事者	
	平賀 洋司	一般社団法人 大川村ふるさとむら公社 業務執行理事	
	野尻 萌生	汗見川活性化委員会 事業推進員	

※第2回フォローアップ会議開催時点 (R5. 2)
16名

(敬称略)

【仁淀川地域】

	氏名	所属等	備考
市町村長	板原 啓文	土佐市長	座長
	池田 牧子	いの町長	
	古味 実	仁淀川町長	
	片岡 雄司	佐川町長	
	小田 保行	越知町長	
	戸梶 眞幸	日高村長	
関係団体の代表	馬場 義人	高知県農業協同組合仁淀川地区 経済担当常務理事	
	曾我 修	高知中央森林組合 代表理事組合長	
	山本 俊二	仁淀川森林組合 代表理事組合長	
	柿本 啓輔	高知県漁業協同組合宇佐統括支所 統括支所長	
	金子 尚浴	土佐市商工会 会長	
	松木 健二	いの町商工会 会長	
	大原 哲夫	仁淀川町商工会 会長	
		仁淀川町観光協会 会長	
	大原 淑道	佐川町商工会 会長	
	高橋 佳久	越知町商工会 会長	
	田中 等	日高村商工会 会長	
		一般財団法人 日高村観光協会 会長	
	濱田 清夫	一般社団法人 高知県製紙工業会 専務理事	
	金子 和重	一般社団法人 土佐市観光協会 会長	
	岡林 弘	一般社団法人 いの町観光協会 会長	
大山 端	一般社団法人 仁淀ブルー観光協議会 代表理事		
	一般社団法人 さかわ観光協会 会長		
所谷 眞智子	越知町観光協会 会長		
地域住民	戸田 実知子	有限会社 戸田商行 取締役社長	
	中山 美佳	株式会社 霧山茶園 監査役	

※第2回フォローアップ会議開催時点 (R4. 2)
23名

(敬称略)

【高幡地域】

	氏 名	所 属 等	備 考
市町村長	楠瀬 耕作	須崎市長	座長
	池田 洋光	中土佐町長	
	吉田 尚人	梶原町長	
	池田 三男	津野町長	
	中尾 博憲	四万十町長	
関係団体の代表	矢野 俊二	土佐くろしお農業協同組合 代表理事組合長	
	竹吉 功	高知県農業協同組合高西地区 経済担当常務	
	大地 勝義	津野町森林組合 代表理事組合長	
	田村 耕一	四万十町森林組合 代表理事組合長	
	福本 謙次	高知県漁協深浦支所 委員長	
	崎山 義澄	久礼漁業協同組合 代表理事組合長	
	竹内 健造	須崎商工会議所 会頭	
	三浦 薫也	中土佐町商工会 会長	
	長山 和幸	梶原町商工会 会長	
	谷脇 幸秀	津野町商工会 会長	
	武田 秀義	四万十町商工会 会長	
	向井 利夫	一般社団法人 奥四万十高知 事務局長	
	山岸 龍二	一般社団法人 須崎市観光協会 会長	
	田中 隆博	一般社団法人 中土佐町観光協会 会長	
	青木 慎也	一般社団法人 ゆすはら雲の上観光協会 事務局長	
池田 十三生	一般社団法人 四万十町観光協会 会長		
地域住民代表	アウテンボーガルト千賀子	地域住民の代表	
	中野 千里	地域住民の代表	

※第2回フォローアップ会議開催時点 (R5. 2)
23名

(敬称略)

【幡多地域】

	氏 名	所 属 等	備 考
市 町 村 長	中平 富宏	宿毛市長	
	泥谷 光信	土佐清水市長	
	中平 正宏	四万十市長	座長
	岡田 順一	大月町長	
	田野 正利	三原村長	
	松本 敏郎	黒潮町長	
関 係 団 体 の 代 表	長尾 理夫	高知県農業協同組合幡多地区 地区統括常務	
	篠田 幹彦	一般社団法人幡多地域森づくり推進センター 事務局長	
	浦尻 和伸	すくも湾漁業協同組合 代表理事組合長	
	問可 柁善	高知県漁業協同組合 副組合長理事	
	堀岡 喜久雄	四万十川中央漁業協同組合 代表理事組合長	
	山崎 明洋	四万十川下流漁業協同組合 代表理事組合長	
	立田 雅弘	宿毛商工会議所 会頭	
	程岡 庸	土佐清水商工会議所 会頭	
	佐田 博	中村商工会議所 会頭	
	長山 誠久	大月町商工会 会長	
	沢良木 基希	三原村商工会 会長	
	小笠原 武	黒潮町商工会 会長	
	上村 賢介	四万十市西土佐商工会 会長	
	小松 昭二	一般社団法人 幡多広域観光協議会 代表理事	
	山脇 一臣	一般社団法人 四万十市観光協会 専務理事	
	成田 江里	一般社団法人 宿毛市観光協会 会長	
	西宮 正夫	一般社団法人 土佐清水市観光協会 会長	
	安田 理香	一般財団法人 大月町観光協会 会長	
森田 俊彦	一般社団法人 黒潮町観光ネットワーク 会長		
地 域 住 民 代 表	乾 梢	(四万十市在住)	
	細川 さおり	(大月町在住)	

※第2回フォローアップ会議開催時点 (R5. 2)
27名